
Ⅱ 第一群調査（一般意識調査）

Ⅱ-1 最終アウトカム関連の集計・分析

表Ⅱ－１ 未婚者の結婚意欲と理想の子ども数を元に算出した希望出生率

(男性) N=349

理想の子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 理想の子ども数の回答割合	1年以内に結婚したい	0.06	0.76	0.18	0.00	0.00	0.00	1.00
	ある程度の年齢までに結婚したい	0.06	0.66	0.25	0.01	0.02	0.01	1.00
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.05	0.68	0.22	0.02	0.00	0.03	1.00
	当分、結婚するつもりはない	0.00	0.50	0.11	0.00	0.00	0.39	1.00
	一生、結婚するつもりはない	0.00	0.32	0.06	0.03	0.00	0.59	1.00
	その他	0.20	0.70	0.00	0.10	0.00	0.00	1.00
② 理想の子ども数×①	1年以内に結婚したい	0.06	1.52	0.55	0.00	0.00	0	2.12
	ある程度の年齢までに結婚したい	0.06	1.32	0.74	0.04	0.10	0	2.24
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.05	1.35	0.65	0.08	0.00	0	2.13
	当分、結婚するつもりはない	0.00	1.00	0.33	0.00	0.00	0	1.33
	一生、結婚するつもりはない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00
	その他	0.20	1.40	0.00	0.40	0.00	0	2.00
③ 構成比	1年以内に結婚したい	0.09	④=②×③					0.20
	ある程度の年齢までに結婚したい	0.30						0.68
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.42						0.90
	当分、結婚するつもりはない	0.05						0.07
	一生、結婚するつもりはない	0.10						0.00
	その他	0.03						0.06
未婚者希望出生率 (④の合計)								1.91

(女性) N=358

理想の子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 理想の子ども数の回答割合	1年以内に結婚したい	0.02	0.57	0.34	0.02	0.00	0.04	1.00
	ある程度の年齢までに結婚したい	0.06	0.54	0.37	0.00	0.00	0.04	1.00
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.08	0.56	0.23	0.02	0.00	0.11	1.00
	当分、結婚するつもりはない	0.19	0.13	0.31	0.00	0.00	0.38	1.00
	一生、結婚するつもりはない	0.12	0.28	0.16	0.00	0.04	0.40	1.00
	その他	0.13	0.63	0.25	0.00	0.00	0.00	1.00
② 理想の子ども数×①	1年以内に結婚したい	0.02	1.15	1.02	0.08	0.00	0	2.27
	ある程度の年齢までに結婚したい	0.06	1.07	1.11	0.00	0.00	0	2.24
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.08	1.12	0.68	0.08	0.00	0	1.96
	当分、結婚するつもりはない	0.19	0.25	0.94	0.00	0.00	0	1.38
	一生、結婚するつもりはない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00
	その他	0.13	1.25	0.75	0.00	0.00	0	2.13
③ 構成比	1年以内に結婚したい	0.13	④=②×③					0.30
	ある程度の年齢までに結婚したい	0.30						0.68
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.43						0.84
	当分、結婚するつもりはない	0.04						0.06
	一生、結婚するつもりはない	0.07						0.00
	その他	0.02						0.05
未婚者希望出生率 (④の合計)								1.93

(注) 「結婚できそうにない」「結婚するつもりはない」は、理想の子ども数の回答があっても予想出生率への寄与はゼロとした

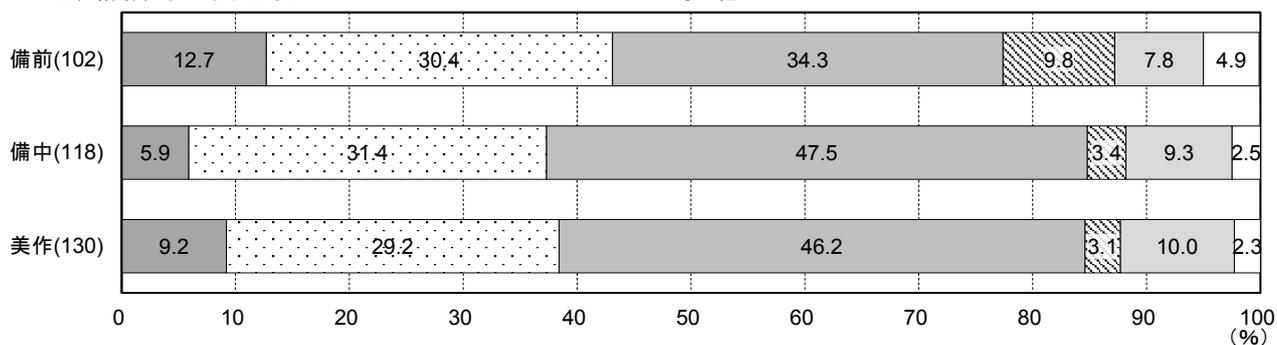
(県民局別の集計)

県民局別に結婚意欲を集計すると、男性の備前で「当分、結婚するつもりはない」が多いなどの特徴はみられるものの、3県民局で回答に差があるという分析結果は得られなかった。

図Ⅱ-2 県民局別にみた結婚についての考え(未婚者、単数)

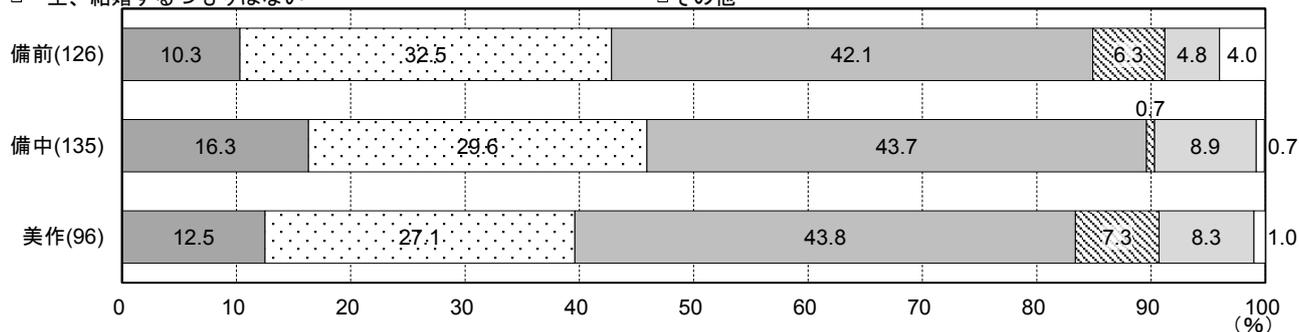
(男性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



(女性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1379	0.1452
P値	0.2066	0.1301

(結婚意欲と結婚希望の実現見通しとの関係)

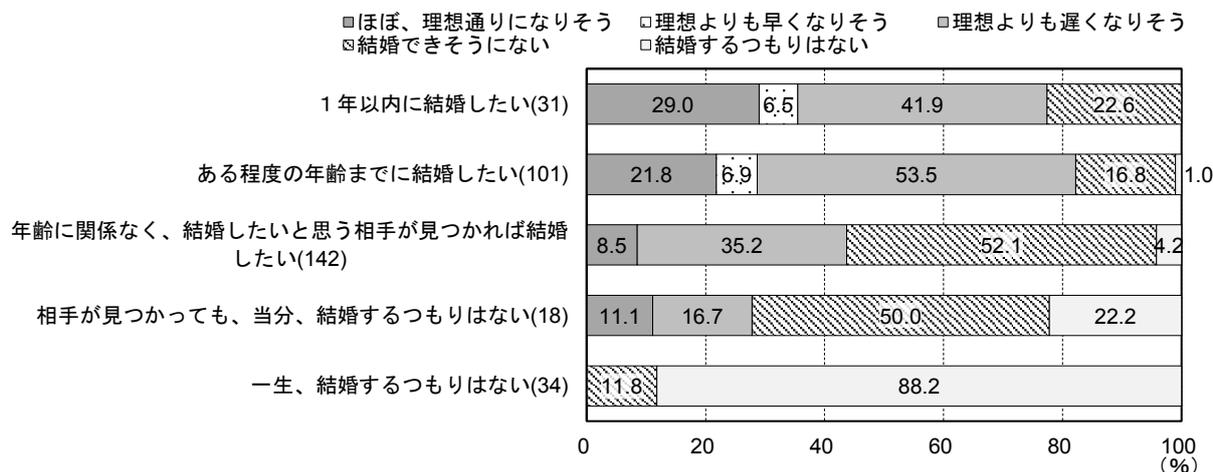
結婚意思を持つ者のうち、年齢志向は男性で全体の40%、女性は44%である。相手志向は男性41%、女性とも43%となっており、年齢志向と相手志向の割合には大きな差異はみられない。しかし、年齢志向と相手志向の間には、結婚意欲と合わさって有配偶率の高さを決める「結婚希望の実現」に対する見通しに大きな差が生じている(図Ⅱ-3)。

男性の年齢志向では、結婚希望の実現に対して「結婚できそうにない」という回答が、「1年以内に結婚したい」で23%、「ある程度の年齢までに結婚したい」で17%であるのに対して、相手志向では52%に達する。女性でも相手志向の「結婚できそうにない」は53%であり、年齢志向の同回答を大きく上回る。

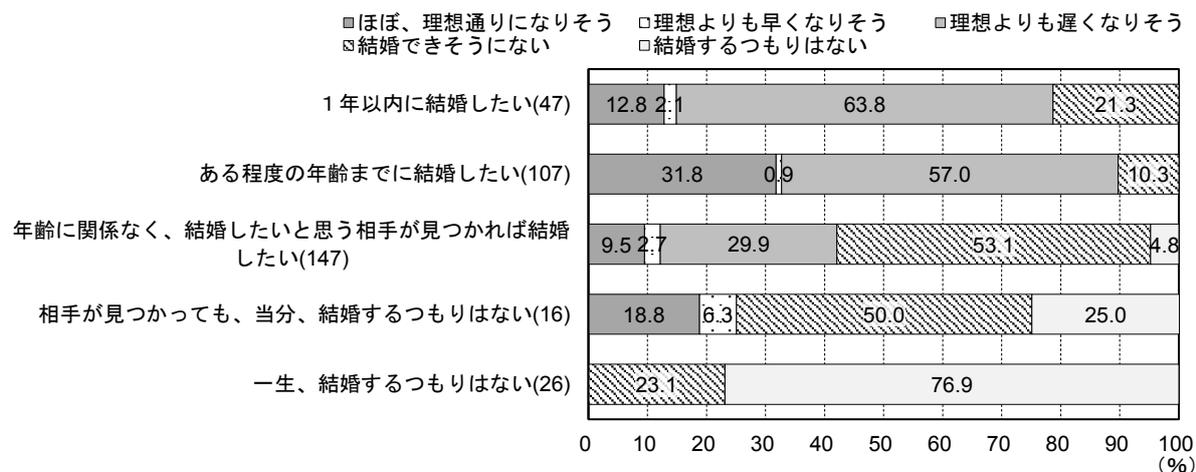
サンプル数が少ないことに留意する必要があるものの、生涯非婚では、結婚の実現見通しについても「結婚するつもりはない」がほとんどを占める。他方、「当分、結婚するつもりはない」では「結婚できそうにない」が男女とも50%に達する。

図Ⅱ-3 結婚意欲別にみた結婚の見通し(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.4480	0.4247
P値	0.0000	0.0000

(2) 結婚意欲に影響を及ぼす要因

①年齢

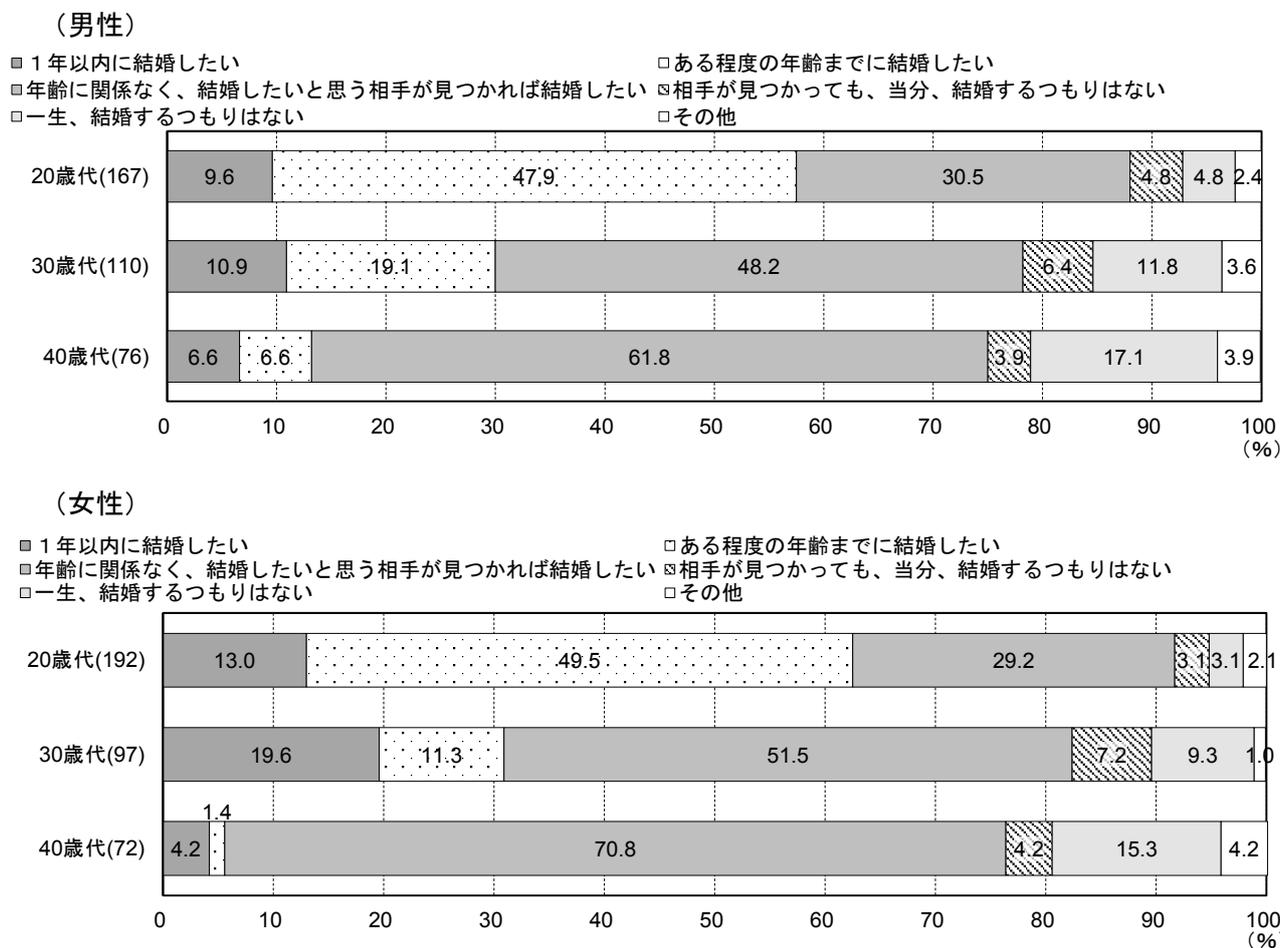
(年齢志向の者が結婚することなどにより結婚意欲の構成比が変化)

年齢によって、結婚意欲の構成比は大きく異なる。未婚者の20歳代では、年齢志向は男性で58%であるが30歳代では30%となる(図Ⅱ-4)。40歳代では13%であり、20歳代、30歳代、40歳代と年齢を経るごとに年齢志向が半減している。

女性は、20歳代の年齢志向は63%、30歳代は31%、40歳代は6%である。30歳代から40歳代にかけての年齢志向の減少は男性より大きい。

これらの結果は、年齢の上昇が結婚意欲を変化させていることも考えられるが、主に年齢志向の者が結婚していくことにより、年齢志向の全体に占める構成比が小さくなったとみられる。

図Ⅱ-4 年齢階層別にみた結婚意欲(未婚者、単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2920	0.3761
P値	0.0000	0.0000

②結婚希望の実現見通し

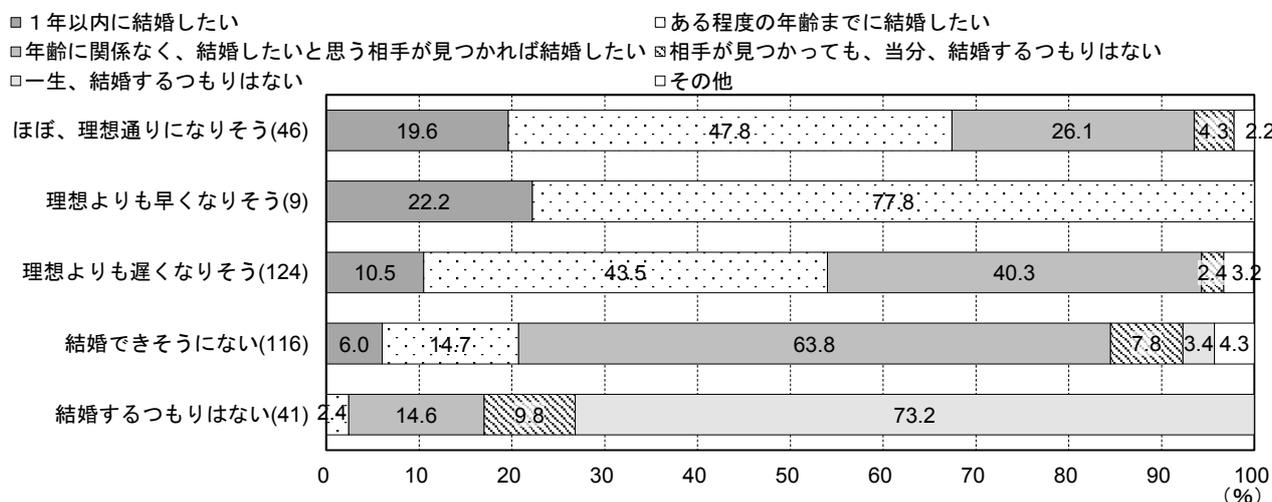
(将来の見通しは現在の結婚意欲を変化させる)

図Ⅱ-5は、これから先の結婚見通しが現在の結婚意欲に対して与える影響を把握するため集計を行った。

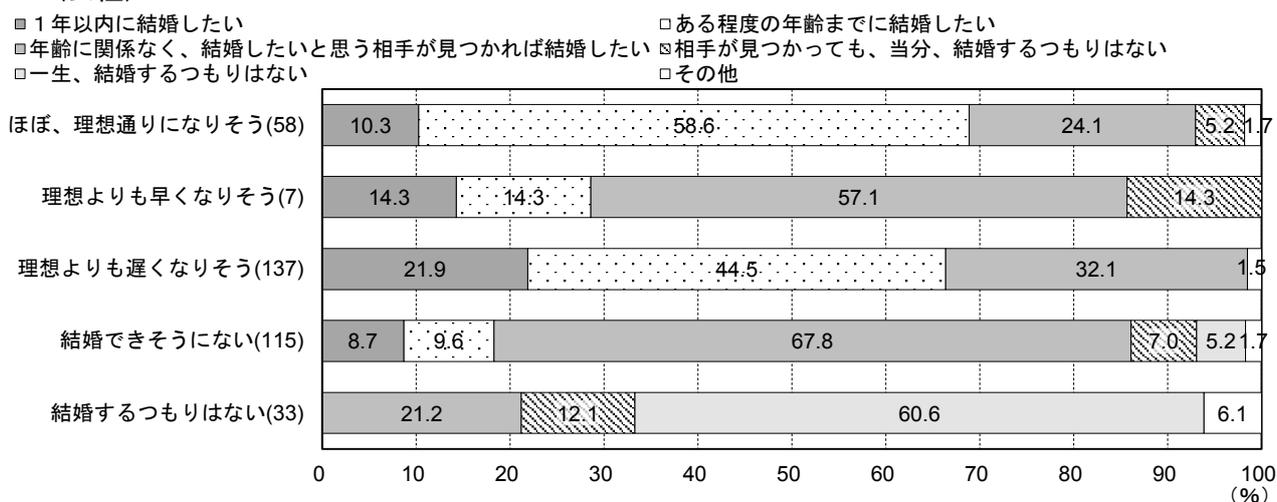
将来の結婚見通しが「結婚できそうにない」では男性の相手志向は64%、女性では68%を占める。「理想よりも遅くなりそう」でも相手志向は男性で40%、女性で32%に上っている。この結果は、現在の相手志向が「結婚できそうにない」や「理想よりも遅くなりそう」を増やしていることも考えられるが、将来の結婚見通しが希望通りになりそうにないから現在の結婚意欲が弱まると考えることもできる。

図Ⅱ-5 結婚見通し別にみた結婚意欲 (未婚者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.4480	0.4247
P値	0.0000	0.0000

③交際状況

(現在・過去の交際状況は結婚意欲を大きく変化させる)

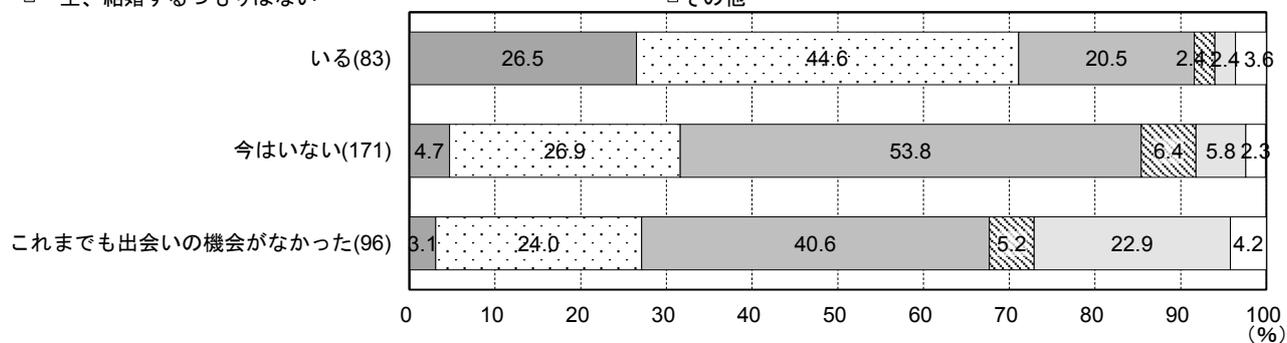
男女とも、現在、交際相手がいる者は、交際相手がいない者に比べて結婚の相手志向が小さくなっている(図Ⅱ-6)。これは、交際相手が結婚対象になり得ることが理由と考えられる。ただし、現在交際相手がいる者でも相手志向が男性で21%、女性で31%存在する。

交際経験がない者は、「今はいない」者に比較して生涯非婚の割合が大きく、交際経験のない者の生涯非婚は、男性23%、女性14%に達する。

図Ⅱ-6 交際状況別にみた結婚意欲(未婚者、単数)

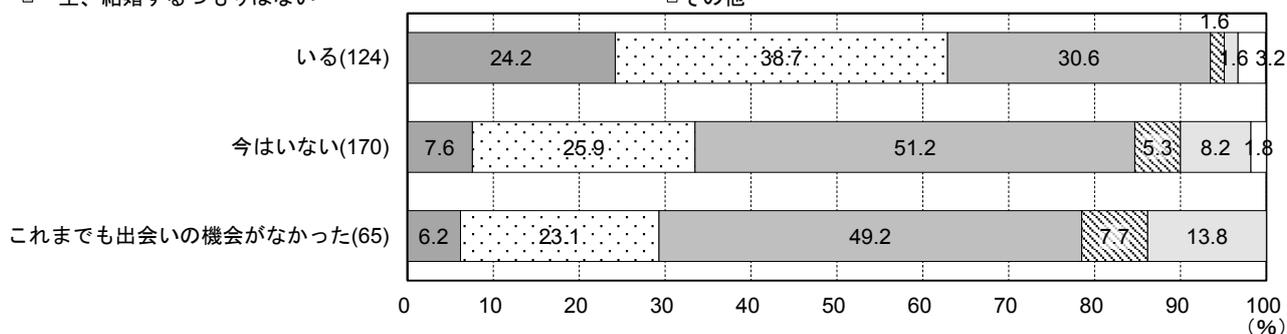
(男性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかったも、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



(女性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかったも、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.3443	0.2554
P値	0.0000	0.0000

(交際経験は「年齢志向」の出現率を2倍に高める)

交際状況の結婚意欲に対する影響の強さを測るため、まず、未婚者の結婚意欲の回答のうち、年齢志向を「意欲強」とし、相手志向を含むその他の回答はすべて「意欲弱」に区分した（さらに、意思あり・意思なしで結婚意欲をみると、交際状況で分割したオッズ比は男性 3.3 倍、女性 2.1 倍である。両者とも強い影響力を示している。特に男性では、年齢志向・相手志向等でみた結婚意欲の強さより、意志あり・意思なしに対して強い影響を与えている。

表Ⅱ-2)。次に、交際相手が「いる」「今はいない」を「出会いあり」、「これまでも出会いの機会がなかった」を「出会いなし」として、それぞれの「意欲強」の出現率（オッズ）を把握した。

オッズ比は、「出会いあり」であると、「出会いなし」に比べ「意欲強」が何倍現れやすくなるかを示し、出会いのあり・なしでみた交際状況の結婚意欲に対する影響の強さを示す。影響がないときのオッズ比は1であり、さらに、意思あり・意思なしで結婚意欲をみると、交際状況で分割したオッズ比は男性 3.3 倍、女性 2.1 倍である。両者とも強い影響力を示している。特に男性では、年齢志向・相手志向等でみた結婚意欲の強さより、意志あり・意思なしに対して強い影響を与えている。

表Ⅱ-2の男性 2.2 倍、女性 2.1 倍という数値は、交際状況は結婚意欲にかなり強い影響力を持つことを示している。

さらに、意思あり・意思なしで結婚意欲をみると、交際状況で分割したオッズ比は男性 3.3 倍、女性 2.1 倍である。両者とも強い影響力を示している。特に男性では、年齢志向・相手志向等でみた結婚意欲の強さより、意志あり・意思なしに対して強い影響を与えている。

表Ⅱ-2 交際状況の結婚意欲に対する影響の強さ（未婚者）

(意欲強・意欲弱)

(件、%、倍)

性別	交際状況：出会いあり				交際状況：出会いなし				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男	254	44.5	55.5	0.80	96	27.1	72.9	0.37	2.16
女	294	45.9	54.1	0.85	65	29.2	70.8	0.41	2.06

(意思あり・意思なし)

(件、%、倍)

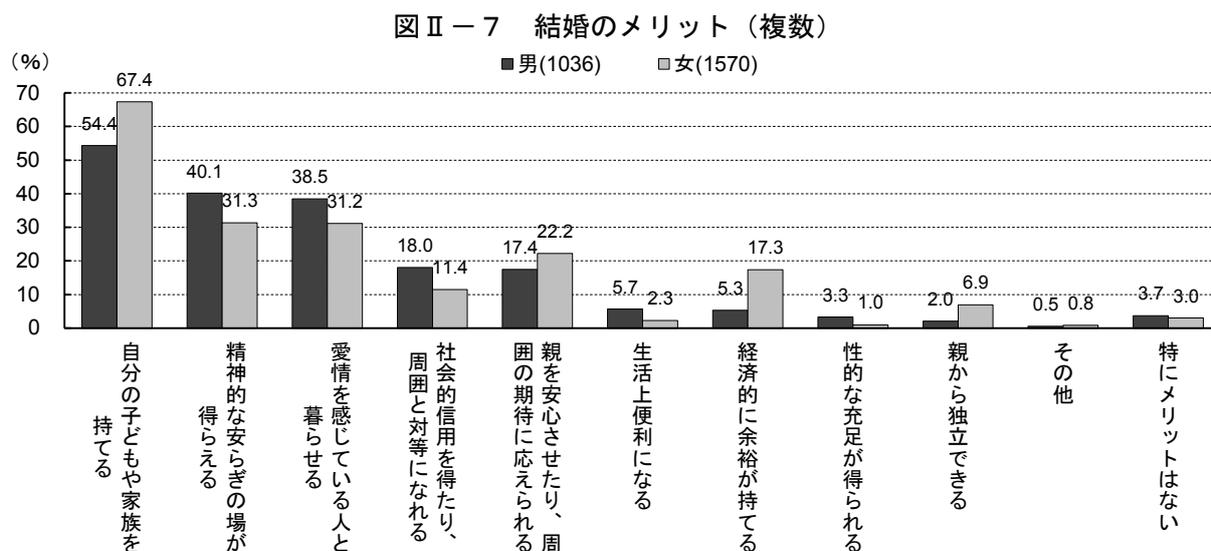
性別	交際状況：出会いあり				交際状況：出会いなし				オッズ比
	N	意欲あり	意思なし	オッズ	N	意欲あり	意思なし	オッズ	
男	254	87.4	12.6	6.94	96	67.7	32.3	2.10	3.31
女	294	88.4	11.6	7.65	65	78.5	21.5	3.64	2.10

④結婚観(結婚のメリット・デメリット)

i) 結婚のメリット

(男女とも「子どもや家族を持てること」が最も多い)

結婚のメリットをどのように捉えているかにより結婚観を把握すると、男女とも「自分の子どもや家族を持てる」が最も多く、男性では54%、女性では67%であった(図Ⅱ-7)。この他、「精神的な安らぎの場が得られる」「愛情を感じている人と暮らせる」といったメリットを挙げる者が30%から40%に達し、これらは男性が女性をやや上回っている。



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

(結婚のメリットの結婚意欲に対する影響の強さ)

未婚者の結婚意欲の回答を「意欲強」と「意欲弱」に二区分することにより、結婚のメリットの各項目の回答の有無ごとに「意欲強」の出現率を把握した(表Ⅱ-3)。

その結果、男女とも「愛情を感じている人と暮らせる」と「自分の子どもや家族を持てる」を結婚のメリットと捉えている者は、そうでない者に比べて、1.5倍以上、「意欲強」の出現率が高いことがわかった。

特に女性では、「自分の子どもや家族を持てる」をメリットとする者は、そうでない者に比べて、「意欲強」の出現率が4.7倍高い。結婚について「自分の子どもや家族を持てる」という考えを持つかどうかは、女性の結婚意欲に極めて強く影響している。

この他、女性で「精神的な安らぎの場が得られる」、男性で「親を安心させたり、周囲の期待に応えられる」で「意欲強」の出現率が1.3倍に近く、弱いながらも関係がみられる。

反対に、女性に多い「経済的に余裕が持てる」を回答した者は、そうでない女性に対して「意欲強」の出現確率が0.4倍と算出され、「経済的に余裕が持てる」という考え方は結婚意欲を低める方に影響している。結婚に経済性を求める女性は、相手志向が強いといった理由が推察される。

表Ⅱ-3 結婚のメリットの結婚意欲に対する影響の強さ(未婚者)

(件、%、倍)

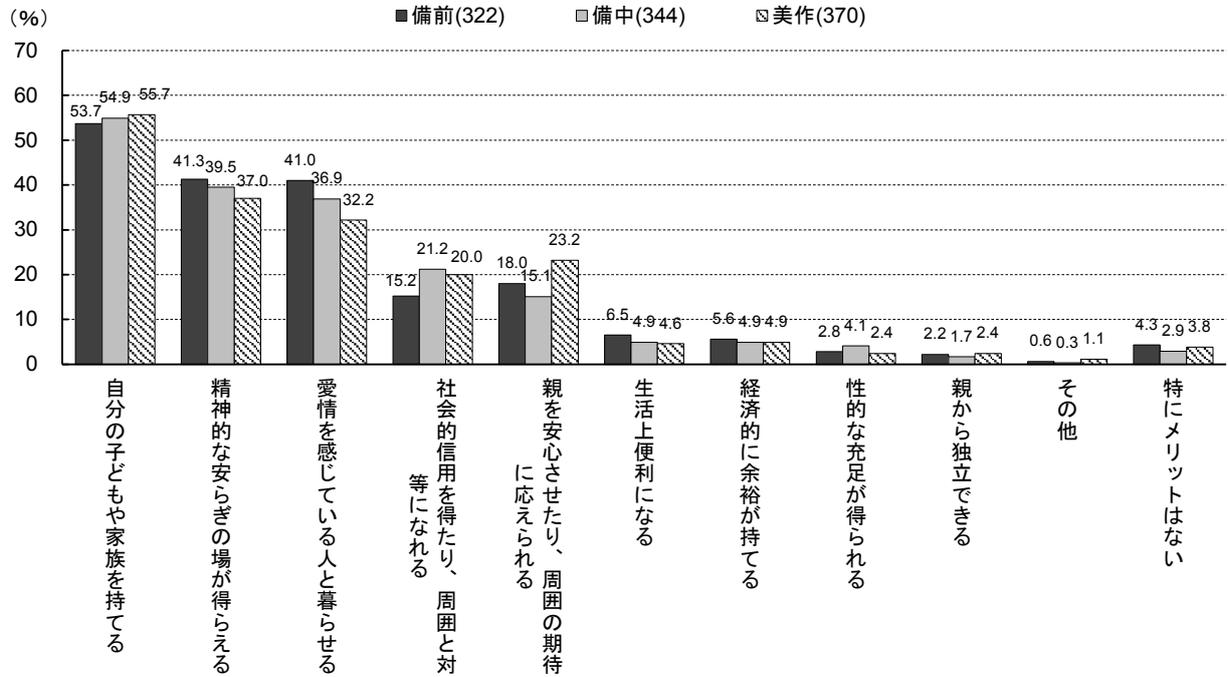
項目	性別	はい				いいえ				オッズ比
		N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
経済的に余裕が持てる	男	47	27.6	72.4	0.38	282	41.5	58.5	0.71	0.54
	女	92	27.2	72.8	0.37	239	47.7	52.3	0.91	0.41
社会的信用を得たり、 周囲と対等になれる	男	59	39.0	61.0	0.64	270	39.7	60.3	0.66	0.97
	女	45	40.0	60.0	0.67	286	42.3	57.7	0.73	0.91
精神的な安らぎの場が 得られる	男	117	41.9	58.1	0.72	212	38.2	61.8	0.62	1.17
	女	98	45.9	54.1	0.85	233	40.3	59.7	0.68	1.26
愛情を感じている人と 暮らせる	男	107	46.7	53.3	0.88	222	36.1	63.9	0.56	1.55
	女	103	52.4	47.6	1.10	228	37.3	62.7	0.59	1.85
自分の子どもや家族を 持てる	男	133	46.6	53.4	0.87	196	34.7	65.3	0.53	1.64
	女	142	62.7	37.3	1.68	189	26.4	73.6	0.36	4.69
性的な充足が得られる	男	19	42.1	57.9	0.73	310	39.4	60.6	0.65	1.12
	女	3	0.0	100.0	0.00	328	42.4	57.6	0.74	0.00
生活上便利になる	男	21	14.3	85.7	0.17	308	43.3	56.7	0.76	0.22
	女	12	8.3	91.7	0.09	319	43.3	56.7	0.76	0.12
親から独立できる	男	8	25.0	75.0	0.33	321	39.8	60.2	0.66	0.50
	女	16	44.5	55.5	0.80	315	42.9	57.1	0.75	1.07
親を安心させたり、周 囲の期待に応えられる	男	82	43.9	56.1	0.78	247	38.0	62.0	0.61	1.28
	女	90	44.5	55.5	0.80	241	41.1	58.9	0.70	1.15

(県民局別の集計)

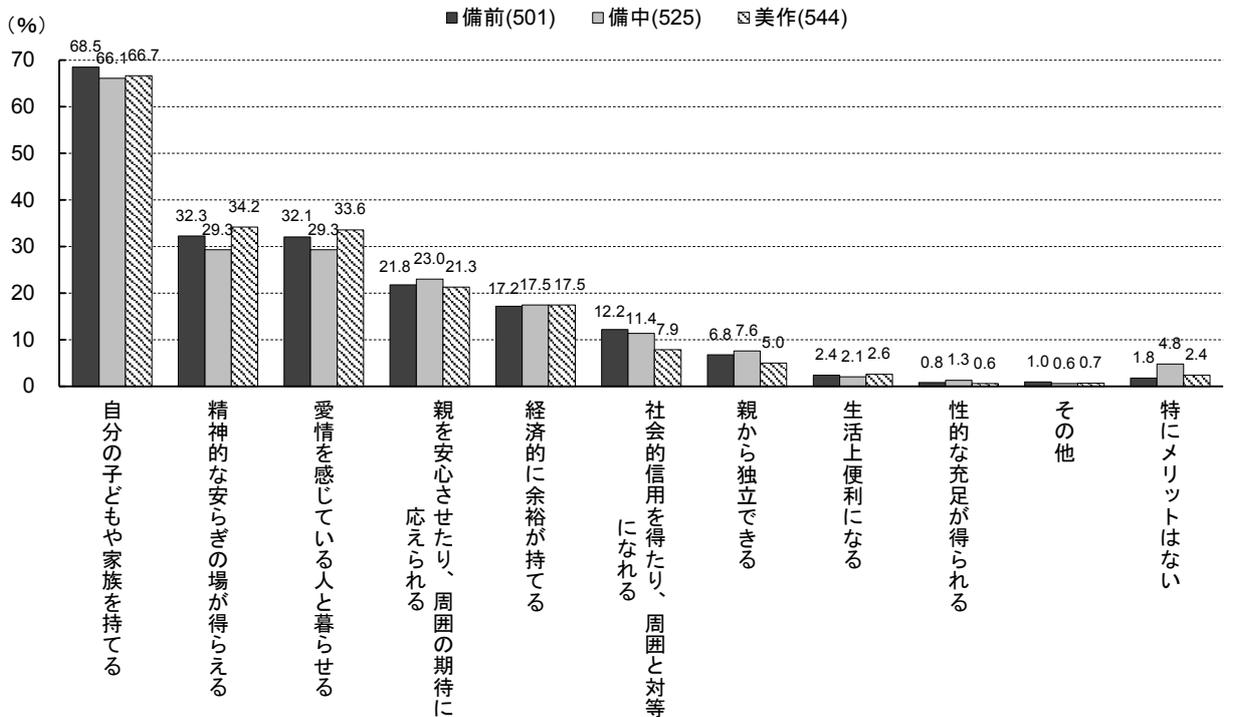
県民局別で結婚のメリットを集計すると、美作の男性で「親を安心させたり、周囲の期待に応えられる」が23%に上るなどの特徴はみられるものの、全体的には大きな差異はない(図Ⅱ-8)。

図Ⅱ-8 県民局別にみた結婚のメリット(複数)

(男性)



(女性)



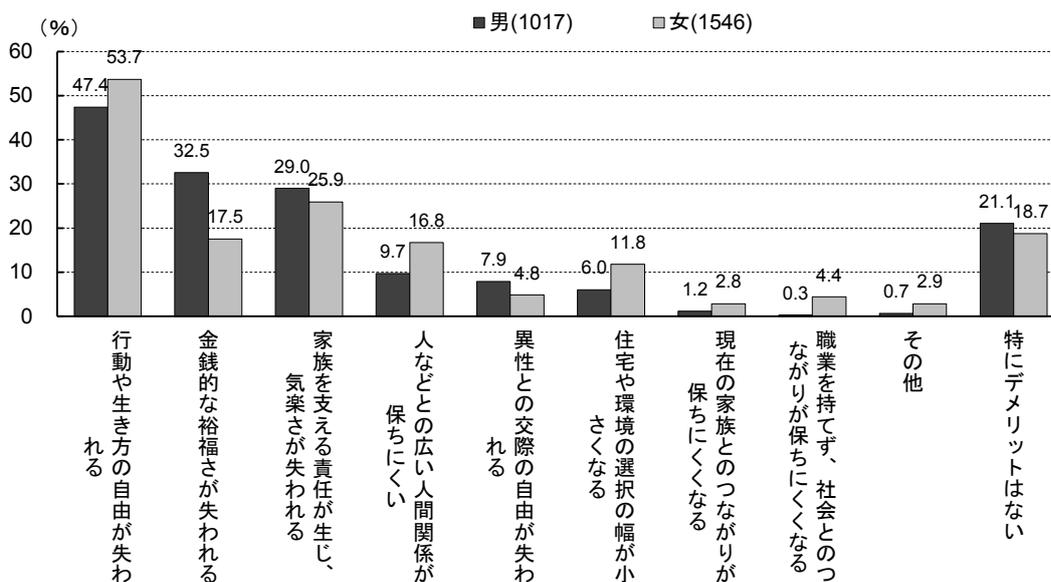
ii) 結婚のデメリット

(ライフコースの選択が結婚意欲に影響)

結婚のデメリットにより結婚観を把握すると、男女とも「行動や生き方の自由が失われる」が約半数に達し、どちらかと言えば女性に回答が多い(図Ⅱ-9)。ライフコースの選択が結婚意欲に影響することを示唆している。

この他、「金銭的な裕福さが失われる」「家族を支える責任が生じ、気楽さが失われる」をデメリットとして挙げる者が多く、おおよそ20%~30%に上る。

図Ⅱ-9 結婚のデメリット(複数)



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

(結婚のデメリットの結婚意欲に対する影響の強さ)

結婚のデメリットでも、未婚者の結婚意欲を「意欲強」と「意欲弱」に分けて、結婚のデメリットの回答の有無ごとに「意欲強」の出現状況を把握した(表Ⅱ-4)。

その結果、男女とも「行動や生き方の自由が失われる」と考える者では「意欲強」の出現率が0.8程度になる。0.8は意欲弱/意欲強で算出すると1.2であり、あまり強い関係ではない。この点からは、結婚しない者は、結婚のデメリットが大きいからというよりも、得られるメリットが小さいと考えているのではないかと推察される。

女性で、「家族を支える責任が生じ、気楽さが失われる」では「意欲強」の出現率が0.64になり(意欲弱/意欲強で1.6)であり、やや強い影響がみられる。

また、サンプル数が少ないが、女性で「金銭的な裕福さが失われる」をデメリットに挙げる者では「意欲強」の出現率が1.77と高く、特徴的な回答となっているものの解釈が難しい。

表Ⅱ-4 結婚のデメリットみた結婚観の結婚意欲に対する影響の強さ(未婚者)

(件、%、倍)

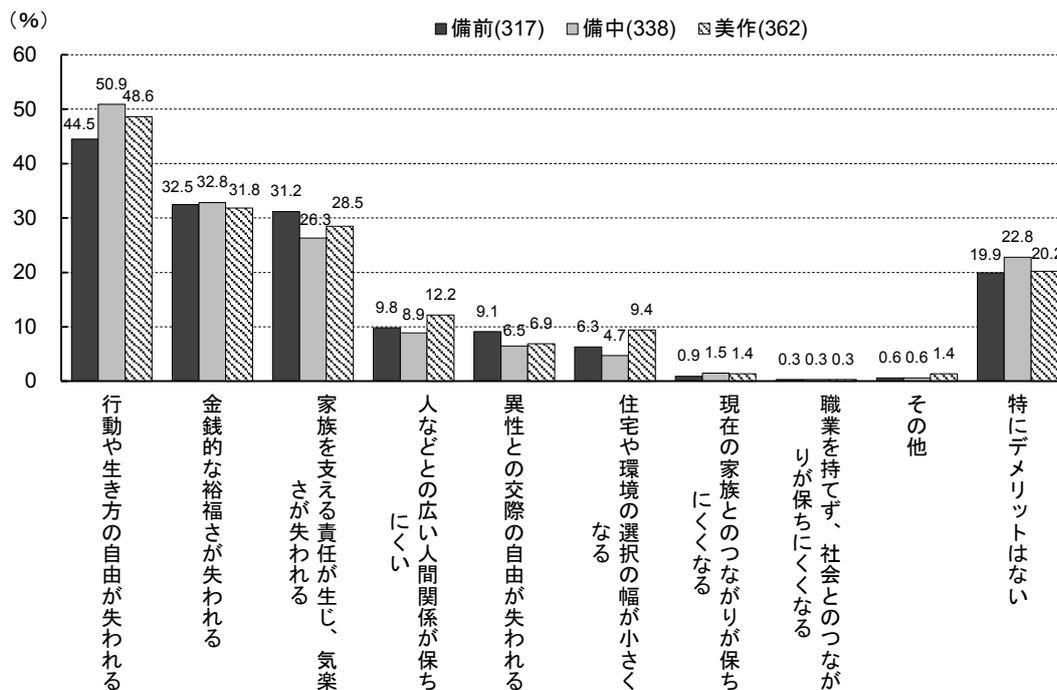
項目	性別	はい				いいえ				オッズ比
		N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
行動や生き方の自由が失われる	男	220	36.8	63.2	0.58	117	43.6	56.4	0.77	0.75
	女	250	41.2	58.8	0.70	98	45.9	54.1	0.85	0.83
金銭的な裕福さが失われる	男	104	37.5	62.5	0.60	233	39.9	60.1	0.66	0.90
	女	55	54.5	45.5	1.20	293	40.3	59.7	0.68	1.77
家族を支える責任が生じ、気楽さが失われる	男	117	40.1	59.9	0.67	220	38.6	61.4	0.63	1.06
	女	108	35.2	64.8	0.54	240	45.9	54.1	0.85	0.64
友人などとの広い人間関係が保ちにくい	男	23	39.1	60.9	0.64	314	39.2	60.8	0.64	1.00
	女	33	51.6	48.4	1.07	315	41.6	58.4	0.71	1.50
住宅や環境の選択の幅が小さくなる	男	28	39.2	60.8	0.64	309	39.1	60.9	0.64	1.00
	女	38	36.8	63.2	0.58	310	43.2	56.8	0.76	0.77
異性との交際の自由が失われる	男	17	64.7	35.3	1.83	320	37.8	62.2	0.61	3.02
	女	15	37.5	62.5	0.60	333	39.9	60.1	0.66	0.90
職業を持たず、社会とのつながりが保ちにくくなる	男	2	0.0	100.0	0.00	335	39.5	60.5	0.65	0.00
	女	6	33.4	66.6	0.50	342	42.7	57.3	0.75	0.67
現在の家族とのつながりが保ちにくくなる	男	6	33.4	66.6	0.50	331	39.3	60.7	0.65	0.77
	女	17	29.4	70.6	0.42	331	43.2	56.8	0.76	0.55

(県民局別の集計)

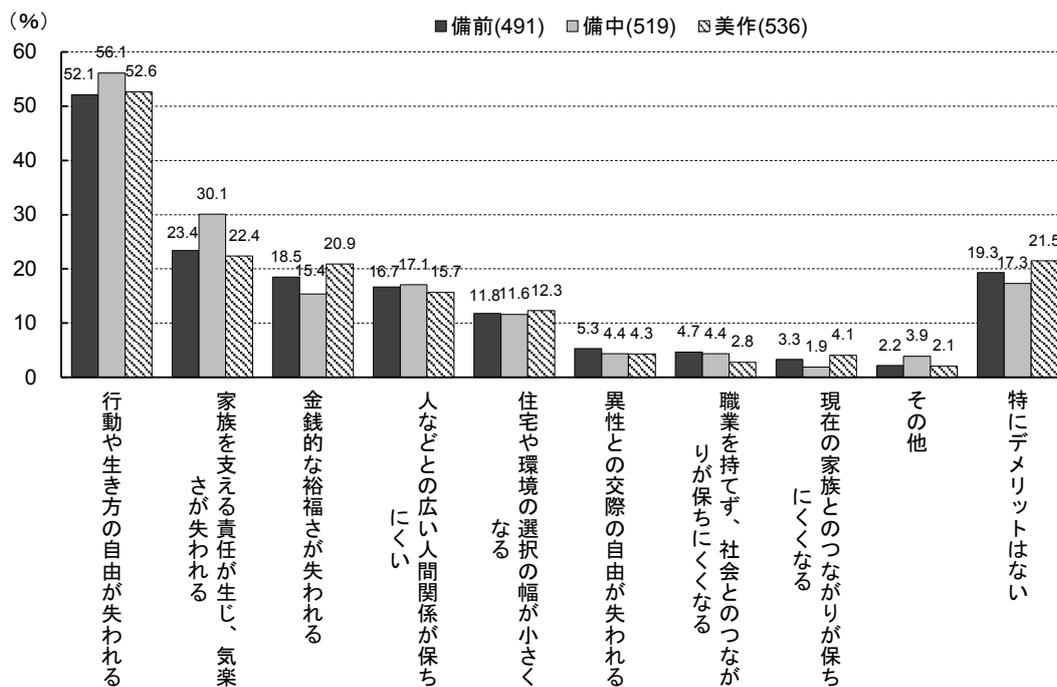
県民局別で結婚のデメリットを集計すると、備中の女性で「家族を支える責任が生じ、気楽さは失われる」が30%に上るなどの特徴はみられるものの、全体的には大きな差異はない(図Ⅱ-10)。

図Ⅱ-10 県民局別にみた結婚のデメリット(未婚者、複数)

(男性)



(女性)



⑤家族観・子ども観

i) 家族観

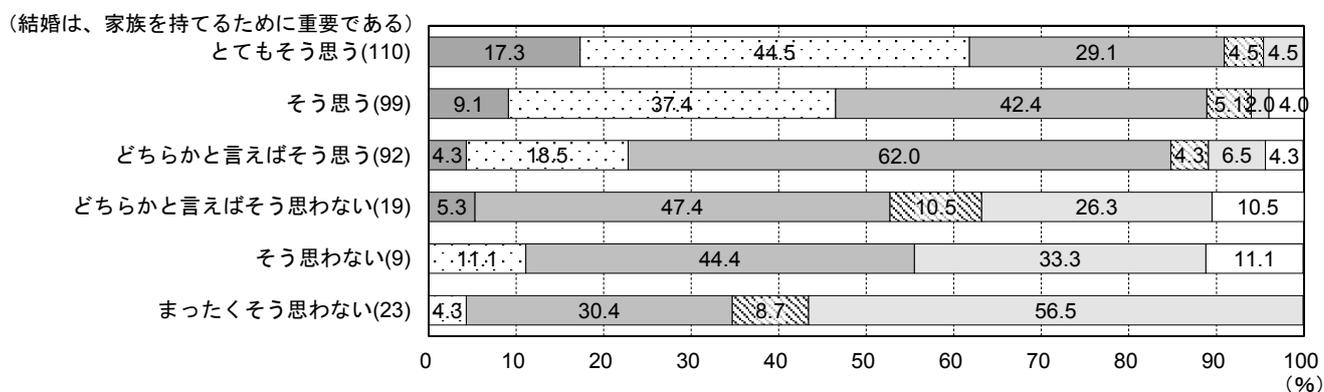
(家族観は結婚意欲に極めて強い影響を及ぼしている)

調査では、結婚に関連した家族観を代表して「結婚は、家族を持てるため重要である」という意見に賛同するかどうか6段階のリッカード形式で尋ねた。男女とも、上記の家族観への賛同度が高いほど年齢志向の割合が高くなり、結婚意欲が強くなることが明らかである(図Ⅱ-11)。

図Ⅱ-11 家族観別にみた結婚意欲(未婚者、単数)

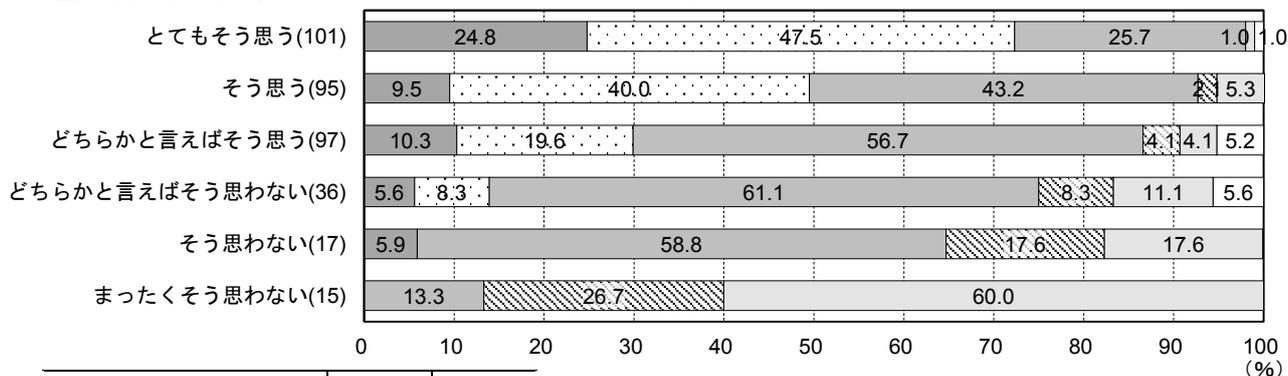
(男性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- ▨ 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▩ 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



(女性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- ▨ 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▩ 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2796	0.3110
P値	0.0000	0.0000

家族観が結婚意欲に与える影響の強さをみるため、家族観の「とてもそう思う」と「そう思う」を「積極的肯定」、「どちらかと言えばそう思う」から「まったくそう思わない」までを「消極的肯定・否定」としてオッズ比を算出した(表Ⅱ-5)。

家族観が「積極的肯定」であると、「消極的肯定・否定」に対して結婚意欲の「意欲強(年齢志向)」の出現率が男性6.0倍、女性5.9倍に変化し、家族観は結婚意欲に対して極めて強い影響を及ぼしていることがわかる。

表Ⅱ－５ 家族観の結婚意欲への影響の強さ（未婚者）

（意欲強・意欲弱）

（件、%、倍）

性別	家族観：積極的肯定				家族観：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男	209	54.5	45.4	1.20	143	16.8	83.2	0.20	5.95
女	196	61.2	38.8	1.58	165	21.2	78.7	0.27	5.86

（意思あり・意思なし）

（件、%、倍）

性別	家族観：積極的肯定				家族観：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意思あり	意思なし	オッズ	N	意思あり	意思なし	オッズ	
男	209	89.9	10.0	8.99	143	70.6	29.4	2.40	3.74
女	196	95.4	4.6	20.74	165	75.1	24.8	3.03	6.85

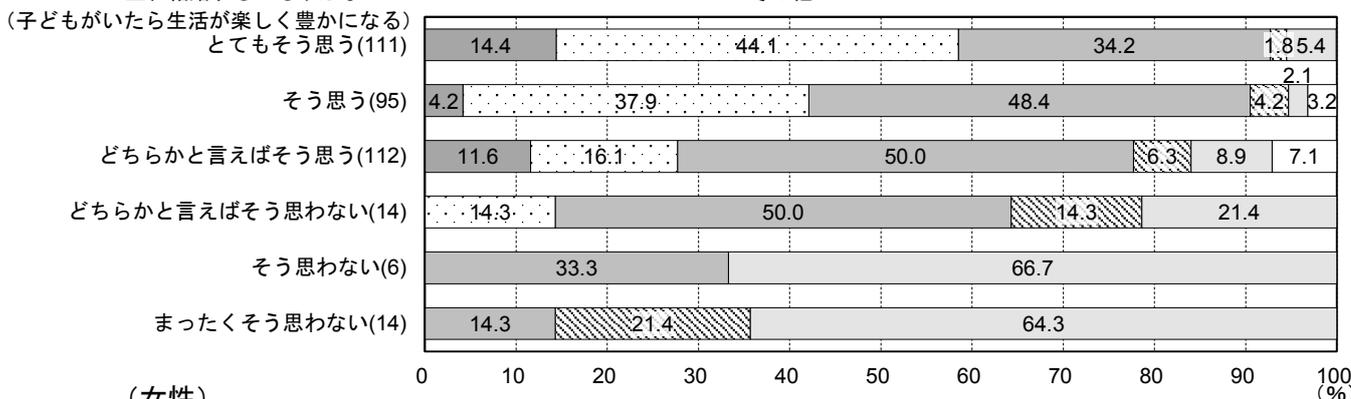
ii) 子ども観

家族観と同様に、子ども観を代表して「子どもがいたら生活が楽しく豊かになる」という意見に賛同するかを尋ねた。男女とも、子ども観への賛同度が高いほど結婚意欲が強く表れる（図Ⅱ－１２）。

図Ⅱ－１２ 子ども観別にみた結婚意欲（未婚者、単数）

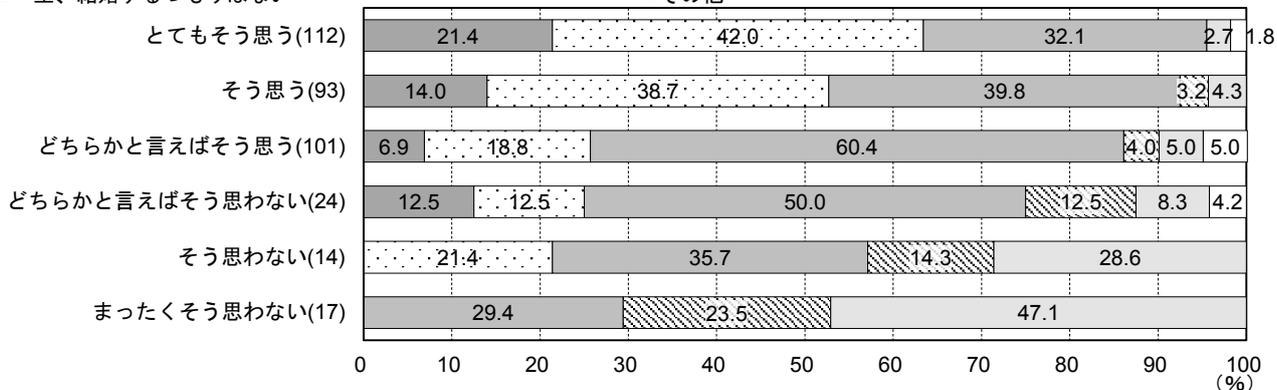
（男性）

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- ▨ 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▩ 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



（女性）

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- ▨ 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▩ 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2785	0.2667
P値	0.0000	0.0000

また、子ども観が「積極的肯定」であると、「消極的肯定・否定」に対して、結婚意欲の「意欲強」の出現率は男性 3.6 倍、女性 4.9 倍に達する(表Ⅱ-6)。結婚意思については、「意思あり」の出現率は、男女とも 5.1 倍である。

家族観だけでなく、子ども観も結婚意欲に対して極めて強い影響を及ぼしていることがわかった。

表Ⅱ-6 子ども観の結婚意欲への影響の強さ(未婚者)

(意欲強・意欲弱)

(件、%、倍)

性別	子ども観：積極的肯定				子ども観：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男	206	51.0	49.1	1.04	146	22.6	77.4	0.29	3.56
女	205	58.5	41.5	1.41	156	22.4	77.5	0.29	4.88

(意思あり・意思なし)

(件、%、倍)

性別	子ども観：積極的肯定				子ども観：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意思あり	意思なし	オッズ	N	意思あり	意思なし	オッズ	
男	206	91.8	8.3	11.06	146	68.5	31.5	2.17	5.09
女	205	94.1	5.9	15.95	156	75.6	24.3	3.11	5.13

⑥家族・子どもに対する感受性

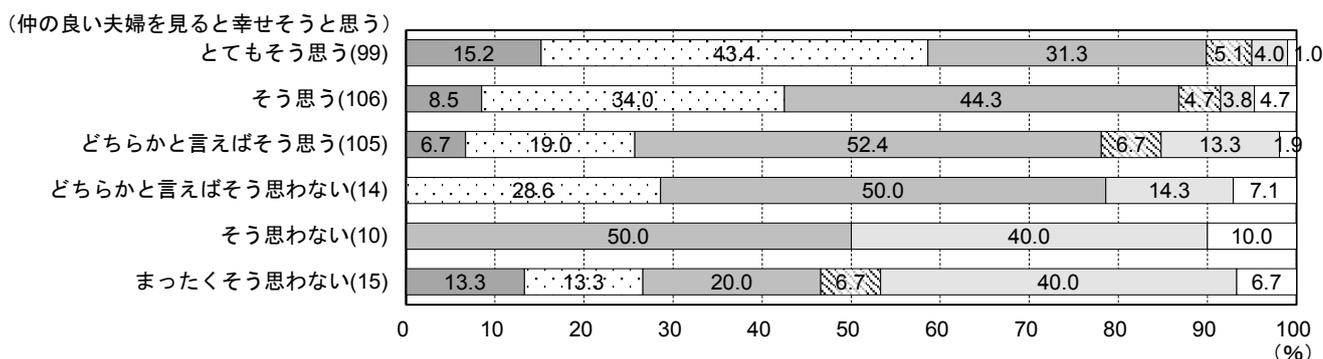
(家族に対する感受性も結婚意欲に極めて強い影響を与える)

調査では、「仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う」という家族に対する感受性をどの程度持っているかを尋ねた。図Ⅱ－１３の通り、男女とも、家族に対する感受性が強いほど結婚意欲も強くなることが明らかである。

図Ⅱ－１３ 家族に対する感受性別にみた結婚意欲（未婚者、単数）

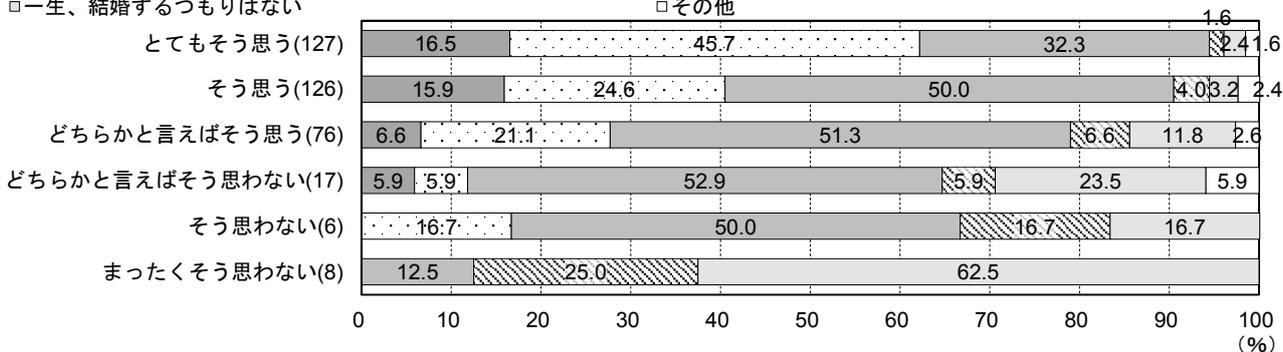
(男性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



(女性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1992	0.2352
P値	0.0000	0.0000

家族に対する感受性が結婚意欲に与える影響の強さを測るため、家族に対する感受性は「積極的肯定」と「消極的肯定・否定」、結婚意欲は「意欲強」と「意欲弱」に二分してオッズ比を算出した(表Ⅱ-7)。

家族に対する感受性が「積極的肯定」であると、「消極的肯定・否定」に対して、結婚の「意欲強(年齢志向)」の出現率が男性3.1倍、女性3.7倍になる。

表Ⅱ-7 家族に対する感受性の結婚意欲への影響の強さ(未婚者)

(意欲強・意欲弱)

(件、%、倍)

性別	家族に対する感受性：積極的肯定				家族に対する感受性：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男	205	50.2	49.8	1.01	144	24.3	75.7	0.32	3.14
女	253	51.4	48.6	1.06	107	22.4	77.6	0.29	3.66

(意思あり・意思なし)

(件、%、倍)

性別	家族に対する感受性：積極的肯定				家族に対する感受性：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意思あり	意思なし	オッズ	N	意思あり	意思なし	オッズ	
男	205	88.3	11.7	7.55	144	72.9	27.1	2.69	2.81
女	253	92.5	7.5	12.33	107	71.0	29.0	2.45	5.04

ii) 子どもに対する感受性

調査では、家族に対する感受性ととも、「小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う」といった感受性をどの程度持っているかを把握した。

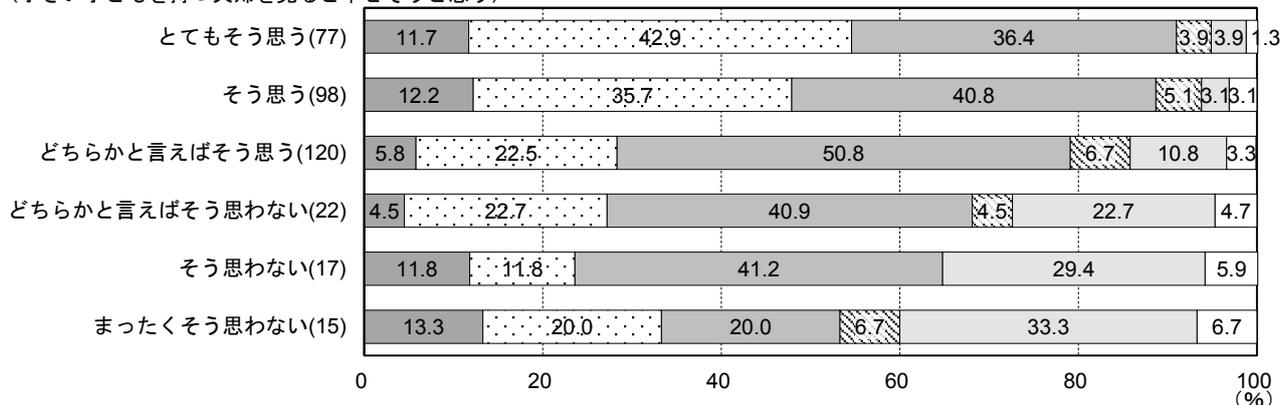
図Ⅱ-14の通り、男女とも、家族に対する感受性が強いほど結婚意欲が強く表れており、とりわけ、女性において、子どもに対する感受性は結婚意欲への影響が強いように見受けられる。

図Ⅱ-14 子どもに対する感受性別にみた結婚意欲（未婚者、単数）

(男性)

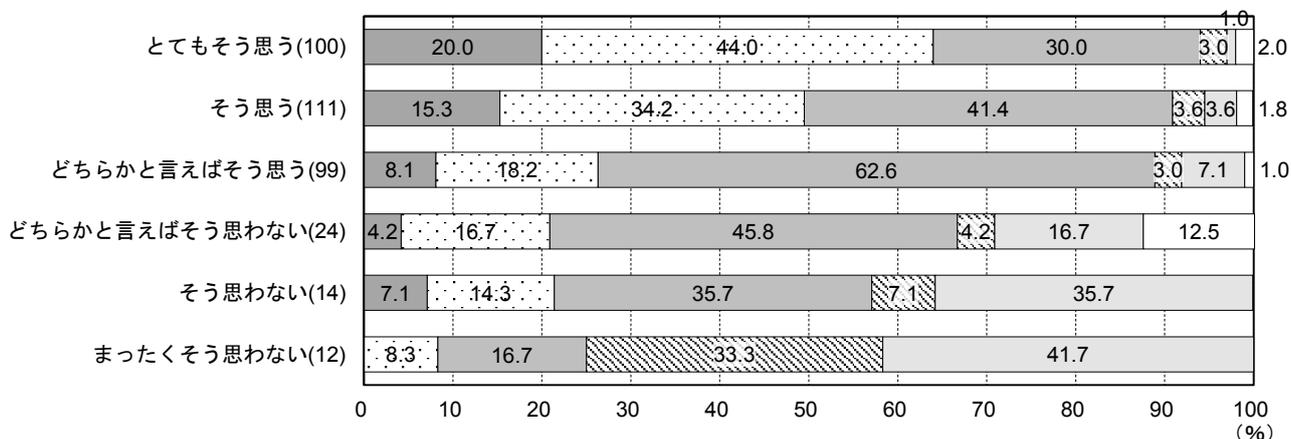
- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他

(小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う)



(女性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1672	0.2615
P値	0.0030	0.0000

子どもに対する感受性が結婚意欲に与える影響の強さを測るため、子どもに対する感受性を「積極的肯定」と「消極的肯定・否定」の二区分、結婚意欲も「意欲強」と「意欲弱」、「意思あり」と「意思なし」の二通りに二分してオッズ比を算出した(表Ⅱ-8)。

子どもに対する感受性が結婚意欲に対して及ぼす影響の強さをみると、子どもに対する感受性が積極的肯定であると、「消極的肯定・否定」に対して「意欲強」の出現率は男性2.6倍、女性4.2倍となった。結婚の「意思あり」の出現率は男性3.0倍、女性3.6倍である。

家族に対する感受性ととも、子どもに対する感受性も結婚意欲にかなり強い影響力を持っている。

表Ⅱ-8 子どもに対する感受性の結婚意欲への影響の強さ(未婚者)

(意欲強・意欲弱)

(件、%、倍)

性別	子どもに対する感受性：積極的肯定				子どもに対する感受性：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男	175	50.9	49.1	1.04	174	28.2	71.8	0.39	2.64
女	211	56.4	43.6	1.29	149	23.5	76.5	0.31	4.21

(意思あり・意思なし)

(件、%、倍)

性別	子どもに対する感受性：積極的肯定				子どもに対する感受性：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意思あり	意思なし	オッズ	N	意思あり	意思なし	オッズ	
男	175	89.7	10.3	8.71	174	74.1	25.9	2.86	3.04
女	211	92.4	7.6	12.16	149	77.2	22.8	3.39	3.59

⑦所得及び労働状態

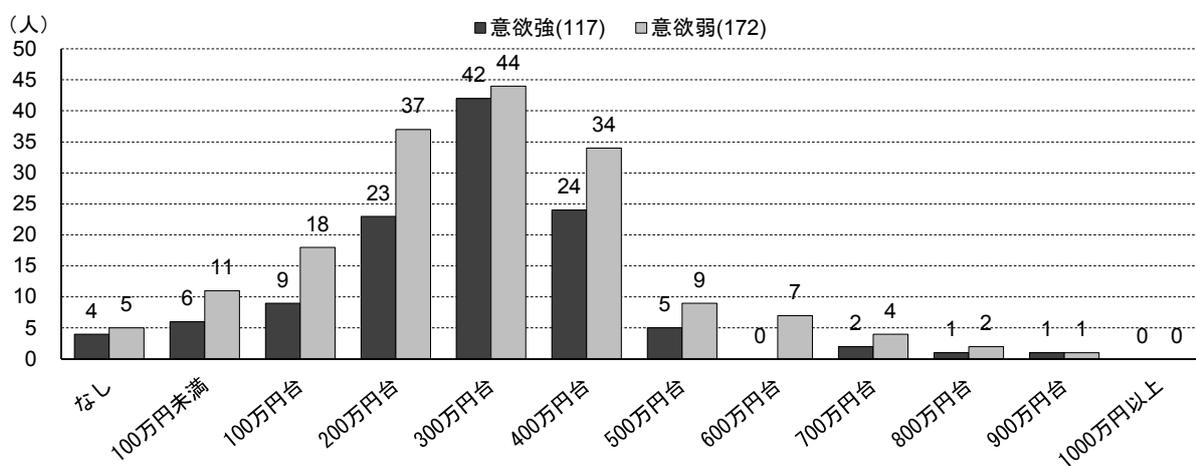
i) 所得

(所得額の影響)

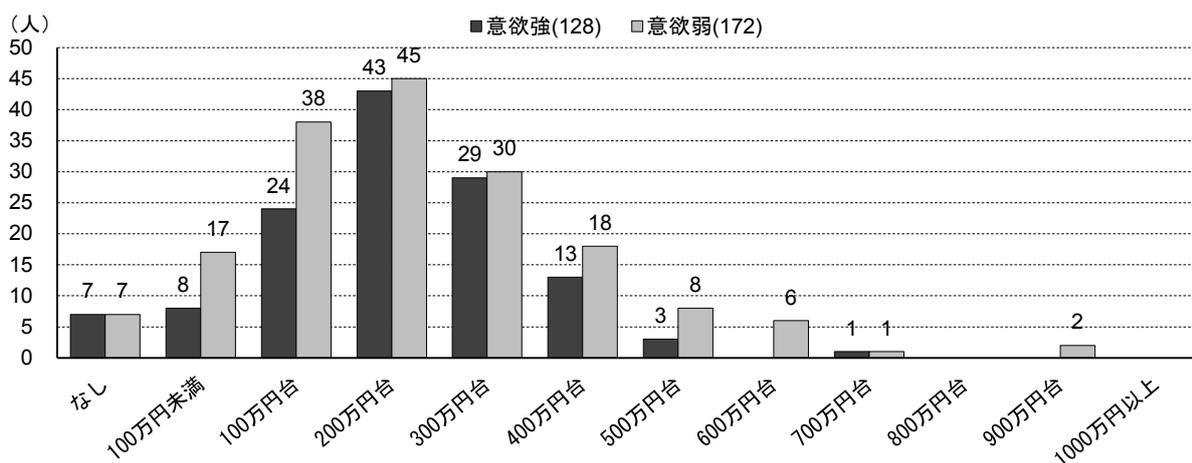
未婚の就業者を対象に、所得（昨年度の年収）分布をヒストグラムに描き、結婚の「意欲強」と「意欲弱」で比較すると、サンプル数の違いにより数の違いはあるものの、分布の形には大きな差はみられない（図Ⅱ－15）。

上記は、男女共通である。

図Ⅱ－15 結婚意欲（意欲強と意欲弱の二区分）別にみた所得分布（未婚者・就業者、単数）（男性）



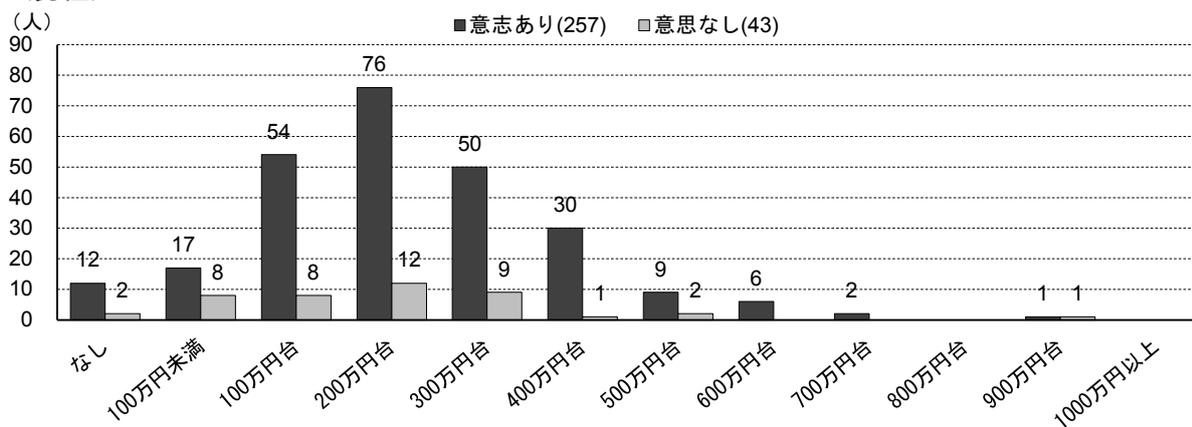
(女性)



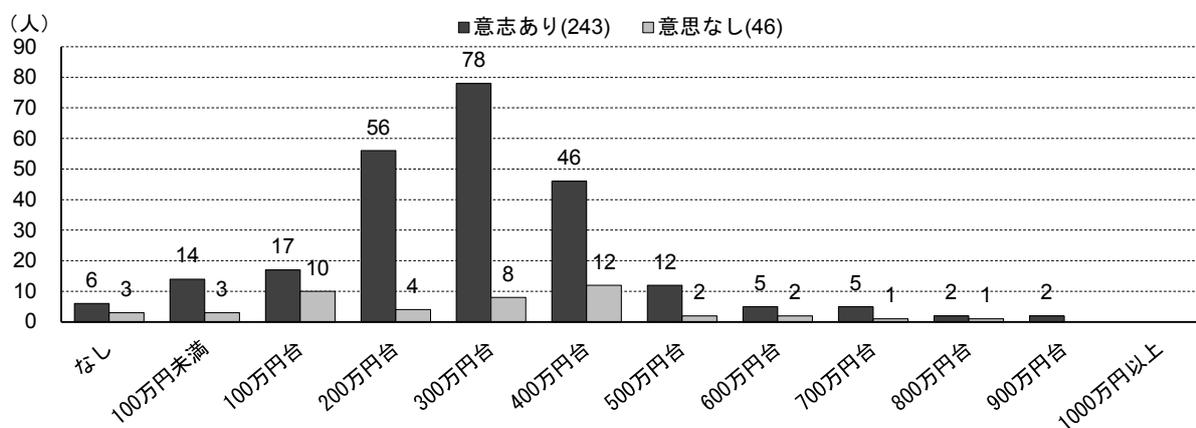
結婚の「意思なし」と「意志あり」で比較しても同様であり、男女とも、所得分布の形に大きな差はみられない（図Ⅱ－16）。

これらから、所得水準そのものは結婚意欲の強さに直接影響していないとみられる。

図Ⅱ－１６ 結婚意思(意思ありと意思なしの二区分)別にみた所得分布(未婚者・就業者、単数)
(男性)



(女性)



ii) 結婚生活を送るための自分の所得に対する捉え方

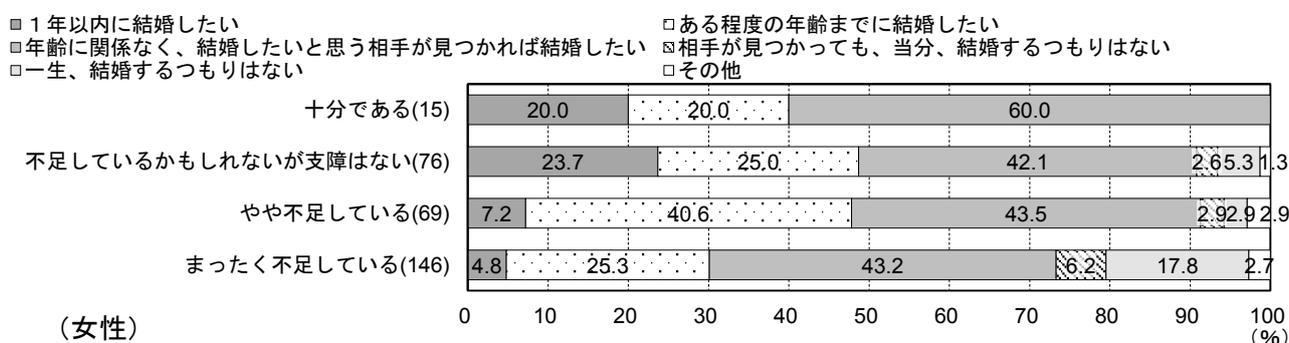
(所得は男性の結婚意欲に対して強い影響を及ぼす)

調査では、未婚者に対して「結婚生活を送るためとしたら、現在のあなたの所得についてどのように考えるか」尋ねた。男性では、現在の所得について「やや不足している」「まったく不足している」とする者は、「十分である」「不足しているかもしれないが支障はない」に比べて、結婚意欲について「1年以内に結婚したい」とする者が少ない(図Ⅱ-17)。

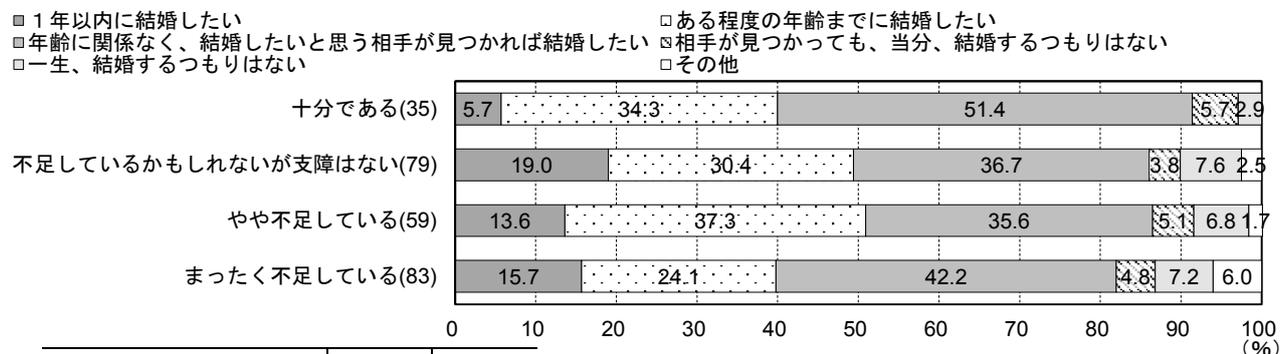
また、「まったく不足している」では、その他の回答に比較して「一生、結婚するつもりはない」という回答が18%と格段に多い。なお、女性では同様の傾向はみられない。

図Ⅱ-17 結婚生活を送るための自分の所得の捉え方別にみた結婚意欲
(未婚の就業者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1918	0.1192
P値	0.0000	0.4393

(注) 結婚生活を送るための現在の所得については、上図の選択肢のほか、「相手の所得しだいである」「今は働いていないが結婚したら働きたい」という選択肢もあるが、ここでは省略した

結婚意欲を「意欲強」と「意欲弱」の二区分とし、所得の判断を「十分からやや不足」と「まったく不足」の二区分にすると、男性では「まったく不足」に対して「十分からやや不足」では結婚の「意欲強(年齢志向)」の出現率が2.1倍になる(表Ⅱ-9)。男性では、現在の所得額が、結婚希望の実現見通しの前に、結婚意欲に強い影響を与えられられる。

結婚意欲を「意思あり」と「意思なし」に分けた場合は、男性では「意思あり」の発現率が4.1倍に達し、所得の判断が強い影響力を示す。しかしながら、「意欲強」に比べて「意思あり」は、所得の判断に関わらずもともと高い割合となっていることに注意が必要である。

女性では「意欲強」の発現率が1.4倍、「意思あり」は1.5倍であるものの、統計分析の結果からは所得の捉え方と結婚意欲の間に明確な関係があるということとはできない(図Ⅱ-17のP値参照)。

表Ⅱ-9 結婚生活を送るための自分の所得と結婚意欲との関係(未婚の就業者)
(意欲強・意欲弱)

(件、%、倍)

性別	自分の所得の捉え方：十分からやや不足				自分の所得の捉え方：まったく不足				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男	160	47.5	52.5	0.90	146	30.1	69.9	0.43	2.10
女	173	48.0	52.0	0.92	83	39.8	60.2	0.66	1.40

(意思あり・意思なし)

(件、%、倍)

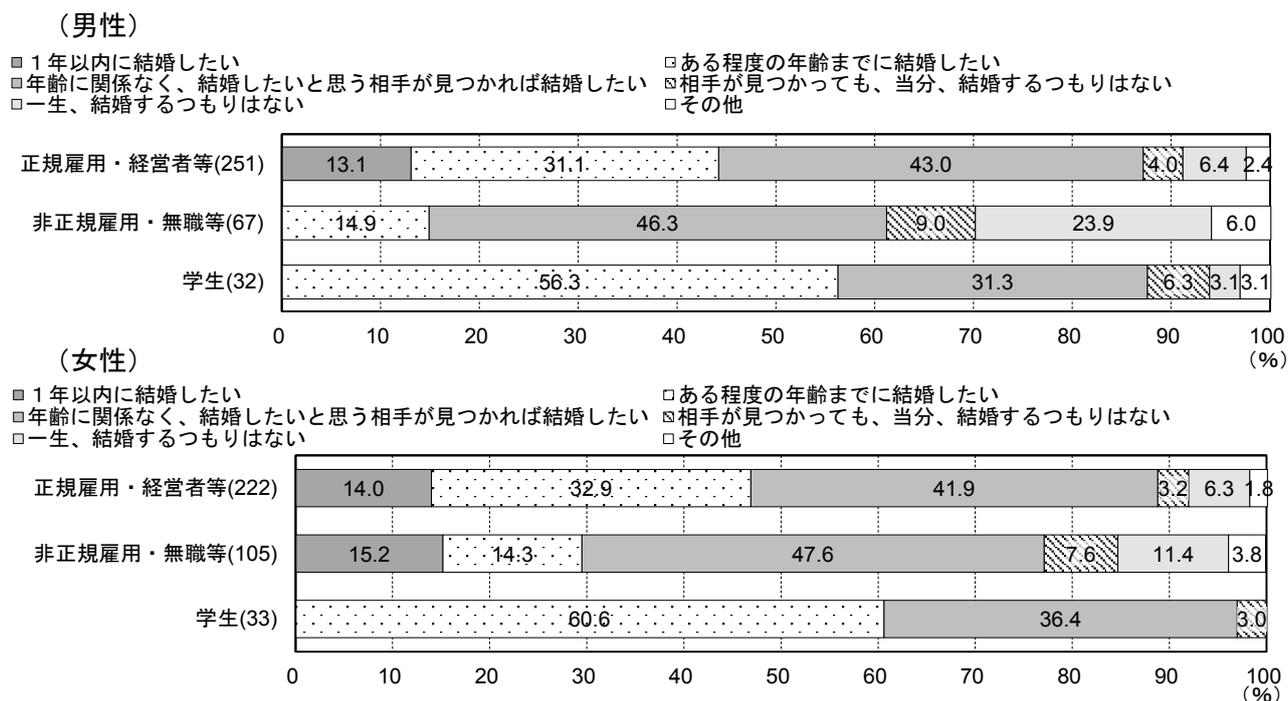
性別	自分の所得の捉え方：積極的肯定				自分の所得の捉え方：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意思あり	意思なし	オッズ	N	意思あり	意思なし	オッズ	
男	160	91.9	8.1	11.31	146	73.3	26.7	2.74	4.12
女	173	87.3	12.7	6.86	83	81.9	18.1	4.53	1.51

iii) 労働状態

(労働状態は男性の結婚意欲に対して極めて強い影響を及ぼす)

本人の労働状態を図Ⅱ－18の注釈の通り3区分にまとめ、結婚意欲との関係を見ると、男性では、「非正規雇用・無職等」は、「正規雇用・経営者等」に対して結婚の「年齢志向」が3分の1になっている。反対に、「相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない」「一生、結婚するつもりはない」といった非婚志向が33%に達し、これは「正規雇用・経営者等」の約3倍である。男性ほどではないものの、女性でも同様の傾向がみられる。

図Ⅱ－18 労働状態別にみた結婚意欲（未婚者、単数）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2674	0.2236
P値	0.0000	0.0001

(注) 調査票の選択肢と図Ⅱ－18の区分の対応は以下の通りである（以下、同様）

正規雇用・経営者等：正規の職員・従業員、会社などの役員、自営業主・家族従業者

非正規雇用・無職等：パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約職員、家庭での内職、失業中、家事・無職

学生：学生

「正規雇用・経営者等」と「非正規雇用・無職等」の二区分にすると、結婚の「意欲強(年齢志向)」の出現率は、男性で4.5倍、女性でも2.1倍と算出される(表Ⅱ-10)。

さらに、「意思あり」と「意思なし」では、発生率は4.3倍、女性では2.3倍であり、所得に対する判断よりも、労働状態の方が結婚意欲に対して強い影響を与えているとみられる。

表Ⅱ-10 労働状態と結婚意欲との関係(未婚者)

(意欲強・意欲弱)

(件、%、倍)

性別	労働状態：正規雇用・経営者等				労働状態：非正規雇用・無職等				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男	251	44.2	55.8	0.79	67	14.9	85.1	0.18	4.52
女	222	46.8	53.2	0.88	105	29.5	70.5	0.42	2.10

(意思あり・意思なし)

(件、%、倍)

性別	労働状態：正規雇用・経営者等				労働状態：非正規雇用・無職等				オッズ比
	N	意思あり	意思なし	オッズ	N	意思あり	意思なし	オッズ	
男	251	87.3	12.7	6.84	67	61.2	38.8	1.58	4.34
女	222	88.7	11.3	7.88	105	77.1	22.9	3.38	2.33

⑧ライフコース

(ライフコースの志向性を表す指標の作成)

調査では、自分が希望するライフコースを実現する上で、以下の10項目について優先度が高いかどうかを尋ねた。回答は6段階のリッカード形式である。

- (1) 大学や大学院に進学し、高度な教育を受けること
- (2) 専門的知識や高度な技能を生かせる仕事
- (3) 経営者・起業家あるいは組織の中核での成功
- (4) 仕事での新しい挑戦、先端分野での活躍
- (5) 長く続けられる仕事を持つこと
- (6) 経済的なゆとり
- (7) 親や知人のいる生まれ育った地域で過ごすこと
- (8) 暮らしの穏やかさ、生活の落ち着き
- (9) 暮らしの面白さ、まちなぎやかさ
- (10) 他者に左右されない自由な生き方

上記の10項目を対象に因子分析を行ったところ、四つの因子が抽出され、このうち第一因子と第二因子は以下の項目により構成される。寄与度の順で記した。

■第一因子

- ・仕事での新しい挑戦、先端分野での活躍
- ・経営者・起業家あるいは組織の中核での成功
- ・専門的知識や高度な技能を生かせる仕事
- ・大学や大学院に進学し、高度な教育を受けること

■第二因子

- ・経済的なゆとり
- ・長く続けられる仕事を持つこと
- ・暮らしの穏やかさ、生活の落ち着き

第一因子と第二因子の内容から、第一因子はライフコースにおける「チャレンジ志向」、第二因子は「安定志向」というように解釈される。

次に、これら七つの項目を対象に主成分分析を行うと、第二主成分では、上記の第一因子の項目がプラスに寄与し、第二因子の項目がマイナスに寄与することがわかった。そこで、第二主成分をチャレンジ志向と安定志向の対立を表す成分と解釈して、その主成分得点を4段階（強い安定志向、弱い安定志向、弱いチャレンジ志向、強いチャレンジ志向）に区分した。

(ライフコースの志向性と結婚意欲との関係)

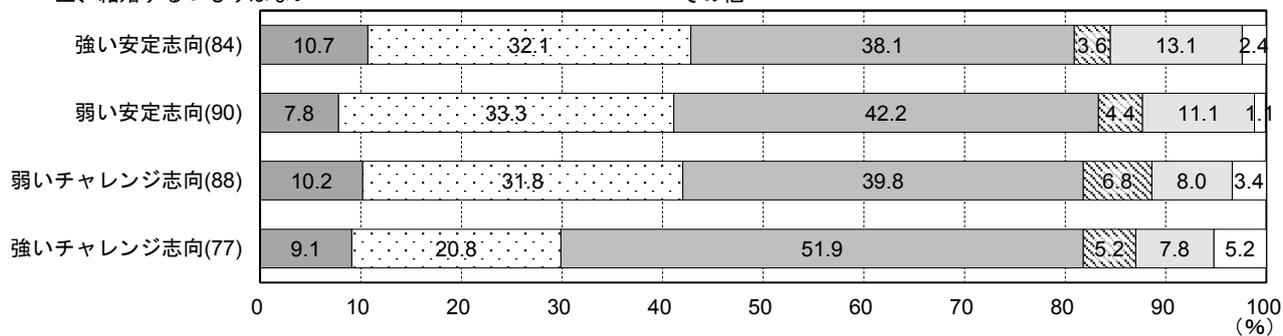
ライフコースの志向性と結婚意欲とのクロス集計を行ったところ、男性では、ライフコースと結婚意欲の間に明確な関係を見出すことはできなかった（図Ⅱ-19）。

一方、女性では、「強い安定志向」に比べ「弱い安定志向」では「1年以内に結婚したい」が半減する。さらに、「弱い安定志向」に比べて「弱いチャレンジ志向」では結婚の相手志向が多くなっている。また、「弱いチャレンジ志向」に比べて「強いチャレンジ志向」では、非婚志向が19%になるなど、チャレンジ志向が強くなるほど徐々に結婚意欲が弱くなっている。

図Ⅱ－１９ ライフコースの志向性別にみた結婚意欲(未婚者、単数)

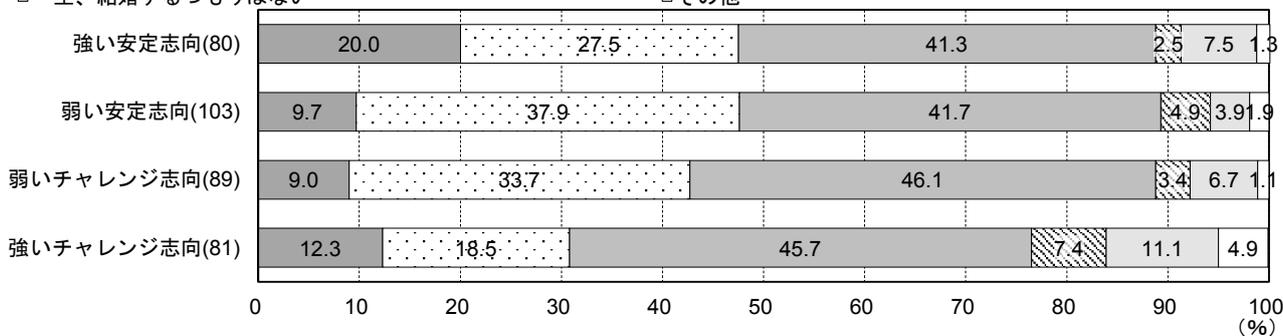
(男性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかったも、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



(女性)

- 1年以内に結婚したい
- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- 相手が見つかったも、当分、結婚するつもりはない
- 一生、結婚するつもりはない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1016	0.1412
P値	0.7867	0.1329

最終アウトカム関連の集計・分析

ライフコースの志向性を「安定志向」と「チャレンジ志向」の二区分にして結婚意欲に及ぼす影響の強さをみると、女性では、「安定志向」であると、「チャレンジ志向」に対して結婚の「意欲強（年齢志向）」の出現率が 1.5 倍になり、ライフコースは結婚意欲に強く影響している（表Ⅱ－11）。

結婚の「意思あり」「意思なし」に対しては、男性 1.3 倍、女性 1.7 倍であり、上と同様の結果となった。

表Ⅱ－11 ライフコースの志向性と結婚意欲との関係（未婚者）
（意欲強・意欲弱）

(件、%、倍)

性別	ライフコースの志向性：安定志向				ライフコースの志向性：チャレンジ志向				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男	174	42.0	58.0	0.72	165	36.4	63.6	0.57	1.26
女	183	47.5	52.5	0.91	170	37.1	62.9	0.59	1.54

（意思あり・意思なし）

(件、%、倍)

性別	ライフコースの志向性：安定志向				ライフコースの志向性：チャレンジ志向				オッズ比
	N	意思あり	意思なし	オッズ	N	意思あり	意思なし	オッズ	
男	174	82.2	13.8	5.96	165	81.8	18.2	4.50	1.32
女	183	89.1	10.9	8.15	170	82.9	17.1	4.86	1.68

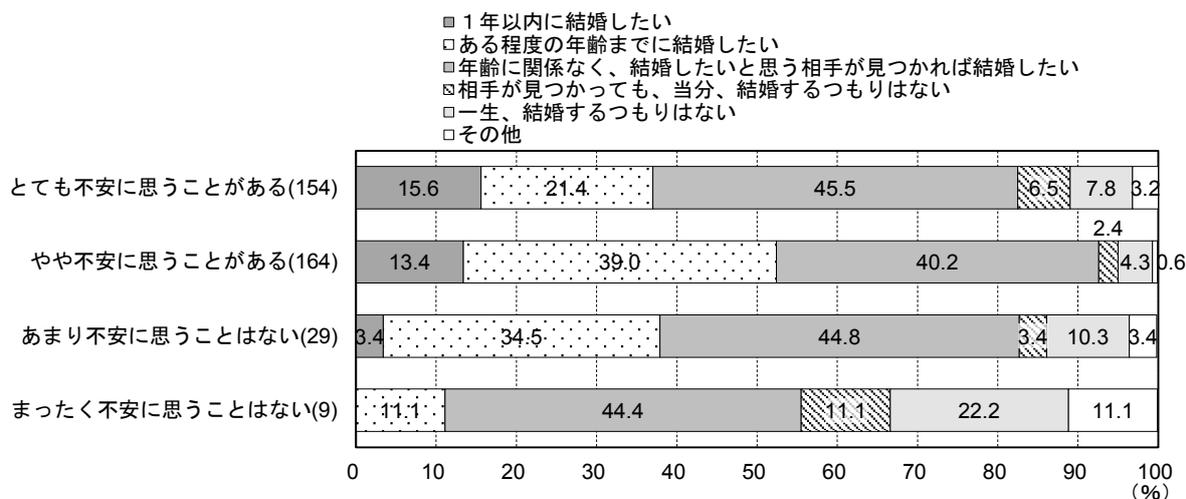
⑨妊娠・出産に関する不安

(妊娠・出産に関する不安は女性の結婚意欲に強い影響を及ぼす)

女性に対して、身体への影響や医学面で妊娠・出産に関してどのくらい不安を持っているかを尋ね、結婚意欲への影響がみられるかを把握した(図Ⅱ-20)。

結果、「とても不安に思うことがある」と「やや不安に思うことがある」を比べると、「やや不安」に対して「とても不安」では結婚の「年齢志向」が少なく、「相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない」「一生、結婚するつもりはない」が多くなっている。

図Ⅱ-20 妊娠・出産に関する不安別にみた結婚についての考え(女性、未婚者、単数)



クラメールの連関係数	0.1653
P値	0.0153

妊娠・出産に対する不安感が結婚意欲に及ぼす影響の強さを算出すると、「とても不安」に対して「やや不安」では結婚の「意欲強(年齢志向)」の出現率が1.9倍になる。妊娠・出産に関する不安は、女性の結婚意欲に対して強い影響を与えていると考えられる(表Ⅱ-12)。

表Ⅱ-12 妊娠・出産に対する不安と結婚意欲との関係(女性、未婚者)

(件、%、倍)

妊娠・出産に対する不安：やや不安				妊娠・出産に対する不安：とても不安				オッズ比
N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
164	52.4	47.6	1.10	154	37.0	63.0	0.59	1.87

2. 理想の結婚年齢

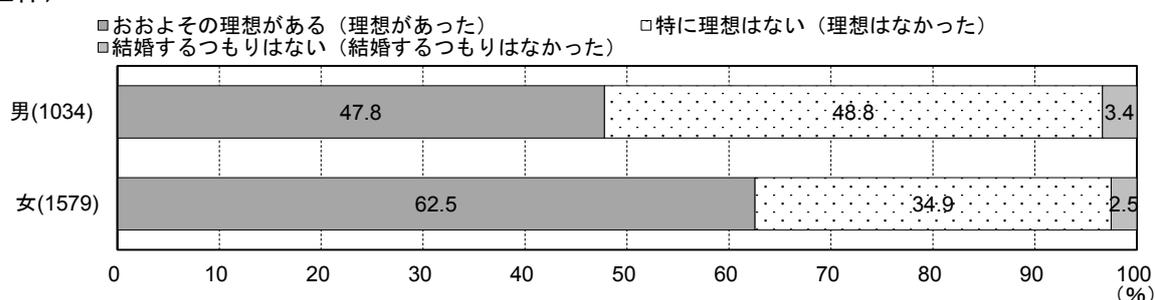
(1) 理想の結婚年齢の有無

理想の結婚年齢があるかどうか尋ねたところ、男性の48%、女性の63%が「おおよその理想がある(理想があった)」としている(図Ⅱ-21の全体集計)。とりわけ、女性では「特に理想はない(理想はなかった)」は35%にとどまり、結婚年齢に理想を持っている者が多い。

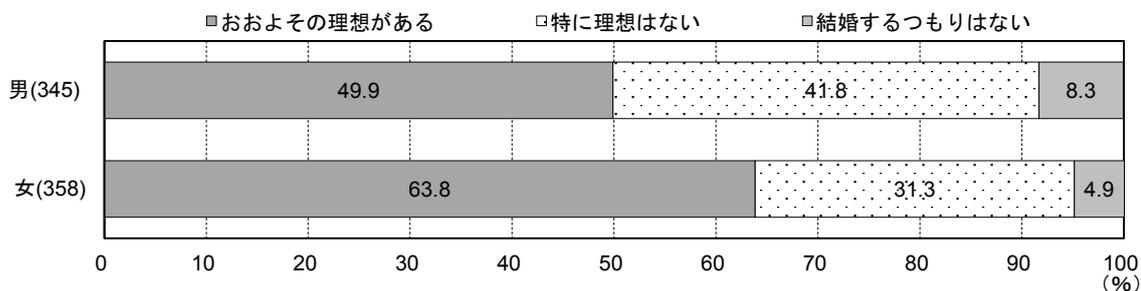
未婚者、既婚者に限って集計を行っても、全体集計とほぼ同様の結果となった。

図Ⅱ-21 理想の結婚年齢の有無(単数)

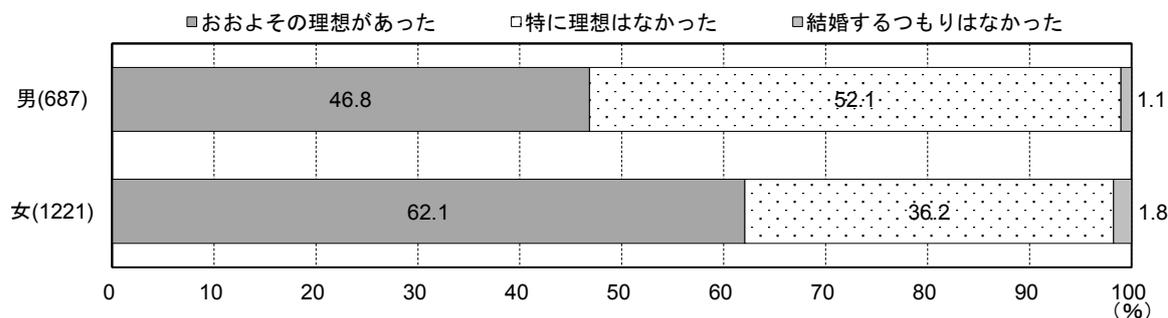
(全体)



(未婚者)



(既婚者)



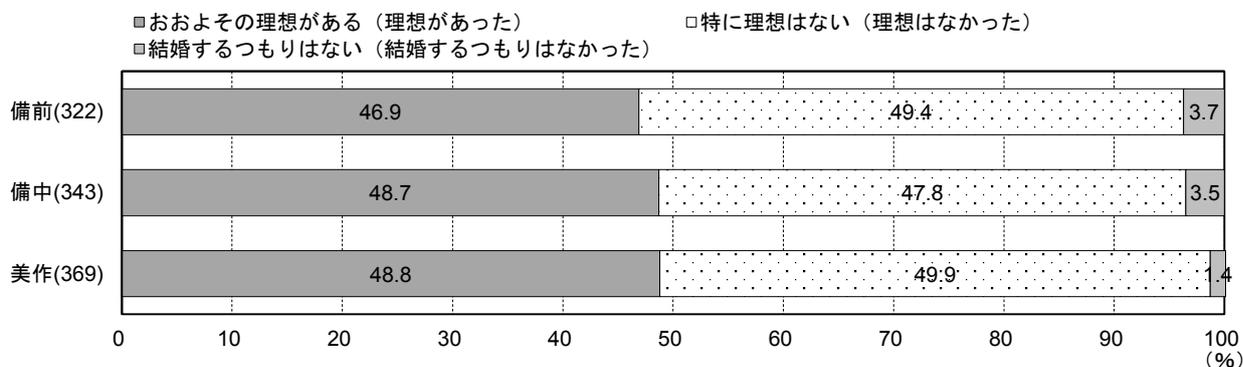
(注) 1. それぞれ、県民局別男女人口(20-49歳)、県民局別未婚者数(20-49歳)、県民局別既婚者(20-49歳)によるウェイトバック集計である
2. 既婚者は離別・死別を含む

(県民局別の集計)

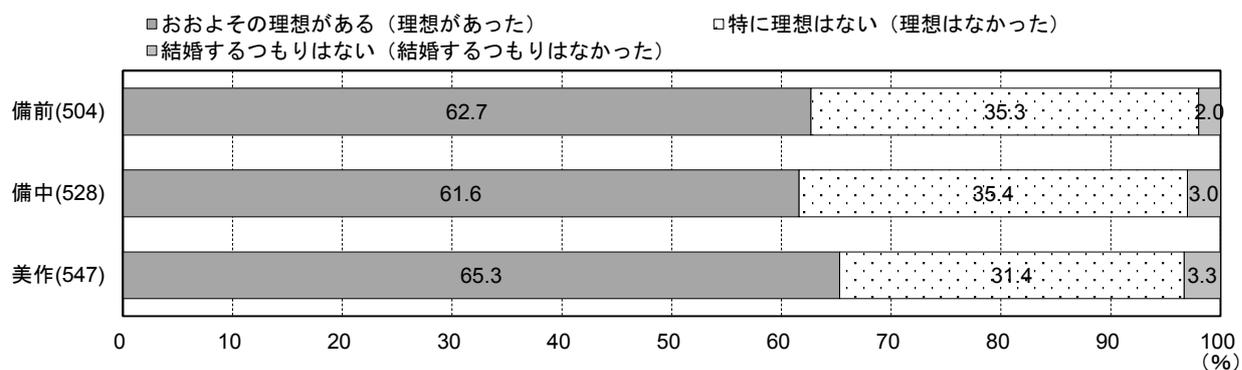
理想の結婚年齢の有無を県民局別で集計したところ、ほとんど地域差はみられなかった(図Ⅱ-22)。

図Ⅱ-22 県民局別にみた理想の結婚年齢の有無(単数)

(男性)



(女性)



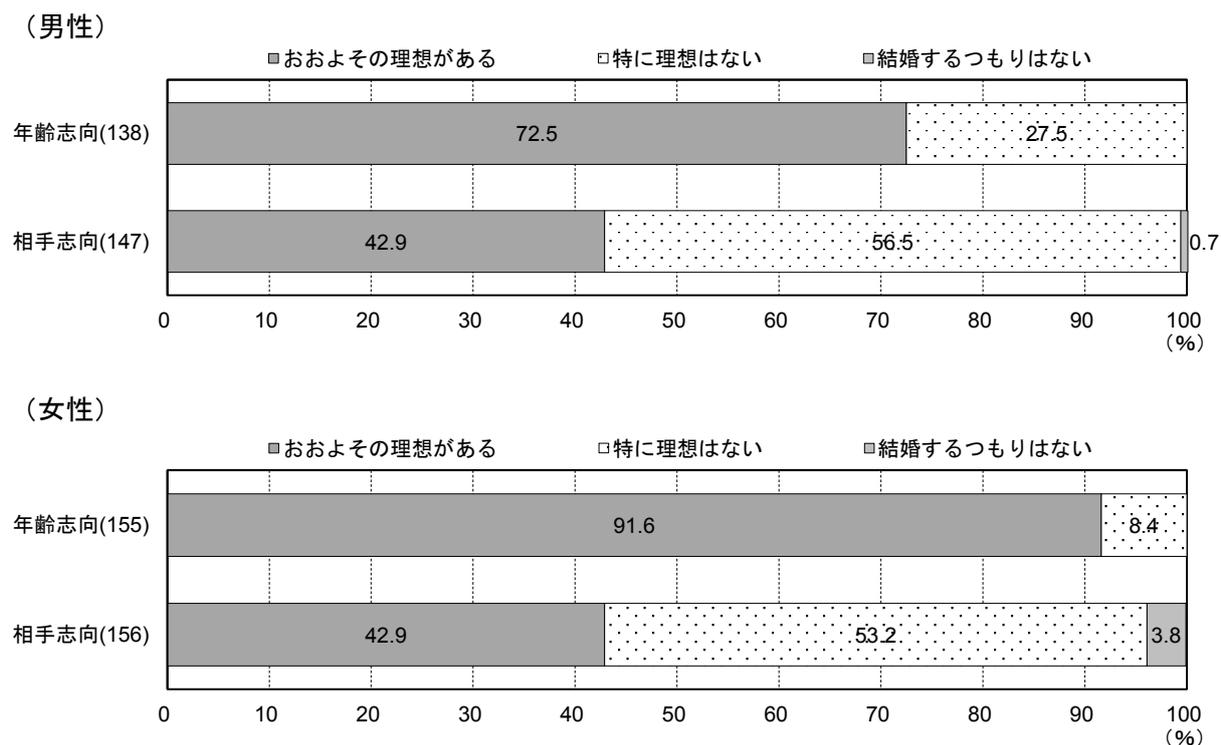
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0474	0.0356
P値	0.3251	0.4045

(結婚意欲別にみた理想の結婚年齢の有無)

未婚者を対象に、結婚意欲の分類のうち年齢志向と相手志向について理想年齢があるかどうかを調べると、男女とも、相手志向においても理想の結婚年齢を持っている者が43%に上る(図Ⅱ-23)。

また、女性の年齢志向では、具体的に理想の結婚年齢を持つ者が92%(男性73%)に達し、図Ⅱ-21の結果と合わせ、一定の年齢までに結婚したいという意欲は女性の方が強いと考えられる。この点は、結婚支援策において参考にするべきことと考えられる。

図Ⅱ-23 結婚意欲別にみた理想の結婚年齢の有無(未婚者、単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.4579	0.4387
P値	0.0000	0.0000

(2) 理想の結婚年齢

①理想の結婚年齢の平均値

(理想の結婚年齢は男性 28.9 歳、女性 26.5 歳)

理想とする結婚年齢の平均値は、男性 28.9 歳、女性 26.5 歳と算出された(表Ⅱ-13)。岡山県における平成 29 年の平均初婚年齢は夫 30.2 歳、妻 28.7 歳であり、男性で 1.3 歳、女性 2.2 歳の差がみられる。理想年齢と実際に結婚した者の比較であるものの、理想と現実の差と捉えることもできる。

表Ⅱ-13 理想の結婚年齢の平均値・中央値(結婚年齢に理想がある者)

(歳)

項目	全体			未婚者			既婚者			
	標本数	平均値	中央値	標本数	平均値	中央値	標本数	平均値	中央値	
男	478	28.9	-	171	29.5	-	307	28.6	-	
女	968	26.5	-	210	27.9	-	758	26.3	-	
男	備前	143	28.9	30	47	29.1	30	96	28.7	30
	備中	159	28.9	30	55	30.0	30	104	28.7	30
	美作	176	28.3	28	69	29.2	28	107	27.6	28
女	備前	308	26.6	26	80	28.2	28	228	26.3	26
	備中	315	26.4	26	79	27.6	27	236	26.3	25
	美作	345	26.2	26	51	26.9	27	294	26.1	25

(注) それぞれ、県民局別男女人口(20-49歳)、県民局別未婚者数(20-49歳)、県民局別既婚者(20-49歳)によるウエイトバック集計である

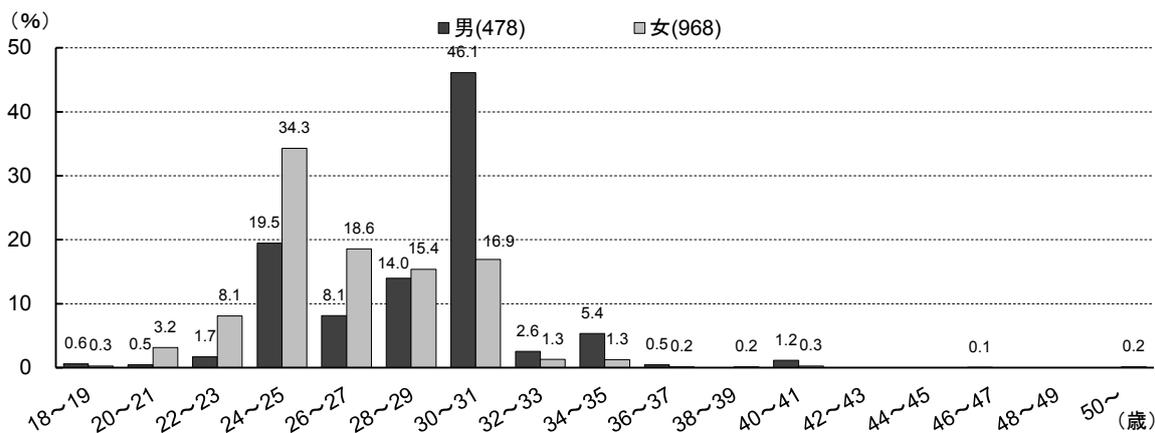
②理想の結婚年齢の分布

(理想の結婚年齢の分布は正規分布ではない)

理想の結婚年齢は、男女で分布の形状が大きく異なっている(図Ⅱ-24)。また、男女とも、正規分布(真ん中が盛り上がり、両端に向けて徐々に低くなっていくような分布)とは分布の形状が大きく異なっており、平均値だけでは理想の結婚年齢の実態を把握することできない。

男性の理想は30-31歳が最も多く46%を占めるものの、24-25歳(20%)にもう一つピークを持っていることが特徴である。女性は、理想を24-25歳とする者が34%と最も多い。次に26-27歳が多く、24歳から31歳までを理想とする者が大半を占めている。

図Ⅱ-24 理想の結婚年齢の分布(結婚年齢に理想がある者、数量)



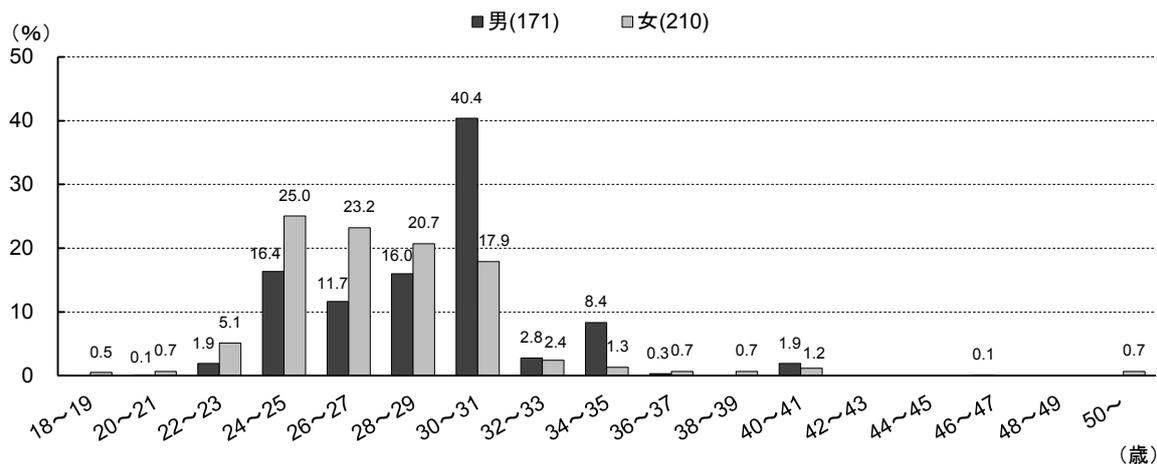
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウェイトバック集計である

未婚者と既婚者の差異をみると、女性では、ピークである24-25歳の割合が未婚者では25%であるのに対して既婚者は37%に上る。また、未婚女性は24-25歳の25%から30-31歳に向けて徐々に割合が減少していくことが特徴である。

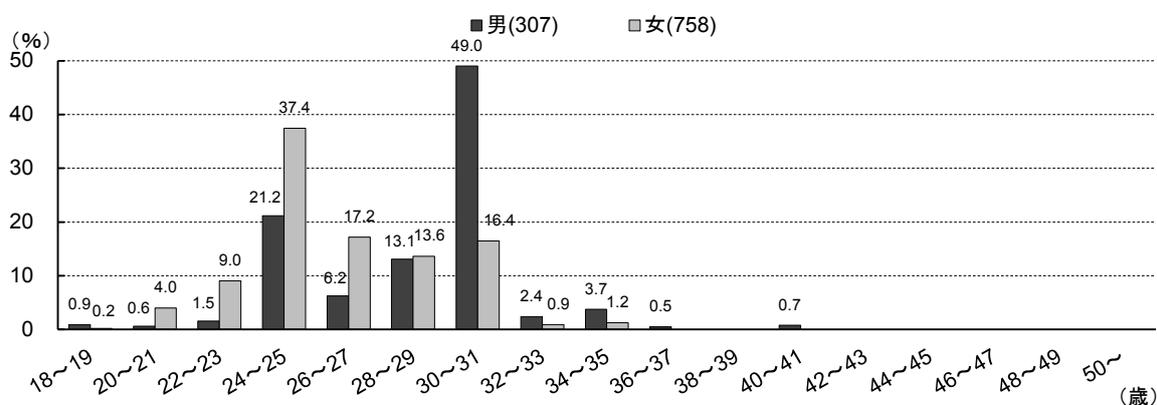
男性では、未婚者は既婚者に比べ、20歳代後半を理想とする者が多くなっている。

図Ⅱ-25 未婚・既婚別にみた理想の結婚年齢の分布(結婚年齢に理想がある者、数量)

(未婚者)



(既婚者)



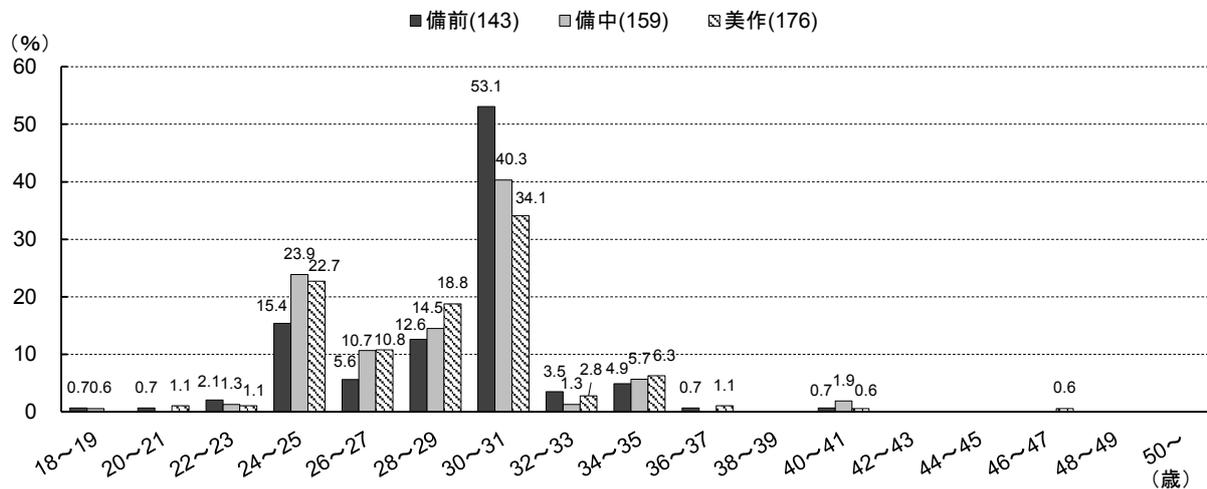
(注) それぞれ、県民局別未婚者数(20-49歳)、県民局別既婚者(20-49歳)によるウエイトバック集計である

(県民局別の集計)

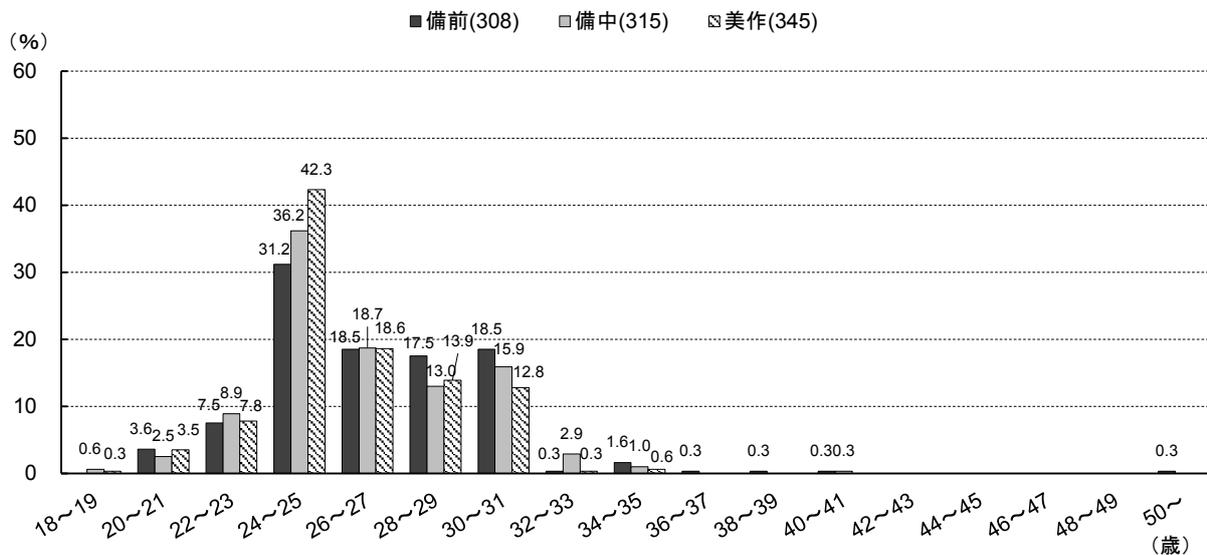
理想の結婚年齢の分布は、男性の「30-31 歳」、女性の「24-25 歳」で大きな地域差がみられるが、全体としては、表Ⅱ-13の平均値の通り、大きな差異ではない(図Ⅱ-26)。

図Ⅱ-26 県民局別にみた理想の結婚年齢の分布(結婚年齢に理想がある者、数量)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0474	0.0356
P値	0.3251	0.4045

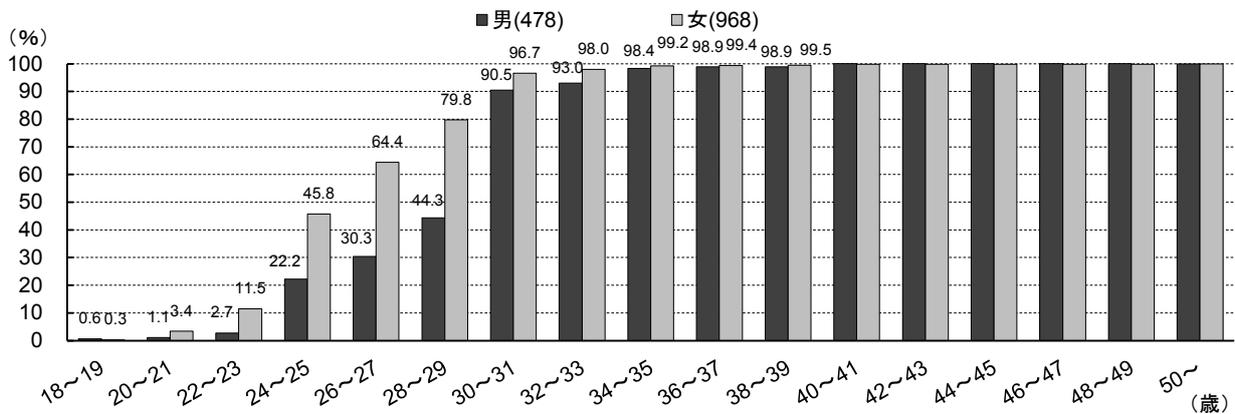
③理想の結婚年齢の累積分布

理想の結婚年齢を累積分布で表すと、理想の結婚年齢に基づく年齢階層別有配偶率が得られる。

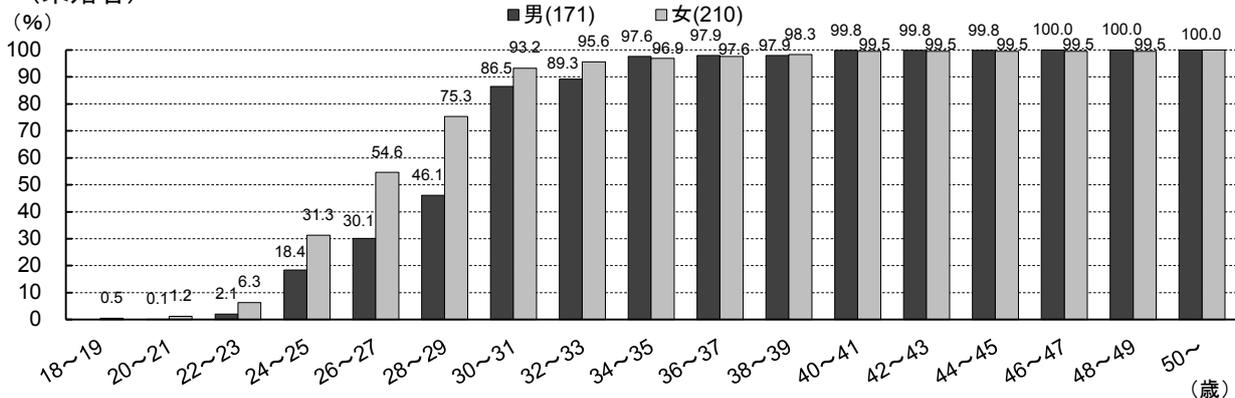
全体集計では、結婚年齢に理想がある者(男性の48%、女性の63%)が理想通りに結婚すると、男性は28-29歳で有配偶率が44%、30-31歳までに91%に到達する(図Ⅱ-27)。女性では、28-29歳で80%、30-31歳で97%の有配偶率になる。2015年の国勢調査では、岡山県における30-34歳の有配偶率(日本人)は男性51.2%、女性60.8%であった。

未婚男性では30-31歳までの結婚を理想とする者が87%、未婚女性は93%になる(図Ⅱ-28)。既婚男性では30-31歳までの結婚を理想とする者は93%、既婚女性では98%である。

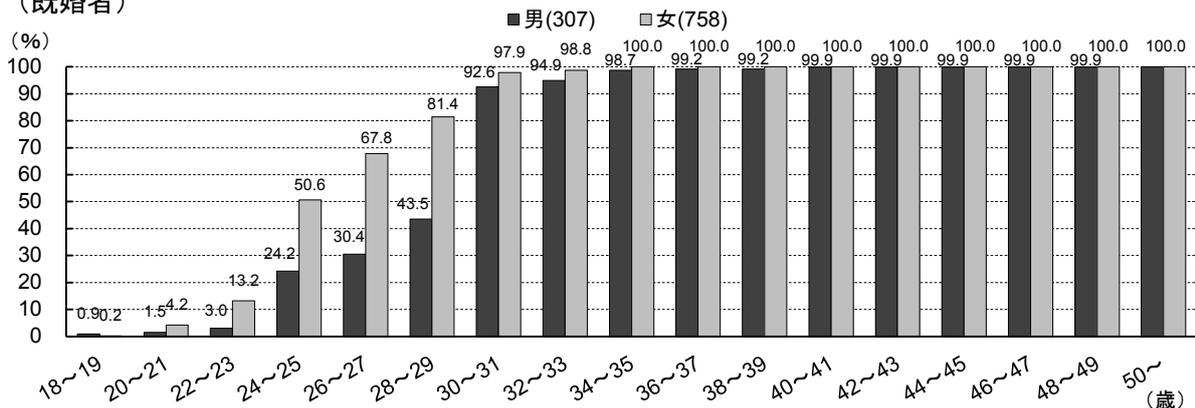
図Ⅱ-27 理想の結婚年齢の累積分布(結婚年齢に理想がある者、数量)



図Ⅱ-28 未婚・既婚別にみた理想の結婚年齢の累積分布(結婚年齢に理想がある者、数量)
(未婚者)



(既婚者)



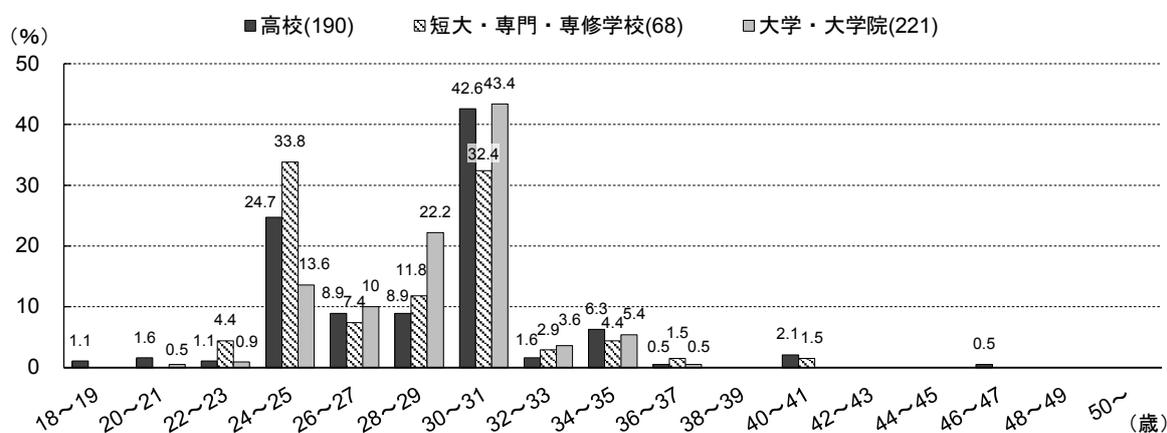
(3) 理想の結婚年齢に影響を及ぼす要因

(学歴が理想の結婚年齢に影響を及ぼす)

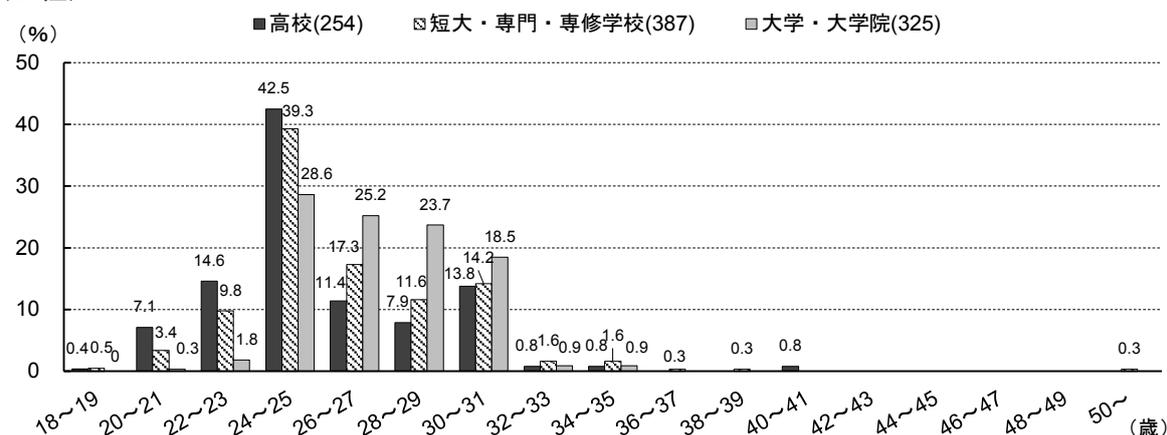
男性で理想の結婚年齢に二つのピークがみられることには、「高校」及び「短大・専門・専修学校」の卒業者に「24-25歳」を理想とする者が多いことが影響している（図Ⅱ-29）。ただし、「高校」でも「30-31歳」は「大学・大学院」と同程度に多く、理想年齢の平均値は「大学・大学院」より「高校」の方が高い。男性は30歳を結婚の一つの「節目」と考えている可能性がある。一方、女性は、「高校」「短大・専門・専修学校」に対して「大学・大学院」で26-27歳以降が多く、学歴により理想年齢が高くなる傾向が明らかである。「大学・大学院」は平均値も1歳高い（表Ⅱ-14）。

図Ⅱ-29 最終学歴別にみた理想の結婚年齢の分布（結婚年齢に理想がある者、数量）

(男性)



(女性)



表Ⅱ-14 最終学歴別にみた理想の結婚年齢の平均値

(歳)

区分	理想の結婚年齢の平均値	
	男	女
高校	29.1	26.1
短大・専門・専修学校	26.8	26.0
大学・大学院	28.8	27.1

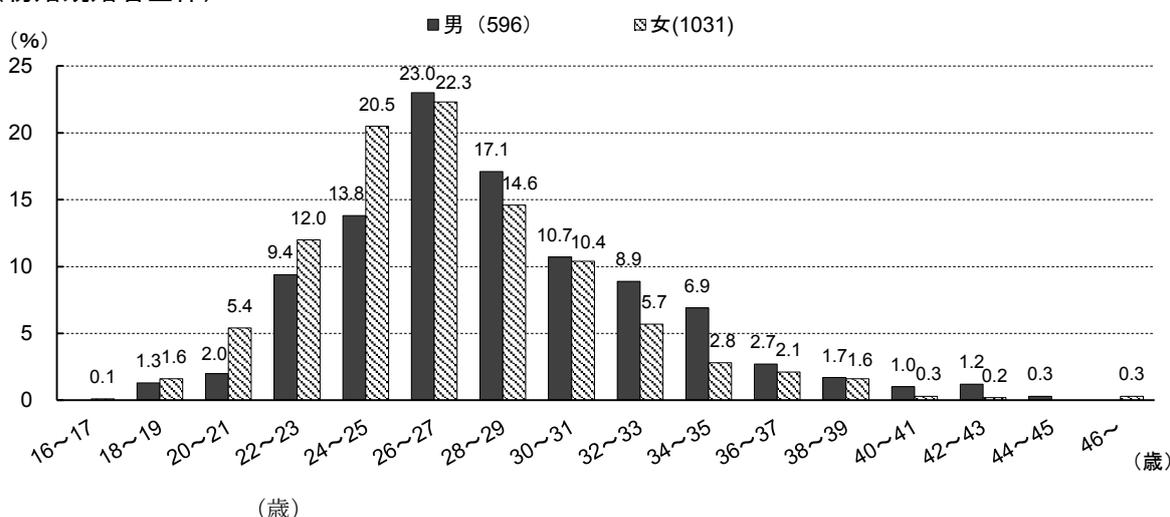
(4) 結婚年齢の理想と現実の比較

回答者のうち、初婚の既婚者を対象に結婚年齢の分布をみると、やや右にすそ野が長いものの男女とも正規分布に近い分布になっている。これは、「理想の結婚年齢がある」という者に限っても同様である(図Ⅱ-30)。

「理想の結婚年齢がある」者の理想年齢は、男性では二つのピークがあり、女性では最頻値から右に極端に偏っているなど特殊な分布をしていた。ところが、実際の結婚年齢が正規分布に近い分布であることは、結婚を取り巻く環境に、理想の年齢から、実際の「初婚年齢平均値」に向かわせる力が働いていると推察される。

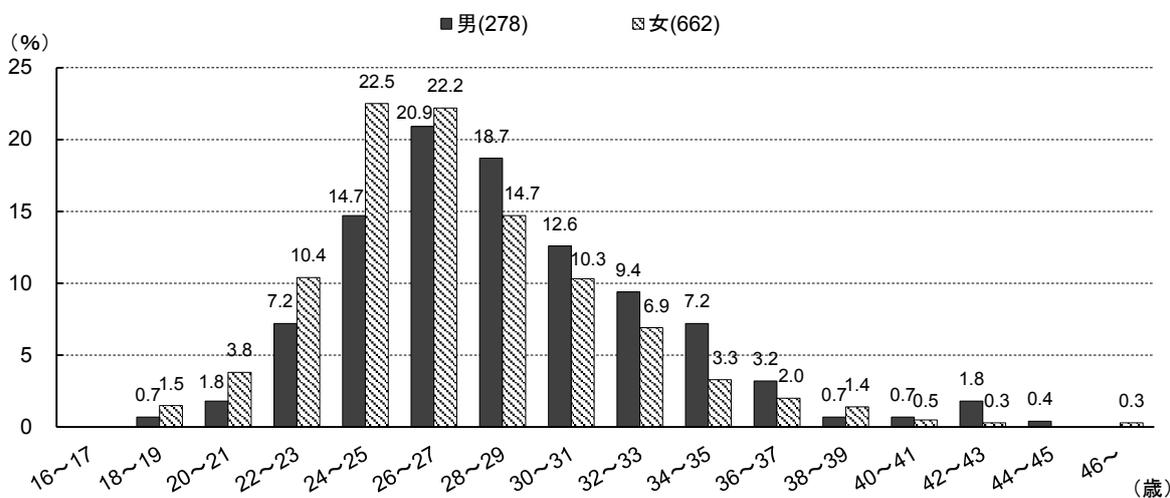
図Ⅱ-30 既婚者の初婚年齢(数量)

(初婚既婚者全体)



区分	平均初婚年齢
男	28.4
女	26.9

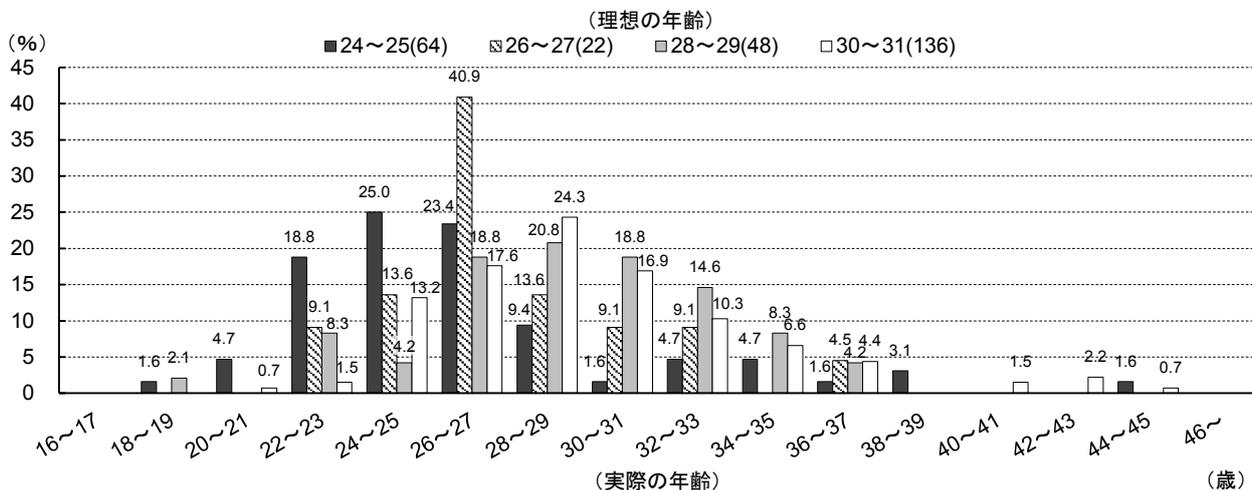
(初婚既婚者のうち「理想の結婚年齢あり」の者)



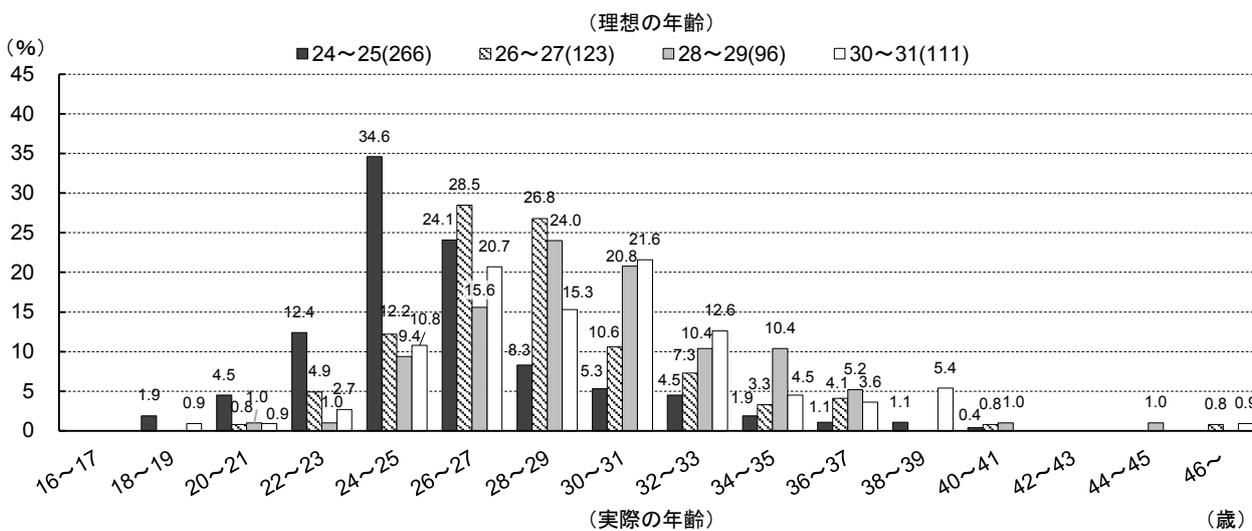
理想年齢別に実際の結婚年齢をみると、男女とも、若い理想年齢を持つ者の結婚年齢が遅くなる傾向があるだけでなく、高い理想年齢では実際の結婚が早くなる者が多く現れることがわかる(図Ⅱ-31)。

図Ⅱ-31 理想年齢別にみた実際の結婚年齢(初婚既婚者、数量)

(男性)



(女性)



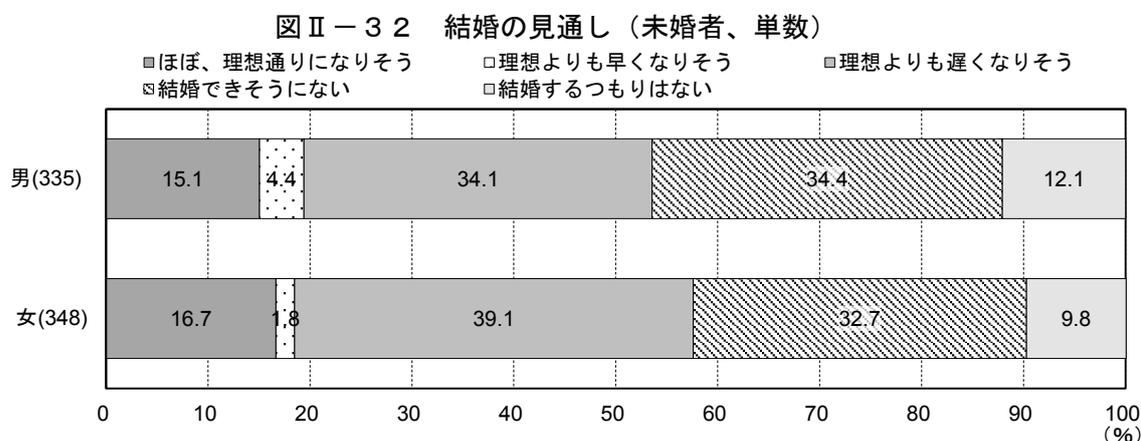
3. 結婚希望の実現

(1) 結婚の見通し

(結婚希望の実現が困難な者は男女とも3分の2を超える)

未婚者を対象に本人の結婚の見通しについて、結婚できそうかどうかや、理想と思う結婚年齢に比べてどうなりそうかを尋ねた。結婚希望の実現や晩婚化の歯止めという観点からみると、「結婚できそうにない」が男性34%、女性33%、「理想よりも遅くなりそう」が男性34%、女性39%となっている(図Ⅱ-32)。

「結婚できそうにない」「理想よりも遅くなりそう」を「結婚希望の実現困難」としてまとめると、両者を合計して男性69%、女性72%である。



(注) 県民局別の20-49歳未婚者人口によるウェイトバック集計である

(結婚の見通しに基づく予想出生率は男性1.19、女性1.25)

結婚の見通し別に理想の子ども数を集計して「結婚見通しに基づく未婚者予想出生率」を算出した(表Ⅱ-15)。

結果、男性の予想出生率は1.19、女性では1.25であり、未婚者の結婚が調査で得られた見通し通りになると、結婚できると予想する者の理想の子ども数を実現されたとしても出生率は極めて低い水準となる。未婚者の希望出生率は男性1.91、女性1.93であり、希望出生率と予想出生率の差は、未婚者の結婚見通しの厳しさを示している。

なお、現実の合計特殊出生率が予想出生率を上回るのは、未婚のとき「結婚できそうにない」「結婚するつもりはない」と考えている者に結婚する者が現れることや、もともと結婚希望を持っていた者の多くが既婚者となっており集計の対象となっていないためである。

表Ⅱ－１５ 未婚者の結婚見通しと理想の子ども数を元に算出した予想出生率
(結婚見通しに基づく未婚者予想出生率)

(男性) N=337

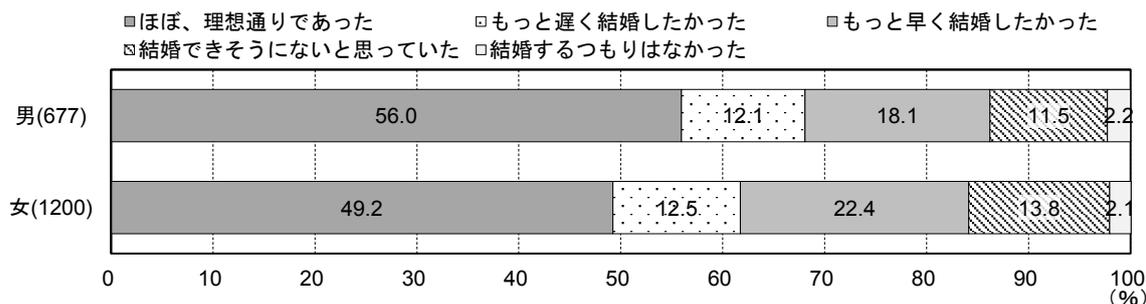
理想の子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 理想の子ども数の回答割合	ほぼ、理想通りになりそう	0.02	0.63	0.30	0.02	0.00	0.02	1.00
	理想よりも早くなりそう	0.11	0.89	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
	理想よりも遅くなりそう	0.05	0.68	0.23	0.02	0.01	0.01	1.00
	結婚できそうにない	0.07	0.69	0.16	0.01	0.00	0.08	1.00
	結婚するつもりはない	0.05	0.35	0.08	0.03	0.00	0.50	1.00
② 理想の子ども数×①	ほぼ、理想通りになりそう	0.02	1.26	0.91	0.09	0.00	0.00	2.28
	理想よりも早くなりそう	0.11	1.78	0.00	0.00	0.00	0.00	1.89
	理想よりも遅くなりそう	0.05	1.35	0.70	0.10	0.04	0.00	2.24
	結婚できそうにない	-	-	-	-	-	-	-
	結婚するつもりはない	-	-	-	-	-	-	-
③ 構成比	ほぼ、理想通りになりそう	0.14	④=②×③					0.31
	理想よりも早くなりそう	0.03						0.05
	理想よりも遅くなりそう	0.37						0.82
	結婚できそうにない	0.35						-
	結婚するつもりはない	0.12						-
未婚者予想出生率 (④の合計)								1.19

(女性) N=350

理想の子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 理想の子ども数の回答割合	ほぼ、理想通りになりそう	0.05	0.45	0.43	0.00	0.00	0.07	1.00
	理想よりも早くなりそう	0.00	0.57	0.14	0.00	0.00	0.29	1.00
	理想よりも遅くなりそう	0.06	0.57	0.30	0.02	0.00	0.06	1.00
	結婚できそうにない	0.11	0.50	0.26	0.02	0.00	0.11	1.00
	結婚するつもりはない	0.12	0.35	0.12	0.00	0.03	0.38	1.00
② 理想の子ども数×①	ほぼ、理想通りになりそう	0.05	0.90	1.29	0.00	0.00	0.00	2.24
	理想よりも早くなりそう	0.00	1.14	0.43	0.00	0.00	0.00	1.57
	理想よりも遅くなりそう	0.06	1.14	0.90	0.06	0.00	0.00	2.15
	結婚できそうにない	-	-	-	-	-	-	-
	結婚するつもりはない	-	-	-	-	-	-	-
③ 構成比	ほぼ、理想通りになりそう	0.17	④=②×③					0.37
	理想よりも早くなりそう	0.02						0.03
	理想よりも遅くなりそう	0.39						0.84
	結婚できそうにない	0.33						-
	結婚するつもりはない	0.10						-
未婚者予想出生率 (④の合計)								1.25

(注) 「結婚できそうにない」「結婚するつもりはない」は、理想の子ども数の回答があっても予想出生率への寄与はゼロとした

図Ⅱ-33 結婚の見通し(既婚者、単数)



(注) 県民局別の20-49歳既婚者(離別・死別を含む)人口によるウエイトバック集計である

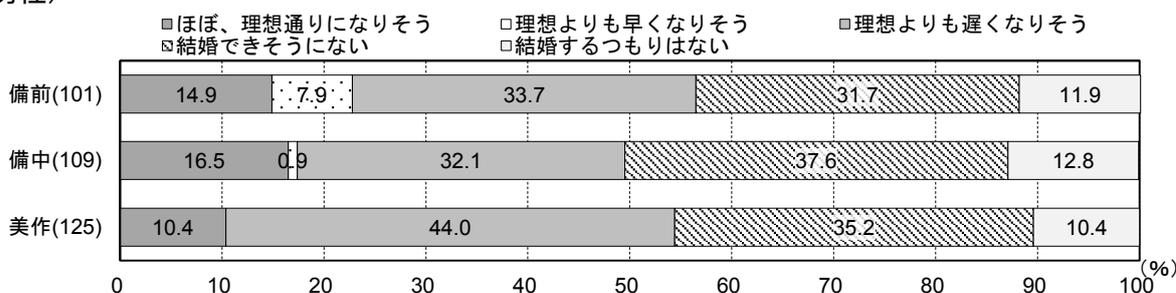
なお、既婚者の回答の特徴は、未婚者に比べて「ほぼ、理想通りであった」が約半数を占めることである。こうした回答の差異には、既婚者に「認知バイアス(「今となっては理想かな」という追認バイアス等)」が働いていることが推察される。こうした中で、既婚者においても「もっと早く結婚したかった」が約20%を占めることは注目される。

(県民局別の集計)

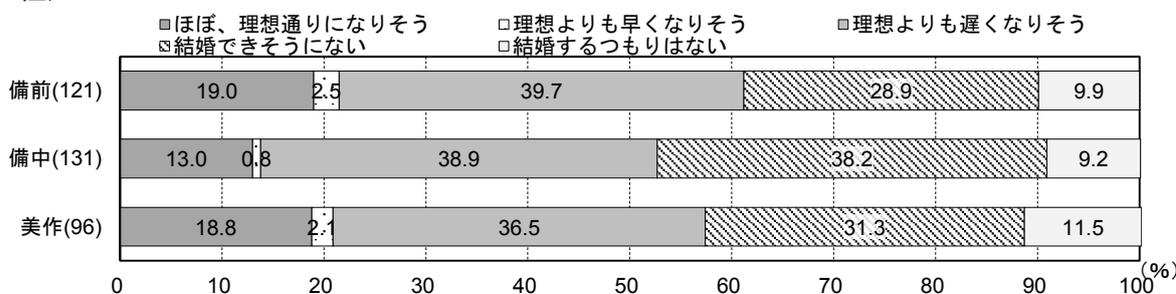
結婚の実現見通しを県民局別に集計すると、男性において県民局で差があるという分析結果が得られた(図Ⅱ-34)。男性では、3県民局で「結婚できそうにない」はほぼ同じ割合であるが、美作は他地域に比べ「ほぼ、理想通りになりそう」が少なく、「理想よりも遅くなりそう」が多くなっている。女性では、備中で「結婚できそうにない」が他地域に比べて多くなっているが、統計分析の結果では3県民局で差があるということはない。

図Ⅱ-34 県民局別にみた結婚見通し(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1734	0.0856
P値	0.0098	0.7474

(2) 結婚の見通しに影響を及ぼす要因

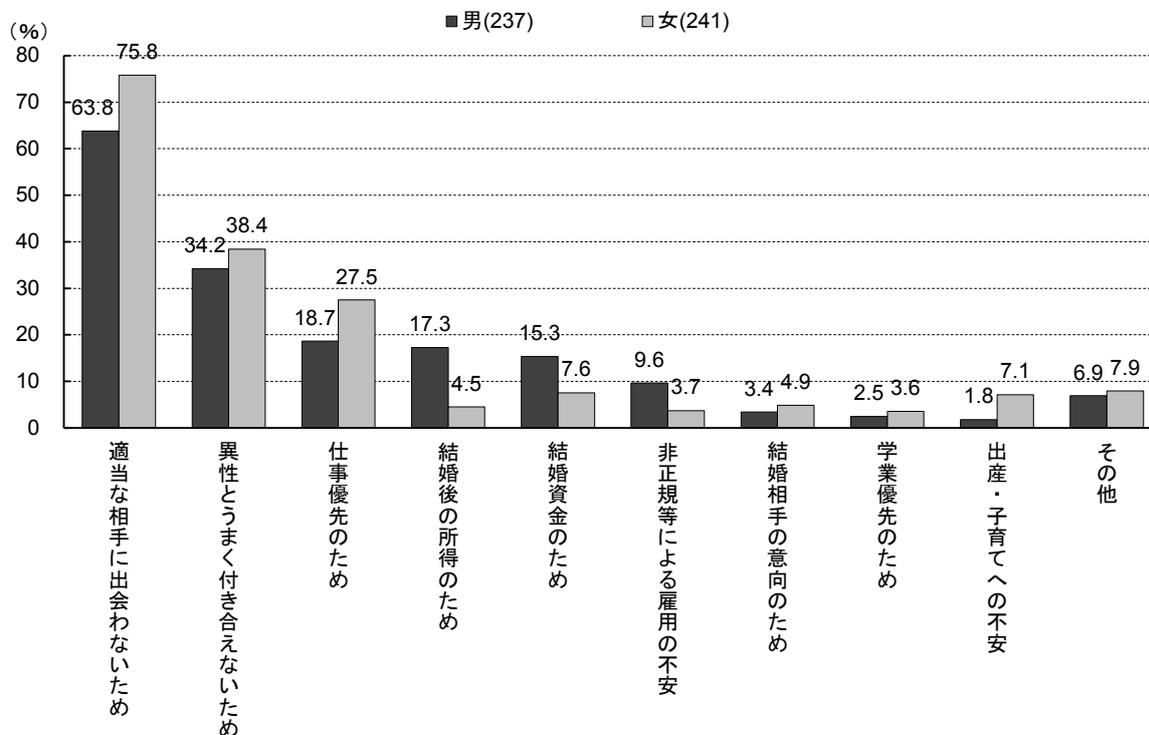
①結婚希望が実現できない理由

(全体集計)

結婚の見通しに影響を与える要因を把握するため、まず「理想より遅くなりそう」「結婚できそうにない」という未婚者の理由をみると、男女とも「適当な相手に出会わないため」が最も多い(図Ⅱ-35)。この結果は「結婚できそうにない」で相手志向が多いことと合致する。

これに次いで、「異性とうまく付き合えないため」「仕事優先のため」といった理由が多くなっている。

図Ⅱ-35 結婚希望が実現しない理由(未婚者、複数)



(注) 県民局別の未婚者数(20-49歳)によるウエイトバック集計である

(「結婚できそうにない」理由は「相手と出会わない」「異性とうまく付き合えない」)

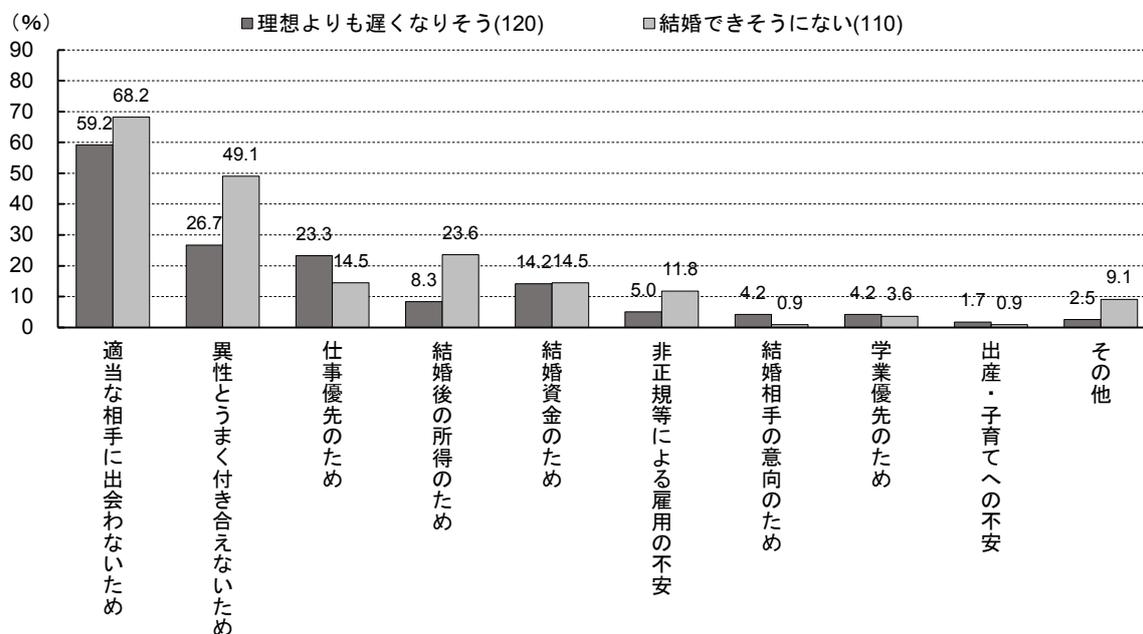
結婚の見通しに影響を与える要因をするため、「理想よりも遅くなりそう」や「結婚できそうにない」理由をみると、「適当な相手に出会わないため」が最も多い(図Ⅱ-36)。「結婚できそうにない」理由に注目すると男女とも「異性とうまく付き合えないため」が多くなり、半数近くに達する。同じく、「結婚できそうにない」理由に、「結婚後の所得のため」と「非正規等による雇用の不安」を挙げる者が、男性では前者が24%、後者が12%に上る。

一方、女性では、「出産や子育てへの不安」を「結婚できそうにない」理由とする者が10%いることが注目される。また、女性では「仕事優先のため」とする者が26%に上り、男性の15%に比べて多い。

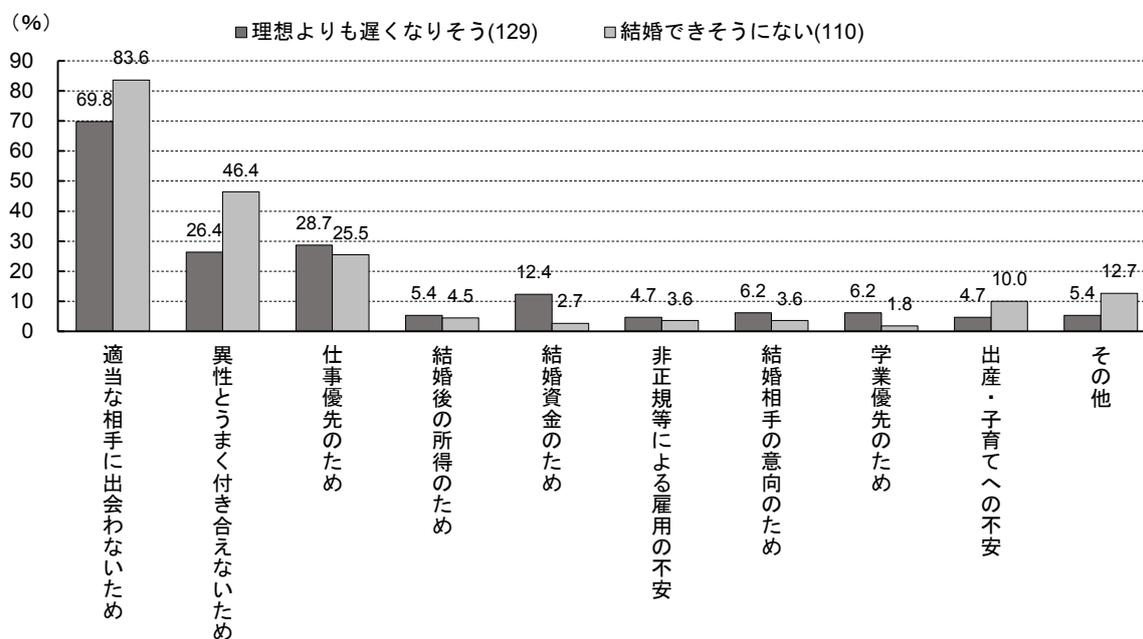
「結婚できそうにない」より「理想よりも遅くなりそう」の方で多くなる理由は、男性では「仕事優先のため」、女性では「結婚資金のため」などとなっている。

図Ⅱ-36 結婚見通し別にみた希望が実現しない理由(未婚者、複数)

(男性)



(女性)



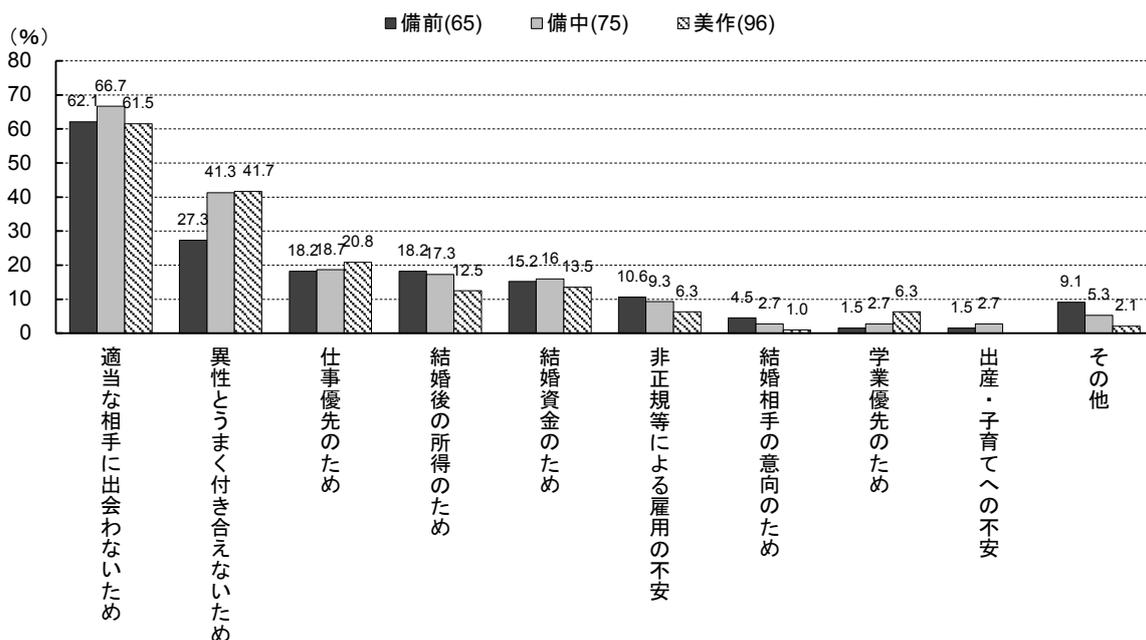
(県民局別の集計)

全体で最も回答が多い「適当な相手に出会わないため」や、三番目に回答が多い「仕事優先のため」は3地域でほとんど差がみられない(図Ⅱ-37)。

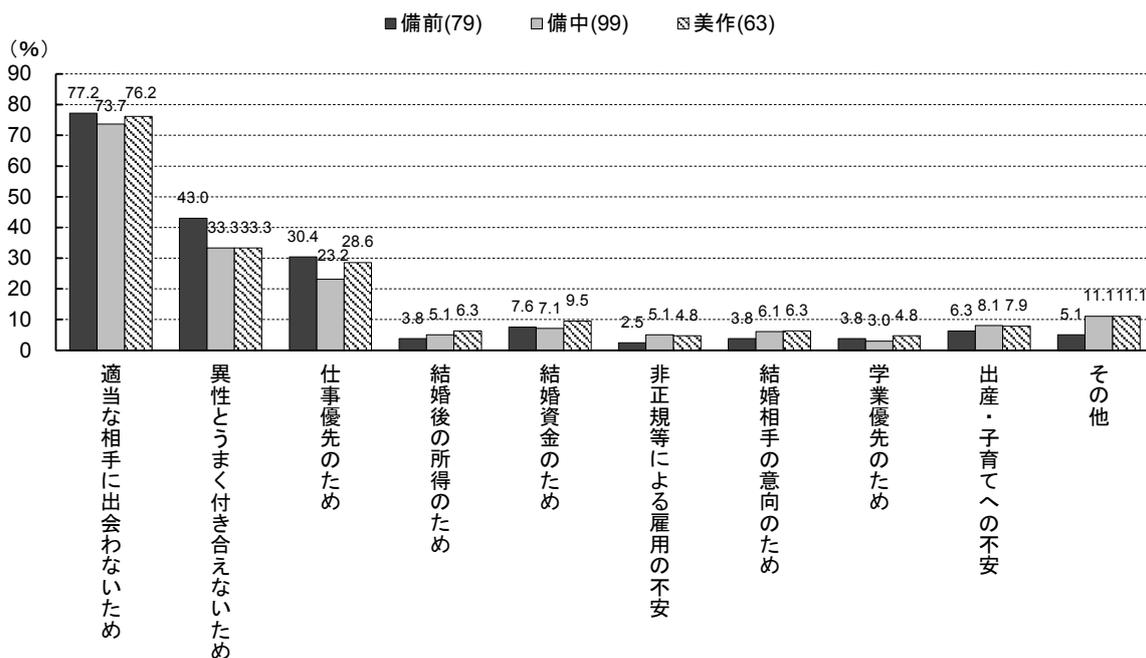
二番目に回答が多く、とりわけ「結婚できそうにない」者の回答が多かった「異性とうまく付き合えないため」は、男性で備中、美作の回答が備前を大きく上回り、反対に女性では備前の回答が他の二地域を上回るといった特徴がみられる。

図Ⅱ-37 県民局別にみた希望が実現しない理由(未婚者、複数)

(男性)



(女性)



②年齢

(理想年齢の実現期待は30歳代になると大幅減、結婚の実現期待は40歳代になると大幅減)

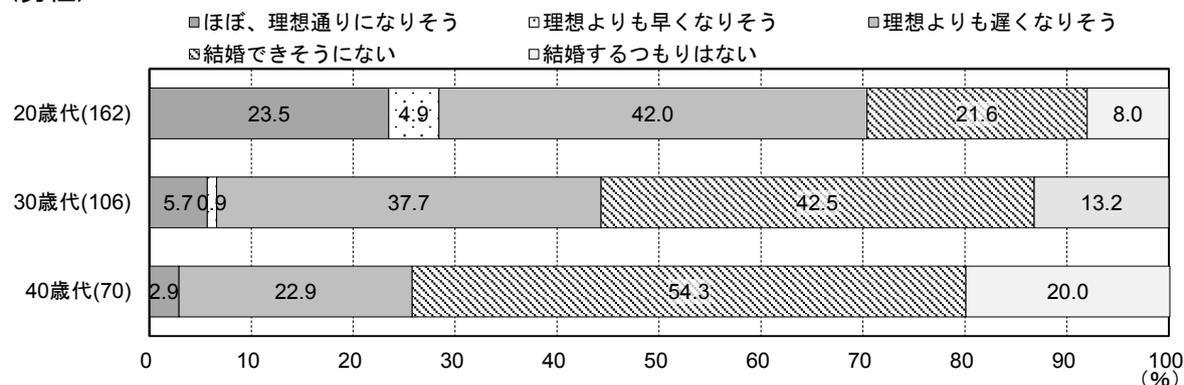
20歳代から30歳代にかけての変化の特徴は、男女とも「ほぼ、理想通りになりそう」が大きく減少することである(図Ⅱ-38)。「ほぼ、理想通りになりそう」は、男性では20歳代から30歳代にかけて24%から6%に変化する。女性では26%から5%へと減少する。

30歳代から40歳代にかけての変化は、「理想よりも遅くなりそう」が大きく減少することが特徴である。特に、女性では、30歳代は40%であるが、40歳代は9%である。この変化に伴って、「結婚できそうにない」「結婚するつもりはない」が大きく増加する。

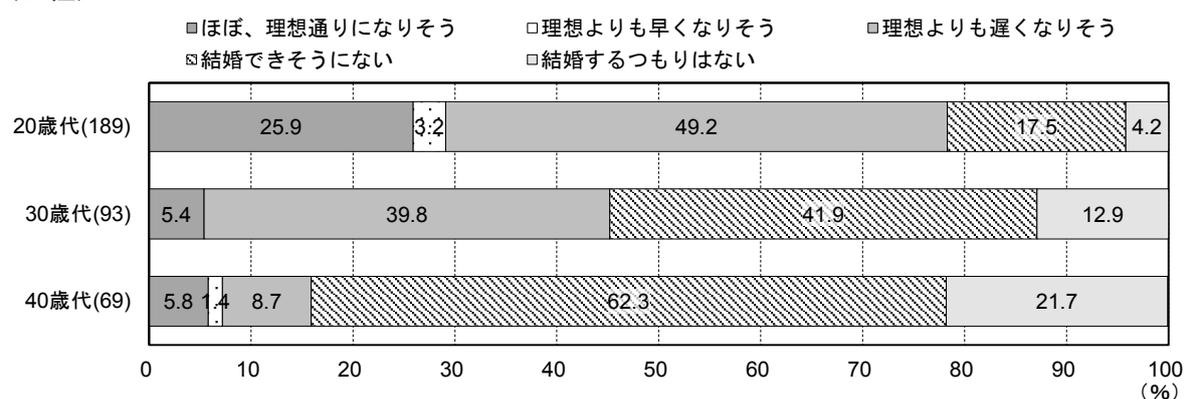
しかしながら、40歳代の結婚意欲をみると、「年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい」が大半を占めており、結婚意欲を失っていない者は多いとみられる(図Ⅱ-4)。

図Ⅱ-38 年齢階層別にみた結婚見通し(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



③交際状況

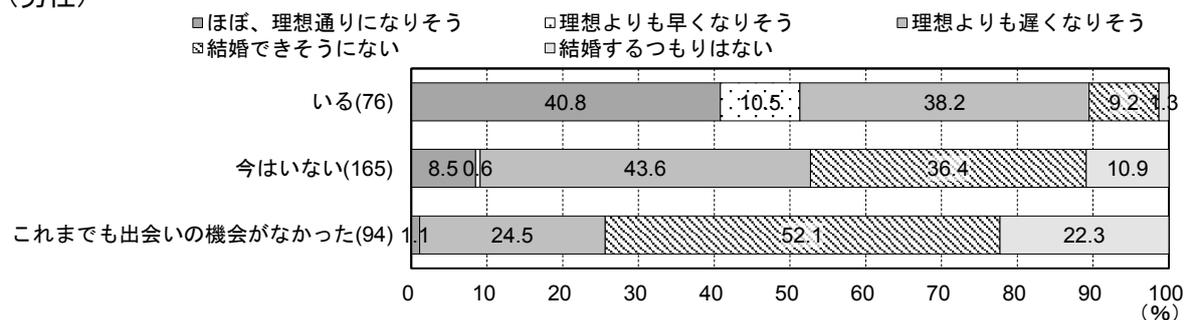
(交際経験は結婚見通しに対して極めて強い影響を及ぼす)

現在・過去の交際状況が結婚の見通しに強い影響を与えている(図Ⅱ-39)。とりわけ、男性の「結婚できそうにない」は、「これまで出会いの機会がなかった」の者では52%に達し、現在「いる」だけでなく「今はいない」と比較しても差が大きい。

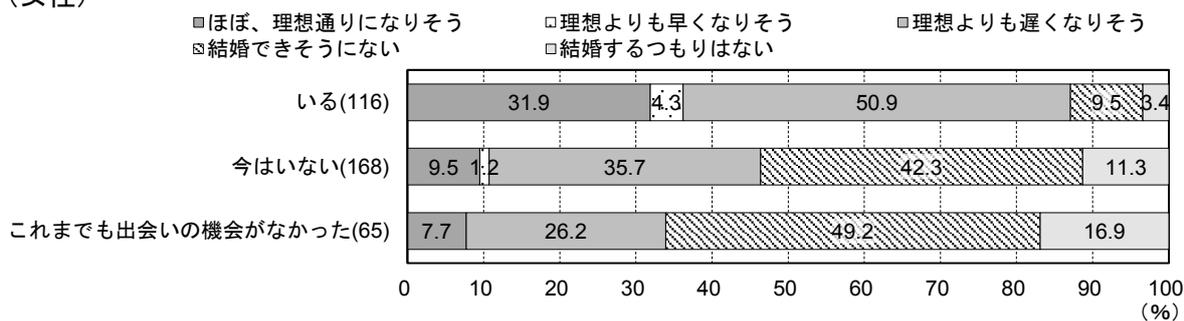
女性では、交際相手が「今はいない」で「結婚できそうにない」が42%に達し、男性に比べて厳しい捉え方をしている者が多い。

図Ⅱ-39 交際状況別にみた結婚見通し(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.4265	0.3271
P値	0.0000	0.0000

交際状況の「いる」「今はいない」を「交際経験あり」、「これまでも出会いの機会がなかった」を「交際経験なし」として二区分にした。結婚の見通しは、「ほぼ、理想通りになりそう」から「理想よりも遅くなりそう」までを「結婚」、残りを「非婚」とした。

その結果、「交際経験あり」では「交際経験なし」に比べて、男性では「結婚」の出現率が5.3倍となり、交際経験が結婚見通しに極めて強く影響している。また、女性でも3.3倍に達する(表Ⅱ-16)。

表Ⅱ-16 交際状況の結婚見通しに対する影響の強さ(未婚者)

(件、%、倍)

性別	交際経験：あり				交際経験：なし				オッズ比
	N	結婚	非婚	オッズ	N	結婚	非婚	オッズ	
男	241	64.3	35.7	1.80	94	25.5	74.5	0.34	5.26
女	284	63.0	37.0	1.70	65	33.8	66.2	0.51	3.33

④所得及び労働状態

i) 所得

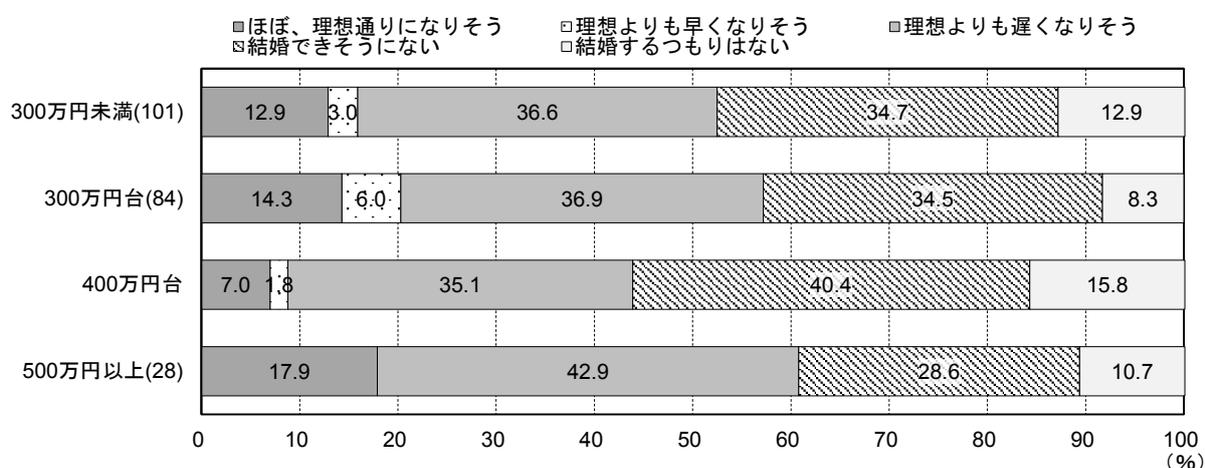
(所得別の結婚見通し)

結婚希望の実現見通しに対して所得が影響するかどうかみるため、所得(昨年の年収)別に、未婚者の結婚の見通しを把握した。

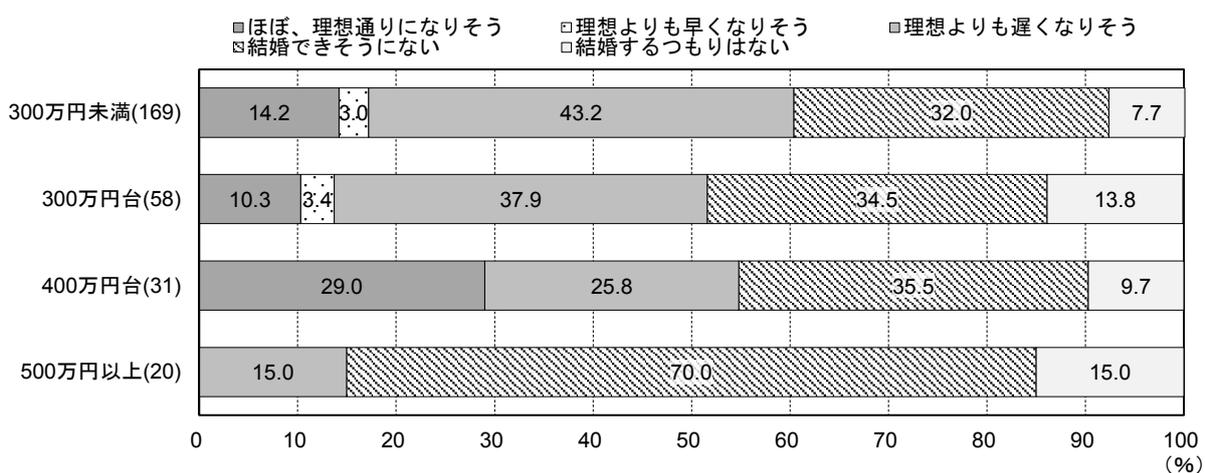
所得は、300万円未満、300万円台、400万円台、500万円以上の4区分としてクロス集計を行ったところ、男女とも、所得と結婚見通しの間で明確な関係は見い出しにくい(図Ⅱ-40)。

図Ⅱ-40 所得別にみた結婚見通し(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1359	0.1488
P値	0.1972	0.0558

ii) 所得の捉え方

(男性では所得が結婚見通しにかなり強く影響)

次に、「結婚からみた自分の所得の捉え方」と結婚見通しとの関係を見るため、まずサンプル数を考慮して次の通り選択肢をまとめた。

「結婚からみた自分の所得の捉え方」の選択肢のうち、自分の所得が結婚生活のため「十分である」と「不足しているかもしれないが支障はない」の二つを「現在の所得で結婚できる」とした。「やや不足している」「まったく不足している」を「現在の所得では結婚できない」として、「相手の所得しだいである」と「今は働いていないが結婚したら働きたい」は「その他」とした。

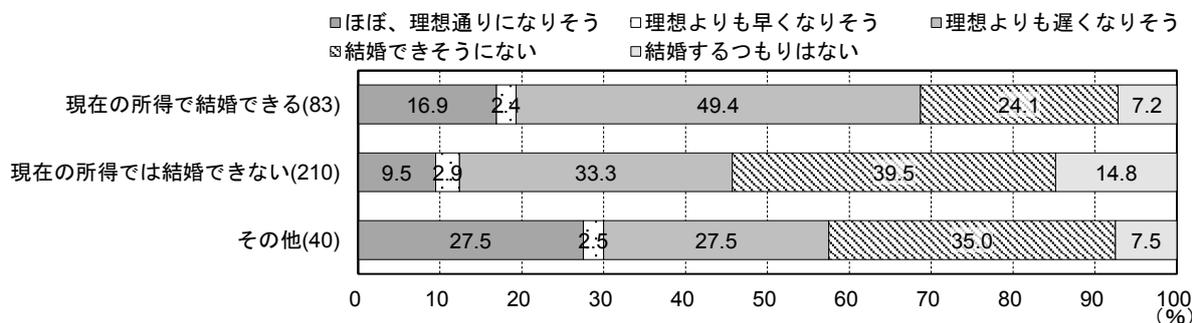
男性では、自分の所得について「現在の所得では結婚できない」と考える者は、結婚見通しについて「結婚できそうにない」が40%に達し、多くなっている(図Ⅱ-41)。また、「結婚するつもりはない」も15%に上る。

女性では、「現在の所得では結婚できない」と考える者は、結婚見通しについて「理想より遅くなりそう」が46%と多い。ただし、全体的には、男性ほど所得の捉え方と結婚見通しの間にはっきりした関係はみられない。

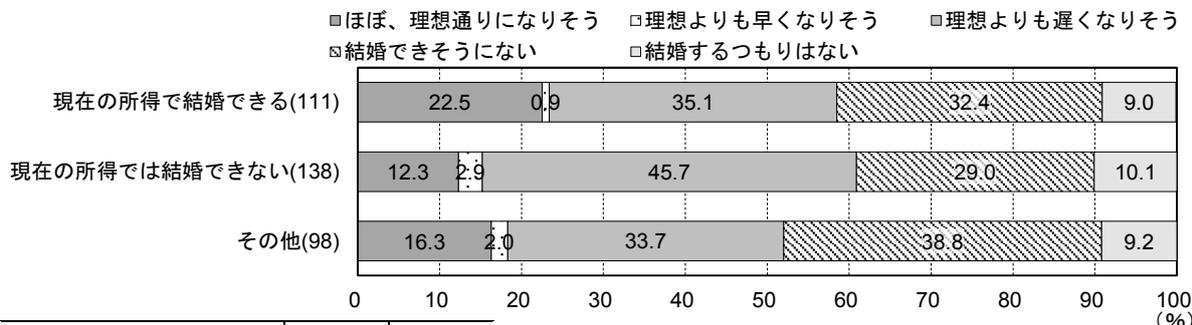
所得額そのものが結婚の見通しに直接影響を及ぼすというよりも、男女で影響の仕方は違って、所得の捉え方を介して未婚者の結婚見通しに影響を及ぼしていると考えられる。

図Ⅱ-41 所得の捉え方別にみた結婚見通し(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1811	0.1173
P値	0.0052	0.2980

所得の捉え方を「結婚できる」と「結婚できない」の二区分にすると、現在の所得で「結婚できる」であると、現在の所得で「結婚できない」に対して、結婚見通しの「結婚」の出現率が男性では2.6倍になる(表Ⅱ-17)。

表Ⅱ-17 所得の捉え方の結婚見通しに対する影響の強さ(未婚の就業者)
(件、%、倍)

性別	所得の捉え方：結婚できる				所得の捉え方：結婚できない				オッズ比
	N	結婚	非婚	オッズ	N	結婚	非婚	オッズ	
男	83	68.7	31.3	2.19	210	45.7	54.3	0.84	2.60
女	111	58.6	41.4	1.41	138	60.9	39.1	1.56	0.91

iii) 労働状態

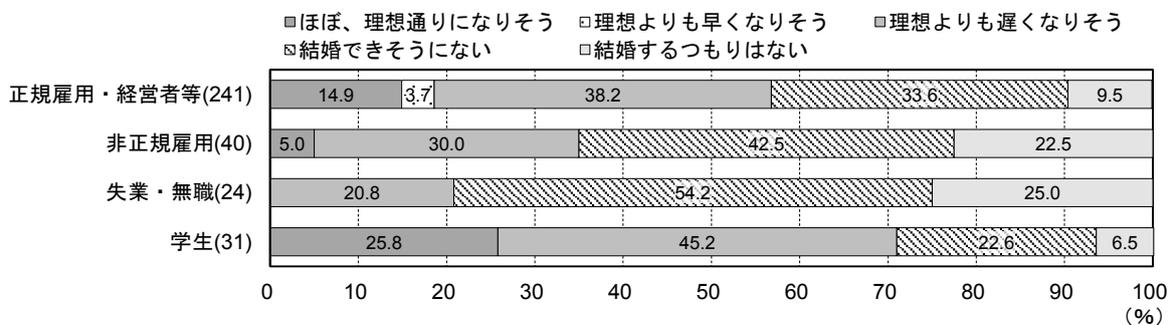
(正規・非正規の別は男女の結婚見通しに影響を与える)

「非正規雇用」はサンプル数が少ないことに注意が必要であるが、「正規雇用・経営者等」と結婚見通しを比較して、労働状況の結婚見通しに対する影響をみた。

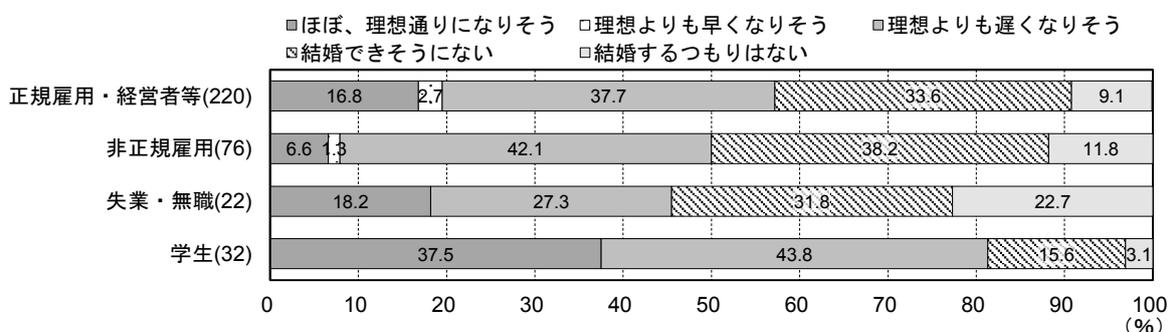
男性の「非正規雇用」では、「結婚できそうにない」「結婚するつもりはない」といった「非婚」につながる見通しをする者が65%を占める(図Ⅱ-42)。労働状態は女性にも影響を与えており、「非正規雇用」では、「正規雇用・経営者等」と比べて「理想通りになりそう」が減り、「理想よりも遅くなりそう」「結婚できそうにない」「結婚するつもりはない」が増加する。

図Ⅱ-42 労働状態別にみた結婚見通し(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1705	0.1551
P値	0.0036	0.0136

最終アウトカム関連の集計・分析

未婚の就業者を対象にして、労働状態のうち「正規雇用・経営者等」と「非正規雇用」の二つを対象にして結婚見通しに対する影響の強さを算出すると、男性では「正規雇用・経営者等」であると、「非正規雇用」に対して結婚見通しの「結婚」の出現率が2.5倍になる（表Ⅱ－18）。女性は1.3倍であり、弱い影響力が認められる。

表Ⅱ－18 労働状態の結婚見通しに対する影響の強さ（未婚の就業者）

(件、%、倍)

性別	労働状態：正規雇用・経営者等				労働状態：非正規雇用				オッズ比
	N	結婚	非婚	オッズ	N	結婚	非婚	オッズ	
男	241	56.8	43.2	1.32	40	35.0	65.0	0.54	2.45
女	220	57.3	42.7	1.34	76	50.0	50.0	1.00	1.34

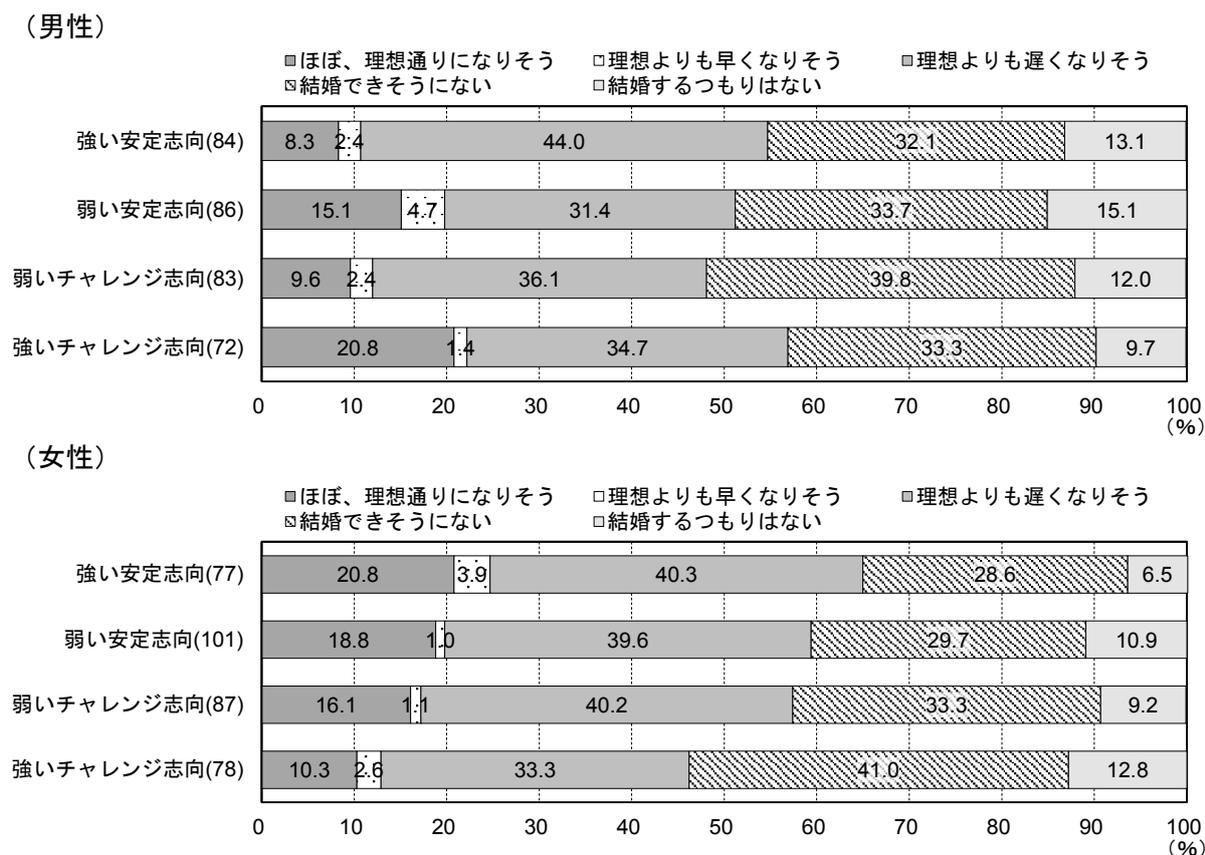
⑤ライフコース及びワーク・ライフ・バランス

i) ライフコースの志向性

(ライフコースの志向性は女性の結婚見通しに影響する)

「安定志向」か「チャレンジ志向」というライフコースの志向別に結婚見通しをみたところ、女性において、ライフコースの「チャレンジ志向」が強くなるほど、「理想通りになりそう」が減って「結婚できそうにない」が増加する傾向がみられる(図Ⅱ-43)。

図Ⅱ-43 ライフコースの志向別にみた結婚見通し(未婚者、単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1069	0.0988
P値	0.5167	0.6129

ライフコースの志向性を「安定」と「チャレンジ」に分けて結婚見通しに対する影響の強さを算出すると、女性では「チャレンジ」から「安定」になると「結婚」の見通しの出現率が1.5倍になる(表Ⅱ-19)。

表Ⅱ-19 ライフコースの志向性の結婚見通しに対する影響の強さ(未婚者)

(件、%、倍)

性別	ライフコースの志向性：安定			ライフコースの志向性：チャレンジ			オッズ比
	N	結婚	非婚	N	結婚	非婚	
男	170	52.9	47.1	155	52.3	47.7	1.03
女	178	61.8	38.2	165	52.1	47.9	1.49

ii) ワーク・ライフ・バランス

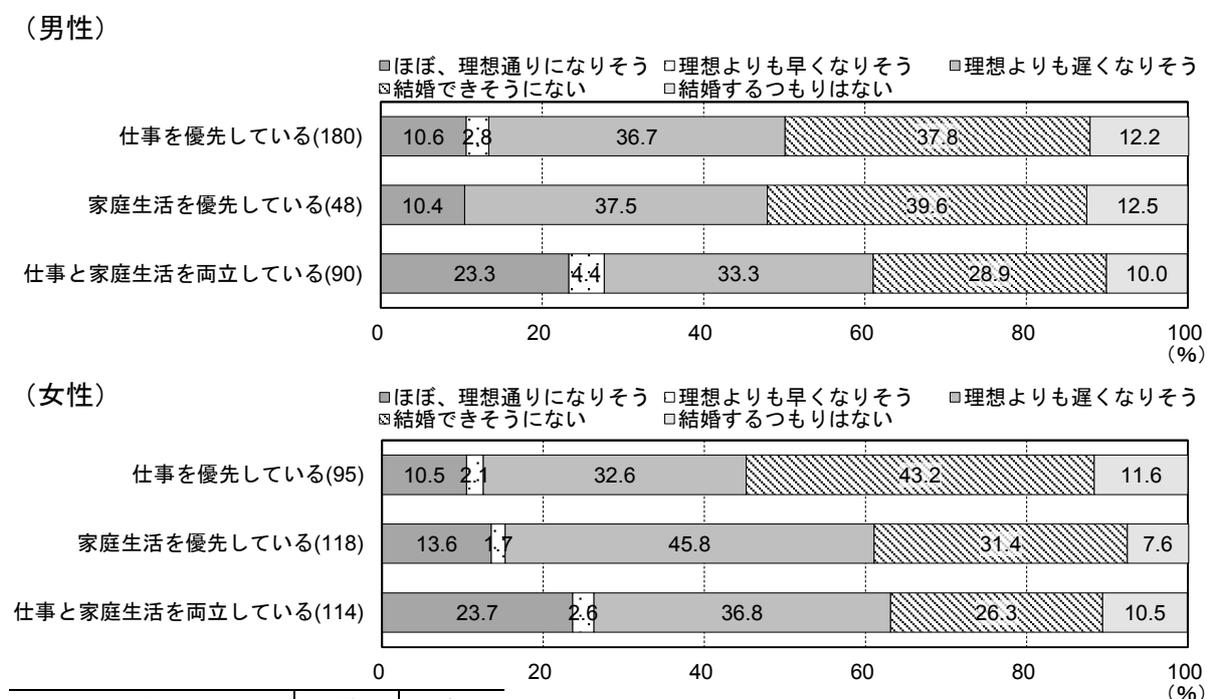
(結婚時のワーク・ライフ・バランスの予想が未婚者の結婚見通しに強い影響を与える)

ライフコースに関しては、希望するライフコースを実現していくための結婚生活におけるワーク・ライフ・バランスや結婚生活に配慮する職場環境が得られるかどうか、結婚の実現見通しに影響していることが考えられる。

そこで、結婚した場合には仕事と家庭生活のどちらを優先しているかというワーク・ライフ・バランス別に、未婚者の結婚見通しを集計した。

その結果、男性では、「仕事と家庭生活を両立している」と考える者では、結婚見通しが「理想通りになりそう」が他に比べ多く、「結婚できそうにない」が少なくなっている(図Ⅱ-44)。女性では、「仕事と家庭生活を両立している」とする者は、結婚見通しが「理想通りになりそう」が多く、「結婚できそうにない」とともに「理想よりも遅くなりそう」も少なくなる。

図Ⅱ-44 ワーク・ライフ・バランス別にみた結婚見通し(未婚者、単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1361	0.1496
P値	0.1611	0.0667

ワーク・ライフ・バランスの予想を、「仕事あるいは家庭生活優先」と「仕事と家庭生活の両立」に分けると、男性では「両立」であるとどちらかを優先するよりも「結婚」の見通しの出現率が1.6倍になる(表Ⅱ-20)。女性では1.5倍であった。

表Ⅱ-20 ワーク・ライフ・バランス(現実)の結婚見通しに対する影響の強さ(未婚者)
(件、%、倍)

性別	ワーク・ライフ・バランス： 仕事と家庭生活の両立			ワーク・ライフ・バランス： 仕事あるいは家庭生活優先			オッズ比
	N	結婚	非婚	N	結婚	非婚	
男	90	61.1	38.9	228	49.6	50.4	1.60
女	114	63.2	36.8	213	54.0	46.0	1.46

⑥妊娠・出産に関わる不安

(妊娠・出産に関わる不安は未婚時の結婚見通しに影響を及ぼす)

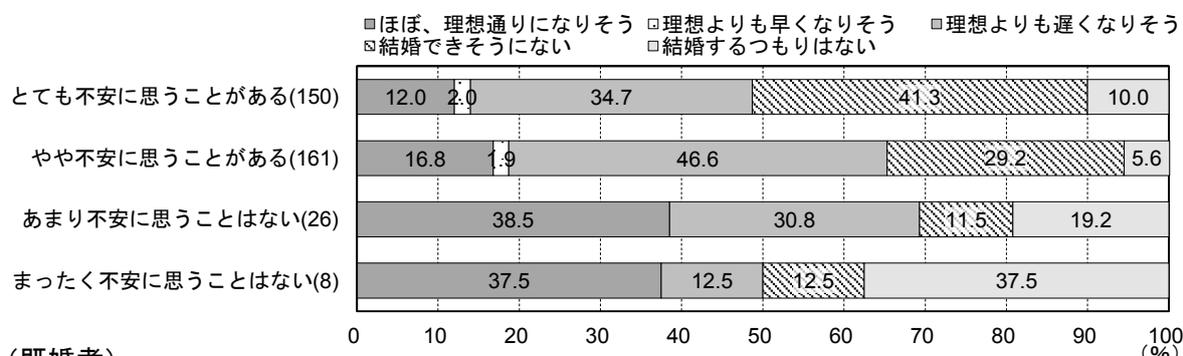
女性の未婚者・既婚者の両方に対して、妊娠・出産について不安に思うことがあるかを尋ねた。

女性の妊娠・出産に関わる不安と結婚の見通しとの関係を見ると、未婚者では、「とても不安に思うことがある」と「結婚できそうにない」が41%に達し、他に比べて回答が多い(図Ⅱ-45)。既婚者は、結婚前に「あまり不安はなかった」から「とても不安だった」にかけて徐々に「結婚できそうにない」と思っていた」が増加している。

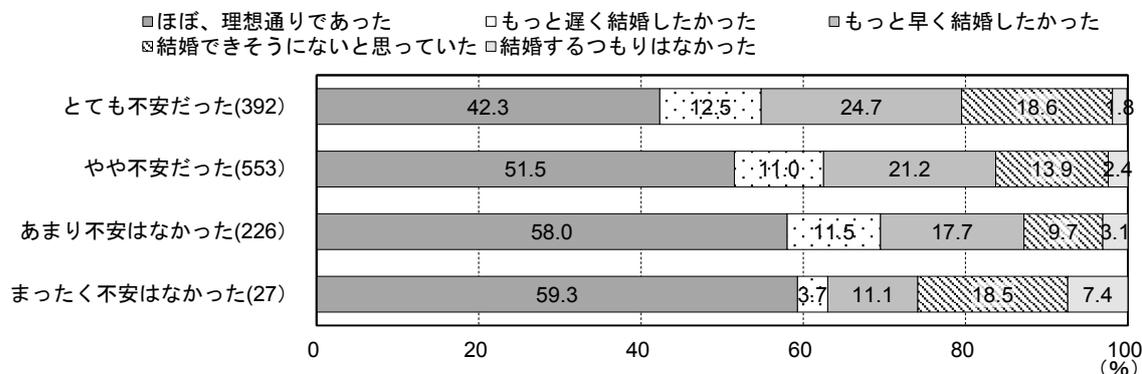
女性では、未婚時における妊娠・出産に関わる不安が、「結婚できそうにない」などの結婚の見通しに影響を与えていると考えられる。

図Ⅱ-45 妊娠・出産に関わる不安別にみた結婚の見通し(女性、単数)

(未婚者)



(既婚者)



項目	未婚者	既婚者
クラメールの連関係数	0.1906	0.0869
P値	0.0002	0.0074

妊娠・出産に関わる不安の有無により結婚見通しを算出すると、不安「なし」であると「あり」に対して「結婚」の見通しの出現率が未婚者で1.4倍、既婚者で1.3倍になる(表Ⅱ-21)。弱いながら結婚見通しに対する影響が認められる。

表Ⅱ-21 妊娠・出産に関わる不安の結婚見通しに対する影響の強さ(女性)

(件、%、倍)

性別	妊娠・出産に関わる不安：なし				妊娠・出産に関わる不安：あり				オッズ比
	N	結婚	非婚	オッズ	N	結婚	非婚	オッズ	
未婚者	34	64.7	35.3	1.83	311	57.2	42.8	1.34	1.37
既婚者	253	85.8	14.2	6.03	253	82.0	18.0	4.56	1.32

4. 理想の子ども数

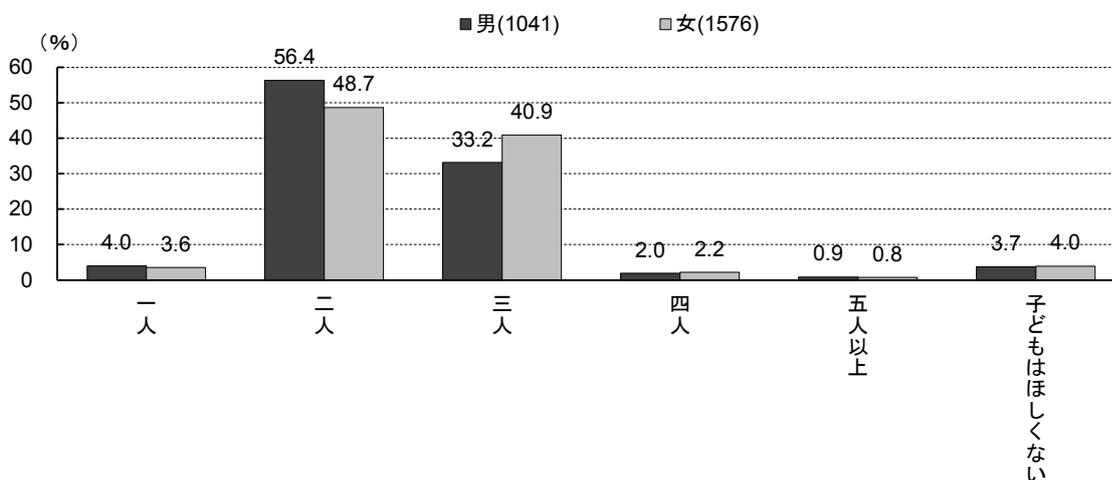
(1) 理想の子ども数

(理想の子ども数「二人」が約半数を占める)

すべての回答者を対象に理想の子ども数を集計すると「二人」が最も多く、男性で56%、女性で49%であった(図Ⅱ-46)。「三人」は「二人」を下回り、男性33%、女性41%である。「三人」は女性の方が男性より8ポイント多く、男女の違いが表れている。

「一人」は、男女とも4%に過ぎない。また、「子どもはほしくない」も男女とも4%であった。

図Ⅱ-46 理想の子ども数の分布(単数)



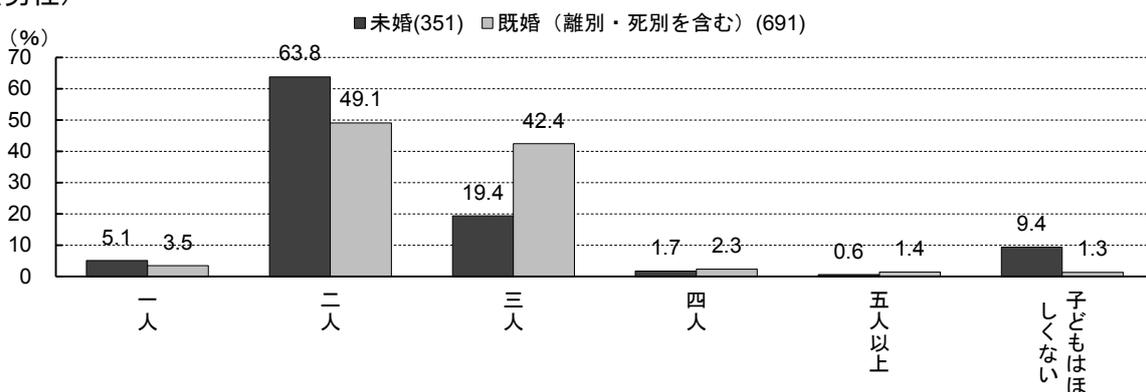
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

未婚者と既婚者(離別・死別を含む)に分けて理想の子ども数をみると、未婚者は既婚者に比べて「一人」「二人」が多く、「三人」以上が少ない傾向がみられる(図Ⅱ-47)。「三人」は、男性既婚者42%であるのに対して未婚者は19%であり、女性既婚者46%であるのに対して未婚者は28%となっている。

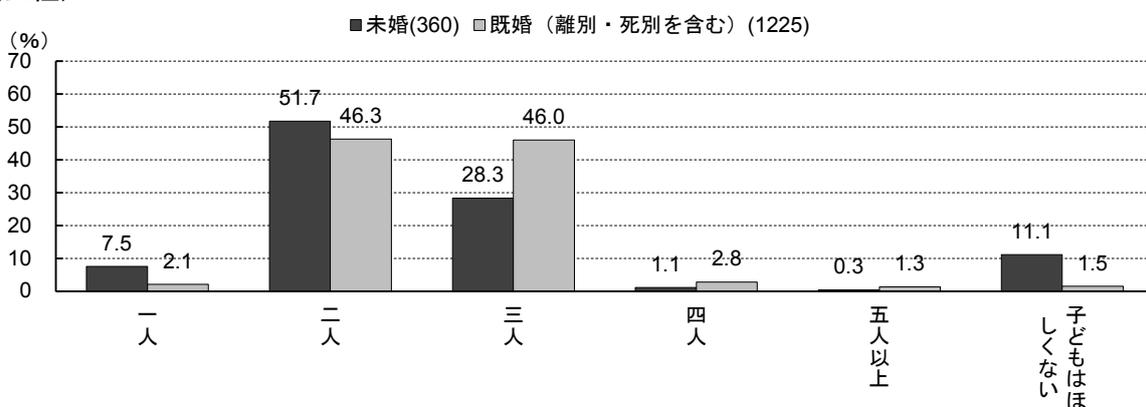
これらには、既婚者と未婚者の年齢の差異のほか、未婚者で「子どもがほしくない」(結婚を希望しない者を含む)が男女とも10%前後を占めることが影響していると考えられるが、未婚者を結婚意思の有無で分けた上で理想の子ども数をみると、結婚意思ありの者の理想の子ども数は未婚者の全体集計と大差がない(図Ⅱ-48)。

図Ⅱ-47 未婚・既婚別にみた理想の子ども数(単数)

(男性)

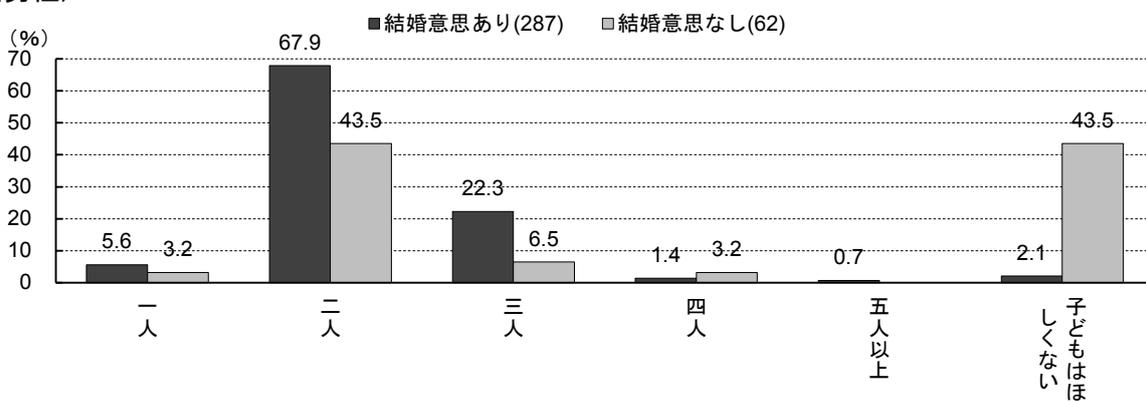


(女性)

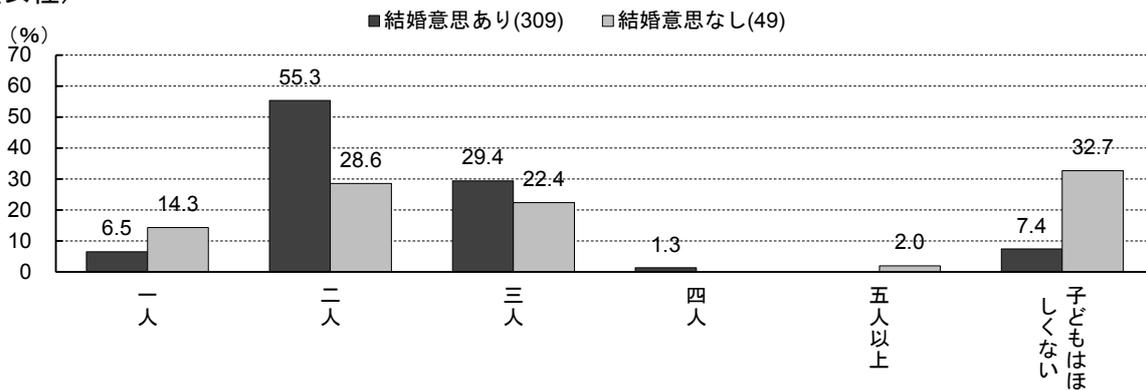


図Ⅱ-48 結婚意思別にみた理想の子ども数(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



(すべての者が結婚し、理想の子ども数を実現したときの出生率は2.3に達する)

わが国の場合、ほとんどの子どもは結婚したカップルから生まれるため、理想の子ども数の実現は結婚が前提になるものの、調査で得られた理想の子ども数だけにに基づき出生率を算出する(あるいはすべての男女が結婚すると仮定する)と、男性2.30、女性2.39となる(表Ⅱ-22)。回答者の理想の子ども数は人口置換水準(2.07)を上回る。

実際は、結婚を希望しない者、結婚希望や理想の子ども数を実現できない者がいるため現実の出生率は低下していく。したがって、人口置換水準を満たすためには、この理想の子ども数がさらに高い水準でなければならないという見方もできる。

また、未婚者の結婚意思ありの者を対象に、その理想の子ども数に基づく出生率を算出すると、男性2.17、女性2.11であり、人口置換水準を上回る(表Ⅱ-23)。

表Ⅱ-22 理想の子ども数に基づく出生率の算出

		(人、%)							
①	理想の子ども数	1	2	3	4	5	0	合計	
②	構成比	男性	4.0	54.0	34.6	2.1	1.1	4.1	100.0
		女性	3.3	47.5	42.0	2.4	1.1	3.7	100.0
③	①×②	男性	0.040	1.080	1.038	0.084	0.055	0	2.30
		女性	0.033	0.950	1.260	0.096	0.055	0	2.39

表Ⅱ-23 結婚意思ありの者の理想の子ども数に基づく出生率の算出(未婚者)

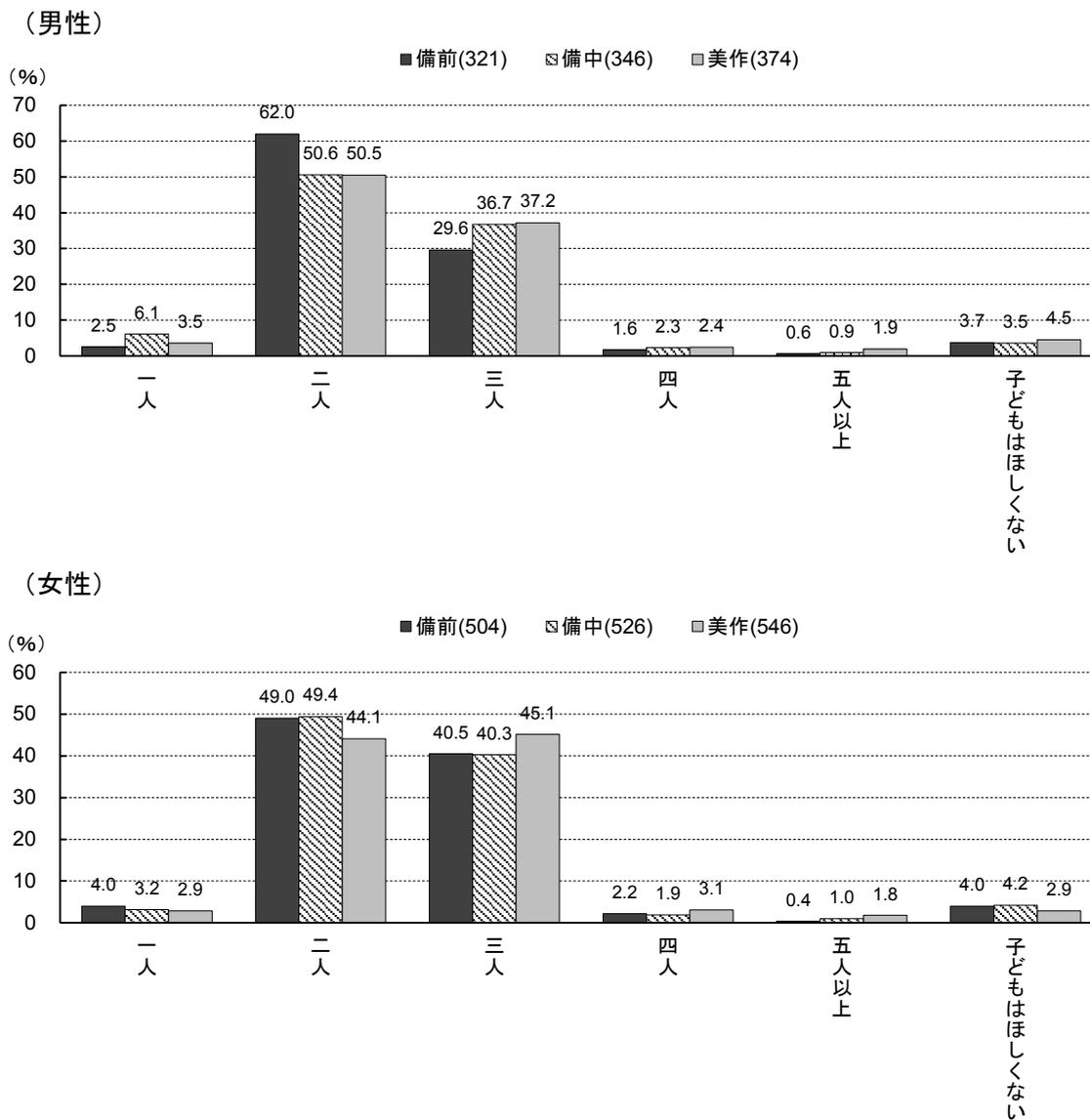
		(人、%)							
①	理想の子供数	1	2	3	4	5	0	合計	
②	構成比	男性	5.6	67.9	22.3	1.4	0.7	2.1	100.0
		女性	6.5	55.3	29.4	1.3	0.0	7.4	100.0
③	①×②	男性	0.056	1.358	0.669	0.056	0.035	0	2.17
		女性	0.065	1.106	0.882	0.052	0.000	0	2.11

(県民局別の集計)

県民局別で理想の子ども数を見ると、男性では、備前の「二人」が他地域に比べて多く、「三人」は少ない(図Ⅱ-49)。「二人」は他地域との差が10ポイントに上る。

女性では、美作が他地域に比べて「二人」が少なく、「三人」が多い。統計分析の結果をみるとサンプル数との関係で「違いがある」と認められるほどの大きさではないものの、他地域との間に約5ポイントの差が生じている。

図Ⅱ-49 県民局別にみた理想の子ども数(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0944	0.0640
P値	0.0465	0.2289

(2) 理想の子ども数に影響を及ぼす要因

①子どもがほしい・ほしくない理由

i) 子どもがほしいと思う理由

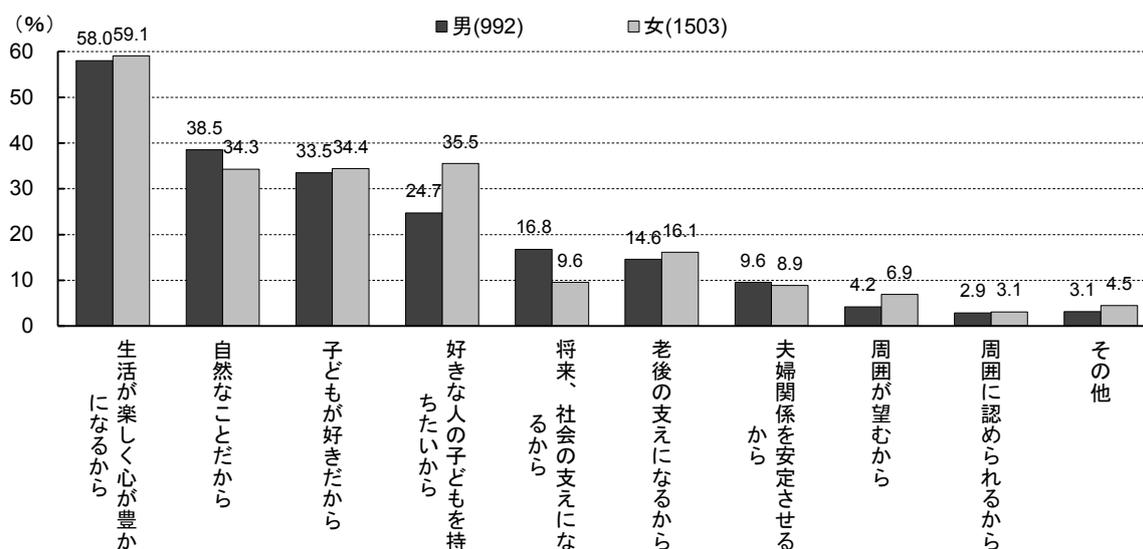
(最も多い理由は「生活が楽しく心が豊かになるから」)

理想の子ども数が一人以上の者を対象に子どもがほしいと思う理由を把握したところ、「生活が楽しく心が豊かになるから」が最も多く、男女とも60%近い(図Ⅱ-50)。

二番目に、男性では「自然なことだから」が39%(女性34%)と多いが、女性では「好きな人の子どもを持ちたいから」が36%(男性25%)と多くなっている。「子どもが好きだから」も男女とも30%を超え、回答が多い理由となっている。

これらの回答の多くは、子どもを持つことがもたらす幸福感を表していると考えられる。

図Ⅱ-50 子どもがほしいと思う理由(理想の子ども数が一人以上、複数)



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

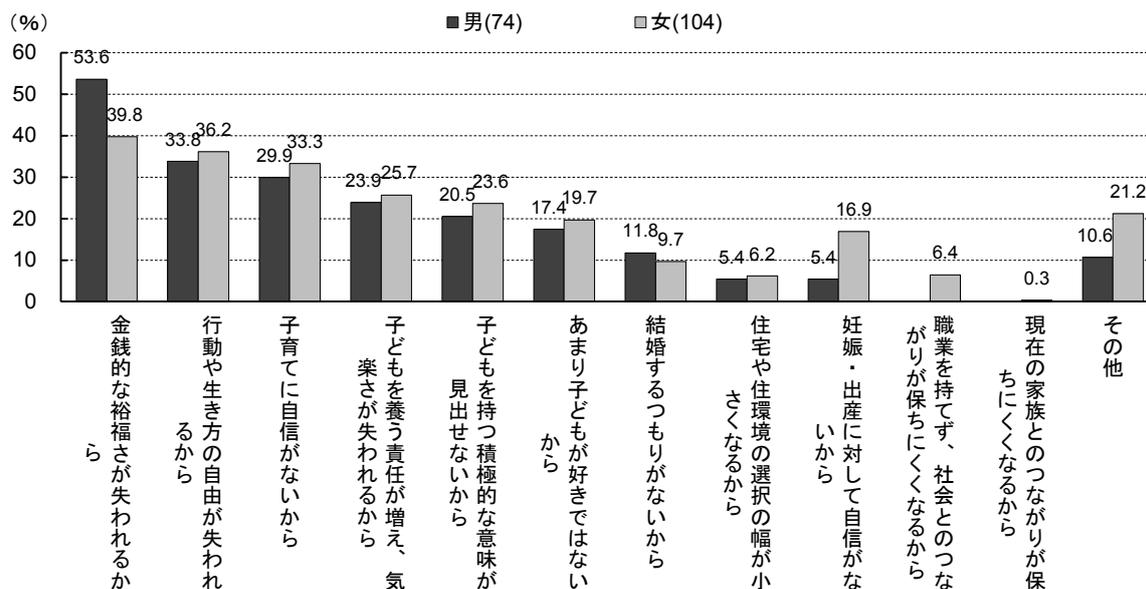
ii) 子どもがほしくない・ほしい子ども数が一人である理由

(「金銭的な裕福さが失われるから」が最も多い)

「子どもはほしくない」、あるいは理想の子ども数を「一人」と回答した者に、その理由を尋ねたところ、「金銭的な裕福さが失われるから」が男性54%、女性40%に上っている(図Ⅱ-51)。この他では、「行動や生き方の自由さが失われるから」「子育てに自信がないから」などの理由が多い。

理由の順位に男女で差はあまりみられないものの、全般にみて、男性は「金銭的な裕福さが失われるから」と他の理由との差が大きく、一方の女性の理由は男性に比べ多様である。特に、女性で「妊娠・出産に対して自信がないから」が17%に達していることは注目される。

図Ⅱ-51 子どもがほしくない・ほしい子ども数が一人である理由
(子どもがほしくない、もしくは理想の子ども数が一人、複数)



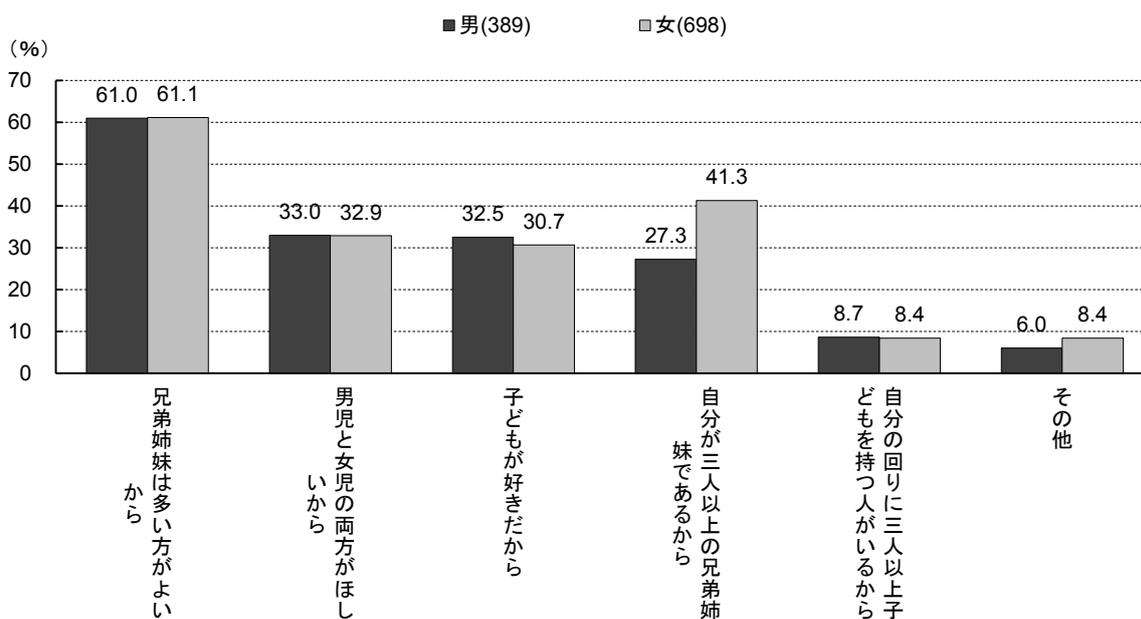
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

iii) 三人以上の子どもがほしいと思う理由

理想の子ども数を「三人」以上とした者の理由をみると、「兄弟姉妹は多い方がよいから」が男女とも60%に達する(図Ⅱ-52)。

自分の経験や他者からの影響を示す理由では、「自分が三人以上の兄弟姉妹であるから」が男性28%、女性41%であり、男女の違いが表れている。「自分の回りに三人以上子どもを持つ人がいるから」は男性9%、女性8%であった。

図Ⅱ-52 三人以上の子どもがほしい理由(理想の子ども数が三人以上、複数)



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

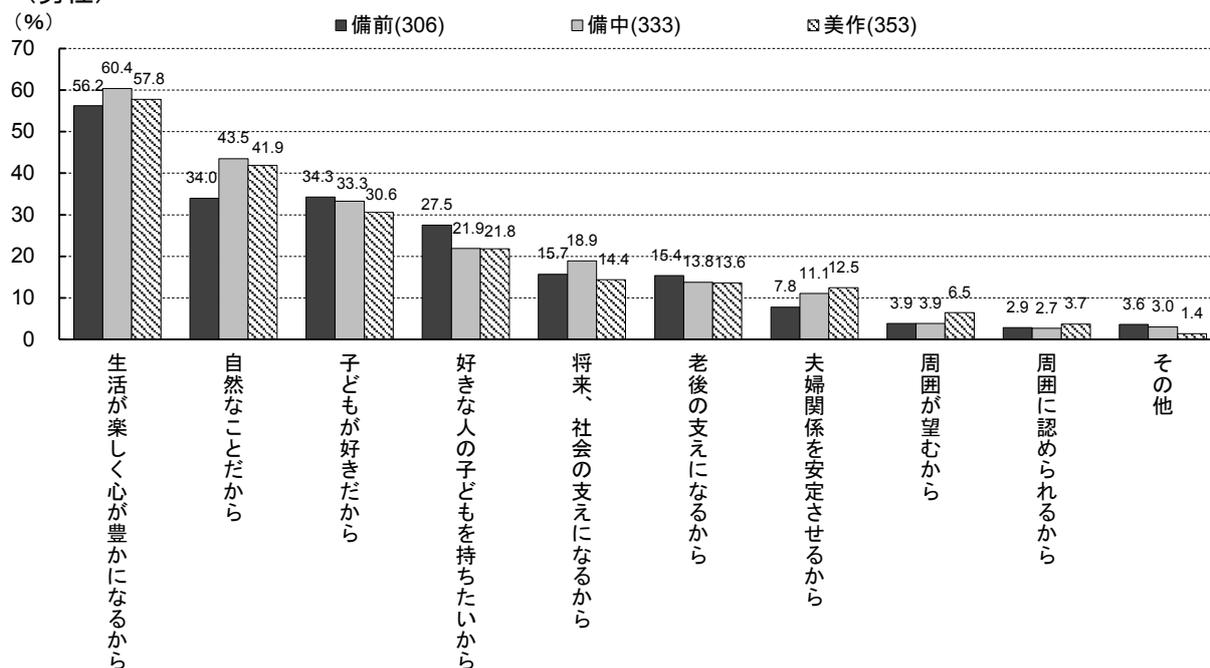
iv) 県民局別の集計

図Ⅱ－５３に県民局別に子どもをほしいと思う理由の集計を行った。備前の男性で「自然なことだから」が少ないなど所々に特徴がみられるが、全体として大きな差はみられない。

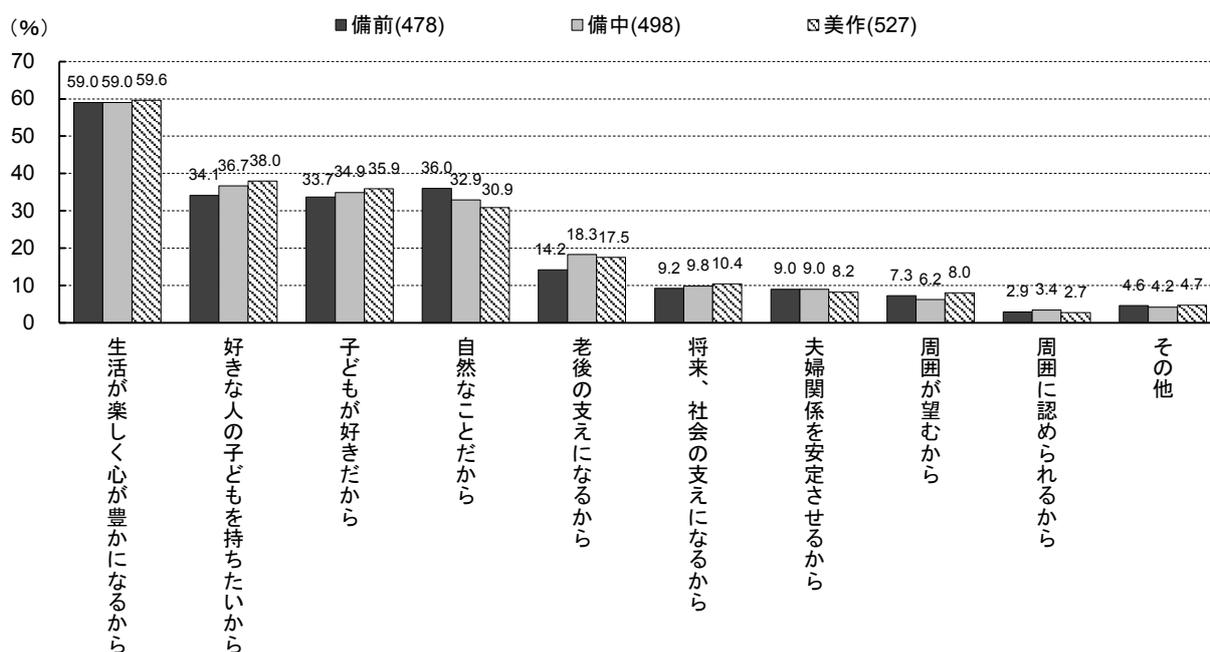
子どもがほしくない・ほしい子どもが一人である理由は県民局で大きな回答の差が生じているものの、サンプル数が小さく、どの理由の差も参考値として取り扱う必要がある（図Ⅱ－５４）。

三人以上の子どもがほしい理由は、男性では「自分が三人以上の兄弟姉妹であるから」、女性では「兄弟姉妹は多い方がよいから」の回答が美作で多くなっている（図Ⅱ－５５）。

図Ⅱ－５３ 県民局別にみた子どもをほしいと思う理由（理想の子ども数が一人以上、複数）
（男性）

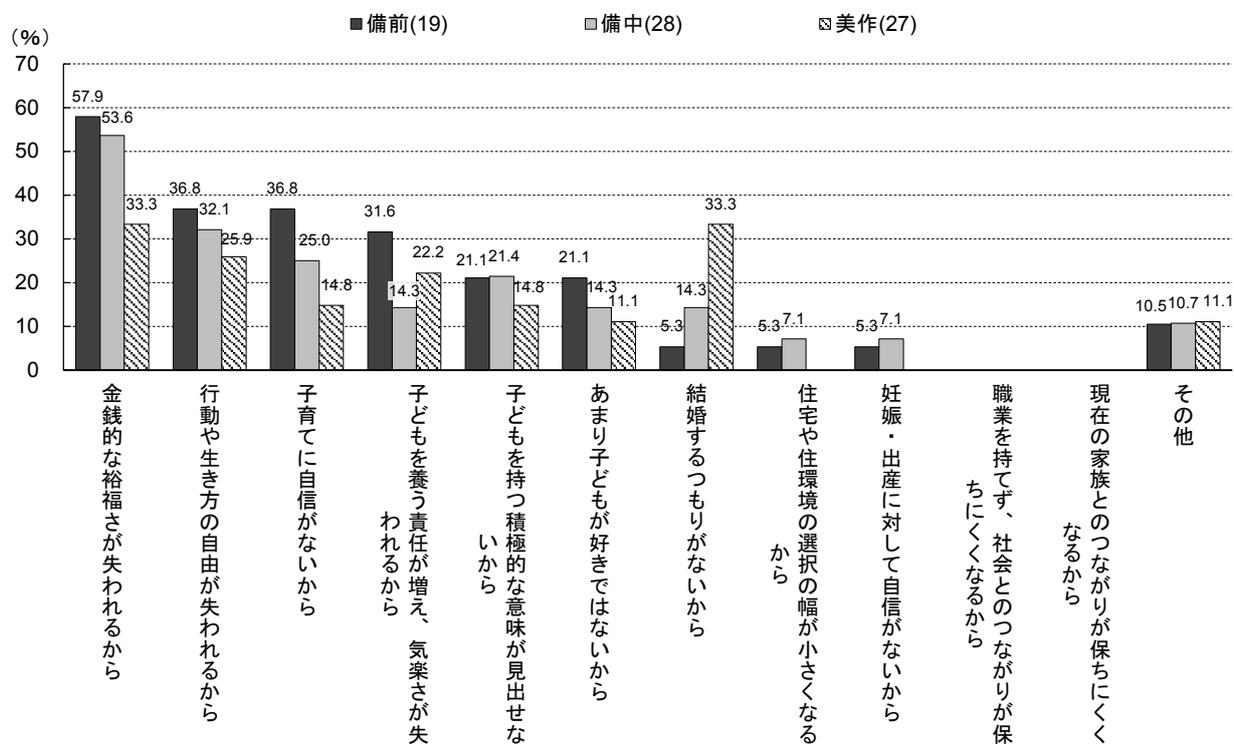


（女性）

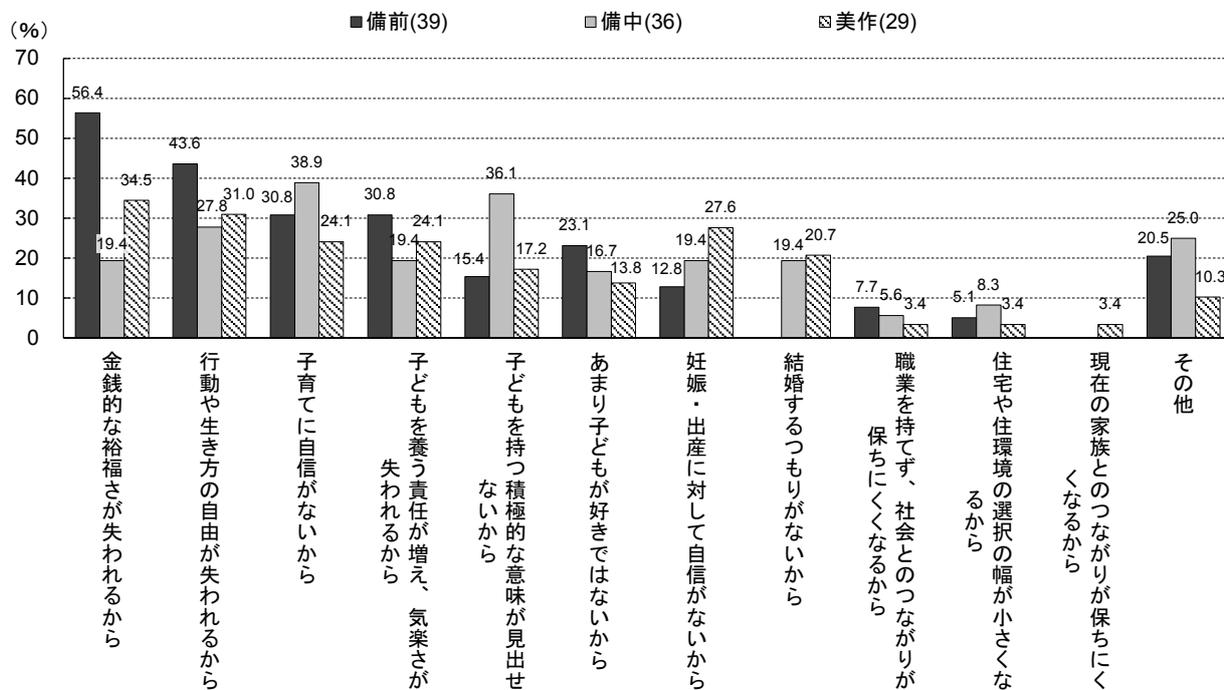


図Ⅱ-54 県民局別にみた子どもがほしくない・ほしい子ども数が一人である理由
(子どもがほしくない、もしくは理想の子ども数が一人、複数)

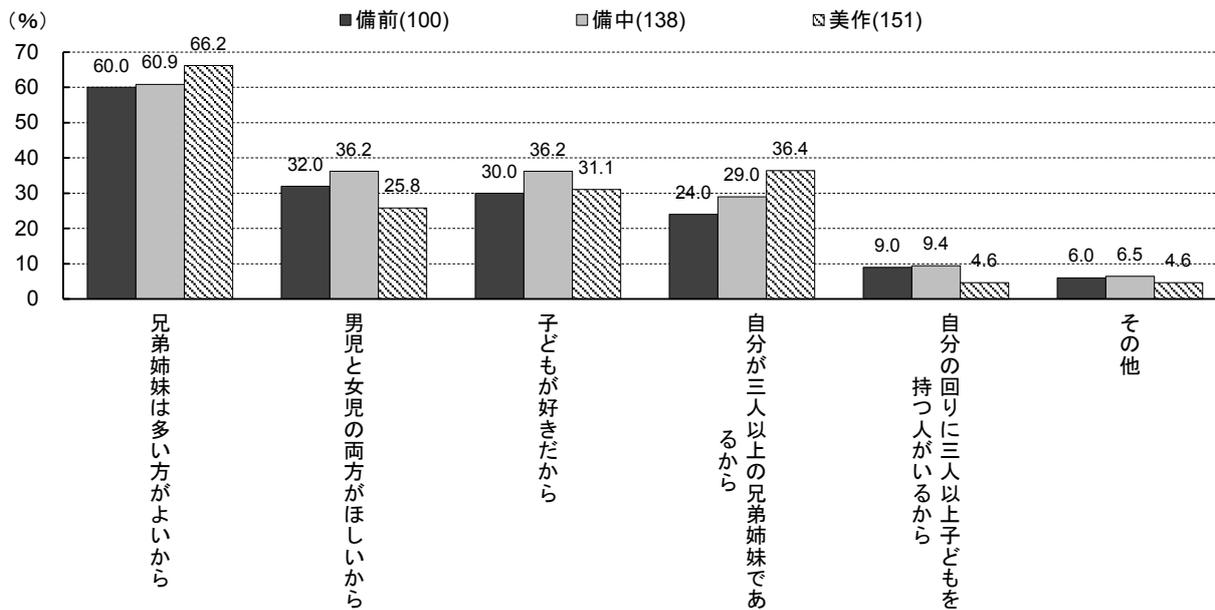
(男性)



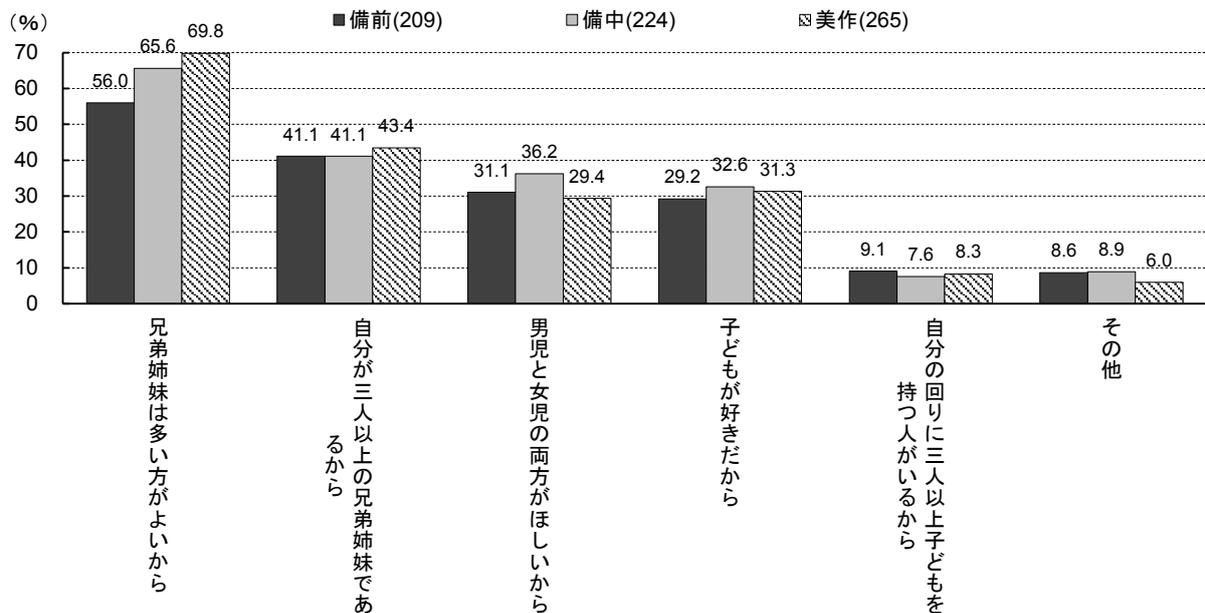
(女性)



図Ⅱ-55 三人以上の子どもがほしい理由（理想の子ども数が三人以上、複数）
（男性）



（女性）



②初婚年齢

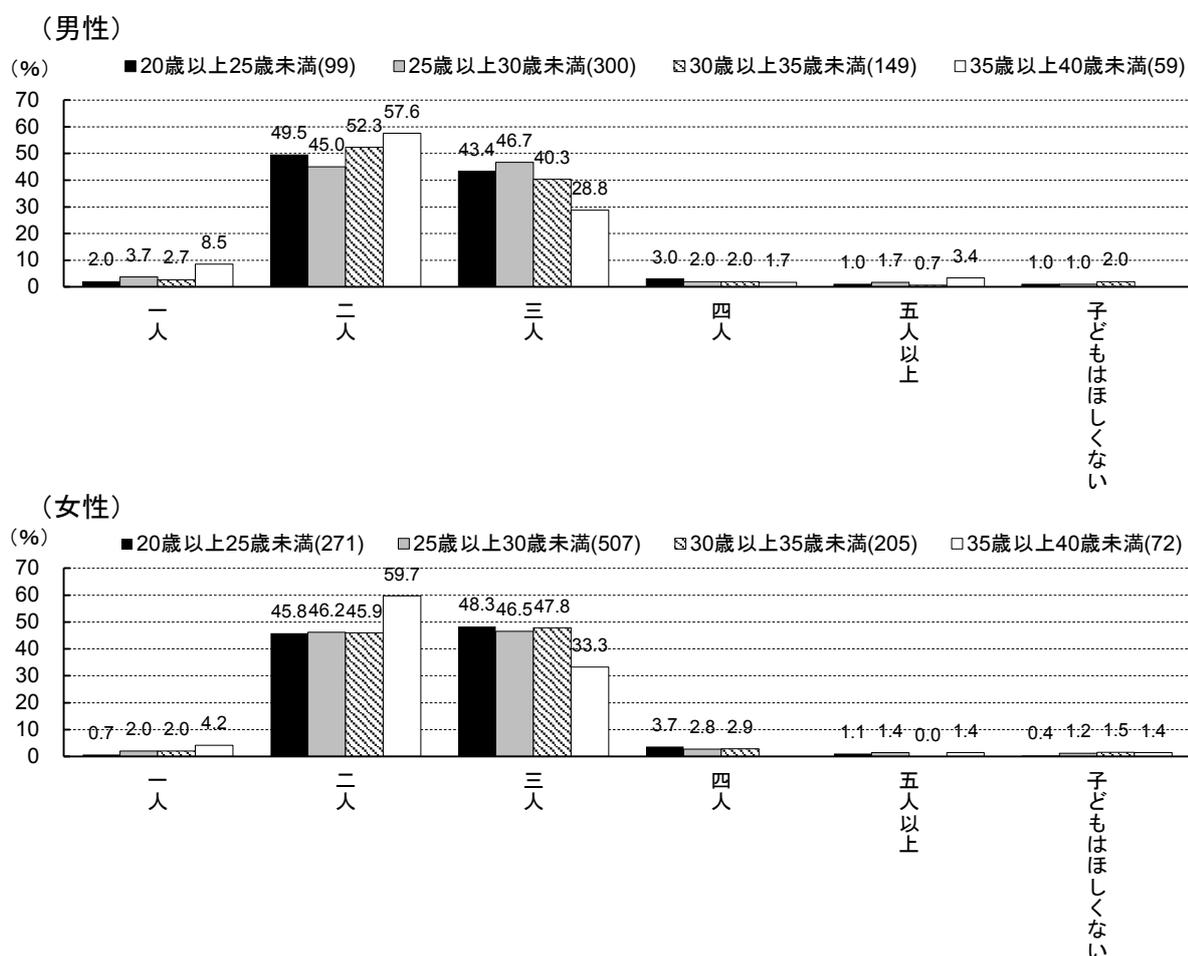
(結婚年齢は理想の子ども数に影響を及ぼす)

既婚者を対象に、初婚年齢と理想の子ども数との関係を見ると、男性では 30 歳以上になると「三人」が減少し、「二人」が増加するようになる(図Ⅱ-56)。

女性は、35 歳未満では「二人」と「三人」がほぼ同数であるが、35 歳以上になると「三人」が大きく減少し、反対に「二人」や「一人」が増加する。

男女とも結婚年齢が子ども数に理想レベルで影響しており、特に男性の方で関係がはっきり表れる。

図Ⅱ-56 初婚年齢別にみた理想の子ども数(既婚者、単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1052	0.0882
P値	0.0838	0.0164

③結婚意欲および結婚見通し

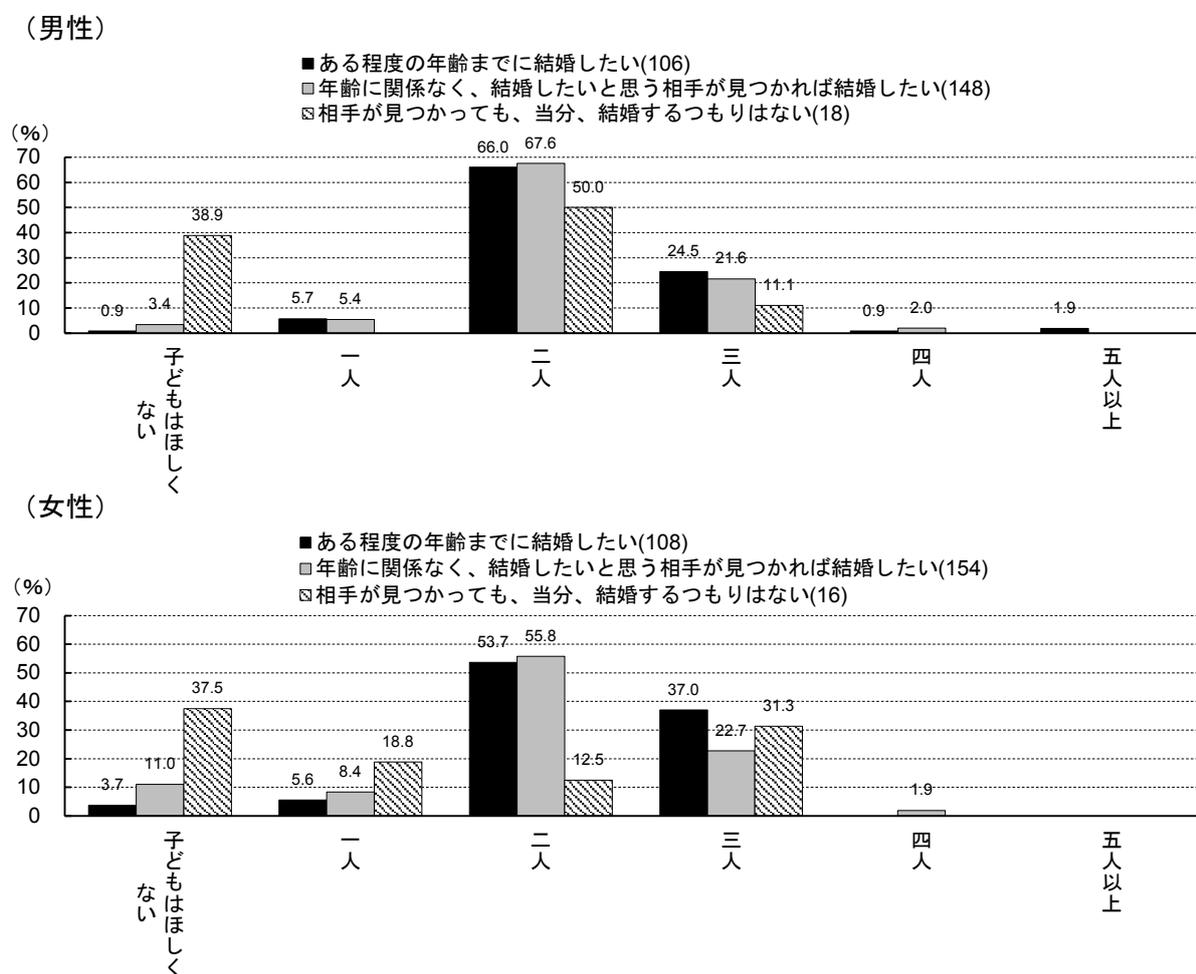
i) 結婚意欲

未婚者については結婚意欲別に理想の子ども数を集計した(図Ⅱ-57)。結婚意欲は、年齢志向と相手志向に「当分、結婚するつもりはない」を加えて3区分とした。

「当分、結婚するつもりはない」は、男女とも「子どもはほしくない」が多くて「三人」が少な
るなど、結婚意欲が理想の子ども数に大きく影響しているが、サンプル数が少ないため参考値で
ある。

注目されるのは、女性では、相手志向の「三人」は37%であるが、年齢志向では23%にとどま
り、大きな差異がみられることである。男性でも相手志向の「三人」は年齢志向よりも少ないが、
その差は小さい。

図Ⅱ-57 結婚意欲別にみた理想の子ども数(未婚者、単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2971	0.2053
P値	0.0000	0.0000

結婚意欲の理想の子ども数に対する影響の強さを測るため、年齢志向と相手志向で、理想の子ども数「三人以上」が現われる出現率を比較した(表Ⅱ-24)。結果、男性では相手志向に対する年齢志向の「三人以上」の出現率は1.1倍とほとんど変わらないが、女性では1.8倍と比較的強い影響力を示している。

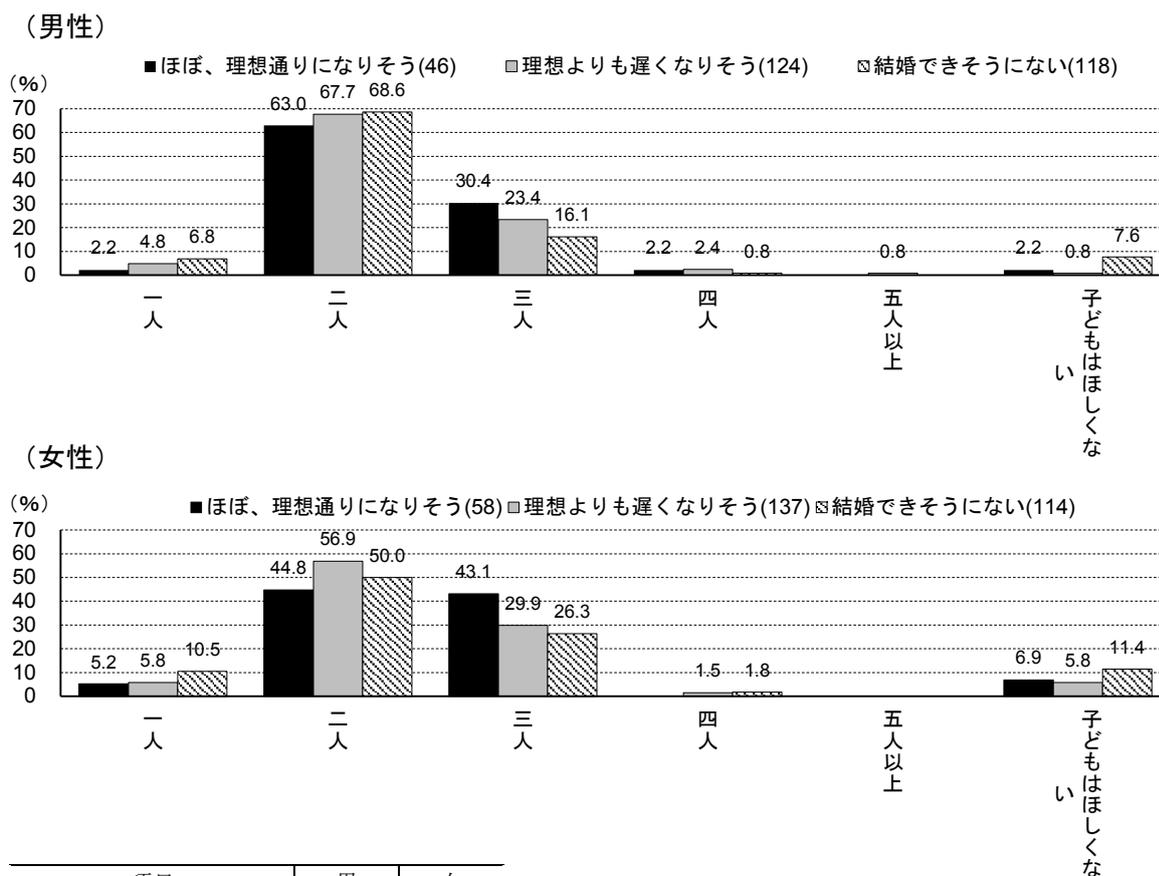
表Ⅱ-24 結婚意欲の理想の子ども数への影響の強さ

性別	結婚意欲：年齢志向				結婚意欲：相手志向				オッズ比
	N	三人以上	0～二人	オッズ	N	三人以上	0～二人	オッズ	
男	139	25.1	74.9	0.34	148	23.6	76.4	0.31	1.08
女	155	36.7	63.3	0.58	154	24.6	75.4	0.33	1.78

ii) 結婚見通し

未婚者の結婚見通しと理想の子ども数との関係をみると、男女とも「ほぼ、理想通りになりそう」「理想よりも遅くなりそう」「結婚できそうにない」の順で「三人」が減少していくことがわかる(図Ⅱ-58)。特に、男性の方で理想の子ども数との関係が明確に表れる。

図Ⅱ-58 結婚見通し別にみた理想の子ども数(未婚者、単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2810	0.1962
P値	0.0000	0.0001

結婚見通しは、「理想通り」に対して、「理想より遅くなりそう」と「結婚できそうにない」をまとめ、理想の子ども数「三人以上」の出現率を比較した（表Ⅱ－25）。

結果、男性は「理想通り」になると「三人以上」の出現率が1.7倍、女性では1.8倍で、ともにやや強い影響力を示している。

表Ⅱ－25 結婚見通しの理想の子ども数への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	結婚見通し：理想通り				結婚見通し： 理想より遅くなる・結婚できそうにない				オッズ比
	N	三人以上	0～二人	オッズ	N	三人以上	0～二人	オッズ	
男	46	32.6	67.4	0.48	242	21.9	78.1	0.28	1.72
女	58	43.1	56.9	0.76	251	29.9	70.1	0.43	1.78

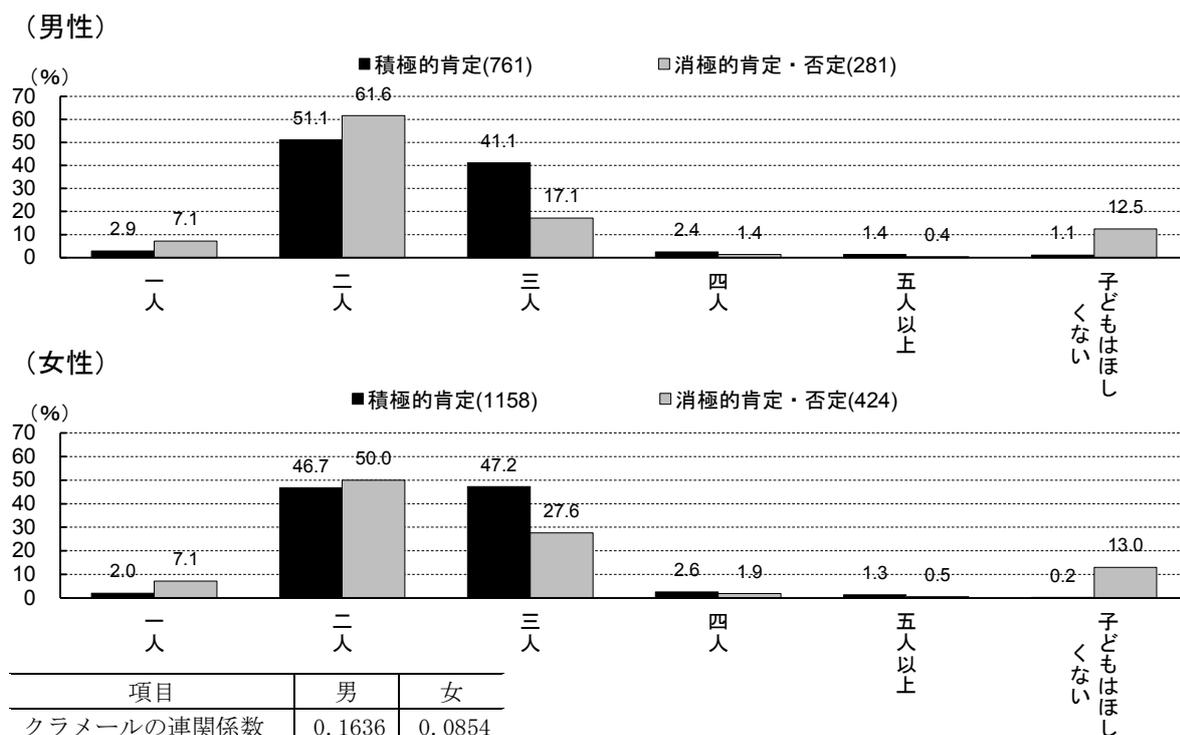
④子ども観及び子どもに対する感受性

i) 子ども観

(子ども観は男性の理想の子ども数に極めて強い影響を及ぼす)

子どもがほしいと思う理由は、男女とも「生活が楽しく心が豊かになるから」が最も多かった。そこで、「子どもがいたら生活が楽しくなる」という子ども観によって理想の子ども数にどのくらいの差が生じるかをみた。「子どもがいたら生活が楽しくなる」について「とてもそう思う」「そう思う」を「積極的肯定」、「どちらかと言えばそう思う」から「まったくそう思わない」までを「消極的肯定・否定」とすると、男女とも理想の子ども数の「三人」に大きな差が現れる（図Ⅱ－59）。特に、男性では、「三人」の「積極的肯定」と「消極的肯定・否定」の差は24ポイントに上る。

図Ⅱ－59 子ども観別にみた理想の子ども数（単数）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1636	0.0854
P値	0.0000	0.0007

子ども観の理想の子ども数への影響の強さをみるため、理想の子ども数を「三人以上」と「0～2人」に二区分すると、男性では、子ども観が「積極的肯定」であると、「消極的肯定・否定」に対して「三人以上」の出現率が3.5倍になる。女性では2.4倍である。特に、男性の理想の子ども数に対して子ども観は極めて強い影響力を持っている(表Ⅱ-26)。

表Ⅱ-26 子ども観の理想の子ども数への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	子ども観：積極的肯定				子ども観：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	三人以上	なし～二人	オッズ	N	三人以上	なし～二人	オッズ	
男	761	44.9	55.1	0.81	281	18.9	81.1	0.23	3.50
女	1158	51.1	48.9	1.04	424	30	70	0.43	2.44

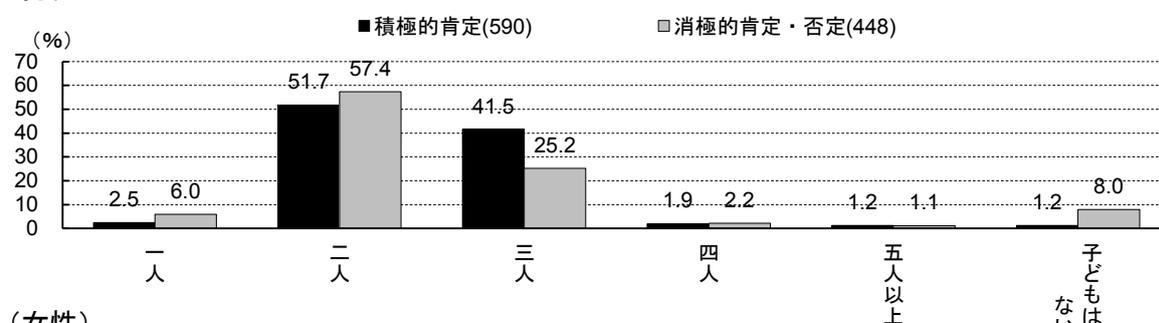
ii) 子どもに対する感受性

(子どもに対する感受性も男性の理想の子ども数に強い影響を及ぼす)

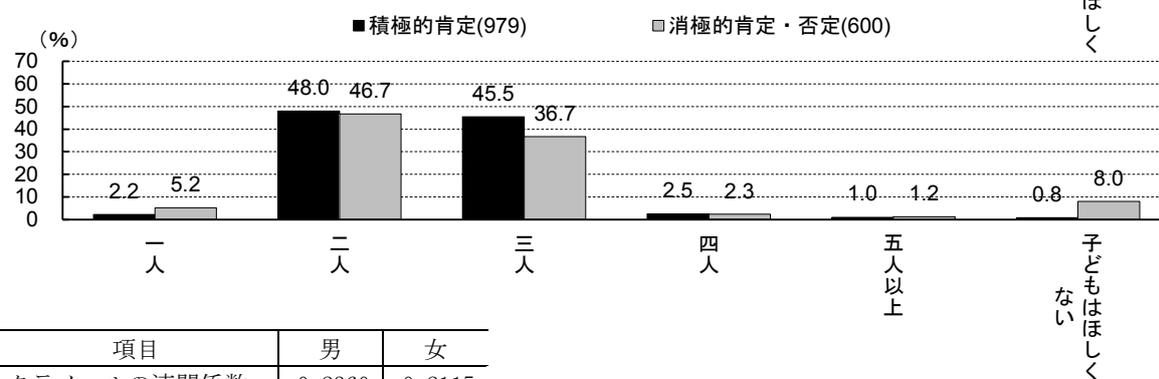
「小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う」という子どもに対する感受性の影響をみるため、子どもに対する感受性を「積極的肯定」と「消極的肯定・否定」に分け、理想の子ども数を集計すると、男性では「積極的肯定」と「消極的肯定・否定」では「三人」に16ポイントの差が生じる(図Ⅱ-60)。女性の「三人」における差は9ポイントであるが、女性はもともと「三人」の回答が多い。

図Ⅱ-60 子どもに対する感受性別にみた理想の子ども数(単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2360	0.2115
P値	0.0000	0.0000

子どもに対する感受性の理想の子ども数への影響の強さをみると、男性では、感受性が「積極的肯定」であると「消極的肯定・否定」に対して「三人以上」の出現率が2.0倍になる(表Ⅱ-27)。女性では1.4倍であり、男性の方が理想の子ども数に対してかなり強い影響が表れている。

表Ⅱ-27 子どもに対する感受性の理想の子ども数への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	子どもに対する感受性：積極的肯定				子どもに対する感受性：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	三人以上	なし~二人	オッズ	N	三人以上	なし~二人	オッズ	
男	590	44.6	55.4	0.81	448	28.6	71.4	0.40	2.01
女	979	48.9	51.1	0.96	600	40.2	59.8	0.67	1.42

iii) 多子経験

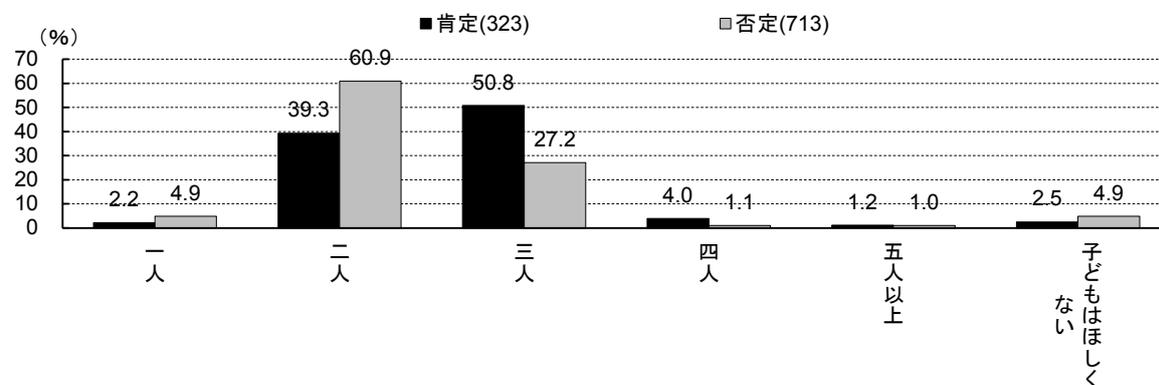
(多子経験は男性の理想の子ども数に極めて強い影響を及ぼす)

調査では、出生が他者の行動の影響を受けるかどうか把握するため「身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多かった」かを尋ねた。この質問を「多子経験」と言い表し、「とてもそう思う」から「どちらかと言えばそう思う」を「肯定」、「どちらかと言えばそう思わない」から「まったくそう思わない」を否定としてまとめ、理想の子ども数との関係をみた(図Ⅱ-61)。

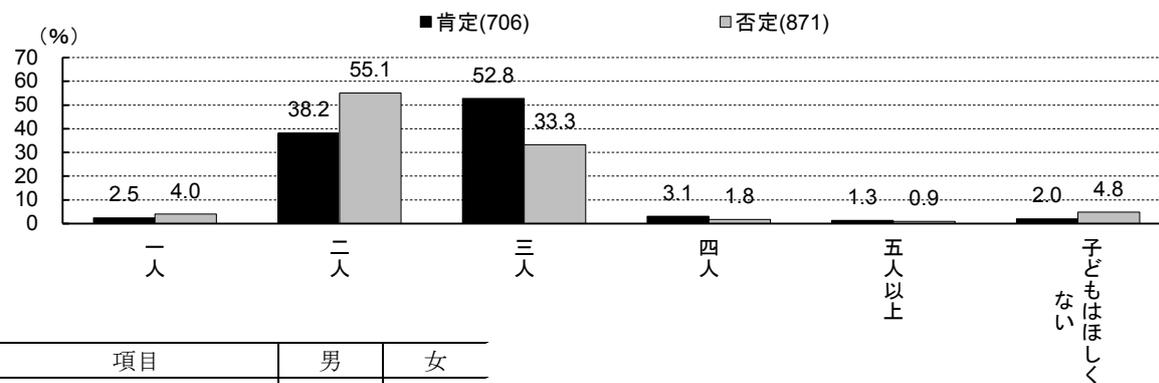
結果、男性では「肯定」であると「三人」が51%に達し、「否定」との差は24ポイントと大きい。女性も「肯定」では「三人」が53%に達し、「否定」との差は20ポイントになる。

図Ⅱ-61 多子経験別にみた理想の子ども数(単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2626	0.2154
P値	0.0000	0.0007

多子経験が理想の子ども数に及ぼす影響力は、男性では「肯定」であると「否定」に対して「三人以上」の出現率が3.1倍になる(表Ⅱ-28)。女性も2.4倍になる。

表Ⅱ-28 多子経験の理想の子ども数への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	多子経験：肯定				多子経験：否定				オッズ比
	N	三人以上	なし～二人	オッズ	N	三人以上	なし～二人	オッズ	
男	323	56	44	1.27	713	29.3	70.7	0.41	3.07
女	706	57.2	42.8	1.34	871	36.1	63.9	0.56	2.37

⑤所得および労働状態

i) 所得

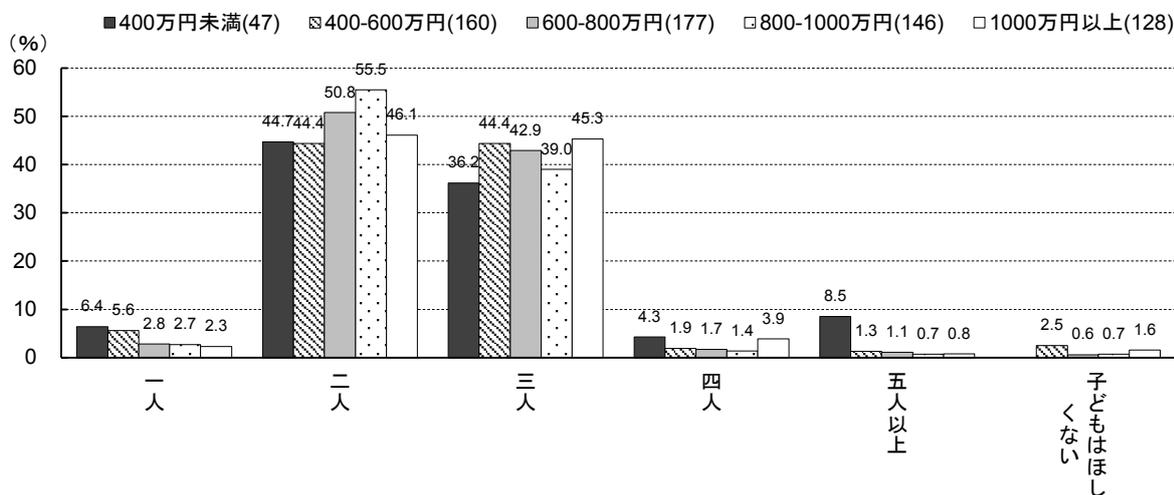
(夫婦の年収合計)

所得が理想の子ども数に与える影響を把握するため、有配偶者を対象に、夫婦の年収合計と男性（夫）・女性（妻）の理想の子ども数との関係を把握した。

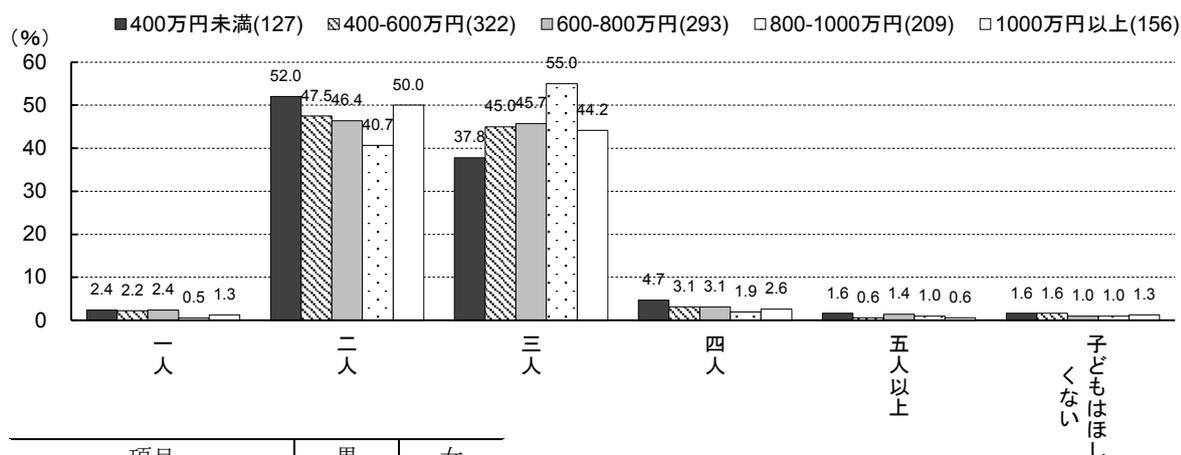
男性では、特に年収と理想の子ども数との間に関係性が示されていない（図Ⅱ－6 2）。女性でも、800-1000万円まで年収が増加するにつれ「二人」が減って「三人」が増加している。しかし、全体として、夫婦の年収合計と理想の子ども数との間に明確な関係は見出しにくい。

図Ⅱ－6 2 夫婦の年収合計別にみた理想の子ども数（有配偶者、単数）

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1088	0.0603
P値	0.0531	0.7111

(共働き)

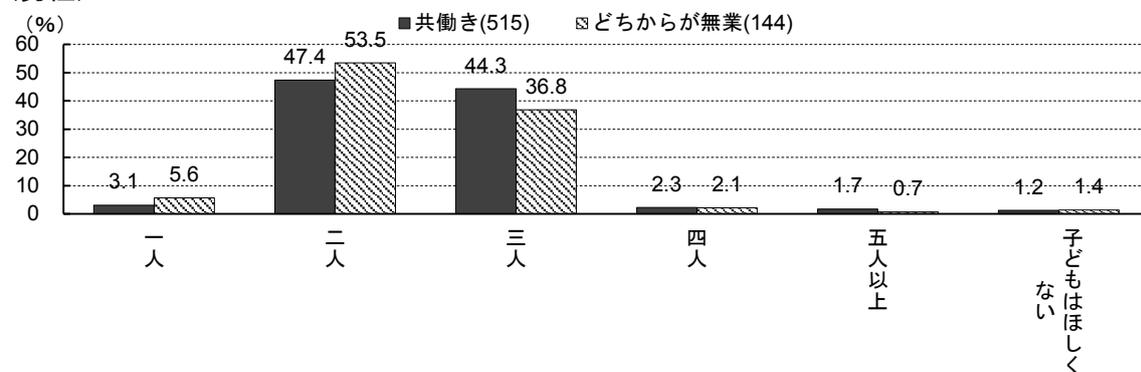
夫婦が共働きかどうかは夫婦の労働状態を表わすが、ここでは夫婦で所得を得ているという点で所得指標の一つとして取り扱った。

男性の「共働き」では「二人」が47%、「三人」が44%である(図Ⅱ-63)。「どちらかが無業」の場合、「二人」が55%に増加し、「三人」が37%に減少する。女性では、「共働き」であると「二人」が45%、「三人」が47%である。「どちらかが無業」では「二人」が50%に増加し、「三人」が43%に減少する。

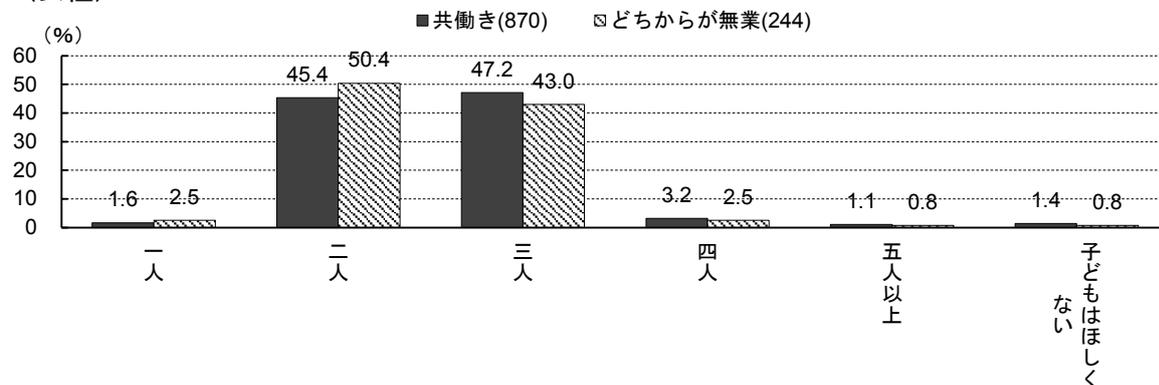
共働きかどうか理想の子ども数に与える影響の強さをみると、「共働き」であると「どちらかが無業」である夫婦に対して「三人以上」の出現率は、男性で1.4倍、女性で1.2倍となる(表Ⅱ-29)。男性では、やや強い影響力が表れた。

図Ⅱ-63 夫婦の労働状態別にみた理想の子ども数(有配偶者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1635	0.1584
P値	0.0000	0.0000

表Ⅱ-29 共働きの理想の子ども数への影響の強さ

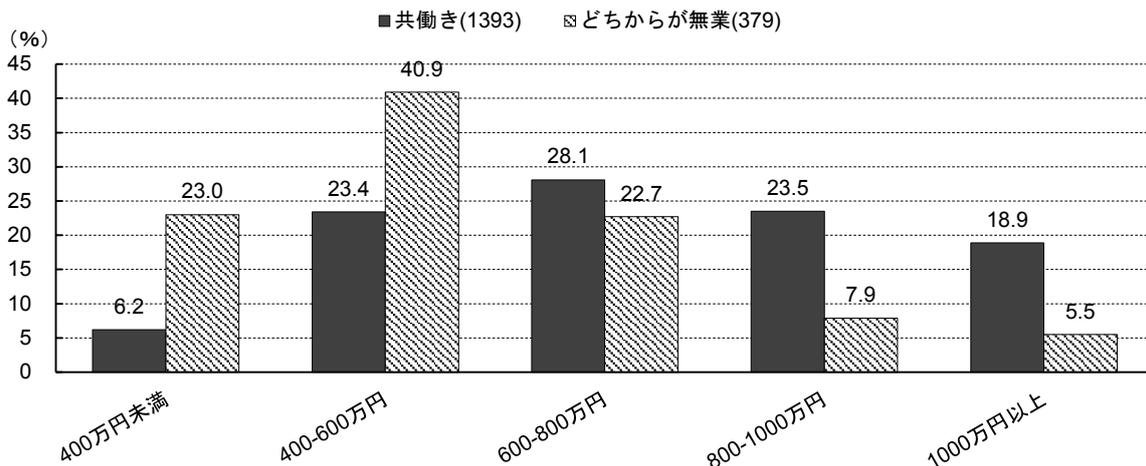
(件、%、倍)

性別	夫婦の労働状態：共働き				夫婦の労働状態：どちらかが無業				オッズ比
	N	三人以上	0～二人	オッズ	N	三人以上	0～二人	オッズ	
男	515	48.3	51.7	0.94	144	39.6	60.4	0.66	1.43
女	870	51.6	48.4	1.07	244	46.3	53.7	0.86	1.24

図Ⅱ－64に、「共働き」と「どちらかが無業」に分けて夫婦の年収合計の分布を示した。両者の所得差が表れている。夫婦の平均年収は「共働き」では726万円、「どちらかが無業」では536万円であり、その差は190万円である。

夫婦の年収合計と理想の子ども数との間に明確な関係が表れず、所得差を伴う共働きか否かで理想の子ども数に差が生じる理由は、理想の子ども数が多い夫婦がその実現のために共働きをしている可能性が考えられる。

図Ⅱ－64 夫婦の労働状態別みた夫婦の年収合計の分布（有配偶者、単数）



(万円)

区分	夫婦の年収合計	
	共働き	どちらかが無業
標本数	1393	379
平均値	726	536
中央値	700	550

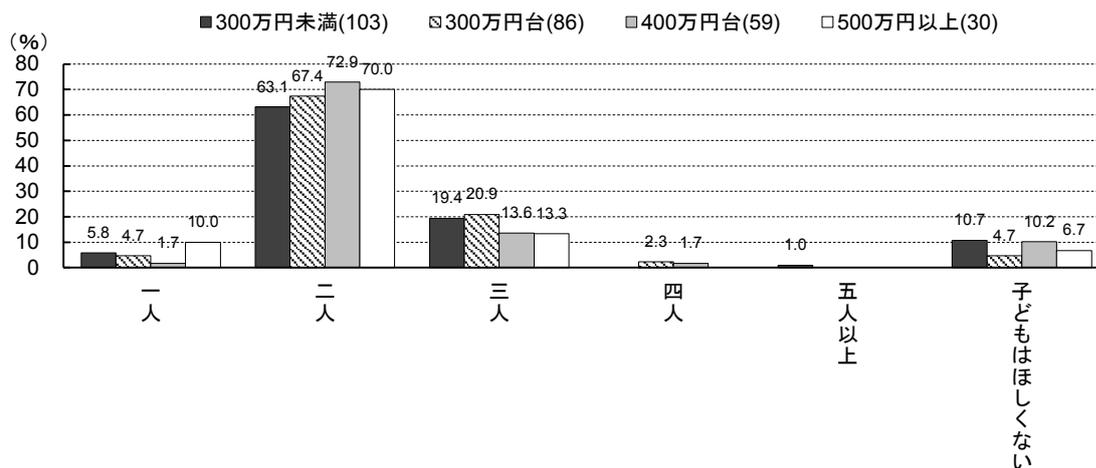
(未婚者の所得)

未婚者の所得が、結婚後の理想の子ども数に与える影響を与えるかどうかをみた。

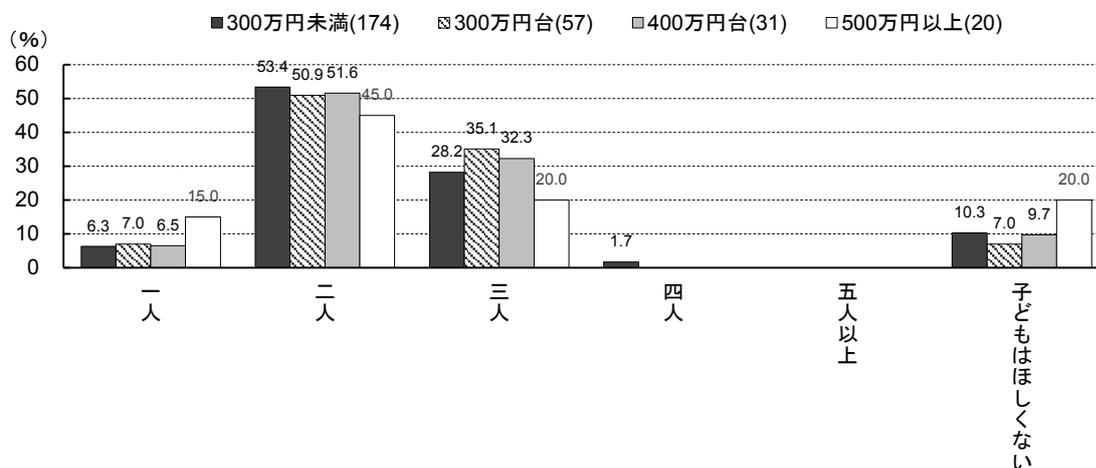
男性で、400万円台まで所得が増えると「二人」が増加し、女性では「二人」と「三人」が減少するようにみえるものの、未婚者はサンプル数が少ないこともあり、統計分析の結果から年収が未婚者の理想の子ども数に影響を与えているとはいえない。(図Ⅱ-65)。

図Ⅱ-65 年収別にみた理想の子ども数(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



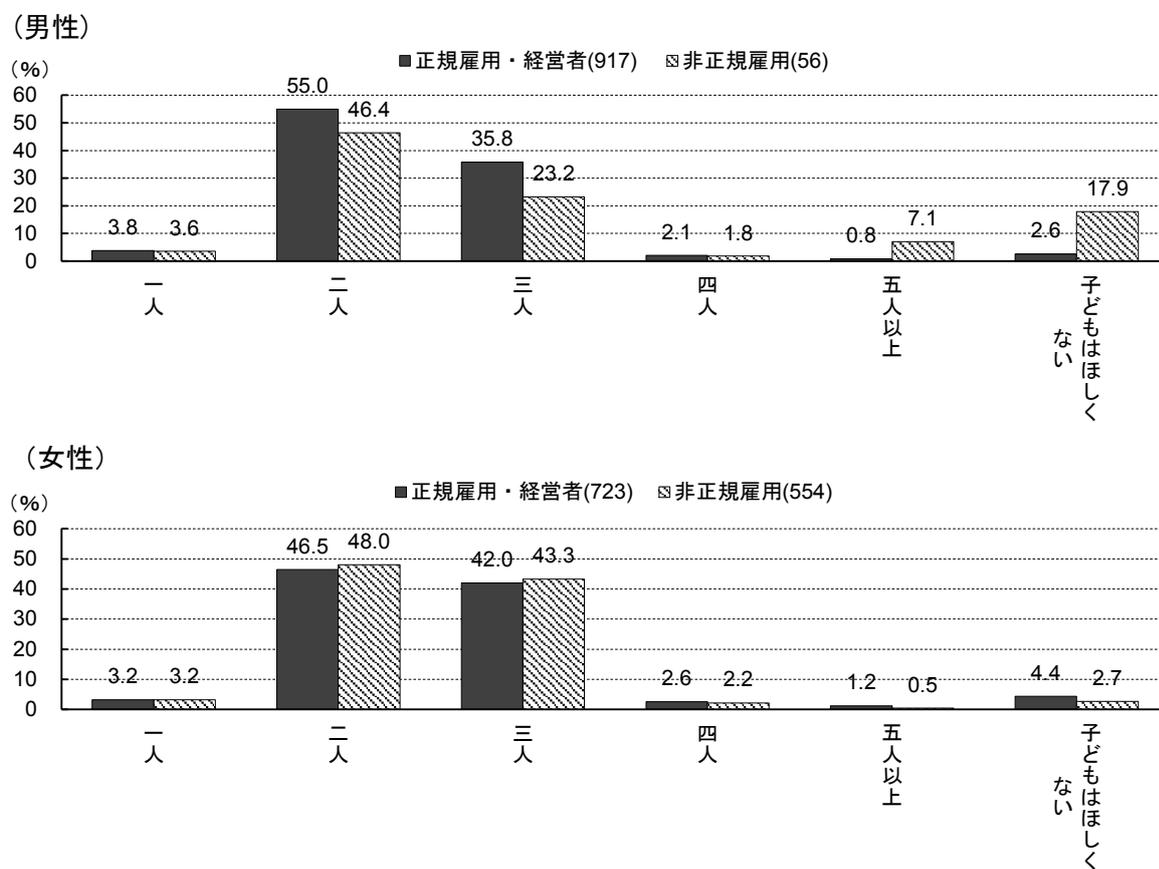
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1319	0.0841
P値	0.4649	0.9891

ii) 労働状態

正規雇用か非正規雇用かに着目して理想の子ども数との関係を把握した。男性では、「正規雇用・経営者」であると「三人」は36%であるが、「非正規雇用」では23%にとどまる（図Ⅱ-66）。また、「非正規雇用」では「子どもはほしくない」が18%に達する。一方、女性では、「正規雇用・経営者」と「非正規雇用」で理想の子ども数に差はみられない。

正規・非正規の労働状態が理想の子ども数に及ぼす影響力の強さをみると、男性では、「正規雇用・経営者」であると「非正規雇用」に対して「三人以上」の出現率が1.3倍になる（表Ⅱ-30）。それほど強い影響力が表れない理由は、サンプル数が少ない「非正規雇用」で「五人以上」の回答が多いことが影響しているためである。

図Ⅱ-66 労働状態別にみた理想の子ども数（単数）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1655	0.0443
P値	0.0000	0.8595

表Ⅱ-30 労働状態の理想の子ども数への影響の強さ

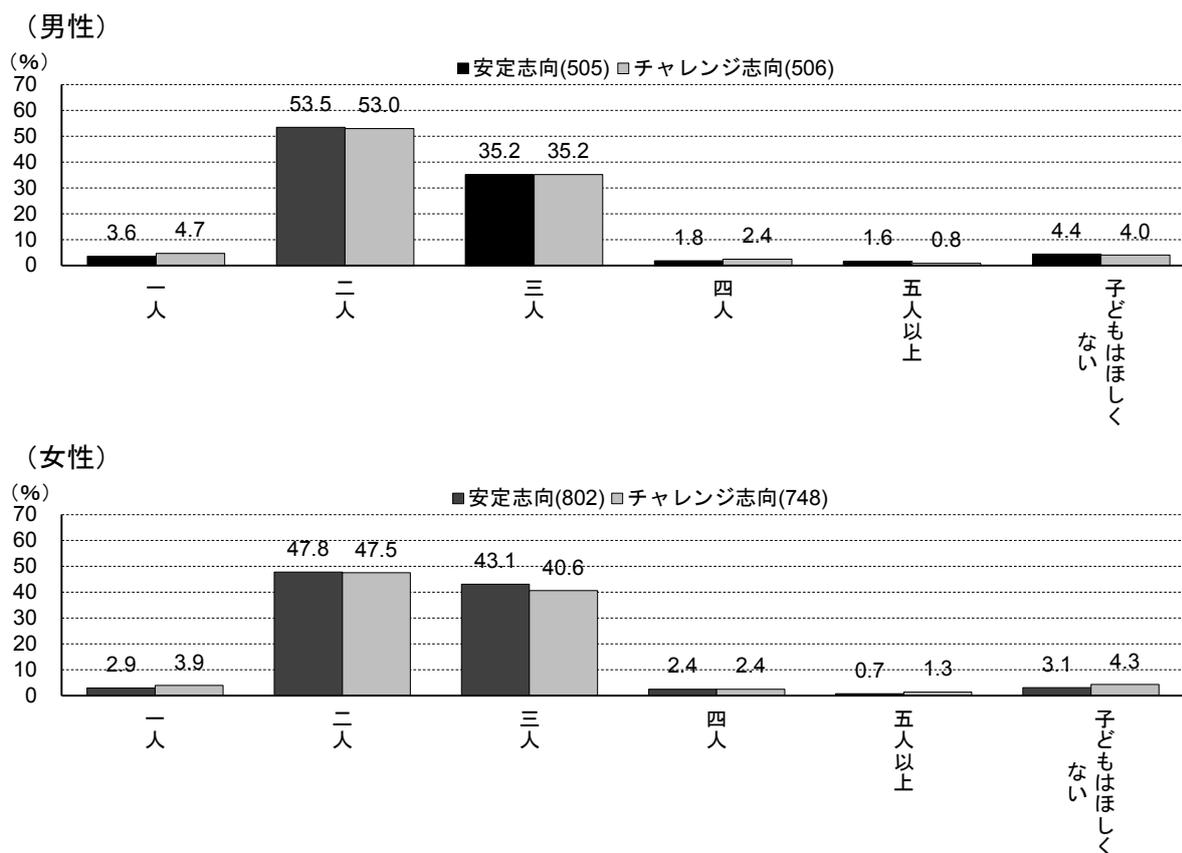
性別	夫婦の労働状態：共働き				夫婦の労働状態：どちらかが無業				オッズ比
	N	三人以上	0～二人	オッズ	N	三人以上	0～二人	オッズ	
男	917	38.6	61.4	0.63	56	32.1	67.9	0.47	1.33
女	723	45.9	54.1	0.85	554	46.0	54.0	0.85	1.00

⑥ライフコース

ライフコースの志向性別に理想の子ども数を集計したところ、「安定志向」と「チャレンジ志向」の間に理想の子ども数の違いはみられなかった(図Ⅱ-67)。

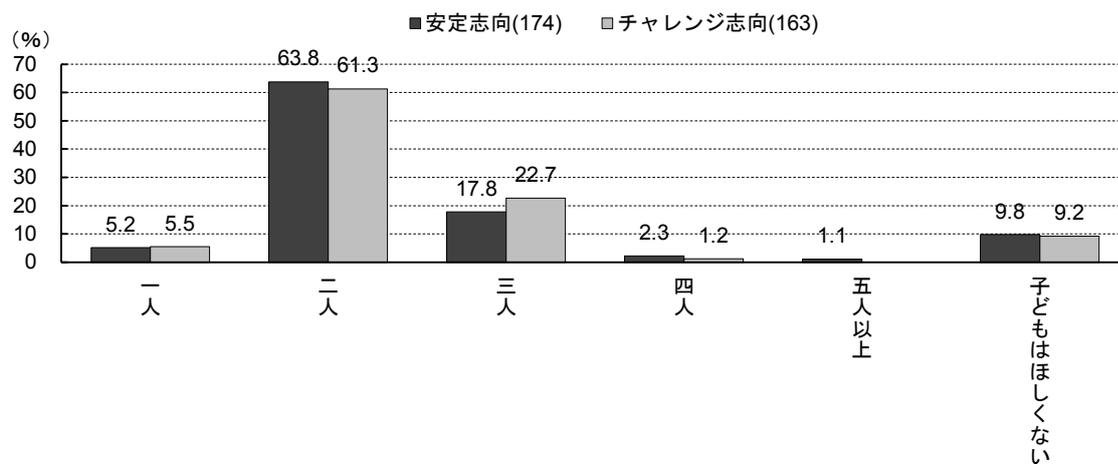
未婚者を対象にすると、「チャレンジ志向」において、男性では「三人」、女性では「一人」が多いなどの特徴がみられる(図Ⅱ-68)。しかしながら、未婚者はサンプル数が少ないこともあり、統計分析の結果をみると明確な差異は見出せない。

図Ⅱ-67 ライフコースの志向性別にみた理想の子ども数(単数)

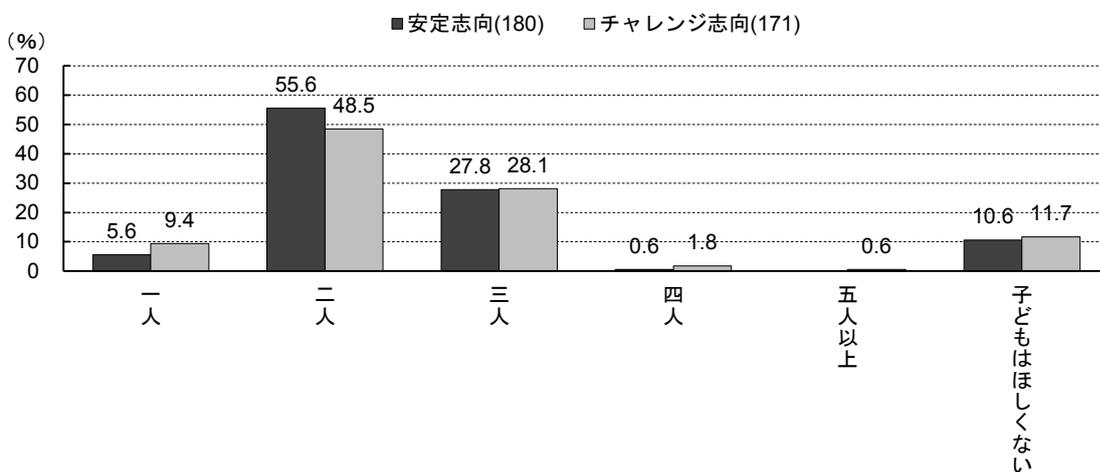


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0519	0.0538
P値	0.7429	0.4827

図Ⅱ－68 ライフコースの志向性別にみた理想の子ども数（未婚者、単数）
（男性）



（女性）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1025	0.1170
P値	0.6175	0.4404

⑦妊娠・出産に関わる不安

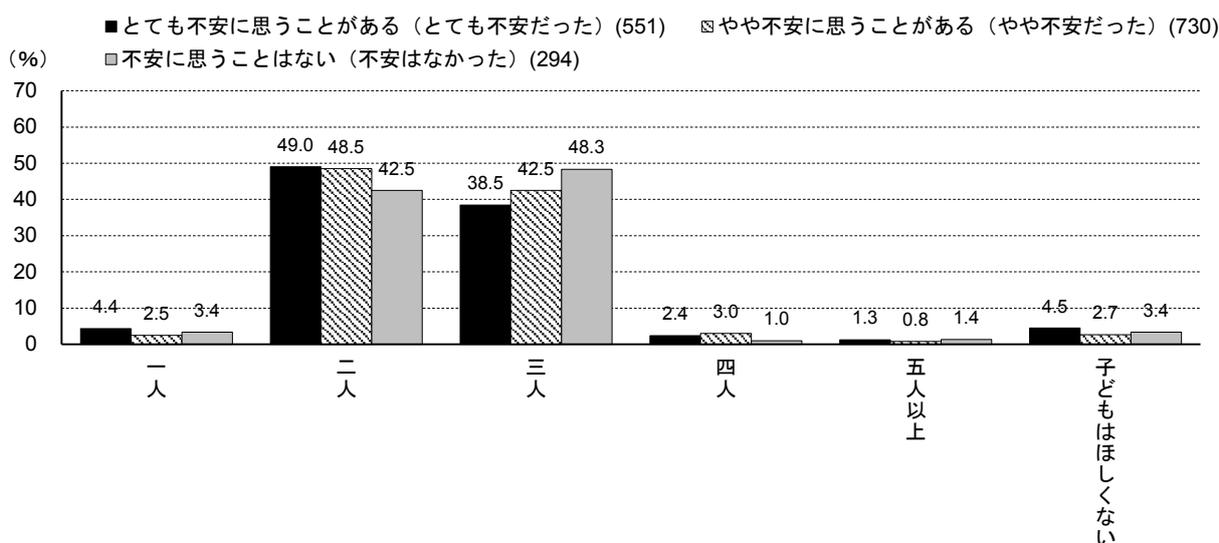
調査では、女性を対象にして妊娠・出産に関わる不安を4段階で把握したが、集計のためのサンプル数を確保するため、「あまり不安に思うことはない」と「まったく不安に思うことはない」をまとめて「不安に思うことはない」を作成した。

3段階による妊娠・出産に関わる不安別に理想の子ども数を見ると、不安が弱くなるほど「三人」が増える。統計分析の結果からみると弱い関係ではあるものの、妊娠・出産に関わる不安が理想の子ども数に影響を与えていると考えられる(図Ⅱ-69)。

妊娠・出産に関わる不安が理想の子ども数に与える影響の強さを把握するため、「不安あり」と「不安なし」の二区分により、理想の子ども数「三人以上」の出現率を算出した。結果、「不安あり」では「不安なし」に対して「三人以上」の出現率が0.78倍になる(表Ⅱ-31)。

「不安あり」に対する「不安なし」の比較では1.28倍であり、理想の子ども数に対する弱い影響力がみられる。

図Ⅱ-69 妊娠・出産に関わる不安別にみた理想の子ども数(女性、単数)



クラメールの連関係数	0.0735
P値	0.0744

表Ⅱ-31 妊娠・出産に関わる不安の理想の子ども数への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	妊娠・出産に関わる不安：あり			妊娠・出産に関わる不安：なし			オッズ比
	N	三人以上	0～二人	N	三人以上	0～二人	
女	1281	44.5	55.5	294	50.7	49.3	0.78

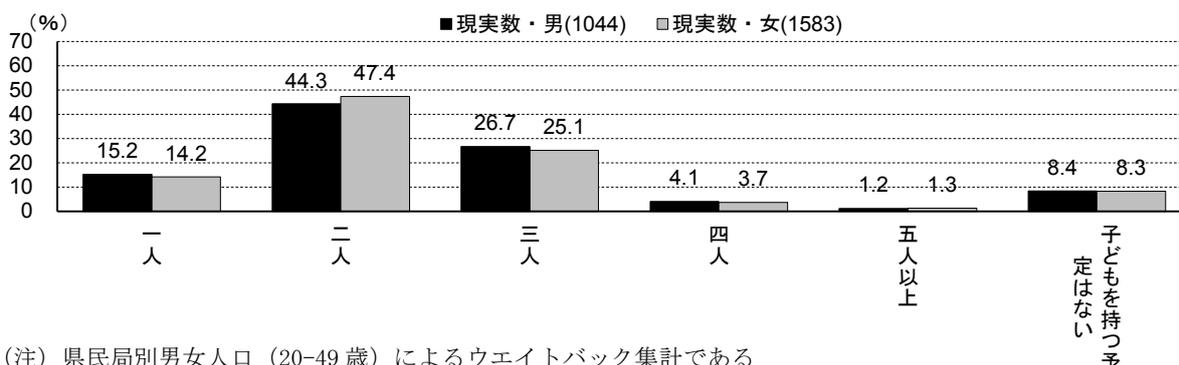
5. 現実に持てる子ども数

(1) 現実に持てる子ども数

(現実に持てる子ども数は理想から減少が男性 33%、女性 39%)

すべての回答者を対象に現実に持てる子ども数の回答を集計すると「二人」が最も多く、男性で 44%、女性で 47%である(図Ⅱ-70)。「三人」は男性 27%、女性 25%であった。「一人」は、男性 15%、女性 14%であり、「子どもを持つ予定はない」は男女とも 8%であった。

図Ⅱ-70 現実に持てる子ども数(単数)



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウェイトバック集計である

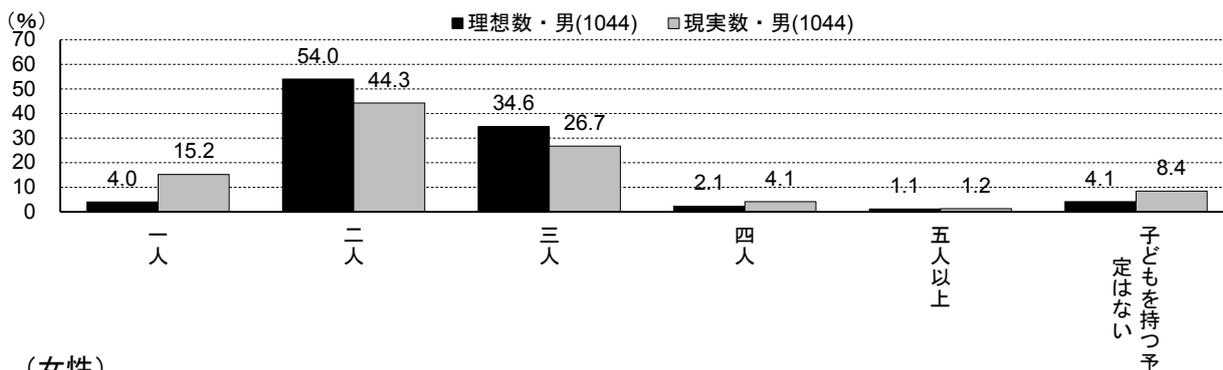
(理想数と現実数の比較)

理想の子ども数との比較では、「二人」は男性が減少となるのに対して女性には変化がない(図Ⅱ-71)。「三人」は男女とも減少するものの、女性は理想 42%から現実 25%へ 17ポイントの大きな減少がみられる。

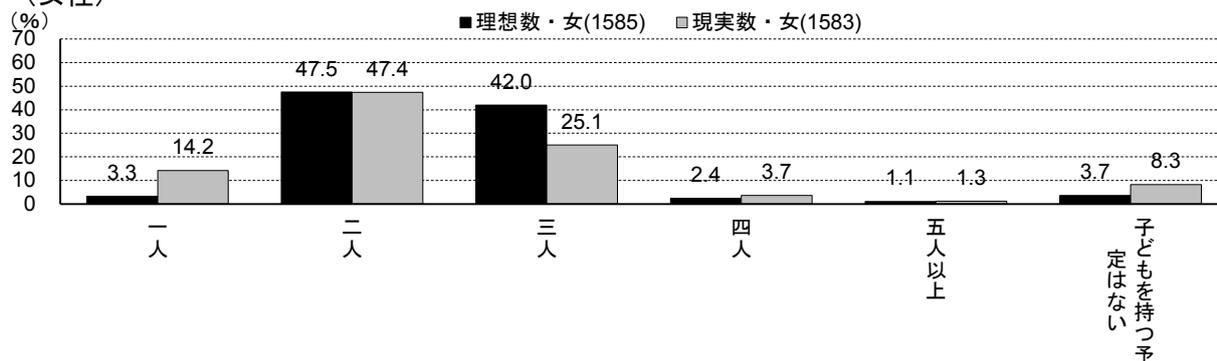
男女とも、理想に対して現実、「一人」「子どもを持つ予定ない」が大きく増加する。

図Ⅱ-71 理想の子ども数と現実にもてる子ども数の比較(単数)

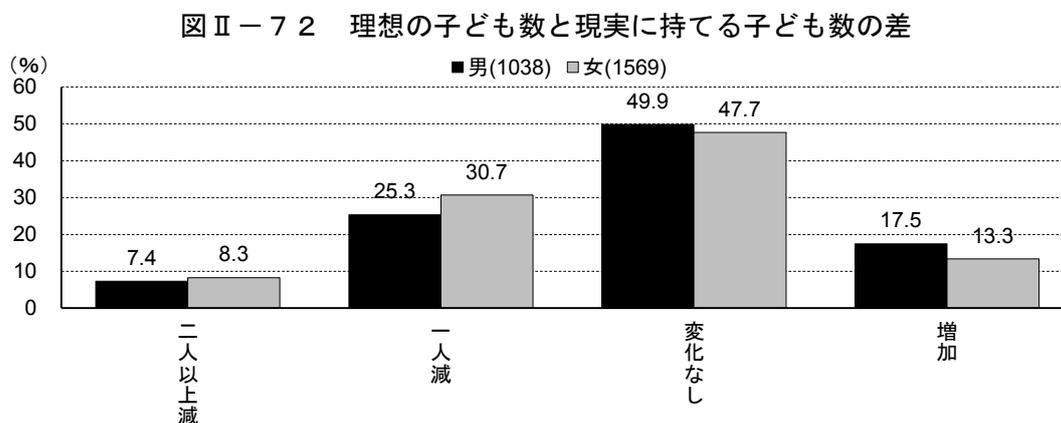
(男性)



(女性)



現実に持てる子ども数から理想の子ども数を差し引いたところ、男女とも約50%が「変化なし」であった(図Ⅱ-72)。また、男女ともに、理想より「一人減」は約30%であるが、女性の方が5ポイント多く、女性の方が厳しい捉え方となっている。「二人以上減」は男女とも8%程度であった。現実数が理想数よりも「増加」となっている者の回答もあり、「子どもを理想数よりも多く持ってしまった」と考えていると推察される。



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

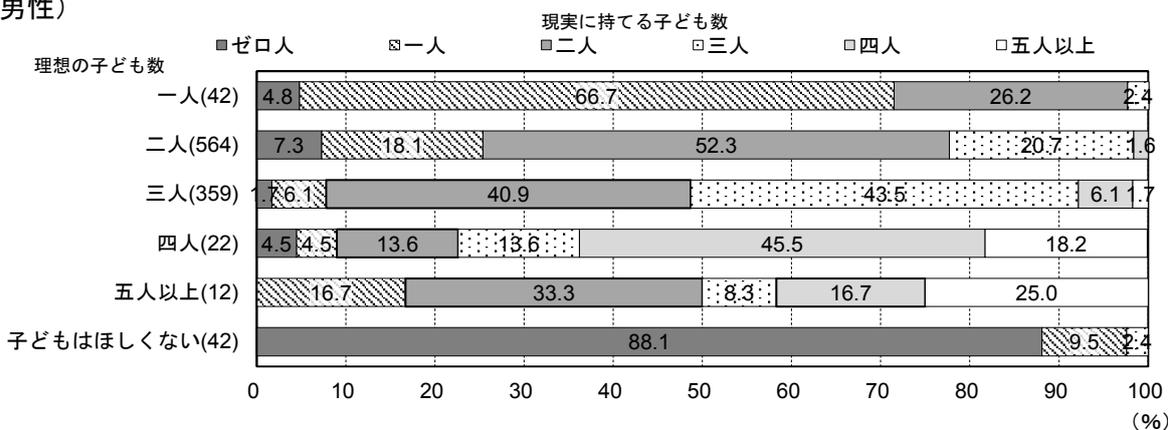
(理想数と現実数の差の内容)

図Ⅱ－7 1 や図Ⅱ－7 2 における理想と現実の差は、例えば、「二人から一人」や「三人から二人」などの変化が組み合わさったものである。そこで、どのような変化が生じているか詳しく把握するため、理想数別に現実数を集計した(図Ⅱ－7 3)。

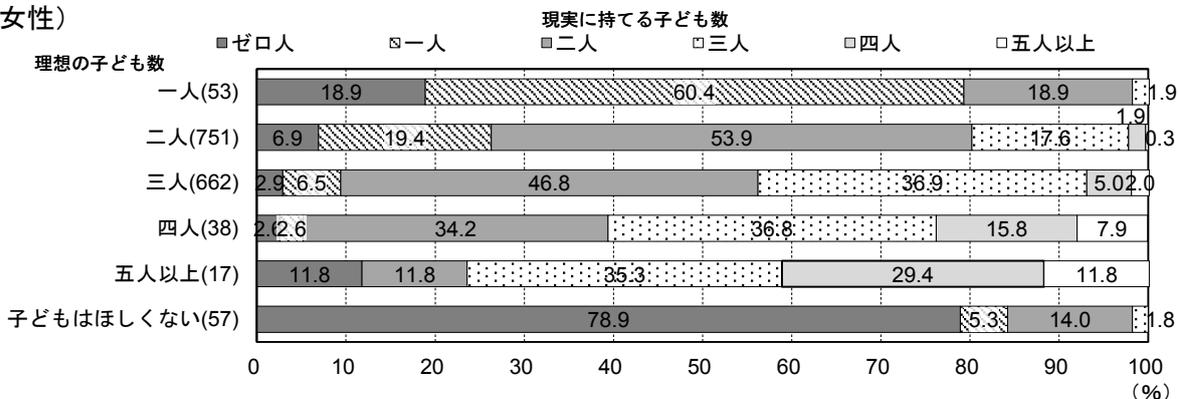
図の太枠は、「二人から一人」など、理想に対して現実が減少となる回答を示している。それぞれの構成比をみると、理想数の「三人」は男女とも現実数「二人」へ減少する割合が大きいことがわかる。

図Ⅱ－7 3 理想の子ども数別にみた現実にもてる子ども数(単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.3837	0.3032
P値	0.0000	0.0000

(理想が実現されないことによる子ども数の減少)

図Ⅱ－7 3 では、それぞれの理想数からどのような変化が起こるかはわかるものの、それぞれの変化が、全体としてどれくらいの割合で子ども数の変化を引き起こすかは示していない。

そこで、理想に対して現実が減少になる変化だけを対象に、それぞれの変化がもたらす子ども数減少の減少数全体に占める割合を算出した(表Ⅱ－3 2)。

結果、男女とも「三人から二人」への減少が最も大きな構成比を占め、女性では理想が実現されないことによる子どもの減少数の39%に達することがわかった。次いで、「二人から一人」の構成比が大きく、男性23%、女性18%である。「二人からゼロ人」も、男性19%、女性13%に上り、大きな割合を占めている。

表Ⅱ-32 理想の子ども数より現実の子ども数が小さくなる回答の構成比
(子どもの減少数による加重)

(男性)

①		②	③	④	⑤	⑥	⑦
理想数		現実数	子どもの減少数	回答者数	④の構成比	③による⑤の加重(③×⑤)	⑥の構成比
1	→	0	1	2	0.6	0.006	0.5
2	→	0	2	41	12.2	0.243	18.9
2	→	1	1	102	30.3	0.303	23.4
3	→	0	3	6	1.8	0.053	4.1
3	→	1	2	22	6.5	0.131	10.1
3	→	2	1	147	43.6	0.436	33.8
4	→	0	4	1	0.3	0.012	0.9
4	→	1	3	1	0.3	0.009	0.7
4	→	2	2	3	0.9	0.018	1.4
4	→	3	1	3	0.9	0.009	0.7
5	→	0	5	0	0.0	0.000	0.0
5	→	1	4	2	0.6	0.024	1.8
5	→	2	3	4	1.2	0.036	2.8
5	→	3	2	1	0.3	0.006	0.5
5	→	4	1	2	0.6	0.006	0.5
合計				337	100.0	1.291	100.0

(女性)

①		②	③	④	⑤	⑥	⑦
理想数		現実数	子どもの減少数	回答者数	④の構成比	③による⑤の加重(③×⑤)	⑥の構成比
1	→	0	1	10	1.6	0.016	1.3
2	→	0	2	52	8.3	0.167	13.1
2	→	1	1	146	23.4	0.234	18.4
3	→	0	3	19	3.0	0.091	7.2
3	→	1	2	43	6.9	0.138	10.8
3	→	2	1	310	49.7	0.497	39.1
4	→	0	4	1	0.2	0.006	0.5
4	→	1	3	1	0.2	0.005	0.4
4	→	2	2	13	2.1	0.042	3.3
4	→	3	1	14	2.2	0.022	1.8
5	→	0	5	2	0.3	0.016	1.3
5	→	1	4	0	0.0	0.000	0.0
5	→	2	3	2	0.3	0.010	0.8
5	→	3	2	6	1.0	0.019	1.5
5	→	4	1	5	0.8	0.008	0.6
合計				624	100.0	1.271	100.0

(出生率への影響)

理想の子ども数を実現されないことによる出生率への影響をみるため、現実には持てる子ども数だけに基づいて出生率を算出したところ、男女とも 2.06 となった (表 II-33)。

男女とも人口置換水準をほぼ達成する出生率であるものの、実際は結婚希望が実現されないことにより出生率は低下するため、ここで算出される出生率ももっと高い水準でなければならない。

理想の子ども数を元にした出生率と比較すると、理想の子ども数を実現されないことにより、出生率が男性は 0.23 ポイント、女性は 0.34 ポイント低下すると算出される。また、理想数を実現されないことによる出生率の低下は、男性より女性の方が 0.1 ポイント以上大きい。

また、表 II-33 では、理想数より現実数が多くなる回答を含むことに留意する必要がある。理想数より現実数が小さくなる回答だけを対象とすると表 II-33 の出生率はさらに低下する。

表 II-33 現実に持てる子ども数に基づく予想出生率の算出 (全回答者)

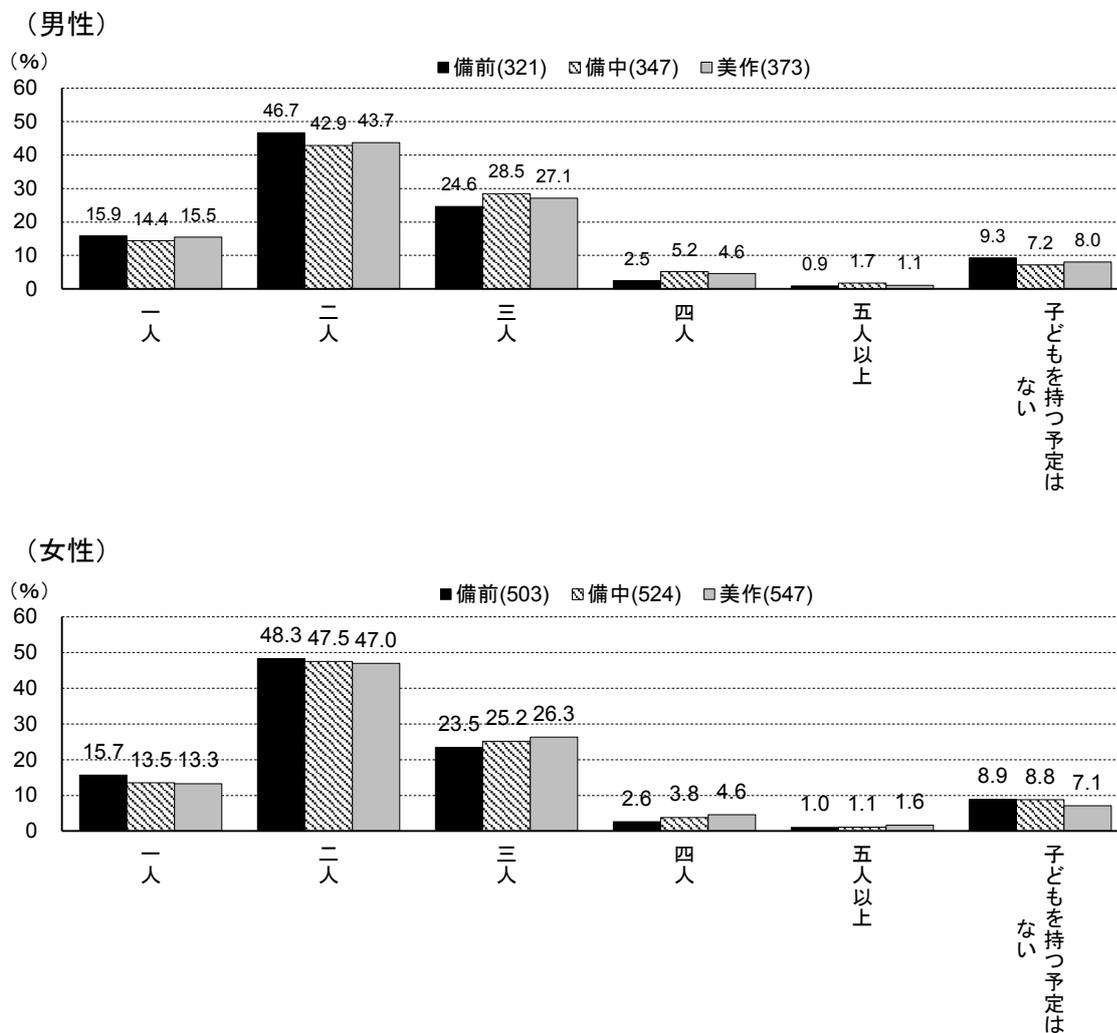
(人、%)

①	現実の子ども数	1	2	3	4	5	0	合計
②	構成比							
	男性(1044)	15.2	44.3	26.7	4.1	1.2	8.4	100.0
	女性(1583)	14.2	47.4	25.1	3.7	1.3	8.3	100.0
③	①×②							
	男性	0.152	0.886	0.801	0.164	0.060	0	2.06
	女性	0.142	0.948	0.753	0.148	0.065	0	2.06
理想数を基に算出した出生率との差	男性	0.23						
	女性	0.34						

(県民局別の集計)

現実には持てる子ども数を県局別に集計すると、美作の「三人」が地域に比べやや多いが、全体的には差はみられない(図Ⅱ-74)。

図Ⅱ-74 県民局別にみた現実に持てる子ども数(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0578	0.0482
P値	0.7289	0.6944

(2) 現実に持てる子ども数に影響を及ぼす要因

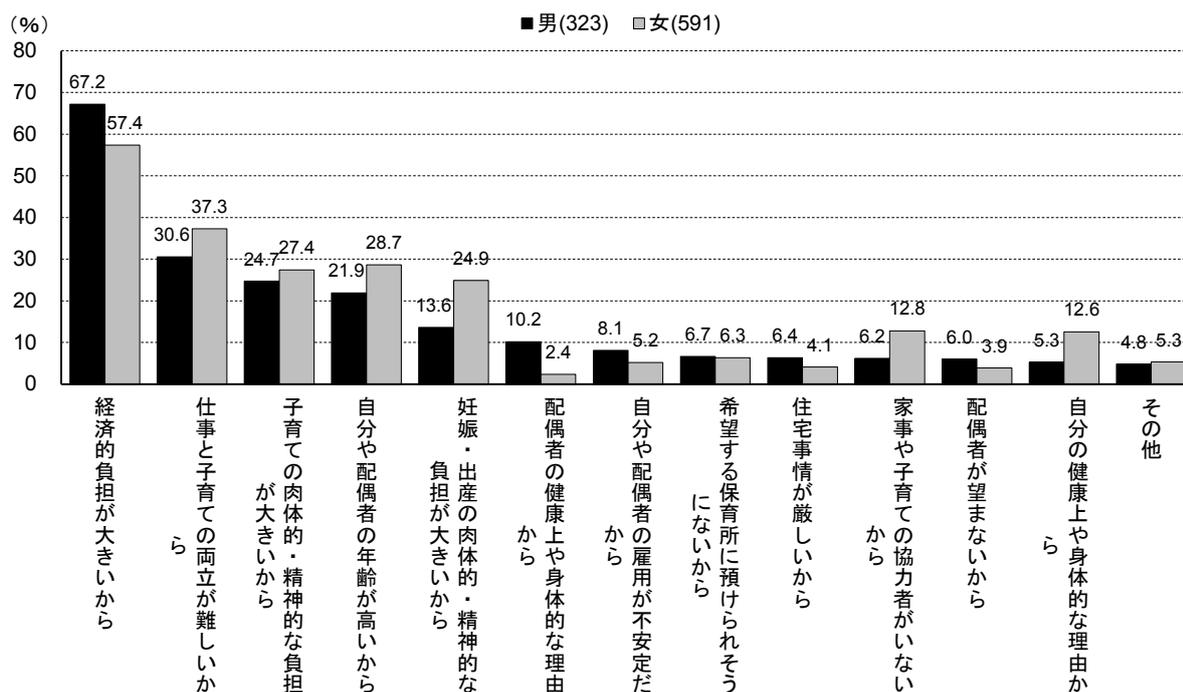
①現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由

(経済的負担は現実に持てる子ども数が減少させる最も大きい理由)

現実に持てる子ども数が理想の子ども数よりも少ない者を対象に、その理由を把握すると、男性で「経済的負担が大きいから」が67%に達する(図Ⅱ-75)。女性でも57%に上り、「子どもはほしくない」、あるいは理想の子ども数が「一人」である理由(図Ⅱ-51)と同じ傾向がみられる。経済的負担は「理想の段階」と「理想と現実の差の段階」の二段階で、多くの者の子ども数に影響を及ぼしている。

回答が多様である女性に注目すると、「仕事と子育ての両立が難しいから」も37%と3分の1を超えている。この他では、「自分や配偶者の年齢が高いから」(29%)、「子育ての肉体的・精神的な負担が大きいから」(27%)、「妊娠・出産の肉体的・精神的な負担が大きいから」(25%)などが多くなっている。

図Ⅱ-75 現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由(複数)



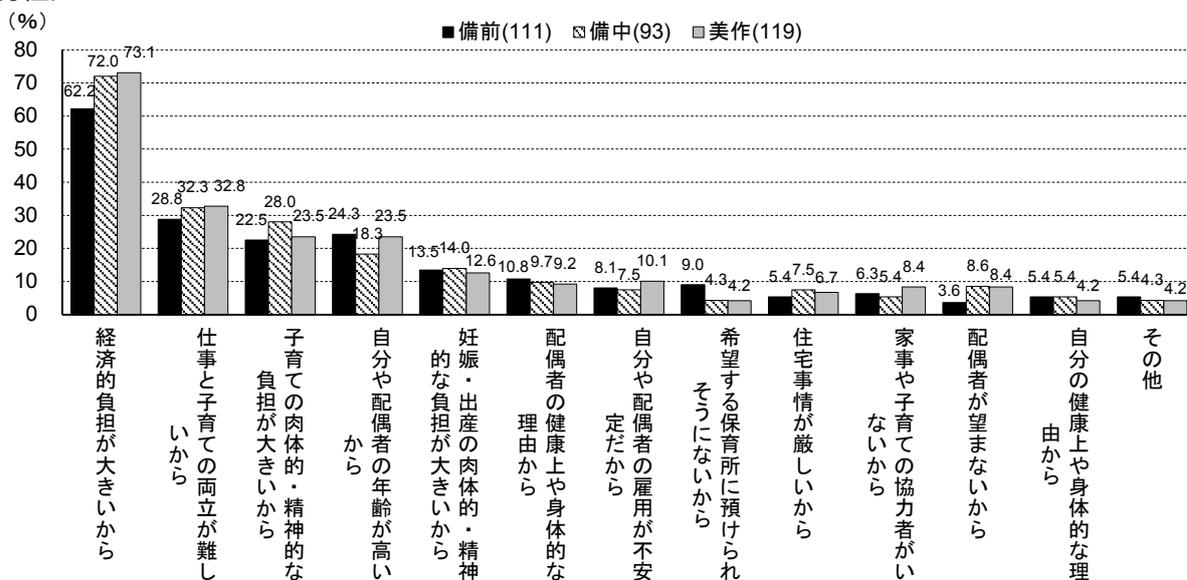
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

(県民局別の集計)

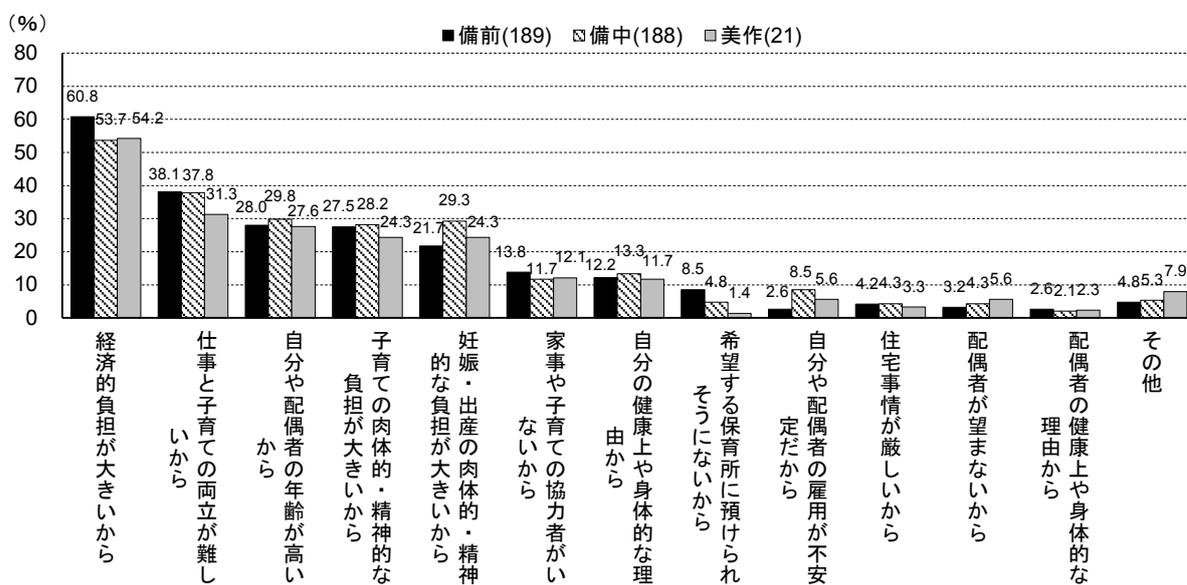
県民局別に集計すると、男性の「経済的な負担が大きいから」や「仕事と子育ての両立が難しいから」が備前に比較して備中、美作が多いなど、いくつかの特徴はあるものの全体的には大きな地域差はみられない(図Ⅱ-76)。

図Ⅱ-76 県民局別にみた現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由(複数)

(男性)



(女性)



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

②初婚年齢

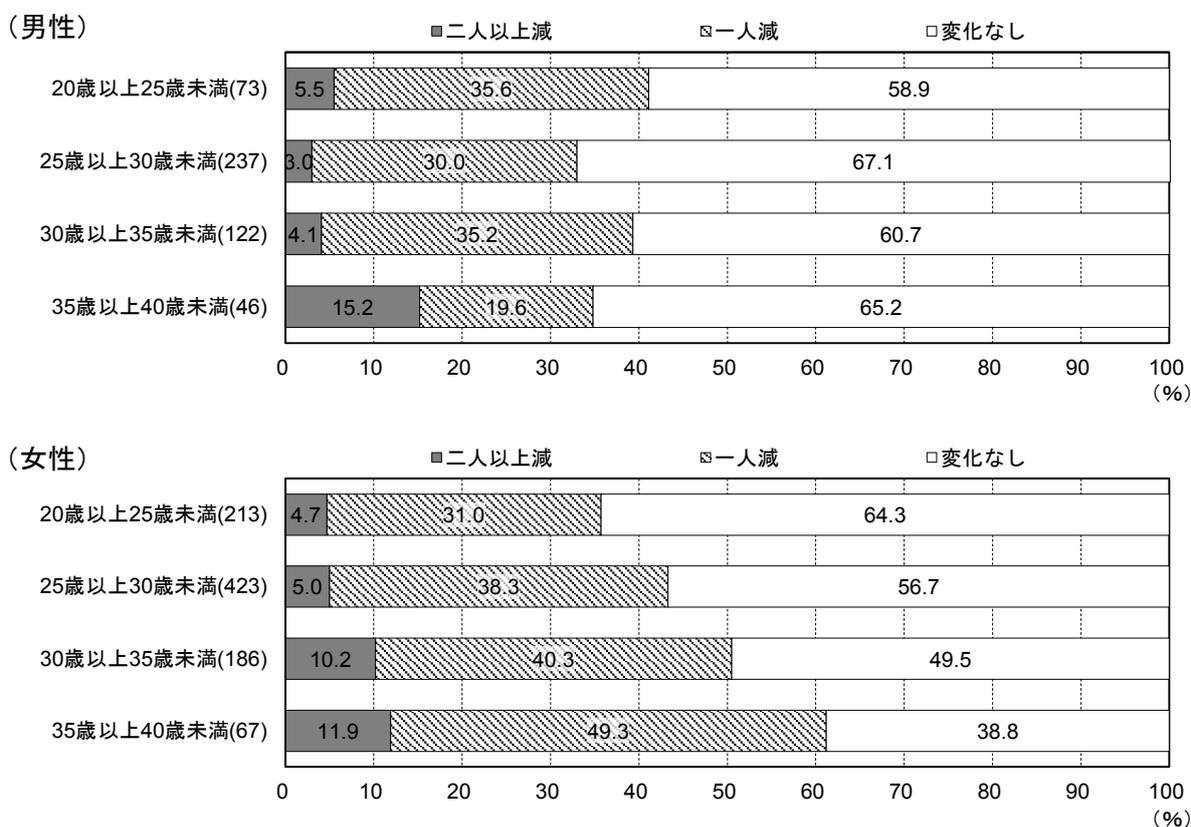
(初婚年齢は女性の現実に持てる子ども数を変化させる)

初婚年齢が、現実に持てる子ども数にどのような影響を及ぼしているか把握した。ただし、分析の対象は、現実に持てる子ども数ではなく、理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差である。また、現実に持てる子ども数が理想の子ども数と比べて「二人以上減少」「一人減少」「変化なし」の者であり、「増加」である者を含んでない(以下、同様)。

初婚年齢で分けて理想の子ども数と現実の差をみると、男性では「35歳以上40歳未満」で「二人以上減」が15%になるといった特徴がみられるものの、全体的な傾向はみられない(図Ⅱ-77)。

一方、女性では、結婚年齢が高くなるにつれ、「変化なし」が減少し、「一人減」と「二人以上減」の両方が増加していく。

図Ⅱ-77 初婚年齢別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差
(現実に持てる子ども数が理想の子ども数と同数か少ない既婚者)



(二項ロジスティック回帰分析の結果)

項目	男	女
Nagelkerke	0.0069	0.0318
P値	0.1108	0.0000
オッズ比	0.8647	0.7170

③所得及び労働状態

所得と労働状態が、現実に持てる子ども数にどのような影響をおよぼしているか把握する。ただし、分析の対象は、現実に持てる子ども数ではなく、持てる子ども数と現実の子ども数との差である。

また、現実に持てる子ども数が理想の子ども数と比べて「二人以上減少」「一人減少」「変化なし」の者であり、「増加」である者を含んでない。

現実に持てる子ども数ではなく、理想の子ども数との差を対象とする理由は、先に理想の子ども数に影響を与える要因を把握したため、ここで分析する要因は理想の子ども数をさらに減少させる要因として、各要因が理想の子ども数を減少させる影響力との重複を避けるためである。

また、「増加」を除外した理由は、施策の観点からは「変化なし」と「減少」の違いが重要であることと、①で現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由を把握したことによる。

i) 所得

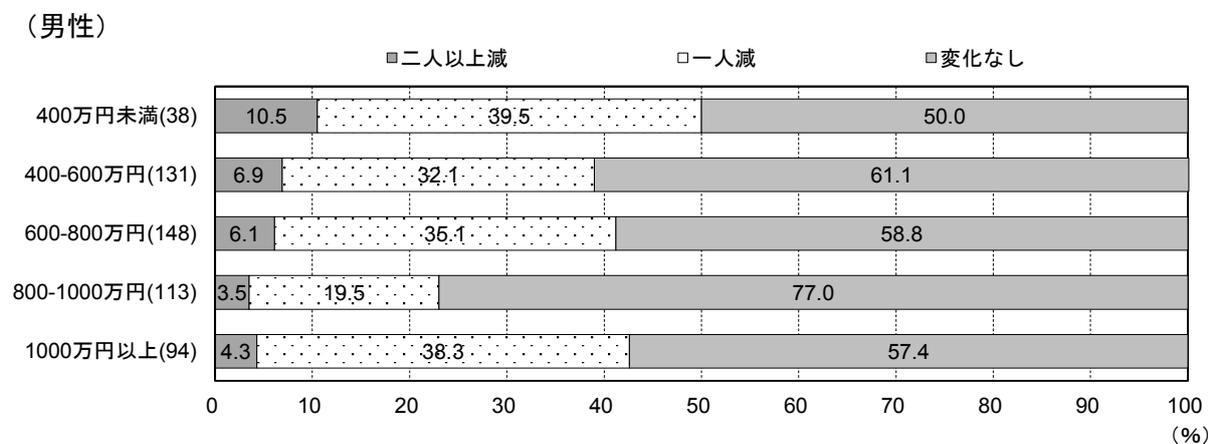
(男性では夫婦所得 1000 万円までは所得は現実に持てる子ども数にプラスの影響を与える)

有配偶者を対象にして夫婦の収入合計により理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差を比較すると、男性では、800-1000 万円までは、収入が増加すると「二人以上減」「一人減」が減少する傾向がみられる(図Ⅱ-78)。800-1000 万円では「変化なし」が 77%になる。すなわち、夫婦の所得は 1000 万円までは、子ども数の理想と現実の乖離を小さくするように働いている。

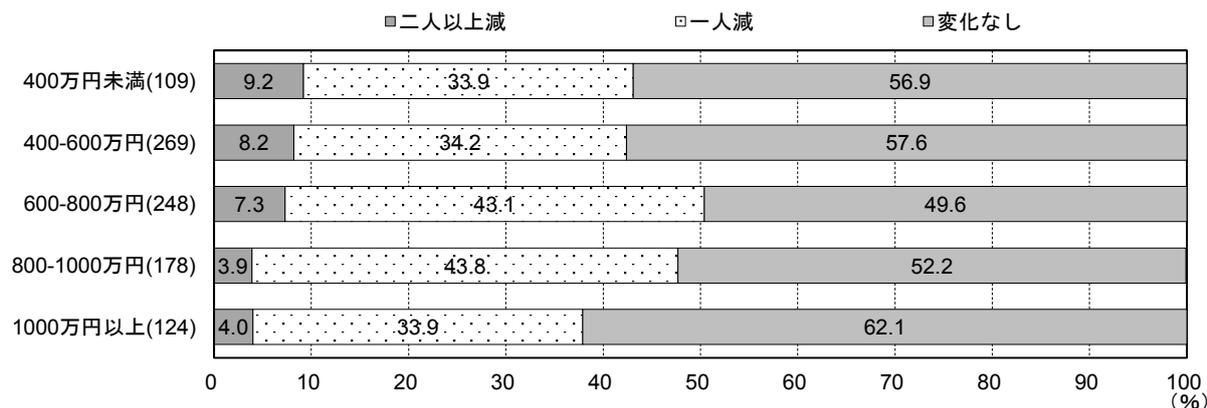
ところが、1000 万円以上になると「一人減」が 800-1000 万円に比べて大きく増加して、「変化なし」は 57%に減少する。

女性でも、収入が増えるにつれて「二人以上減」が減少する傾向がみられる。ただし、男性のように 1000 万円以上で「一人減」が増加することはない。

図Ⅱ-78 夫婦の収入合計別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差
(現実に持てる子ども数が理想の子ども数と同数か少ない有配偶者)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1256	0.0861
P値	0.0354	0.0887

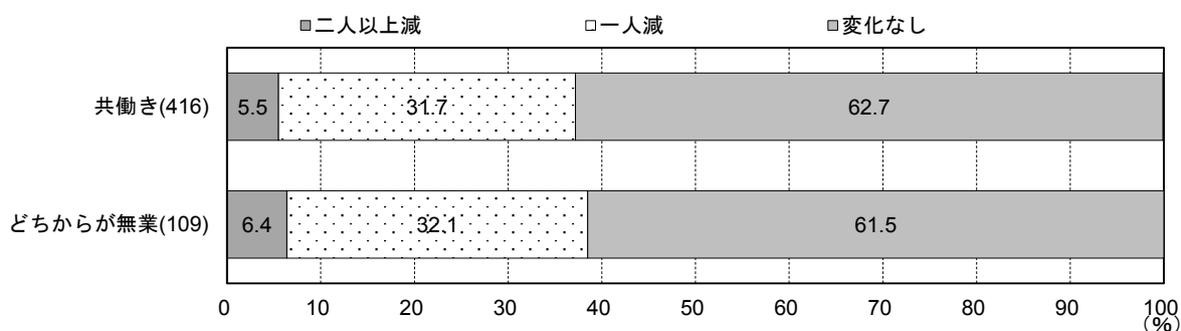
(夫婦の労働状態)

両方あるいは「どちらかが無業」の夫婦を対象にして、「共働き」と「どちらかが無業」で、理想数と現実数を比較した。結果、男性は、「共働き」であると「二人以上減」が減少し、女性は「二人以上減」が増加する（図Ⅱ－79）。

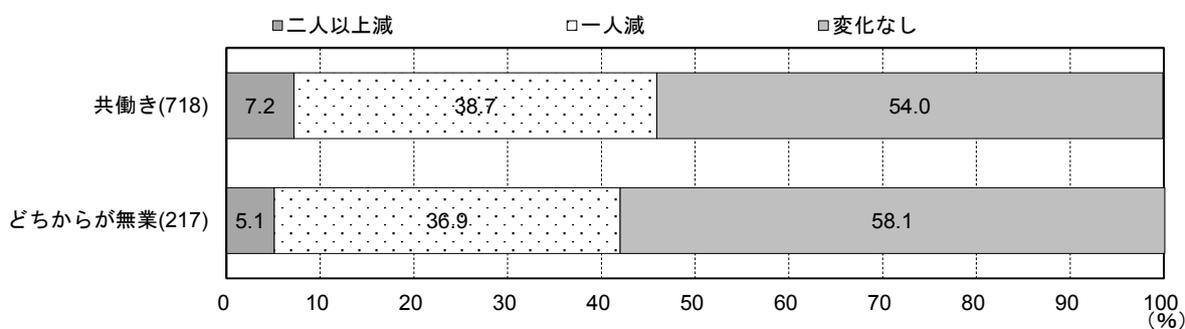
ただし、統計的にも確かな差異はみられるものの、全体的にみてその差はわずかである。

図Ⅱ－79 夫婦の労働状態別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差（有配偶者）

(男性)



(女性)



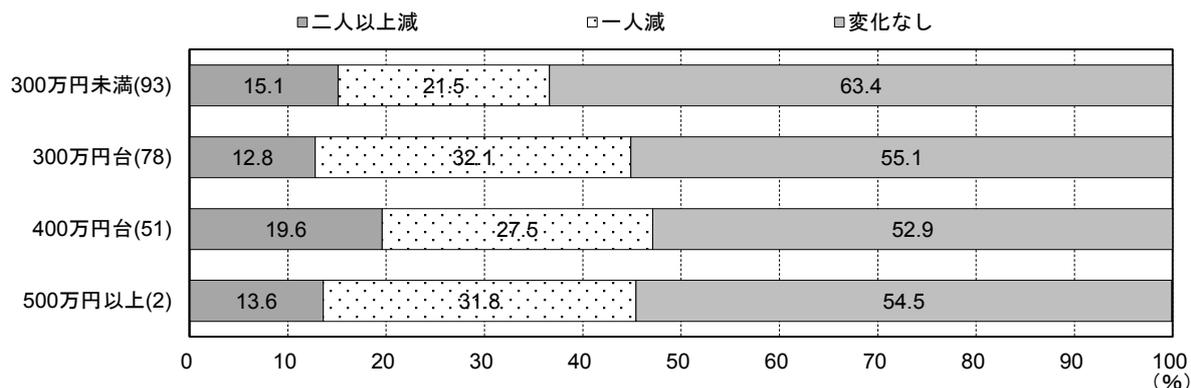
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1202	0.1264
P値	0.0004	0.0000

(未婚者の所得)

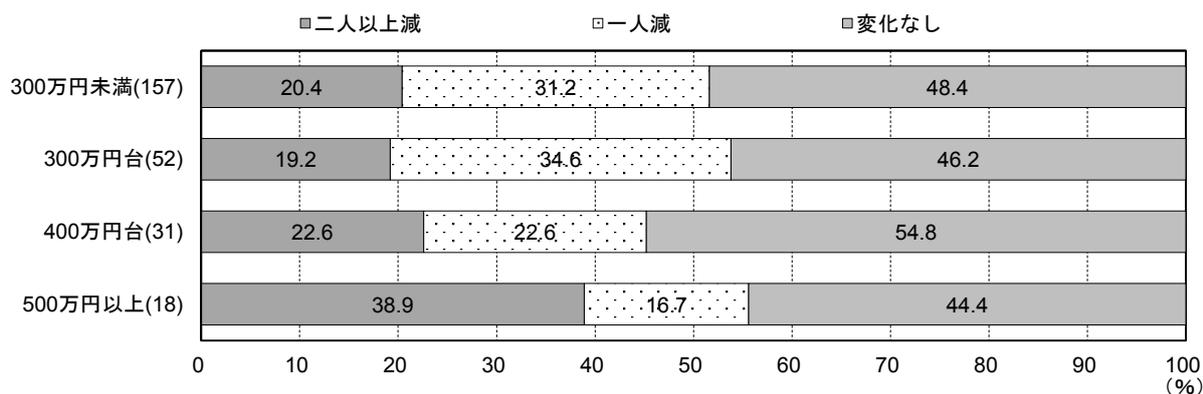
未婚者において、現在の収入が、結婚後の理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差に影響するか確かめたが、有意な差は得られなかった(図Ⅱ-80)。

女性において収入「500万円以上」では「二人以上減」が39%に上るが、サンプル数が少なく、参考値である。

図Ⅱ-80 収入別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差(未婚者)
(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1032	0.1175
P値	0.7182	0.4859

ii) 労働状態

(正規・非正規の別は男性の現実に持てる子ども数を大きく変化させる)

労働状態がもたらす現実に持てる子ども数への影響は、男性で「二人以上減」に表れることが特徴である。男性の「変化なし」は「正規雇用・経営者等」と「非正規雇用・無職等」で大きな差はみられない(図Ⅱ-81)。

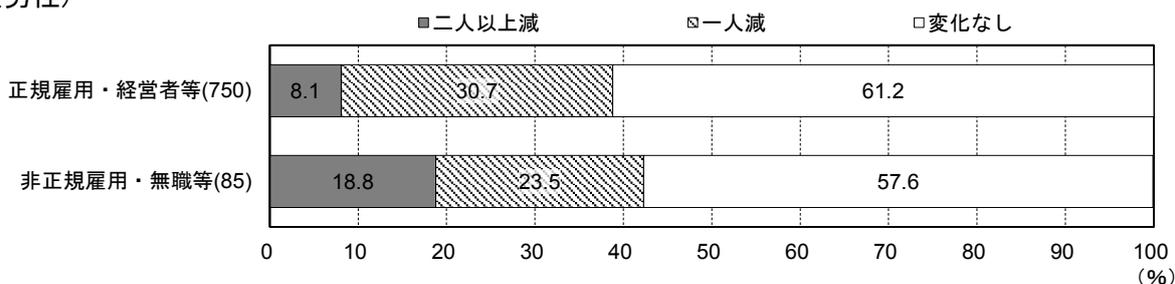
男性では、「二人以上減」が「正規雇用・経営者等」が8%であるのに対して「非正規雇用・無職等」では19%に上る(図Ⅱ-81)。「二人以上減」であるので、理想の子ども数が「三人」の者が現実に持てる子ども数を「一人」とする回答が多くを占めると考えられる。

女性では、労働状態による違いはみられない。

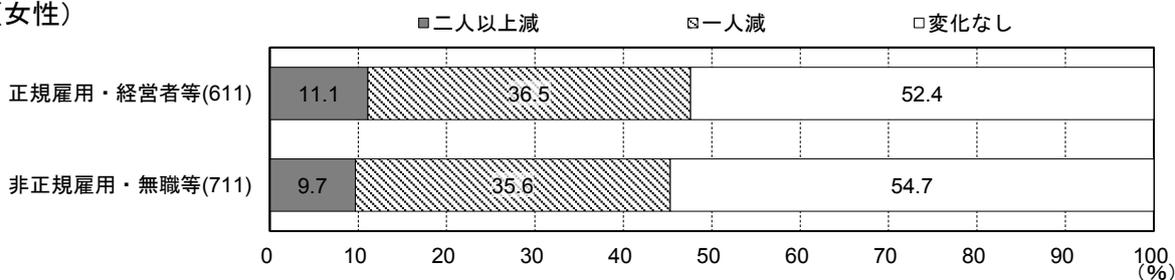
サンプル数が少ないため参考値であるものの、女性既婚者について夫の労働状態別で、理想数と現実数の差をみると、図Ⅱ-81の男性と同様の傾向を示す(図Ⅱ-82)。

図Ⅱ-81 労働状態別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差
(現実に持てる子ども数が理想の子ども数と同数か少ない学生を除く者)

(男性)

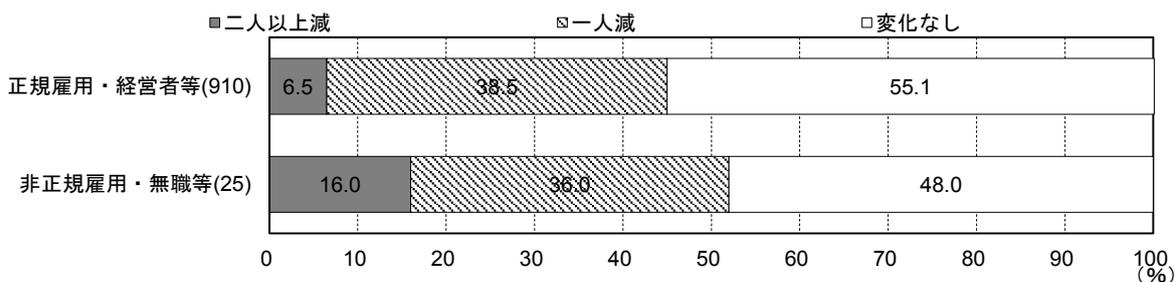


(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0841	0.0429
P値	0.0158	0.2885

図Ⅱ-82 配偶者の労働状態別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差 (女性)



クラメールの連関係数	0.0566
P値	0.1991

労働状態の現実には持てる子ども数への影響力を、理想数と現実数の差を「変化なし・一人減」と「二人以上減」の二区分にして算出すると、男性の「正規雇用・経営者等」では「非正規雇用・無職等」に対して「変化なし・一人減」の出現率が2.6倍になる(表Ⅱ-34)。男性では、正規・非正規の別が現実には持てる子ども数に対してかなり強く影響している。

表Ⅱ-34 労働状態の持てる子ども数への影響の強さ(学生を除く)

(件、%、倍)

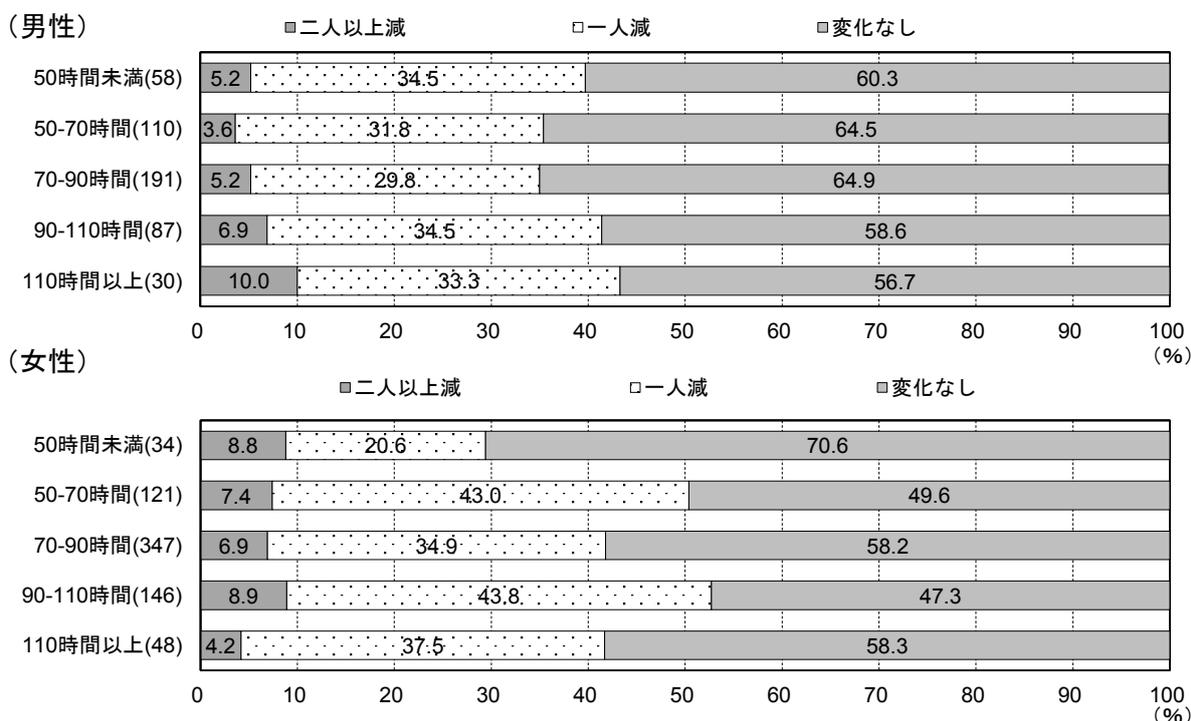
性別	労働状態：正規雇用・経営者等			労働状態：非正規雇用・無職等			オッズ比		
	N	変化なし 一人減少	二人以上 減少	オッズ	N	変化なし 一人減少		二人以上 減少	オッズ
男	750	91.9	8.1	11.35	85	81.1	18.9	4.29	2.64
女	611	88.9	11.1	8.01	711	90.3	9.7	9.31	0.86

(労働時間)

有配偶者を対象にして、週労働時間の夫婦合計別にみた理想数と現実数との差は、男性では労働時間が増加すると「二人以上減」が増加する(図Ⅱ-83)。収入と労働時間は正の相関がみられるが、図Ⅱ-78の通り、収入は理想の子ども数の実現にプラスに寄与する一方で、労働時間はマイナスに影響する結果となった。

女性では、はっきりとした傾向はみられない。

図Ⅱ-83 週労働時間の夫婦合計別にみた理想の子ども数と現実には持てる子ども数との差(有配偶者)



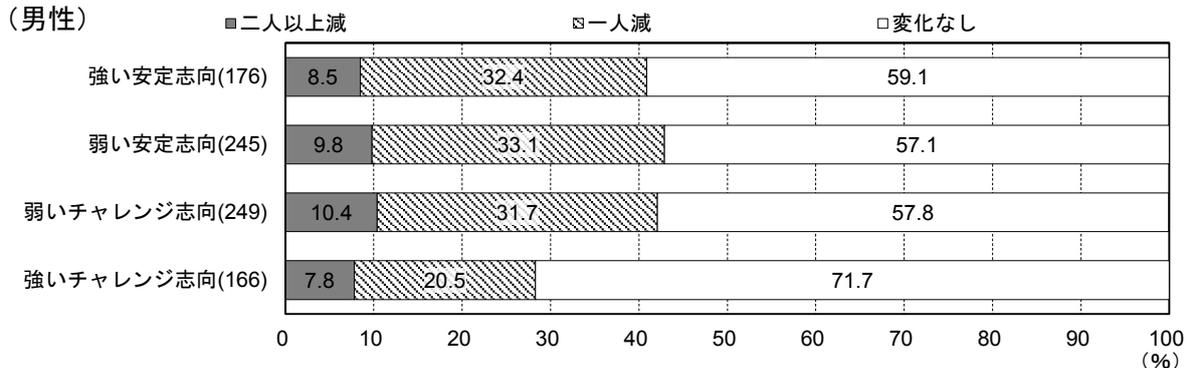
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1256	0.0697
P値	0.0354	0.0792

④ライフコースおよびワーク・ライフ・バランス

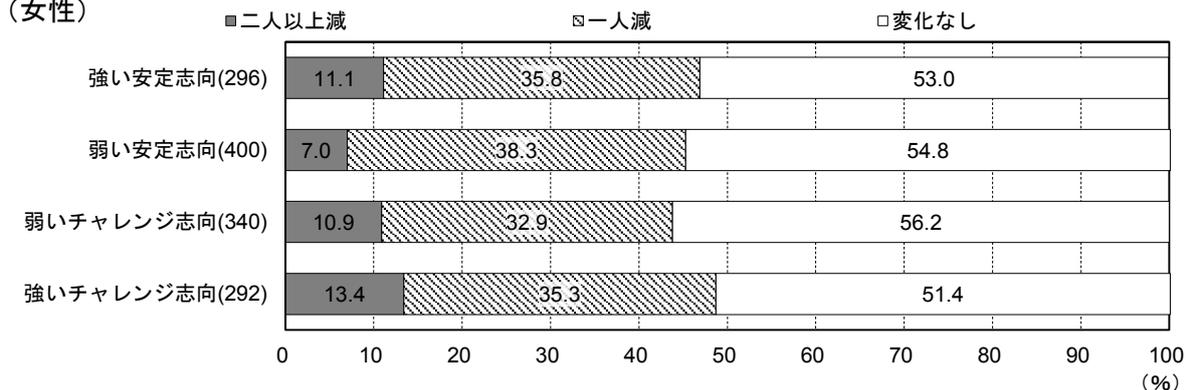
i) ライフコースの志向性

ライフコースの志向別で見ると、男性では「チャレンジ志向」が「強い」で「変化なし」が72%に達するが、理由が明確でない。女性は、はっきりとした傾向はみられない（図Ⅱ－84）。

図Ⅱ－84 ライフコースの志向別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差（男性）



（女性）



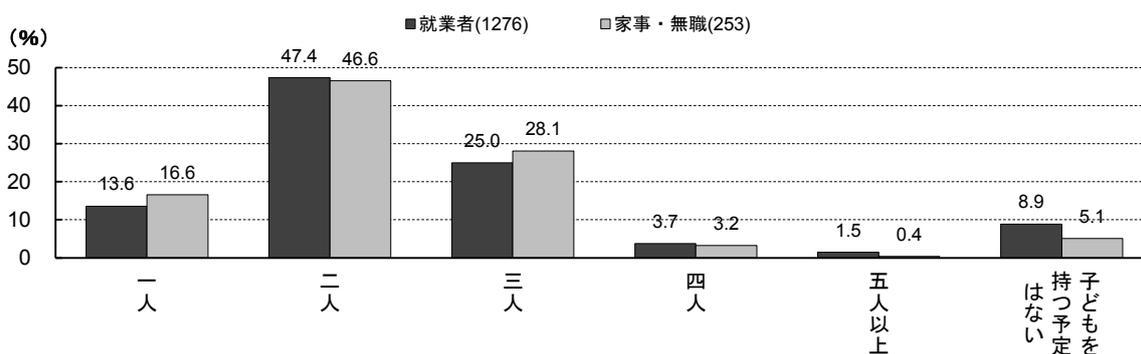
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0829	0.0596
P値	0.0743	0.1514

ii) ワーク・ライフ・バランス

女性を対象に労働状態別で現実に持てる子ども数の分布をみると、「就業者」より「家事・無職」の方が「三人」がやや多いものの、わずかな差であり、「就業者」と「家事・無職」の間で差があることに対する統計的な有意性も高くない(図Ⅱ-85)。

理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差をみても同様である(図Ⅱ-86)。そもそも「家事・無職」である女性が少なく、就業者におけるワーク・ライフ・バランス等が、どのように現実に持てる子ども数等に影響しているかを把握することが重要と考えられる。

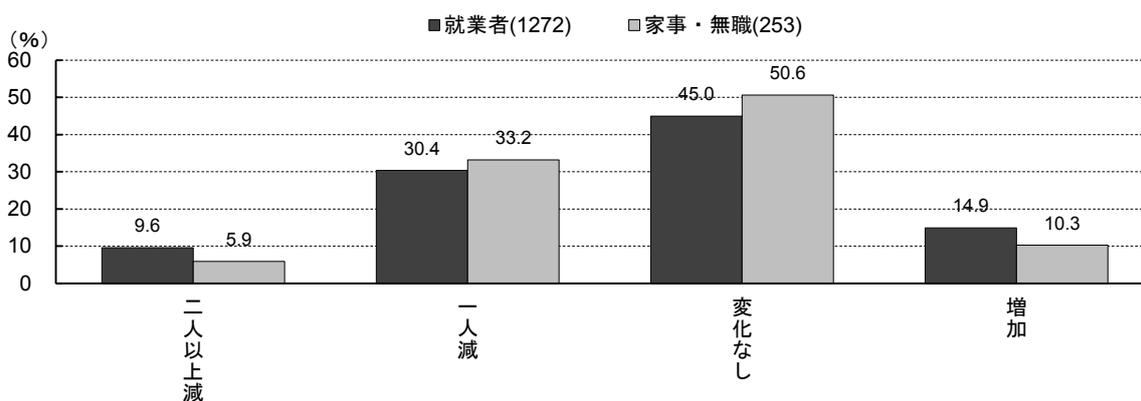
図Ⅱ-85 労働状態別にみた現実に持てる子ども数の分布(女性、単数)



クラメールの連関係数	0.0696
P値	0.0850

- (注) 1. 男性は、家事・無職の標本数が少ないため、図の掲載を省略した
 2. 同様の理由により、労働状態のうち、失業および学生の掲載を省略した
 3. 調査票の選択肢と労働状態の区分けは以下の通り(以下、同様)
 就業者：正規の職員・従業員、会社などの役員、パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約職員、自営業主・家族従業者、家庭での内職
 家事・無職：家事・無職

図Ⅱ-86 労働状態別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差(女性)



クラメールの連関係数	0.0596
P値	0.0525

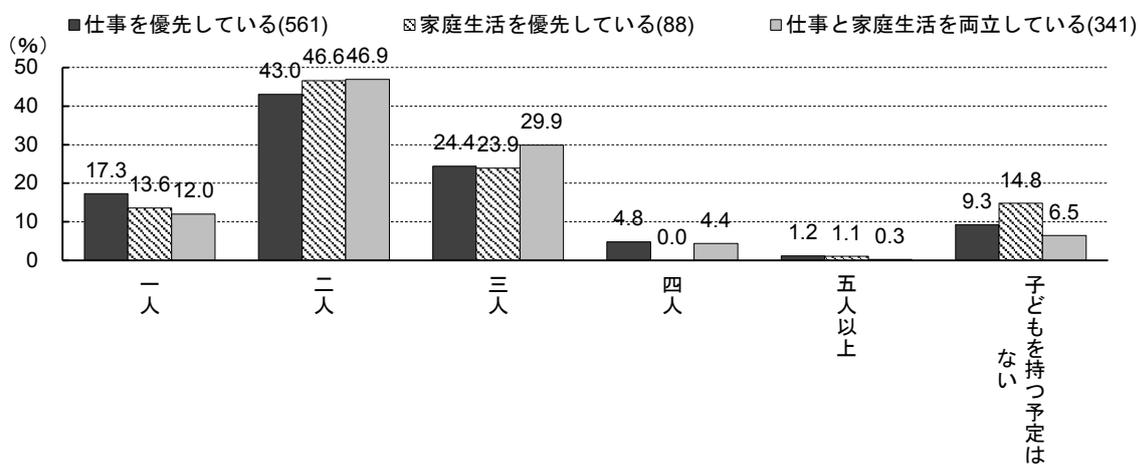
- (注) 1. 男性は、家事・無職の標本数が少ないため、図の掲載を省略した
 2. 同様の理由により、労働状態のうち、失業および学生の掲載を省略した

ワーク・ライフ・バランスと現実に持てる子ども数との関係を見ると、「仕事を優先している」は、「家庭生活を優先している」や「仕事と家庭生活を両立している」に比べて、男女とも現実に持てる子ども数の「一人」が増え、「二人」と「三人」が減る傾向がみられる（図Ⅱ－８７）。一方、「家庭生活を優先している」と「両立している」の比較では、男女とも、「家庭生活を優先している」より「両立している」の方で「三人」が多い傾向がある。

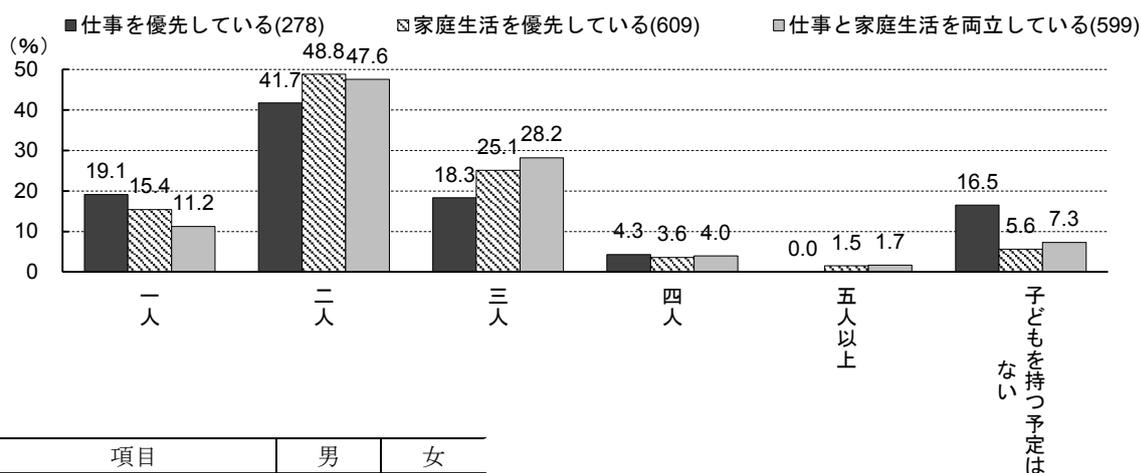
また、理想の子ども数を現実に持てる子ども数の差をみても、男女とも「両立している」の「変化なし」が最も多い（図Ⅱ－８８）。

有配偶出生率を高める観点からは、「仕事を優先する」だけでなく、「家庭生活を優先している」といったどちらかに偏るライフスタイルよりも、仕事と家庭生活の両立を図ることが重要であることがわかる。

図Ⅱ－８７ ワーク・ライフ・バランスの現実別にみた現実に持てる子ども数の分布（単数）（男性）



(女性)

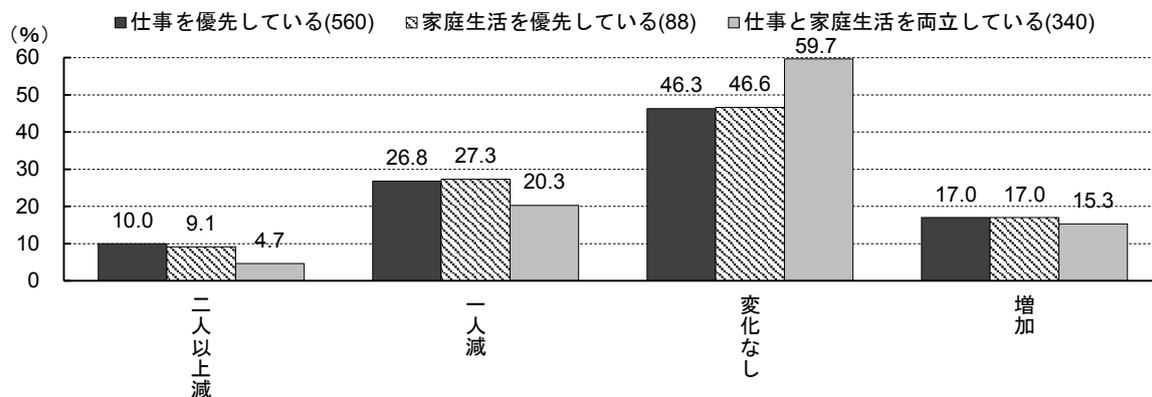


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0998	0.1321
P値	0.0320	0.0000

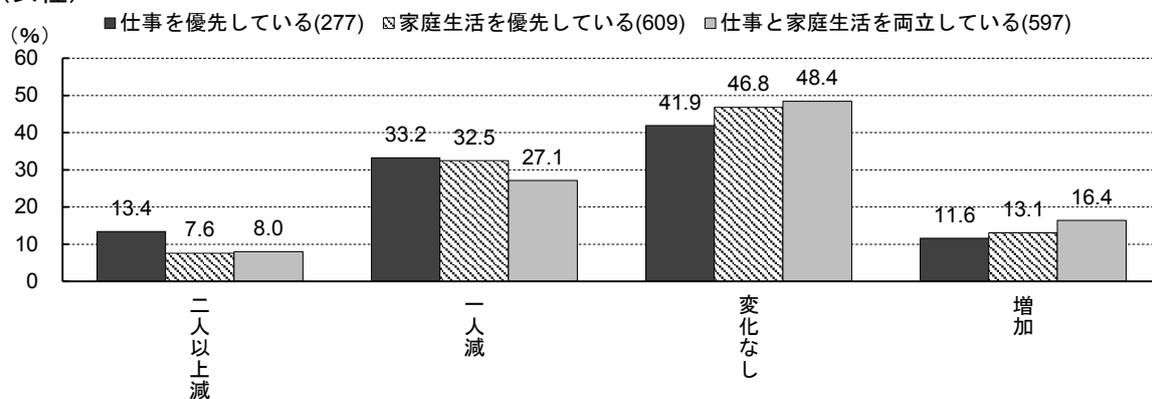
(注) ワーク・ライフ・バランスは独身者による結婚した場合の予想を含む

図Ⅱ-88 ワーク・ライフ・バランスの現実別にみた
理想の子ども数と現実を持てる子ども数との差

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0996	0.0765
P値	0.0032	0.0081

⑤ 出産や子育てに対する職場の配慮

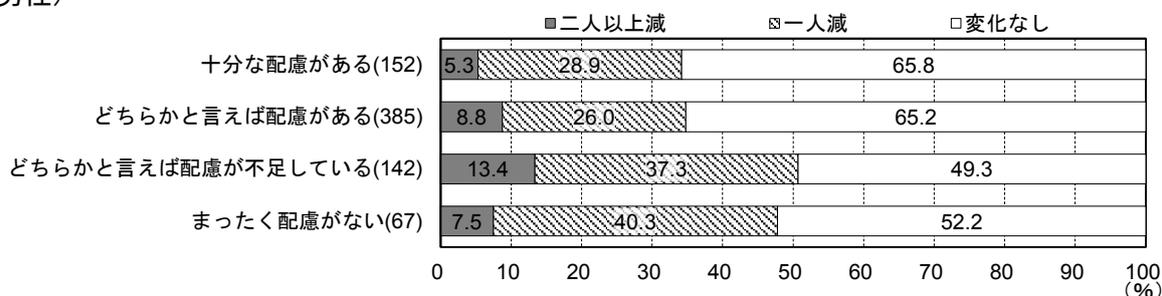
i) 出産への配慮

(職場の出産への配慮は男性の現実に持てる子ども数に強い影響力がある)

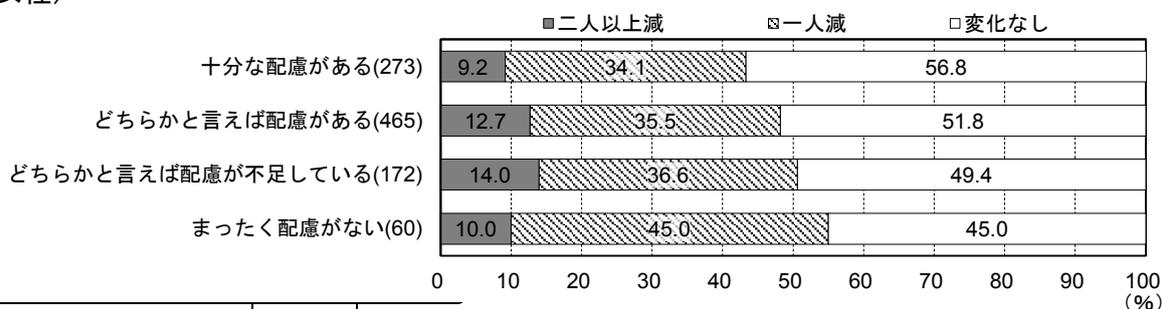
働いている人に対して、職場の出産に対する配慮を四段階で尋ねた。配慮の程度別に、理想の子ども数と現実に持てる子ども数の差をみると、男性で配慮なしと配慮ありの間に大きな差がみられる(図Ⅱ-89)。男性では「十分な配慮がある」「どちらかと言えば配慮がある」では「変化なし」が約65%であるのに対して「どちらかと言えば配慮は不足している」と「まったく配慮がない」では「変化なし」が50%程度に減少する。女性では特に変化は見られなかった。

図Ⅱ-89 職場の出産に対する配慮別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差(現実に持てる子ども数が理想の子ども数と同数か少ない就業者)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1110	0.0575
P値	0.0053	0.3787

職場の出産に対する配慮の現実に持てる子ども数への影響力をみるため、職場の配慮を「配慮あり」と「配慮なし」に二区分すると、男性の「配慮あり」では「配慮なし」に対して「変化なし」の出現率が1.9倍となり、強い影響力がみられる(表Ⅱ-35)。女性では1.2倍であった。

表Ⅱ-35 職場の出産に対する配慮の持てる子ども数への影響の強さ(就業者)

(件、%、倍)

性別	職場の出産に対する配慮：あり				職場の出産に対する配慮：なし				オッズ比
	N	変化なし	減少	オッズ	N	減少	変化なし	オッズ	
男	537	65.4	34.6	1.89	209	50.2	49.8	1.01	1.88
女	738	53.7	46.3	1.16	232	48.3	51.7	0.93	1.24

ii) 子育てへの配慮

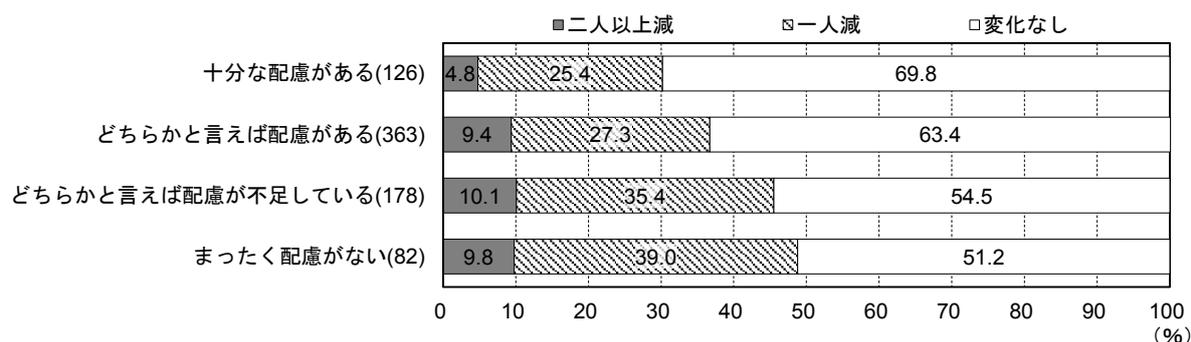
(子育てへの配慮も男性の現実に持てる子ども数に影響を及ぼす)

職場の子育てに対する配慮の影響も、出産への配慮と同様に男性で強く表れる(図Ⅱ-90)。

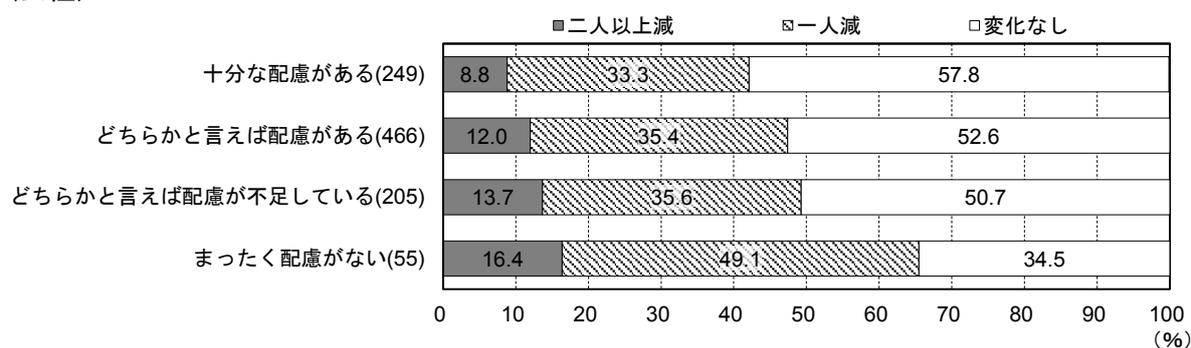
男性の「配慮あり」では「配慮なし」に対して「変化なし」の出現率が1.6倍となり、強い影響力がみられる(表Ⅱ-36)。女性では1.3倍であった。

図Ⅱ-90 職場の子育てに対する配慮別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差(現実に持てる子ども数が理想の子ども数と同数か少ない就業者)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0934	0.0767
P値	0.0042	0.0752

表Ⅱ-36 職場の子育てに対する配慮の持てる子ども数への影響の強さ(就業者)

(件、%、倍)

性別	配慮あり				配慮なし				オッズ比
	N	変化なし	減少	オッズ	N	減少	変化なし	オッズ	
男	489	65.0	35.0	1.86	260	53.5	46.5	1.15	1.61
女	715	54.4	45.6	1.19	260	47.3	52.7	0.90	1.33

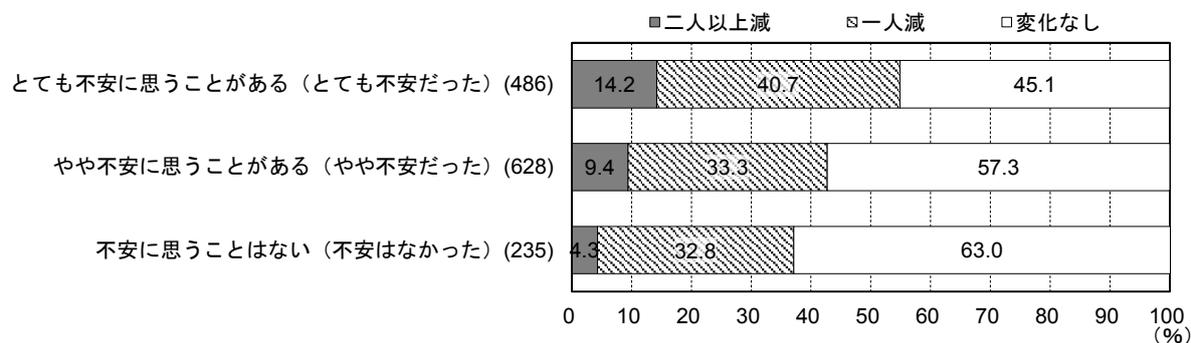
⑥妊娠・出産に関わる不安

(妊娠・出産に関わる不安は女性の現実に持てる子ども数を大きく減少させる)

女性の妊娠・出産に関わる不安の強さを3段階に分けて、理想の子ども数と現実に持てる子ども数の差をみると「とても不安」では「変化なし」は45%と少なく、「一人減」が41%、「二人以上減」が14%に達する(図Ⅱ-91)。

これに対して、「不安に思うことはない」では「一人減」は33%、「二人以上減」は4%にとどまり、不安感が少なくなるにつれて「変化なし」の割合が高くなっている。

図Ⅱ-91 妊娠・出産に関わる不安別にみた理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差(現実に持てる子ども数が理想の子ども数と同数か少ない女性)



クラメールの連関係数	0.1108
P値	0.0000

「不安なし」と「不安あり」の二区分により「変化なし」の出現率をみると、「不安なし」では「不安あり」に対して「変化なし」の出現率が1.6倍になる。妊娠・出産に関する不安は、女性の現実に持てる子ども数に対して強い影響力を持つとみられる(表Ⅱ-37)。

表Ⅱ-37 妊娠・出産に関わる不安の持てる子ども数への影響の強さ(女性)

性別	妊娠・出産に関わる不安：なし			妊娠・出産に関わる不安：あり			オッズ比
	N	変化なし	減少	N	変化なし	減少	
女	1114	63.0	37.0	235	52.0	48.0	1.57

(件、%、倍)

Ⅱ-2 中間アウトカム関連の集計・分析

1. 交際状況と出会いの機会

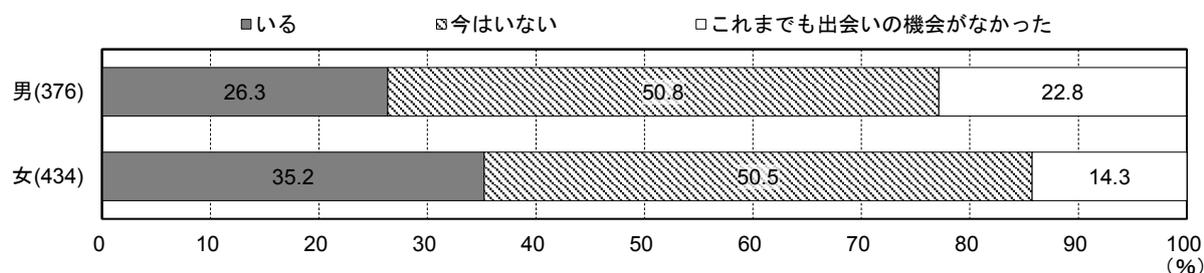
(1) 交際状況

(交際状況は地域により違いがみられる)

交際状況は未婚者の結婚意欲や結婚希望の実現に強い影響を与えていた。調査では、現在、交際相手が「いる」は男性 26%、女性 35%であり、女性の方が多いため(図Ⅱ-92)。「今はいない」は男女で変わらず、「これまでも出会いの機会がなかった」は男性の方が多いため。

交際状況は、地域で差がみられる(図Ⅱ-93)。男女とも、現在、交際している相手が「いる」が、備前、備中、美作の順で多い。「これまでも出会いの機会がなかった」は、男性では備前・備中に比べて美作は約 10 ポイント多く、女性では備前に比べ備中・美作は約 10 ポイント多い。

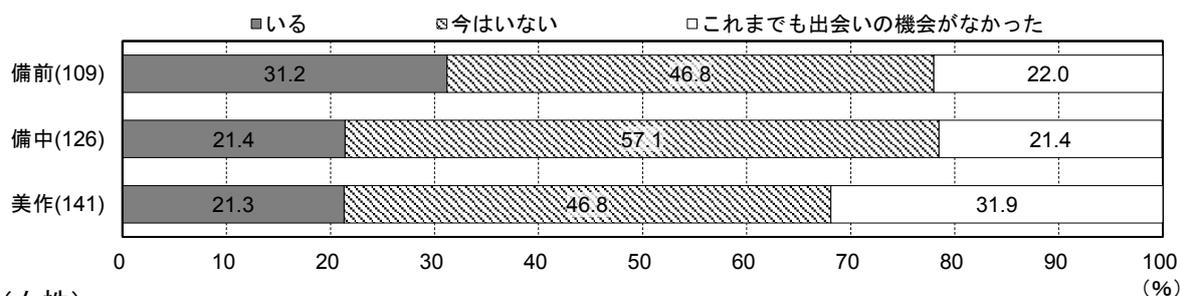
図Ⅱ-92 交際状況(未婚者、単数)



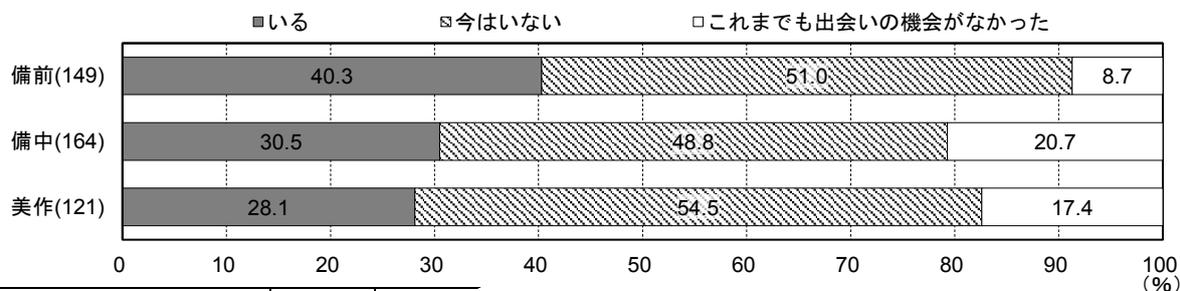
(注) 県民局別男女未婚者人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ-93 地域別にみた交際状況(未婚者、単数)

(男性)



(女性)

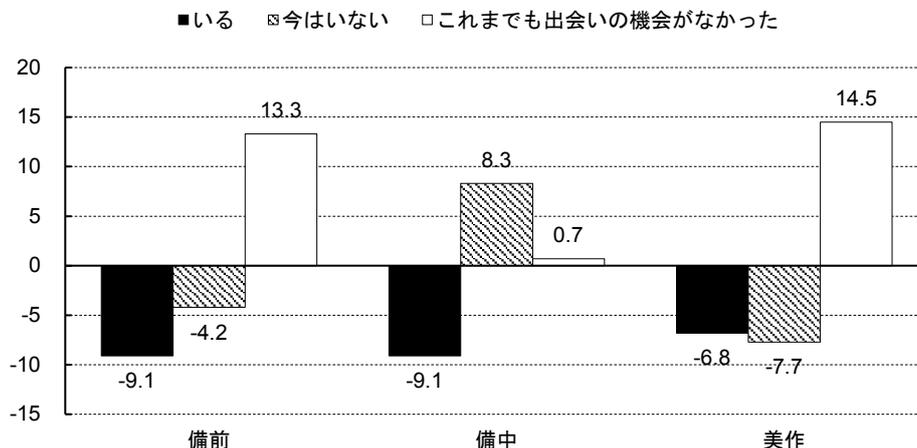


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1063	0.1151
P値	0.0752	0.0215

(男女の交際状況のずれをみると備前と美作が大きい)

備前は男女とも「これまでに出会いの機会がなかった」が3地域の中で最も少ないが、男女の回答結果の差を「男性－女性」で算出して地域別に比較すると、備前と美作は同程度である(図II-94)。

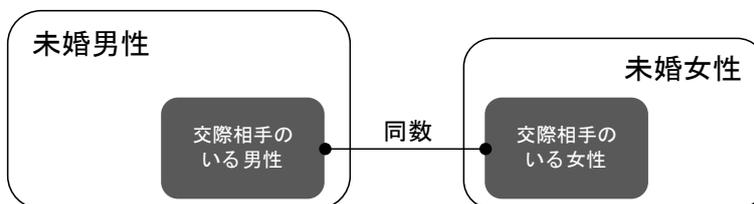
図II-94 県民局別にみた交際状況における男女の回答割合の差(未婚者)



現在、交際相手が「いる」に男女で差が生じる理由の一つは、調査対象となった年齢における未婚者数の男女差が考えられる(図II-95)。一般に結婚を求める年齢階層では女性より男性が多く、人口減少局面で、男性の年齢の方が高いカップルが多いとさらに差が生じる。このため、人口が多い男性の方で交際相手が「いる」割合が低くなると考えられる。

この他、男女による交際状況の認識の差異やアンケートの回収状況の差(交際相手がいる男性の回収率が低い)といったバイアスが要因となっている可能性もある。また、交際相手と出会った機会をみると、女性の方が「SNS等、インターネットを通じて」が多く、県外に交際相手がいる割合が男性より女性に多い可能性も考えられる。

図II-95 未婚者数の男女差が、交際相手が「いる」割合に影響する理由



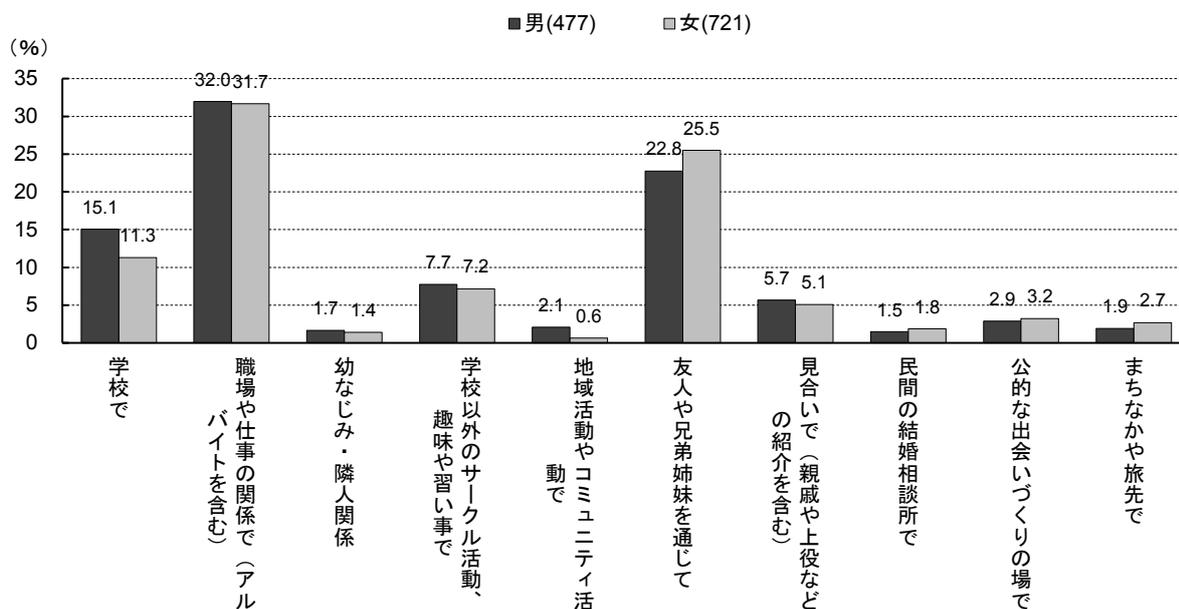
(2) 出会いの機会

(備前は「職縁」と「学縁」が多い)

出会いがなければ交際は生まれなため、男女の出会いの機会は、交際状況の決定要因の一つである。そこで、分析では出会いの機会の状況を詳しく把握する。

交際中の未婚者が相手と出会った機会と既婚者が配偶者と出会った機会をいっしょに集計すると、男性では、「職場や仕事の関係で(アルバイトを含む)」と「友人や兄弟関係を通じて」が多い。これに次いで、「学校で」の回答が多くなっている(図Ⅱ-96)。

図Ⅱ-96 未婚者の交際相手・既婚者の配偶者と出会った機会(単数)



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

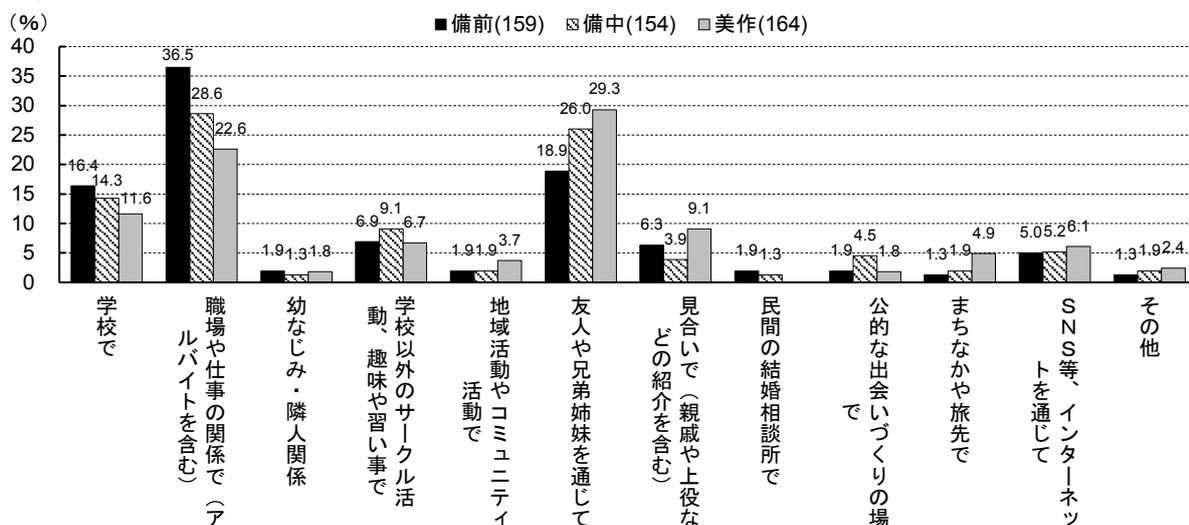
(県民局別の集計)

交際中の未婚者が相手と出会った機会と既婚者が配偶者と出会った機会を合わせ、県民局別に集計した(図Ⅱ-97)。最も回答が多い「職場や仕事の関係で」(職縁)は備前が37%であるのに対して美作では23%である。「学校で」(学縁)も備前と美作の差が大きい。反対に「友人や兄弟姉妹を通じて」は美作で29%であるが備前では19%である。

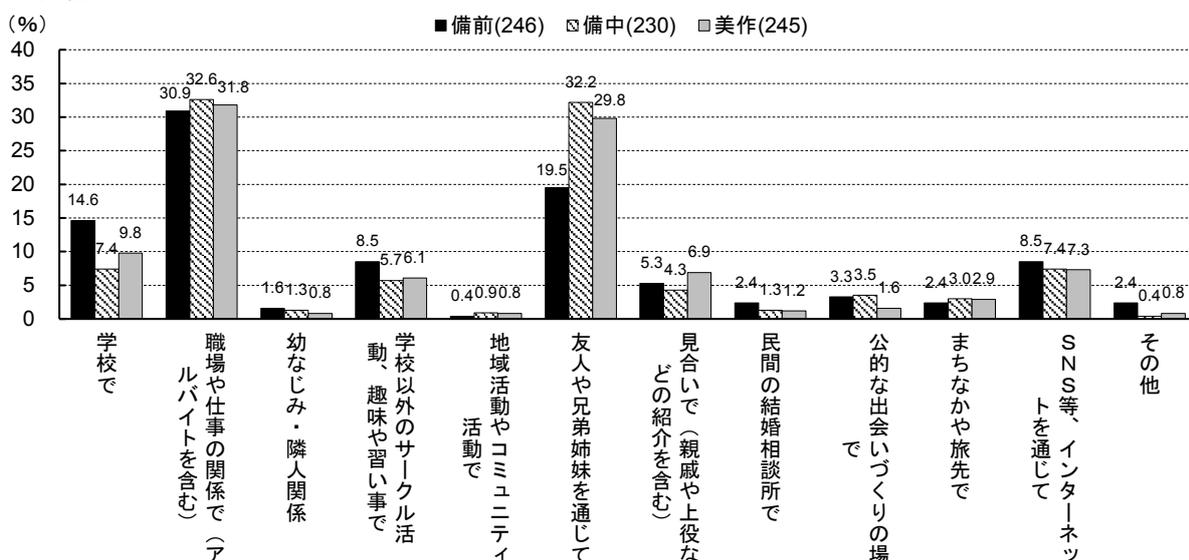
この他に、地域で特徴がみられるものは、「学校以外のサークル活動、趣味や習い事で」は備中、「見合いで」は美作が多い。また、「SNS等、インターネットを通じて」がどの地域でも5%を上回っており、注目される。

図Ⅱ-97 県民局別にみた未婚者の交際相手・既婚者の配偶者と出会った機会(単数)

(男性)



(女性)



(3) 出会いの機会に影響を及ぼす要因

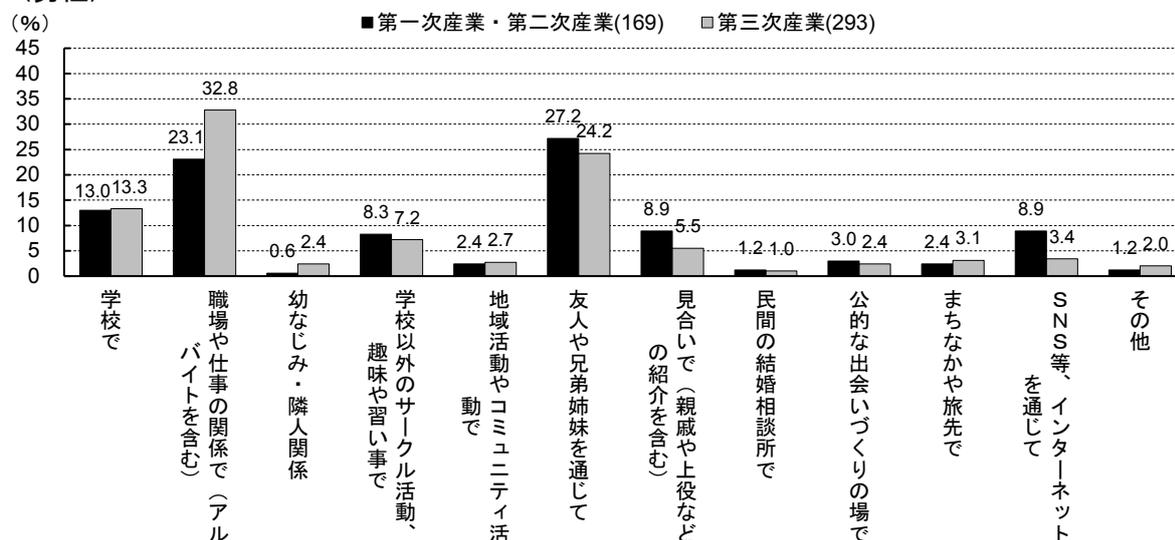
①職縁の産業による差異

(男女の職縁は産業によって大きな差がある)

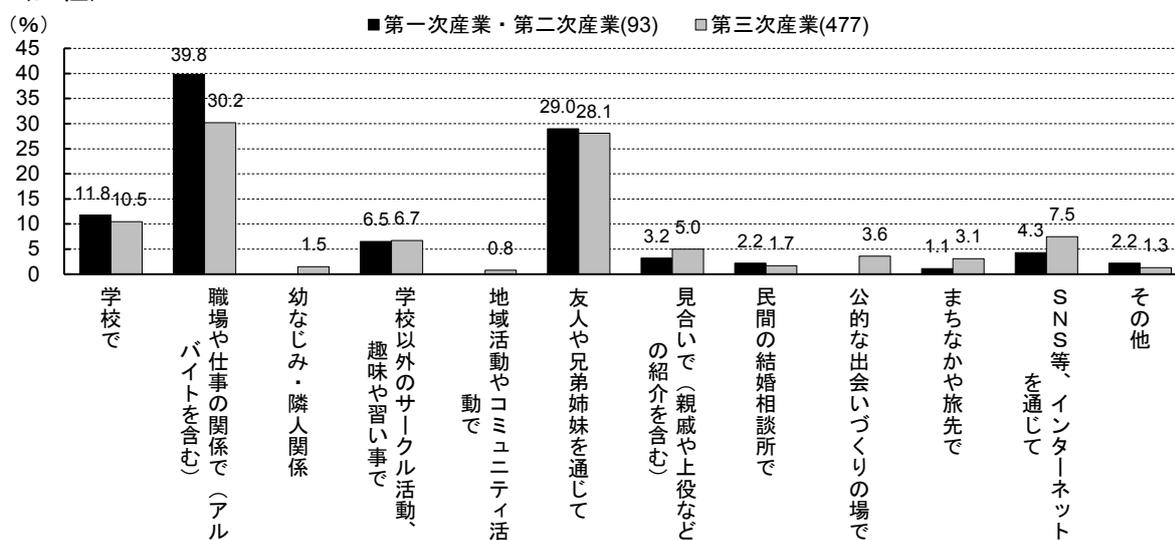
現在就業している者を対象に勤め先の産業別に出会った機会をみた(図Ⅱ-98)。その結果、「職縁」に男女や産業で明らかな差異がみられる。

男性は職縁により交際相手・配偶者と出会った者は第一次産業・第二次産業で23%であるのに対して第三次産業では33%に上る。反対に、女性の職縁は、第一次産業・第二次産業は40%、第三次産業30%であり、男性と正反対の結果となった。これらの背景には、産業間の就業者性比の差異があると考えられる。

図Ⅱ-98 勤め先産業別にみた未婚者の交際相手・既婚者の配偶者と出会った機会(単数)(男性)



(女性)



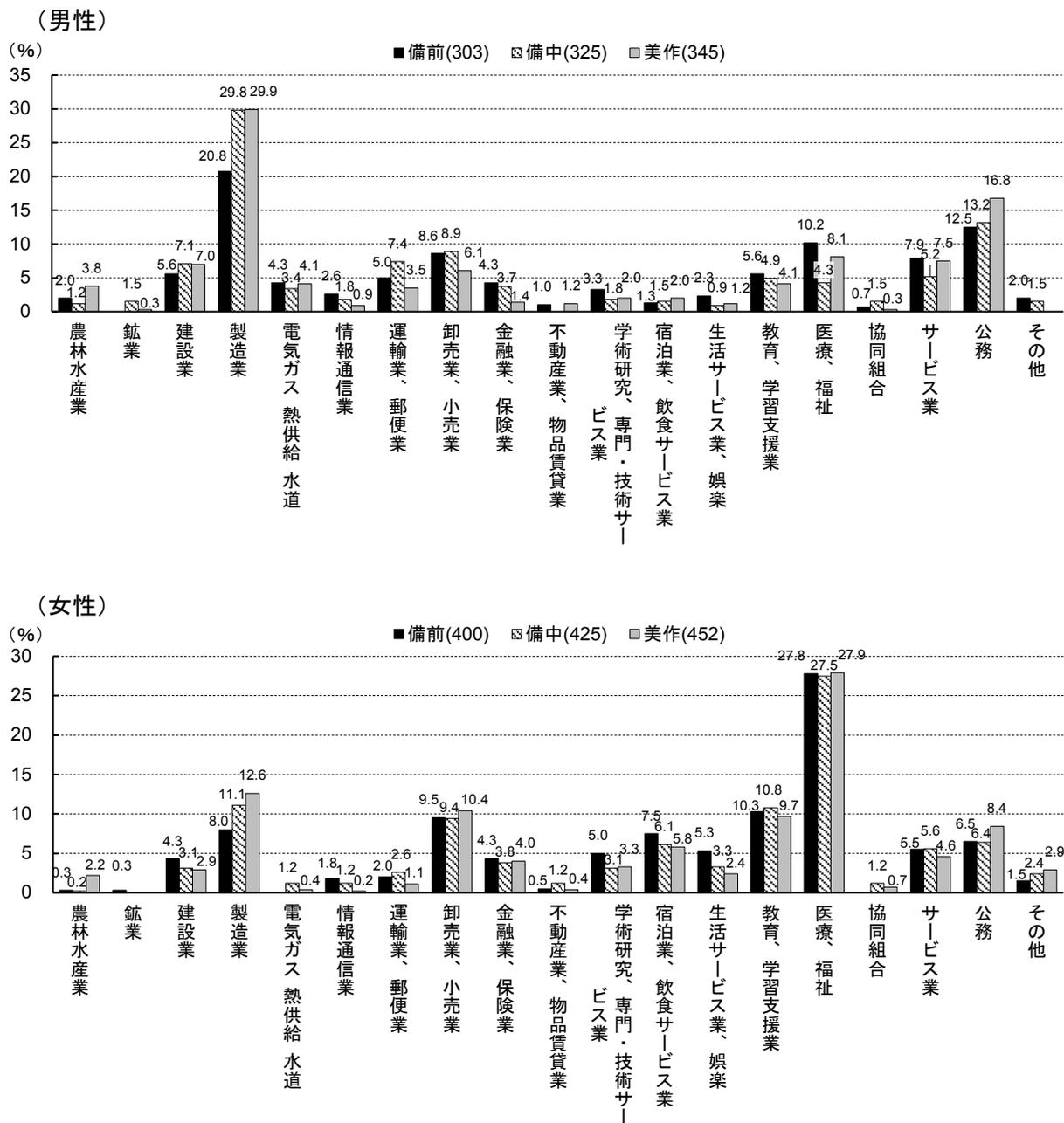
(県民局別の就業者による産業構造)

就業中の者を対象に、男女ごとに地域別の勤め先産業（産業中分類）の割合をみると、おおよそ第一次産業と第二次産業は備前に比べ備中・美作に多く、かつ男性の割合が高いことがわかる（図Ⅱ－99）。

反対に、第三次産業のうち、「学術研究、専門・技術サービス産業」「宿泊業」「生活サービス、娯楽」等は、備前で女性就業者の構成比が高い。

こうした地域の産業構造の差異がもたらす職場の性比の違いが男女の「職縁」の差となって、地域の交際状況の差に表れていることが考えられる。

図Ⅱ－99 県民局別にみた勤め先産業（就業者、単数）



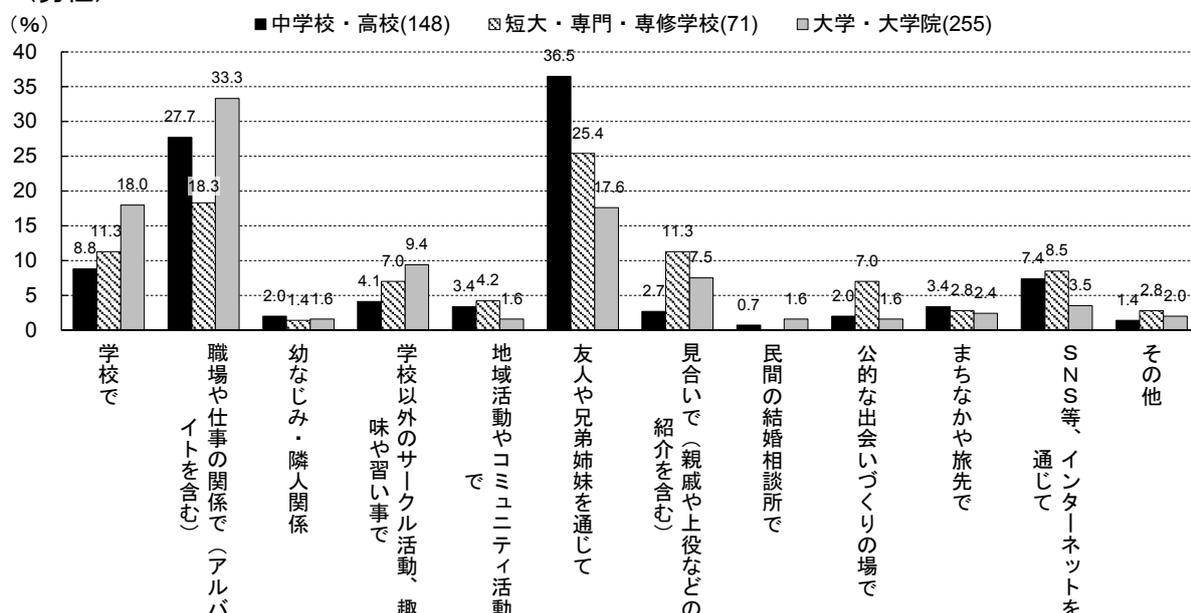
②学縁の学歴による差異

(学縁は学歴により大きな差がある)

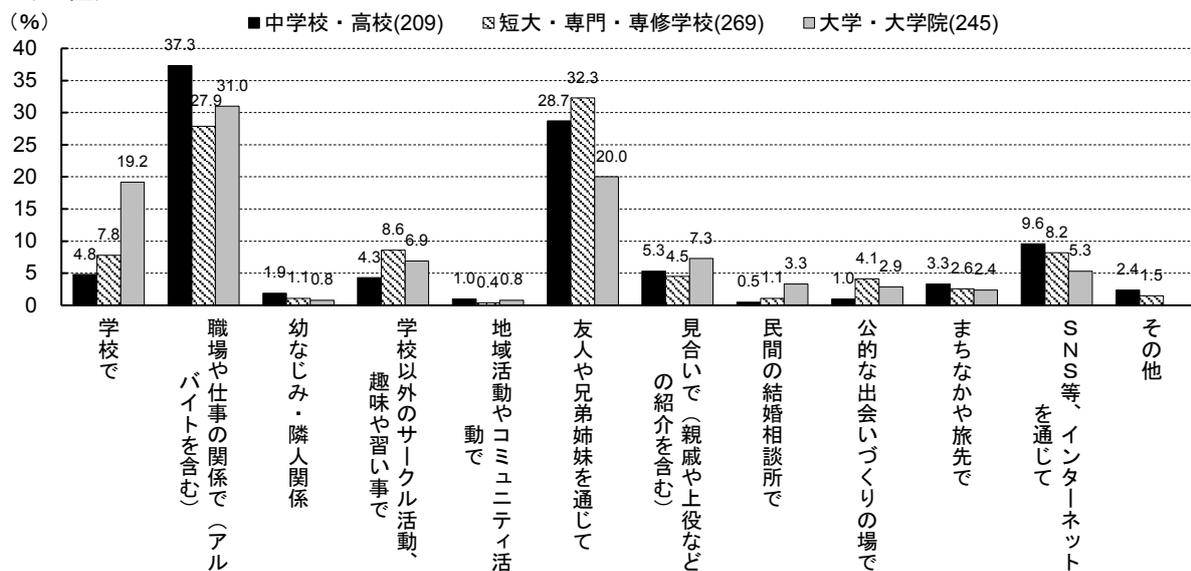
学生であった期間に着目して学歴を三区別して集計すると、男女とも交際相手・配偶者と出会った機会のうち「学校で」において明らかな差異が表れる(図Ⅱ-100)。大学・大学院では、男性の18%、女性の19%は「学校で」が出会った機会になっている。中学校・高校は「友人や兄弟姉妹を通じて」が多く、これを「家族縁・地縁」と表現することも考えられる。

最終学歴は地域別で差がみられる。備前、備中、美作の順で、大学や大学院の割合が大きく、この傾向は男性で顕著である(図Ⅱ-101)。これも産業構造が影響を与えているとみられる。

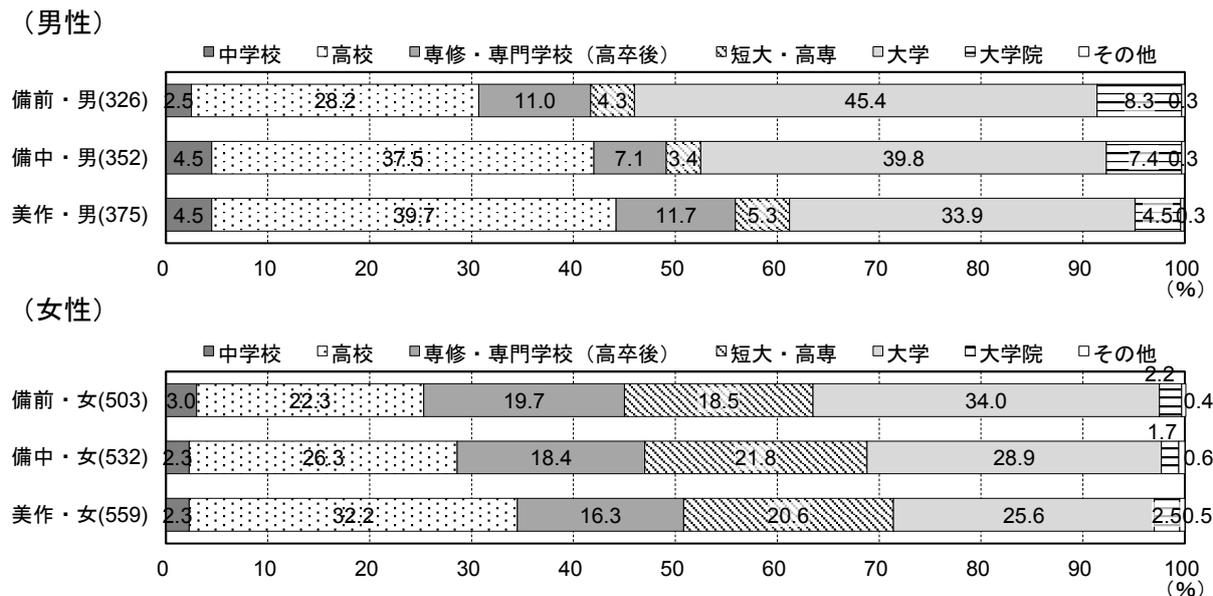
図Ⅱ-100 最終学歴別にみた未婚者の交際相手・既婚者の配偶者と出会った機会(単数)(男性)



(女性)



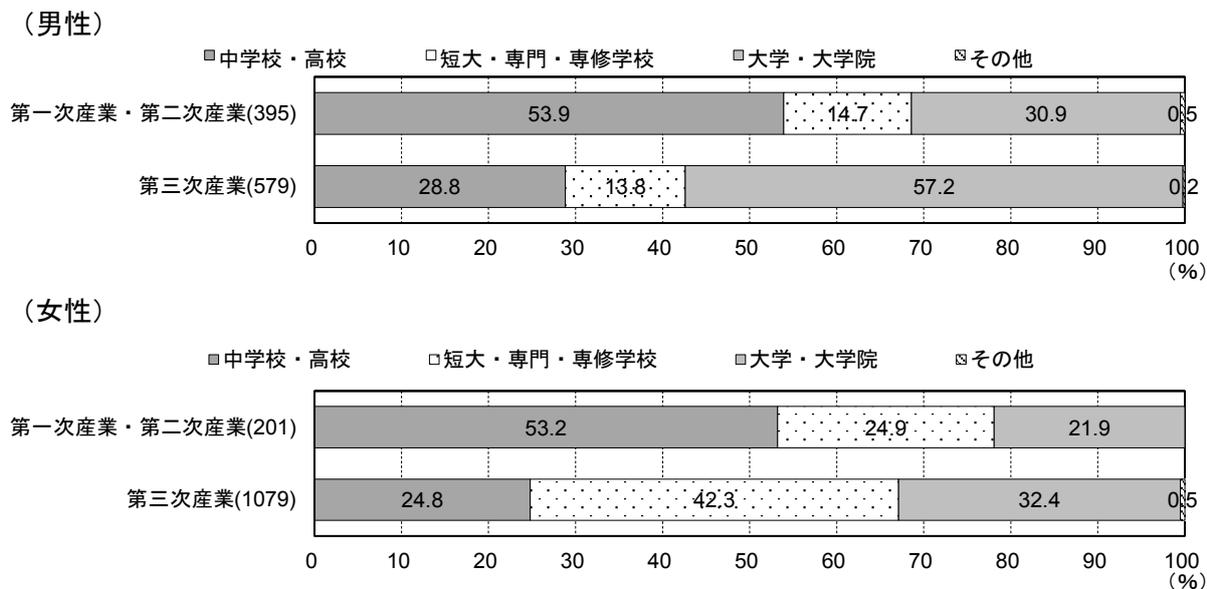
図Ⅱ－１０１ 地域別にみた最終学歴（単数）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1105	0.0814
P値	0.0118	0.0488

地域別で最終学歴に差がみられる理由として、卒業後の就職先となる産業の集積状況が影響していることが考えられる。第一次産業・第二次産業に比べて第三次産業は「大学・大学院」が多く、第三次産業の割合が高い備前地域で「大学・大学院」の割合が高くなっていると推察される(図Ⅱ－１０２)。

図Ⅱ－１０２ 産業（二部門）にみた最終学歴（単数）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2751	0.2282
P値	0.0000	0.0000

(男性の交際状況の地域差は職縁や学縁による差が大きい)

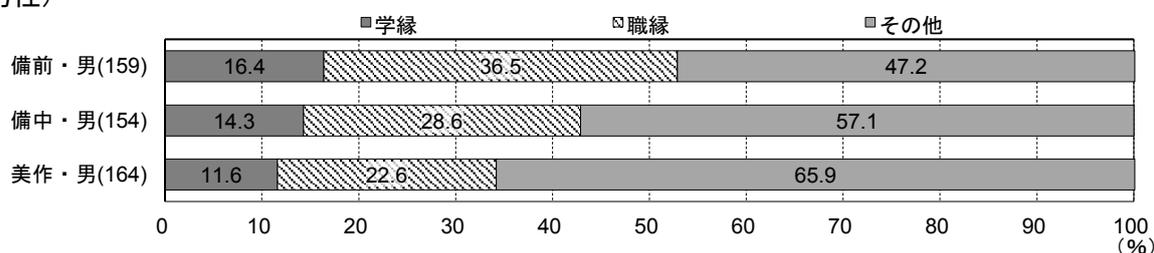
出会った機会を「学縁」「職縁」「その他」の三区分として、地域で比較した(図Ⅱ-103)。男性では、「学縁」と「職縁」の両方が備前、備中、美作の順で大きい。

男性の美作は「学縁」と「職縁」の割合が少ないだけ「その他」が大きい。しかしながら、男性において「これまでも出会いの機会がなかった」が最も多い地域であり、「その他」が「学縁」と「職縁」の低さを補うほど多様な出会いを提供してはいないと考えられる。

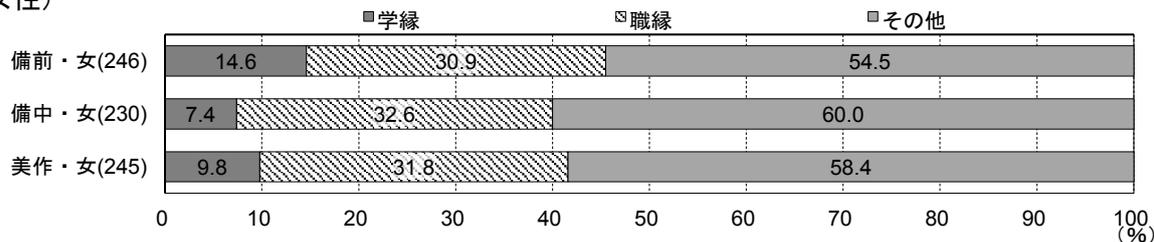
一方、女性は「学縁」が備前で多いといった特徴がみられる。学生人口は直接には地域の20歳代前半の出生率を低めるよう働くものの、卒業後の20歳代後半以降に「学縁」で出会った結婚を増やすよう影響していると考えられる。

図Ⅱ-103 県民局別にみた出会った機会(三区分)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1106	0.0691
P値	0.0200	0.1416

2. 家族観・子ども観

家族観や子ども観は、結婚意欲や理想の子ども数に対して強い影響を及ぼしていた。以下では、家族観・子ども観の回答状況を詳しく集計するとともに、これらに影響を及ぼす要因を把握した。

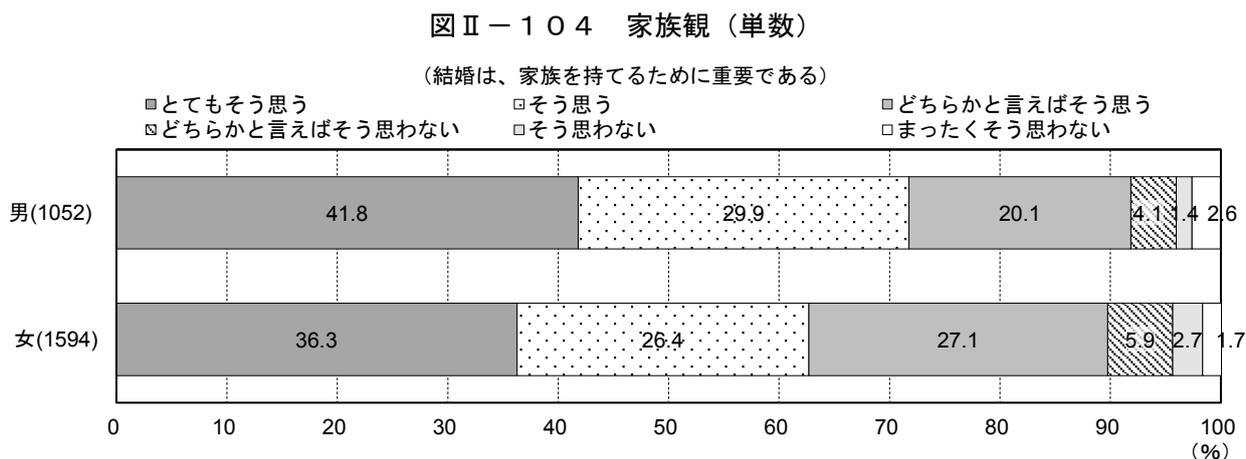
(1) 家族観・子ども観の把握

(家族観を強く肯定する者は約40%)

「結婚は、家族を持てるため重要である」という家族観は、結婚意欲に対して強い影響を及ぼしていた(表Ⅱ-5)。

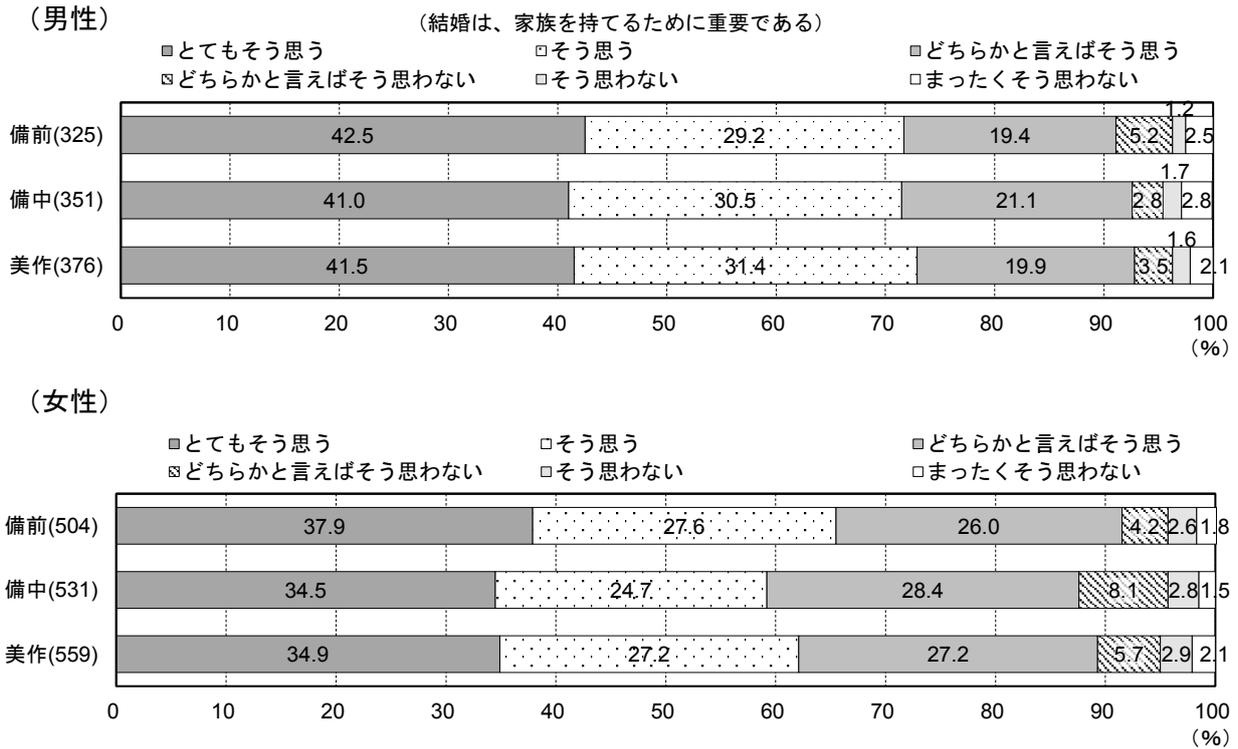
上記の家族観に対して、「とてもそう思う」と強く肯定する者は、男性42%、女性36%である(図Ⅱ-104)。「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると男性72%、女性63%であり、男女に9ポイントの差が表れる。家族観は男性でやや肯定的意見が多い。

県民局別や年齢階層別では回答に差はみられない(図Ⅱ-105、図Ⅱ-106)。



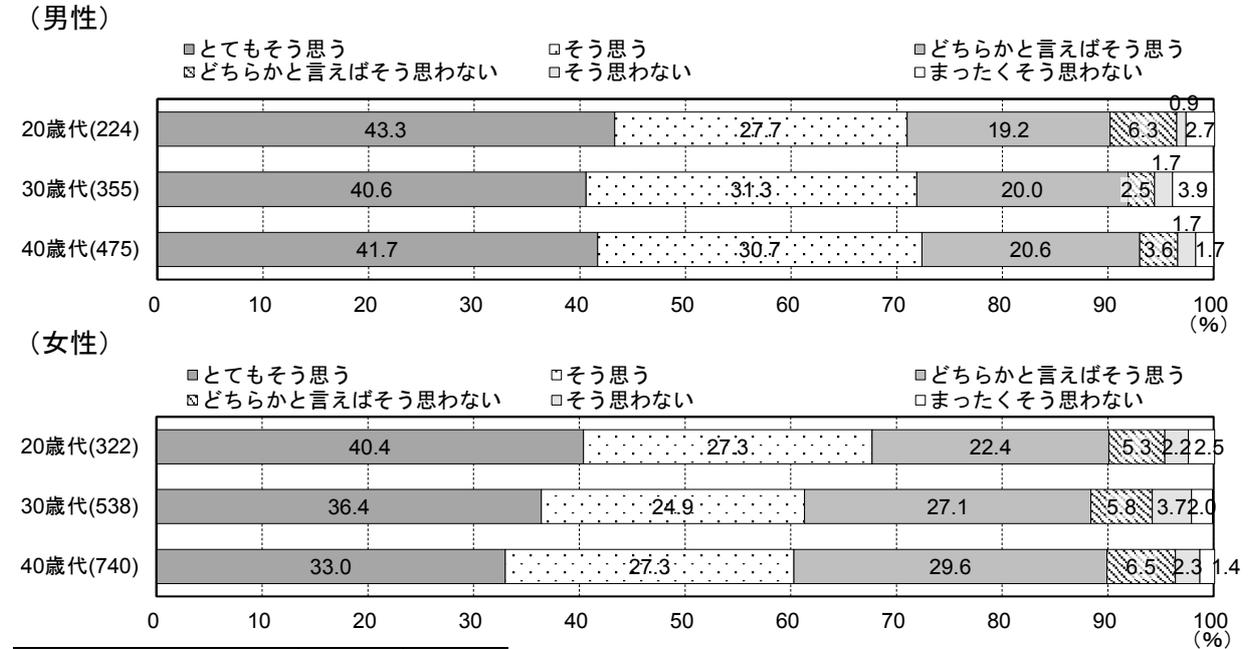
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ－１０５ 県民局別にみた家族観



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0434	0.0561
P値	0.9489	0.4366

図Ⅱ－１０６ 年齢階層別にみた家族観



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0716	0.0659
P値	0.3739	0.1774

(子ども観を強く肯定する者は50%弱)

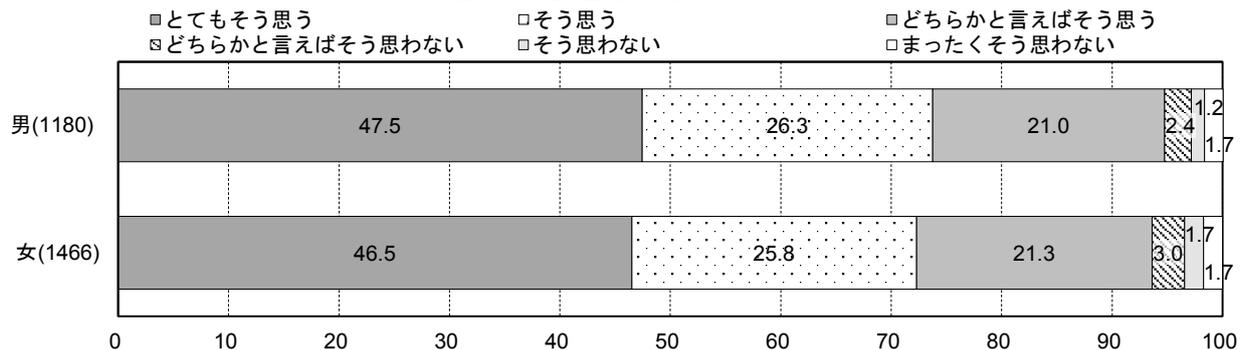
「子どもがいたら生活が楽しく豊かになる」という子ども観は、理想の子ども数に対して強い影響を及ぼしていた(表Ⅱ-26)。

上記の子ども観について「とてもそう思う」と強く肯定する者は、男性48%、女性47%である(図Ⅱ-107)。男女の回答にほとんど差はない。

県民局別や年齢階層別でも差異はみられない(図Ⅱ-108、図Ⅱ-109)。

図Ⅱ-107 子ども観(単数)

(子どもがいたら生活が楽しく豊かになる)

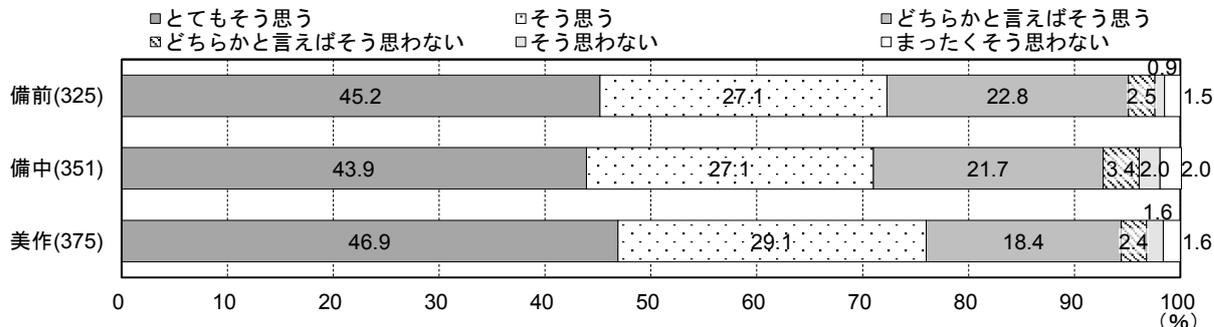


(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

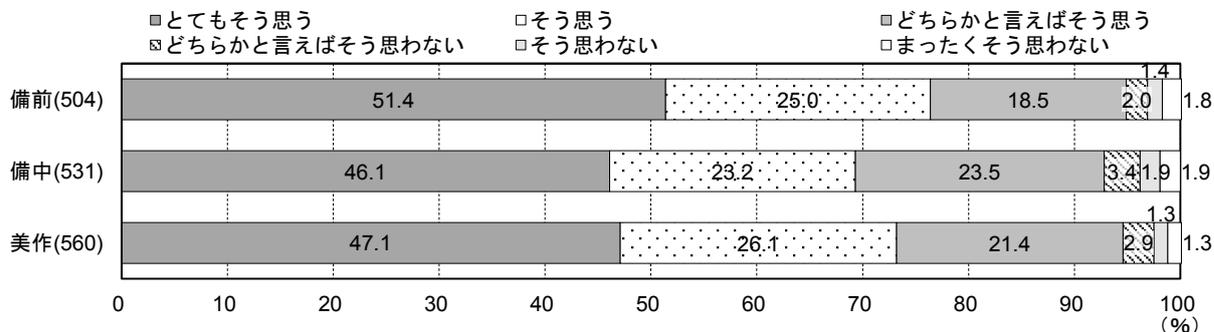
図Ⅱ-108 県民局別にみた子ども観

(男性)

(子どもがいたら生活が楽しく豊かになる)



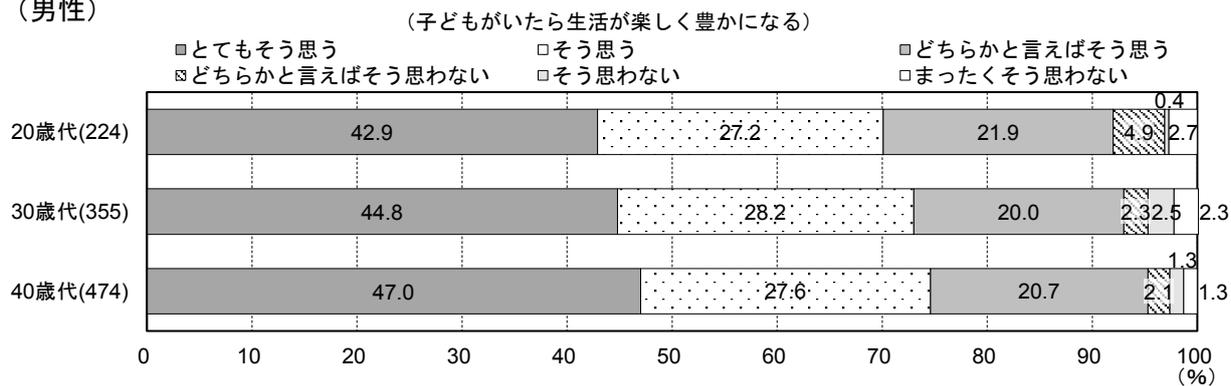
(女性)



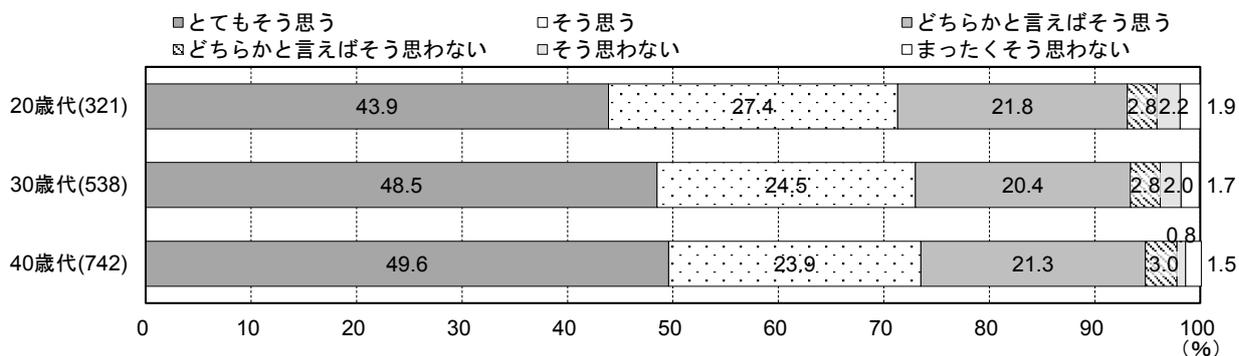
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0481	0.0538
P値	0.9002	0.5090

図Ⅱ-109 年齢階層別にみた子ども観

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0755	0.0486
P値	0.2856	0.6703

(2) 家族観・子ども観に影響を及ぼす要因

① 社会関係性

本調査では、回答者の暮らしている地域の社会関係性^{*}や社会関係性に対する志向を測定するため、以下の7項目の質問をリッカート形式により行った。

^{*}人々間の信頼関係やつながりの程度を表す「ソーシャル・キャピタル」は「社会関係資本」と訳されることが多いが、本報告書では簡略化して「社会関係性」と言い表す。

- (1) 近所には信頼して相談できる友人・知人がいる
- (2) 伝統行事や町内会活動などが活発である
- (3) スポーツ活動や趣味の活動が活発である
- (4) 地域活動で同年代の人とふれ合う機会が多い
- (5) 自分は近所で挨拶や立ち話をよくする
- (6) 自分は地域活動への参加に積極的である
- (7) 自分は地域の課題に関心がある

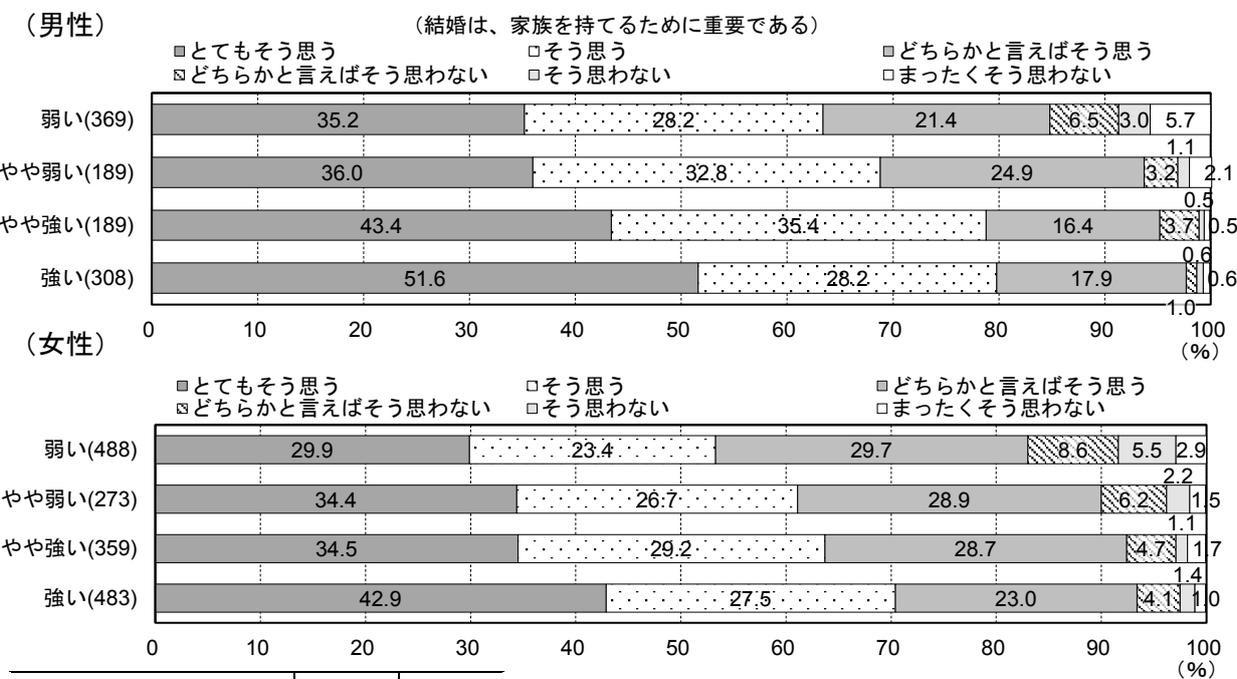
7項目の回答から主成分分析により第一主成分を算出し、指標「社会関係性」を作成した。主成分得点に基づき、「社会関係性」を「弱い」「やや弱い」「やや強い」「強い」の四つに区分した。

i) 家族観

(社会関係性には家族観に強い影響を及ぼす)

4区分した社会関係性の強さ別に家族観を集計すると、男女とも社会関係性が強いほど、家族観が強まる傾向がみられる(図Ⅱ-110)。

図Ⅱ-110 社会関係性の強さ別にみた家族観(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1412	0.1063
P値	0.0000	0.0000

社会関係性が家族観に及ぼす影響の強さは、社会関係性が「強い」と家族観の「積極的肯定(とてもそう思う+そう思う)」の出現率が男性で2.1倍、女性で1.6倍になる(表Ⅱ-38)。

表Ⅱ-38 社会関係性の家族観に対する影響の強さ

(件、%、倍)

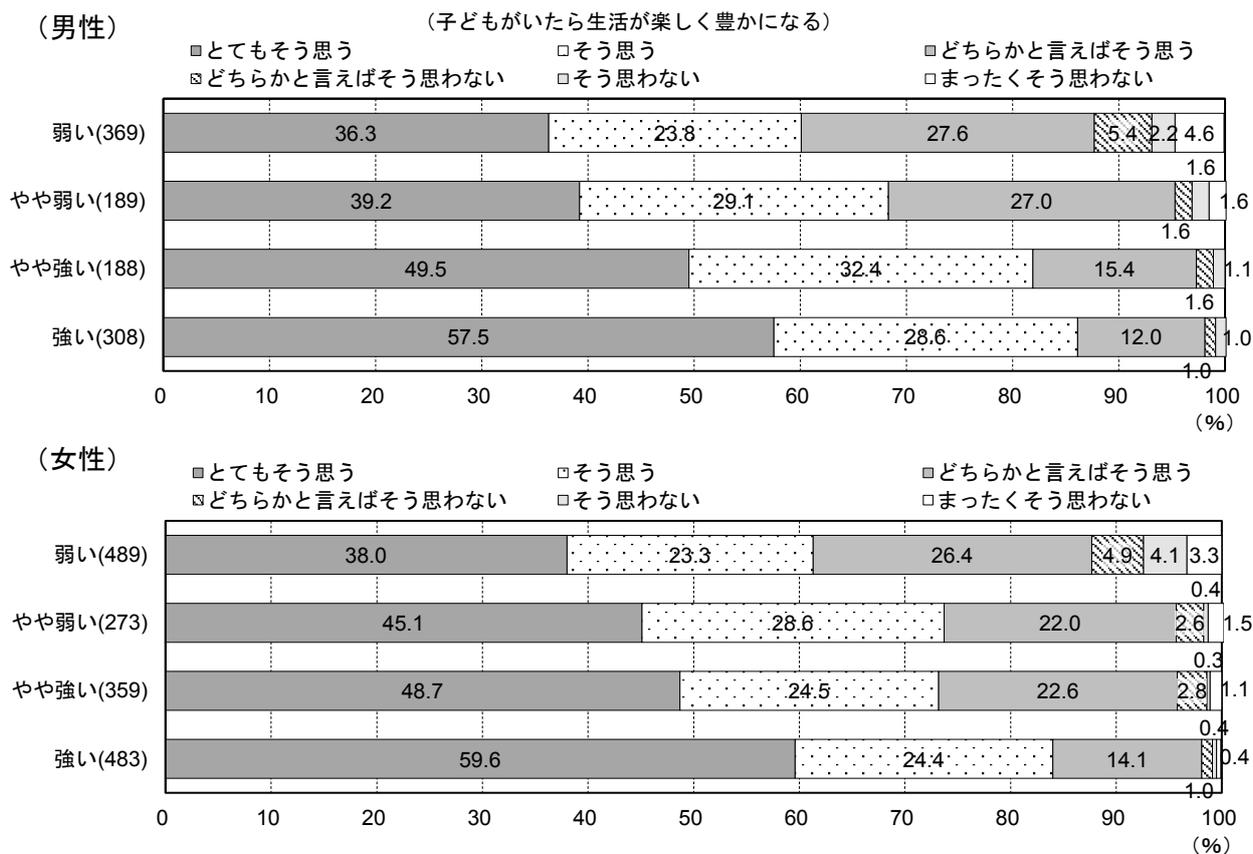
性別	社会関係性・強い				社会関係性・弱い				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	497	79.5	20.5	3.88	558	65.2	34.8	1.87	2.07
女	842	67.6	32.4	2.09	761	56.1	43.9	1.28	1.63

ii) 子ども観

(社会関係性は子ども観に対してかなり強い影響力を及ぼす)

子ども観も、社会関係性の強いほど男女とも「とてもそう思う」が増加している(図Ⅱ-111)。社会関係性が子ども観に及ぼす影響の強さをみると、社会関係性が「強い」と子ども観の「積極的肯定」の出現率が男性で3.2倍、女性で2.0倍となる(表Ⅱ-39)。比較すると、社会関係性の影響は女性よりも男性で強く表れ、家族観より子ども観の方に強く作用するとみられる。特に、男性の子ども観のオッズ比は3.2倍であり、かなり強い影響を示している。

図Ⅱ-111 社会関係性の強さ別にみた子ども観(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1679	0.1457
P値	0.0000	0.0000

表Ⅱ－３９ 社会関係性の子ども観に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	社会関係性・強い				社会関係性・弱い				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	496	84.5	15.5	5.45	558	62.9	37.1	1.70	3.22
女	842	79.5	20.5	3.88	762	65.7	34.3	1.92	2.02

②家族経験・子ども経験

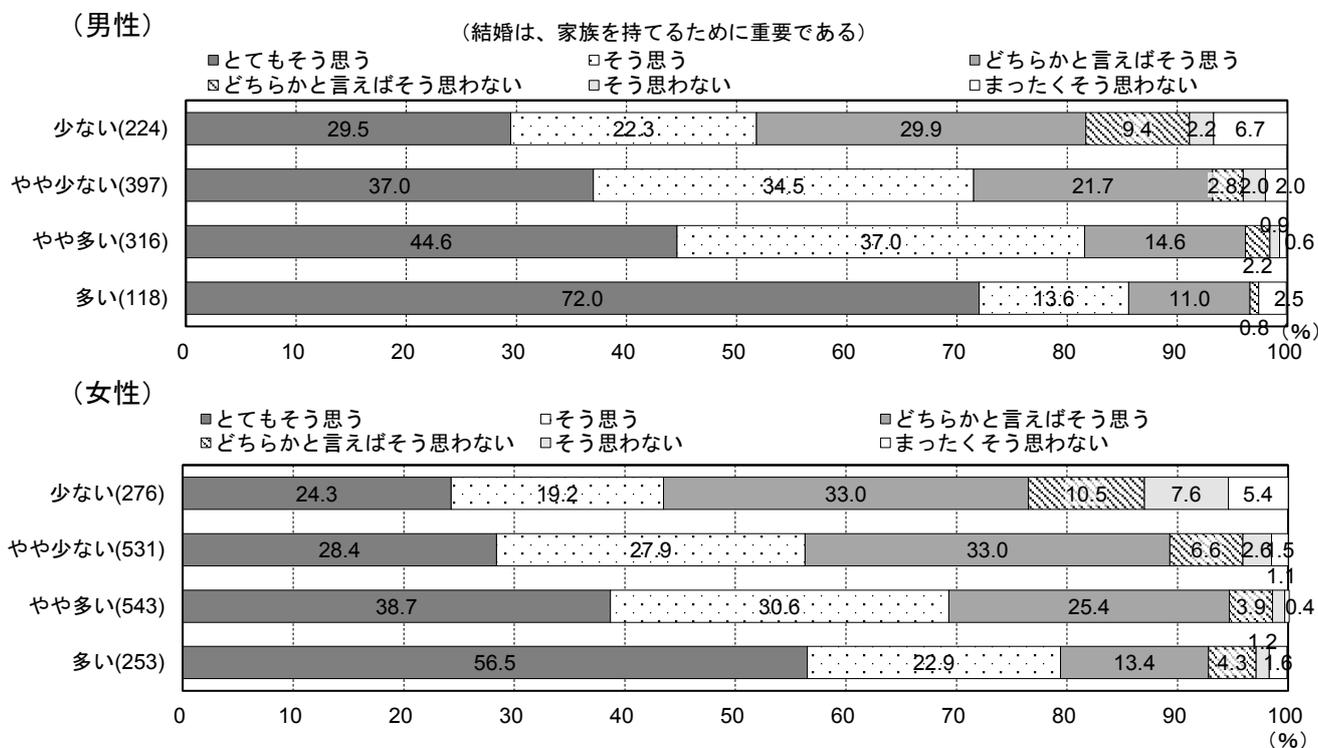
調査では、家族観・子ども観等が、身近な人の結婚や子どもからどのような影響を受けているか調べるため、結婚については「両親や親せきに仲の良い夫婦がいた」「友人に仲の良い夫婦がいた」という経験を把握した。また、子どもについては「小さい子どもとふれ合う機会がよくあった」「身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多かった」という経験を把握した。

i) 家族観

(家族経験は家族観に対してかなり強い影響力を及ぼす)

「両親や親せきに仲の良い夫婦がいた」「友人に仲の良い夫婦がいた」の二つの質問の回答を主成分分析で合成し、指標「家族経験」を作成した。「家族経験」別に家族観を集計すると、男女とも正の相関が表れる。男性では、「家族経験」が「少ない」では、家族観の「とてもそう思う」が30%であるのに対して「多い」では72%に達する(図Ⅱ－112)。女性も同様の傾向がみられる。

図Ⅱ－112 家族経験別にみた家族観(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2010	0.1833
P値	0.0000	0.0000

「家族経験」を「多い」と「少ない」の二区分とし、「家族経験」が結婚観に及ぼす影響の強さを算出した(表Ⅱ-40)。「家族経験」が「多い」と、「少ない」に対して結婚観に対して「積極的肯定(とてもそう思う+そう思う)」の者の出現率が男性では2.6倍になる。女性では2.4倍であり、男女ともかなり強い影響力がみられる。

表Ⅱ-40 家族経験の家族観に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	家族経験・多い				家族経験・少ない				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	434	82.7	17.3	4.78	621	64.4	35.6	1.81	2.64
女	796	72.5	27.5	2.64	807	51.9	48.1	1.08	2.44

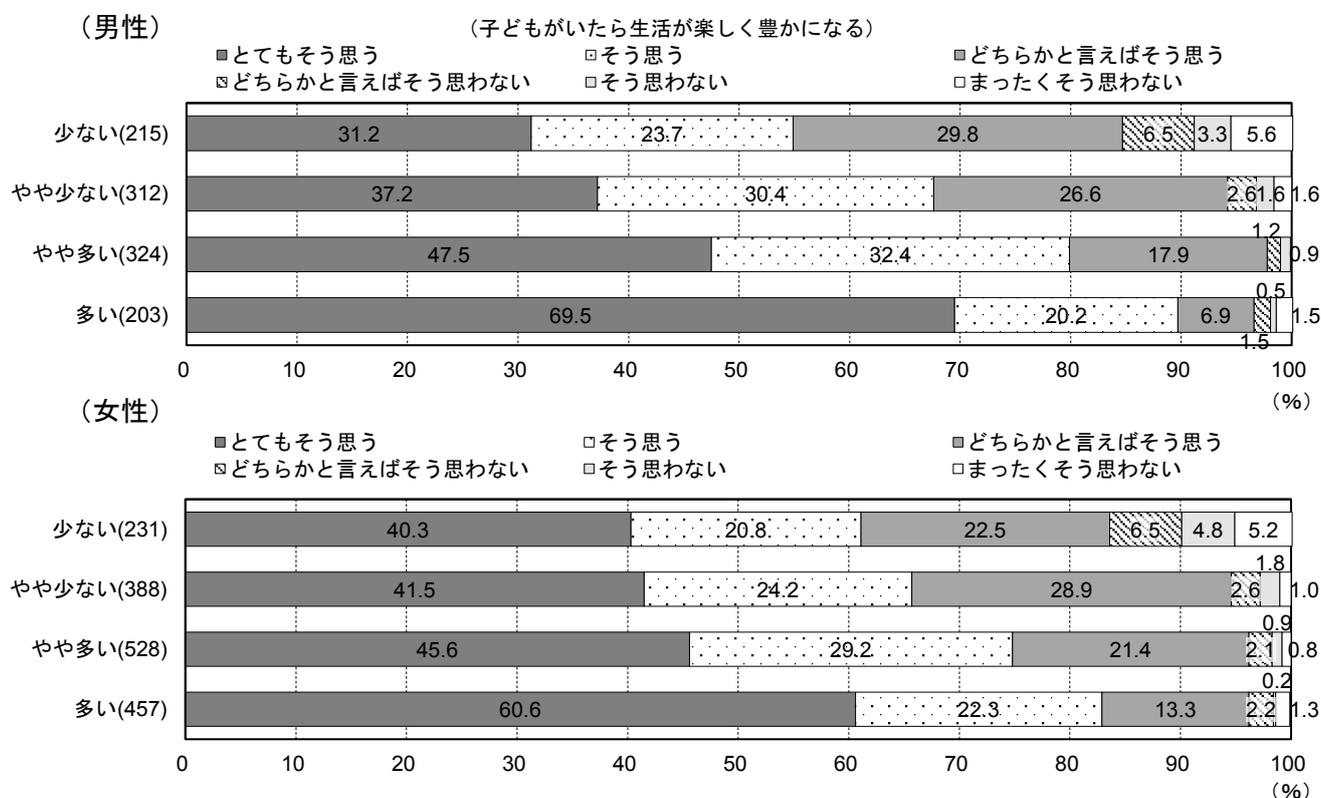
ii) 子ども観

(子ども経験は男性の子ども観に対して極めて強い影響力を及ぼす)

「小さい子どもとふれ合う機会がよくあった」「身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多かった」の二つの質問の回答を主成分分析で合成し、指標「子ども経験」を作成した。

「子ども経験」の多さ別に子ども観を集計すると、男女とも正の相関が表れる。特に男性では、「子ども経験」が「少ない」では、子ども観の「とてもそう思う」が31%であるのに対して「多い」では70%に達する(図Ⅱ-113)。女性も同様の傾向がみられるが、男性ほど明確でない。

図Ⅱ-113 子ども経験別にみた子ども観(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1997	0.1513
P値	0.0000	0.0000

「子ども経験」を「多い」と「少ない」の二区分とし、子ども観に及ぼす影響の強さを算出した（表Ⅱ－４１）。「子ども経験」が「多い」と、「少ない」に対して子ども観の「積極的肯定」の出現率が男性で3.1倍となり、極めて強い影響力が表れた。女性では2.1倍であった。

表Ⅱ－４１ 子ども経験の子ども観に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	子ども経験・多い				子ども経験・少ない				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	527	83.7	16.3	5.13	527	62.4	37.6	1.66	3.09
女	985	78.6	21.4	3.67	619	64.0	36.0	1.78	2.07

③伝統的な男女の役割分担意識

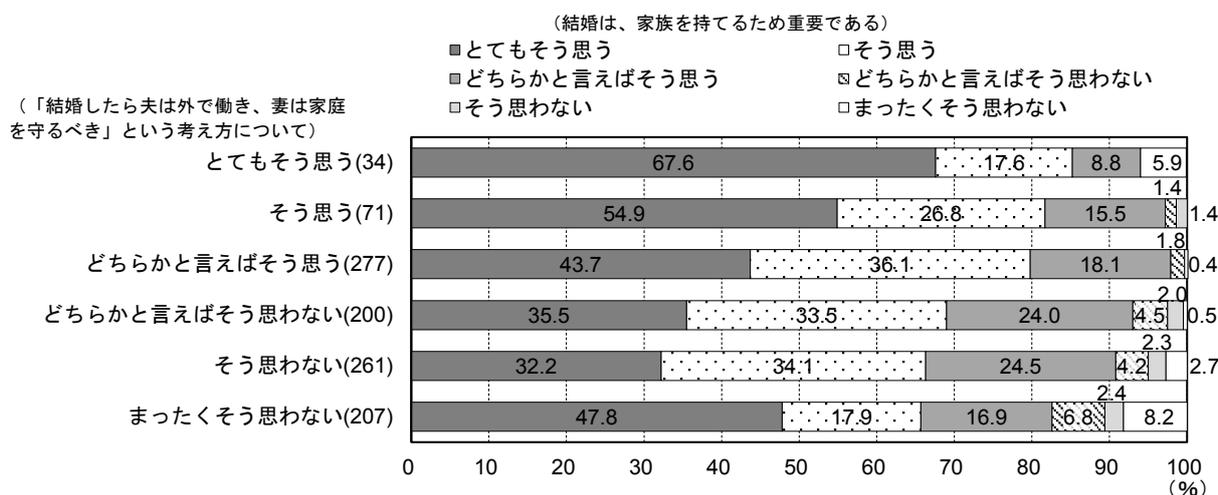
i) 家族観

図Ⅱ－１１４の集計結果からは、家族観は伝統的な男女の役割分担意識と緩やかに結びついていると考えられる。家族を持つことを重要視する価値観の強さは結婚意欲を高め、理想の子ども数を多くするよう働くものの、その背景にいくらか伝統な役割分担意識が影響している可能性がある。

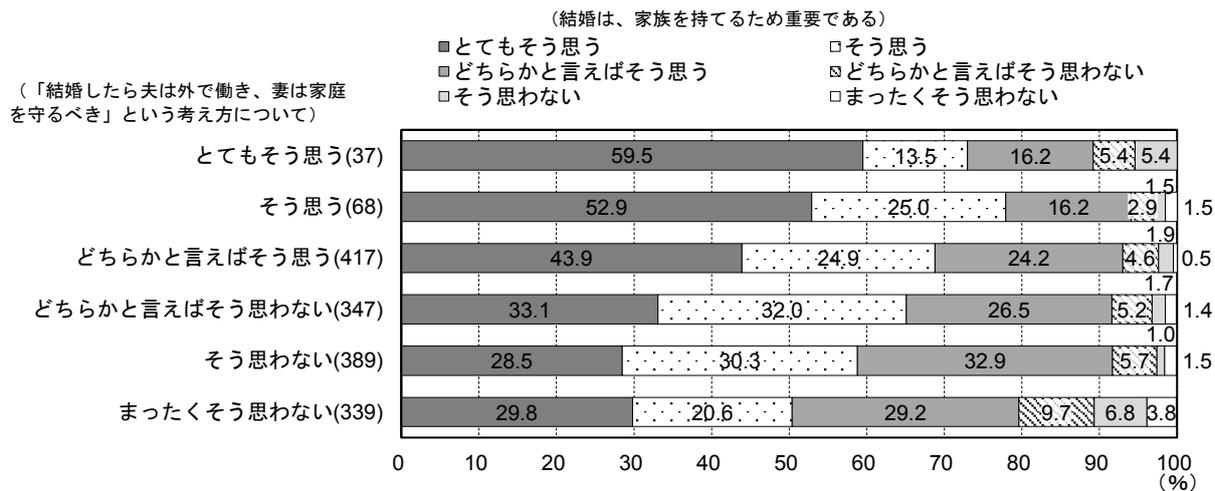
ただし、男女の役割分担意識を「肯定」と「否定」の二区分にして、家族観の積極的肯定の出現率を比較すると、男女とも、男女の役割分担意識の「肯定」では「否定」に対して、家族観の「積極的肯定」の出現率が1.2倍となり、それほど強い影響力ではない（表Ⅱ－４２）。

図Ⅱ－１１４ 男女の役割分担意識別にみた家族観（単数）

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1367	0.1151
P値	0.0000	0.0000

表Ⅱ－４２ 男女の役割分担意識の家族観に対する影響の強さ

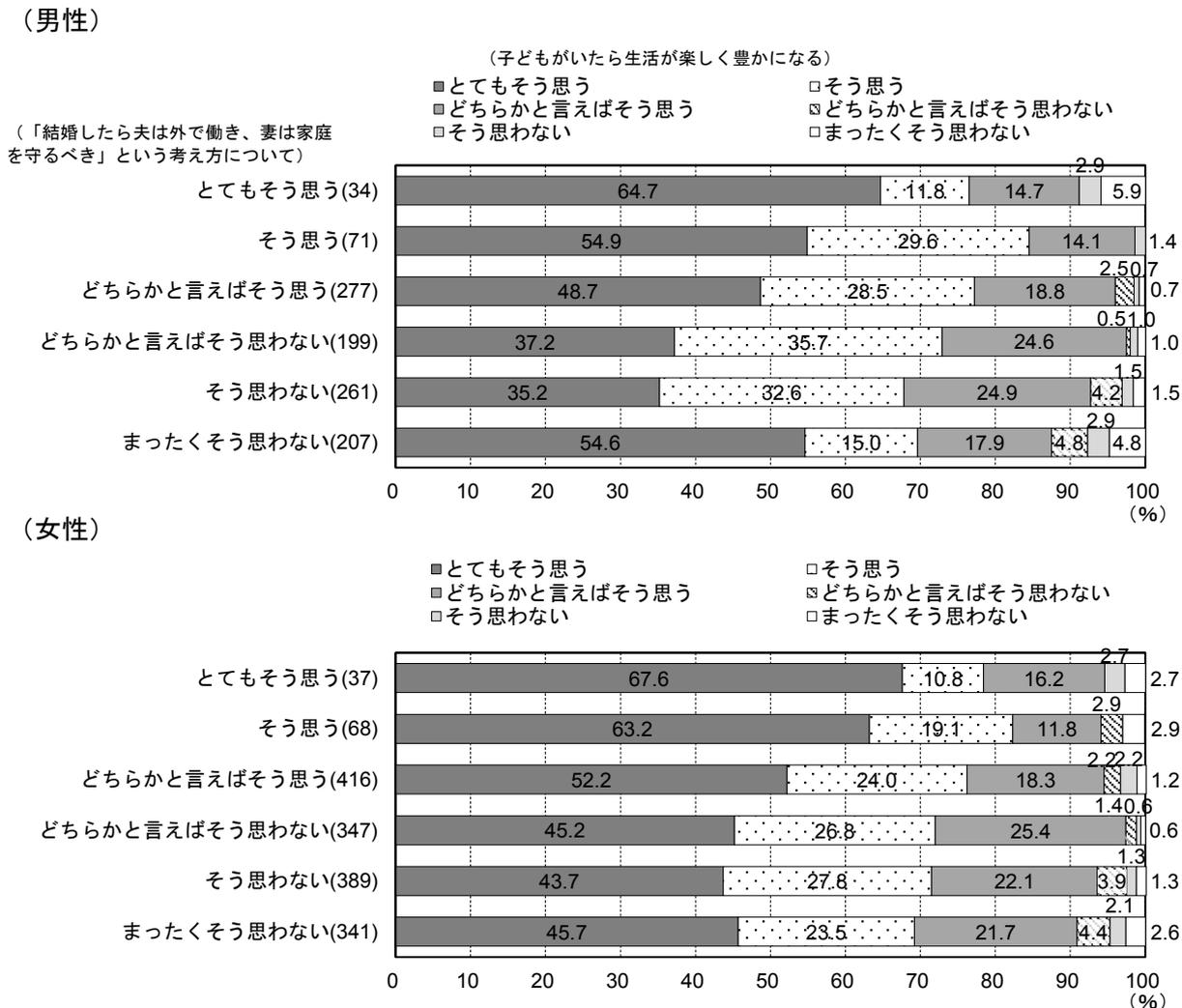
(件、%、倍)

性別	男女の役割分担意識・肯定				男女の役割分担意識・否定				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	382	80.6	33.1	2.44	668	66.9	33.1	2.02	1.20
女	522	70.3	41.8	1.68	1075	58.2	41.8	1.39	1.21

ii) 子ども観

伝統的な男女の役割分担意識は子ども観に対しても確かな影響を及ぼしているとみられる (図 II-115)。ただし、オッズ比をみても、その影響力は家族観に増して小さい (表 II-43)。

図 II-115 男女の役割分担意識別にみた子ども観 (単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0940	0.0657
P値	0.0023	0.0087

表 II-43 男女の役割分担意識の子ども観に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	男女の役割分担意識・肯定				男女の役割分担意識・否定				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	382	78.5	30.1	2.61	667	69.9	30.1	2.32	1.12
女	521	77.2	29.1	2.65	1077	70.9	29.1	2.44	1.09

3. 家族・子どもに対する感受性

家族観・子ども観と同様、家族・子どもに対する感受性も結婚意欲や理想の子ども数に対して強い影響を及ぼしていた。以下では、家族・子どもに対する感受性の回答状況をみる詳しく集計するとともに、これらに影響を及ぼす要因を把握した。

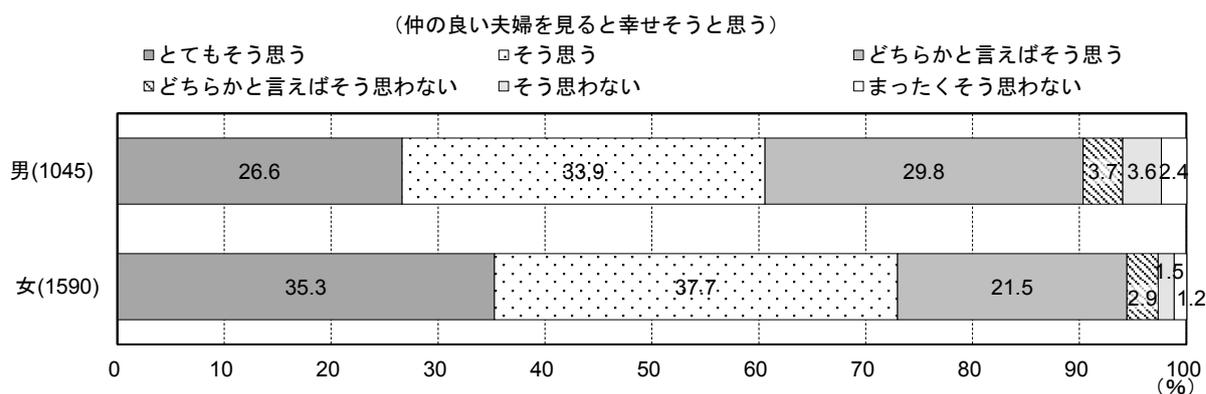
(1) 家族・子どもに対する感受性の把握

(家族に対する感受性を強く持つ者は約 30%)

「仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う」という「家族に対する感受性」は結婚意欲に対して強い影響を及ぼしていた(表Ⅱ-7)。

上記の「家族に対する感受性」について「とてもそう思う」と回答し、「家族に対する感受性」を強く持つ者は男性で27%、女性で35%であった(図Ⅱ-116)。

図Ⅱ-116 家族に対する感受性(単数)



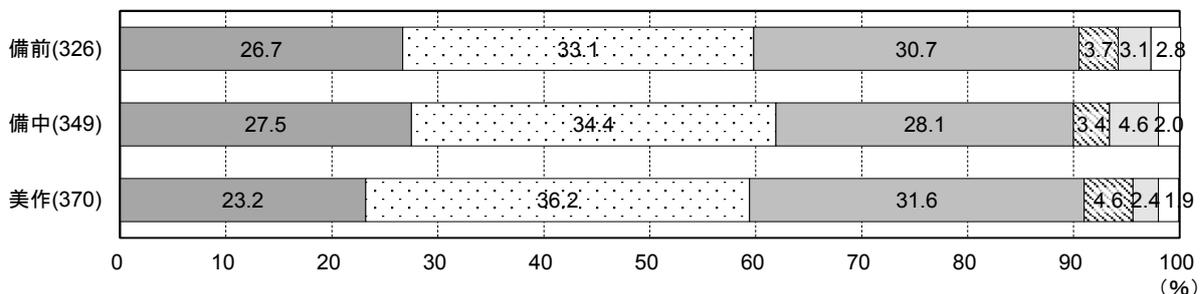
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ－１１７ 県民局別にみた家族に対する感受性

(男性)

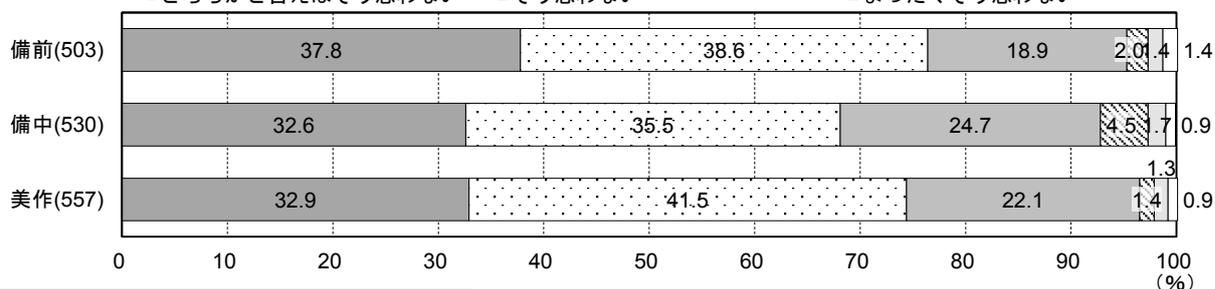
(仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う)

とてもそう思う そう思う どちらかと言えばそう思う
 どちらかと言えばそう思わない そう思わない まったくそう思わない



(女性)

とてもそう思う そう思う どちらかと言えばそう思う
 どちらかと言えばそう思わない そう思わない まったくそう思わない

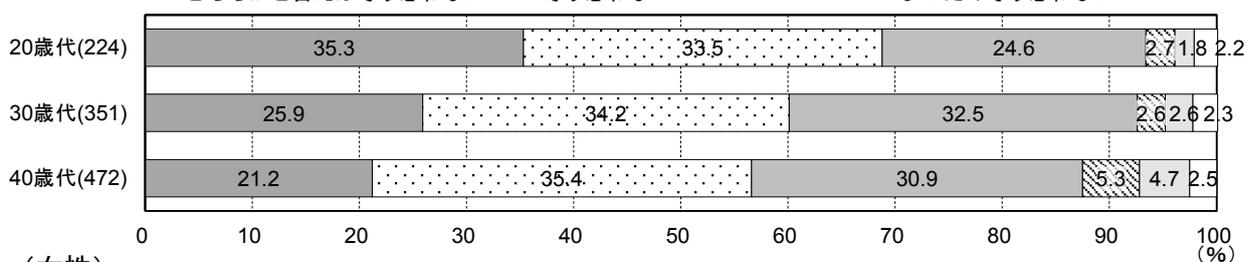


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0565	0.0816
P値	0.7557	0.0198

図Ⅱ－１１８ 年齢階層別にみた家族に対する感受性

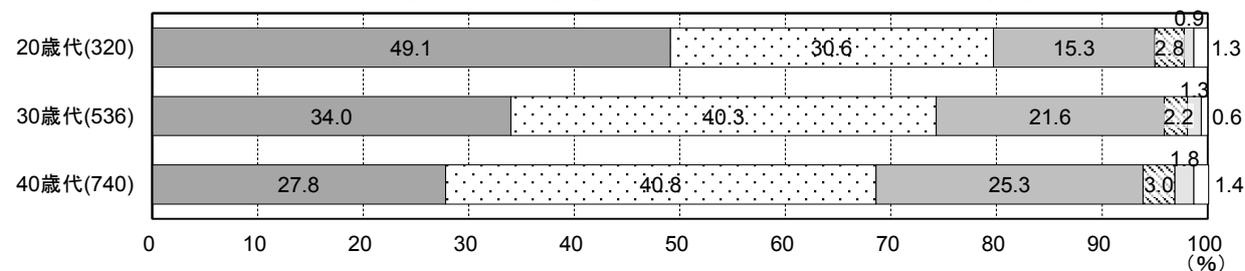
(男性)

とてもそう思う そう思う どちらかと言えばそう思う
 どちらかと言えばそう思わない そう思わない まったくそう思わない



(女性)

とてもそう思う そう思う どちらかと言えばそう思う
 どちらかと言えばそう思わない そう思わない まったくそう思わない



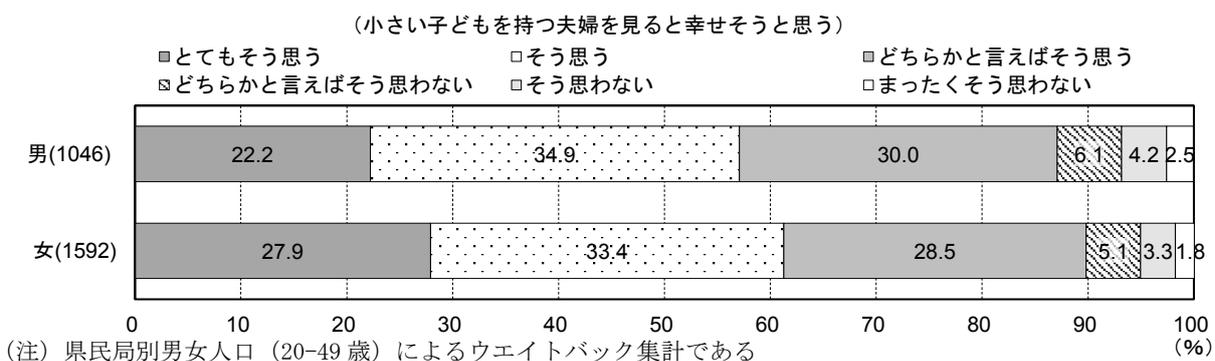
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1085	0.1251
P値	0.0061	0.0000

(子どもに対する感受性を強く持つ者は女性に多い)

「小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う」という「子どもに対する感受性」は、理想の子ども数に強い影響を及ぼしていた(表Ⅱ-27)。

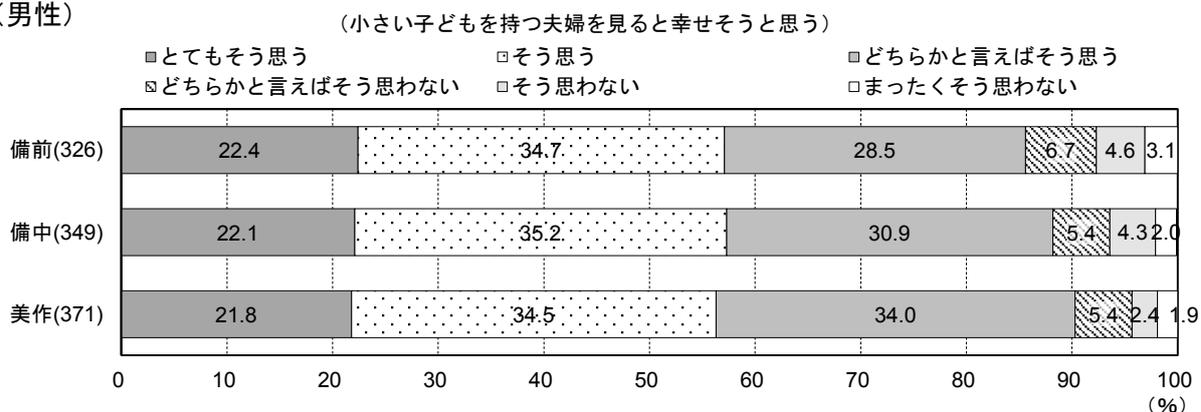
上記の「子どもに対する感受性」を把握すると「とてもそう思う」と回答し、「子どもに対する感受性」を強く持つ者は、男性で22%、女性で28%であった(図Ⅱ-119)。

図Ⅱ-119 子どもに対する感受性(単数)

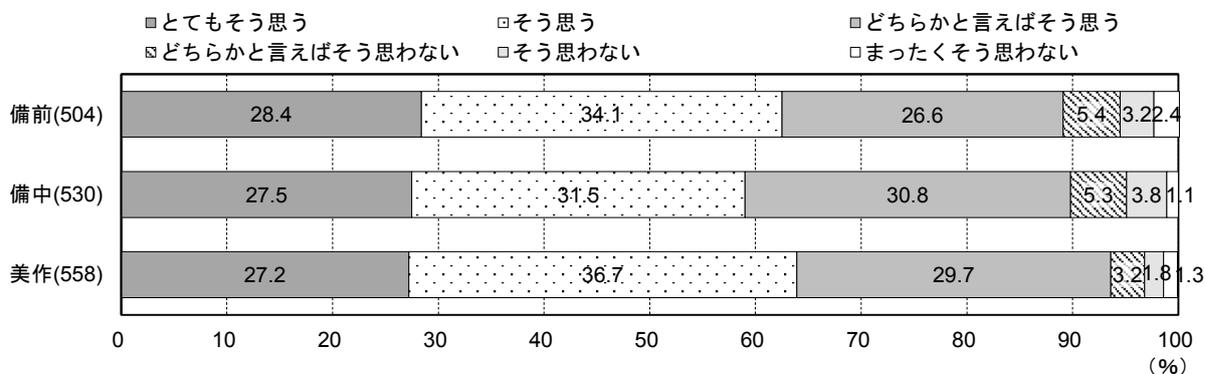


図Ⅱ-120 県民局別にみた子どもに対する感受性

(男性)



(女性)



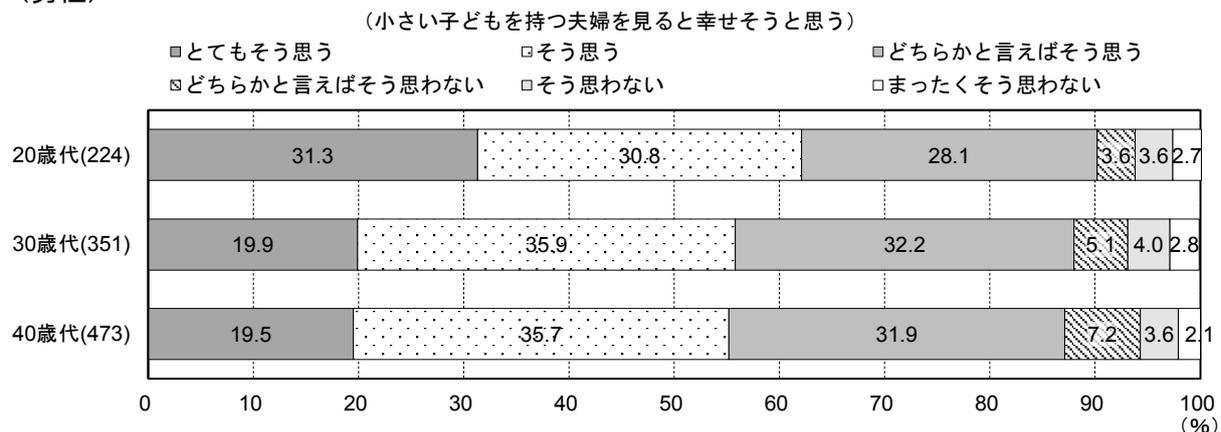
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0549	0.0674
P値	0.7897	0.1531

子どもに対する感受性について年齢階層別に集計すると、若い年齢階層ほど「とてもそう思う」が多く、特に女性で傾向が明らかである（図Ⅱ－１２１）。

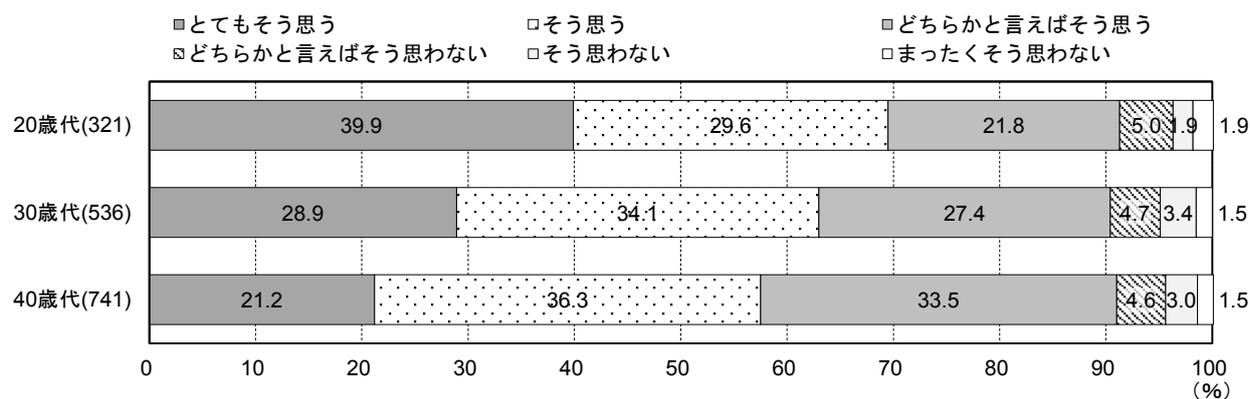
経済面での子育ての現実の厳しさや、子どもの成長に伴う育児・教育の難しさの経験等が反映されているものと考えられる。

図Ⅱ－１２１ 年齢階層別にみた子どもに対する感受性

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0907	0.1187
P値	0.0694	0.0000

(2) 家族・子どもに対する感受性に影響を及ぼす要因

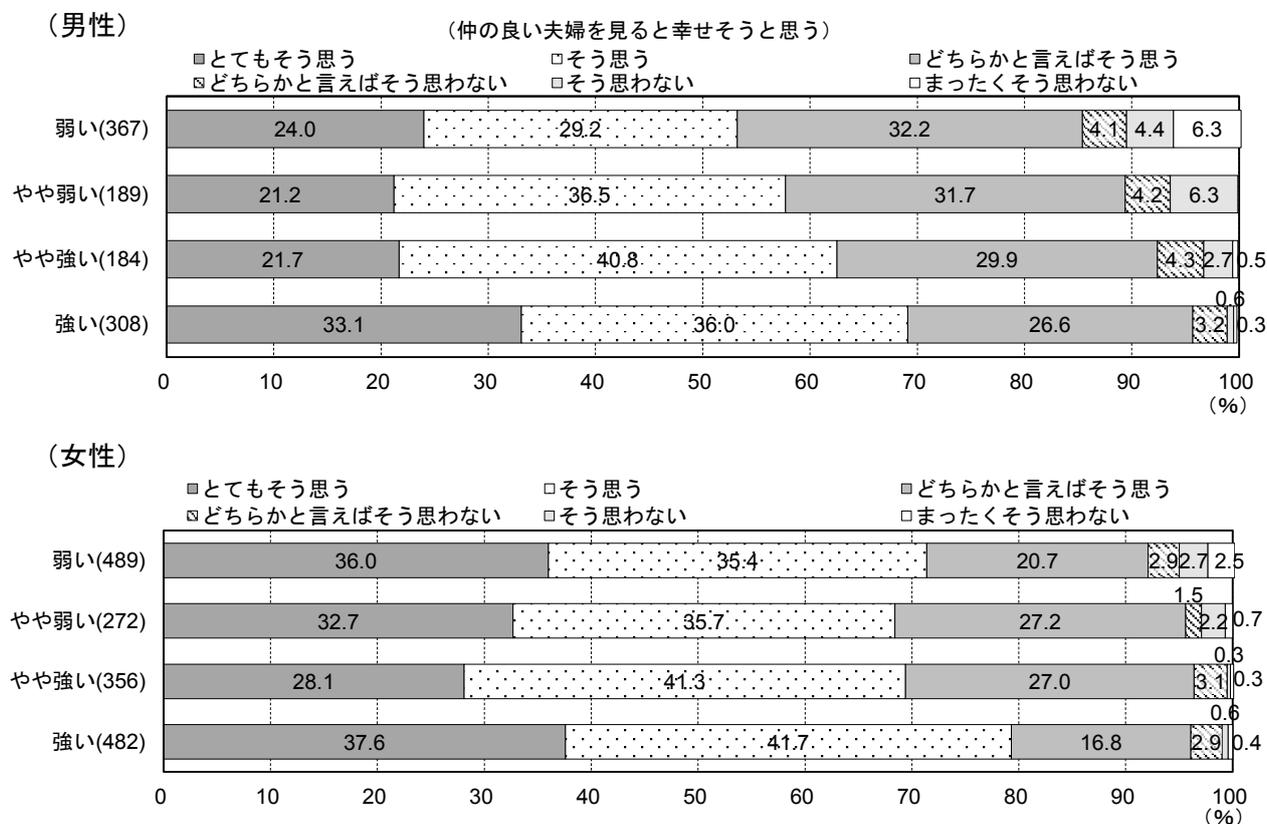
①社会関係性

i) 家族に対する感受性

(社会関係性は男性の家族に対する感受性に強く影響する)

家族に対する感受性も、社会関係性との間に緩やかな関係がみられる(図Ⅱ-122)。社会関係性が家族に対する感受性に及ぼす影響の強さをみると、社会関係性が「強い」と、家族に対する感受性の「積極的肯定(とてもそう思う+そう思う)」の出現率は男性で1.7倍、女性で1.3倍になる(表Ⅱ-44)。女性はもともと男性よりも家族に対する感受性が強い者が多いこともあり、社会関係性は女性より男性の家族に対する感受性に強い影響力を及ぼしている。

図Ⅱ-122 社会関係性の強さ別にみた家族に対する感受性(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1455	0.1024
P値	0.0000	0.0000

表Ⅱ-44 社会関係性の家族に対する感受性への影響の強さ

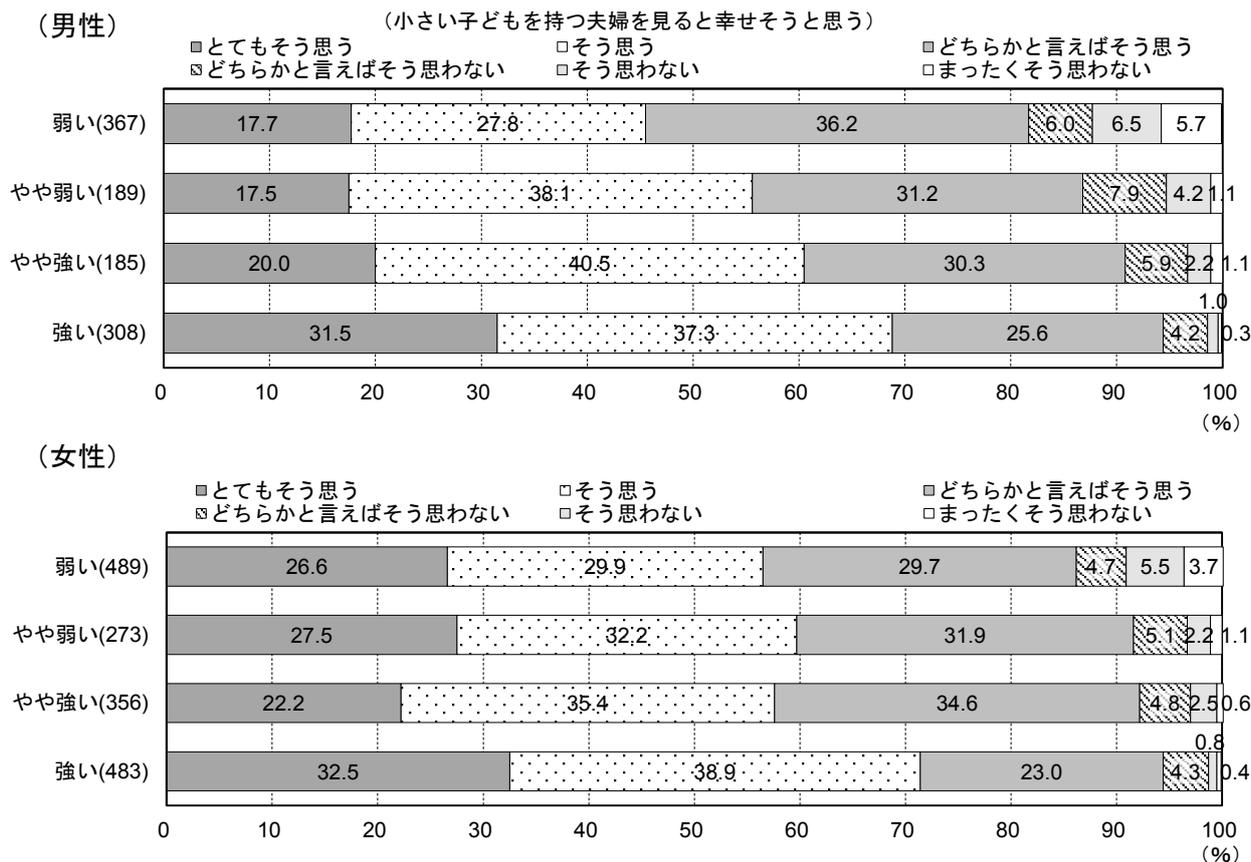
性別	社会関係性・強い				社会関係性・弱い				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	492	66.7	33.3	2.00	556	54.7	45.3	1.21	1.66
女	838	75.1	24.9	3.02	761	70.3	29.7	2.37	1.27

ii) 子どもに対する感受性

(社会関係性は男性の子どもに対する感受性にかなり強い影響を及ぼす)

子どもに対する感受性と社会関係性との間にも緩やかな関係がみられる(図Ⅱ-123)。社会関係性が「強い」と、子どもに対する感受性の「積極的肯定」の出現率は男性で2.0倍、女性では1.4倍になる(表Ⅱ-45)。家族に対する感受性と同様、男性でかなり強い影響がみられる。

図Ⅱ-123 社会関係性の強さ別にみた子どもに対する感受性(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1539	0.1169
P値	0.0000	0.0000

表Ⅱ-45 社会関係性の子どもに対する感受性への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	社会関係性・強い				社会関係性・弱い				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	493	65.7	34.3	1.92	556	48.9	51.1	0.96	2.00
女	839	65.6	34.4	1.91	762	57.6	42.4	1.36	1.40

②家族経験・子ども経験

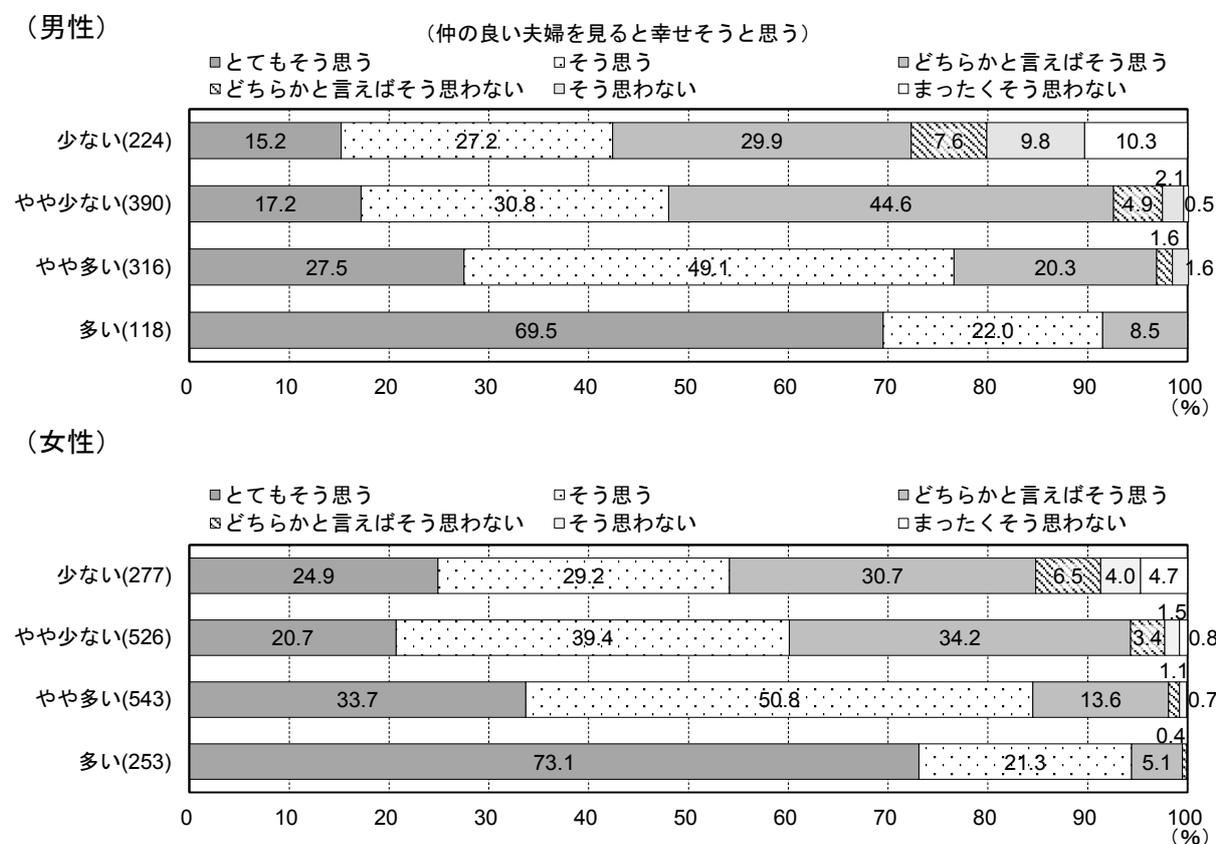
i) 家族に対する感受性

(家族経験は家族に対する感受性に極めて強い影響力を及ぼす)

「家族経験」の多さ別に家族観に対する感受性を集計すると、男女とも非常にはっきりとした相関が表れる(図Ⅱ-124)。

「家族経験」が「多い」と、「少ない」に比べて「家族に対する感受性」の「積極的肯定(とてもそう思う+そう思う)」の出現率は男性で4.9倍、女性で5.2倍になり、男女とも極めて強い影響力が表れた(表Ⅱ-46)。

図Ⅱ-124 家族経験別にみた家族に対する感受性(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.3208	0.2801
P値	0.0000	0.0000

表Ⅱ-46 家族経験の家族に対する感受性への影響の強さ

性別	家族経験・多い			家族経験・少ない			オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	
男	434	80.6	19.4	614	45.9	54.1	4.91
女	796	87.7	12.3	803	58.0	42.0	5.15

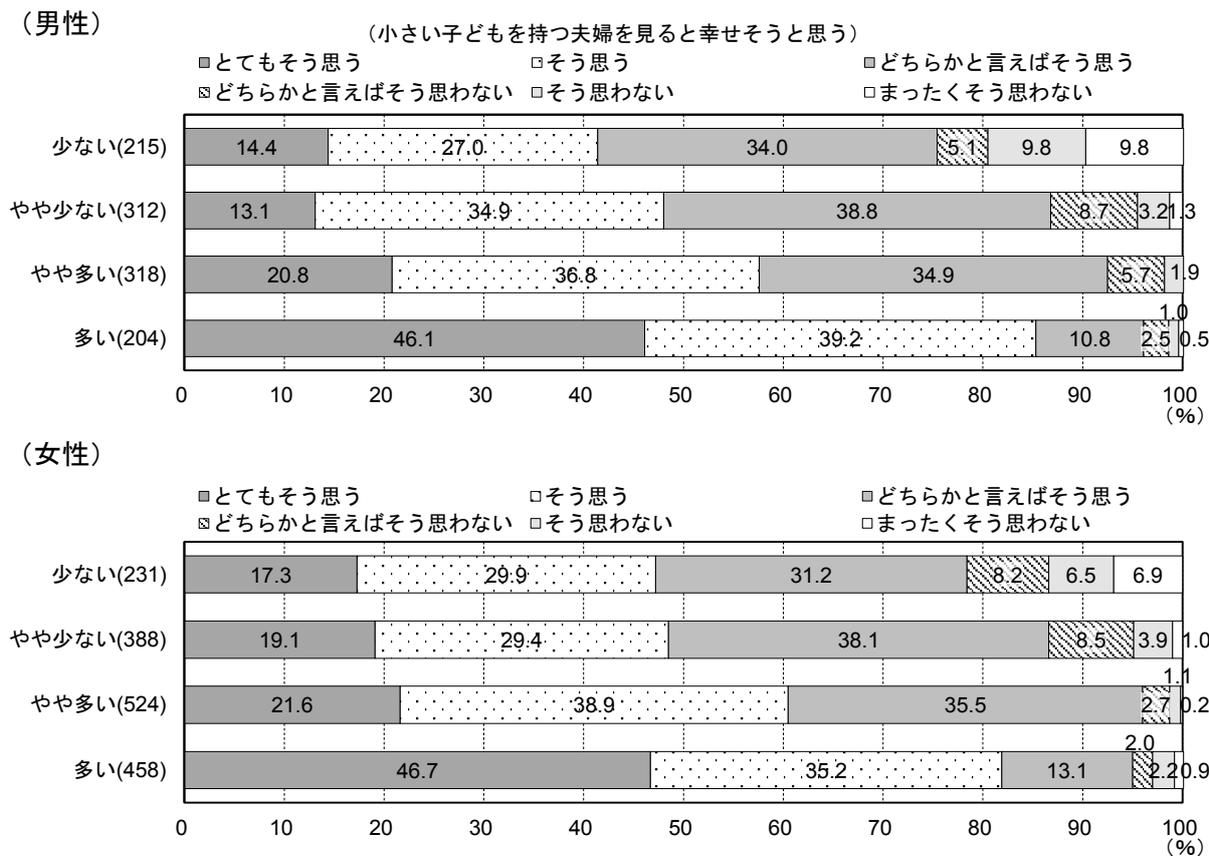
ii) 子どもに対する感受性

(子ども経験も子どもに対する感受性にかなり強い影響を及ぼす)

「子ども経験」と子どもに対する感受性との間にも、男女ともはっきりとした相関が表れる(図Ⅱ-125)。

また、「子ども経験」が「多い」と、「少ない」に比べて子どもに対する感受性の「積極的肯定」の出現率は男女とも2.6倍になり、「家族経験」が家族に対する感受性に与える影響力ほどでないものの、「子ども経験」は子どもに対する感受性にかなり強い影響を及ぼしている(表Ⅱ-47)。

図Ⅱ-125 子ども経験別にみた子どもに対する感受性(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2562	0.2292
P値	0.0000	0.0000

表Ⅱ-47 子ども経験の子どもに対する感受性への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	家族経験・多い				家族経験・少ない				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男	522	68.4	31.6	2.16	527	45.4	54.6	0.83	2.61
女	982	70.5	29.5	2.39	619	48.0	52.0	0.92	2.59

4. 所得及び雇用に関する理想と現実

所得と労働状態は、結婚の意欲・実現見通しとともに、理想の子ども数や現実には持てる子ども数に対して強く影響している。ただし、所得については、収入金額だけでなく、結婚を前提としたときの自分の所得に対する感じ方も関わっていた。そこで、以下では、結婚と所得の感じ方を中心に詳しい集計を行った。

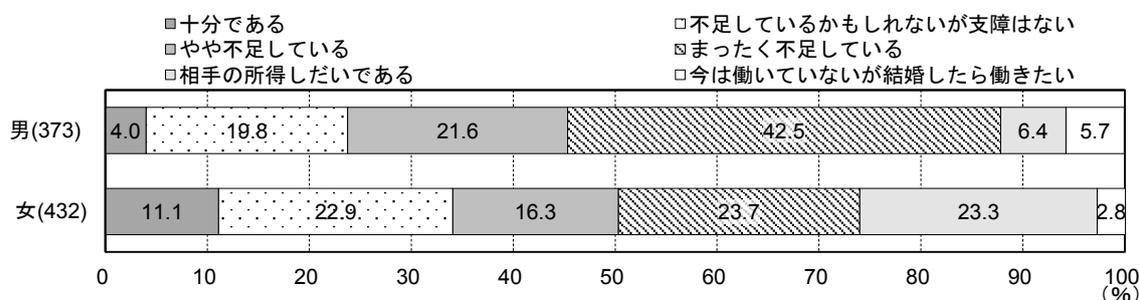
(1) 結婚生活からみた自分の所得の捉え方

(結婚生活に対して所得不足を感じている独身男性は60%に上る)

所得は、結婚の意欲や結婚の実現見通しに対して強く影響していた。そこで、独身者に対して、結婚生活を送るためとしたら現在の自分の所得についてどう思うか尋ねたところ、男性では「やや不足している」「まったく不足している」の合計は64%に達した(図Ⅱ-126)。女性でも、両者の合計は40%であり、結婚に対して所得不足を感じている独身者は多い。

なお、県民局別では、備前の男性に所得不足とする者が多く、反対に女性は「十分である」と回答している者が多い(図Ⅱ-127)。また、備前の女性は「相手の所得しだいである」が他地域に比べて少ないという特徴がみられる。ただし、県民局別ではサンプル数がやや少ないこともあり、統計的には有意な差が生じているとはいえない。

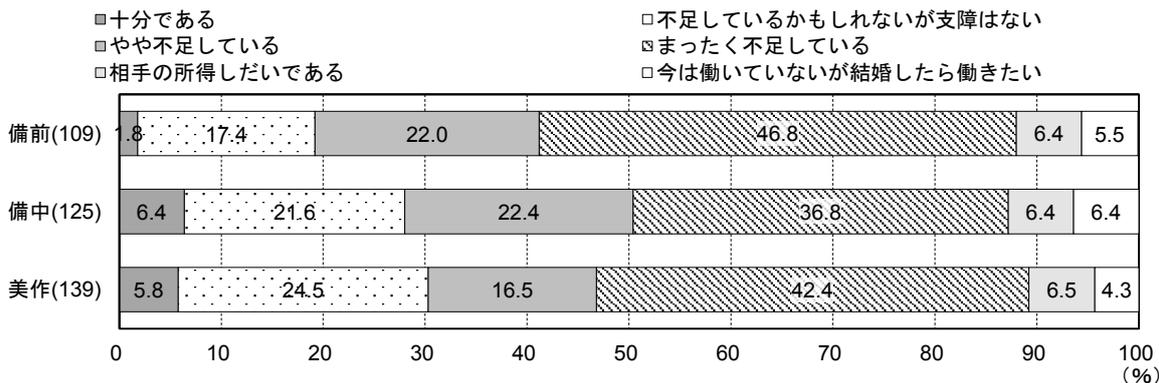
図Ⅱ-126 結婚からみた自分の所得の捉え方(独身者、単数)



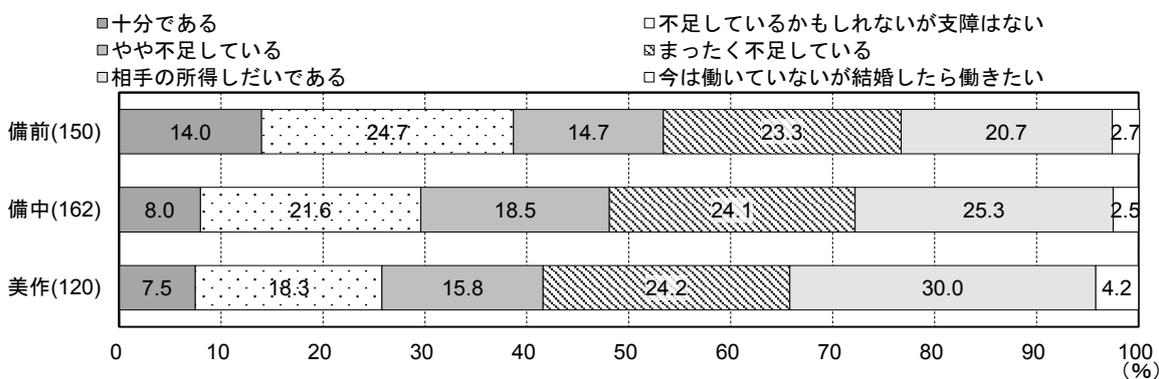
(注) 県民局別男女独身者数(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ－１２７ 県民局別にみた結婚からみた自分の所得の捉え方（独身者）

（男性）



（女性）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1014	0.1014
P値	0.6609	0.5437

（収入に対する夫婦の役割分担に関する価値観との関係）

調査では、結婚生活の所得について自分の役割をどのように考えるか、収入に対する夫婦の役割分担に関する価値観を把握した。価値観は、「大半は自分が稼ぐ」「不足分やゆとり分を補う」「割合に関係なく夫婦とも働けたらよい」等であるが、図Ⅱ－１２８は、その価値観別に図Ⅱ－１２６の独身者の所得の捉え方を集計したものである。

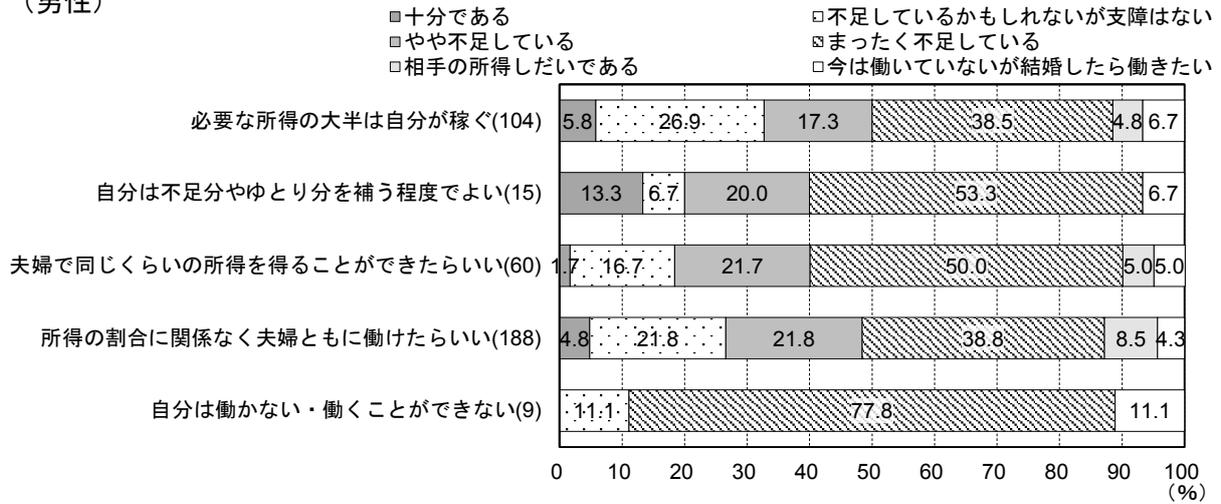
男性は、価値観が「必要な所得の大半は自分が稼ぐ」が56%、「所得の割合に関係なく夫婦とも働けたらよい」においては、「やや不足である」と「まったく不足している」は60%を超えている。独身男性における所得不足感は価値観に関わらず強いと考えることができる。

また、男性では「所得の割合に関係なく夫婦とも働けたらよい」においても「相手の所得しだいである」は9%にとどまっており、所得不足感の背景には男性の所得に対する強い責任感が働いていると推察される。

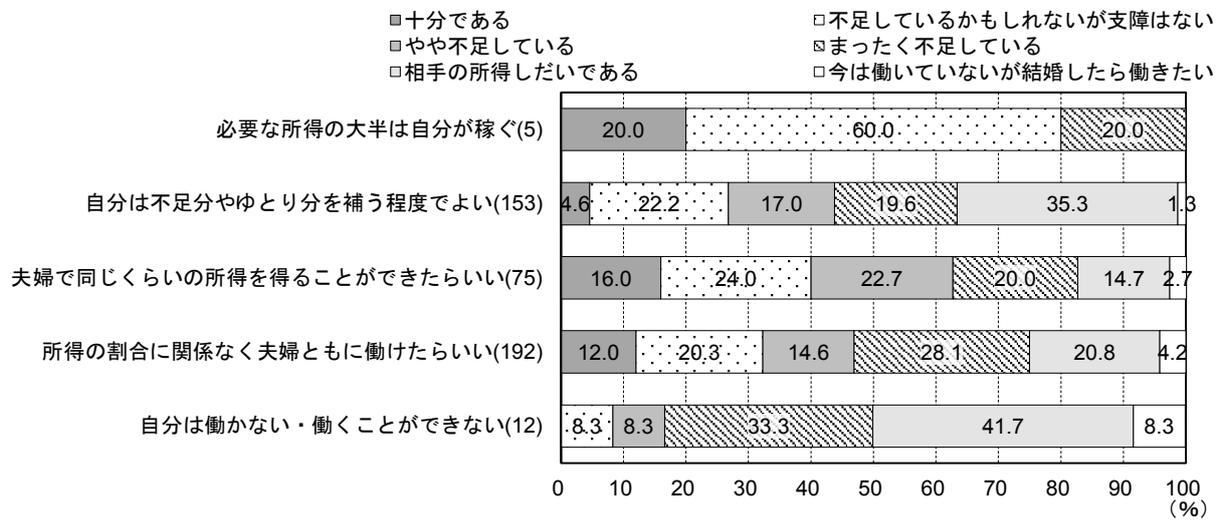
女性でも、「所得の割合に関係なく夫婦とも働けたらよい」で、「やや不足である」と「まったく不足している」は43%に達し、女性における所得不足感も大きい。

図Ⅱ－１２８ 収入に対する夫婦の役割分担に関する考え方と結婚からみた自分の所得の捉え方
(独身者)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1168	0.1490
P値	0.4254	0.0071

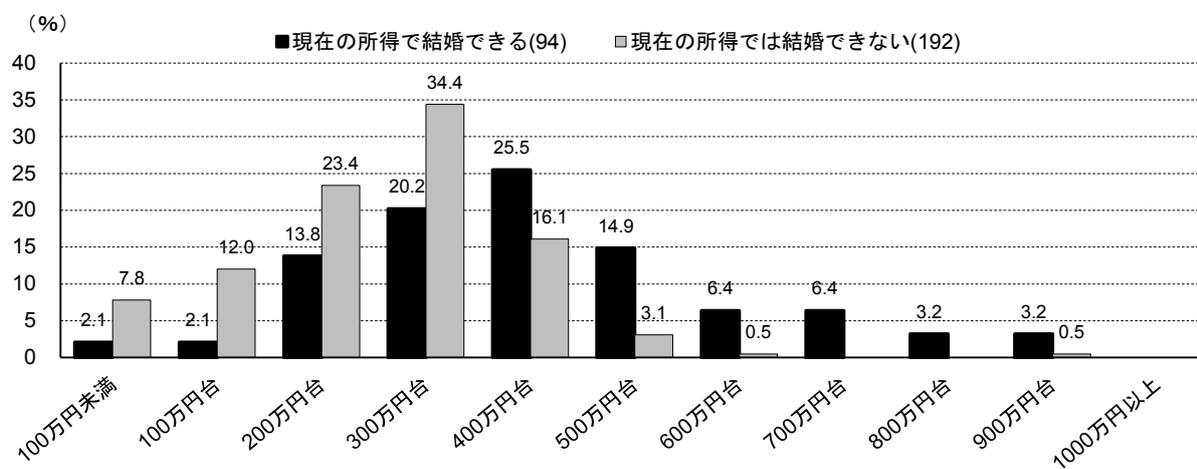
(結婚からみた自分の所得の捉え方と収入の分布)

結婚からみた自分の所得の捉え方の回答を、「十分である」と「不足しているかもしれないが支障はない」を「現在の所得で結婚できる」とし、「やや不足している」と「まったく不足している」を「現在の所得では結婚できない」にまとめた。その上で、図Ⅱ－１２９に、独身者の年収の分布を示した。

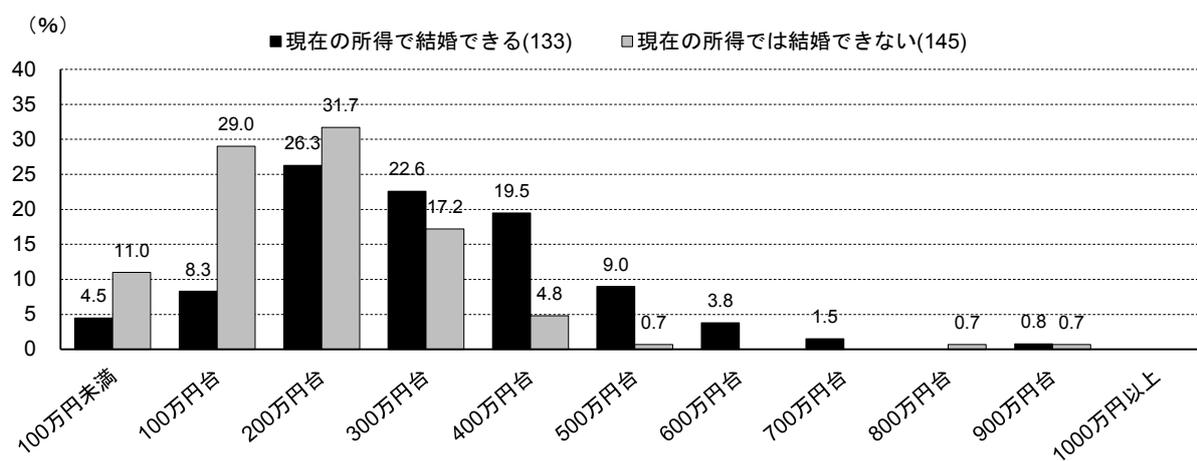
男性の「結婚できる」で最も多い収入階級は400万円台であり、「結婚できない」は300万円台である。「結婚できる」の平均値は405万円、「結婚できない」は283万円であり、その差は121万円となっている。

図Ⅱ－１２９ 結婚からみた自分の所得の捉え方別にみた年収分布
(結婚生活のための所得が不足している独身者)

(男性)



(女性)



(件、万円)

項目	男性		女性	
	現在の所得で結婚できる	現在の所得で結婚できない	現在の所得で結婚できる	現在の所得で結婚できない
標本数	94	192	133	145
平均値	405	283	318	235
中央値	450	350	350	250
標準偏差	192	143	146	113

女性では、「結婚できる」「結婚できない」とも最も多い収入階級は 200 万円台であるが、平均値の差は 83 万円である。

男性の「結婚できる」は標準偏差が 192 万円に達するなど、男女とも全般に所得のばらつきが大きい(高い所得でも結婚できないという者もいれば、低い所得でも結婚できるという者もいる)が、約 100 万円の年収増加が、「結婚できる」という者を増やすための一つの目安と考えられる。

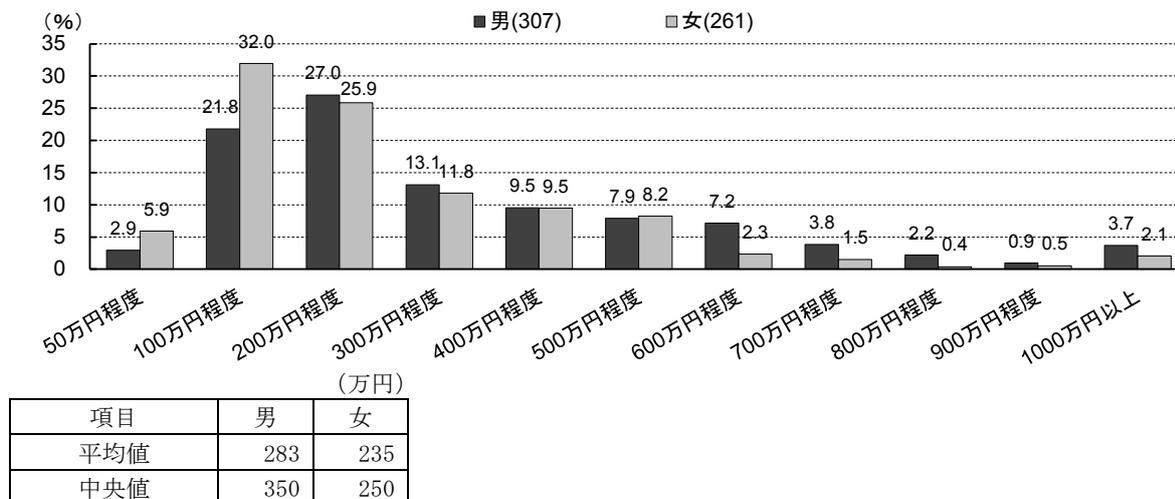
(結婚生活のためには男性では「あと 200 万円が必要」が最も多い)

結婚生活のための所得が不足しているという独身者に対して、「年収で、あといくらあれば結婚生活に十分と考えるか」を把握した。

結果、男性は「200 万円程度」、女性は「100 万円程度」が最も多く、そこから金額が多くなるにつれて徐々に回答が少なくなり、追加所得が高い方にすそ野が長い分布となった(図Ⅱ-130)。男性は上記の図Ⅱ-129から導いた「目安となる金額」と、図Ⅱ-130の最も多い金額(最頻値)が一致する。

このような分布であるため、大きな金額に対する回答の影響を受けて、平均値は男性 283 万円、女性 235 万円、中央値は男性 350 万円、女性 250 万円となり、回答が最も多い金額を上回る。

図Ⅱ-130 結婚生活のために必要な追加所得(年収)の分布
(結婚生活のための所得が不足している独身者、単数)

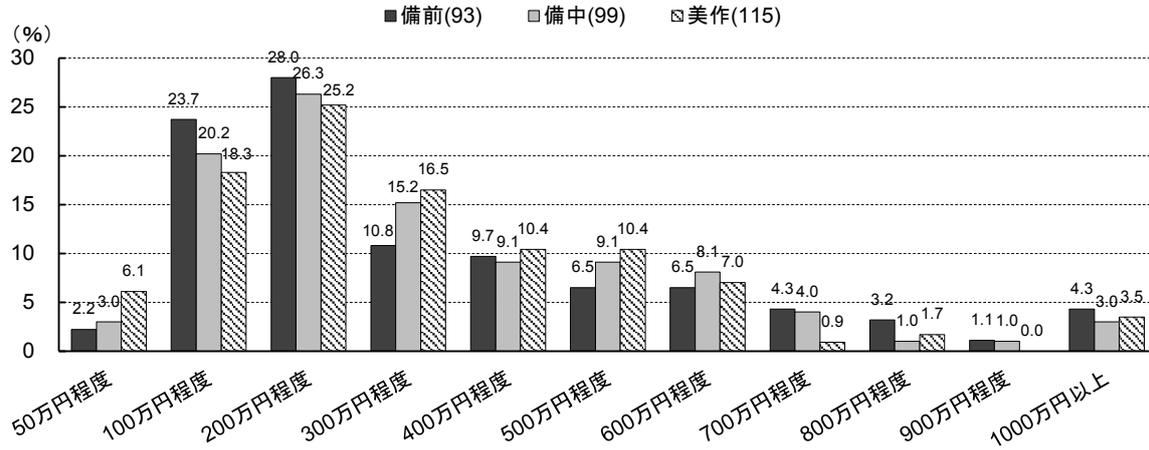


県民局では、女性で、「100万円程度」が備前で多く、美作で少ない、一方「300万円程度」はその逆になっているという特徴がみられる（図Ⅱ－131）。

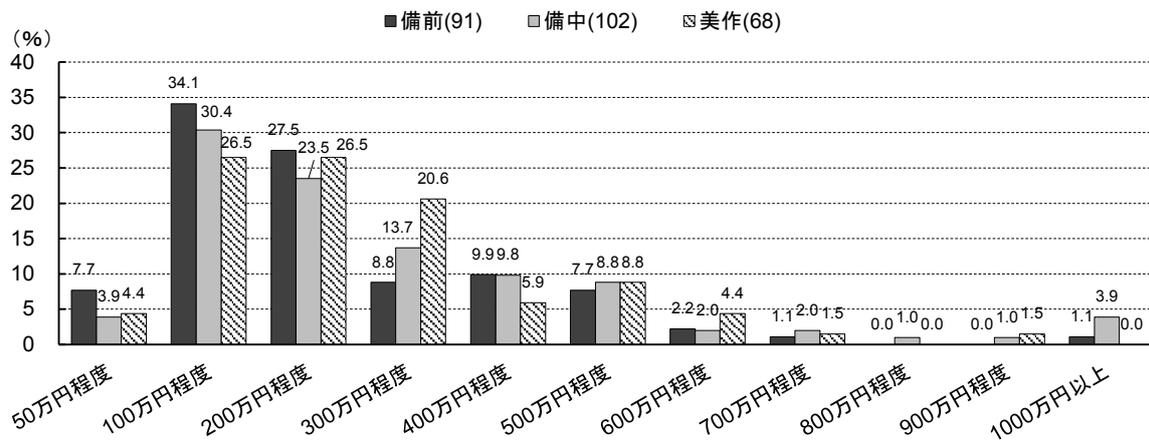
男性でも同様の傾向がみられるが、全体的には大きな差異はみられない。

図Ⅱ－131 県民局別にみた結婚生活のために必要な追加所得（年収）
（結婚生活のための所得が不足している独身者）

（男性）



（女性）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0901	0.1272
P値	0.6225	0.0616

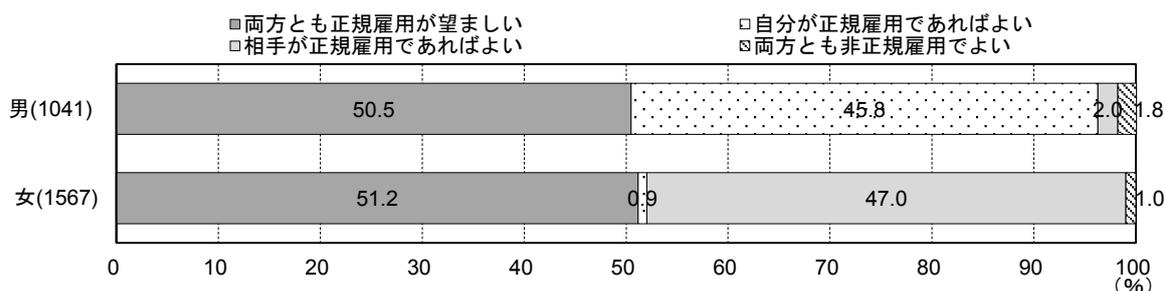
(2) 結婚生活を送る上での雇用形態の理想

(雇用形態の理想と現実が異なる者は女性に多い)

労働状態は、男女の結婚意欲や結婚の実現見通しに強い影響を与えていた。結婚生活を送る上での雇用形態の理想を尋ねると、男女とも、「(夫婦が)両方とも正規雇用が望ましい」者が51%であった(図Ⅱ-132)。男性では残りの大半は「自分が正規雇用であればよい」であり、自分が正規雇用であることが理想の条件になっている者は96%に達する。

女性は、「相手が正規雇用であればよい」が47%を占め、男女で大きな差がみられる。

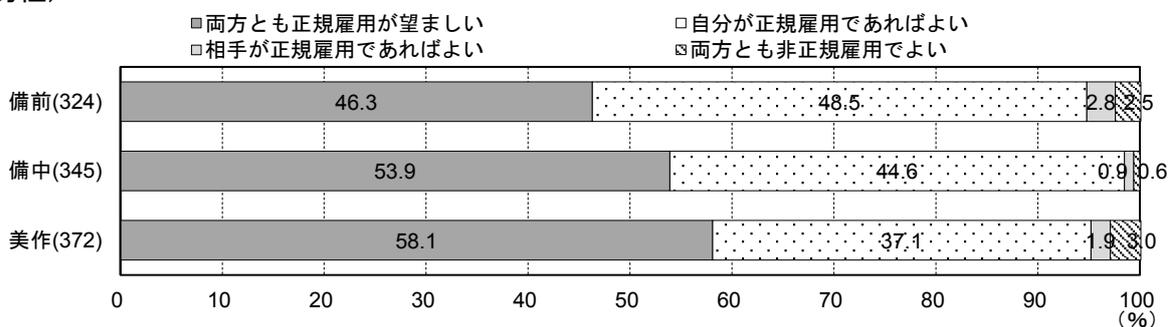
図Ⅱ-132 結婚生活を送る上での雇用形態の理想(単数)



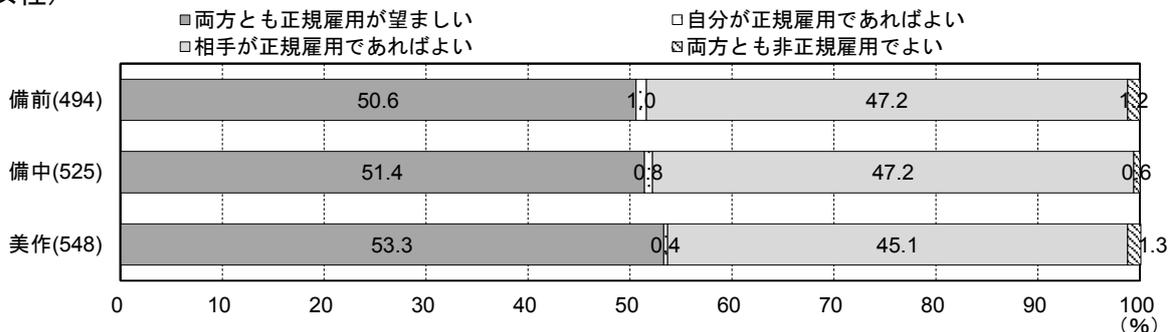
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ-133 県民局別にみた結婚生活を送る上での雇用形態の理想(単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0952	0.0353
P値	0.0044	0.6909

雇用形態についても理想と現実のギャップが、結婚や子どもを持つことに対する意欲に影響を与えると考えられる。

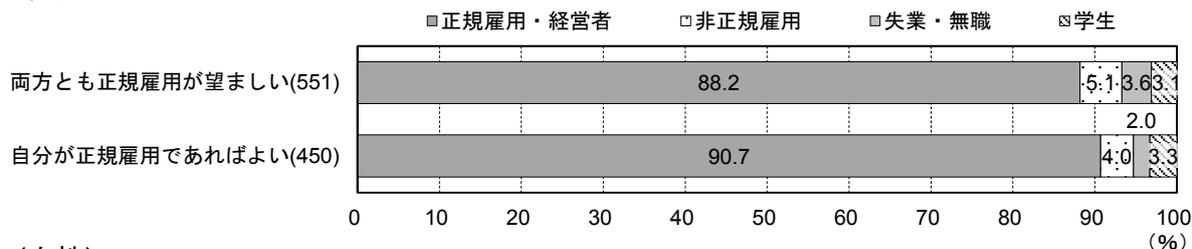
夫婦の雇用形態の理想別に本人の労働状態を集計した（図Ⅱ－１３４）。今回の調査では、男性の非正規雇用の割合は5.3%（表Ⅱ－５５、不明処理後の数値）であり、「両方とも正規雇用が望ましい」「自分が正規雇用であればよい」といった理想の雇用形態別にみても、理想と違って非正規雇用である者は4%～5%である。

女性では、「両方とも正規雇用が望ましい」という理想であっても、現在、「非正規雇用」である者が26%、「失業・無職」は11%になっている。雇用形態の理想と現実が異なる者は女性の方が多い。一方、女性は、男性に比較して、労働状態が結婚意欲や結婚見通しに対して影響を及ぼす程度は小さい（表Ⅱ－１０、表Ⅱ－１８）。これらのことから、女性は、労働状態の理想と現実のギャップを男性ほど厳しく捉えていないことも考えられる。

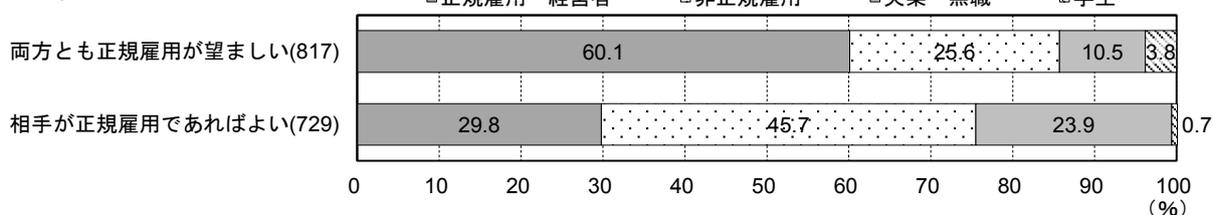
参考として、有配偶者を対象に、雇用形態の理想別に配偶者の労働状態を集計すると、本人の集計結果と対称的な結果となった（図Ⅱ－１３５）。夫からみても妻の雇用形態が理想に反して「非正規雇用」となっている者が35%、「失業・無職」が11%を占める。

図Ⅱ－１３４ 夫婦の雇用形態の理想別にみた本人の労働状態（単数）

（男性）

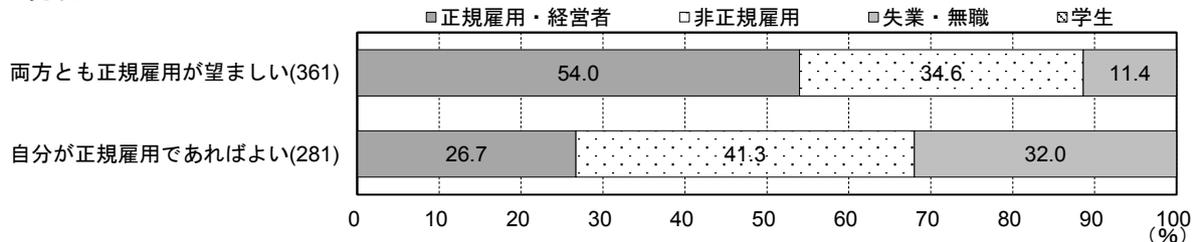


（女性）

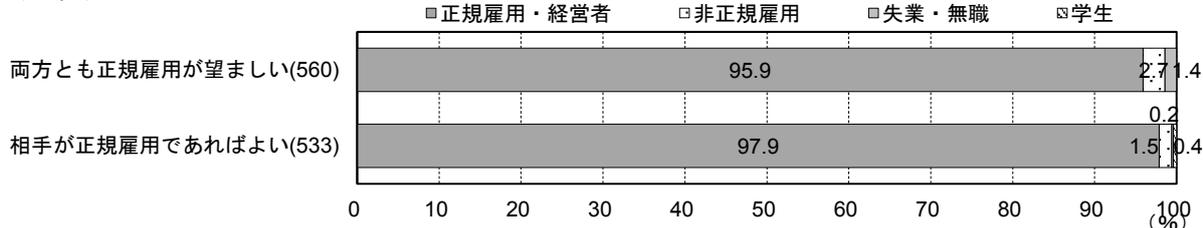


図Ⅱ－１３５ 夫婦の雇用形態の理想別にみた配偶者の労働状態（有配偶者）

（男性）



（女性）



(結婚からみた自分の所得の捉え方と夫婦の雇用形態の理想には相関がある)

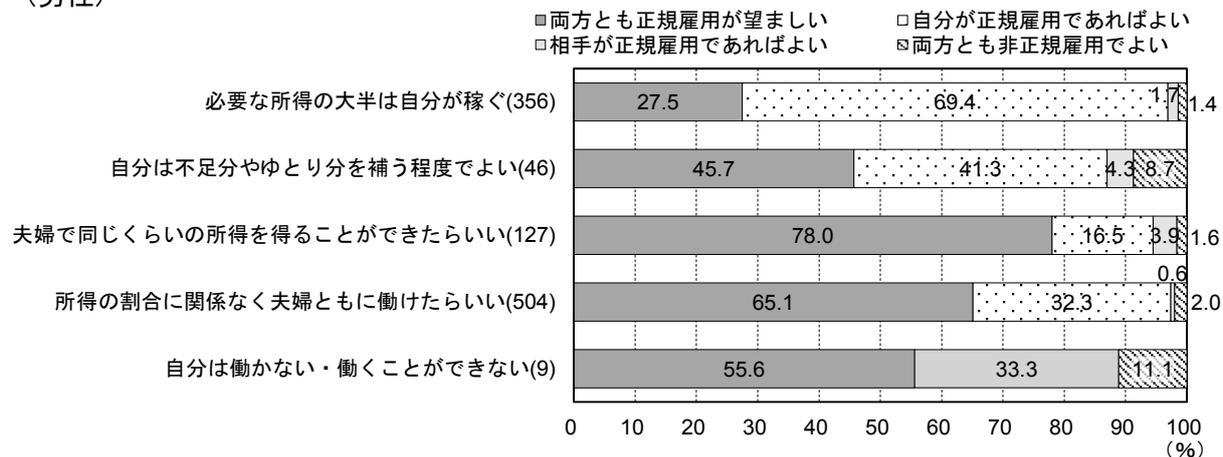
男性では、所得の捉え方が「必要な所得は自分が稼ぐ」であると夫婦の雇用形態の理想は「自分が正規雇用であればよい」が69%に達し、「両方とも正規雇用が望ましい」は28%にとどまる(図Ⅱ-136)。一方、所得の捉え方が「夫婦で同じくらいの所得を得ることができたらいい」では「両方とも正規雇用が望ましい」は78%に上り、「所得の割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい」では「両方とも正規雇用が望ましい」は65%になる。

女性では、所得の捉え方が「自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい」であると夫婦の雇用形態の理想は「相手が正規雇用であればよい」が73%に上り、「両方とも正規雇用が望ましい」は26%である。一方、所得の捉え方が「夫婦で同じくらいの所得を得ることができたらいい」では「両方とも正規雇用が望ましい」は86%に達し、「所得の割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい」では「両方とも正規雇用が望ましい」は65%になる。

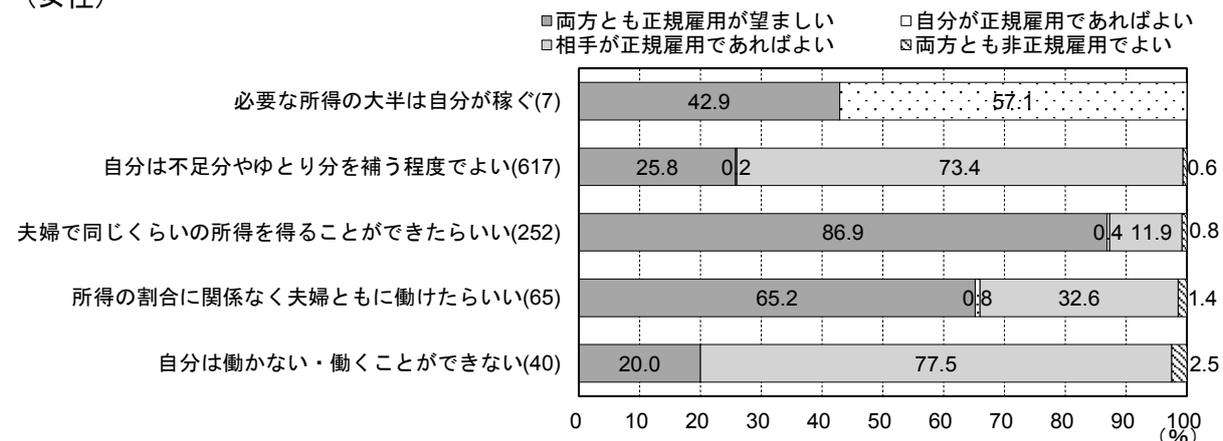
結婚からみた自分の所得の捉え方と夫婦の雇用形態の理想の間には強い結びつきがみられる。

図Ⅱ-136 結婚からみた自分の所得の捉え方別にみた夫婦の雇用形態の理想

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2711	0.3842
P値	0.0000	0.0000

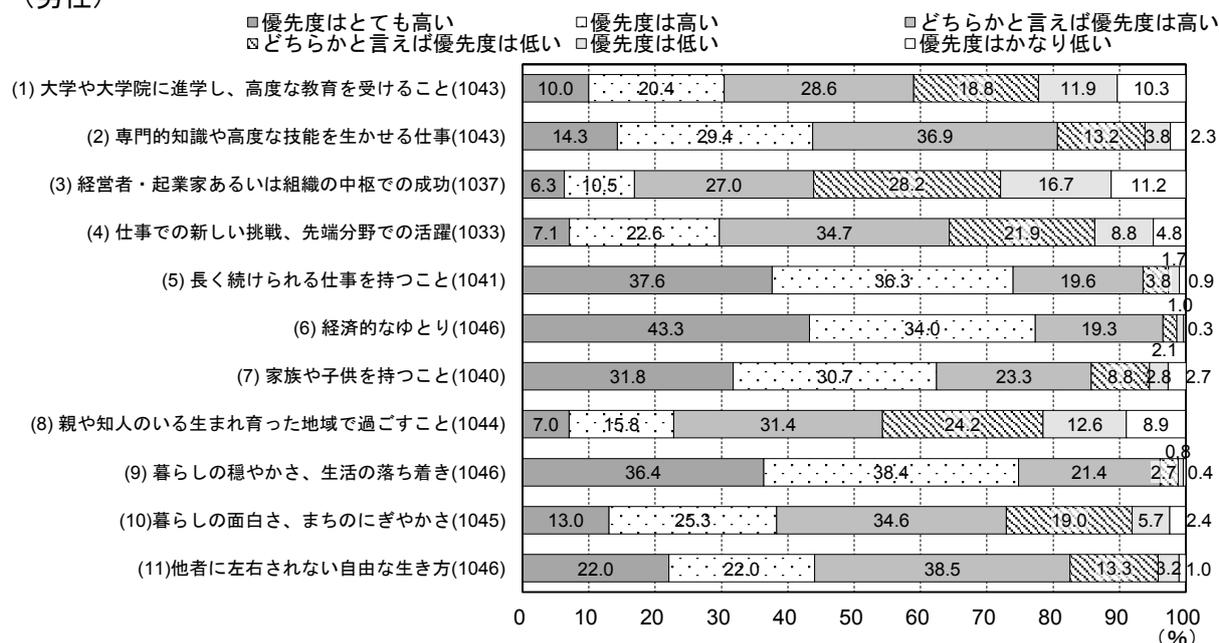
5. ライフコース

(1) ライフコースの志向性の把握

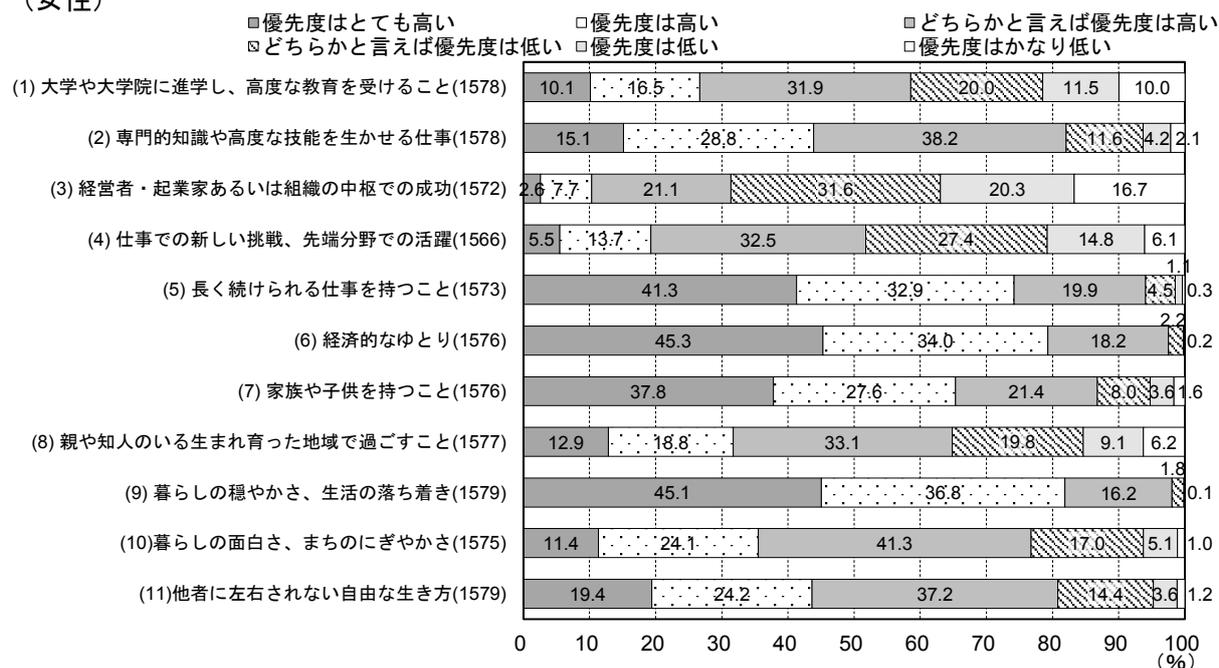
ライフコースの志向性は、女性の結婚意欲や結婚の実現見通しに対して影響を与えていた（図Ⅱ-19、図Ⅱ-43）。調査では、ライフコースの志向性は、「希望するライフコースで重視すること」を尋ねることにより把握した。質問数は11であり、個々の回答結果を図Ⅱ-137に示した。

図Ⅱ-137 希望するライフコースで重視すること（単数）

(男性)



(女性)

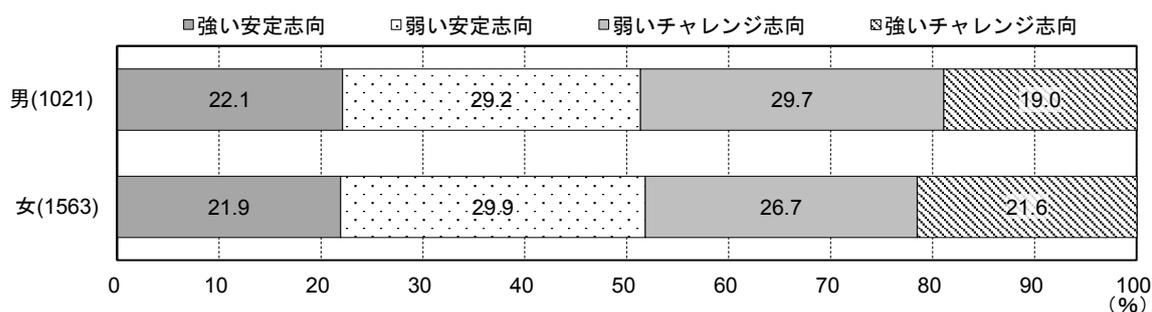


(注) 県民局別男女人口（20-49歳）によるウェイトバック集計である

11個の質問のうち「(7)家族や子どもをもつこと」を除く10個の回答結果を元に、因子分析と主成分分析により「安定志向」と「チャレンジ志向」という対立軸を持つ指標「ライフコースの志向性」を作成した。

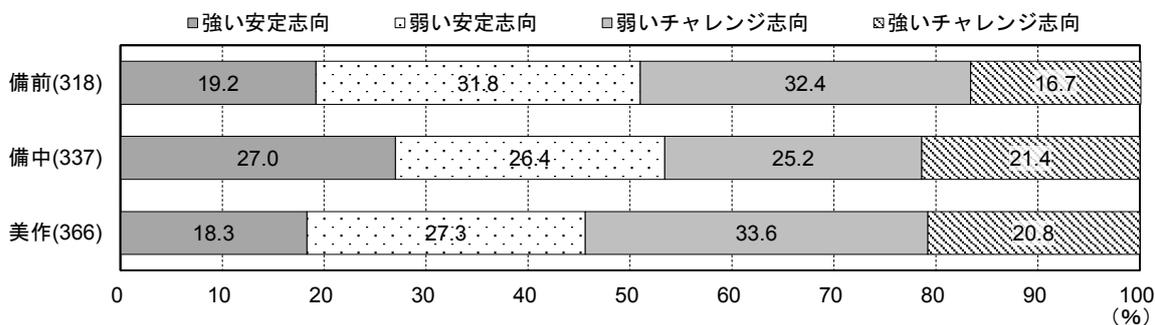
指標「ライフコースの志向性」を利用して、図Ⅱ-138の回答者を四つに区分した。県民局別でライフコースの志向性を集計すると、備中で男性に「強い安定志向」が多いといった特徴がみられるものの、全体に大きな差ではない(図Ⅱ-139)。女性のライフコースの志向性には、県民局別の差異はみられない。

図Ⅱ-138 ライフコースの志向性

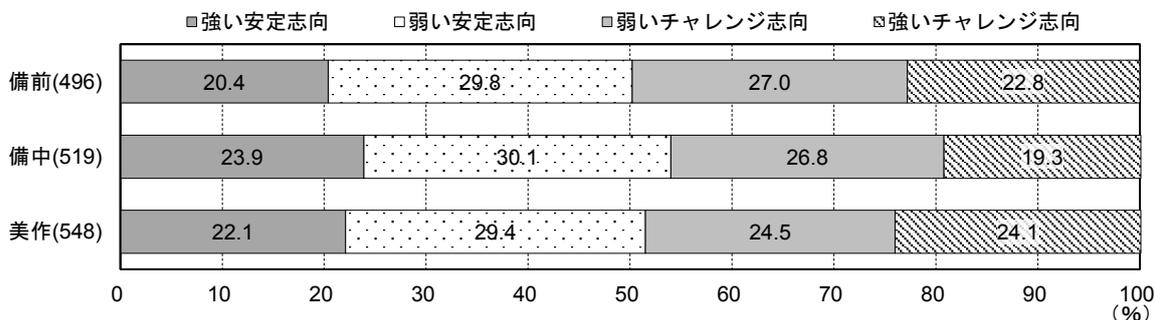


図Ⅱ-139 県民局別にみたライフコースの志向性

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0662	0.0309
P値	0.1069	0.4749

(2) 結婚、妊娠・出産、子育てがライフコースに与える影響

①全体集計

(子育てがライフコースにマイナスと考える未婚女性は27%に達する)

最終アウトカムの分析では、ライフコースが、結婚意欲や結婚の実現見通しに与える影響について把握した。しかしながら、ライフコースと結婚や子どもを持つことは、双方の希望の実現を両立することが重要と考えられる。そこで調査では、結婚、妊娠・出産、子育てといったライフイベントが、希望するライフコースにどのような影響を与えると考えているかも把握した。

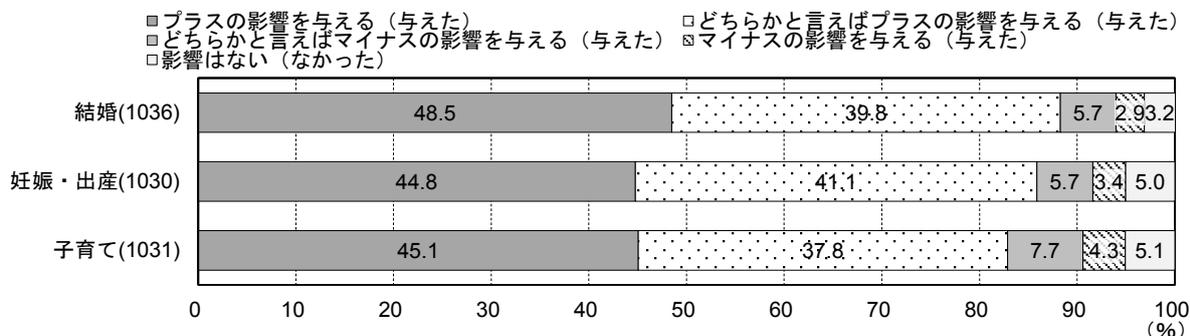
結果、男性では、結婚、妊娠・出産、子育てのいずれも、「プラスの影響を与える」、あるいは「どちらかと言えばプラスの影響を与える」という回答が80%から90%近くを占める(図Ⅱ-140)。女性においても、「プラスの影響を与える」「どちらかと言えばプラスの影響を与える」は80%を超えている。「影響はない」を加えれば、男女とも、希望するライフコースは、結婚、妊娠・出産、子育てと両立可能と考える者がほとんどを占める。

一方、女性では、結婚、妊娠・出産、子育てがライフコースに「マイナスの影響を与える」、あるいは「どちらかと言えばマイナスの影響を与える」が10%強存在し、男性についても子育てが程度の差はあれ「マイナスの影響を与える」と考える者が10%を超えている。

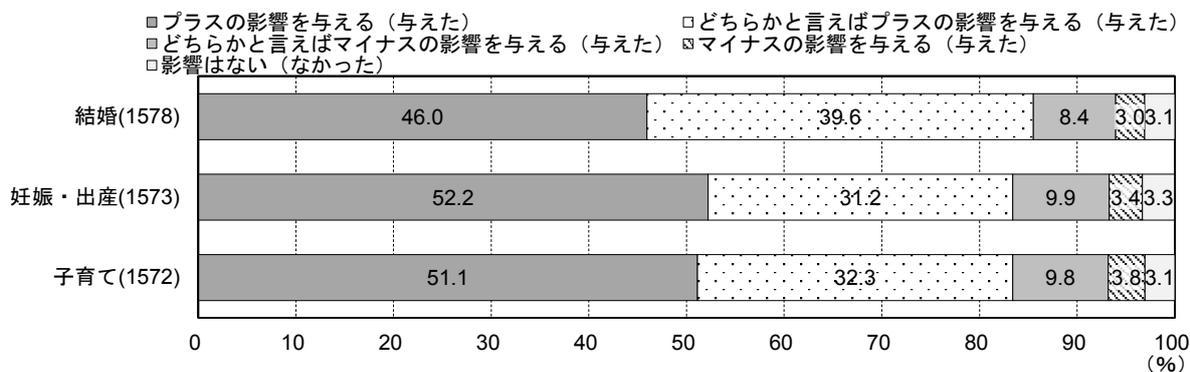
また、結婚、妊娠・出産、子育てのいずれも、ライフコースに与える影響について、県民局による差異はみられない(図Ⅱ-141、図Ⅱ-142、図Ⅱ-143)。

図Ⅱ-140 結婚、妊娠・出産、子育てがライフコースに与える影響(単数)

(男性)



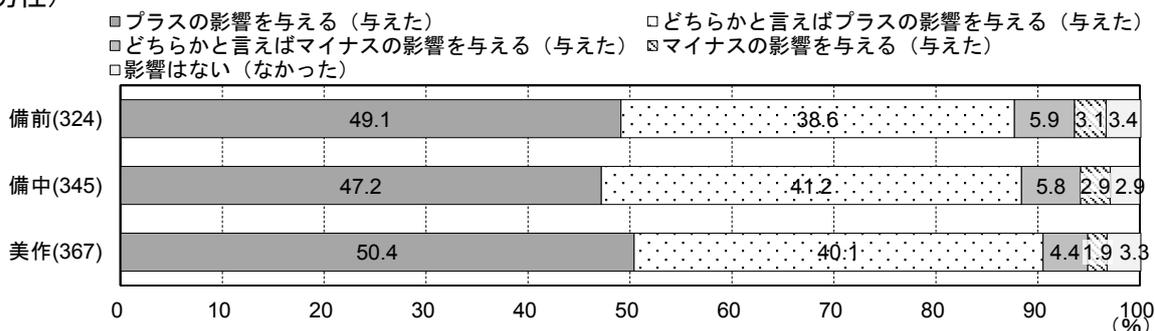
(女性)



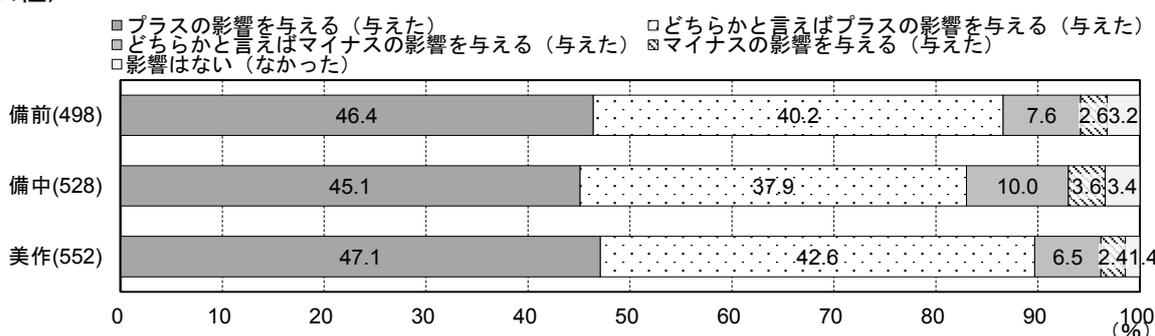
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ－１４１ 県民局別にみた結婚がライフコースに与える影響（単数）

(男性)



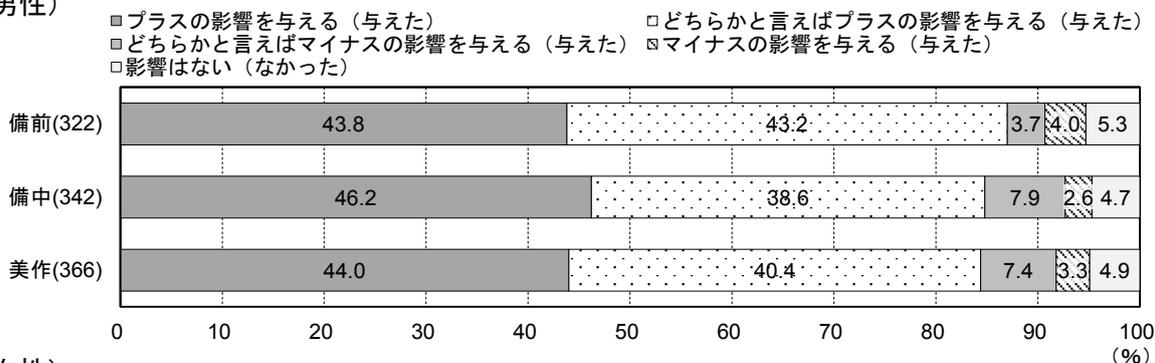
(女性)



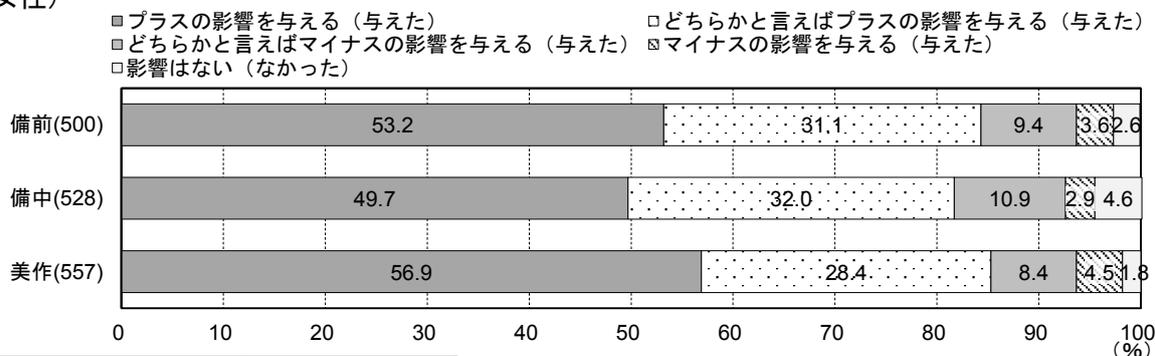
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0370	0.0626
P値	0.9440	0.1357

図Ⅱ－１４２ 県民局別にみた妊娠・出産がライフコースに与える影響（単数）

(男性)



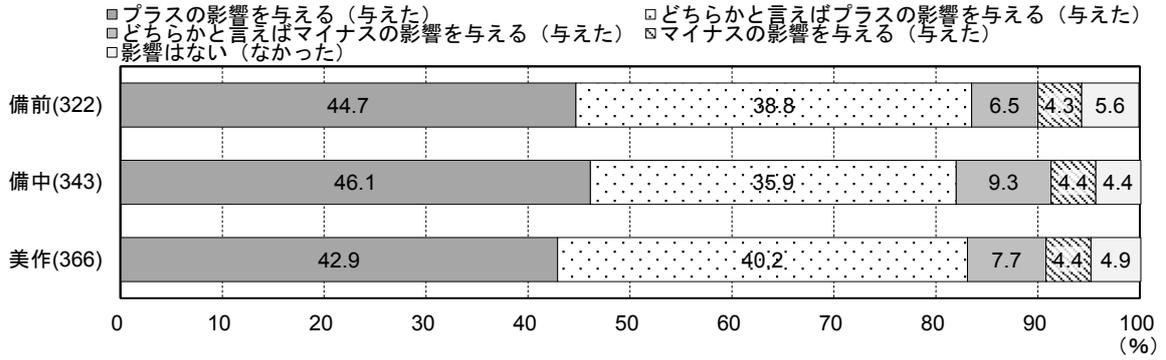
(女性)



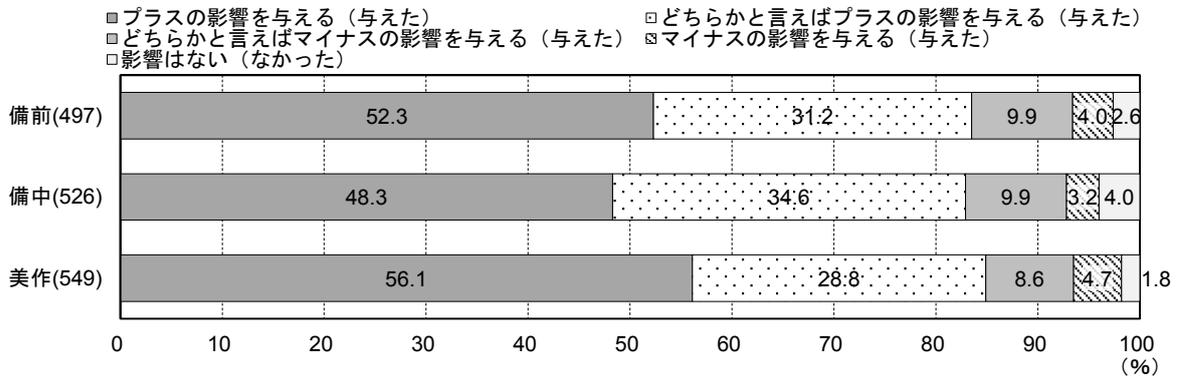
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0607	0.0688
P値	0.4757	0.0613

図Ⅱ－１４３ 県民局別にみた子育てがライフコースに与える影響（単数）

（男性）



（女性）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0411	0.0639
P 値	0.9002	0.1179

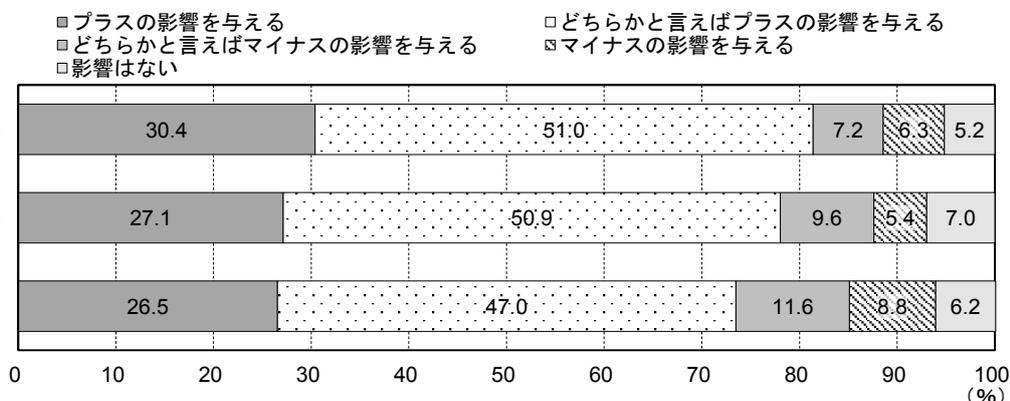
②未婚者

未婚者を対象に、結婚、妊娠・出産、子育てが希望するライフコースに与える影響を集計すると、「プラスの影響を与える」「どちらかと言えばプラスの影響を与える」は、おおよそ70%から80%を占める(図Ⅱ-144)。

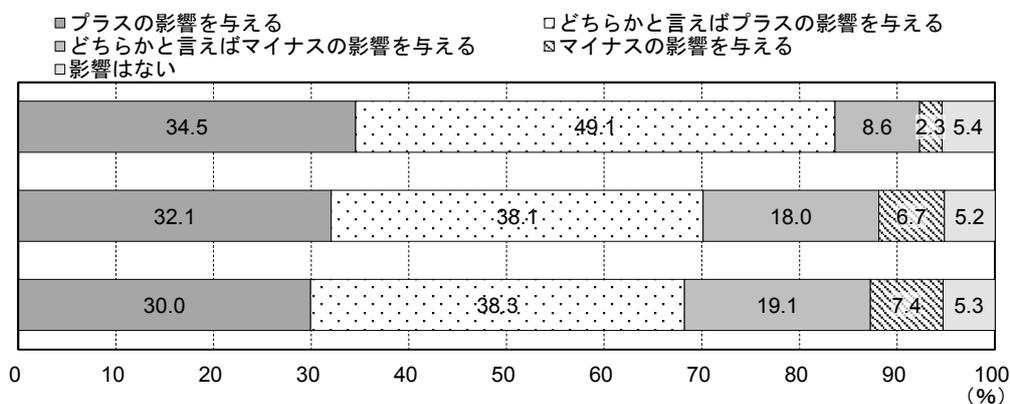
「マイナスの影響を与える」「どちらかと言えばマイナスの影響を与える」に着目すると、男女とも、結婚、妊娠・出産、子育ての順を追って「マイナス」が多くなる。結婚が「マイナス」は男性で14%、女性で11%であり、男性がやや多いものの、妊娠・出産や子育てが「マイナス」は女性の方が多い。女性では、妊娠・出産では25%、子育てでは27%が「マイナス」の回答になっている。男性においても子育てが「マイナス」は20%に上る。

図Ⅱ-144 結婚、妊娠・出産、子育てがライフコースに与える影響(未婚者、単数)

(男性)



(女性)



(注) 県民局別の男女未婚者数(20-49歳)によるウェイトバック集計である

(3) ライフコースの志向性が定住意識に与える影響

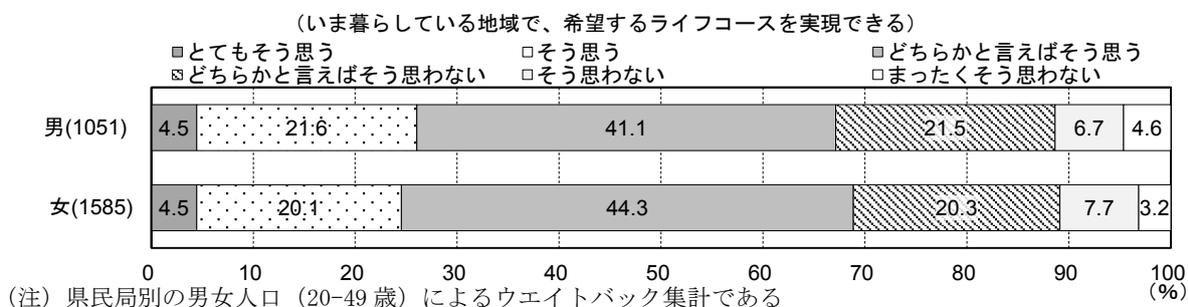
①暮らしている地域でのライフコースの実現可能性

ライフコースの志向性は、住民の結婚意欲等に直接影響するだけでなく、暮らしている地域に対する定住意識に働きかけ、間接的に地域の出生率に影響を与えと考えられる。例えば、結婚意欲の強い者が転出すれば地域の出生率は低下し、反対に結婚意欲の低い者が転出すれば出生率は上昇する可能性が高い。

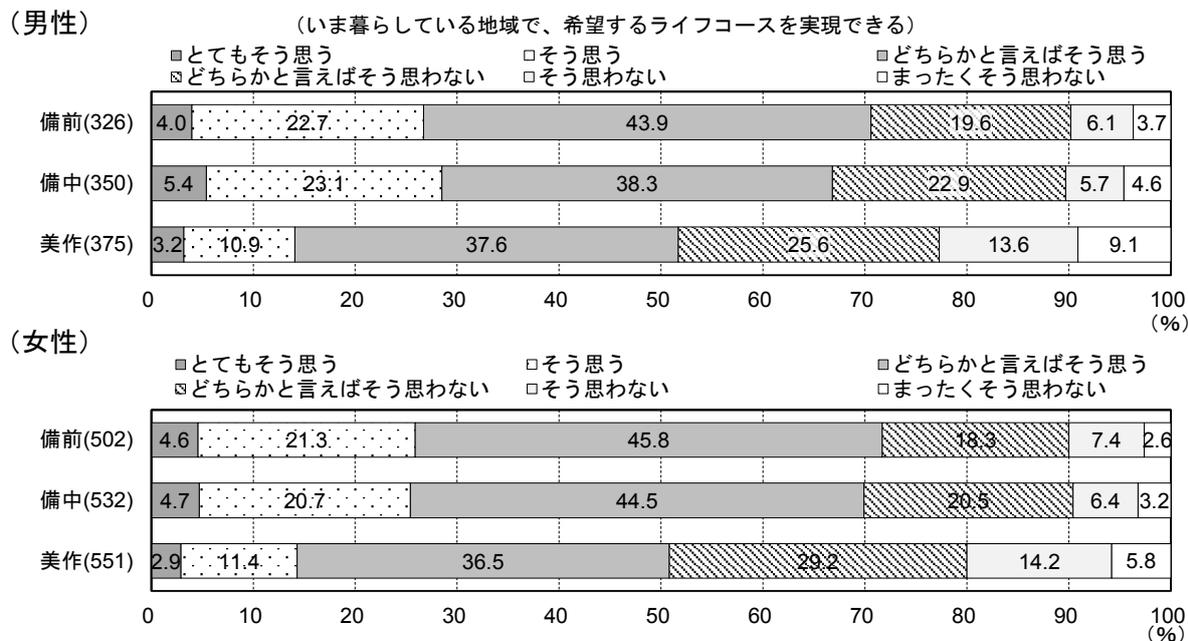
そうした観点から、現在暮らしている地域で希望するライフコースを実現できるかどうか尋ねたところ、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計は男性67%、女性69%であった（図Ⅱ-145）。逆に、男女とも30%強の者が否定の回答になっている。

県民局で回答に大きな差異があり、美作で否定的な意見が多くなっている（図Ⅱ-146）。

図Ⅱ-145 暮らしている地域での希望するライフコースの実現可能性（単数）



図Ⅱ-146 県民局別にみた暮らしている地域での希望するライフコースの実現可能性（単数）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1576	0.1507
P値	0.0000	0.0000

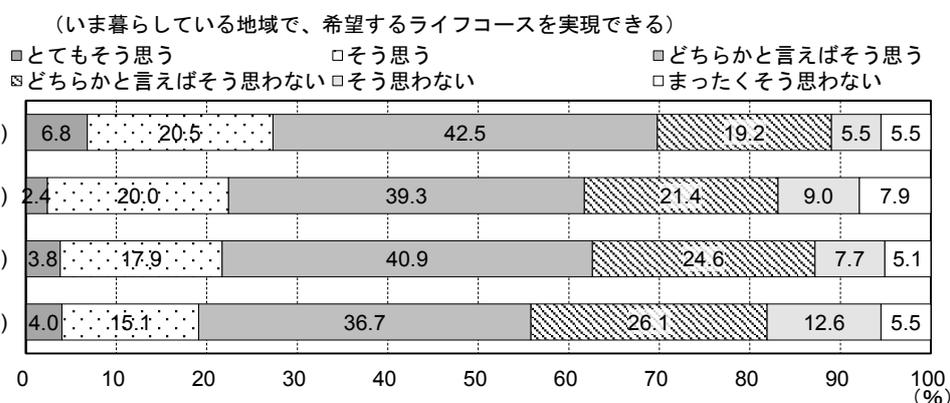
ライフコースの志向性に分けて、暮らしている地域での希望するライフコースの実現可能性を集計すると、とりわけ女性においてチャレンジ志向が強くなるほど否定的な意見が多くなる(図Ⅱ-147)。女性の「強いチャレンジ志向」では否定的意見が44%に達する。

男性においても「強いチャレンジ志向」の否定的意見は44%に達するが、ライフコースと地域の評価について女性ほどはっきりとした傾向はみられない。

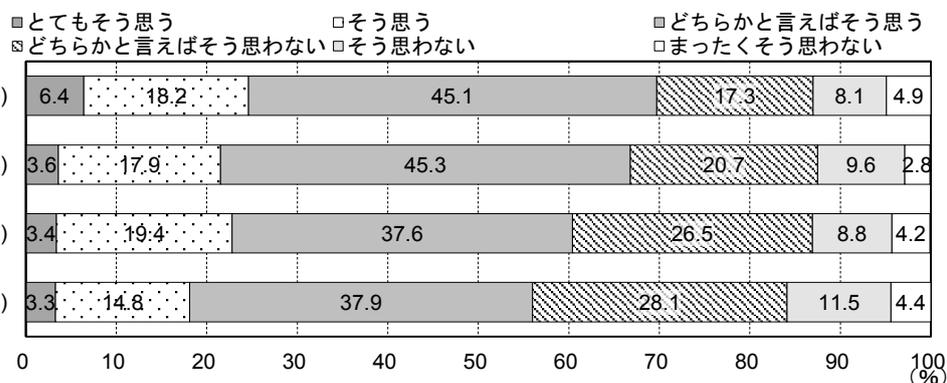
ライフコースの志向性を「チャレンジ志向」と「安定志向」の二区分、ライフコースの実現可能性を「肯定」と「否定」の二区分にして、ライフコースの志向性が定住意識に与える影響の強さを算出した。結果、「チャレンジ志向」であると「安定志向」に比べ、「否定」の発生率が男性で1.3倍、女性で1.5倍になる(表Ⅱ-48)。女性は、強い影響力であるとみられる。

図Ⅱ-147 ライフコースの志向性別にみた
暮らしている地域での希望するライフコースの実現可能性(単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0829	0.0802
P値	0.1356	0.0116

表Ⅱ-48 ライフコースの志向性が及ぼす、暮らしている地域での希望するライフコースの実現可能性に対する影響の強さ

(件、%、倍)

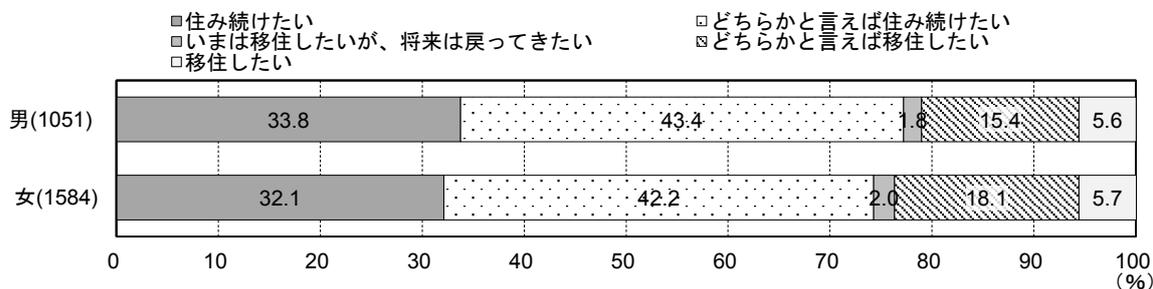
性別	ライフコース：チャレンジ志向				ライフコース：安定志向				オッズ比
	N	否定	肯定	オッズ	N	否定	肯定	オッズ	
男	512	40.0	60.0	0.67	509	34.8	65.2	0.53	1.25
女	745	41.6	58.4	0.71	814	31.9	68.1	0.47	1.52

②暮らしている地域に対する定住意識

ライフコースの実現可能性とは切り離して、「いま暮らしている地域で、これからも住み続けたいと思うか」を尋ねた。結果、「住み続けたい」または「どちらかと言えば住み続けたい」は、男性 77%、女性 74%であった。「いまは移住したいが、将来は戻ってきたい」というUターン志向者は男女とも 2%であり、Uターンを含めて定住意識を持つ者は男性 79%、女性 76%である（図Ⅱ－148）。

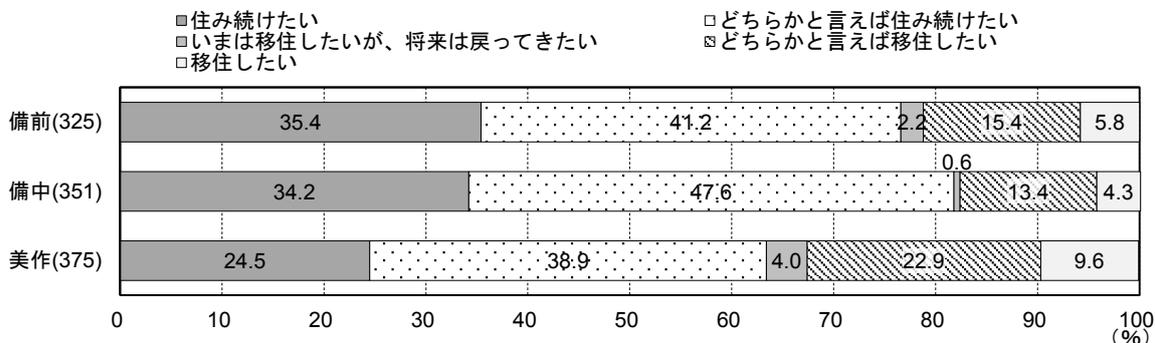
定住意識には県民局で大きな差異があり、美作において定住意識を持つ者は男女とも 60%程度となっており、女性の定住意識は備中と美作で 20 ポイント近い差がみられる（図Ⅱ－149）。

図Ⅱ－148 いま暮らしている地域に対する定住意識（単数）

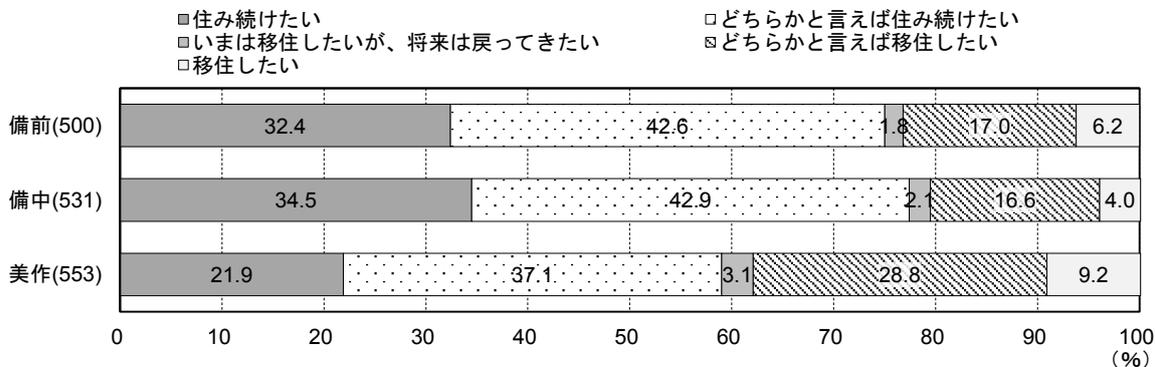


図Ⅱ－149 県民局別にみたいま暮らしている地域に対する定住意識（単数）

(男性)



(女性)



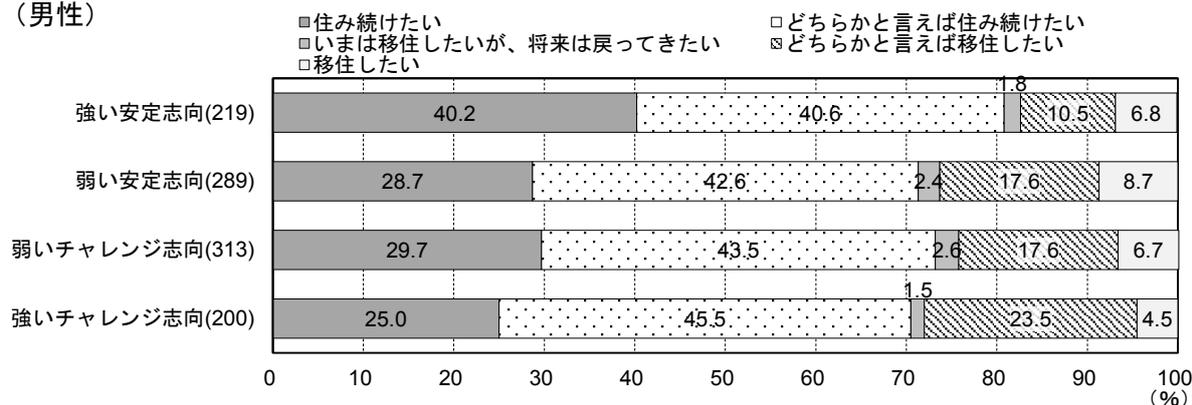
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1375	0.1353
P 値	0.0000	0.0000

ライフコースの志向性の違いによりいま暮らしている地域に対する定住意識をみると、男女とも、チャレンジ志向が強くなるほど、「住み続けたい」が減少し、「どちらかと言えば移住したい」が増加する。特に、女性においてこの傾向が明確に表れている(図Ⅱ-150)。

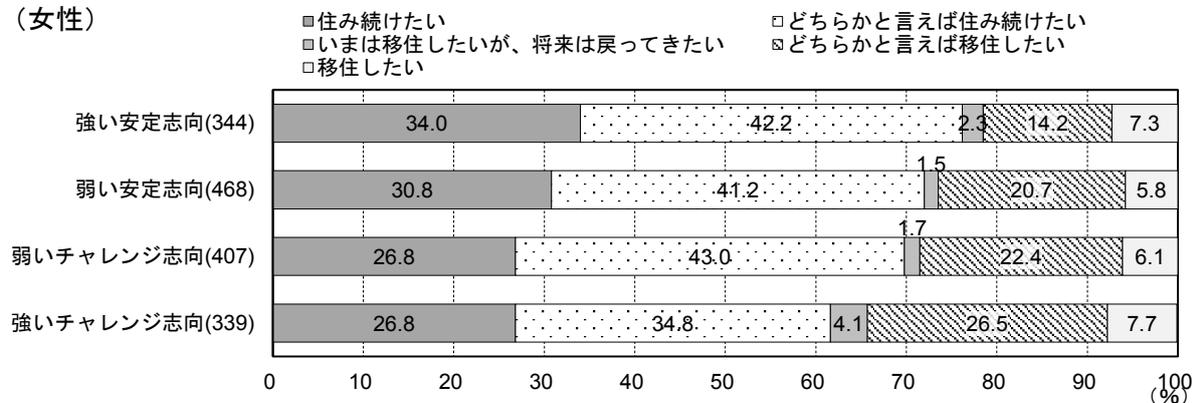
二区分によるライフコースの志向性と、同じく「定住(Uターンを含む)」「移住」の二区分による定住意識を用いて、ライフコースの志向性が定住意識に与える影響の強さを把握した。結果、「チャレンジ志向」であると「安定志向」に比べ、「移住」の発生率が男性で1.2倍、女性で1.4倍になる(表Ⅱ-49)。

図Ⅱ-150 ライフコースの志向性別にみた、いま暮らしている地域に対する定住意識(単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0881	0.0790
P値	0.0219	0.0037

表Ⅱ-49 ライフコースの志向性の定住意識に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	ライフコース：チャレンジ志向				ライフコース：安定志向				オッズ比
	N	移住	定住	オッズ	N	移住	定住	オッズ	
男	513	25.7	74.3	0.35	508	22.4	77.6	0.29	1.20
女	746	31.1	68.9	0.45	812	24.4	75.6	0.32	1.40

6. 妊娠・出産に関する不安

(1) 妊娠・出産に関する不安と内容

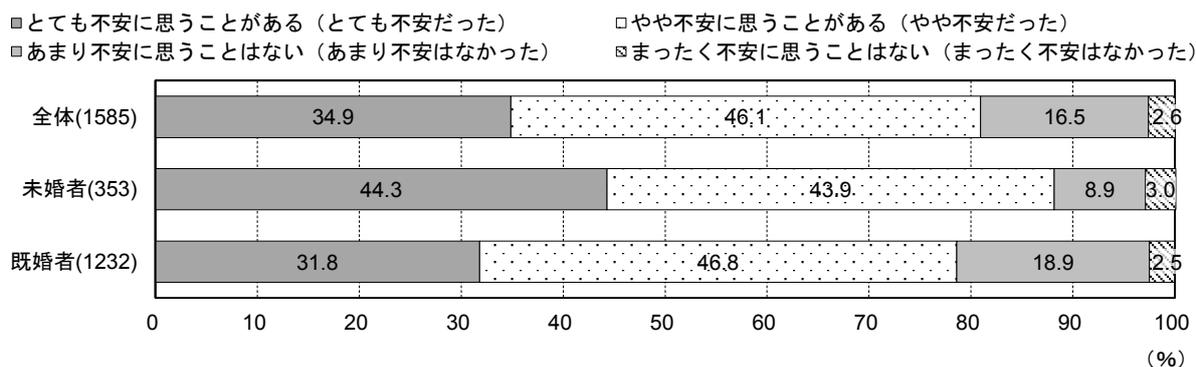
(女性の80%以上が妊娠・出産に不安を持っている)

身体への影響や医学面での妊娠・出産の不安は、未婚女性の結婚意欲や結婚の実現見通し、現実を持てる子ども数など、女性の結婚と子どもを持つことに関して広範に影響していた。

女性全体では「とても不安に思うことがある」は35%、「やや不安に思うことがある」は46%であり、81%の女性が妊娠・出産に対して何らかの不安を持っている(図Ⅱ-151)。不安感は未婚・既婚で差があり、「とても不安に思うことがある」は既婚女性では32%であるものの、未婚女性では44%に上る。

県民局別で妊娠・出産に関する不安感をみると、未婚者の不安感に備前と美作でいくらか差がみられるものの、全体的には地域で差異は生じていない(図Ⅱ-152)。

図Ⅱ-151 妊娠・出産に関する不安(女性、単数)

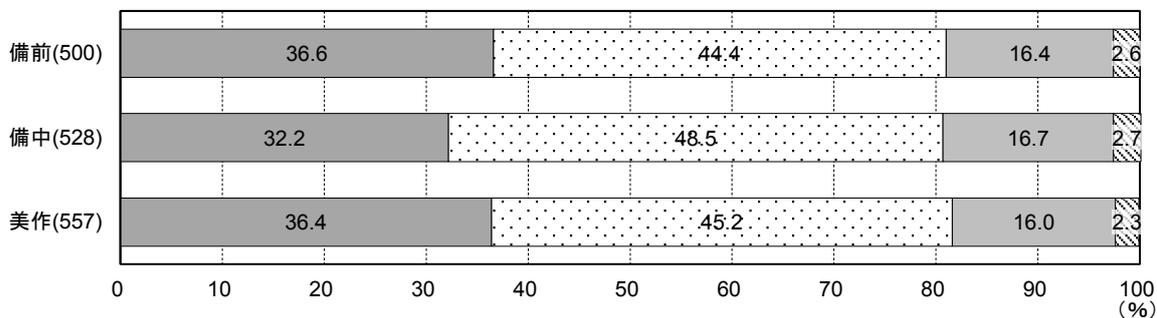


(注) それぞれ、県民局別の女性人口(20-49歳)、女性未婚者数(20-49歳)、女性既婚者数(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ－152 県民局別にみた妊娠・出産に関する不安(女性、単数)

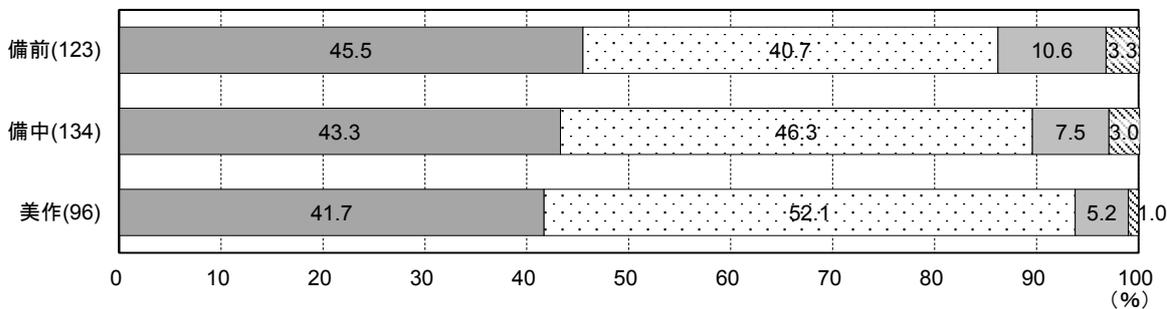
(全体集計)

- とても不安に思うことがある(とても不安だった)
- やや不安に思うことがある(やや不安だった)
- あまり不安に思うことはない(あまり不安はなかった)
- まったく不安に思うことはない(まったく不安はなかった)



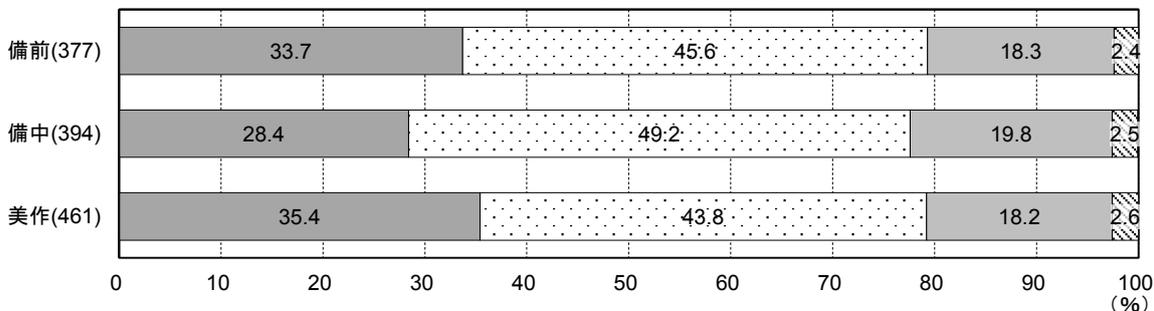
(未婚者)

- とても不安に思うことがある
- やや不安に思うことがある
- あまり不安に思うことはない
- まったく不安に思うことはない



(既婚者)

- とても不安に思うことがある(とても不安だった)
- やや不安に思うことがある(やや不安だった)
- あまり不安に思うことはない(あまり不安はなかった)
- まったく不安に思うことはない(まったく不安はなかった)



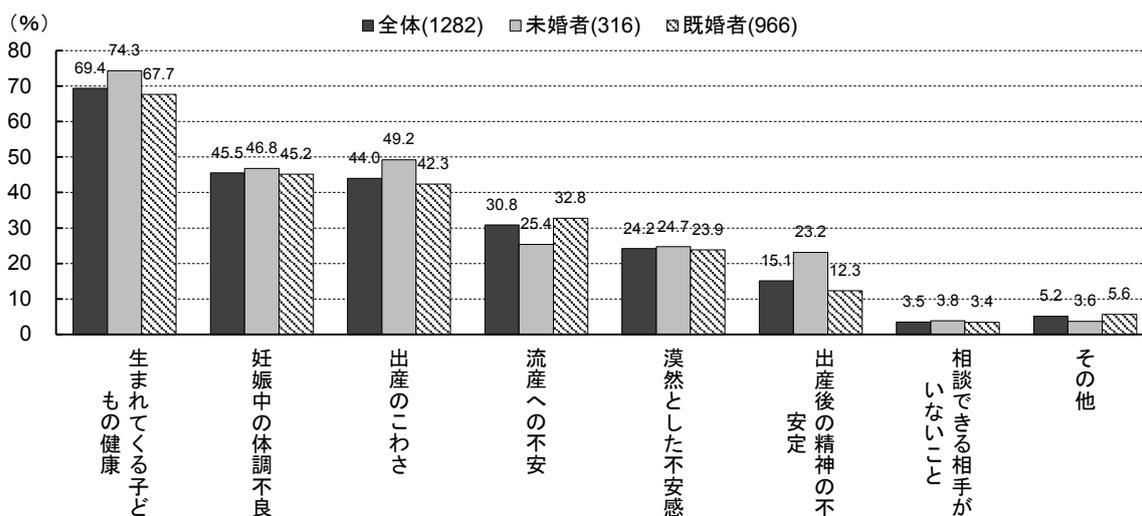
項目	全体	未婚者	既婚者
クラメールの連関係数	0.0315	0.0837	0.0454
P値	0.7916	0.5516	0.5343

不安の内容をみると、女性全体では「生まれてくる子どもの健康」が69%を占める。続いて、「妊娠中の体調不良」(46%)、「出産のこわさ」(44%)などが多い(図Ⅱ-153)。

未婚者もおおよそ同様の傾向であるものの、「出産のこわさ」(49%)、「出産後の精神的不安定」(23%)などは既婚者と比べて回答が多く、未婚者の特徴になっている。

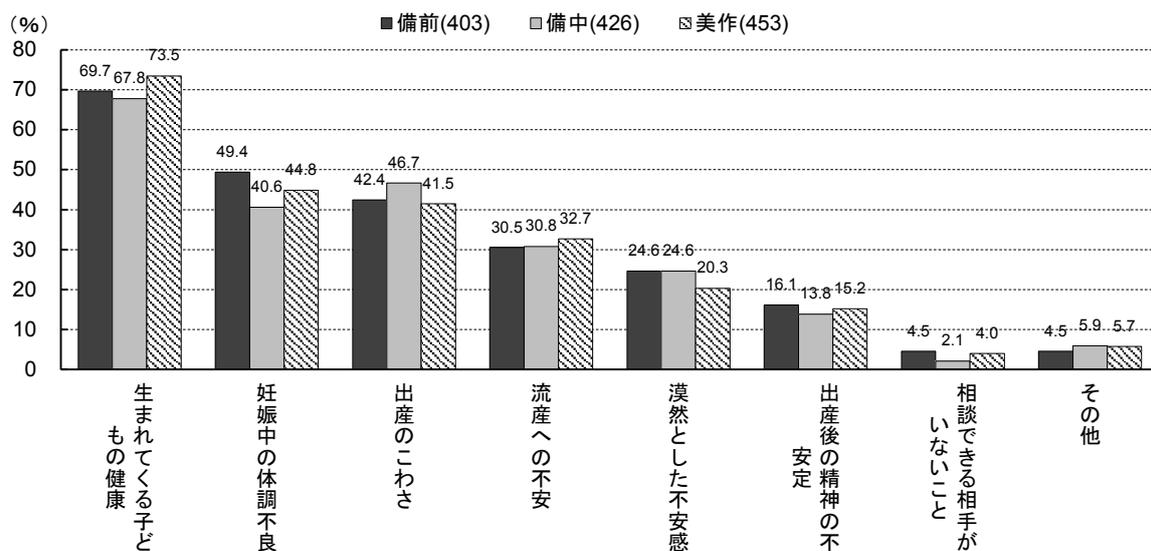
県民局別の不安内容に大きな差異はみられない(図Ⅱ-154)。ただし、未婚者はサンプル数が多くないこともあり、ややばらつきがみられる。

図Ⅱ-153 妊娠・出産について不安に思う内容(不安がある女性、複数)

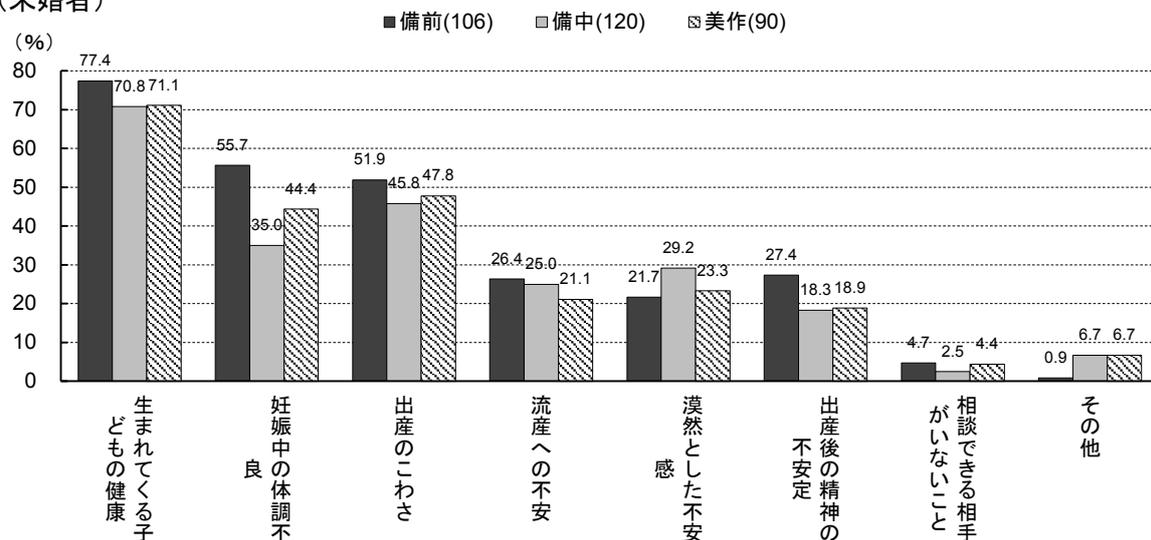


(注) それぞれ、県民局別の女性人口(20-49歳)、女性未婚者数(20-49歳)、女性既婚者数(20-49歳)によるウェイトバック集計である

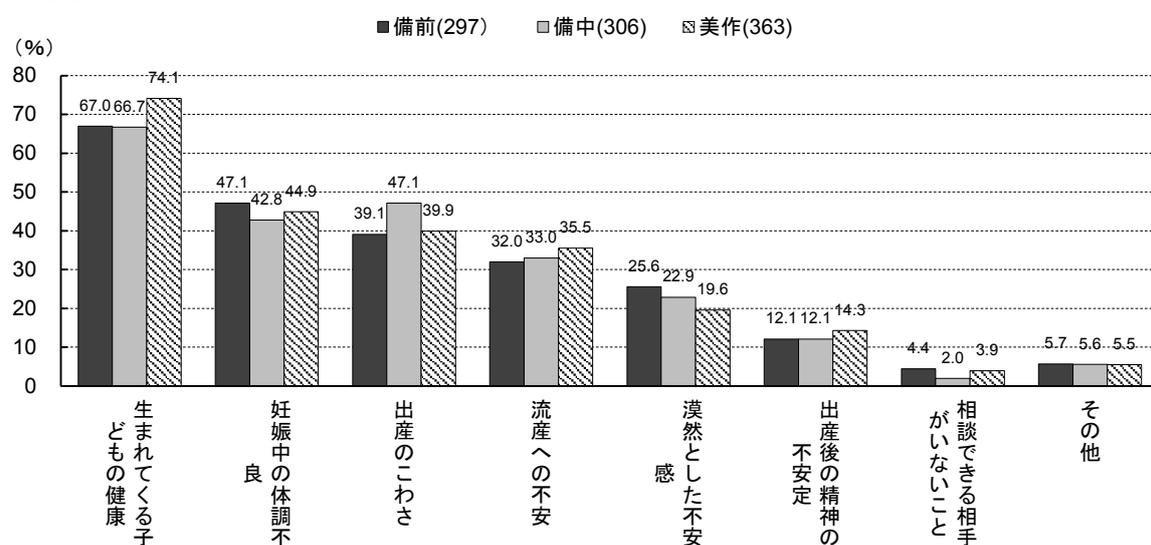
図Ⅱ－１５４ 県民局別に見た妊娠・出産について不安に思うこと(不安がある女性、複数)
(全体)



(未婚者)



(既婚者)

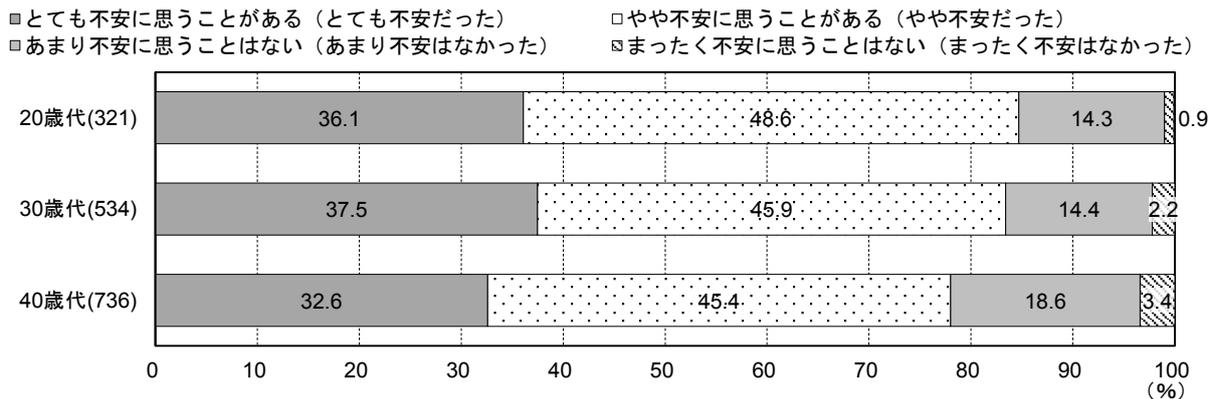


(2) 妊娠・出産に関する不安に影響を及ぼす要因

①年齢

女性全体を対象に年齢階層別に不安感を集計すると、年齢が高くなるにつれ「不安に思うことはない」が増加しているものの、大きな差異ではない(図Ⅱ-155)。

図Ⅱ-155 年齢階層別にみた妊娠・出産に関する不安(女性、単数)

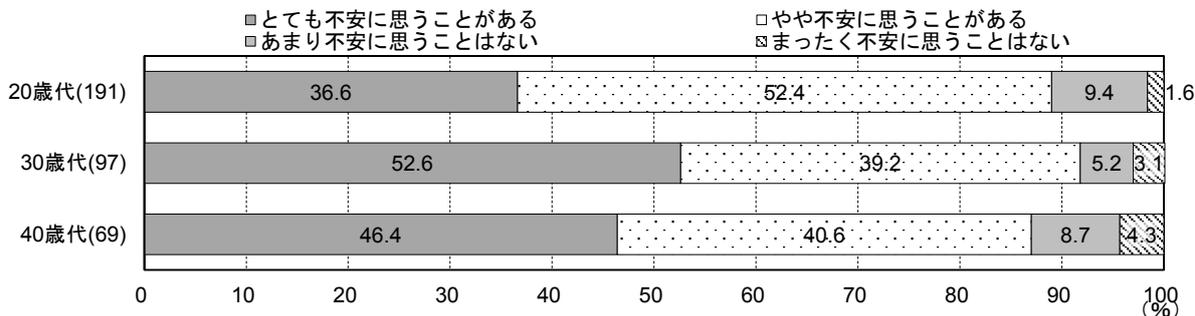


クラメールの連関係数	0.0632
P値	0.0480

(未婚女性では年齢とともに妊娠・出産に関して不安を持つ者が増える)

未婚女性を対象にして年齢階層別に不安感を集計すると、20歳代の「とても不安に思うことがある」が37%であるのに対して、30歳代は53%、40歳代は46%と多くなっている(図Ⅱ-156)。これは、年齢が高くなることにより妊娠・出産に伴うリスクが高まることから、結婚前における不安感として表れていると考えられる。

図Ⅱ-156 年齢階層別にみた妊娠・出産に関する不安の有無(女性、未婚者、単数)



クラメールの連関係数	0.1201
P値	0.1124

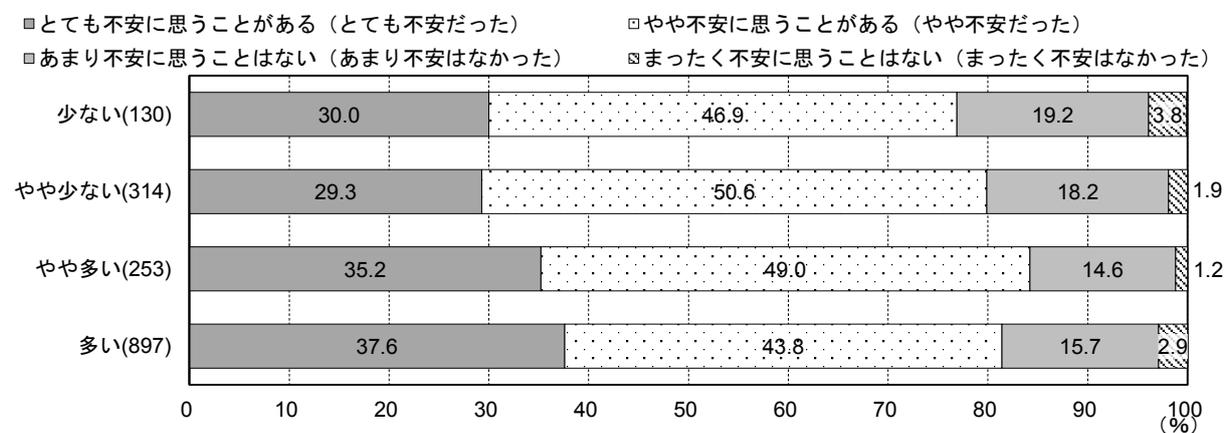
②妊娠・出産に関わる医学的知識

調査では、「女性の妊娠する力が年齢に伴い低下すること」等、四つの項目により、妊娠・出産に関わる医学的知識を有しているかを四段階のリッカード形式により把握した。調査項目やリッカード形式の段階数が少ないこと、「よく知っている」に回答が偏ったことから、四つの質問に対する回答の平均値に基づき、回答者を医学的知識が相対的に「少ない」「やや少ない」「やや多い」「多い」に四区分した。

上記の四区分により妊娠・出産に関する不安を集計すると、医学的知識が多いほど「とても不安に思うことがある」がいくらか多くなっている(図Ⅱ-157)。

「医学的知識が多いと不安なことを見つけ出すことも多くなる」、逆に「不安だから医学的知識を求める」等の理由が考えられるものの、医学的知識の程度による差異はあまり大きくない。

図Ⅱ-157 医学的知識の多さ別にみた妊娠・出産に関する不安(女性、単数)



クラメールの連関係数	0.0543
P値	0.1194

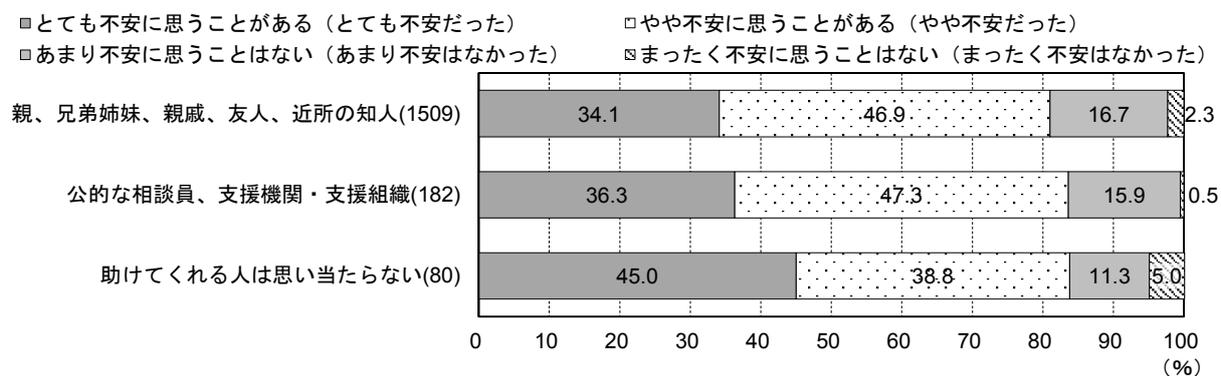
③妊娠・出産時に助けてくれる人

(助けてくれる人がいない者では不安感が強い者が多い)

調査では、妊娠・出産時に相談や生活面で助けてくれる人の有無を尋ねた。「親、兄弟姉妹、親戚、友人、近所の知人」や「公的な相談員、支援機関・支援組織」が助けてくれる人がほとんどであるが、「助けてくれる人は思い当たらない」がいくらか存在している。

そうした「助けてくれる人は思い当たらない」者では、妊娠・出産に関して「とても不安に思うことがある」は45%に上り、他に比べて10ポイント程度多くなっている(図Ⅱ-158)。

図Ⅱ-158 妊娠・出産時に助けている人別にみた妊娠・出産に関する不安(女性、単数)



クラメールの連関係数	0.1201
P値	0.1124

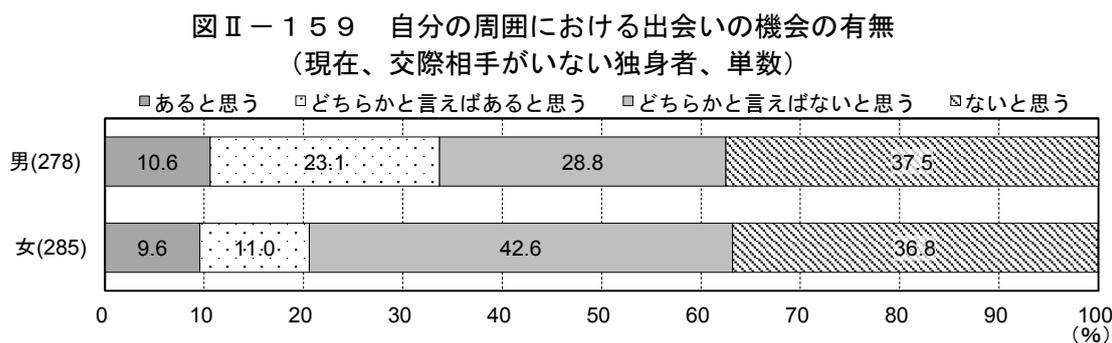
Ⅱ-3 初期アウトカム関連の集計・分析

1. 出会いの機会

(1) 出会いの機会の有無

(交際相手がいない独身者の大半は自分の周囲に出会いの機会はない)

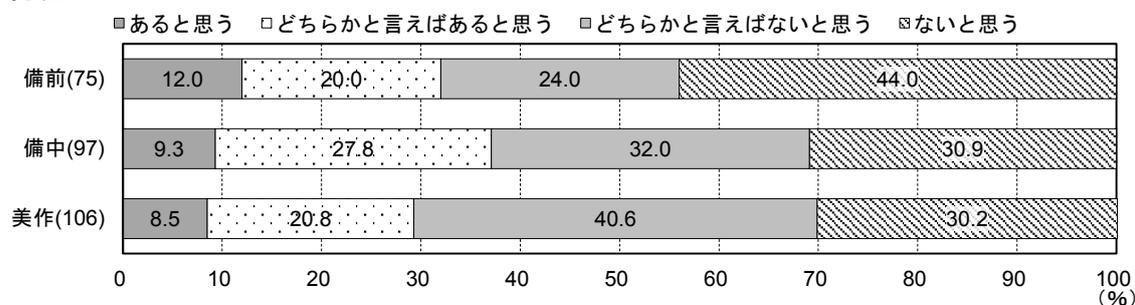
現在、交際相手がいない独身者を対象に自分の周囲に出会いの機会があるか尋ねたところ、「どちらかと言えばないと思う」あるいは「ないと思う」は、男性で66%、女性では79%に達する(図Ⅱ-159)。



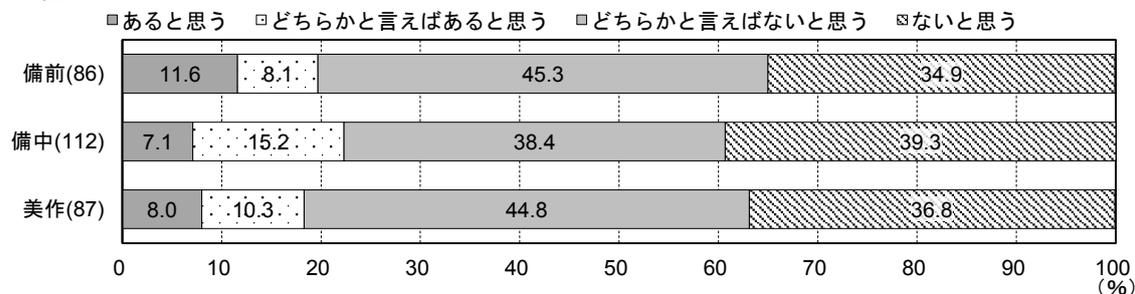
(注) 県民局別男女独身者人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ-160 県民局別にみた自分の周囲における出会いの機会の有無
(現在、交際相手がいない独身者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1251	0.0880
P値	0.1907	0.6205

(2) 可能性がある出会いの機会

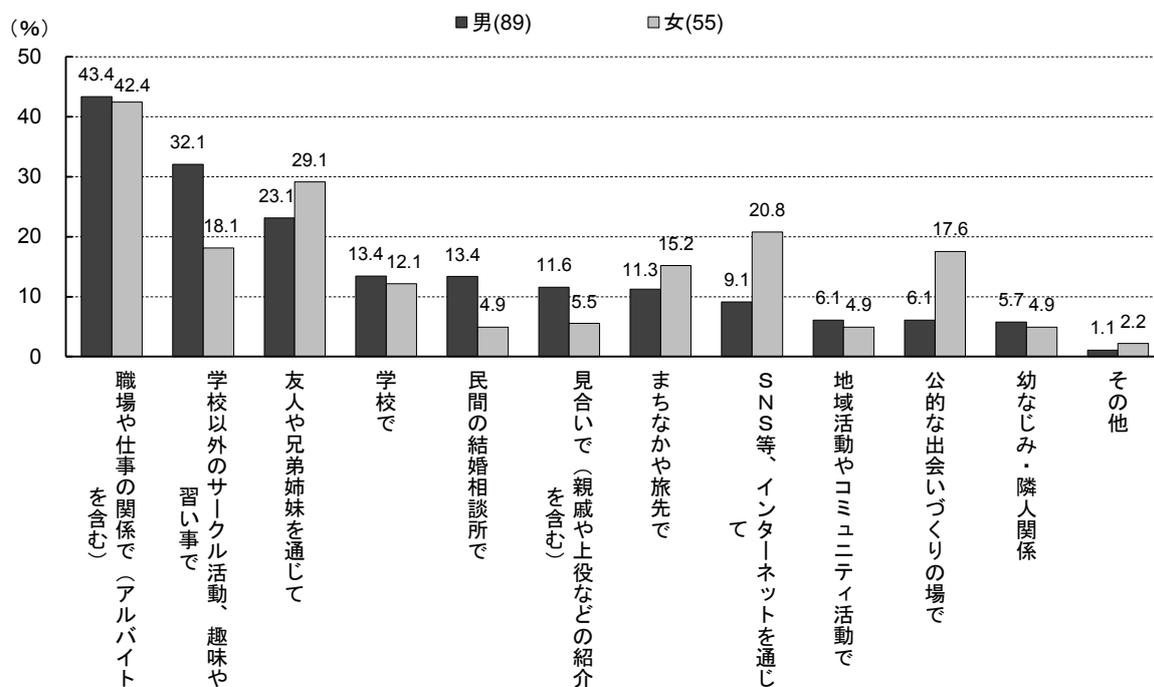
現在、交際相手がない独身者のうち、自分の周囲に出会いの機会があると回答した者を対象に、出会いの機会の内容を尋ねた。

結果、男女とも「職場や仕事の関係で」が最も多く、「職縁」が40%を超えている（図Ⅱ－161）。この他、男女とも「学校以外のサークル活動、趣味や習い事で」「友人や兄弟姉妹を通じて」が多くなっている。

また、女性では、「SNS等、インターネットを通じて」や「公的な出会いづくりの場で」が20%近く、男性にない特徴になっている。

なお、図Ⅱ－161から回答の一定の傾向は得られるものの、回答者数が少ないことから集計結果は参考値である。また、同じ理由から県民局別集計を省略した。

図Ⅱ－161 自分の周囲における可能性がある出会いの機会
（現在、交際相手がない独身者、複数）



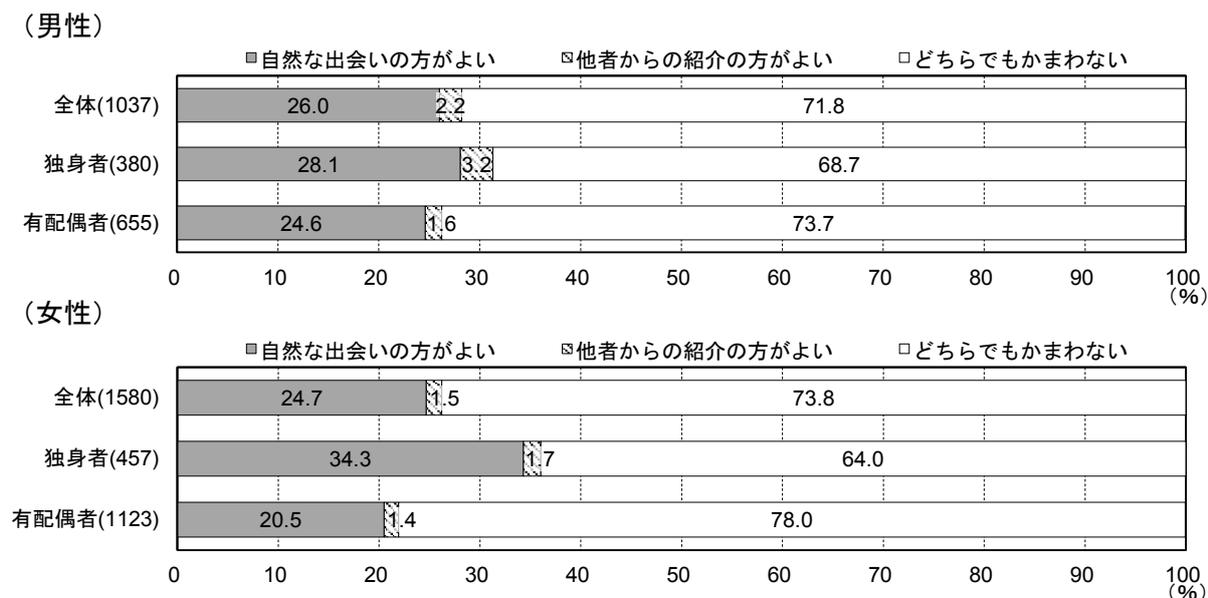
（注）県民局別男女独身者人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である

(3) 他者から紹介された結婚

(「どちらでもかまわない」が3分の2を占める)

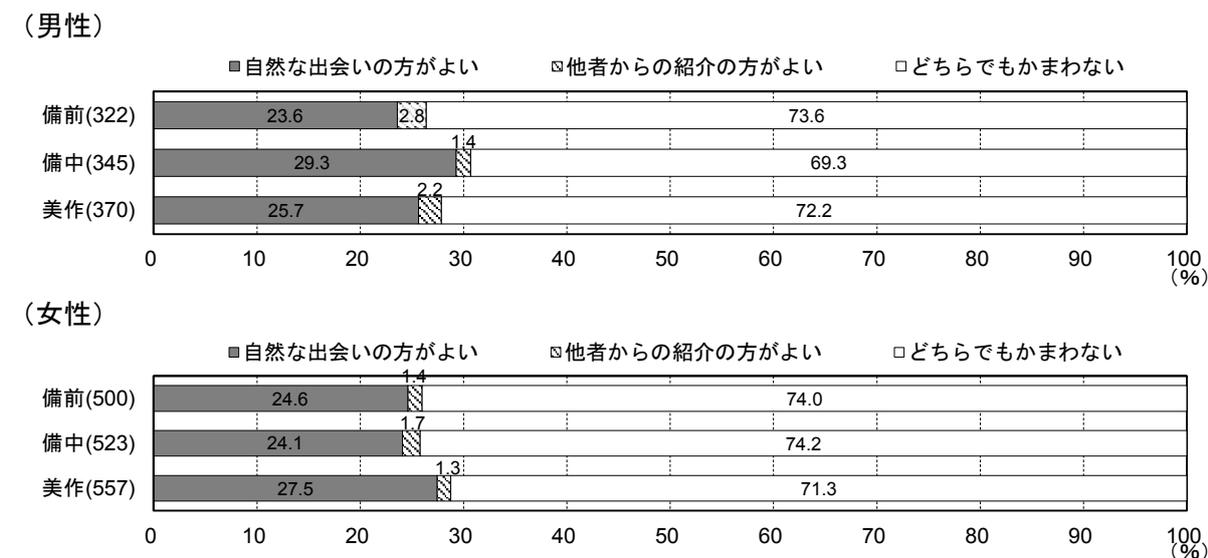
他者から紹介された結婚についてどのように思うか尋ねたところ、独身男性の69%、独身女性の64%から、自然な出会いと他者からの紹介の「どちらでもかまわない」という回答を得た(図Ⅱ-162)。

図Ⅱ-162 他者から紹介された結婚について(単数)



(注) それぞれ、県民局別男女人口(20-49歳)、県民局別男女独身者数(20-49歳)、県民局別男女有配偶者数によるウエイトバック集計である

図Ⅱ-163 県民局別の他者から紹介された結婚について(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0589	0.0344
P値	0.3013	0.7111

(4) 他者から紹介される出会いの機会の利用意向

(独身者の公的な出会いづくりに対する利用意向は50%を超える)

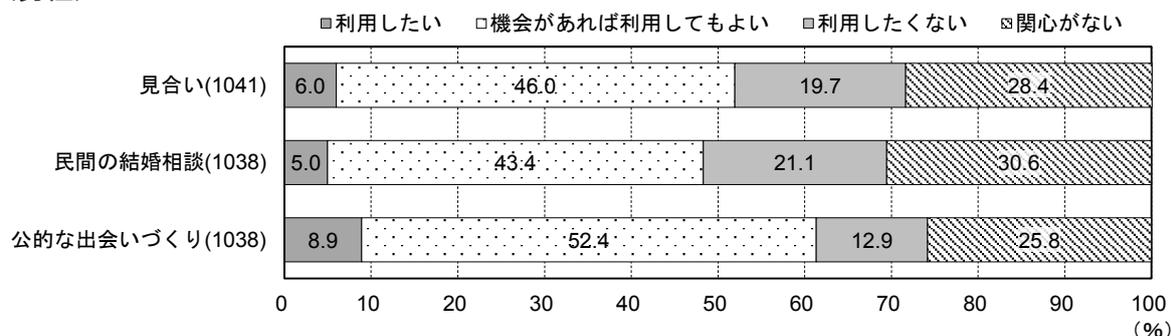
他者から紹介される出会いの機会のうち、「見合い」「民間の結婚相談」「公的な出会いづくり」について利用意向を把握した。

独身者に有配偶者（結婚前を思い出した回答）を含めた全数集計では、「利用したい」「是非利用したい」の合計は、「見合い」が男性52%、女性56%、「民間の結婚相談」が男性48%、女性52%、「公的な出会いづくり」が男性61%、女性65%となっている（図Ⅱ-164）。

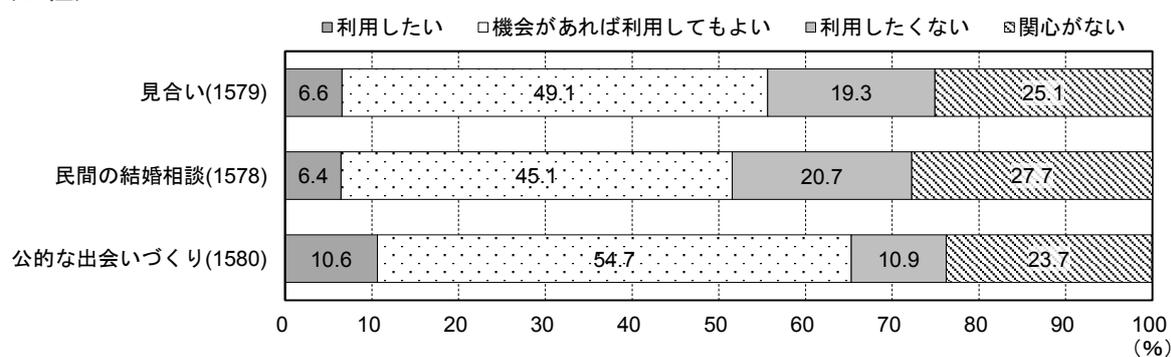
男女とも「公的な出会いづくり」が他に比べて10ポイント程度多くっており、ニーズが大きい。また、本調査では、未婚者の交際相手および既婚者の配偶者との出会いに占める「見合い」の割合は約5%であったが、「見合い」の機会を「利用したい」「利用してもよい」という者が男女とも50%を超えることは注目される。

図Ⅱ-164 他者から紹介される出会いの機会の利用意向（単数）

(男性)



(女性)



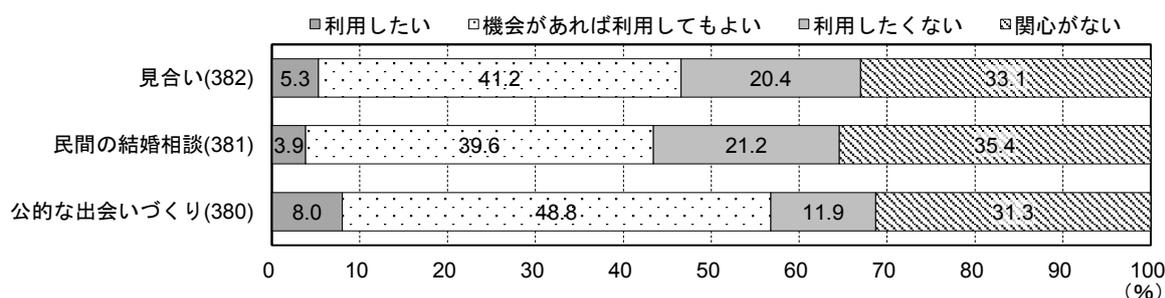
(注) 県民局別男女人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である

独身者を対象にした集計では、「利用したい」「機会があれば利用してもよい」の合計は、「見合い」が男性 47%、女性 49%、「民間の結婚相談」が男性 44%、女性 46%、「公的な出会いづくり」が男性 57%、女性 56%となっている(図Ⅱ-165)。

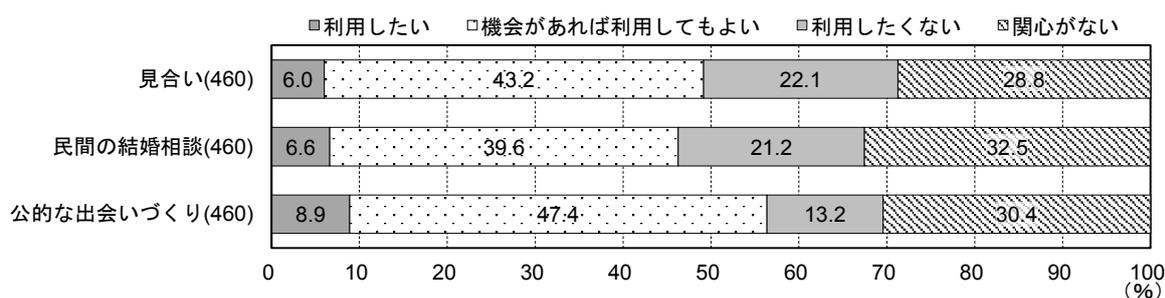
男女とも「公的な出会いづくり」が他に比べて10ポイント程度多くなっており、大きめのニーズが表れている。また、本調査では、未婚者の交際相手及び既婚者の配偶者との出会いに占める「見合い」の割合は約5%であるが、「見合い」の機会を「利用したい」「利用してもよい」という者が男女とも50%近いことは注目される。

図Ⅱ-165 他者から紹介される出会いの機会の利用意向(独身者、単数)

(男性)



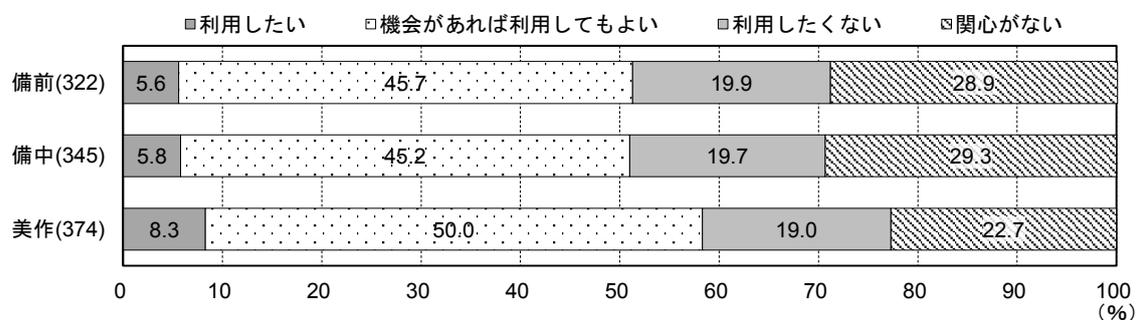
(女性)



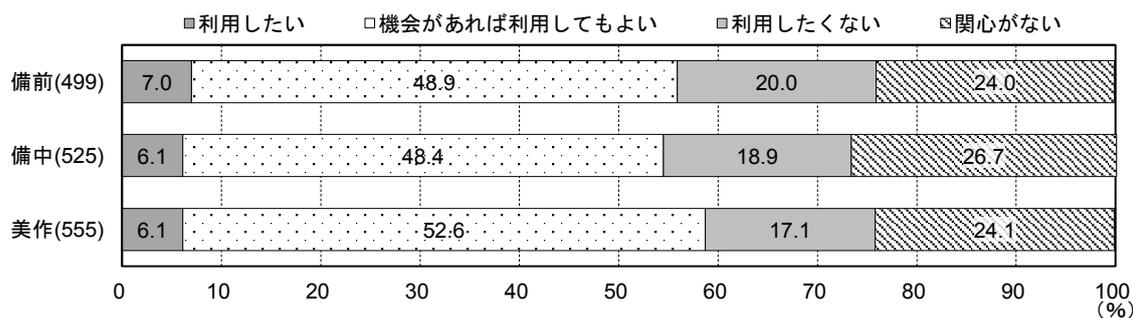
(注) 県民局別男女独身者人口(20-49歳)によるウェイトバック集計である

図Ⅱ-166 県民局別にみた見合いの利用意向(単数)

(男性)



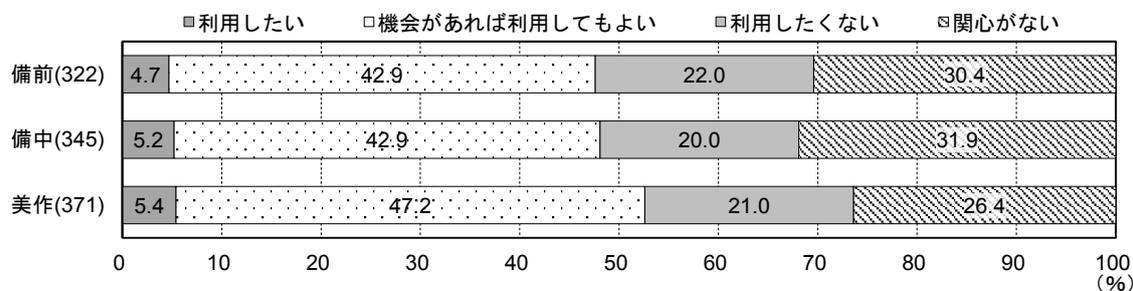
(女性)



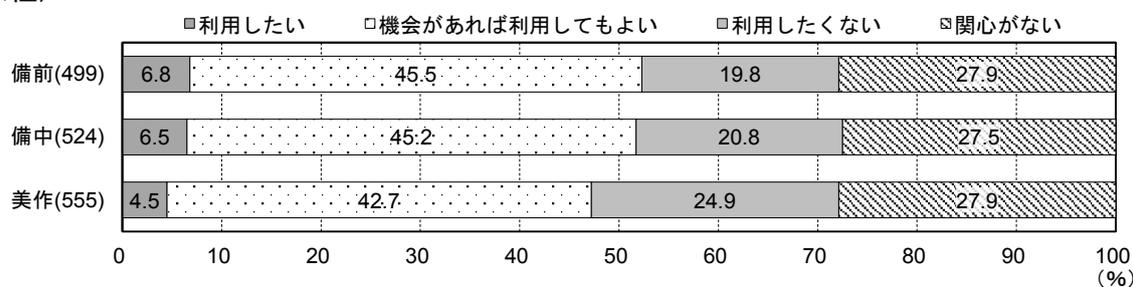
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0589	0.0344
P値	0.3013	0.7111

図Ⅱ-167 県民局別にみた民間の結婚相談の利用意向（単数）

(男性)



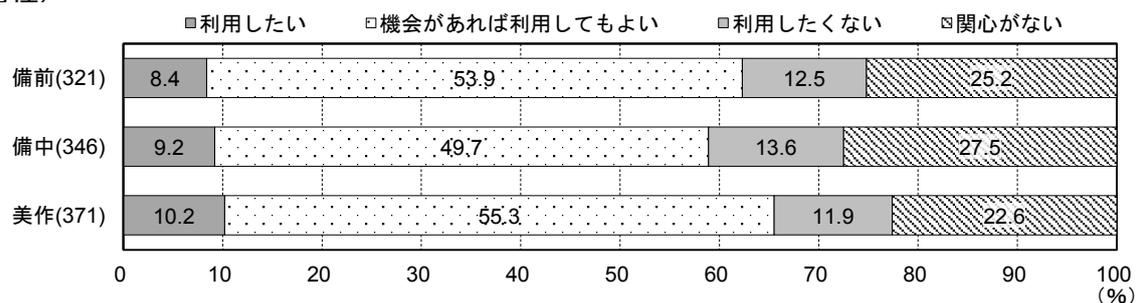
(女性)



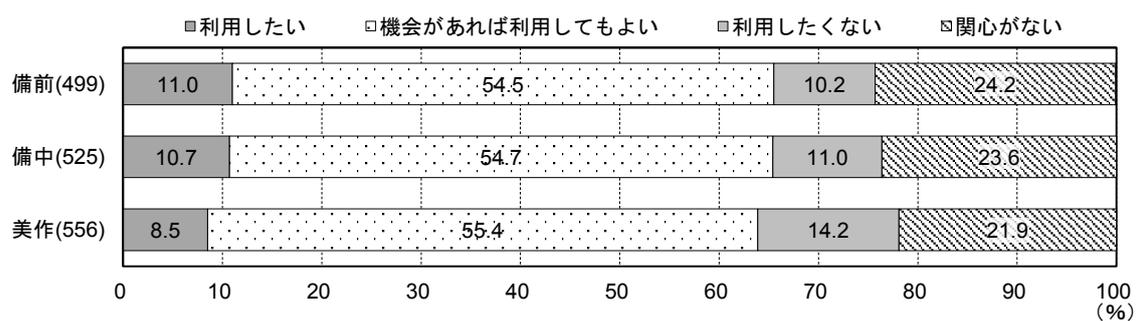
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0409	0.0468
P値	0.3279	0.3279

図Ⅱ-168 県民局別にみた公的な出会いづくりの利用意向(単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0429	0.0463
P値	0.6999	0.3420

2. 男女の役割分担

(1) 男女の役割分担意識

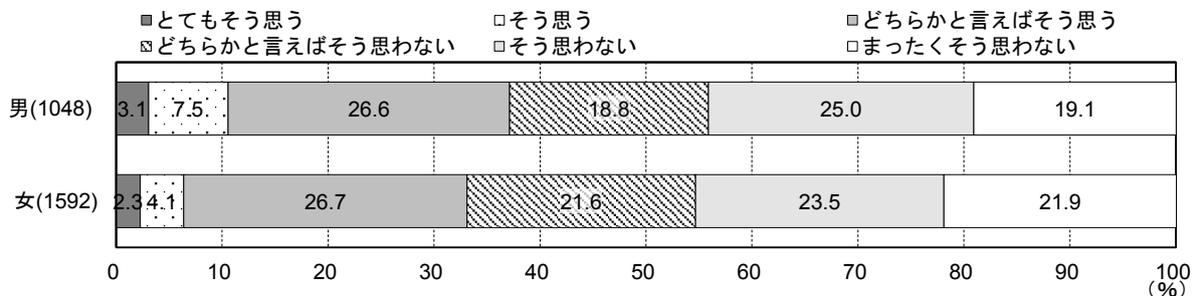
(所得に関する役割分担意識は男女で差が大きい)

「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という伝統的な男女の役割分担意識を肯定する者（とてもそう思う、そう思う、どちらかと言えばそう思うの合計）は、男性で37%、女性33%であり、男女の間に大きな差異はない（図Ⅱ－169）。

ところが、「結婚生活のための所得に関する自分の役割」では、男性では「必要な所得の大半は自分が稼ぐ」が36%、女性では「自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい」が40%を占めるなど男女の考え方の違いは大きい（図Ⅱ－170）。

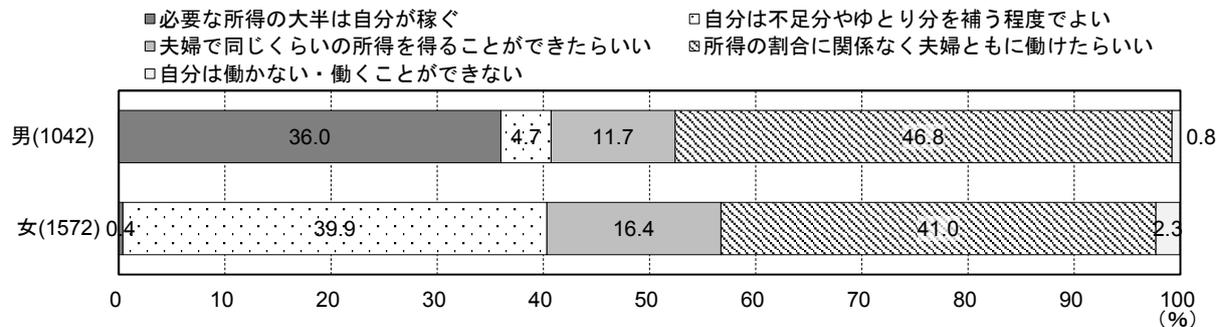
伝統的な男女の役割分担意識を分析軸として「結婚生活のための所得に関する自分の役割」とクロス集計を行うと、二つの役割分担の考え方には、男女とも強い相関がみられる（図Ⅱ－171）。しかしながら、「結婚生活のための所得に関する自分の役割」に男女で大きな差異があるのは、「伝統的な男女の役割分担意識」に否定的でも、男性の「必要な所得の大半は自分が稼ぐ」、女性の「自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい」が20%～40%を占めるなど、所得を得ることの役割分担意識が「伝統的な男女の役割分担意識」よりも強固であるためと考えられる。

図Ⅱ－169 「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について
(単数)



(注) 県民局別男女人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である

図Ⅱ－170 結婚生活のための所得に関する自分の役割（単数）



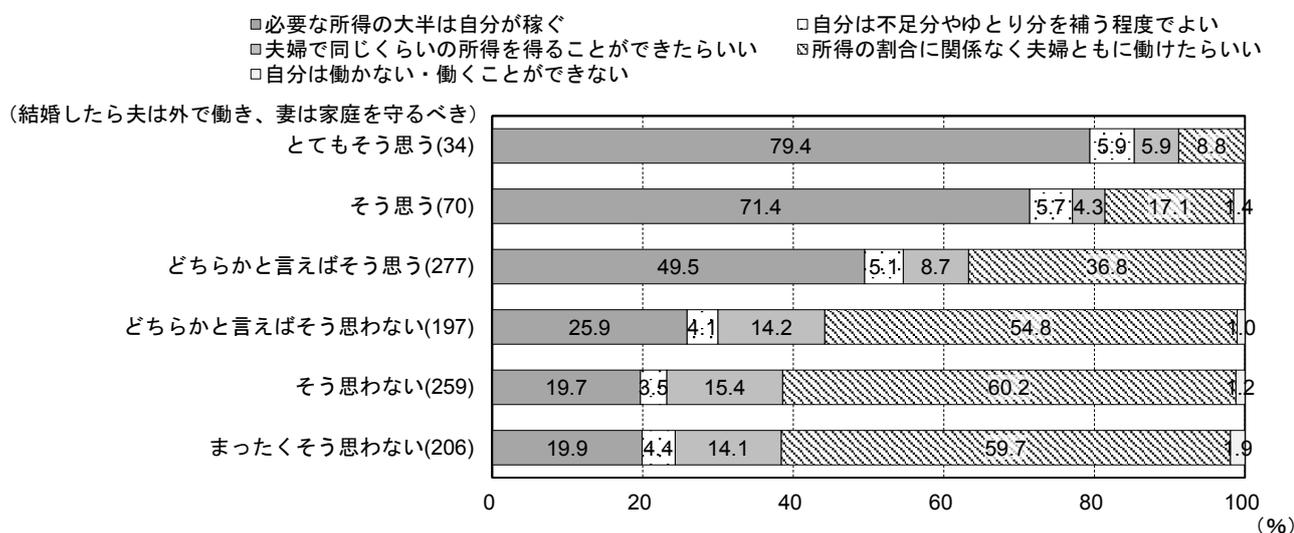
(注) 県民局別男女人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である

このように、二つの役割分担の考え方には、男女とも強い相関がみられる。しかしながら、「結婚生活のための所得に関する自分の役割」に男女で大きな差異があるのは、「伝統的な男女の役割分担意識」に否定的でも、男性の「必要な所得の大半は自分が稼ぐ」、女性の「自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい」が20%~40%を占め、所得を得ることの役割分担意識が「伝統的な男女の役割分担意識」よりも強固であるためと考えられる。

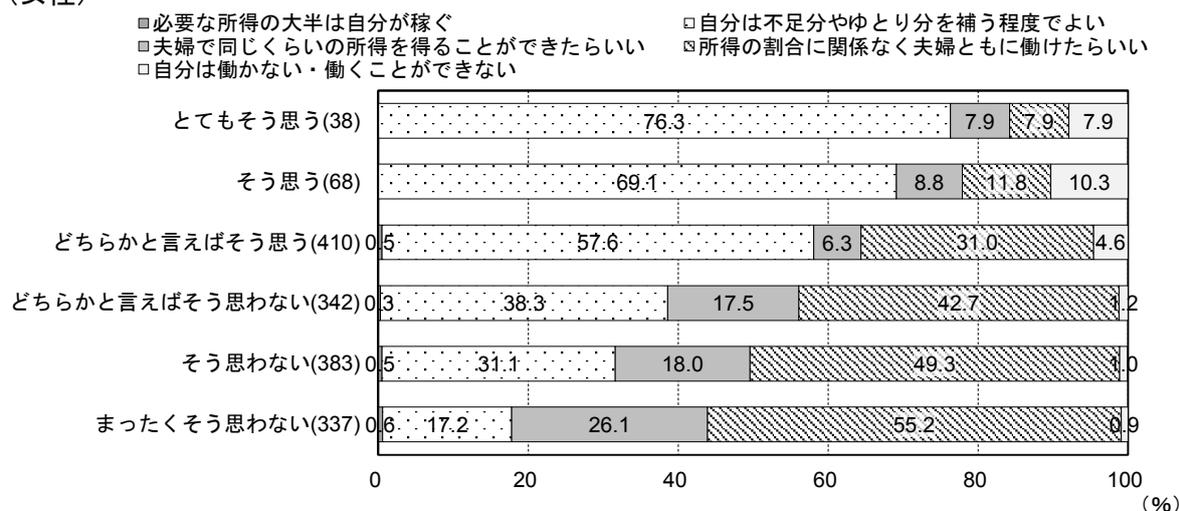
なお、「結婚生活のための所得に関する自分の役割」において、「夫婦で同じくらいの所得を得ることができたらいい」は、男性12%、女性16%であり、女性の方が多い。また、「伝統的な男女の役割分担意識」および「結婚生活のための所得に関する自分の役割」は、県民局別や年齢階層別で差異はみられない(図Ⅱ-172、図Ⅱ-173、図Ⅱ-174、図Ⅱ-175)。

図Ⅱ-171 伝統的な男女の役割分担意識別に見た結婚生活のための所得に関する自分の役割(単数)

(男性)



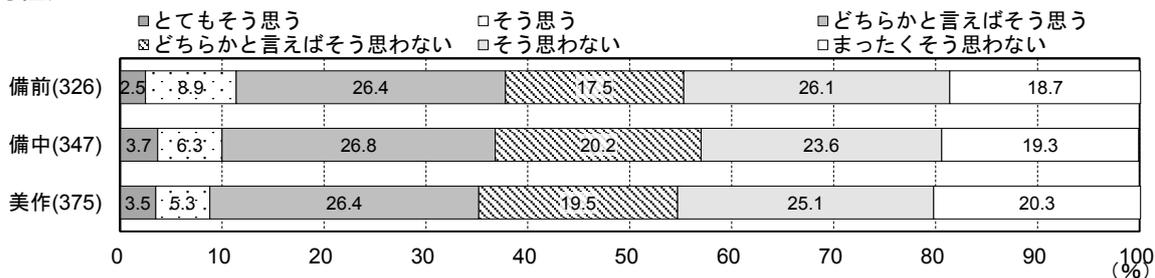
(女性)



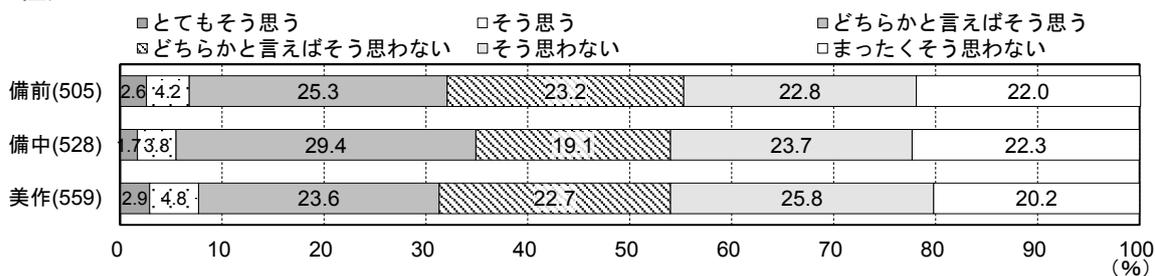
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1988	0.2018
P値	0.0000	0.0000

図Ⅱ－１７２ 県民局別にみた「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について（単数）

(男性)



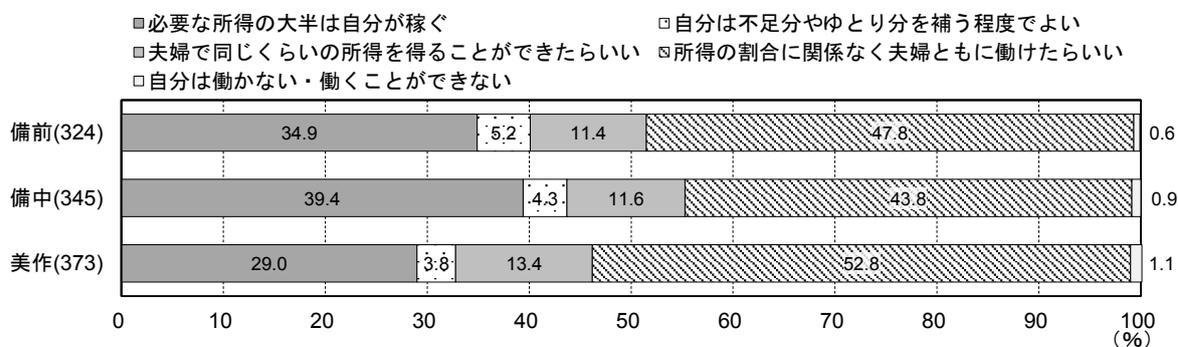
(女性)



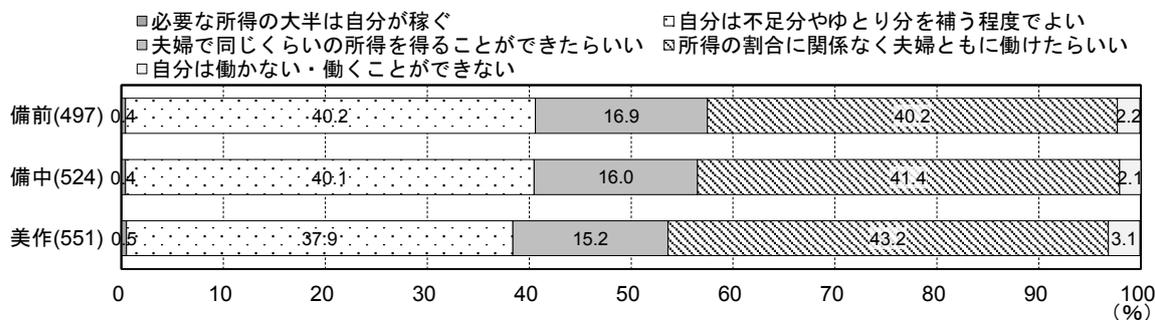
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0521	0.0561
P値	0.8403	0.4390

図Ⅱ－１７３ 県民局別にみた結婚生活のための所得に関する自分の役割（単数）

(男性)



(女性)



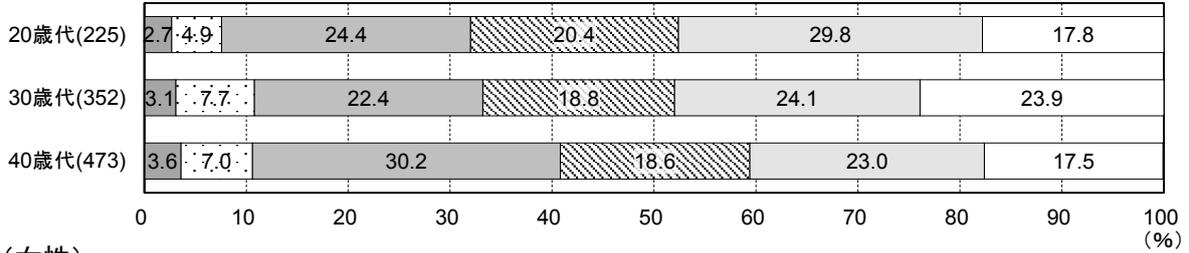
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0721	0.0304
P値	0.2106	0.9398

図Ⅱ-174 年齢階層別にみた男女の役割分担意識(単数)

(男性)

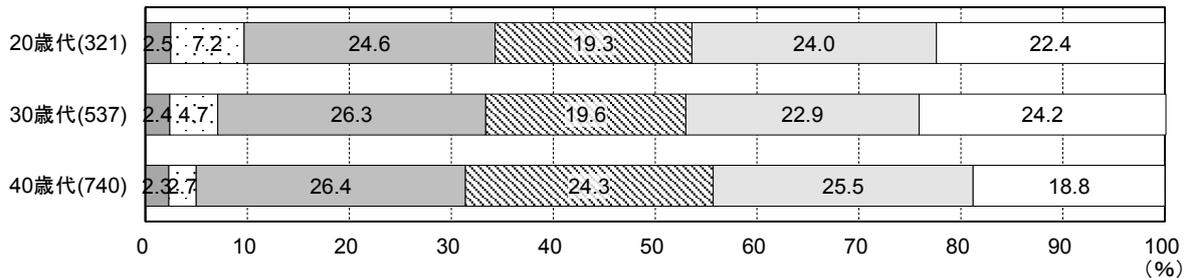
(結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき)

- とてもそう思う
- そう思う
- どちらかと言えばそう思う
- どちらかと言えばそう思わない
- そう思わない
- まったくそう思わない



(女性)

- とてもそう思う
- そう思う
- どちらかと言えばそう思う
- どちらかと言えばそう思わない
- そう思わない
- まったくそう思わない

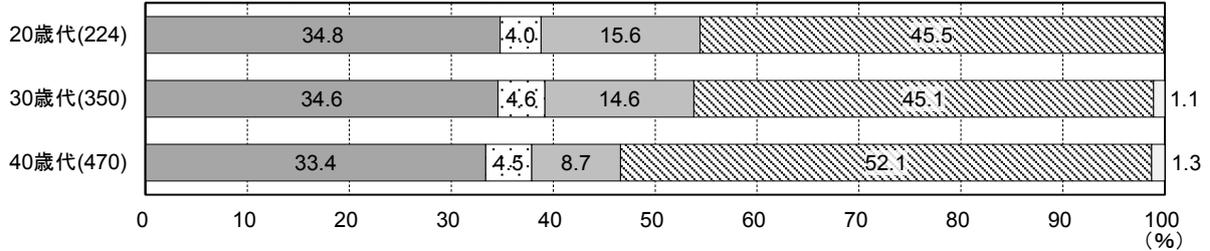


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0808	0.0304
P値	0.1398	0.0221

図Ⅱ-175 年齢階層別にみた結婚生活のための所得に関する自分の役割(単数)

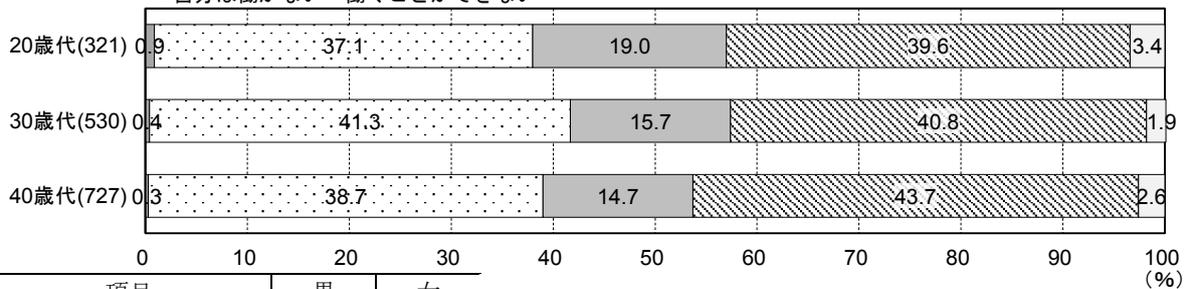
(男性)

- 必要な所得の大半は自分が稼ぐ
- 自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい
- 夫婦で同じくらいの所得を得ることができたらいい
- 所得の割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい
- 自分は働かない・働くことができない



(女性)

- 必要な所得の大半は自分が稼ぐ
- 自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい
- 夫婦で同じくらいの所得を得ることができたらいい
- 所得の割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい
- 自分は働かない・働くことができない



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0817	0.0533
P値	0.0834	0.3446

(2) 現実の家事の役割分担

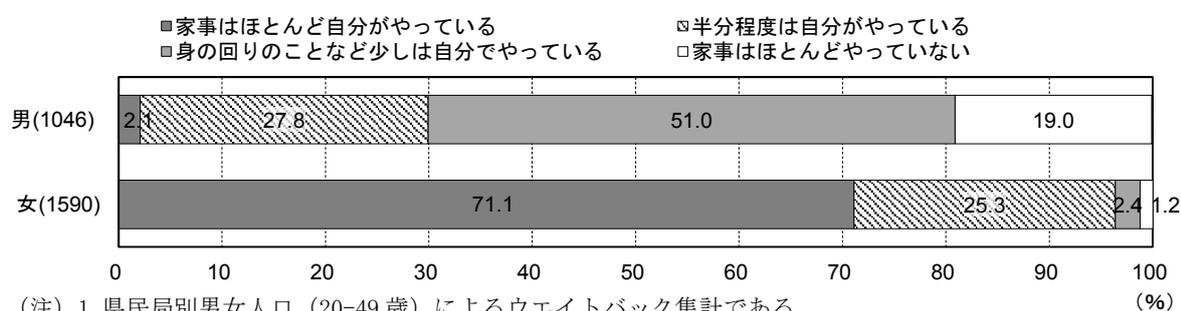
(意識とは異なり、現実の家事の役割分担は男女で差が大きい)

「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という役割分担意識は、男女で大きな違いはみられなかったが、現実の家事の役割分担は男女で大きな差異が生じている。

男性は家事を「身の回りのことなど少しは自分やっている」が 51%、「ほとんどやっていない」が 19%であり、合計で 70%を占める (図Ⅱ-176)。反対に、女性は「ほとんど自分がやっている」が 71%を占める。男女それぞれ、「半分程度は自分がやっている」は 4分の1程度に過ぎない。

県民局別では、男女とも家事の役割分担の回答に差はみられない (図Ⅱ-177)。

図Ⅱ-176 結婚後の家事に対する自分の役割 (単数)

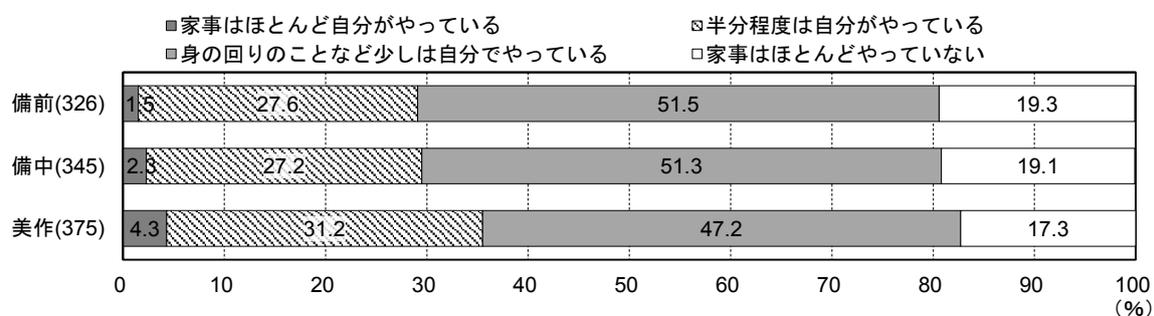


(注) 1. 県民局別男女人口 (20-49 歳) によるウエイトバック集計である

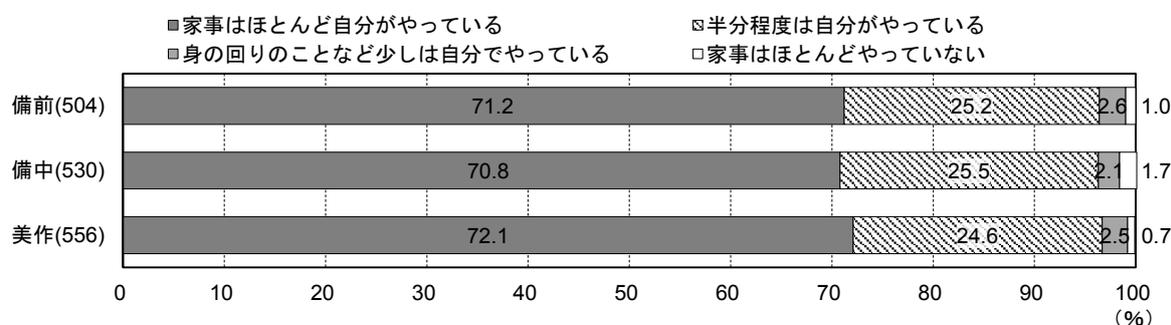
2. 独身者の結婚したときの予想を含む

図Ⅱ-177 県民局別にみた結婚後の家事に対する自分の役割 (単数)

(男性)



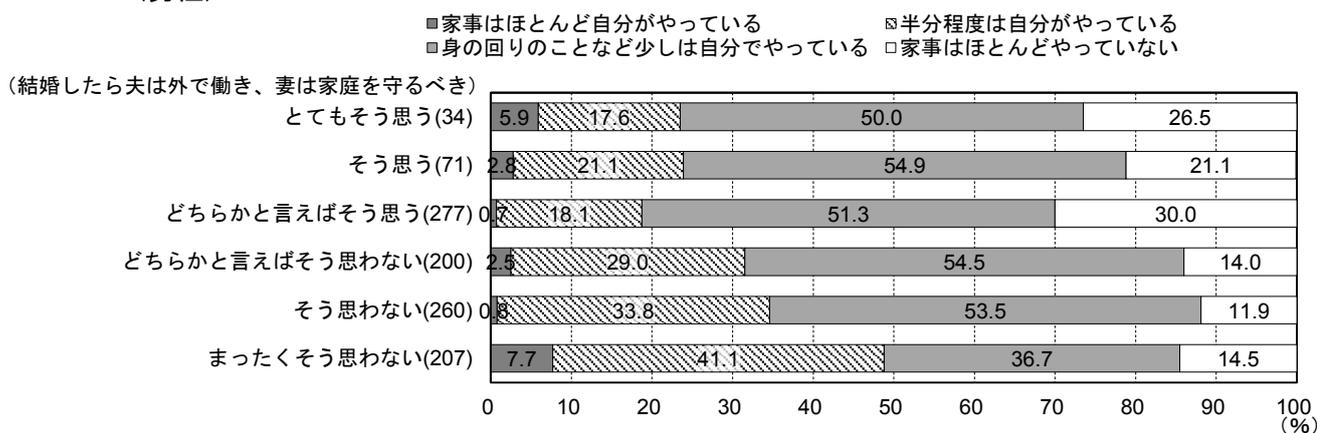
(女性)



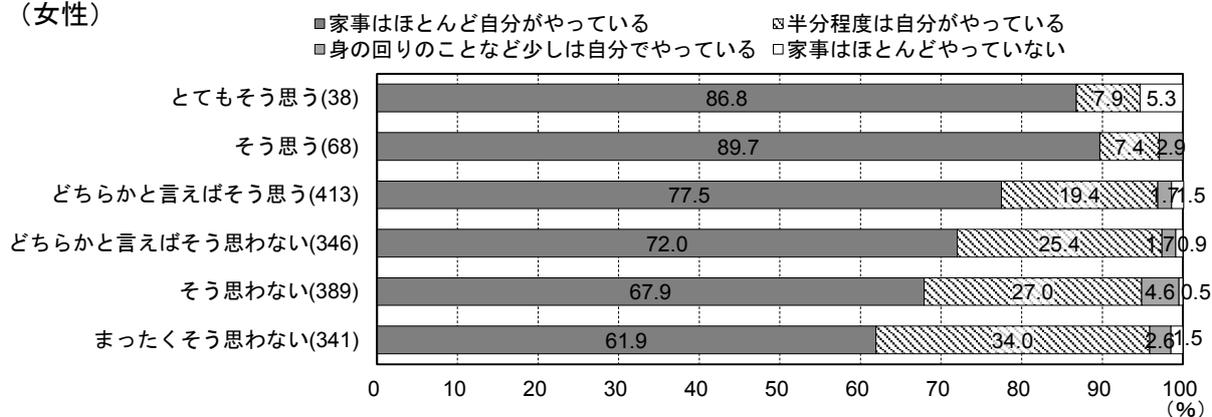
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0603	0.0302
P 値	0.2683	0.8203

男女の役割分担意識を分析軸にして「結婚後の家事に対する自分の役割」をクロス集計すると、男女とも両者に相関がみられるものの、男性では、例えば役割分担意識について「まったくそう思わない」でも「身の回り程度のことなど少しは自分でやっている」「家事やほとんどやっていない」が半数を占める(図Ⅱ-178)。これらは男女の役割分担意識がない者であることから、「したくてもできない」者が多く含まれると推察される。一方、女性では、役割分担意識について「まったくそう思わない」でも62%が「家事はほとんど自分がやっている」と回答している。こうした意識と現実のギャップは女性にとって大きな生活の不満となっている可能性がある。

図Ⅱ-178 男女の役割分担意識別にみた結婚後の家事に対する自分の役割(単数)
(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1736	0.1118
P値	0.0000	0.0000

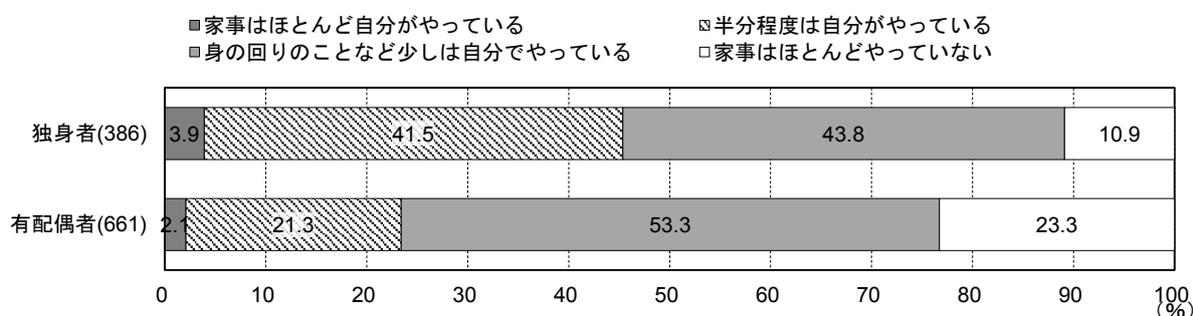
図Ⅱ－１７６は独身者の結婚後の予想を含む集計であるため、図Ⅱ－１７９において配偶状態で分けて、結婚後の家事に対する自分の役割をみた。

男女とも、独身者と有配偶者の間に大きな差異がみられる。この差異を、結婚前の予想と結婚後の実際を表わすと解釈すると、男性の結婚前に「半分程度は自分がやっている」と予想する42%の者が、実際には全体の21%しかやらないとみることができる。男性では結婚前が「家事はほとんどやっていない」は11%であるが、結婚後は23%に増加するところもギャップが大きい。

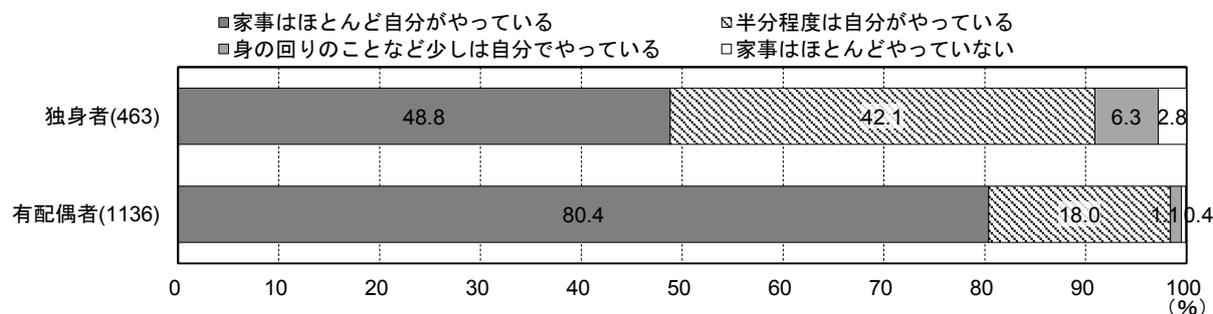
女性は、結婚前は「半分程度は自分がやっている」が42%であり、この回答を男性の家事分担への期待が表れているとすると、結婚後に18%に減少しているため、「結婚の期待外れ」が多く生じていると考えられる。反対に、「家事はほとんど自分がやっている」は結婚前49%、結婚後80%であり、ここにも大きな「結婚による負担感」が生じていると考えられる。

図Ⅱ－１７９ 配偶状態別にみた結婚後の家事に対する自分の役割（単数）

(男性)



(女性)



(注) 独身者は結婚後の予想である

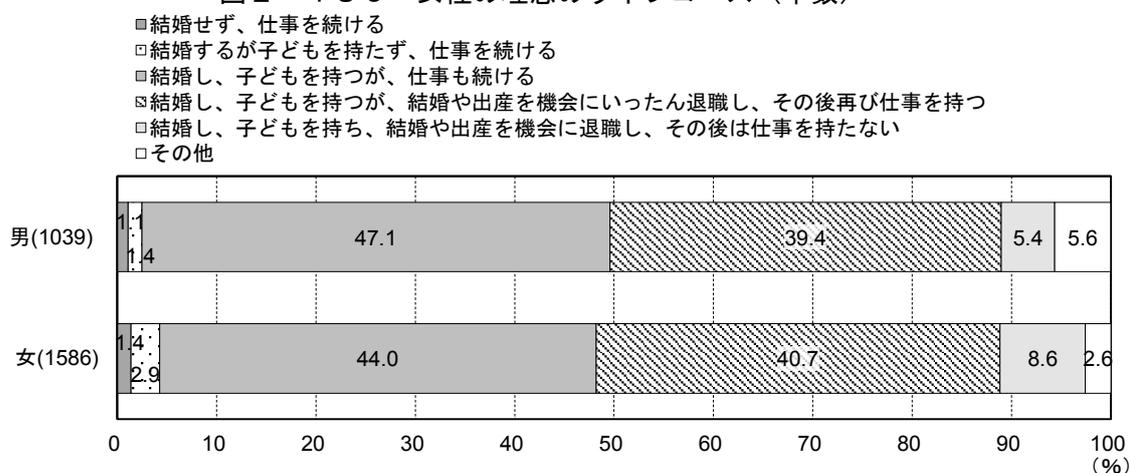
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1472	0.2379
P値	0.0000	0.0000

3. 女性のライフコースに対する考え方

調査では、結婚、出産、仕事に関する女性のライフコースの理想について尋ねたが、この質問は、男女の役割分担意識と女性のライフコースの考え方との結び付きが把握できる。

集計の結果、女性の理想のライフコースについて「結婚し、子どもを持つが仕事を続ける」が男性 47%、女性 44%、「結婚し、子どもを持つが、結婚や出産を機会にいったん退職し、その後再び仕事を持つ」が男性 39%、女性 41%を占める(図Ⅱ-180)。結婚や出産の前後に女性が仕事を持つことは共通するが、「いったん退職するかどうか」で意見が大きく二つに分かれている。男女とも二つの意見の割合はほぼ同じである。

図Ⅱ-180 女性の理想のライフコース(単数)

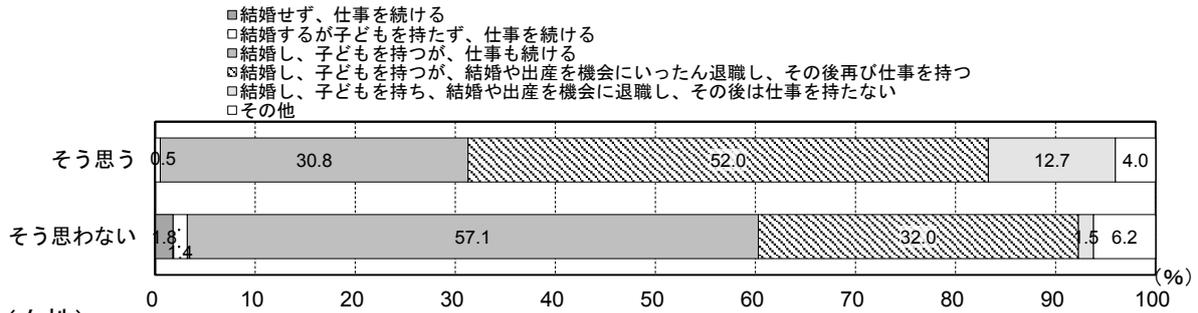


図Ⅱ-169の男女の役割分担意識を分析軸にしてクロス集計を行うと、役割分担意識との相関が明らかである。男女の役割分担について「そう思う」では、「いったん退職する」が男女とも50%を上回る。反対に、「退職せずに仕事を続ける」は男性31%、女性24%と少ない。一方、「そう思わない」では、「退職せずに仕事を続ける」が男女とも60%近い。

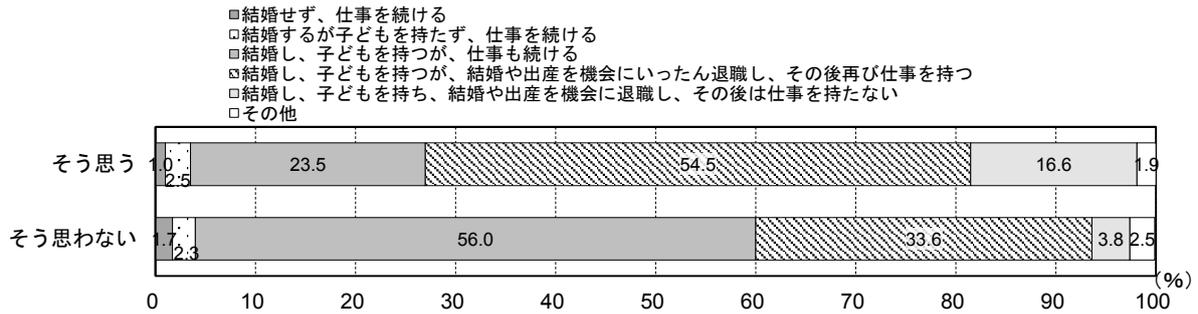
加えて、図Ⅱ-170の「結婚生活のための所得に関する自分の役割」も、女性の理想のライフコースと相関がみられる(図Ⅱ-182)。上記の伝統的な役割分担意識とともに、所得を稼ぐことに対する役割分担意識が一緒になって、女性のライフコースの理想に影響を及ぼしていると考えられる。

図Ⅱ－１８１ 男女の役割分担意識別にみた女性の理想のライフコース（単数）

(男性)



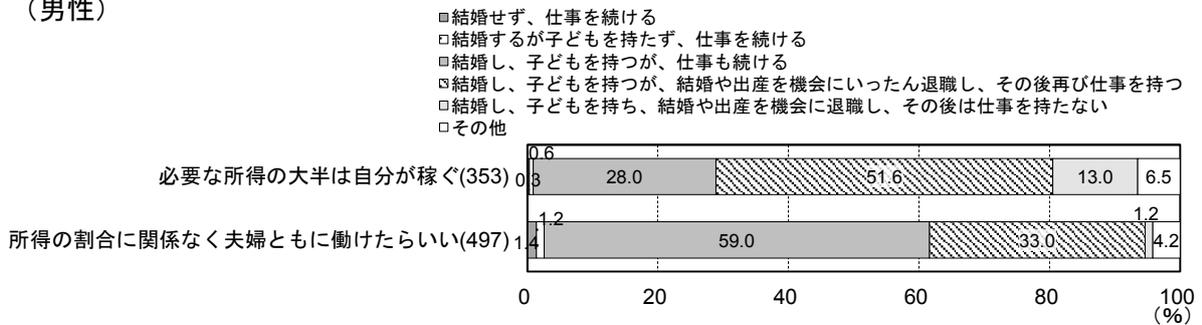
(女性)



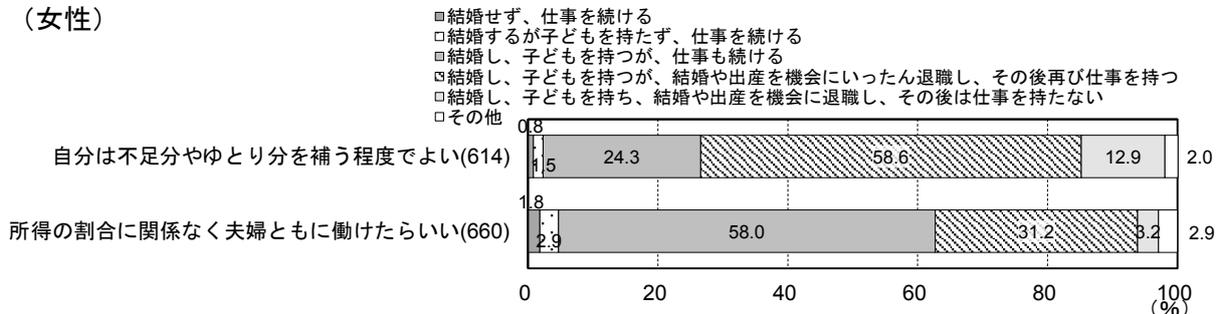
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.3457	0.3473
P値	0.0000	0.0000

図Ⅱ－１８２ 所得に関する自分の役割に関する考え方別にみた女性の理想のライフコース（単数）

(男性)



(女性)



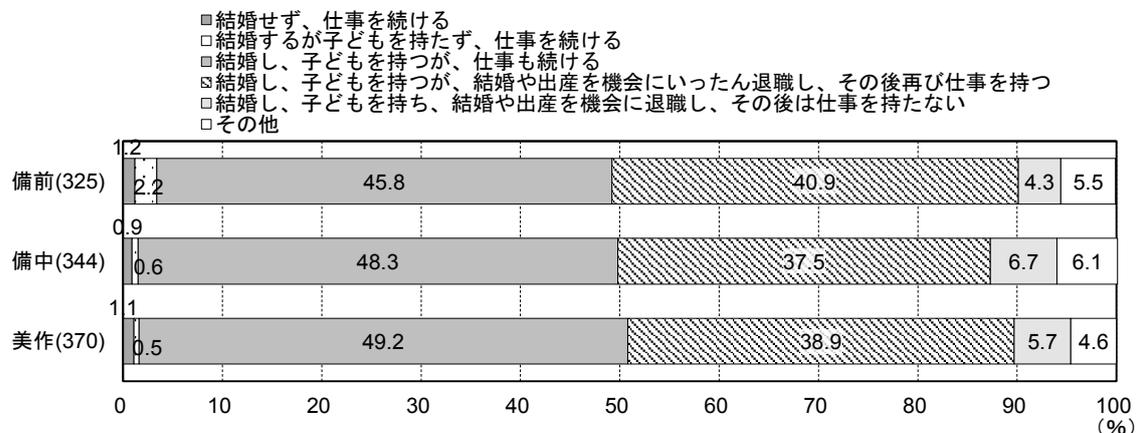
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.3457	0.3473
P値	0.0000	0.0000

(注) 表側の選択肢のうちサンプル数の少ないものを省略した

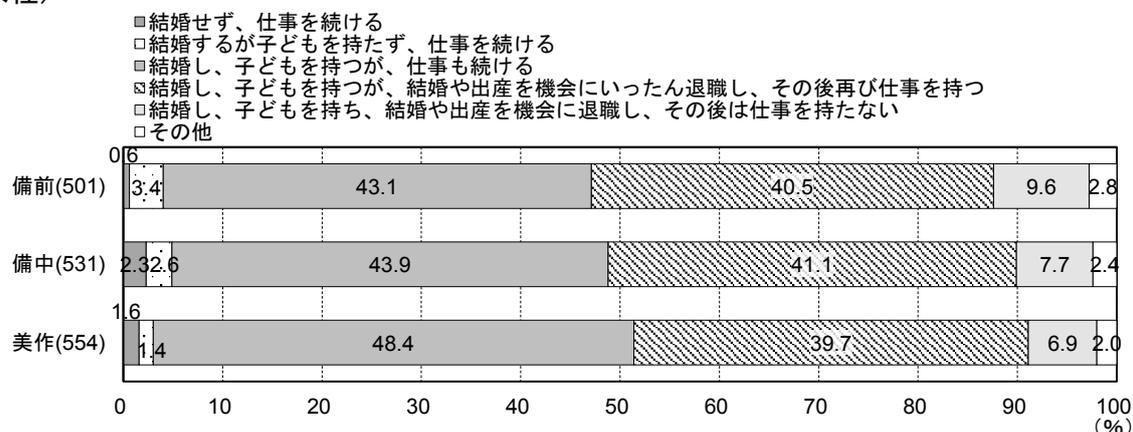
県民局別の集計では地域による差異はみられない(図Ⅱ-183)

図Ⅱ-183 県民局別にみた女性の理想のライフコース

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0657	0.0670
P値	0.5349	0.1629

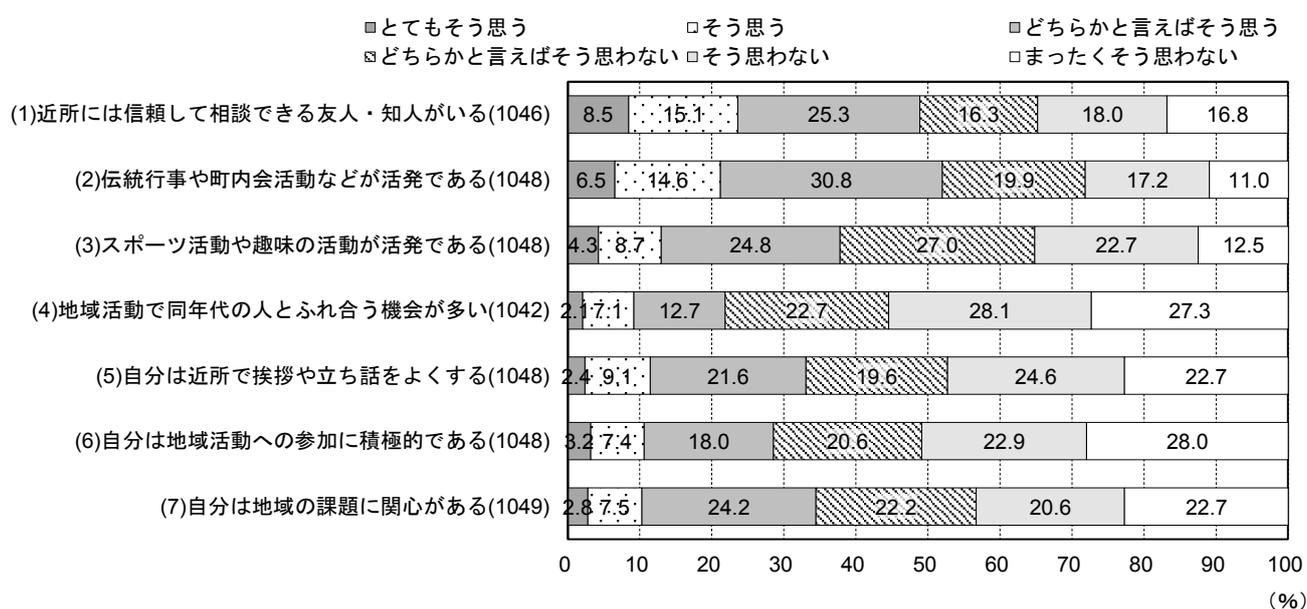
4. 社会関係性

(社会関係性は県民局により差がみられる)

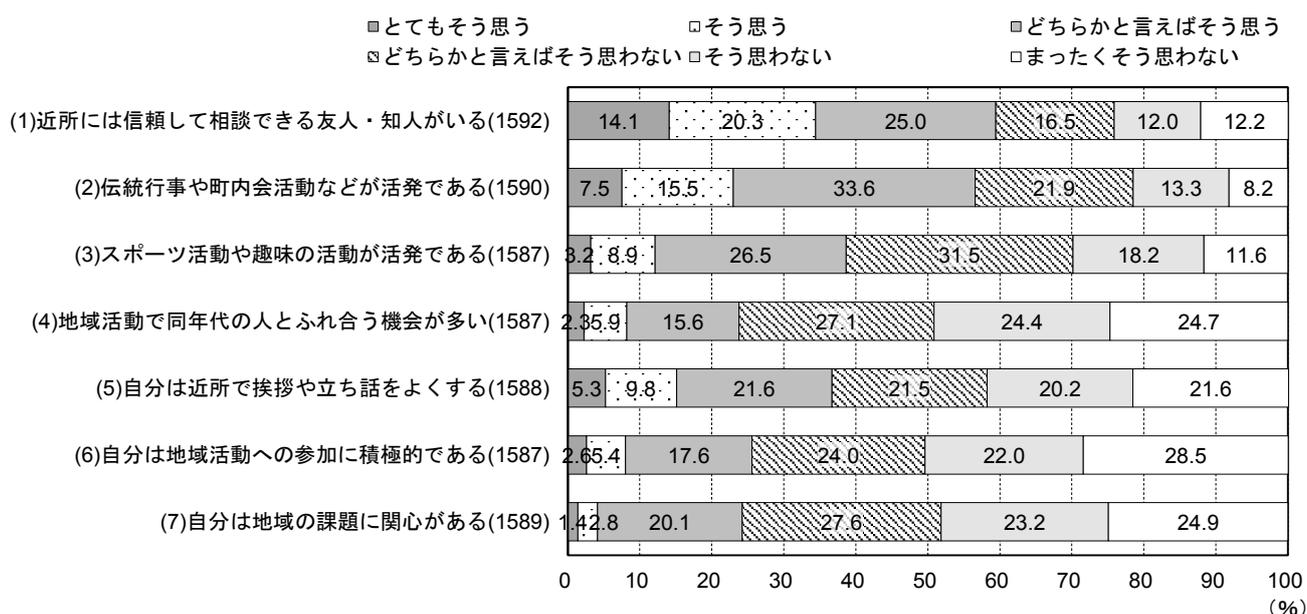
社会関係性は、家族観や子ども観、家族や子どもに対する感受性に強い影響を及ぼしている。調査では、暮らしている地域におけるコミュニティ活動の活発度や本人と地域社会のつながりの程度を質問することにより社会関係性の強さを把握した。質問数は七つであり、個々の回答結果を図Ⅱ－184に示した。

図Ⅱ－184 地域との関わり（単数）

(男性)



(女性)

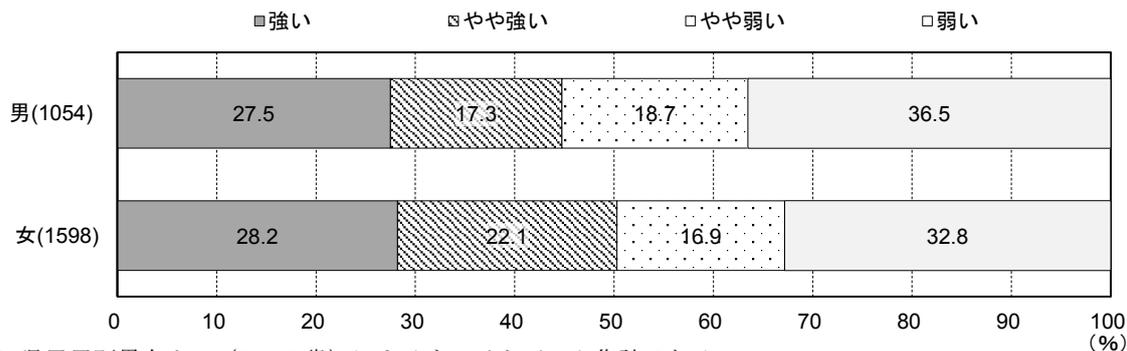


(注) 県民局別男女人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である

7個の質問の回答結果を点数化し、主成分分析により、本人あるいは本人を取り巻く社会環境の社会関係性の強さを測る指標「社会関係性」を作成した。

指標「社会関係性」を利用して、社会関係性の強さにより男女それぞれの回答者を四つに区分した(図Ⅱ-185)。その結果、社会関係性の強さには、県民局別で明確な差異がみられる。男性では、備前、備中、美作の順で、社会関係性の「強い」が増加する。女性では、備前、備中に対して美作の「強い」が多い(図Ⅱ-186)。

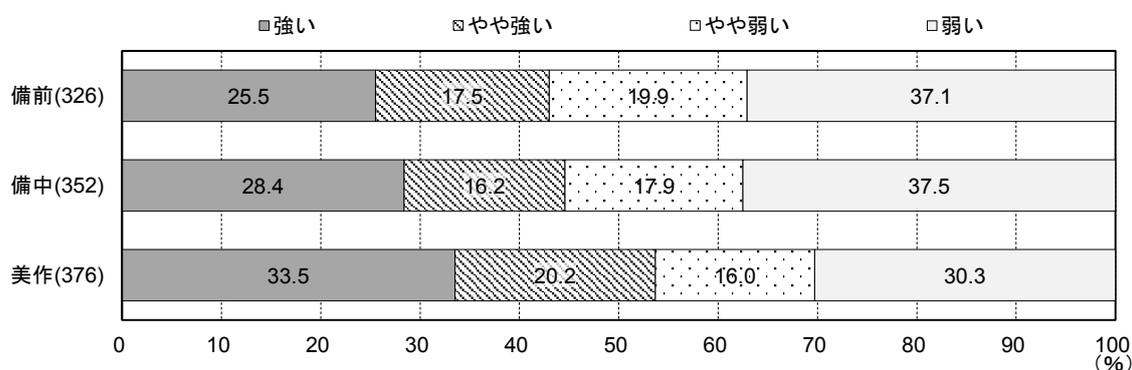
図Ⅱ-185 社会関係性の強さ



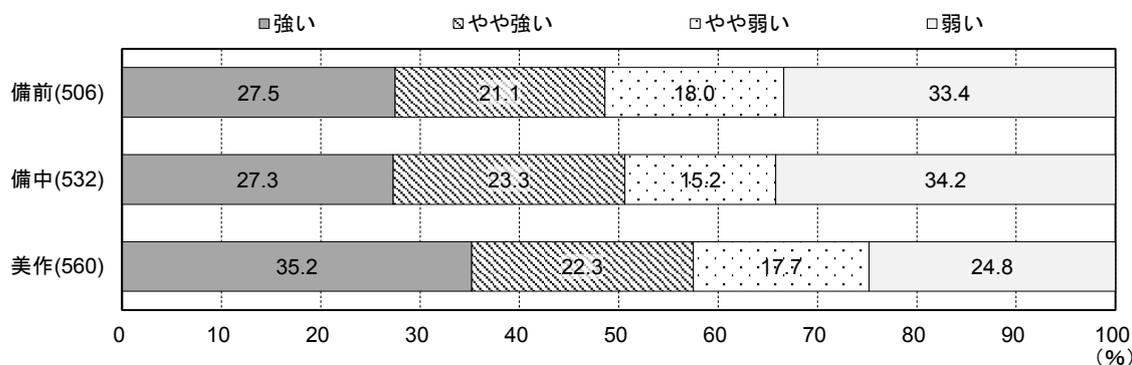
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウェイトバック集計である

図Ⅱ-186 県民局別にみた社会関係性の強さ

(男性)



(女性)

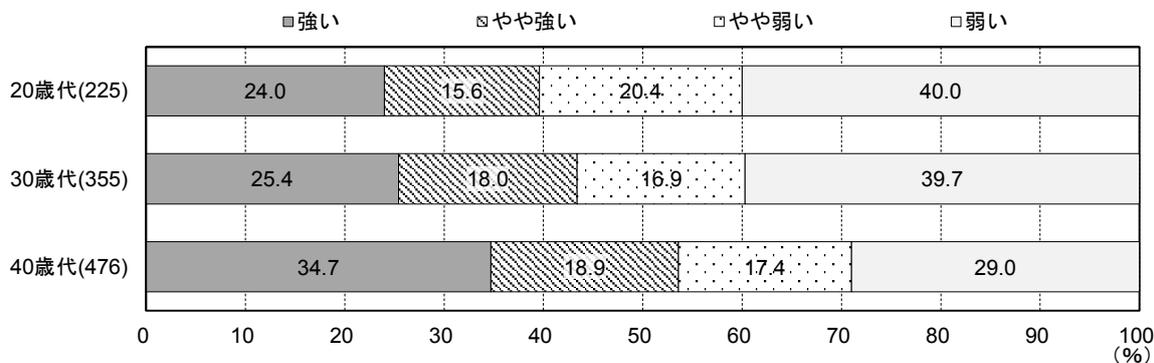


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0712	0.0771
P値	0.0990	0.0041

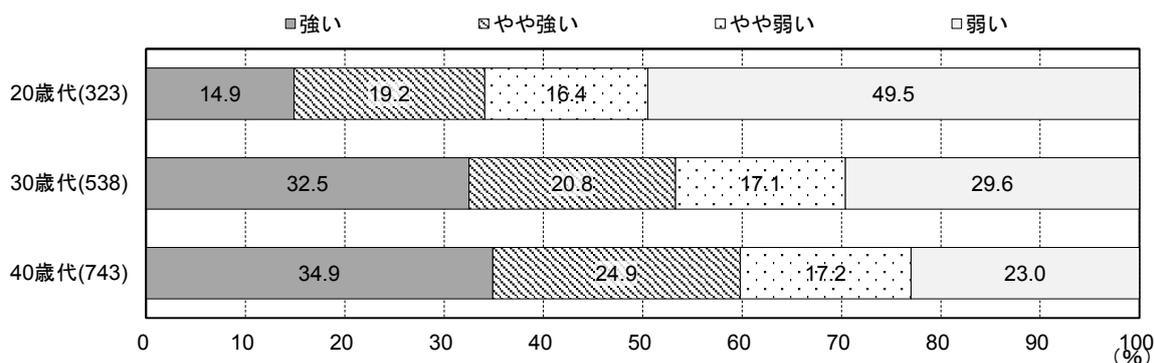
また、社会関係性は年齢によっても強さが異なる。男女とも年齢階層が高いほど社会関係性が強くなる傾向がみられる。特に女性で顕著であり、20歳代の「強い」は15%に過ぎないが、40歳代では35%に達する（図Ⅱ－187）。

図Ⅱ－187 年齢階層別にみた社会関係性の強さ

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0962	0.1656
P値	0.0033	0.0000

5. 家族経験・子ども経験

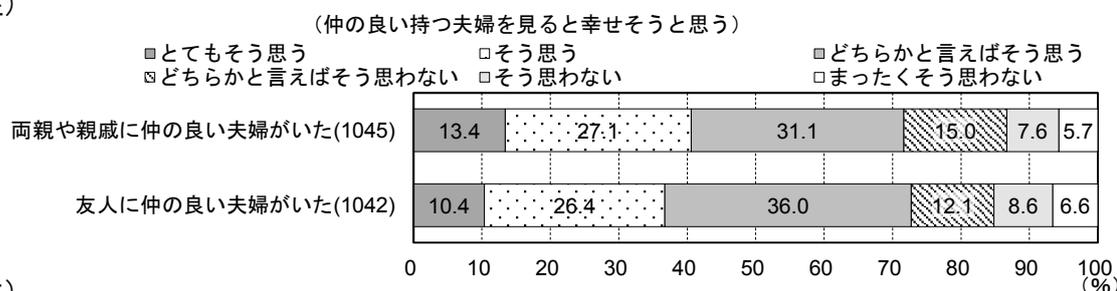
(家族経験の肯定は70%~80%、子ども経験は50%~60%)

「両親や親戚に仲の良い夫婦がいた」「友人に仲の良い夫婦がいた」といった家族に関わる経験(家族経験)は「家族に対する感受性」に極めて強い影響を及ぼしていた。また、「小さい子どもとふれ合う機会がよくあった」「身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多かった」といった子どもに関わる経験(子ども経験)は「子どもに対する感受性」にかなり強い影響を及ぼしていた。

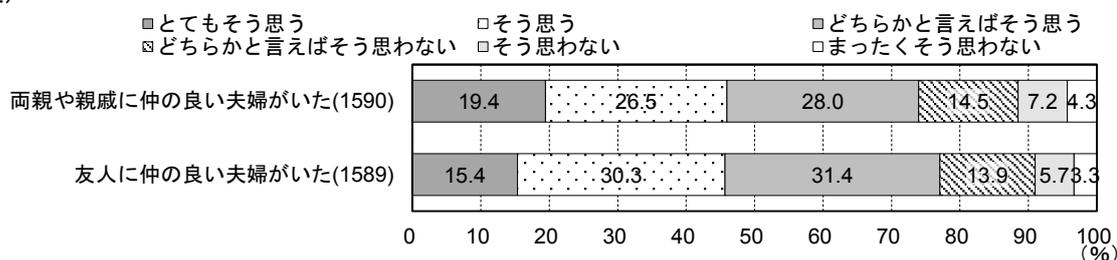
家族経験、子ども経験を把握するために行った各質問の回答結果は、図Ⅱ-188、図Ⅱ-189の通りであり、家族経験の方が子ども経験よりも肯定的意見が多い。

図Ⅱ-188 身近な夫婦について(単数)

(男性)



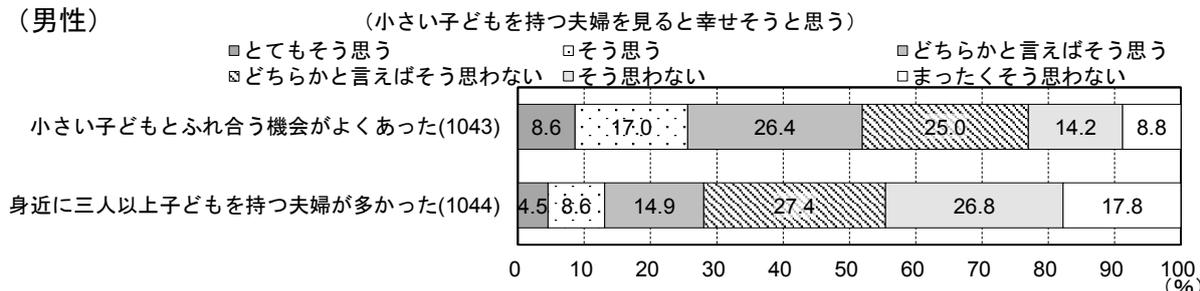
(女性)



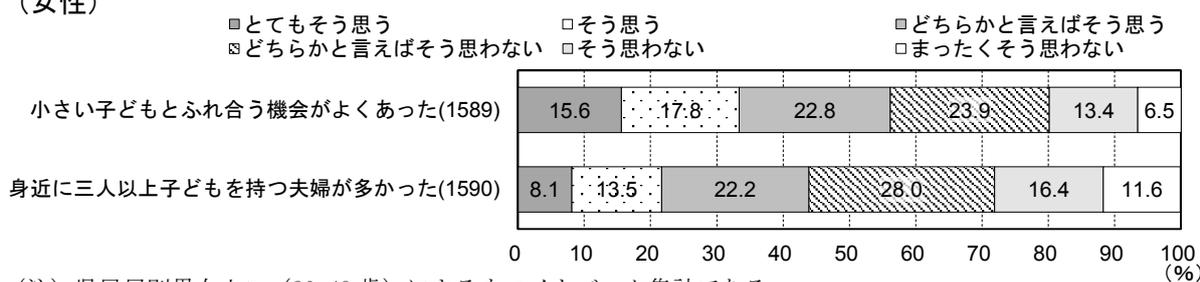
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ-189 子どもとのふれ合いについて(単数)

(男性)



(女性)



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

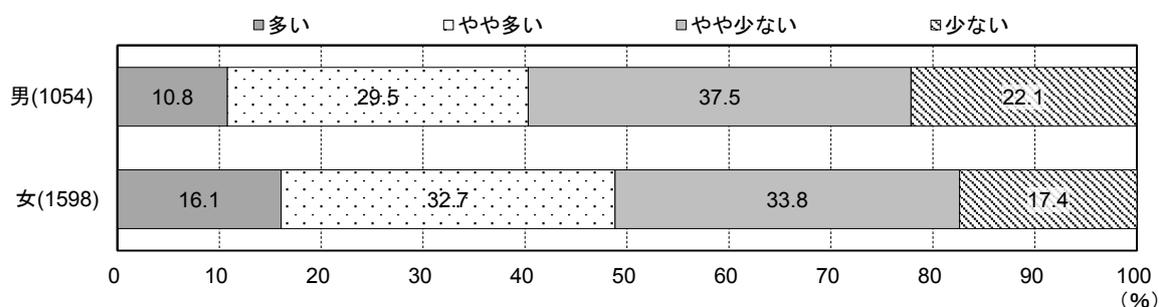
家族に関する経験および子どもに関する経験を把握するそれぞれ二つずつの質問を主成分分析によりまとめ、指標「家族経験」と「子ども経験」を作成した。指標「家族経験」を利用して、「家族経験」の強さにより、男女の回答者をそれぞれ四つに区分した（図Ⅱ－１９０）。「子ども経験」による回答者の区分も同様である（図Ⅱ－１９１）。

男女を比べると、「家族経験」「子ども経験」とも女性の方が強い。また、「家族経験」より「子ども経験」の方が男女の差が大きい。

「家族経験」は、県民局で大きな差異はみられない（図Ⅱ－１９２）。一方、「子ども経験」は、男性において、美作、備中、備前の順で「多い」と「やや多い」が大きな割合を占めている（図Ⅱ－１９３）。「子ども経験」でも女性については県民局別に差異はみられない。

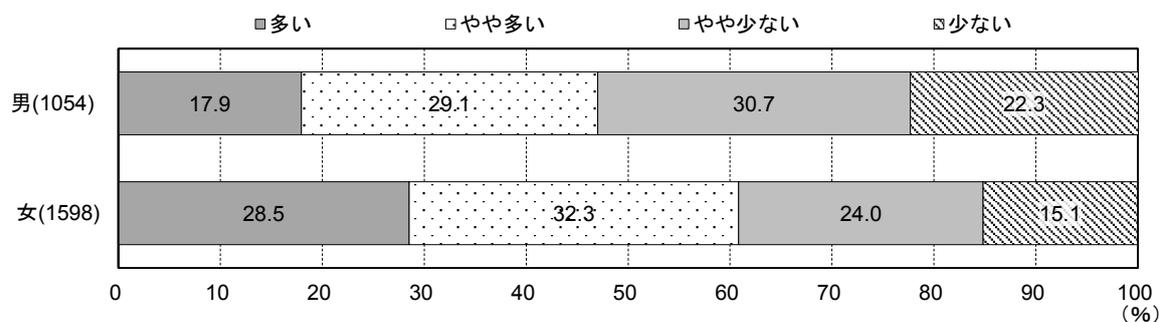
また、社会関係性とは違って、「家族経験」と「子ども経験」では年齢階層別の差異もみられない（図Ⅱ－１９４、図Ⅱ－１９５）。

図Ⅱ－１９０ 家族経験



(注) 県民局別男女人口（20-49歳）によるウェイトバック集計である

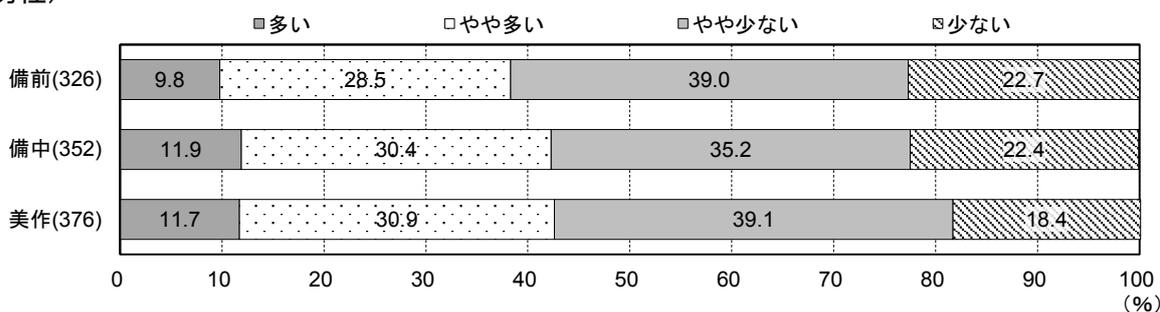
図Ⅱ－１９１ 子ども経験



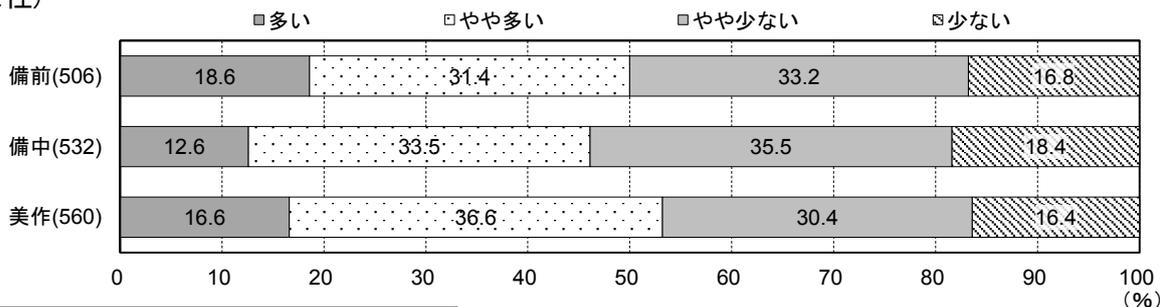
(注) 県民局別男女人口（20-49歳）によるウェイトバック集計である

図Ⅱ－１９２ 県民局別にみた家族経験

(男性)



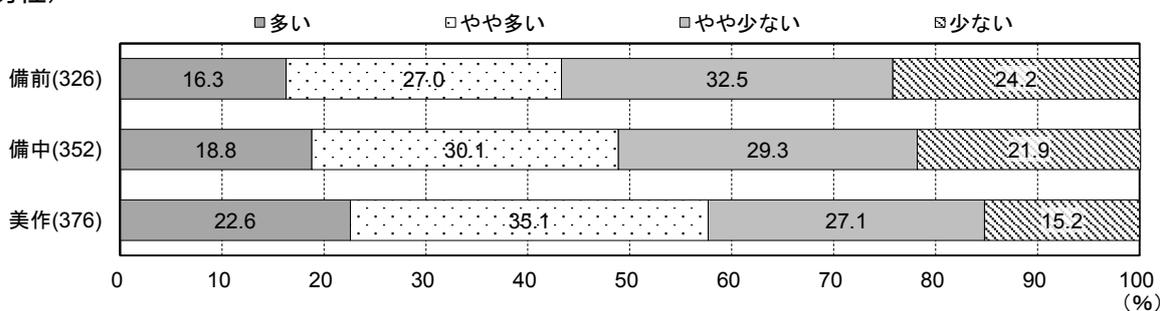
(女性)



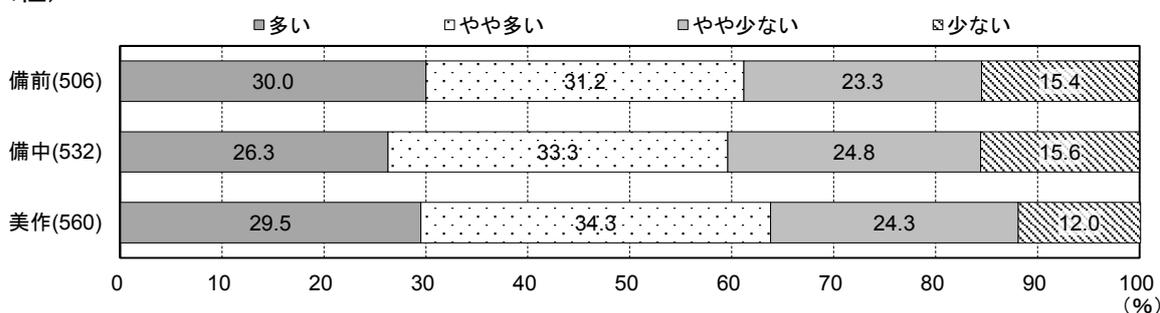
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0441	0.0592
P値	0.6630	0.0825

図Ⅱ－１９３ 県民局別にみた子ども経験

(男性)



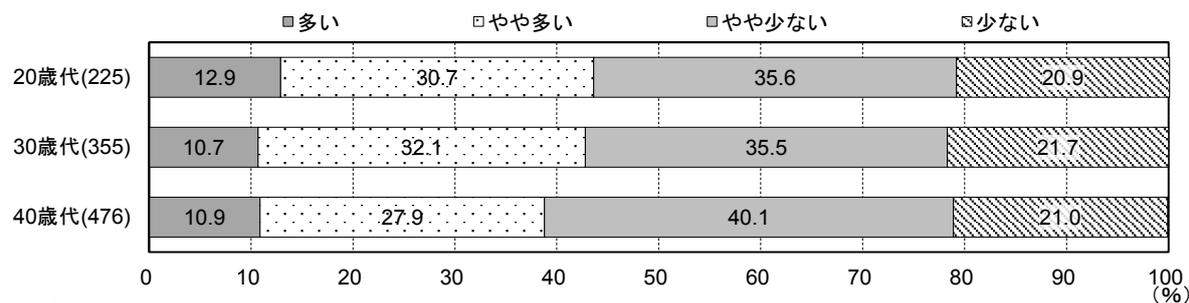
(女性)



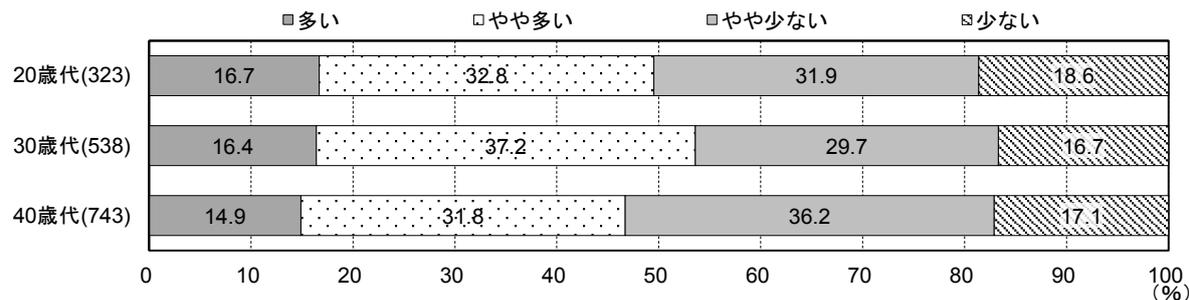
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0902	0.0423
P値	0.0088	0.4557

図Ⅱ－１９４ 年齢階層別にみた家族経験

(男性)



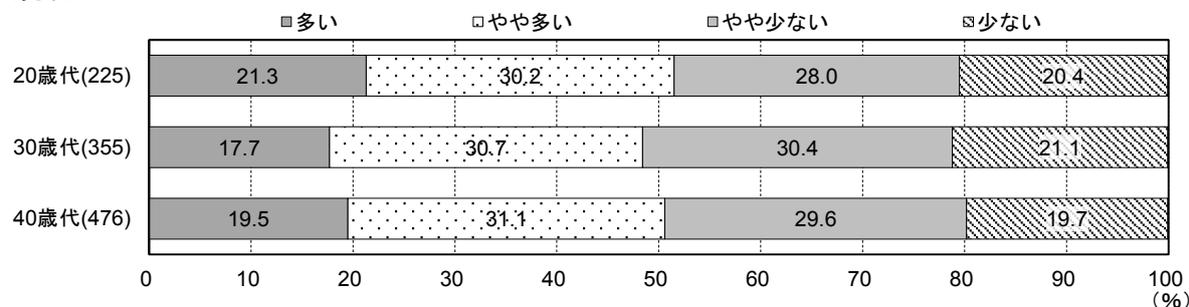
(女性)



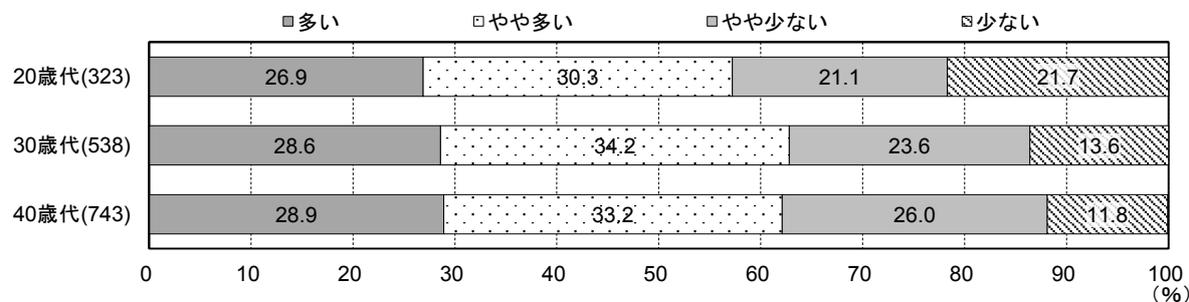
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0404	0.0499
P値	0.7512	0.2381

図Ⅱ－１９５ 年齢階層別にみた子ども経験

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0261	0.0772
P値	0.9632	0.0040

6. 結婚、妊娠・出産、子育てに対する職場の配慮と仕事・働き方の変化

(1) 結婚、妊娠・出産、子育てと仕事の両立に対する職場の配慮

(配慮のある職場は男性の方が少ない)

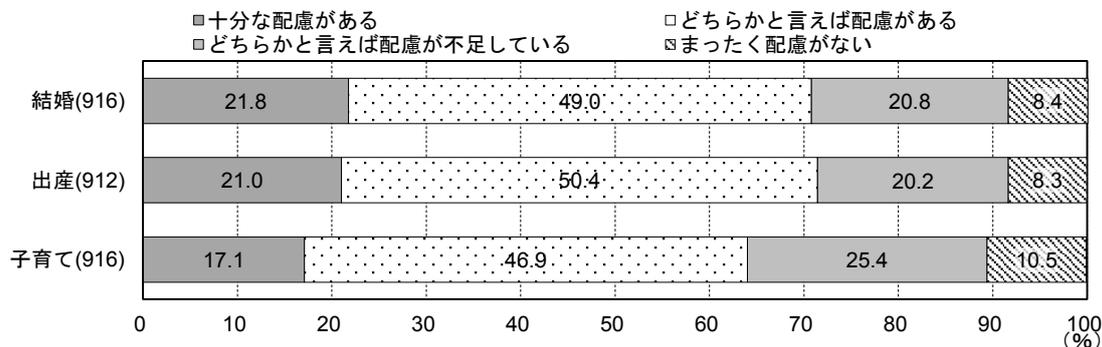
妊娠・出産、子育てと仕事の両立に対する職場の配慮は現実に持てる子ども数に影響を及ぼしていた(図Ⅱ-89、図Ⅱ-90)。また、女性よりも男性の方で影響力が強いという特徴があった(表Ⅱ-35、表Ⅱ-36)。

結婚を含め、妊娠・出産、子育てと仕事の両立に対する職場の配慮への回答をみると、結婚に関して「十分な配慮がある」は、男性の結婚で22%、女性では30%である(図Ⅱ-196)。出産、子育てに関しても「十分な配慮がある」職場は男性の方に少ない。特に、子育てに関して「どちらかと言えば配慮が不足している」「まったく配慮がない」は女性では26%であるが、男性では36%に上る。

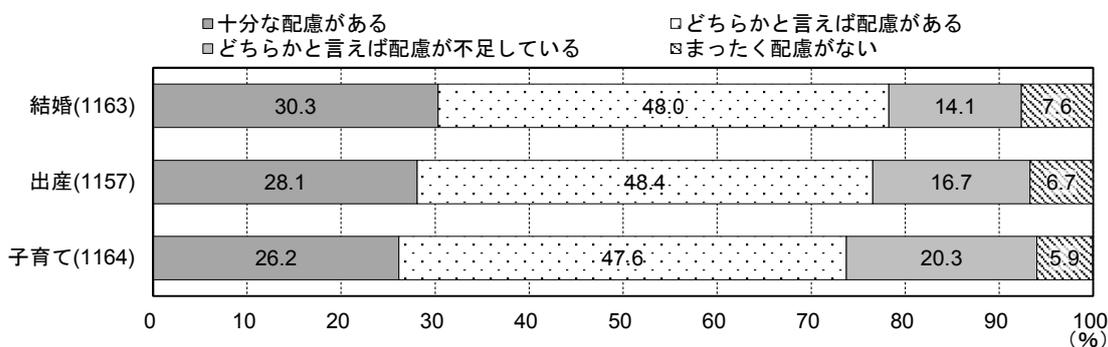
また、男女とも、結婚、出産、子育ての順で「配慮がある」職場が減少する傾向がみられる。

図Ⅱ-196 結婚、妊娠・出産、子育てと仕事の両立に対する職場の配慮
(会社・団体の就業者、単数)

(男性)



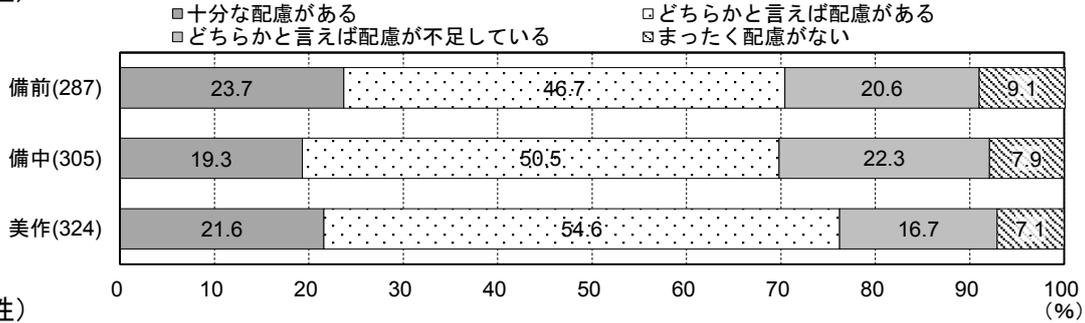
(女性)



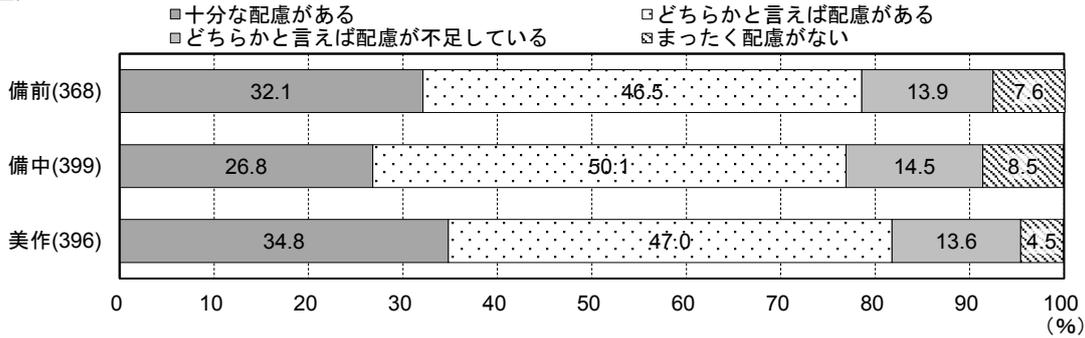
(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ－１９７ 県民局別にみた結婚と仕事の両立に対する職場の配慮
(会社・団体の就業者、単数)

(男性)



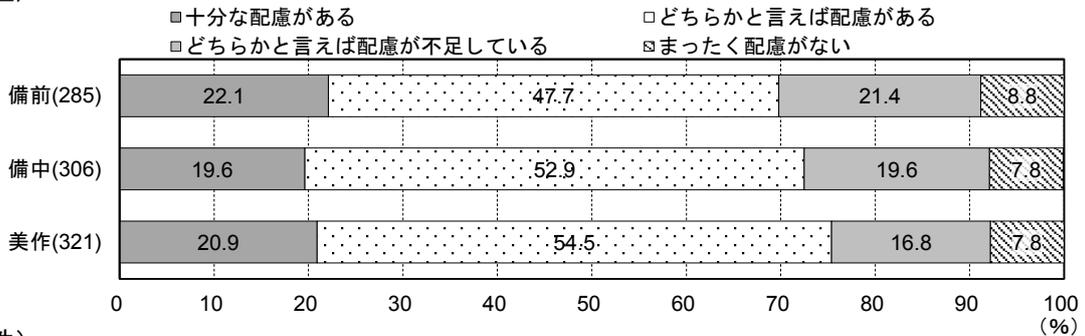
(女性)



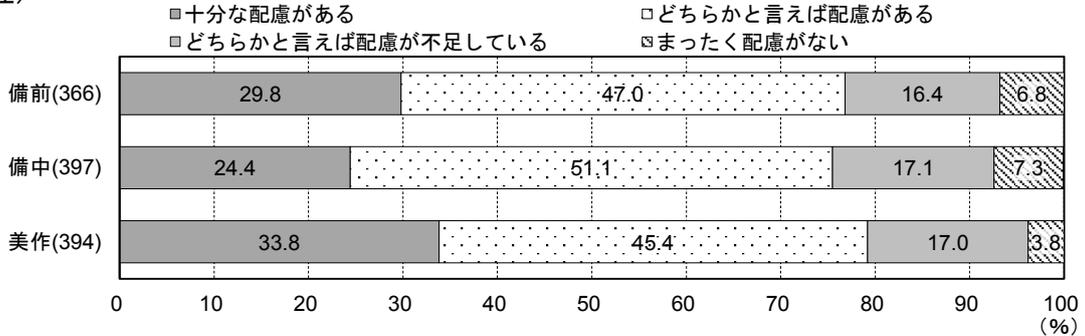
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0600	0.0655
P値	0.3602	0.1254

図Ⅱ－１９８ 県民局別にみた出産と仕事の両立に対する職場の配慮
(会社・団体の就業者、単数)

(男性)



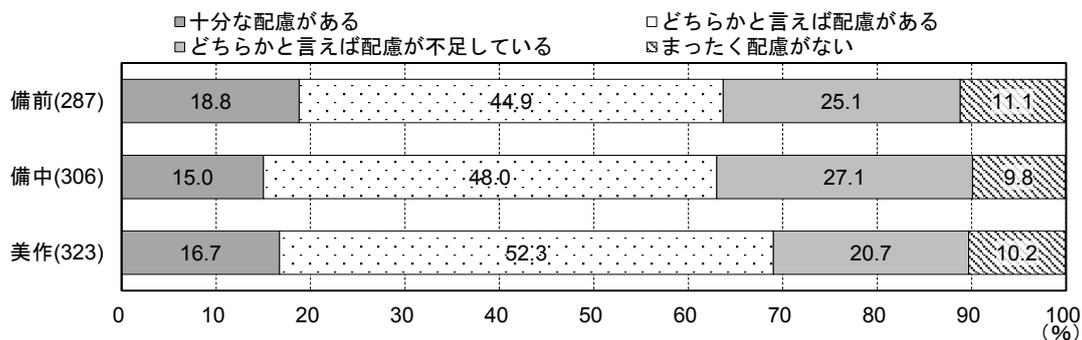
(女性)



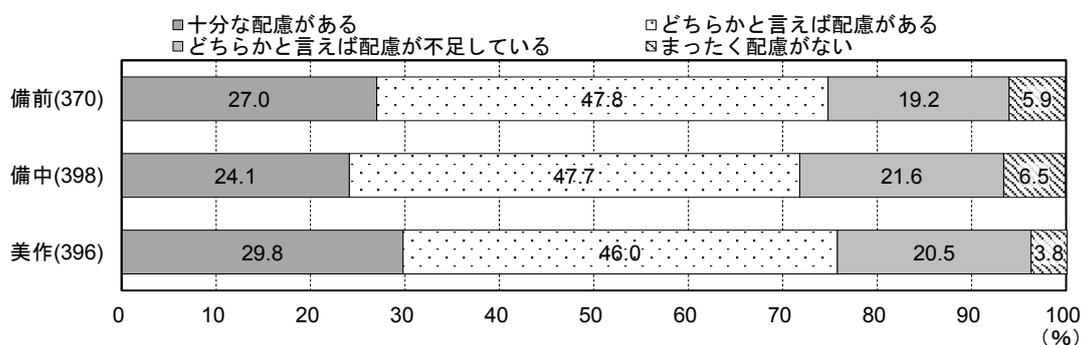
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0457	0.0724
P値	0.7030	0.0589

図Ⅱ－１９９ 県民局別にみた子育てと仕事の両立に対する職場の配慮
(会社・団体の就業者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0574	0.0514
P値	0.4202	0.4061

(2) 結婚、妊娠・出産、子育てによる仕事・働き方の変化

(妊娠・出産により「仕事をやめた」は45%)

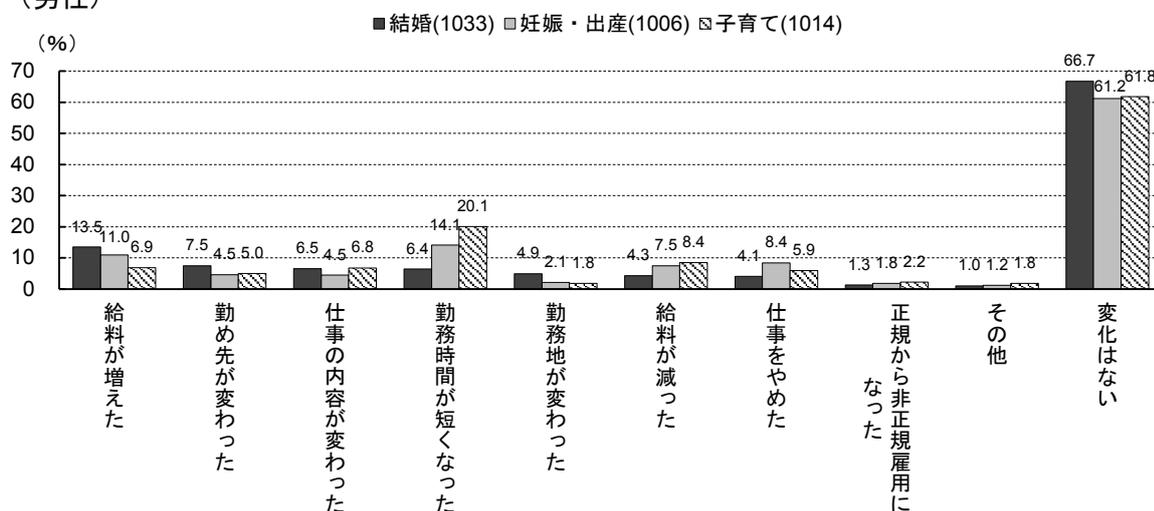
結婚、妊娠・出産、子育てによって、仕事や働き方にどのような変化があったかを把握した。

女性の妊娠・出産により「仕事をやめた」が、男女と通じたすべての変化の中で最も多く、45%に達する(図Ⅱ-200)。次いで、女性の子育てにより「勤務時間が短くなった」が42%に上るなど、女性の妊娠・出産、子育てによる勤務状況の変化が多い。この他では、女性の結婚により「仕事をやめた」(31%)などが多い。

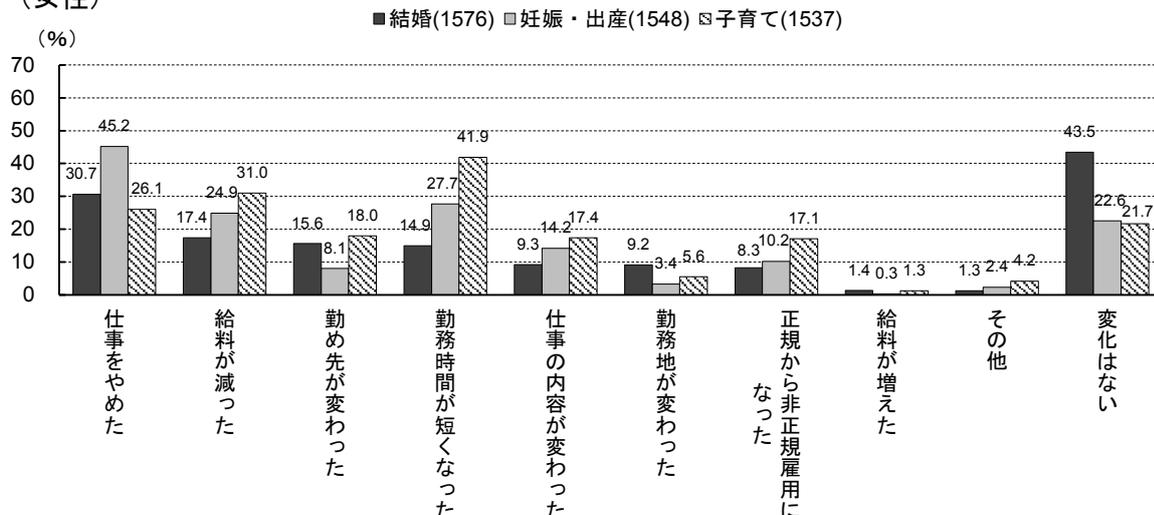
女性では「給料が減った」「勤務時間が短くなった」「仕事の内容が変わった」「正規から非正規雇用になった」は、結婚、妊娠・出産、子育てへと進むほど回答が多くなっており、後になるほど仕事との両立が難しいことが推察される。

図Ⅱ-200 結婚、妊娠・出産、子育てによる仕事・働き方の変化(複数)

(男性)



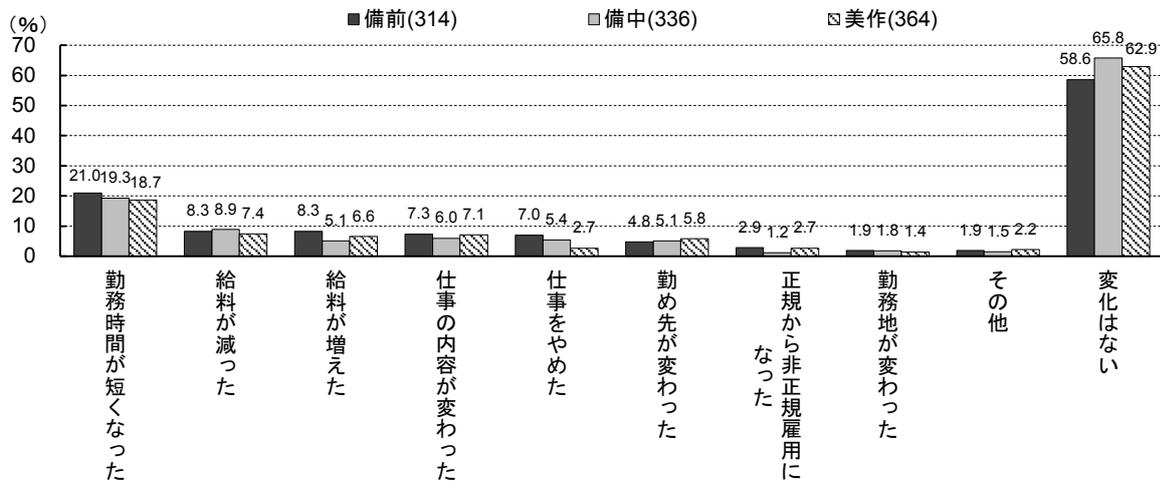
(女性)



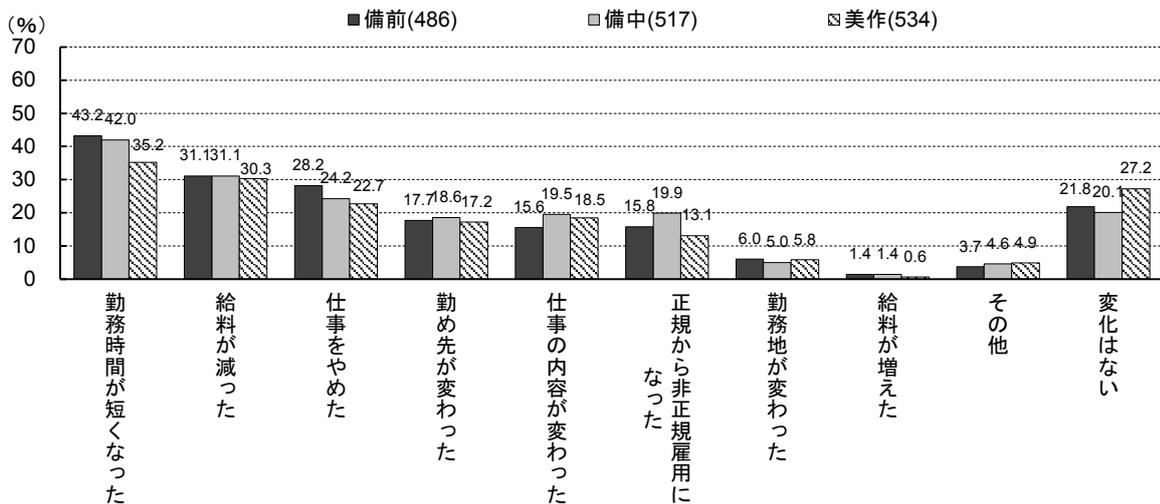
(注) 1. 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である
2. 独身者や子どもを持っていない者の予想を含む

図Ⅱ－２０１ 県民局別にみた結婚、妊娠・出産、子育てによる仕事・働き方の変化
(複数)

(男性)



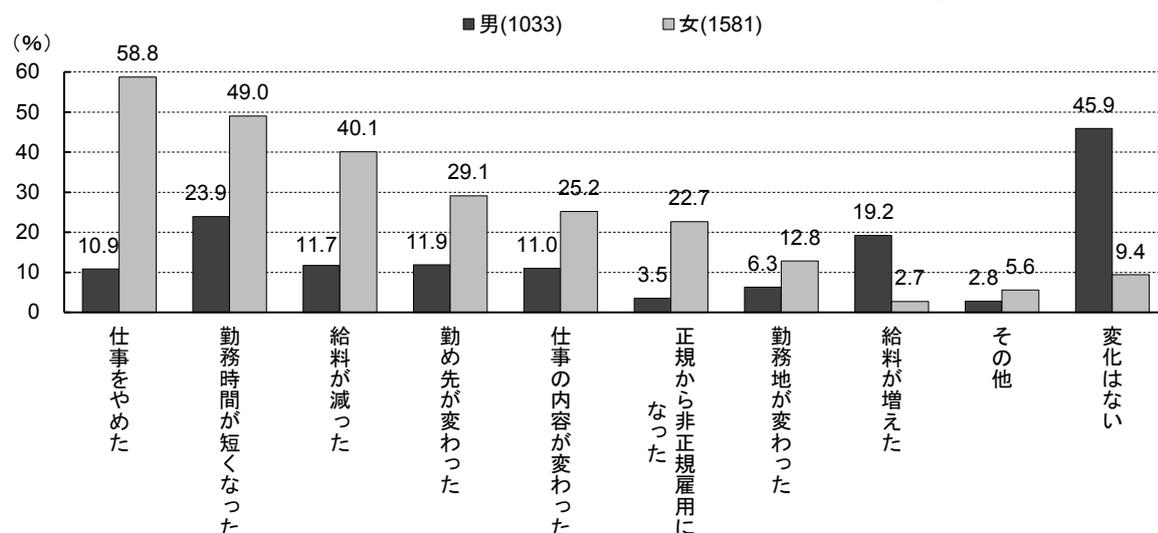
(女性)



OR条件により、結婚か、妊娠・出産、子育てのいずれかにより生じた仕事・働き方の変化を算出すると、女性では「仕事をやめた」が59%に達する（図Ⅱ-202）。次いで、「勤務時間が短くなった」（49%）、「給料が減った」（40%）などが多くなっている。男性でも、24%で「勤務時間が短くなった」としている。

結婚、妊娠・出産、子育てを通じて「変化はない」は男性46%に対して、女性は9%にとどまる。

図Ⅱ-202 結婚、妊娠・出産、子育てのいずれかによる仕事・働き方の変化（複数）



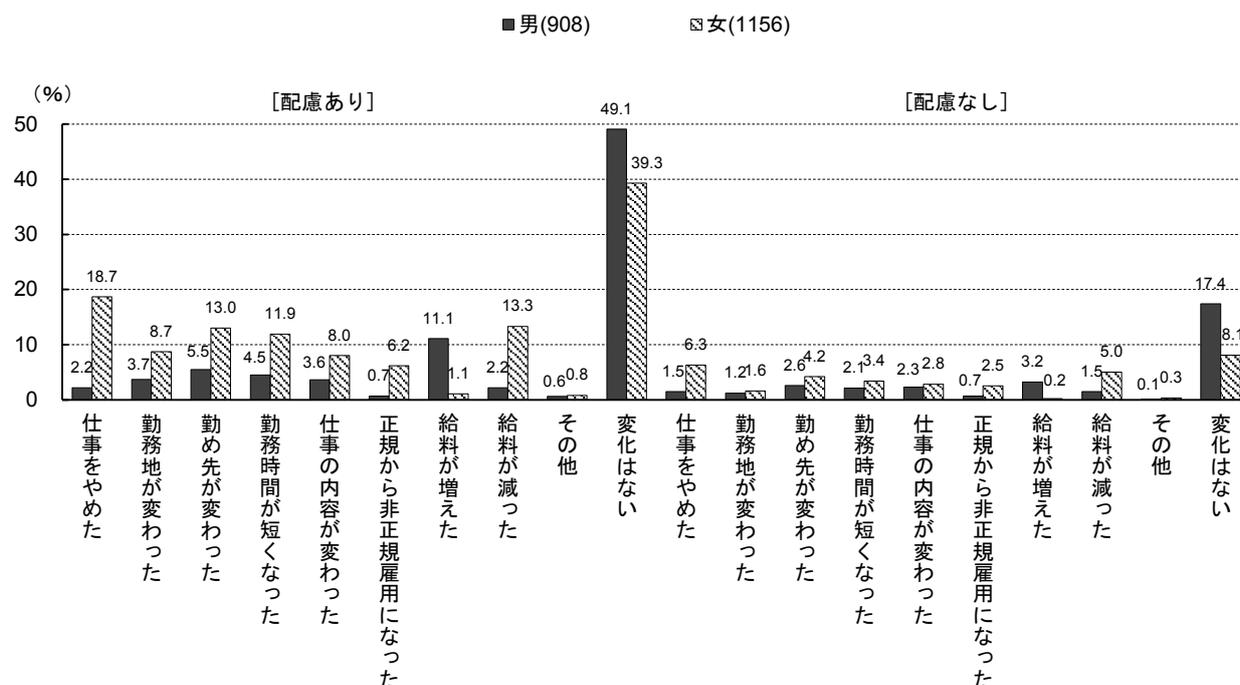
- (注) 1. 県民局別男女人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である
 2. 「変化はない」を除く項目は、結婚、妊娠・出産、子育てのいずれかにより仕事や働き方の変化があった者の割合であり、「変化はない」は、結婚、妊娠・出産、子育てのすべてで変化がなかった者の割合
 3. 独身者や子どもを持っていない者の予想を含む

結婚、妊娠・出産、子育てと仕事の両立に配慮がある職場における仕事や働き方の変化は、職場以外の事情によるやむを得ない変化を含め、本人の意思を反映している可能性が高いと考えられる。反対に、配慮がない職場における仕事や働き方の変化は、本人の意思に反したものである可能性が高い。

そこで、仕事・働き方の変化を、職場の「配慮あり」と「配慮なし」の回答に分けて集計を行った。その結果、「配慮なし」より「配慮あり」の職場が多いこともあり、結婚、妊娠・出産、子育ていずれによる変化も、「配慮あり」の職場で起こっているものが多い(図Ⅱ-203、図Ⅱ-204、図Ⅱ-205)。

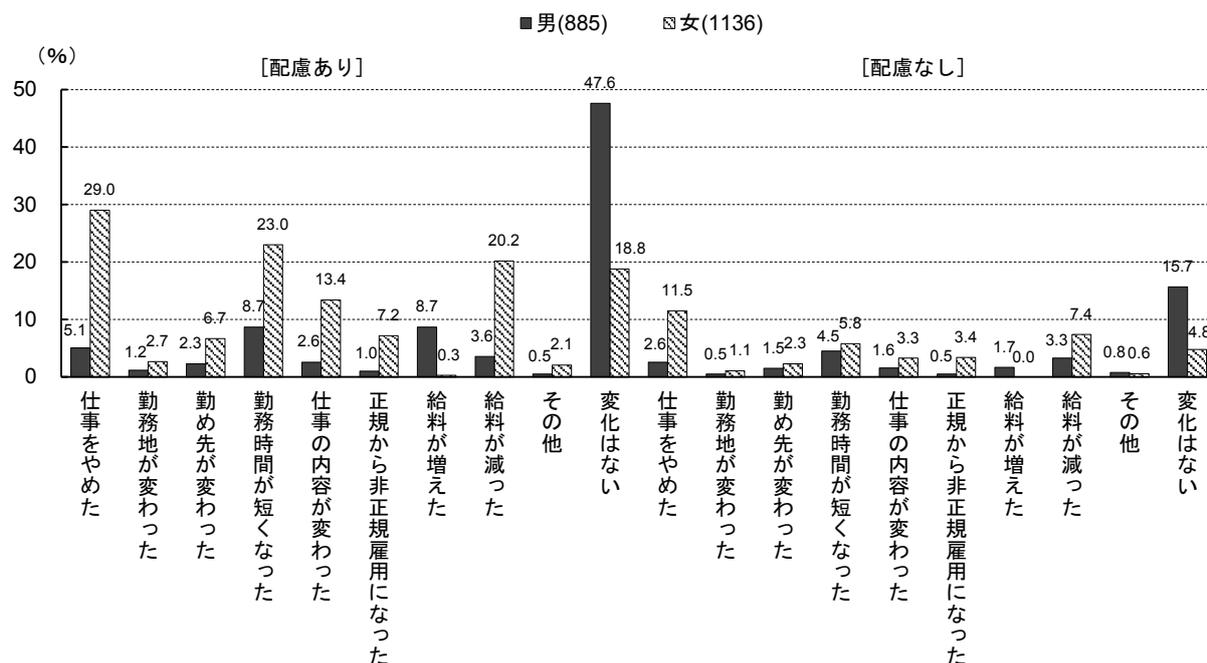
したがって、図Ⅱ-200の変化は、「配慮あり」の職場で多く起こっており、部分的にも本人の意思を反映しているものが多く占めると考えられる。そうした中で、子育てによる女性に対する変化のうち、子育てに「配慮がなし」の職場で「勤務時間が短くなった」と「給料が減った」が10%生じている(図Ⅱ-205)。

図Ⅱ-203 結婚に対する職場の配慮で分けた結婚による仕事・働き方の変化
(会社・団体の就業者、複数)



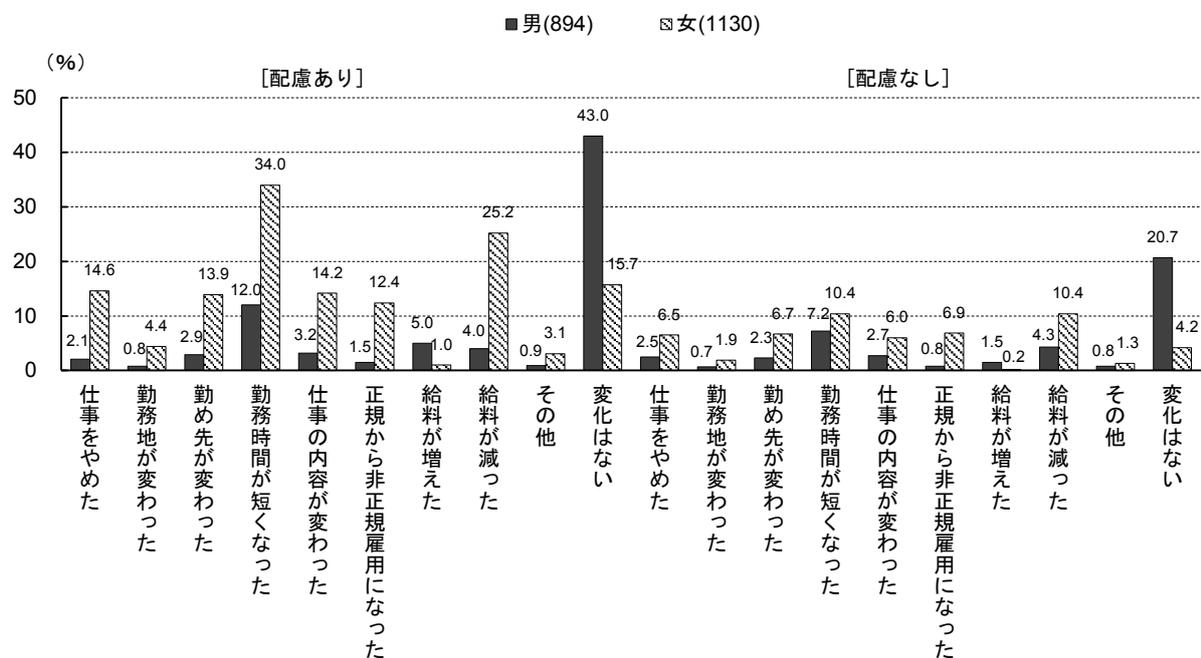
(注) 子育てに対する職場の配慮を分析軸にしたクロス集計ではなく、各仕事・働き方の変化を「配慮あり」と「配慮なし」の職場に分割した

図Ⅱ－２０４ 出産に対する職場の配慮で分けた妊娠・出産による仕事・働き方の変化
(会社・団体の就業者、複数)



(注) 子育てに対する職場の配慮を分析軸にしたクロス集計ではなく、各仕事・働き方の変化を「配慮あり」と「配慮なし」の職場に分割した

図Ⅱ－２０５ 子育てに対する職場の配慮で分けた子育てによる仕事・働き方の変化
(会社・団体の就業者、複数)



(注) 子育てに対する職場の配慮を分析軸にしたクロス集計ではなく、各仕事・働き方の変化を「配慮あり」と「配慮なし」の職場に分割した

7. ワーク・ライフ・バランス

(1) 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度

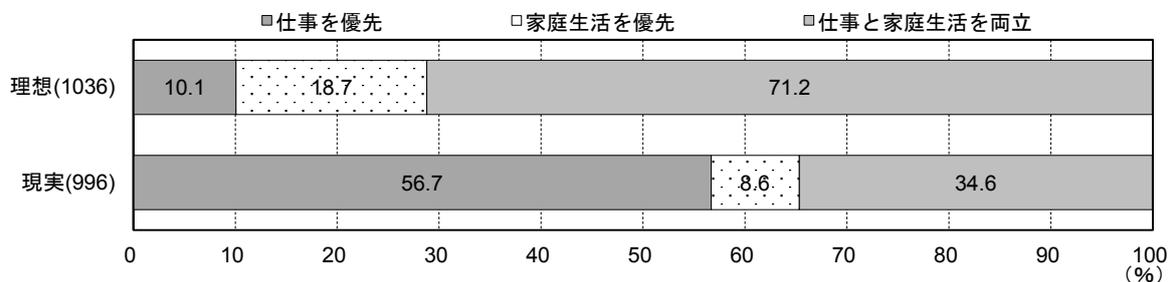
(仕事と家庭生活の両立は男性において理想と現実のギャップが大きい)

結婚生活における仕事と家庭生活の優先度は未婚者の結婚見通しに強い影響を及ぼしていた(図Ⅱ-44)。そこで、仕事と家庭生活のどちらを優先するかにより、ワーク・ライフ・バランスの理想と現実を把握した。

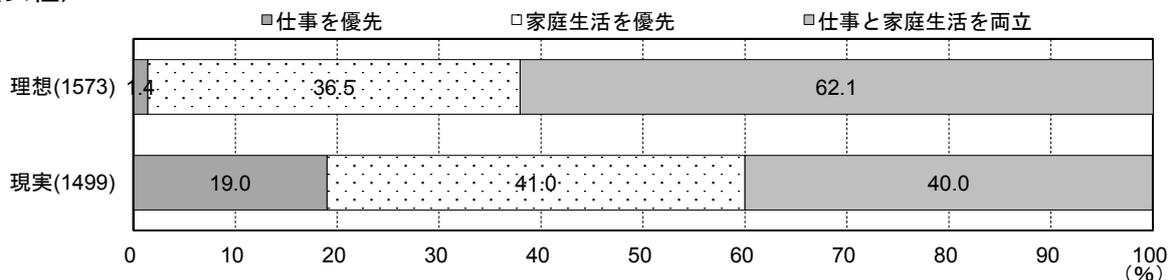
男性の理想は「仕事と家庭生活を両立」が71%であるものの、現実には35%であり、その差は37ポイントになる(図Ⅱ-206)。女性の理想は「仕事と家庭生活を両立」が62%であるが、現実には40%であり、22ポイントの差がある。男女ともワーク・ライフ・バランスの理想と現実乖離しており、その差は男性の方が大きくなっている。

男女の違いは、「仕事と家庭生活を両立」の理想と現実に差を生み出している原因の内容であり、男性では、理想に反して現実には「仕事が優先」をしている者が47ポイント多くなっている。一方、女性では、理想に反して仕事を優先している者が18ポイントであり、加えて、家庭生活を優先している者が5ポイント多くなっていることが特徴となっている。

図Ⅱ-206 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する理想と現実(単数)
(男性)

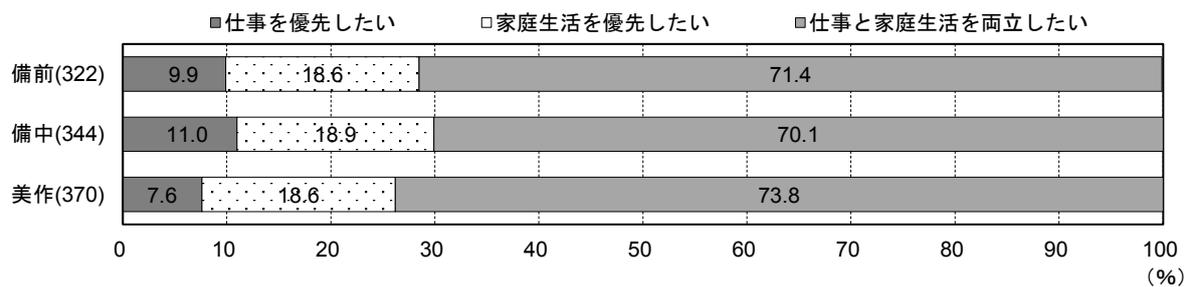


(女性)

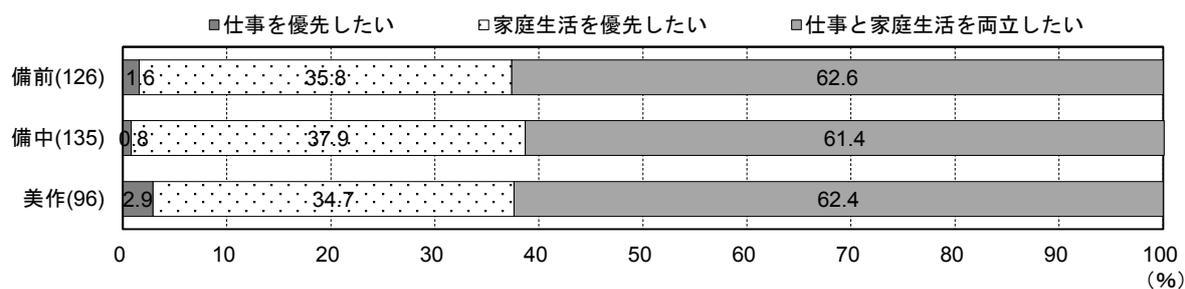


(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウェイトバック集計である

図Ⅱ－２０７ 県民局別にみた結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する理想（単数）
（男性）



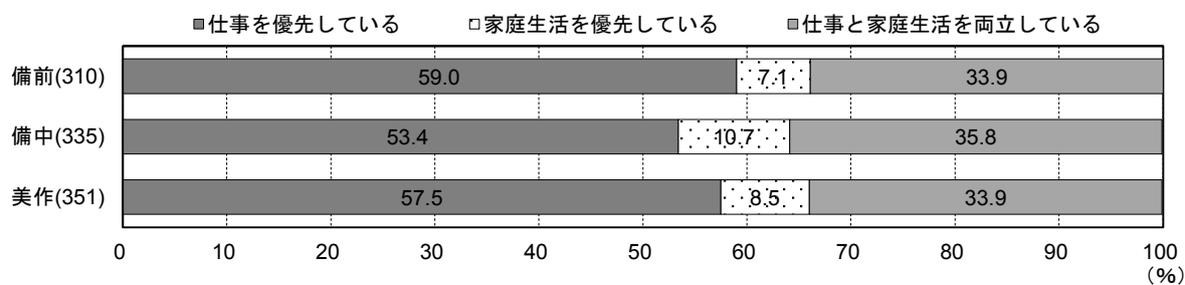
（女性）



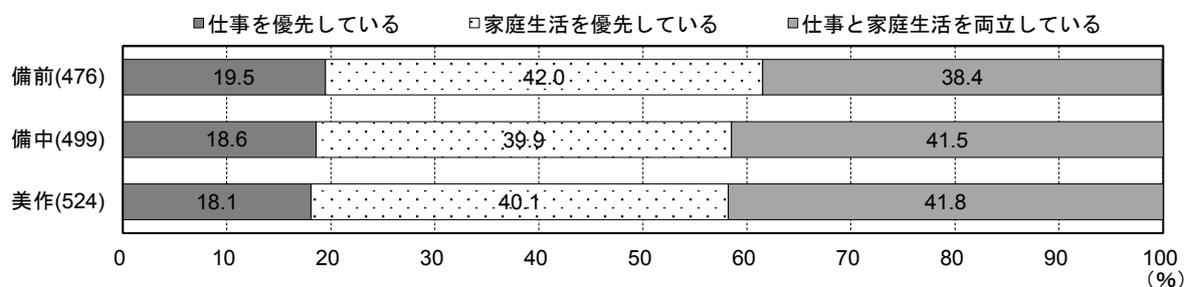
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0365	0.0500
P値	0.5994	0.0962

図Ⅱ－２０８ 県民局別にみた結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する現実（単数）

（男性）



（女性）



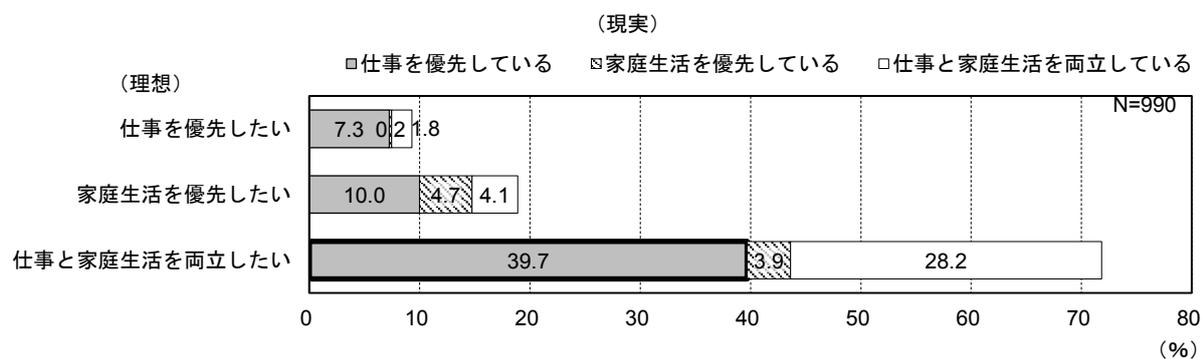
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0431	0.0218
P値	0.4493	0.8397

図Ⅱ－２０９は、家事と仕事の優先度の理想と現実とどのようなギャップが生じているか把握するため、理想ごとに現実を集計したものである。それぞれの理想と現実の組み合わせが、全体のどれくらいを占めるかわかるように、家事と仕事の優先度の全回答者に対する割合とした。

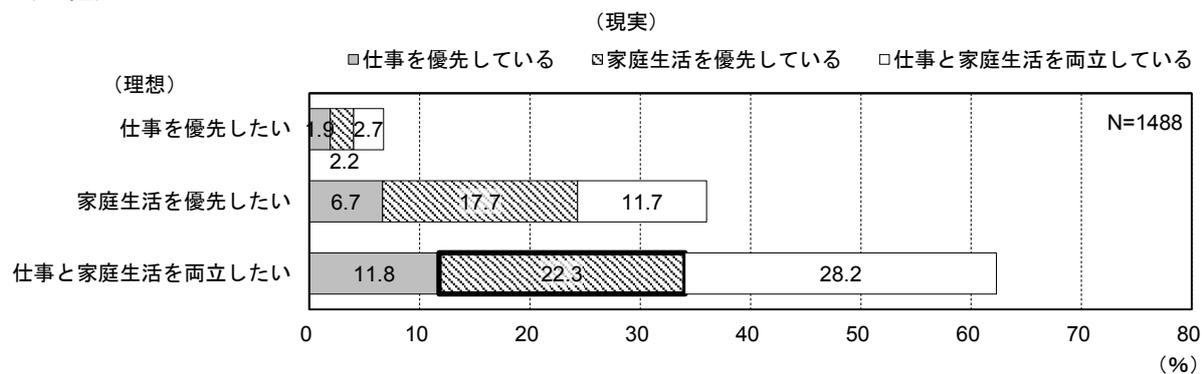
理想が実現できていない回答の中では、男性は「仕事と家庭生活を両立したい」けれど「仕事を優先している」が最も多く、全体の40%に達する。

女性では、「仕事と家庭生活を両立したい」けれど「家庭生活を優先している」が最も多く、22%を占める。男女で対称的な結果が表れた。

図Ⅱ－２０９ 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する理想と現実のギャップ
(男性)



(女性)



(注) 1. 回答割合の分母は質問に回答したすべての男性および女性である
2. 太枠は理想が実現できていない回答のうち割合が最も大きい

(2) ワーク・ライフ・バランスと労働時間、収入、職種、職種・産業との関係

ワーク・ライフ・バランス（現実）の回答は、労働時間と強い相関がみられる。また、労働時間は、時間当たりでみた収入と関係があり、労働時間と収入は職種によって異なる。とりわけ女性の職種構成は産業によって差異があり、地域の産業構造は、「出会いの機会」に加え、ワーク・ライフ・バランスを通じて結婚や出生に影響を及ぼしていることが考えられる。

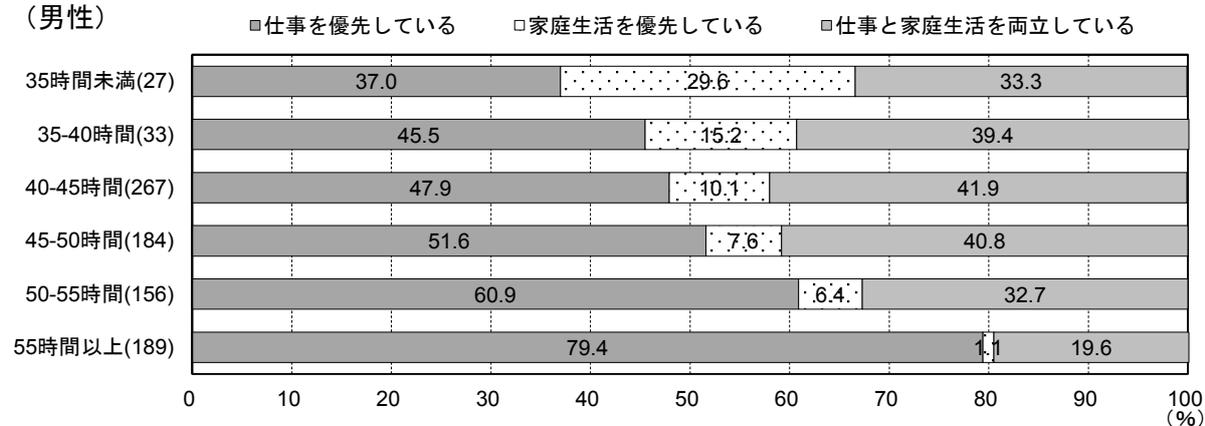
①労働時間とワーク・ライフ・バランス

(週 50 時間を超えると「仕事と家庭生活を両立」できる者が減少)

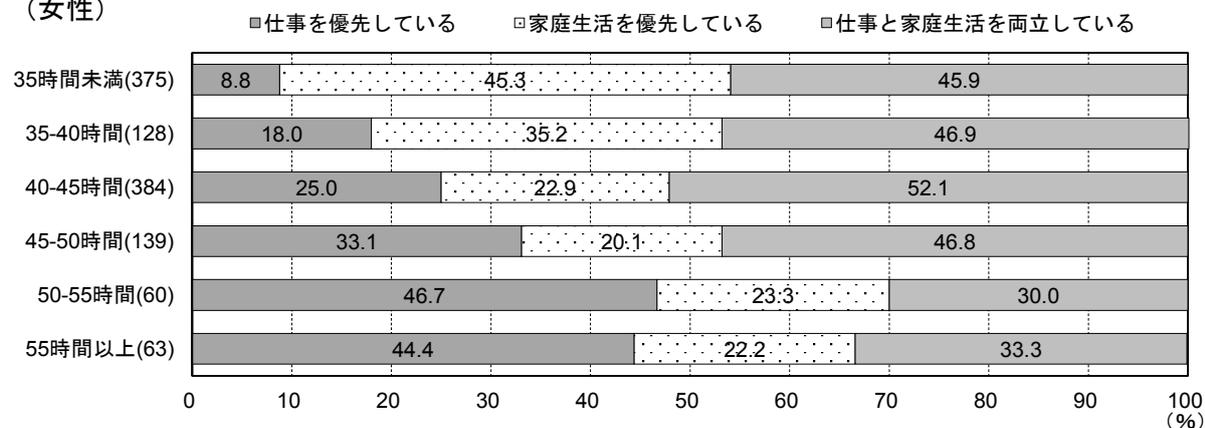
回答者本人の週労働時間が増加すると、男女とも「仕事を優先」が増加して、まず「家庭生活を優先」が減少する(図Ⅱ-210)。そして、男女とも週労働時間が「45-50 時間」を超え、「50-55 時間」になると、「仕事と家庭生活を両立」が減少し始める。週 50 時間は、週 5 日勤務であれば 1 日当たり 10 時間労働に相当し、1 日に 2 時間の残業が生じている。

週「40-45 時間」から「45-50 時間」は男女とも「仕事と家庭生活を両立」が最も多い労働時間であるが、それでも男性では「仕事を優先」が 50%程度に上る。また、女性では、「50-55 時間」「55 時間以上」になっても「家庭生活を優先している」が 20%を超えており、男性と大きな違いになっている。

図Ⅱ-210 本人の週労働時間別にみた仕事と家庭生活の優先度における現実（就業者、単数）
(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2098	0.2298
P 値	0.0000	0.0000

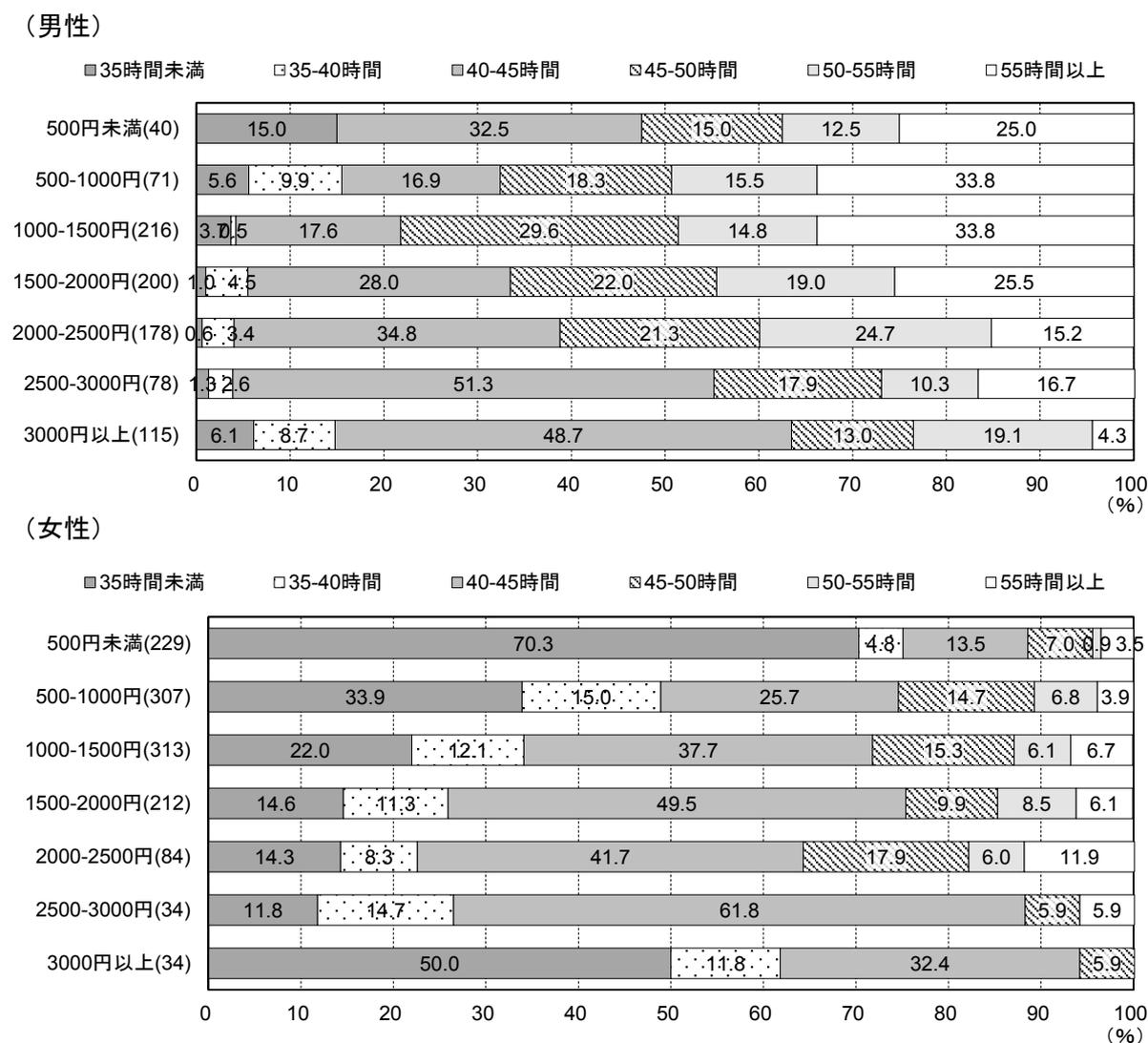
②時間当たり収入と労働時間

労働時間1時間当たり収入を分析軸にして週労働時間を集計すると、男性では「1000-1500円」が最も週労働時間が長い(図Ⅱ-211)。ここから1時間当たり収入が増加するにつれて、週労働時間「40-45時間」が増加していくことがわかる。週労働時間「40-45時間」は男性で「仕事と家庭生活を両立している」が最も多かった労働時間である。

女性では、まず、1時間当たり収入が「500円未満」であると週労働時間「35時間未満」が70%を占める。男性よりも低い賃金に対して弾力的に労働供給も少なくなっている状況が表れている。ここから1時間当たり収入が増加するにしたがって、週労働時間「40-45時間」が増加していく。

低い1時間当たり収入で長い時間働いている者は、全般的にみて女性より男性の方が多い。

図Ⅱ-211 1時間当たり収入別にみた週労働時間



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1892	0.2118
P値	0.0000	0.0000

③時間当たり収入とワーク・ライフ・バランス

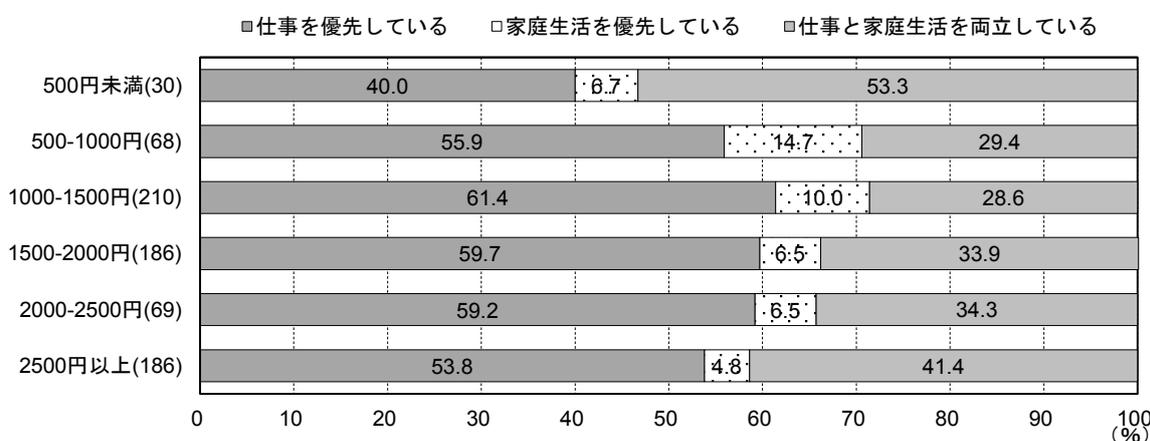
(時間当たり収入が増えると女性は「仕事優先」と「両立」の両方が増える)

回答者本人の時間当たり収入とワーク・ライフ・バランスの関係をみると、男性では「1000-1500円」を超えると緩やかに「仕事と家庭生活を両立している」が増加する傾向がみられる(図Ⅱ-212)。

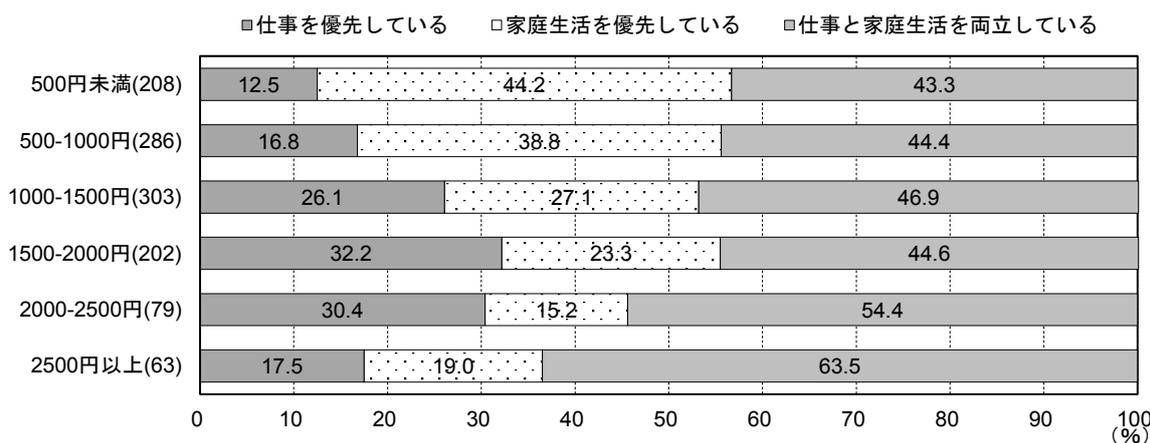
一方、女性は、時間当たり収入が「1500-2000円」を超えると、男性と同様に「仕事と家庭生活を両立している」が増加し始めるものの、「1500-2000円」までは時間当たり収入の増加とともに「仕事を優先している」が増加するはっきりとした傾向がみられる。

図Ⅱ-212 本人の時間当たり収入別にみた仕事と家庭生活の優先度における現実(就業者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1100	0.1706
P値	0.0576	0.0000

④夫婦の収入とワーク・ライフ・バランス

(夫婦の年収に占める妻の割合の増加は妻の「仕事優先」と「両立」の両方を増加させる)

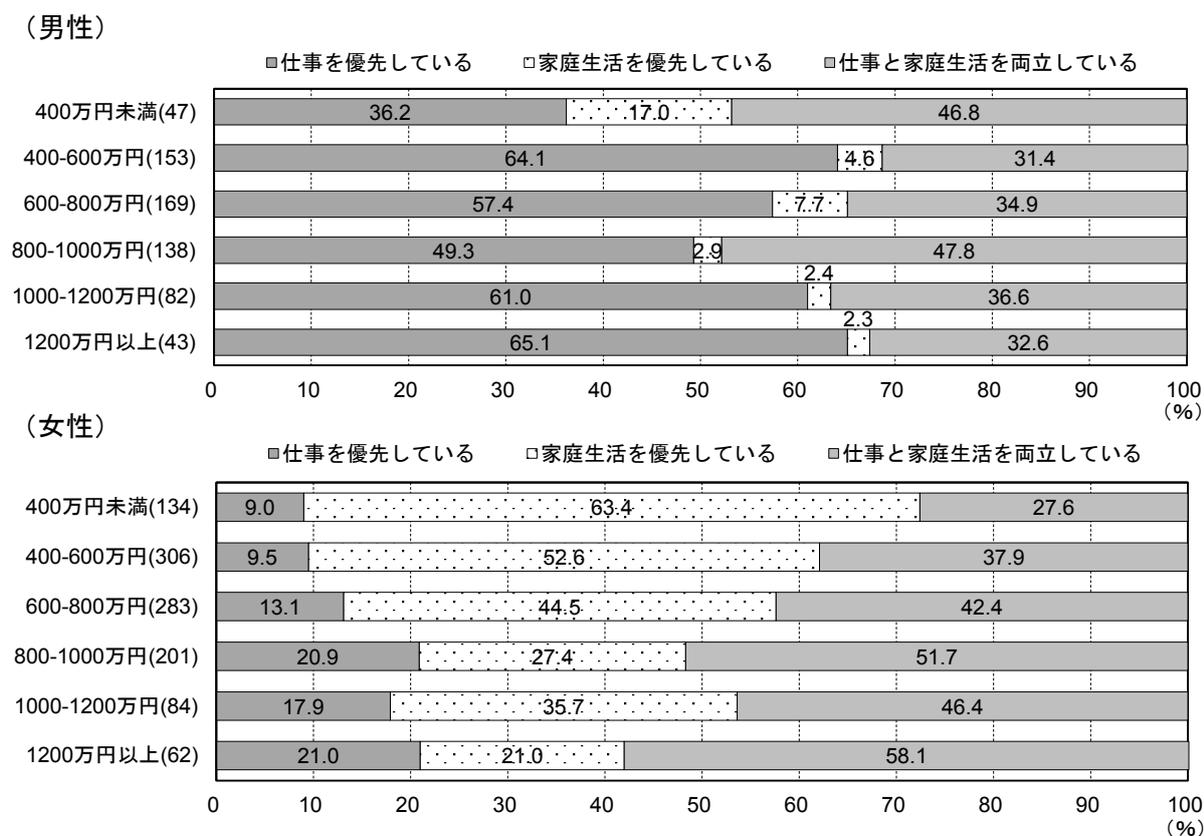
次に、共働きの有配偶者を対象にして、夫婦の年収合計がワーク・ライフ・バランスにどのように影響しているかをみた。

女性でははっきりとした傾向が表れており、夫婦の年収が増加すると「家庭生活を優先している」が減少し、「仕事と家庭生活を両立している」と「仕事を優先している」の両方が増える(図Ⅱ-213)。夫婦の年収と労働時間は相関があるため、夫婦の労働時間合計が増加するとワーク・ライフ・バランスには年収と同じ変化が生じる(図Ⅱ-214)。

夫婦の年収合計に対しては夫と妻の年収の両方が寄与するが、夫の収入は共働きの妻の「仕事を優先している」を減らし、「家庭生活を優先している」を増加させる傾向がある(図Ⅱ-215)。

一方、妻の年収の寄与を、夫婦の年収合計に占める妻の年収の割合でみると、妻の年収の割合が高くなると、妻の方に、夫婦の年収合計別と集計したときと同じ「仕事と家庭生活を両立している」と「仕事を優先している」の両方が増えるはっきりとした傾向が表れる。夫では、妻の収入割合が高くなる(自分の収入割合が低くなる)と「仕事を優先している」が減り、「仕事と家庭生活を両立している」が増加する緩やかな傾向がみられる(図Ⅱ-216)。

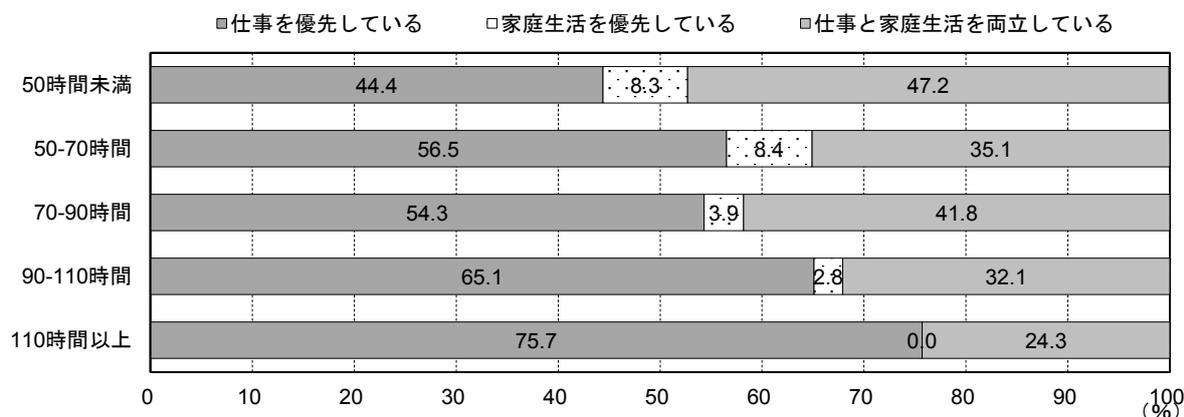
図Ⅱ-213 夫婦の年収合計別にみた仕事と家庭生活の優先度における現実
(共働きの有配偶者、単数)



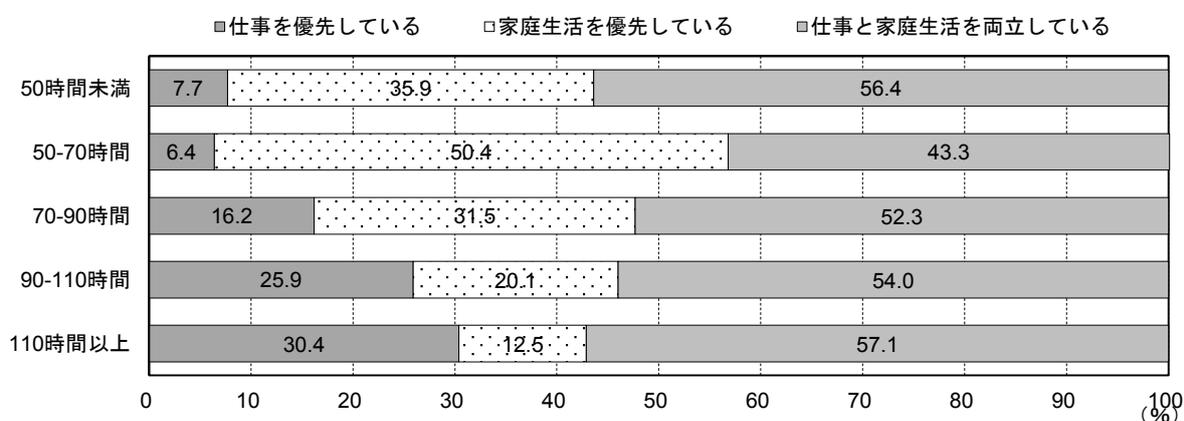
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1456	0.1069
P値	0.0009	0.0138

図Ⅱ－２１４ 夫婦の週労働時間合計別にみた仕事と家庭生活の優先度における現実
(共働きの有配偶者、単数)

(男性)

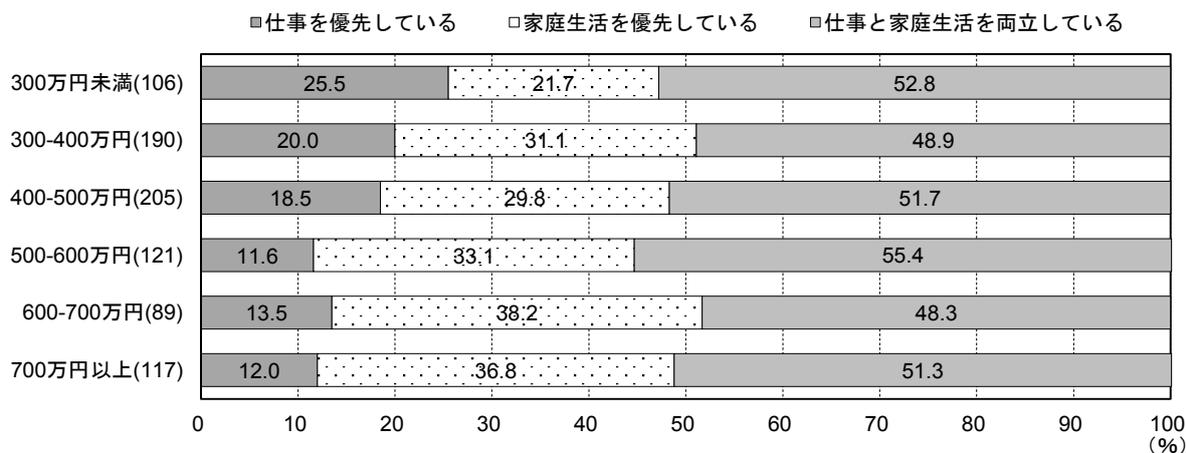


(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1295	0.1895
P値	0.0129	0.0000

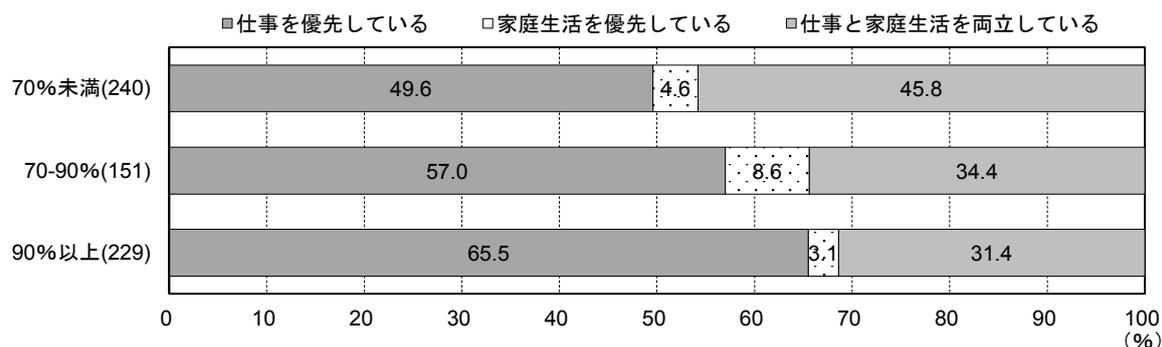
図Ⅱ－２１５ 配偶者の年収別に見た仕事と家庭生活の優先度における現実
(共働きの女性、単数)



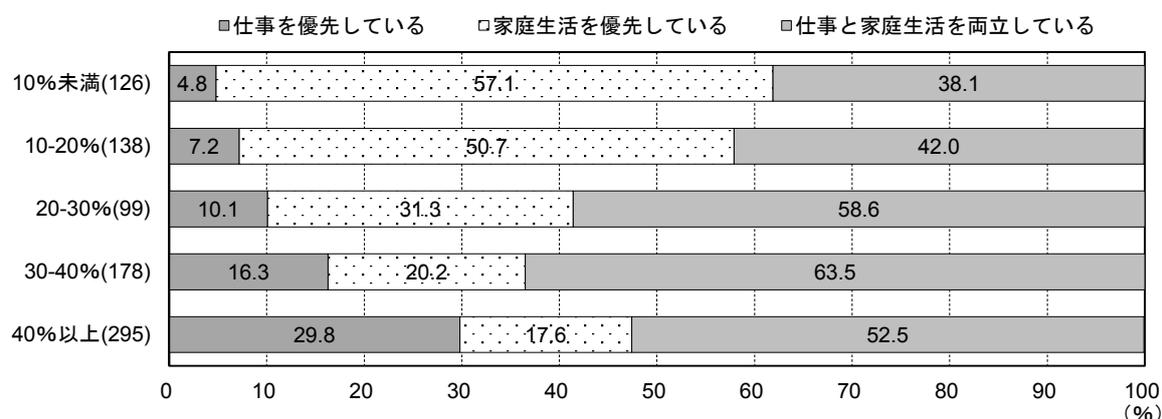
クラメールの連関係数	0.1005
P値	0.0810

図Ⅱ－２１６ 夫婦の年収合計に占める本人の割合別に見た仕事と家庭生活の優先度における現実 (共働きの有配偶者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1203	0.2798
P値	0.0013	0.0000

⑤労働時間と収入による仕事の区分けとワーク・ライフ・バランス

(収入と労働時間の組み合わせがワーク・ライフ・バランスに影響を及ぼす)

女性において、週労働時間及び時間当たり収入の増加は、両者の積である女性の所得獲得力の上昇を示す。両者のうち、週労働時間が増加するとワーク・ライフ・バランスの「仕事を優先する」が増加し、「仕事と家庭生活を両立している」が減少する傾向がみられた。

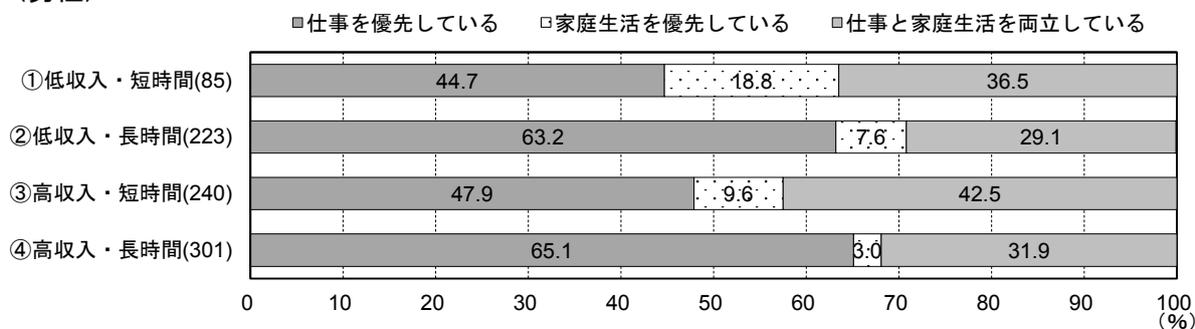
一方、時間当たり収入が増加すると、「家庭生活を優先している」が減って、「仕事を優先する」と「仕事と家庭生活を両立している」の両方が増えるはっきりとした傾向が表れる。女性の所得獲得力の上昇をもたらす夫婦の所得合計や、その所得に占める女性の所得割合の上昇も、時間当たり収入の増加と同じ傾向をもたらしている。

女性の獲得力の上昇が二通りの効果をもたらす理由は、夫の所得との関係などよりも、女性の仕事の特性に拠るところが大きいと考えられる。所得獲得力の二つの要素である労働時間と時間当たり収入により、男女が就業している仕事を「低収入・短時間」「低収入・長時間」「高収入・短時間」「高収入・長時間」の四つに区分した(図Ⅱ-217)。

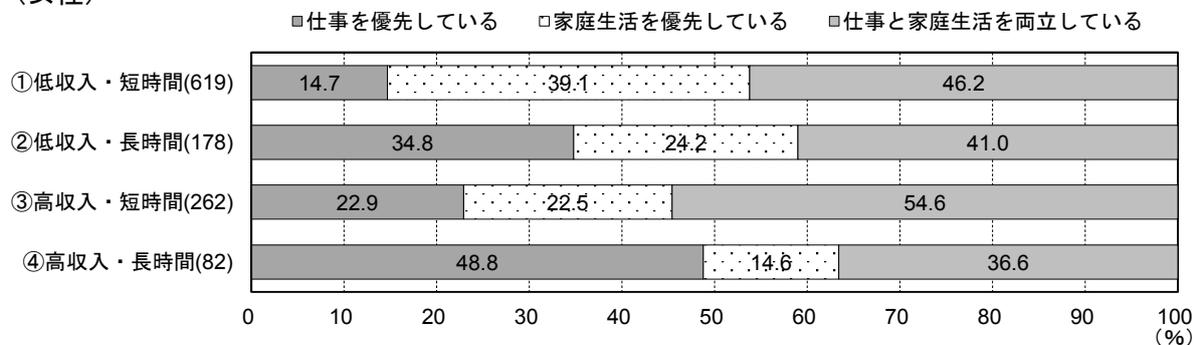
四つの区分別にワーク・ライフ・バランスを集計すると、女性の大半を占める「①低収入・短時間」から、他の三つのどの区分に移動したとしても所得獲得力は上昇し、②と④であれば「仕事を優先している」が増加し、③であれば「仕事を優先している」「仕事と家庭生活を両立している」の両方が増える。

図Ⅱ-217 労働時間と時間当たり収入による仕事の区分別にみた
家庭生活の優先度における現実(就業している有配偶者、単数)

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1916	0.2341
P値	0.0000	0.0000

(注) 時間当たり収入は1500円未満と1500円以上、週労働時間は45時間未満と45時間以上を境に区分した

⑥職種別の労働時間

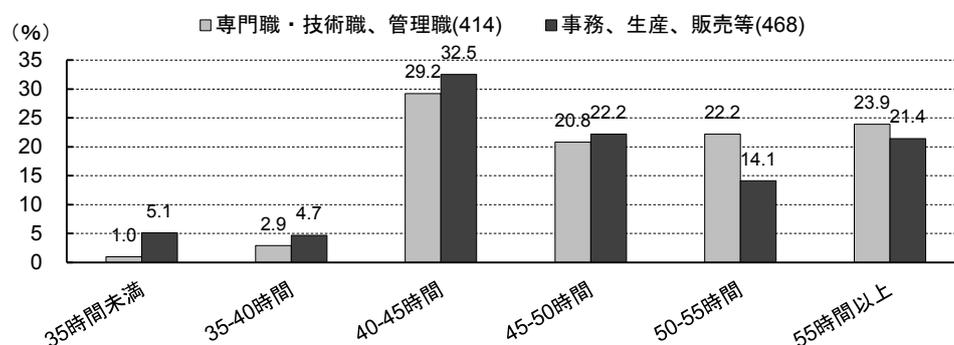
(女性では職種によって労働時間の差が大きい)

職種別に週労働時間の分布をみると、男性では、「事務、生産、販売等」に比べ「専門職・技術職、管理職」は「50-55時間」以上の者が多い(図Ⅱ-218)。女性では、「事務、生産、販売等」に比べ「専門職・技術職、管理職」は「45-50時間」を超える辺りから分布が多くなる。

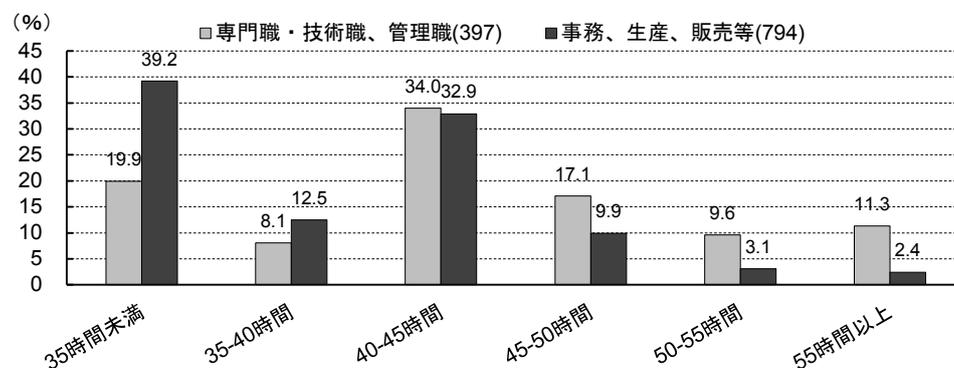
週労働時間の平均値は、男性では「事務、生産、販売等」と「専門職・技術職、管理職」の差は2.1時間であるが、女性では6.3時間になる。また、「事務、生産、販売等」では男女の労働時間の差は12.9時間であるが、「専門職・技術職、管理職」では8.7時間に短縮する(表Ⅱ-50)。

図Ⅱ-218 職種別の週労働時間の分布(数量)

(男性)



(女性)



(注) 調査票の選択肢と職種の区分けは以下の通り

専門職・技術職、管理職：管理職、専門職・技術職

事務、生産、販売等：事務、販売、サービス提供、保安関係、農林漁業従事、生産工程、輸送・機械運転、建設・採掘、運搬・清掃・包装、その他

表Ⅱ-50 職種別にみた週労働時間の平均値

項目	(時間)		
	男	女	男-女
①専門職・技術職、管理職	49.3	40.6	8.7
②事務、生産、販売等	47.2	34.3	12.9
①-②	2.1	6.3	-

⑦職種別の労働時間当たり収入

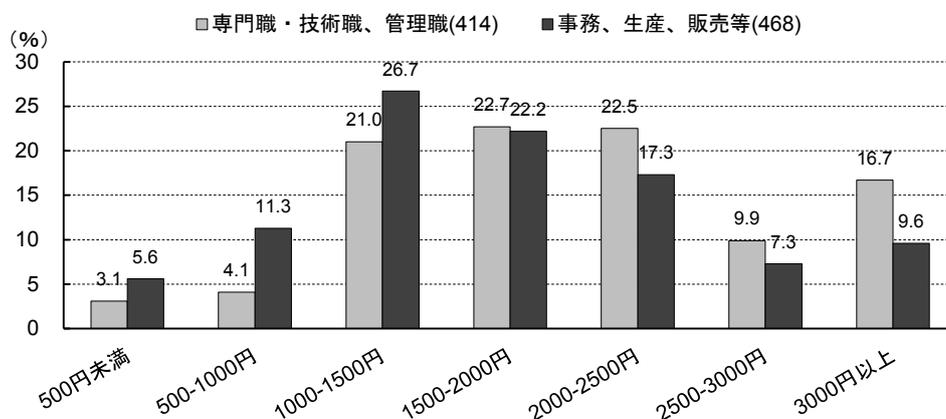
(女性は職種によって時間当たり収入の差が大きい)

労働時間当たり収入も職種によって差がみられる。男性では、1時間当たり収入は「事務、生産、販売等」よりも「専門職・技術職、管理職」の方が多い(図Ⅱ-219)。女性でも、「専門職・技術職、管理職」は「事務、生産、販売等」に比べ、1時間当たり収入が高くなっている。

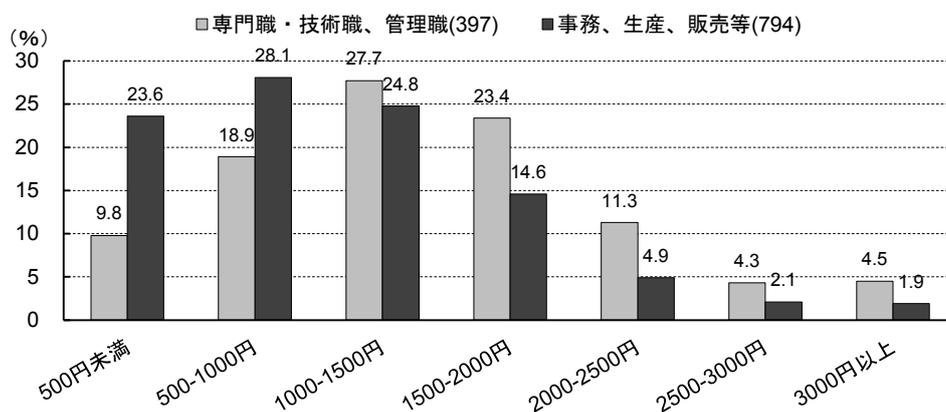
平均値をみると、男性より女性の方が「専門職・技術職、管理職」、「事務、生産、販売等」とも1時間当たり収入が600円程度低い(表Ⅱ-51)。また、女性の方が1時間当たり収入の低い方に分布が偏っており、収入面の格差が表れている。

図Ⅱ-219 職種別の1時間当たり収入の分布

(男性)



(女性)



表Ⅱ-51 職種別にみた1時間当たり収入の平均値 (円)

項目	男	女	男-女
①専門職・技術職、管理職	2,095	1,509	586
②事務、生産、販売等	1,775	1,117	658
①-②	320	393	-

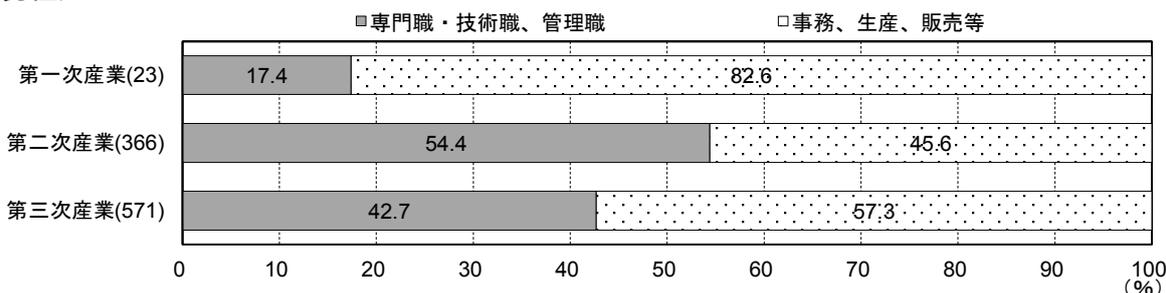
⑧産業別の職種構成

(第三次産業は女性に高収入かつ労働時間が長い就業機会を提供する)

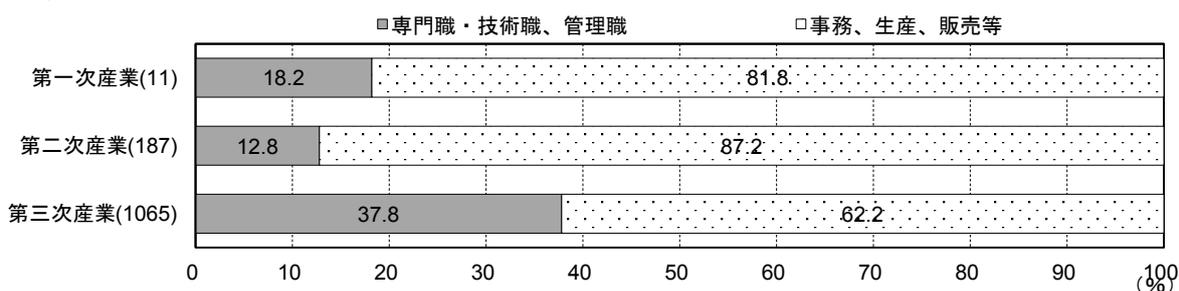
産業別の職種をみると、男性の「専門職・技術職、管理職」の割合は第三次産業より第二次産業の方が高いのに対し、女性の「専門職・技術職、管理職」の割合は第三次産業が最も高く、第二次産業の約3倍に達する(図Ⅱ-220)。つまり、第三次産業は、女性に対して「専門職・技術職、管理職」として働く場を提供する産業になっている。

図Ⅱ-220 産業別にみた職種

(男性)



(女性)

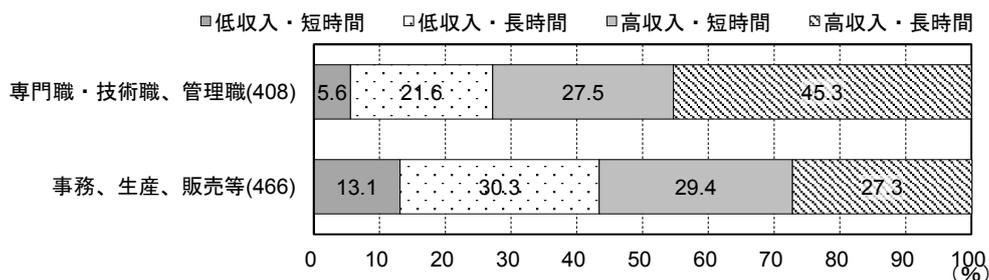


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1451	0.1900
P値	0.0000	0.0000

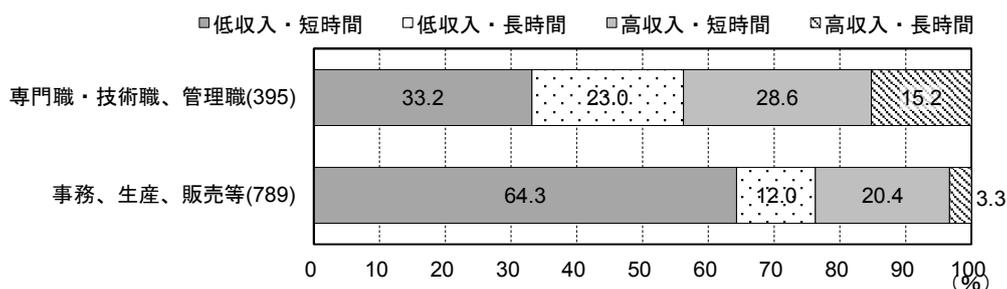
第三次産業は、女性に対して「低収入・長時間」の仕事の割合が高いことに加えて、女性において「専門職・技術職、管理職」の割合が高く、高収入の就業機会が期待される一方で、労働時間が長くなる傾向がある(高収入・長時間)(図Ⅱ-221、図Ⅱ-222)。

このため、サービス経済化の進展に伴う高度な労働需要の増大、女性の高学歴化、サービス産業が立地する都市地域への人口集中による地域間での人口性比のズレ等、社会経済の観点を踏まえ、男女のワーク・ライフ・バランスと結婚や子どもを持つことの希望の実現を支援する取組について検討が必要と考えられる。

図Ⅱ－２２１ 職種別にみた時間当たり収入と週労働時間による仕事の区分
(男性)

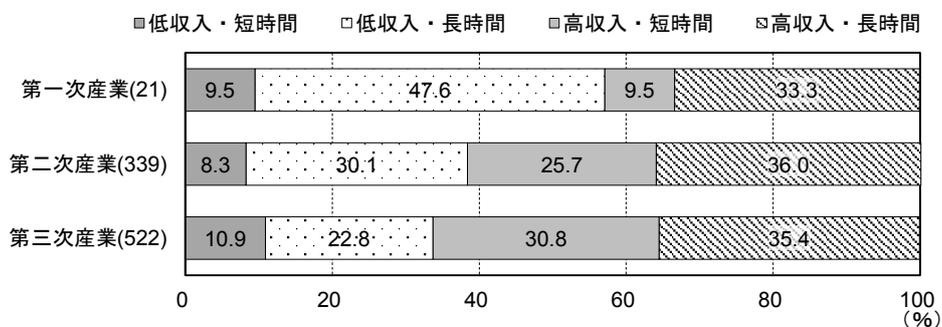


(女性)

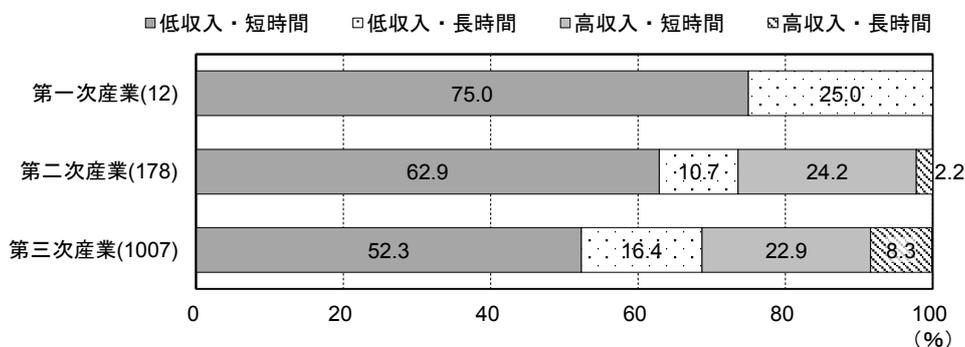


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2114	0.3268
P値	0.0000	0.0000

図Ⅱ－２２２ 産業別にみた時間当たり収入と週労働時間による仕事の区分
(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0894	0.0899
P値	0.0285	0.0036

8. 親との同居・近居と結婚に伴う転居

(1) 親との同居・近居

(本人の親との同居・近居)

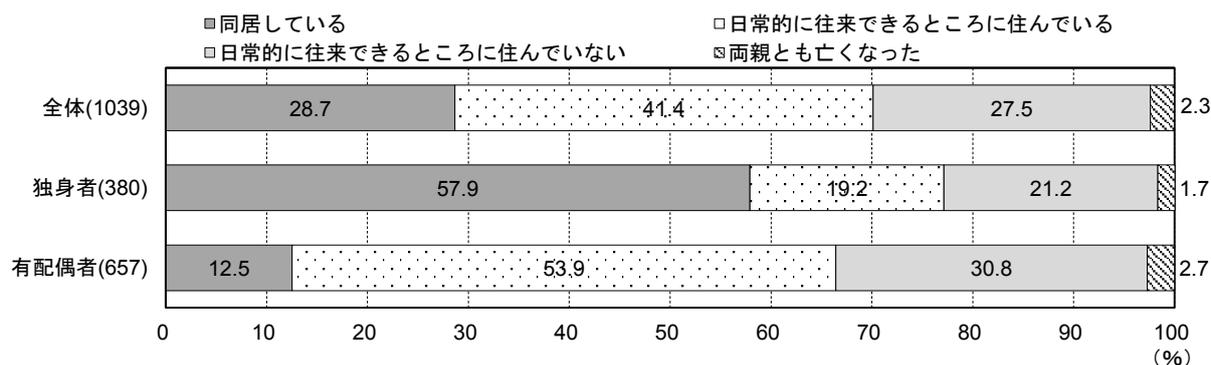
自分の親との同居・近況の状況をみると、全体では、男性の29%が「同居」、41%が「近居」である。女性では22%が「同居」、52%が「近居」であった(図Ⅱ-223)。

有配偶状態で大きな差異があり、男性独身者の「同居」は58%、「近居」は19%である。女性独身者では、「同居」が58%、「近居」が28%になっている。

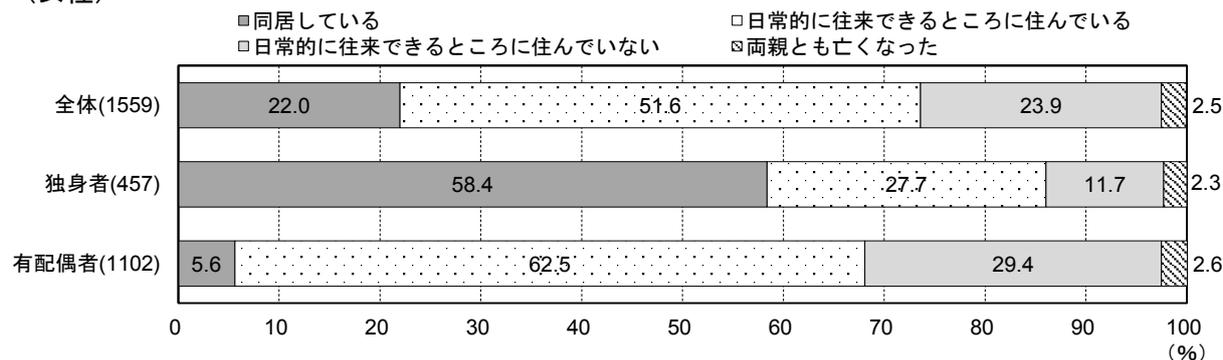
有配偶男性では「同居」が13%、「近居」が54%であり、「同居」と「近居」の合計は66%である。有配偶女性は「同居」が6%、「近居」が63%である。どちらの親と同居するかにより「同居」は男性の方が多いが、女性の「同居」と「近居」の合計68%は男性とほぼ変わらない。

図Ⅱ-223 有配偶状態別にみた本人の親との同居・近居(単数)

(男性)



(女性)



(注) それぞれ、県民局別男女人口(20-49歳)、県民局別男女独身者数(20-49歳)、県民局別男女有配偶者数によるウェイトバック集計である

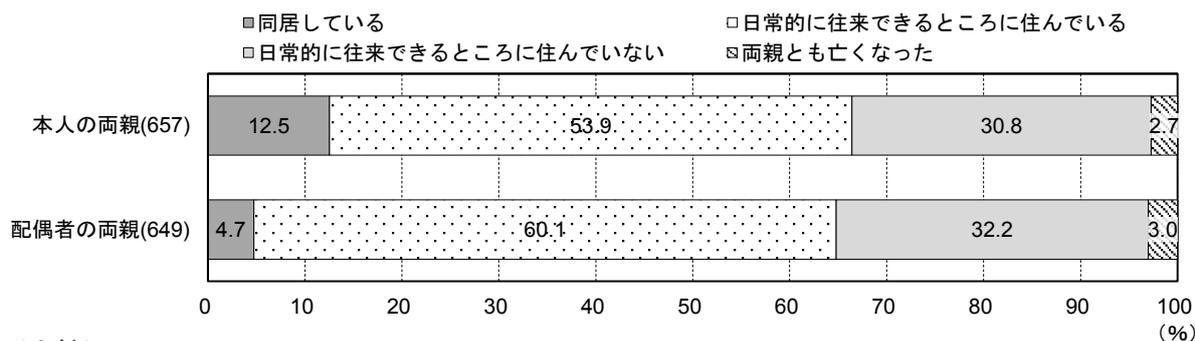
(配偶者の親との同居・近居)

配偶者の親と「同居」している男性は有配偶者の中で5%であり、「近居」は60%である(図Ⅱ-224)。女性は、「同居」が15%、「近居」54%である。

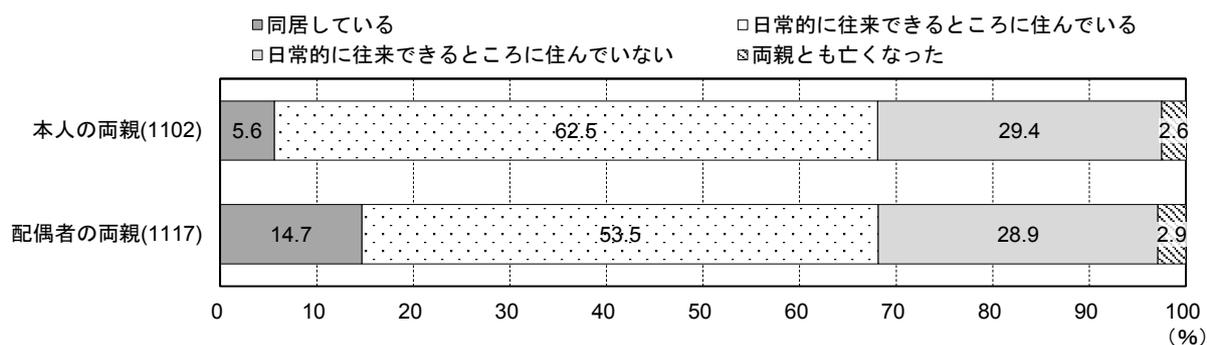
女性の方が配偶者の親と「同居」している者が多いが、「同居」と「近居」の合計は男女でほぼ同じである。

図Ⅱ-224 本人および配偶者の親との同居・近居(有配偶者、単数)

(男性)



(女性)



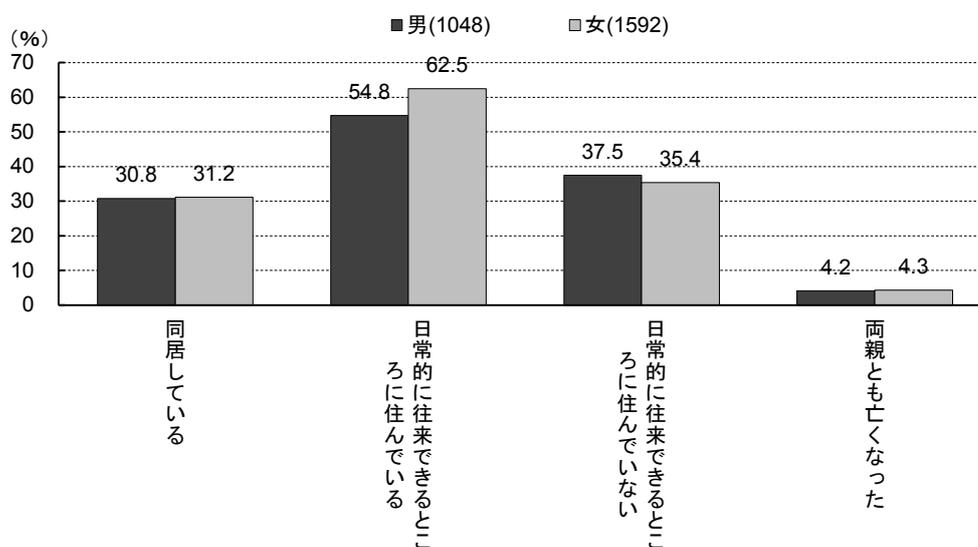
(注) 1. 県民局別男女有配偶者数によるウェイトバック集計である
2. 「本人の両親」は再掲

(同居が約 30%、近居は約 60%)

本人の親もしくは配偶者の親と同居や近居している者は、男女のどちらからみても同じとなり、回答による同居率は男性 30.8%、女性 31.2%と、ほぼ一致した。「近居」は男性 55%、女性 63%である(図Ⅱ-225)。

妊娠・出産時や子育てにおいて、日常的な親の助けを得ることが難しいと考えられる「日常的に往来できるところに往来できるところに住んでいない」、「両親とも亡くなった」を合わせると、男性では 42%、女性で 40%になる。このことは、妊娠・出産、子育てにおいて、親以外の助けを必要とする者が一定程度存在していることを示唆している。

図Ⅱ-225 本人あるいは配偶者の親との同居・近居(有配偶者、単数)



(注) 1. 県民局別男女有配偶者数によるウェイトバック集計である
 2. 本人の親と同居し、配偶者の親と近居しているケース等があるため、男女ごとの合計は 100%を上回る

妊娠・出産時や子育てにおいて、日常的な親の助けを得ることが難しいと考えられる「日常的に往来できるところに往来できるところに住んでいない」あるいは「両親とも亡くなった」は、男性では42%、女性で40%になる。

(県民局別集計)

親との同居・近居の状況は、県民局別で明確な差異がみられる。

本人の親との同居について全体をみると、備中・美作の男性は備前に比べて「同居」の割合が大きい(図Ⅱ-226)。女性は、美作で「日常的に往来できるところに住んでいない」が他地域に比べて多い。

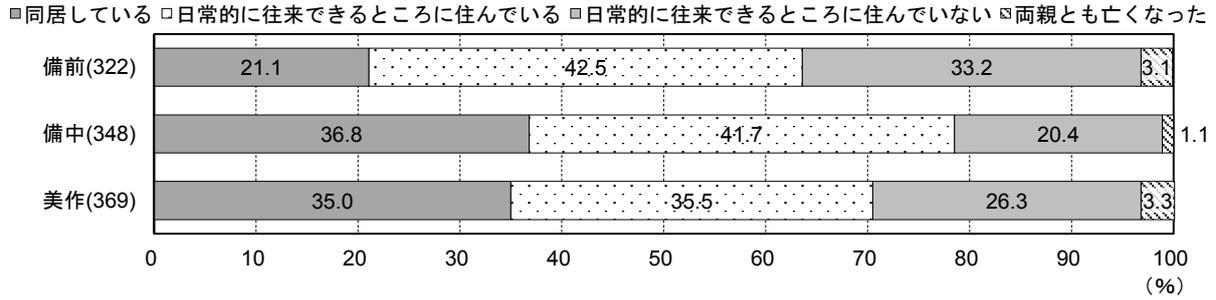
独身者は、男女とも、備中、美作、備前の順で本人の親との「同居」が多い(図Ⅱ-227)。一方、有配偶者は、男性は備前で「同居」が少なく、女性は、美作で「日常的に往来できるところに住んでいない」が他地域に比べて多いといった特徴がみられる。

県民局別でみた配偶者の親との同居・近居は、男女とも備前で「近居」が少なくなっている(図Ⅱ-229)。こうした県民局別の差異は、就職や結婚時に「日常的な往来できるところに住んでいない」ところから移動して来る者の割合の違いなどを反映していることが考えられる。

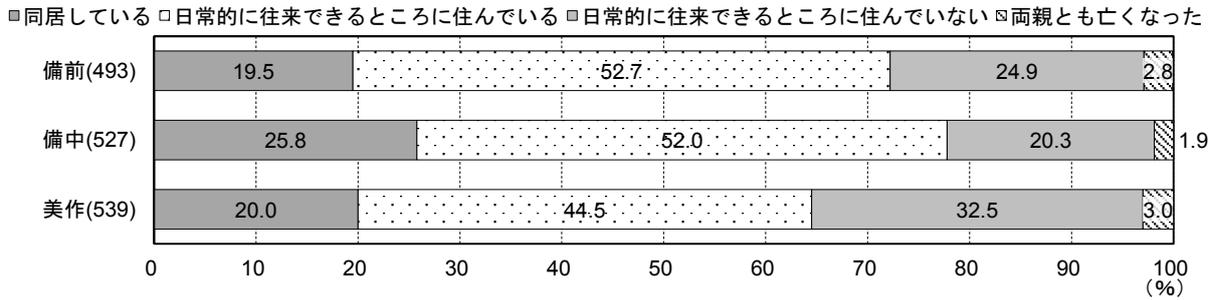
本人あるいは配偶者の親との同居・近居の状況をみると、備前で「同居」が他地域に比べて少なくなっている(図Ⅱ-230)。ポイントになる「日常的に往来できるところに住んでいない」は、備中が少ないという特徴があるものの、備前と美作に大きな差異はみられない。

図Ⅱ－２２６ 県民局別にみた本人の親との同居・近居（単数）

(男性)



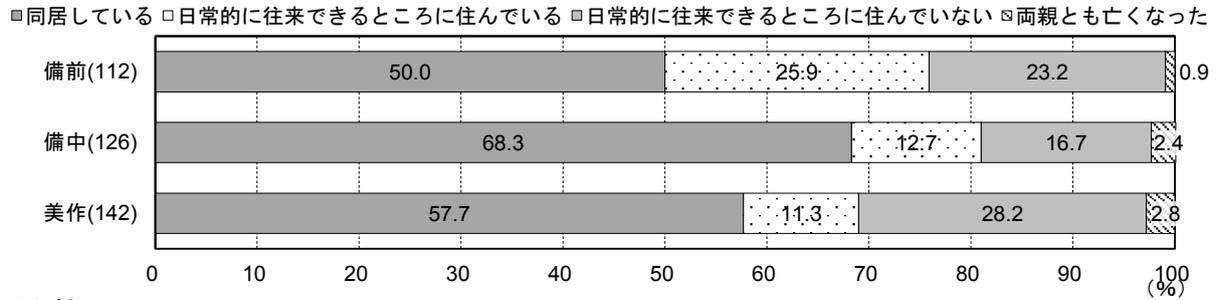
(女性)



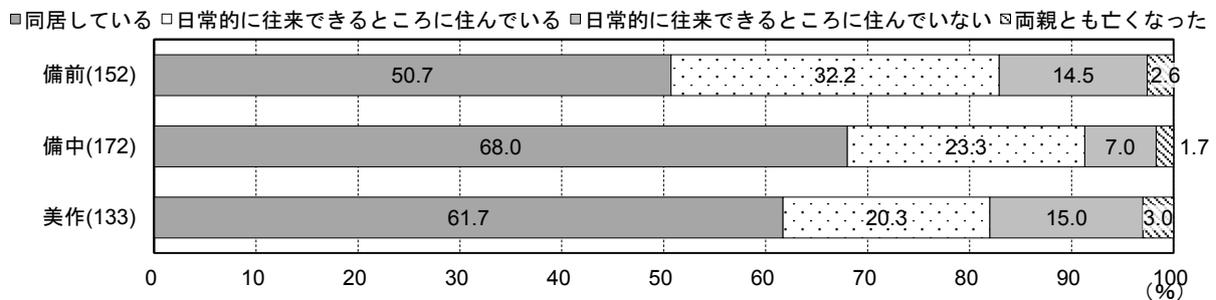
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0125	0.0933
P値	0.0000	0.0001

図Ⅱ－２２７ 県民局別にみた本人の親との同居・近居（独身者、単数）

(男性)



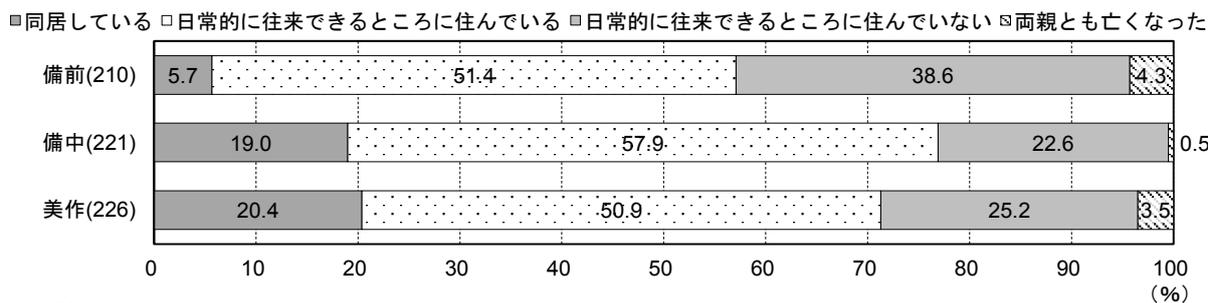
(女性)



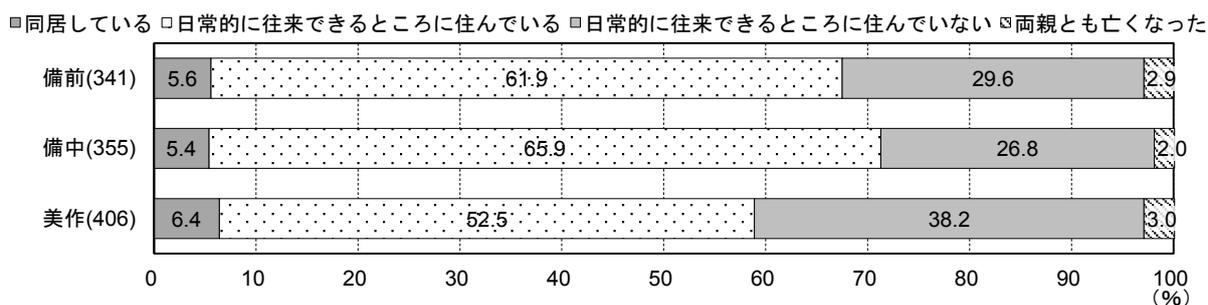
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1544	0.1263
P値	0.0060	0.0238

図Ⅱ－２２８ 県民局別にみた本人の親との同居・近居（有配偶者、単数）

（男性）



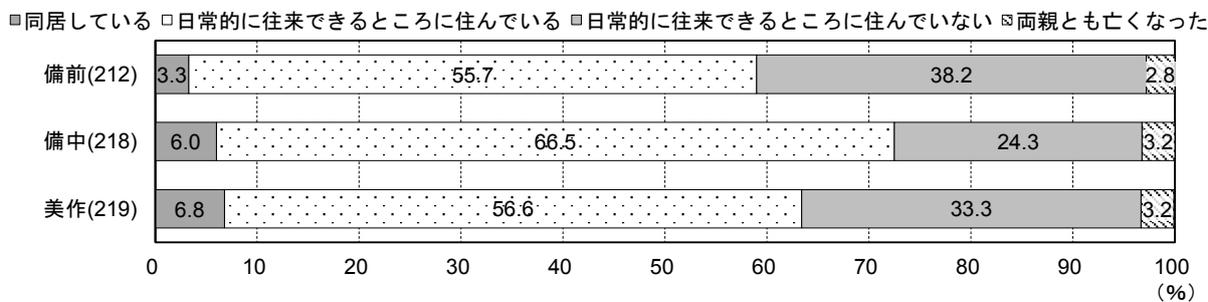
（女性）



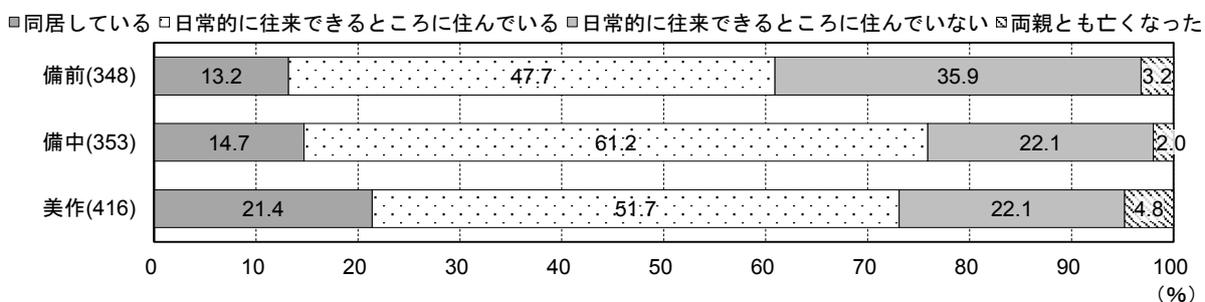
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1684	0.0850
P値	0.0060	0.0142

図Ⅱ－２２９ 県民局別にみた配偶者の親との同居・近居（有配偶者、単数）

（男性）

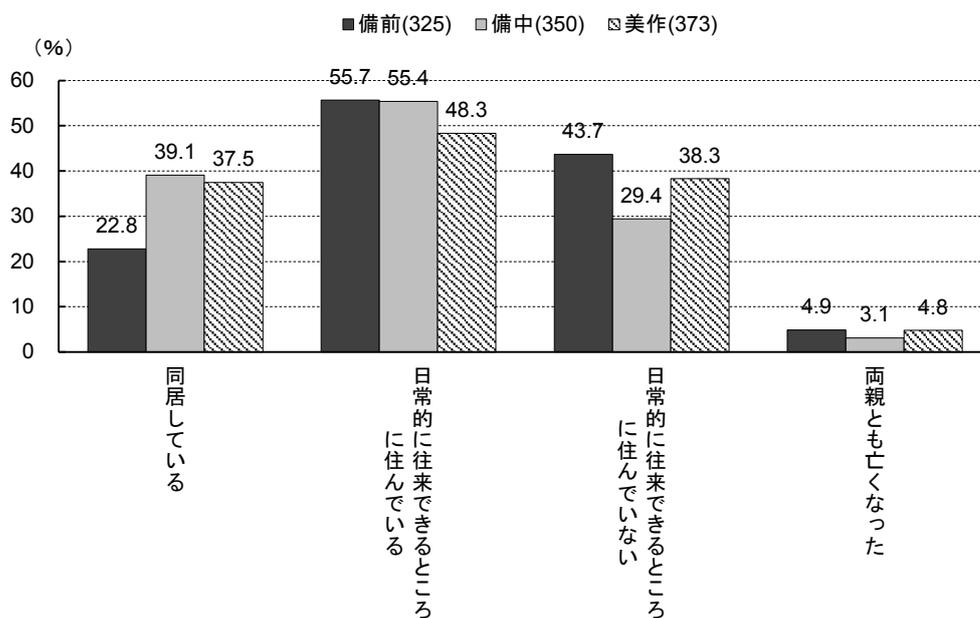


（女性）

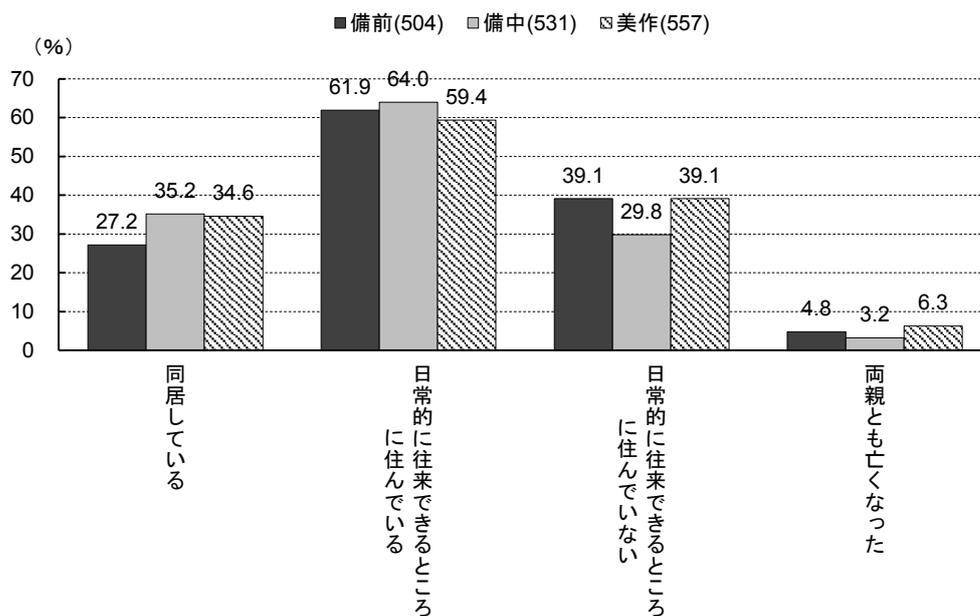


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0966	0.1288
P値	0.0593	0.0000

図Ⅱ－２３０ 県民局別にみた本人あるいは配偶者の親との同居・近居（有配偶者、複数）
（男性）



（女性）



(2) 結婚時の転居

①結婚時の市町村間移動

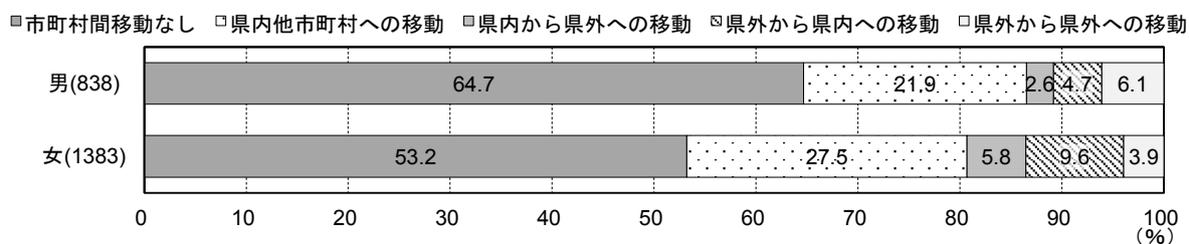
(女性の半数近くが結婚時に市町村間で移動)

結婚時に新居とする地域をどこにするかは、移動先地域の有配偶率を高めるとともに、移動先地域の有配偶出生率を高め、反対に、結婚に伴う市町村間移動は、移動元地域で有配偶率と有配偶出生率を低下させる原因になると考えられる。

そこで、結婚時の市町村間の移動状況を見ると、「市町村間移動なし」が男性 65%、女性 53%であり、男性事情による移動の方が多いことが窺える(図Ⅱ-231)。「県内他市町村への移動」は、男性 22%、女性 28%である。

県民局別にみると、結婚時の市町村間移動に男性には差異はみられないものの、女性では美作で「市町村間移動なし」が少なく、「県内他市町村への移動」が多くなっている(図Ⅱ-232)。

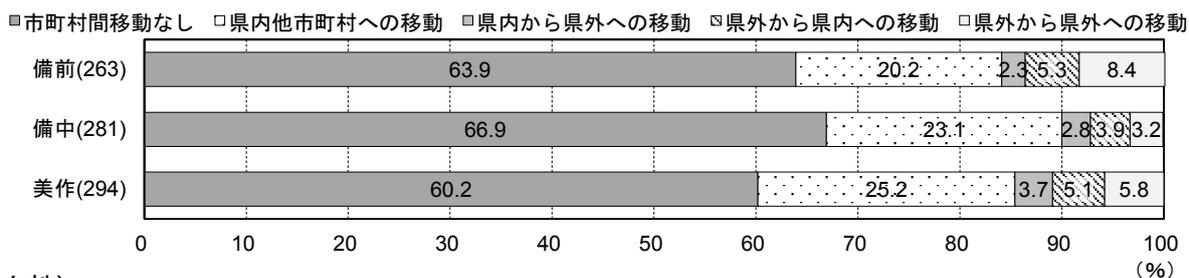
図Ⅱ-231 結婚時の市町村間移動



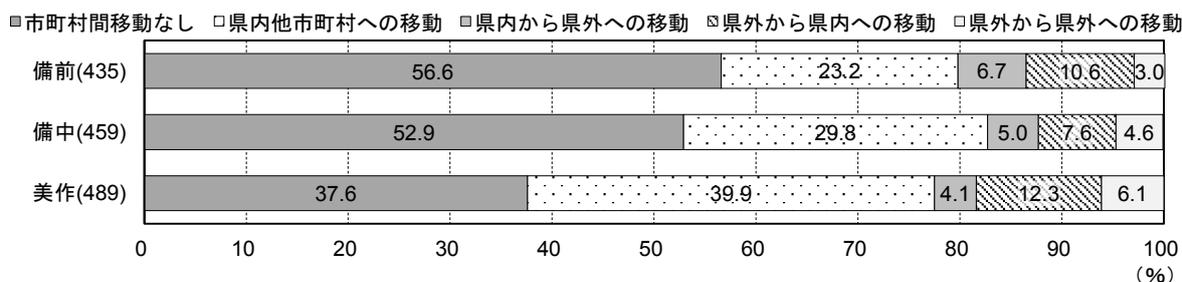
- (注) 1. 県民局別男女既婚者人口(20-49歳)によるウェイトバック集計である
 2. 未婚者の結婚時の希望を含む
 3. 「県外から県外への移動」は、もともと県外住民であった者が結婚後数年して婚姻以外の理由で県内に転居してきたと考えられる。

図Ⅱ-232 県民局別にみた結婚時の市町村間移動

(男性)



(女性)

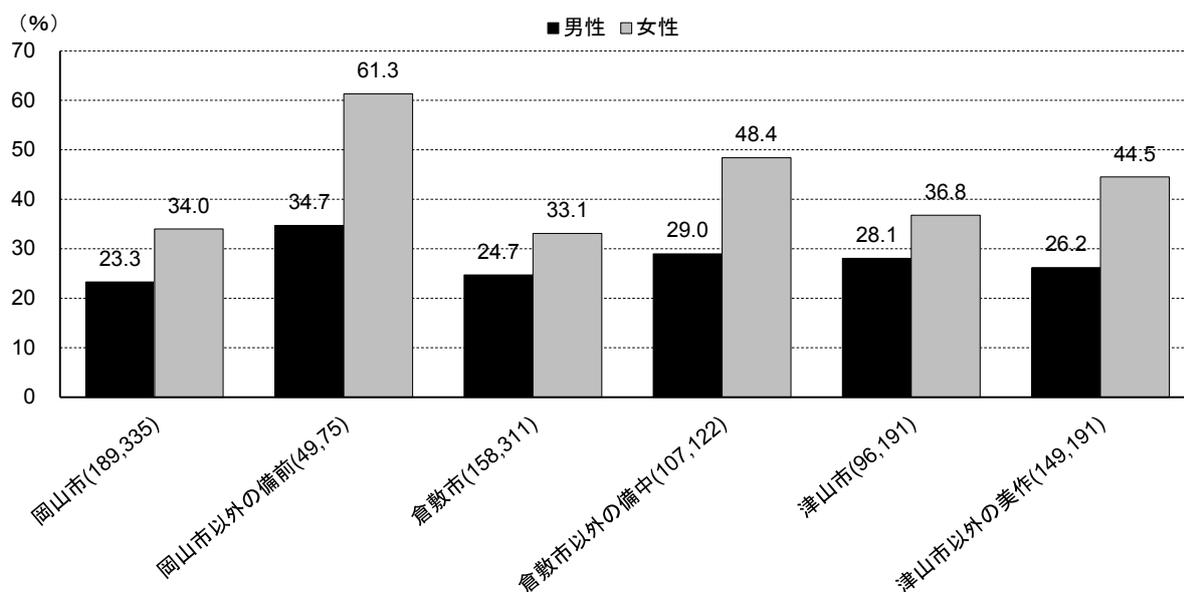


項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0794	0.1390
P値	0.2278	0.0000

各県民局内の移動を把握できるように、備前局を「岡山市」と「岡山市以外の備前」、備中局を「倉敷市」と「倉敷市以外の備中」、美作局を「津山市」と「津山市以外の美作」に分けて、結婚に伴う人口流出率を算出した。

結果、各地域の中心市以外の市町村で結婚に伴う人口流出が多くなっており、とりわけ女性で著しいことがわかる(図Ⅱ-233)。

図Ⅱ-233 結婚に伴う人口流出率



(注) 括弧の中の数字はサンプル数であり、前が男性、後が女性である

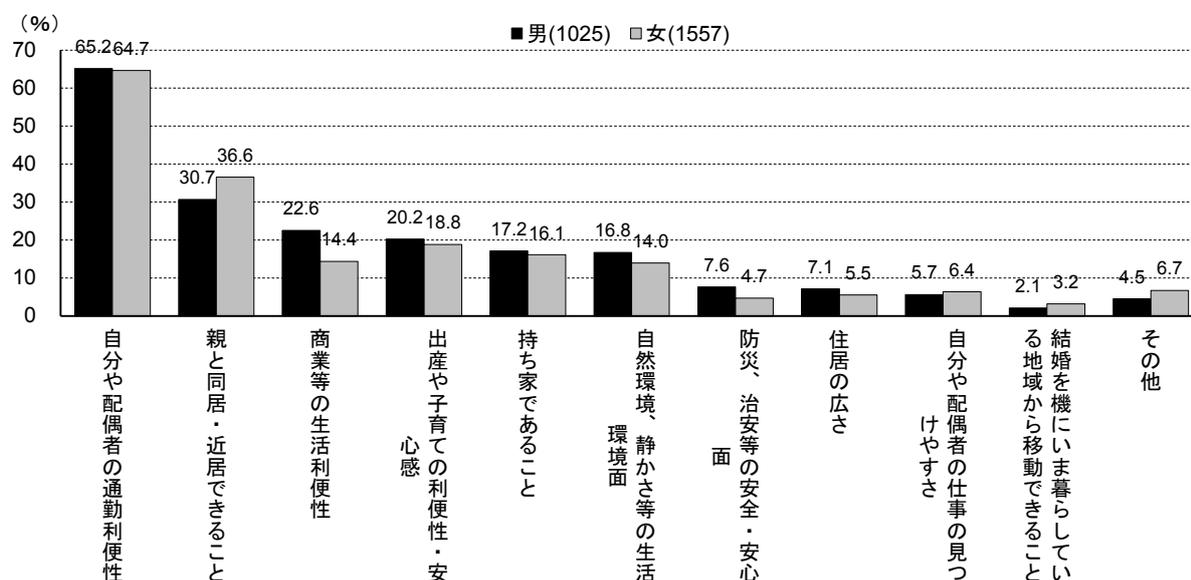
②結婚時に新居を決めるため重視したこと

結婚時に新居を決めるため重視したことは、「自分や配偶者の通勤利便性」が男女とも65%を占める（図Ⅱ－234）。次いで、「親と同居・近居できること」が男性31%、女性37%に上る。

男性の三番目の理由は「商業等の生活利便性」（23%）が多いであるが、女性は「出産や子育ての利便性・安心感」（19%）になっている。「出産や子育ての利便性・安心感」は男性でも20%に上る。

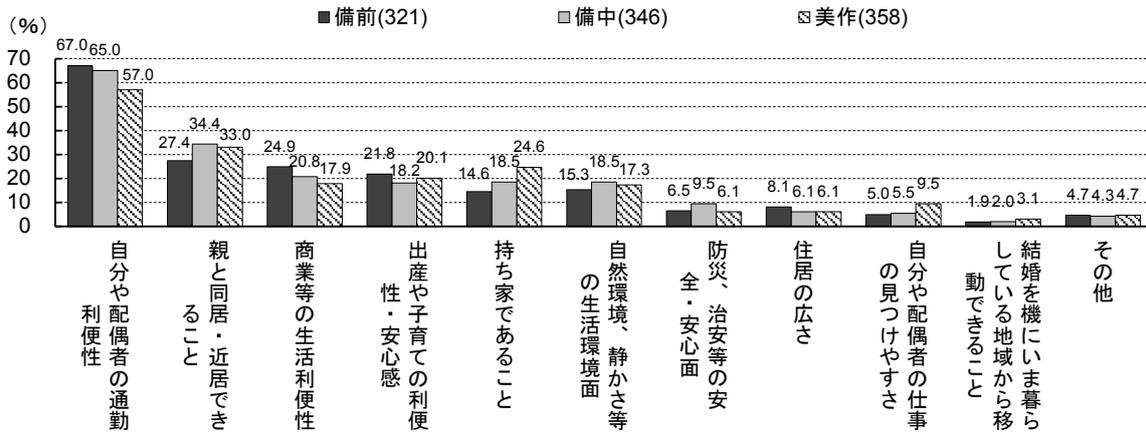
県民局別では、「通勤利便性」は備前に多く、「親と同居・近居」や「持ち家であること」は備中や美作で多い傾向がみられる（図Ⅱ－235）。

図Ⅱ－234 結婚時に新居を決めるため重視したこと（複数）

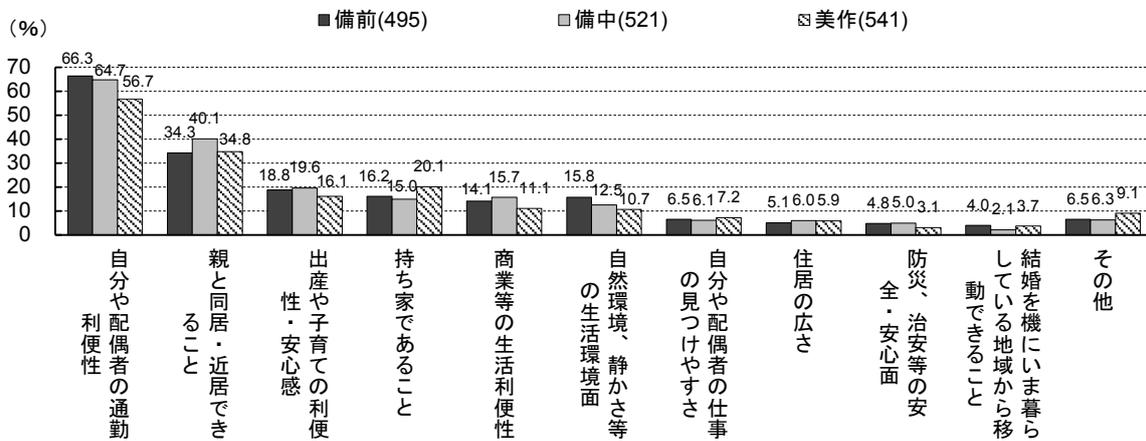


(注) 1. 県民局別男女人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である
 2. 未婚者は結婚時の希望である

図Ⅱ-235 県民局別にみた結婚時に住居市町村を決めるため重視したこと(複数)
(男性)



(女性)



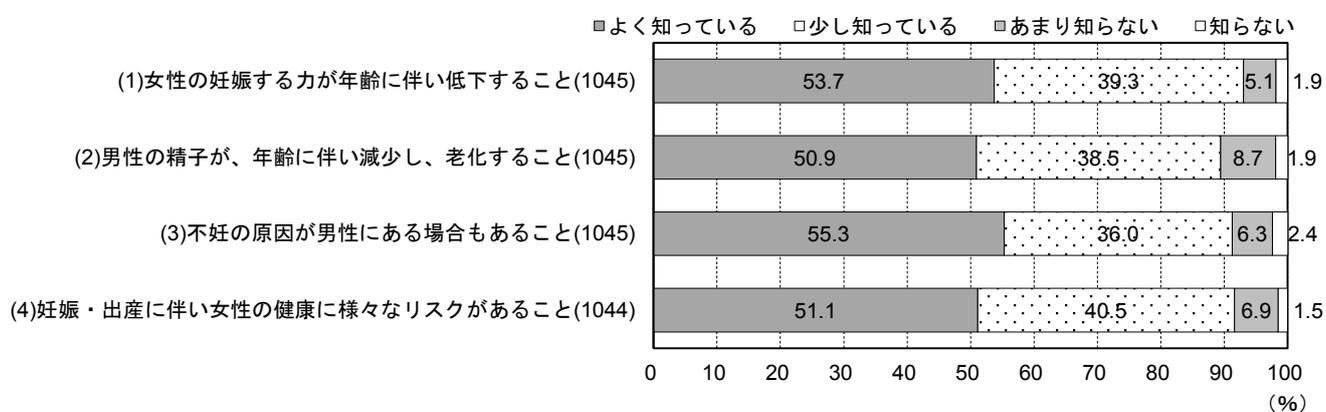
9. 妊娠・出産に関する医学的知識

四つの妊娠・出産に関わる医学的知見について知識をどの程度持っているか尋ねた（図Ⅱ－236）。

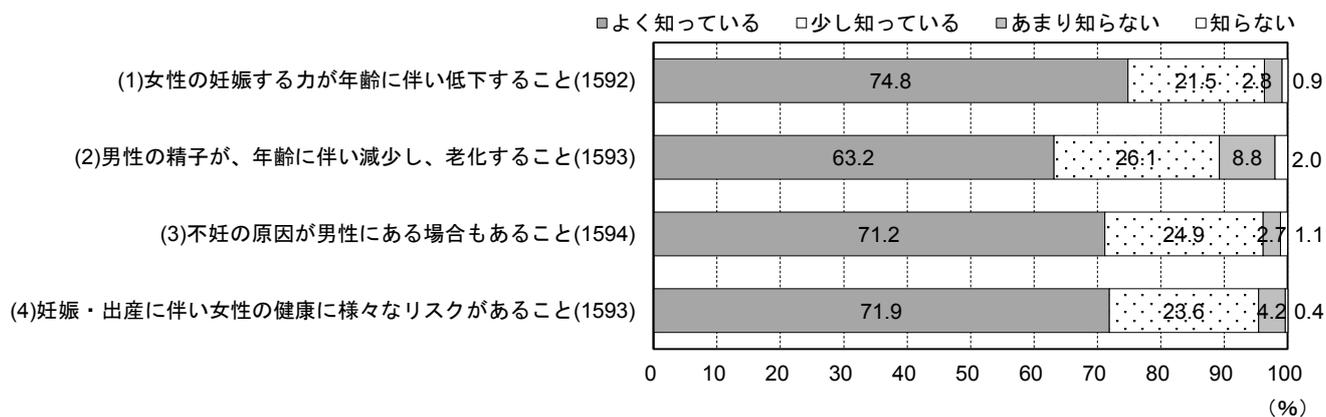
男性は、四つの項目のいずれも「よく知っている」が50%～60%である。女性で四つのうち三つの項目で「よく知っている」が70%を超えるのに対して、男性は20ポイント近く少なくなっている。女性においては、四つの項目の中で「男性の精子が、年齢に伴い減少し、老化すること」が「よく知っている」が63%とやや少なくなっている。

図Ⅱ－236 妊娠・出産に関する医学的知識（単数）

（男性）



（女性）

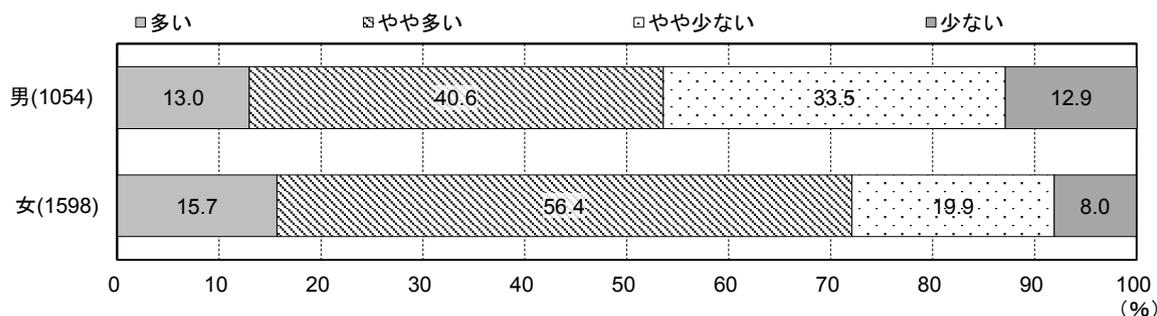


（注）県民局別男女人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である

医学的知識の程度を、妊娠・出産に関わる四つの項目で平均値をとった。主成分分析ではなく、平均値とした理由は、質問数やリッカード形式の段階数が少ないことと、「よく知っている」に回答が偏ったためである。

図Ⅱ－２３７の通り男女で差異がみられることと、図Ⅱ－２３８の県民局別の集計では、男性で「少ない」が美作局で多くなっている。ただし、男性の県民局別の違いは小さく、女性では差異はみられない。

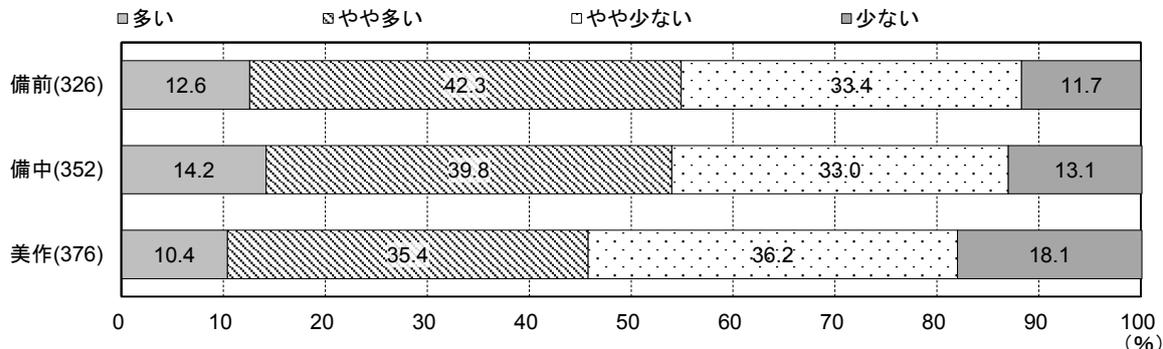
図Ⅱ－２３７ 妊娠・出産に関する医学的知識（平均値）



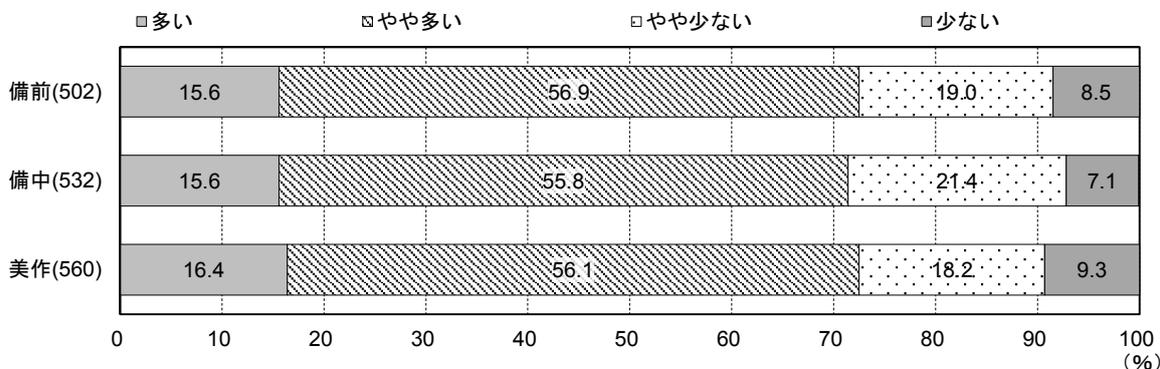
(注) 1. 県民局別男女人口（20-49歳）によるウエイトバック集計である
 2. 選択肢の1から4点、3点、2点、1点と点数化し、平均値の「多い」は4点、「やや多い」は3.5点以上4点未満、「やや少ない」は3点以上3.5点未満、「少ない」は3点未満である

図Ⅱ－２３８ 県民局別にみた妊娠・出産に関する医学的知識（平均値）

(男性)



(女性)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0714	0.0322
P値	0.0963	0.7695

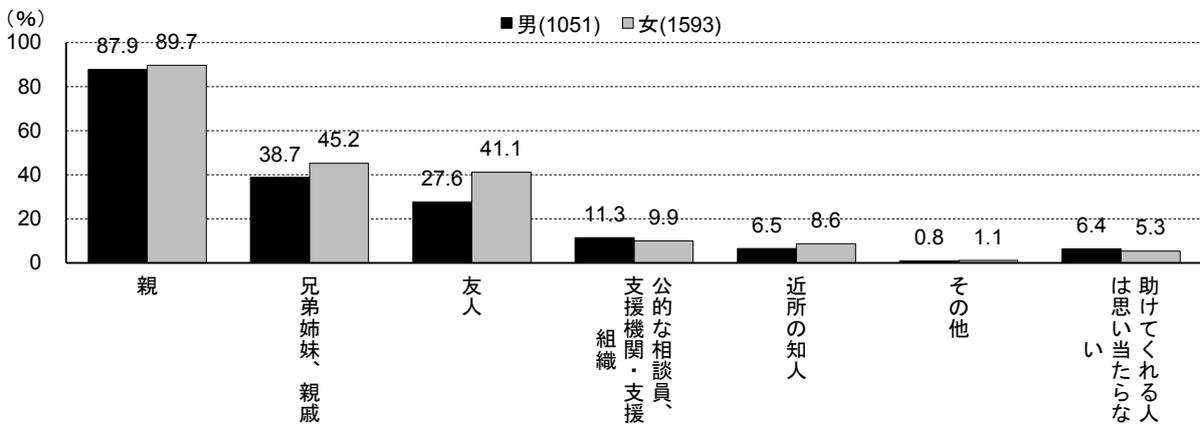
10. 妊娠・出産時に助けてくれる人

(相談や生活面で助けてくれる人は社会関係性の影響を受ける)

「妊娠・出産時に助けてくれる人」は、男女とも「親」が90%近くを占める(図Ⅱ-239)。次いで、「兄弟姉妹、親戚」が男性39%、女性45%、「友人」が男性28%、女性41%と多い。

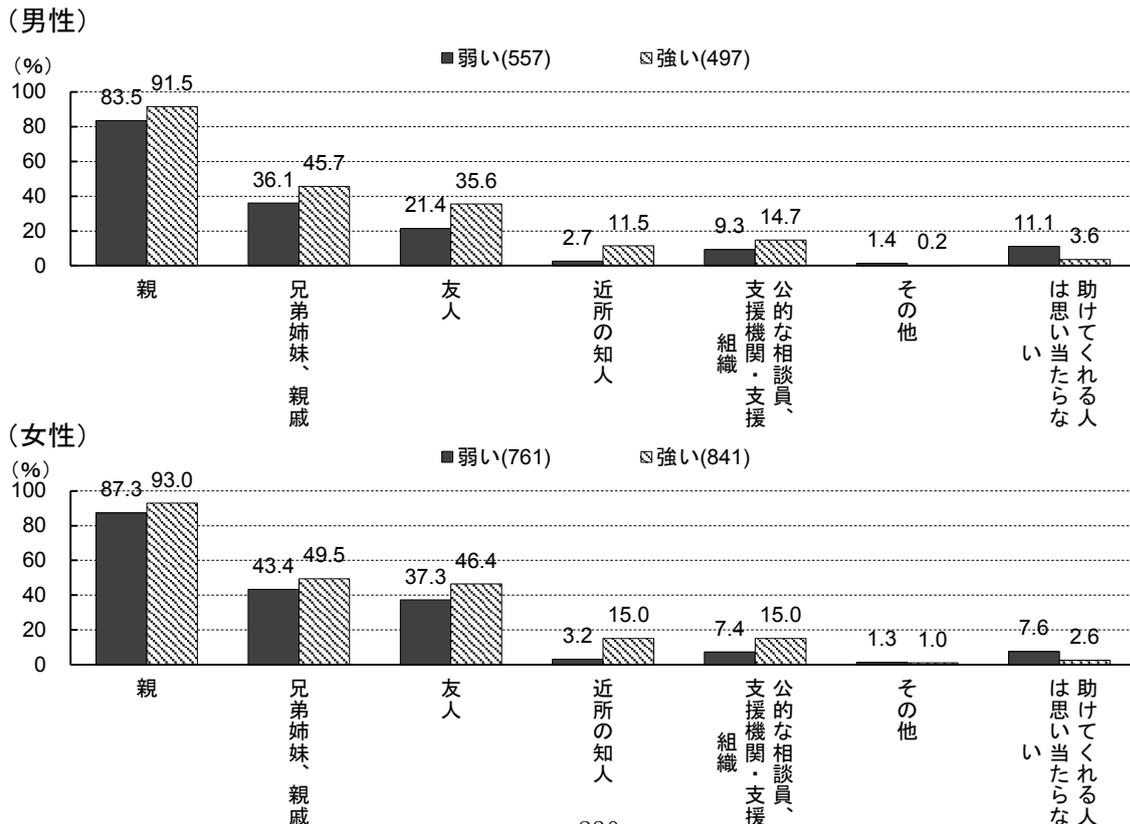
社会関係性の強さ別に集計すると、すべての選択肢において社会関係性が強い方が、回答が多くなっている。社会関係性は、家族観・子ども観を通じて結婚意欲や理想の子ども数に影響を及ぼすと考えられるが、「妊娠・出産時に相談や生活面で助けてくれる人」の有無を通じて、出生率に影響を及ぼしていることが考えられる(図Ⅱ-240)。

図Ⅱ-239 妊娠・出産時に相談や生活面で助けてくれる人(複数)



(注) 県民局別男女人口(20-49歳)によるウエイトバック集計である

図Ⅱ-240 社会関係性の強さ別にみた妊娠・出産時に相談や生活面で助けてくれる人(複数)



資 料

1. 回答者の属性

(1) 本人の属性

表Ⅱ－５２ 年齢

(実数)

(人)

区分		全体	20～ 21歳	22～ 23歳	24～ 25歳	26～ 27歳	28～ 29歳	30～ 31歳	32～ 33歳	34～ 35歳	36～ 37歳	38～ 39歳	40～ 41歳	42～ 43歳	44～ 45歳	46～ 47歳	48～ 49歳	不明
備前局	男	326	14	9	11	20	19	15	23	19	24	21	22	29	29	40	31	-
	女	506	9	22	23	28	29	30	27	42	37	32	39	60	41	38	49	-
備中局	男	352	7	18	15	18	16	21	30	21	29	27	25	35	32	31	27	-
	女	532	12	23	19	26	20	32	28	39	35	48	53	47	48	54	47	1
美作局	男	376	14	14	8	19	22	23	22	26	29	25	28	34	39	31	41	1
	女	560	14	19	19	27	31	35	29	38	40	45	54	53	47	48	59	2
不明	男	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	0
	女	9	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	1	3	-	1	0
県計	男	1,057	35	41	35	57	57	59	75	66	82	73	76	98	100	102	100	1
	女	1,607	36	64	62	81	80	98	84	119	112	125	147	161	139	140	156	3

(構成比)

(%)

区分		全体	20～ 21歳	22～ 23歳	24～ 25歳	26～ 27歳	28～ 29歳	30～ 31歳	32～ 33歳	34～ 35歳	36～ 37歳	38～ 39歳	40～ 41歳	42～ 43歳	44～ 45歳	46～ 47歳	48～ 49歳	不明
備前局	男	100.0	4.3	2.8	3.4	6.1	5.8	4.6	7.1	5.8	7.4	6.4	6.7	8.9	8.9	12.3	9.5	-
	女	100.0	1.8	4.3	4.5	5.5	5.7	5.9	5.3	8.3	7.3	6.3	7.7	11.9	8.1	7.5	9.7	-
備中局	男	100.0	2.0	5.1	4.3	5.1	4.5	6.0	8.5	6.0	8.2	7.7	7.1	9.9	9.1	8.8	7.7	-
	女	100.0	2.3	4.3	3.6	4.9	3.8	6.0	5.3	7.3	6.6	9.0	10.0	8.8	9.0	10.2	8.8	0.2
美作局	男	100.0	3.7	3.7	2.1	5.1	5.9	6.1	5.9	6.9	7.7	6.6	7.4	9.0	10.4	8.2	10.9	0.3
	女	100.0	2.5	3.4	3.4	4.8	5.5	6.3	5.2	6.8	7.1	8.0	9.6	9.5	8.4	8.6	10.5	0.4
不明	男	100.0	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	0.0
	女	100.0	11.1	-	11.1	-	-	11.1	-	-	-	-	11.1	11.1	33.3	-	11.1	0.0
県計	男	100.0	3.3	3.9	3.3	5.4	5.4	5.6	7.1	6.2	7.8	6.9	7.2	9.3	9.5	9.6	9.5	0.1
	女	100.0	2.2	4.0	3.9	5.0	5.0	6.1	5.2	7.4	7.0	7.8	9.1	10.0	8.6	8.7	9.7	0.2

表Ⅱ－５３ 居住する市町村

(実数)

(人)

区分		全体	岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	笠岡市	井原市	総社市	高梁市	新見市	備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	美作市
備前局	男	326	267	-	-	20	-	-	-	-	-	14	13	9	-	-
	女	506	421	-	-	22	-	-	-	-	-	16	20	15	-	-
備中局	男	352	-	209	-	-	16	21	55	15	13	-	-	-	-	-
	女	532	-	355	-	-	33	26	40	12	13	-	-	-	-	-
美作局	男	376	-	-	173	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63	48
	女	560	-	-	318	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71	55
不明	男	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県計	男	1,057	267	209	173	20	16	21	55	15	13	14	13	9	63	48
	女	1,607	421	355	318	22	33	26	40	12	13	16	20	15	71	55

区分		浅口市	和気町	早島町	里庄町	矢掛町	新庄村	鏡野町	勝央町	奈義町	西栗倉村	久米南町	美咲町	吉備中央町	不明
備前局	男	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	女	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
備中局	男	10	-	3	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	21	-	14	8	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美作局	男	-	-	-	-	-	1	27	18	9	3	9	25	-	-
	女	-	-	-	-	-	2	25	32	15	5	12	25	-	-
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
県計	男	10	2	3	1	9	1	27	18	9	3	9	25	1	3
	女	21	7	14	8	10	2	25	32	15	5	12	25	5	9

(構成比)

(%)

区分		全体	岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	笠岡市	井原市	総社市	高梁市	新見市	備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	美作市
備前局	男	100.0	81.9	-	-	6.1	-	-	-	-	-	4.3	4.0	2.8	-	-
	女	100.0	83.2	-	-	4.3	-	-	-	-	-	3.2	4.0	3.0	-	-
備中局	男	100.0	-	59.4	-	-	4.5	6.0	15.6	4.3	3.7	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	66.7	-	-	6.2	4.9	7.5	2.3	2.4	-	-	-	-	-
美作局	男	100.0	-	-	46.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.8	12.8
	女	100.0	-	-	56.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12.7	9.8
不明	男	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県計	男	100.0	25.3	19.8	16.4	1.9	1.5	2.0	5.2	1.4	1.2	1.3	1.2	0.9	6.0	4.5
	女	100.0	26.2	22.1	19.8	1.4	2.1	1.6	2.5	0.7	0.8	1.0	1.2	0.9	4.4	3.4

区分		浅口市	和気町	早島町	里庄町	矢掛町	新庄村	鏡野町	勝央町	奈義町	西栗倉村	久米南町	美咲町	吉備中央町	不明
備前局	男	-	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	-
	女	-	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	-
備中局	男	2.8	-	0.9	0.3	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	3.9	-	2.6	1.5	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美作局	男	-	-	-	-	-	0.3	7.2	4.8	2.4	0.8	2.4	6.6	-	-
	女	-	-	-	-	-	0.4	4.5	5.7	2.7	0.9	2.1	4.5	-	-
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
県計	男	0.9	0.2	0.3	0.1	0.9	0.1	2.6	1.7	0.9	0.3	0.9	2.4	0.1	0.3
	女	1.3	0.4	0.9	0.5	0.6	0.1	1.6	2.0	0.9	0.3	0.7	1.6	0.3	0.6

表Ⅱ－５４ 最終学歴

(実数)

(人)

区分		全体	中学校	高校	専修・専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他	不明
備前局	男	326	8	92	36	14	148	27	1	-
	女	506	15	112	99	93	171	11	2	3
備中局	男	352	16	132	25	12	140	26	1	-
	女	532	12	140	98	116	154	9	3	-
美作局	男	376	17	149	44	20	127	17	1	1
	女	560	13	180	91	115	143	14	3	1
不明	男	3	-	2	-	-	1	-	-	-
	女	9	-	2	2	3	2	-	-	-
県計	男	1,057	41	375	105	46	416	70	3	1
	女	1,607	40	434	290	327	470	34	8	4

(構成比)

(%)

区分		全体	中学校	高校	専修・専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他	不明
備前局	男	100.0	2.5	28.2	11.0	4.3	45.4	8.3	0.3	-
	女	100.0	3.0	22.1	19.6	18.4	33.8	2.2	0.4	0.6
備中局	男	100.0	4.5	37.5	7.1	3.4	39.8	7.4	0.3	-
	女	100.0	2.3	26.3	18.4	21.8	28.9	1.7	0.6	-
美作局	男	100.0	4.5	39.6	11.7	5.3	33.8	4.5	0.3	0.3
	女	100.0	2.3	32.1	16.3	20.5	25.5	2.5	0.5	0.2
不明	男	100.0	-	66.7	-	-	33.3	-	-	-
	女	100.0	-	22.2	22.2	33.3	22.2	-	-	-
県計	男	100.0	3.9	35.5	9.9	4.4	39.4	6.6	0.3	0.1
	女	100.0	2.5	27.0	18.0	20.3	29.2	2.1	0.5	0.2

表Ⅱ－５５ 労働状況

(実数)

(人)

区分		全体	正規の 職員・ 従業員	会社な どの役 員	パート・ アルバ イト	派遣・嘱 託・契約 職員	自営業 主・家族 従業者	家庭で の内職	失業中	家事・ 無職	学生	不明
備前局	男	326	257	7	8	14	22	1	6	2	9	-
	女	506	194	10	144	35	17	2	4	83	15	2
備中局	男	352	282	11	7	8	18	1	7	4	14	-
	女	532	231	3	142	32	20	4	5	84	11	-
美作局	男	376	291	14	7	9	26	-	7	10	9	3
	女	560	225	3	142	49	31	6	4	88	12	-
不明	男	3	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
	女	9	3	-	2	2	-	-	-	1	-	1
県計	男	1,057	831	32	23	31	66	2	21	16	32	3
	女	1,607	653	16	430	118	68	12	13	256	38	3

(構成比)

(%)

区分		全体	正規の 職員・ 従業員	会社な どの役 員	パート・ アルバ イト	派遣・嘱 託・契約 職員	自営業 主・家族 従業者	家庭で の内職	失業中	家事・ 無職	学生	不明
備前局	男	100.0	78.8	2.1	2.5	4.3	6.7	0.3	1.8	0.6	2.8	-
	女	100.0	38.3	2.0	28.5	6.9	3.4	0.4	0.8	16.4	3.0	0.4
備中局	男	100.0	80.1	3.1	2.0	2.3	5.1	0.3	2.0	1.1	4.0	-
	女	100.0	43.4	0.6	26.7	6.0	3.8	0.8	0.9	15.8	2.1	-
美作局	男	100.0	77.4	3.7	1.9	2.4	6.9	-	1.9	2.7	2.4	0.8
	女	100.0	40.2	0.5	25.4	8.8	5.5	1.1	0.7	15.7	2.1	-
不明	男	100.0	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-
	女	100.0	33.3	-	22.2	22.2	-	-	-	11.1	-	11.1
県計	男	100.0	78.6	3.0	2.2	2.9	6.2	0.2	2.0	1.5	3.0	0.3
	女	100.0	40.6	1.0	26.8	7.3	4.2	0.7	0.8	15.9	2.4	0.2

表Ⅱ－５６ 配偶者の状況

(実数)

(人)

区分		全体	未婚(結婚 したことが ない)	配偶者あり (初婚)	配偶者あり (再婚)	配偶者なし (離別・死 別)	不明
備前局	男	326	103	196	17	10	-
	女	506	126	329	23	28	-
備中局	男	352	119	210	13	9	1
	女	532	136	333	26	37	-
美作局	男	376	132	215	16	12	1
	女	560	98	397	28	37	-
不明	男	3	3	-	-	-	-
	女	9	5	3	1	-	-
県計	男	1,057	357	621	46	31	2
	女	1,607	365	1,062	78	102	-

(構成比)

(%)

区分		全体	未婚(結婚 したことが ない)	配偶者あり (初婚)	配偶者あり (再婚)	配偶者なし (離別・死 別)	不明
備前局	男	100.0	31.6	60.1	5.2	3.1	-
	女	100.0	24.9	65.0	4.5	5.5	-
備中局	男	100.0	33.8	59.7	3.7	2.6	0.3
	女	100.0	25.6	62.6	4.9	7.0	-
美作局	男	100.0	35.1	57.2	4.3	3.2	0.3
	女	100.0	17.5	70.9	5.0	6.6	-
不明	男	100.0	100.0	-	-	-	-
	女	100.0	55.6	33.3	11.1	-	-
県計	男	100.0	33.8	58.8	4.4	2.9	0.2
	女	100.0	22.7	66.1	4.9	6.3	-

表Ⅱ－５７ 勤めている産業（就業者）

(実数)

(人)

区分		全体	農林水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業
備前局	男	309	6	-	17	63	13	8	15	26	13	3
	女	402	1	1	17	32	-	7	8	38	17	2
備中局	男	327	4	5	23	97	11	6	24	29	12	-
	女	432	1	-	13	47	5	5	11	40	16	5
美作局	男	347	13	1	24	103	14	3	12	21	5	4
	女	456	10	-	13	57	2	1	5	47	18	2
不明	男	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	女	7	1	-	1	1	-	-	-	1	-	-
県計	男	985	23	6	65	263	38	17	51	76	30	7
	女	1,297	13	1	44	137	7	13	24	126	51	9

区分		学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活サービス業、娯楽	教育、学習支援業	医療、福祉	協同組合	サービス業	公務	その他	不明
備前局	男	10	4	7	17	31	2	24	38	6	6
	女	20	30	21	41	111	-	22	26	6	2
備中局	男	6	5	3	16	14	5	17	43	5	2
	女	13	26	14	46	117	5	24	27	10	7
美作局	男	7	7	4	14	28	1	26	58	-	2
	女	15	26	11	44	126	3	21	38	13	4
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	女	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-
県計	男	23	16	14	47	73	8	67	139	12	10
	女	48	82	46	131	355	8	67	93	29	13

(構成比)

(%)

区分		全体	農林水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業
備前局	男	100.0	1.9	-	5.5	20.4	4.2	2.6	4.9	8.4	4.2	1.0
	女	100.0	0.2	0.2	4.2	8.0	-	1.7	2.0	9.5	4.2	0.5
備中局	男	100.0	1.2	1.5	7.0	29.7	3.4	1.8	7.3	8.9	3.7	-
	女	100.0	0.2	-	3.0	10.9	1.2	1.2	2.5	9.3	3.7	1.2
美作局	男	100.0	3.7	0.3	6.9	29.7	4.0	0.9	3.5	6.1	1.4	1.2
	女	100.0	2.2	-	2.9	12.5	0.4	0.2	1.1	10.3	3.9	0.4
不明	男	100.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	14.3	-	14.3	14.3	-	-	-	14.3	-	-
県計	男	100.0	2.3	0.6	6.6	26.7	3.9	1.7	5.2	7.7	3.0	0.7
	女	100.0	1.0	0.1	3.4	10.6	0.5	1.0	1.9	9.7	3.9	0.7

区分		学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活サービス業、娯楽	教育、学習支援業	医療、福祉	協同組合	サービス業	公務	その他	不明
備前局	男	3.2	1.3	2.3	5.5	10.0	0.6	7.8	12.3	1.9	1.9
	女	5.0	7.5	5.2	10.2	27.6	-	5.5	6.5	1.5	0.5
備中局	男	1.8	1.5	0.9	4.9	4.3	1.5	5.2	13.1	1.5	0.6
	女	3.0	6.0	3.2	10.6	27.1	1.2	5.6	6.3	2.3	1.6
美作局	男	2.0	2.0	1.2	4.0	8.1	0.3	7.5	16.7	-	0.6
	女	3.3	5.7	2.4	9.6	27.6	0.7	4.6	8.3	2.9	0.9
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	女	-	-	-	-	14.3	-	-	28.6	-	-
県計	男	2.3	1.6	1.4	4.8	7.4	0.8	6.8	14.1	1.2	1.0
	女	3.7	6.3	3.5	10.1	27.4	0.6	5.2	7.2	2.2	1.0

表Ⅱ－５８ 職種（就業者）

(実数)

(人)

区分		全体	管理職	専門職・技術職	事務	販売	サービス提供	保安関係	主に農林漁業従事	生産工程	輸送・機械運転	建設・採掘	運搬・清掃・包装	その他	不明
備前局	男	309	51	90	39	21	24	4	4	29	12	5	6	16	8
	女	402	10	137	119	36	42	1	-	12	3	-	15	21	6
備中局	男	327	34	121	41	25	25	4	2	31	13	7	11	7	6
	女	432	8	134	126	45	40	-	-	33	4	-	8	27	7
美作局	男	347	46	108	47	19	16	12	8	48	9	9	3	16	6
	女	456	12	127	141	40	38	-	5	40	1	1	9	28	14
不明	男	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	7	-	1	2	1	-	-	-	-	1	-	-	1	1
県計	男	985	131	320	128	65	65	20	14	108	34	21	20	39	20
	女	1,297	30	399	388	122	120	1	5	85	9	1	32	77	28

(構成比)

(%)

区分		全体	管理職	専門職・技術職	事務	販売	サービス提供	保安関係	主に農林漁業従事	生産工程	輸送・機械運転	建設・採掘	運搬・清掃・包装	その他	不明
備前局	男	100.0	16.5	29.1	12.6	6.8	7.8	1.3	1.3	9.4	3.9	1.6	1.9	5.2	2.6
	女	100.0	2.5	34.1	29.6	9.0	10.4	0.2	-	3.0	0.7	-	3.7	5.2	1.5
備中局	男	100.0	10.4	37.0	12.5	7.6	7.6	1.2	0.6	9.5	4.0	2.1	3.4	2.1	1.8
	女	100.0	1.9	31.0	29.2	10.4	9.3	-	-	7.6	0.9	-	1.9	6.3	1.6
美作局	男	100.0	13.3	31.1	13.5	5.5	4.6	3.5	2.3	13.8	2.6	2.6	0.9	4.6	1.7
	女	100.0	2.6	27.9	30.9	8.8	8.3	-	1.1	8.8	0.2	0.2	2.0	6.1	3.1
不明	男	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	14.3	28.6	14.3	-	-	-	-	14.3	-	-	14.3	14.3
県計	男	100.0	13.3	32.5	13.0	6.6	6.6	2.0	1.4	11.0	3.5	2.1	2.0	4.0	2.0
	女	100.0	2.3	30.8	29.9	9.4	9.3	0.1	0.4	6.6	0.7	0.1	2.5	5.9	2.2

表Ⅱ－５９ １日の平均的な労働時間（就業者）

(実数)

(人)

区分		全体	5時間未満	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間以上	不明
備前局	男	309	4	3	1	19	114	40	62	54	12
	女	402	34	47	47	50	141	28	22	20	13
備中局	男	327	3	3	6	11	125	49	65	50	15
	女	432	45	37	32	58	168	33	30	16	13
美作局	男	347	2	4	1	13	145	68	57	46	11
	女	456	40	39	50	66	185	36	19	10	11
不明	男	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-
	女	7	-	1	2	-	3	1	-	-	-
県計	男	985	9	10	9	43	385	157	184	150	38
	女	1,297	119	124	131	174	497	98	71	46	37

(構成比)

(%)

区分		全体	5時間未満	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間以上	不明
備前局	男	100.0	1.3	1.0	0.3	6.1	36.9	12.9	20.1	17.5	3.9
	女	100.0	8.5	11.7	11.7	12.4	35.1	7.0	5.5	5.0	3.2
備中局	男	100.0	0.9	0.9	1.8	3.4	38.2	15.0	19.9	15.3	4.6
	女	100.0	10.4	8.6	7.4	13.4	38.9	7.6	6.9	3.7	3.0
美作局	男	100.0	0.6	1.2	0.3	3.7	41.8	19.6	16.4	13.3	3.2
	女	100.0	8.8	8.6	11.0	14.5	40.6	7.9	4.2	2.2	2.4
不明	男	100.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-
	女	100.0	-	14.3	28.6	-	42.9	14.3	-	-	-
県計	男	100.0	0.9	1.0	0.9	4.4	39.1	15.9	18.7	15.2	3.9
	女	100.0	9.2	9.6	10.1	13.4	38.3	7.6	5.5	3.5	2.9

表Ⅱ－６０ １週当たりの労働日数（就業者）

(実数)

区分		全体	5日未満	5日	6日	7日	不明
備前局	男	309	9	208	64	5	23
	女	402	64	270	44	2	22
備中局	男	327	12	217	74	4	20
	女	432	69	288	44	2	29
美作局	男	347	10	202	84	16	35
	女	456	54	317	57	4	24
不明	男	2	-	1	-	-	1
	女	7	-	5	1	-	1
県計	男	985	31	628	222	25	79
	女	1,297	187	880	146	8	76

(人)

(構成比)

区分		全体	5日未満	5日	6日	7日	不明
備前局	男	100.0	2.9	67.3	20.7	1.6	7.4
	女	100.0	15.9	67.2	10.9	0.5	5.5
備中局	男	100.0	3.7	66.4	22.6	1.2	6.1
	女	100.0	16.0	66.7	10.2	0.5	6.7
美作局	男	100.0	2.9	58.2	24.2	4.6	10.1
	女	100.0	11.8	69.5	12.5	0.9	5.3
不明	男	100.0	-	50.0	-	-	50.0
	女	100.0	-	71.4	14.3	-	14.3
県計	男	100.0	3.1	63.8	22.5	2.5	8.0
	女	100.0	14.4	67.8	11.3	0.6	5.9

(%)

資料

表Ⅱ－６１ 昨年の年収（就業者）

(実数)

(人)

区分		全体	100万円未満	100万円台	200万円台	300万円台	400万円台	500万円台	600万円台	700万円台	800万円台	900万円台	1000万円以上	なし	不明
備前局	男	309	9	14	27	48	71	49	29	23	8	8	17	3	3
	女	402	81	73	83	75	35	19	14	3	1	1	2	12	3
備中局	男	327	6	10	26	71	75	54	36	15	9	12	3	5	5
	女	432	84	94	84	72	40	24	8	1	3	2	1	12	7
美作局	男	347	9	16	37	92	73	47	33	15	9	6	5	1	4
	女	456	93	116	105	65	28	15	5	2	1	1	-	21	4
不明	男	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	女	7	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
県計	男	985	24	41	90	211	219	151	98	53	26	26	25	9	12
	女	1,297	258	287	274	212	103	58	27	6	5	4	3	45	15

(構成比)

(%)

区分		全体	100万円未満	100万円台	200万円台	300万円台	400万円台	500万円台	600万円台	700万円台	800万円台	900万円台	1000万円以上	なし	不明
備前局	男	100.0	2.9	4.5	8.7	15.5	23.0	15.9	9.4	7.4	2.6	2.6	5.5	1.0	1.0
	女	100.0	20.1	18.2	20.6	18.7	8.7	4.7	3.5	0.7	0.2	0.2	0.5	3.0	0.7
備中局	男	100.0	1.8	3.1	8.0	21.7	22.9	16.5	11.0	4.6	2.8	3.7	0.9	1.5	1.5
	女	100.0	19.4	21.8	19.4	16.7	9.3	5.6	1.9	0.2	0.7	0.5	0.2	2.8	1.6
美作局	男	100.0	2.6	4.6	10.7	26.5	21.0	13.5	9.5	4.3	2.6	1.7	1.4	0.3	1.2
	女	100.0	20.4	25.4	23.0	14.3	6.1	3.3	1.1	0.4	0.2	0.2	-	4.6	0.9
不明	男	100.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	57.1	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3
県計	男	100.0	2.4	4.2	9.1	21.4	22.2	15.3	9.9	5.4	2.6	2.6	2.5	0.9	1.2
	女	100.0	19.9	22.1	21.1	16.3	7.9	4.5	2.1	0.5	0.4	0.3	0.2	3.5	1.2

(2) 配偶者の属性

表Ⅱ-62 配偶者の年齢(有配偶者)

(実数)

(人)

区分	全体	20歳	20～	22～	24～	26～	28～	30～	32～	34～	36～	38～	40～	42～	44～	46～	48～	50歳	不明	
		未満	21歳	23歳	25歳	27歳	29歳	31歳	33歳	35歳	37歳	39歳	41歳	43歳	45歳	47歳	49歳	以上		
備前局	男	213	-	-	1	4	7	13	14	19	11	20	21	18	23	32	12	9	7	2
	女	352	-	-	1	3	9	12	21	23	26	26	22	35	33	34	31	30	41	5
備中局	男	223	-	-	2	4	8	13	8	21	13	15	24	31	26	19	23	12	3	1
	女	359	-	-	5	3	8	8	16	25	26	23	22	35	30	43	25	30	57	3
美作局	男	231	-	-	1	4	14	3	14	20	16	23	21	29	16	29	22	10	8	1
	女	425	-	1	5	3	10	18	18	26	32	26	28	35	43	47	54	27	47	5
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	1	-
県計	男	667	-	-	4	12	29	29	36	60	40	58	66	78	65	80	57	31	18	4
	女	1,140	-	1	11	9	27	38	55	74	84	75	73	105	106	125	110	88	146	13

(構成比)

(%)

区分	全体	20歳	20～	22～	24～	26～	28～	30～	32～	34～	36～	38～	40～	42～	44～	46～	48～	50歳	不明	
		未満	21歳	23歳	25歳	27歳	29歳	31歳	33歳	35歳	37歳	39歳	41歳	43歳	45歳	47歳	49歳	以上		
備前局	男	100.0	-	-	0.5	1.9	3.3	6.1	6.6	8.9	5.2	9.4	9.9	8.5	10.8	15.0	5.6	4.2	3.3	0.9
	女	100.0	-	-	0.3	0.9	2.6	3.4	6.0	6.5	7.4	7.4	6.3	9.9	9.4	9.7	8.8	8.5	11.6	1.4
備中局	男	100.0	-	-	0.9	1.8	3.6	5.8	3.6	9.4	5.8	6.7	10.8	13.9	11.7	8.5	10.3	5.4	1.3	0.4
	女	100.0	-	-	1.4	0.8	2.2	2.2	4.5	7.0	7.2	6.4	6.1	9.7	8.4	12.0	7.0	8.4	15.9	0.8
美作局	男	100.0	-	-	0.4	1.7	6.1	1.3	6.1	8.7	6.9	10.0	9.1	12.6	6.9	12.6	9.5	4.3	3.5	0.4
	女	100.0	-	0.2	1.2	0.7	2.4	4.2	4.2	6.1	7.5	6.1	6.6	8.2	10.1	11.1	12.7	6.4	11.1	1.2
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	25.0	-	25.0	25.0	-
県計	男	100.0	-	-	0.6	1.8	4.3	4.3	5.4	9.0	6.0	8.7	9.9	11.7	9.7	12.0	8.5	4.6	2.7	0.6
	女	100.0	-	0.1	1.0	0.8	2.4	3.3	4.8	6.5	7.4	6.6	6.4	9.2	9.3	11.0	9.6	7.7	12.8	1.1

表Ⅱ－６３ 現在の配偶者との結婚年数（有配偶者）

(実数)

(人)

区分		全体	0～ 1年	2～ 3年	4～ 5年	6～ 7年	8～ 9年	10～ 11年	12～ 13年	14～ 15年	16～ 17年	18～ 19年	20～ 21年	22～ 23年	24～ 25年	26～ 27年	28～ 29年	30～ 31年	不明
備前局	男	213	10	35	19	16	20	18	9	20	11	20	11	8	5	2	-	-	9
	女	352	21	37	34	33	29	37	25	25	20	35	14	13	10	1	3	1	14
備中局	男	223	10	27	16	17	21	23	18	20	16	11	12	12	7	4	-	-	9
	女	359	13	27	34	32	29	36	24	27	28	30	26	25	14	4	1	1	8
美作局	男	231	9	24	20	23	23	15	19	15	27	14	18	12	2	2	-	-	8
	女	425	16	54	39	34	35	35	34	26	34	32	26	23	14	4	4	2	13
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
県計	男	667	29	86	55	56	64	56	46	55	54	45	41	32	14	8	-	-	26
	女	1,140	51	118	107	99	93	108	84	78	82	98	66	61	38	10	8	4	35

(構成比)

(%)

区分		全体	0～ 1年	2～ 3年	4～ 5年	6～ 7年	8～ 9年	10～ 11年	12～ 13年	14～ 15年	16～ 17年	18～ 19年	20～ 21年	22～ 23年	24～ 25年	26～ 27年	28～ 29年	30～ 31年	不明
備前局	男	100.0	4.7	16.4	8.9	7.5	9.4	8.5	4.2	9.4	5.2	9.4	5.2	3.8	2.3	0.9	-	-	4.2
	女	100.0	6.0	10.5	9.7	9.4	8.2	10.5	7.1	7.1	5.7	9.9	4.0	3.7	2.8	0.3	0.9	0.3	4.0
備中局	男	100.0	4.5	12.1	7.2	7.6	9.4	10.3	8.1	9.0	7.2	4.9	5.4	5.4	3.1	1.8	-	-	4.0
	女	100.0	3.6	7.5	9.5	8.9	8.1	10.0	6.7	7.5	7.8	8.4	7.2	7.0	3.9	1.1	0.3	0.3	2.2
美作局	男	100.0	3.9	10.4	8.7	10.0	10.0	6.5	8.2	6.5	11.7	6.1	7.8	5.2	0.9	0.9	-	-	3.5
	女	100.0	3.8	12.7	9.2	8.0	8.2	8.2	8.0	6.1	8.0	7.5	6.1	5.4	3.3	0.9	0.9	0.5	3.1
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-	-	25.0	-	-	-	25.0	-	-	-
県計	男	100.0	4.3	12.9	8.2	8.4	9.6	8.4	6.9	8.2	8.1	6.7	6.1	4.8	2.1	1.2	-	-	3.9
	女	100.0	4.5	10.4	9.4	8.7	8.2	9.5	7.4	6.8	7.2	8.6	5.8	5.4	3.3	0.9	0.7	0.4	3.1

表Ⅱ－64 配偶者の最終学歴(有配偶者)

(実数)

(人)

区分		全体	中学校	高校	専修・専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他	不明
備前局	男	213	2	51	31	40	84	4	-	1
	女	352	12	109	49	14	140	26	1	1
備中局	男	223	5	60	31	54	68	5	-	-
	女	359	19	133	47	13	129	16	1	1
美作局	男	231	2	63	40	63	58	5	-	-
	女	425	20	187	56	20	118	20	1	3
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	-	1	-	1	2	-	-	-
県計	男	667	9	174	102	157	210	14	-	1
	女	1,140	51	430	152	48	389	62	3	5

(構成比)

(%)

区分		全体	中学校	高校	専修・専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他	不明
備前局	男	100.0	0.9	23.9	14.6	18.8	39.4	1.9	-	0.5
	女	100.0	3.4	31.0	13.9	4.0	39.8	7.4	0.3	0.3
備中局	男	100.0	2.2	26.9	13.9	24.2	30.5	2.2	-	-
	女	100.0	5.3	37.0	13.1	3.6	35.9	4.5	0.3	0.3
美作局	男	100.0	0.9	27.3	17.3	27.3	25.1	2.2	-	-
	女	100.0	4.7	44.0	13.2	4.7	27.8	4.7	0.2	0.7
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	25.0	-	25.0	50.0	-	-	-
県計	男	100.0	1.3	26.1	15.3	23.5	31.5	2.1	-	0.1
	女	100.0	4.5	37.7	13.3	4.2	34.1	5.4	0.3	0.4

表Ⅱ－６５ 配偶者の労働状況（有配偶者）

(実数)

(人)

区分		全体	正規の 職員・ 従業員	会社な どの役 員	パート・ アルバ イト	派遣・嘱 託・契約 職員	自営業 主・家族 従業者	家庭で の内職	失業中	家事・ 無職	学生	不明
備前局	男	213	61	3	78	8	7	1	2	51	-	2
	女	352	291	16	2	8	29	-	1	1	1	3
備中局	男	223	86	5	64	12	5	2	3	46	-	-
	女	359	289	17	4	3	39	-	-	4	1	2
美作局	男	231	95	1	57	18	16	5	3	36	-	-
	女	425	333	18	3	4	59	-	3	1	1	3
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県計	男	667	242	9	199	38	28	8	8	133	-	2
	女	1,140	917	51	9	15	127	-	4	6	3	8

(構成比)

(%)

区分		全体	正規の 職員・ 従業員	会社な どの役 員	パート・ アルバ イト	派遣・嘱 託・契約 職員	自営業 主・家族 従業者	家庭で の内職	失業中	家事・ 無職	学生	不明
備前局	男	100.0	28.6	1.4	36.6	3.8	3.3	0.5	0.9	23.9	-	0.9
	女	100.0	82.7	4.5	0.6	2.3	8.2	-	0.3	0.3	0.3	0.9
備中局	男	100.0	38.6	2.2	28.7	5.4	2.2	0.9	1.3	20.6	-	-
	女	100.0	80.5	4.7	1.1	0.8	10.9	-	-	1.1	0.3	0.6
美作局	男	100.0	41.1	0.4	24.7	7.8	6.9	2.2	1.3	15.6	-	-
	女	100.0	78.4	4.2	0.7	0.9	13.9	-	0.7	0.2	0.2	0.7
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県計	男	100.0	36.3	1.3	29.8	5.7	4.2	1.2	1.2	19.9	-	0.3
	女	100.0	80.4	4.5	0.8	1.3	11.1	-	0.4	0.5	0.3	0.7

表Ⅱ－６６ 配偶者の１日の平均的な労働時間（有配偶者）

(実数)

(人)

区分		全体	5時間未満	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間以上	不明
備前局	男	213	80	21	24	14	42	12	7	6	7
	女	352	4	1	2	13	126	63	70	62	11
備中局	男	223	76	17	24	11	58	13	9	8	7
	女	359	5	-	3	13	160	45	69	54	10
美作局	男	231	64	16	20	19	85	9	9	4	5
	女	425	7	-	-	13	213	53	76	53	10
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	-	-	-	-	3	-	-	-	1
県計	男	667	220	54	68	44	185	34	25	18	19
	女	1,140	16	1	5	39	502	161	215	169	32

(構成比)

(%)

区分		全体	5時間未満	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間以上	不明
備前局	男	100.0	37.6	9.9	11.3	6.6	19.7	5.6	3.3	2.8	3.3
	女	100.0	1.1	0.3	0.6	3.7	35.8	17.9	19.9	17.6	3.1
備中局	男	100.0	34.1	7.6	10.8	4.9	26.0	5.8	4.0	3.6	3.1
	女	100.0	1.4	-	0.8	3.6	44.6	12.5	19.2	15.0	2.8
美作局	男	100.0	27.7	6.9	8.7	8.2	36.8	3.9	3.9	1.7	2.2
	女	100.0	1.6	-	-	3.1	50.1	12.5	17.9	12.5	2.4
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	-	-	-	75.0	-	-	-	25.0
県計	男	100.0	33.0	8.1	10.2	6.6	27.7	5.1	3.7	2.7	2.8
	女	100.0	1.4	0.1	0.4	3.4	44.0	14.1	18.9	14.8	2.8

表Ⅱ－６７ 配偶者の１週当たりの労働日数（有配偶者）

(実数)

(人)

区分		全体	5日未満	5日	6日	7日	不明
備前局	男	213	90	100	15	-	8
	女	352	12	206	113	8	13
備中局	男	223	82	116	19	3	3
	女	359	11	211	118	4	15
美作局	男	231	72	120	15	6	18
	女	425	13	237	137	15	23
不明	男	-	-	-	-	-	-
	女	4	-	2	1	-	1
県計	男	667	244	336	49	9	29
	女	1,140	36	656	369	27	52

(構成比)

(%)

区分		全体	5日未満	5日	6日	7日	不明
備前局	男	100.0	42.3	46.9	7.0	-	3.8
	女	100.0	3.4	58.5	32.1	2.3	3.7
備中局	男	100.0	36.8	52.0	8.5	1.3	1.3
	女	100.0	3.1	58.8	32.9	1.1	4.2
美作局	男	100.0	31.2	51.9	6.5	2.6	7.8
	女	100.0	3.1	55.8	32.2	3.5	5.4
不明	男	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	50.0	25.0	-	25.0
県計	男	100.0	36.6	50.4	7.3	1.3	4.3
	女	100.0	3.2	57.5	32.4	2.4	4.6

表Ⅱ－６８ 配偶者の昨年の年収（有配偶者）

(実数)

(人)

区分		全体	100万円未満	100万円台	200万円台	300万円台	400万円台	500万円台	600万円台	700万円台	800万円台	900万円台	1000万円以上	なし	不明
備前局	男	213	55	34	17	22	17	8	6	2	-	-	-	48	4
	女	352	5	5	28	60	79	57	43	28	11	9	18	2	7
備中局	男	223	52	31	25	28	26	6	5	1	1	-	-	43	5
	女	359	2	8	21	61	94	58	42	22	12	8	12	6	13
美作局	男	231	42	48	32	30	24	12	3	-	-	1	-	33	6
	女	425	5	13	42	113	104	50	38	22	15	5	3	1	14
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-
県計	男	667	149	113	74	80	67	26	14	3	1	1	-	124	15
	女	1,140	12	26	91	235	278	165	123	73	39	22	33	9	34

(構成比)

(%)

区分		全体	100万円未満	100万円台	200万円台	300万円台	400万円台	500万円台	600万円台	700万円台	800万円台	900万円台	1000万円以上	なし	不明
備前局	男	100.0	25.8	16.0	8.0	10.3	8.0	3.8	2.8	0.9	-	-	-	22.5	1.9
	女	100.0	1.4	1.4	8.0	17.0	22.4	16.2	12.2	8.0	3.1	2.6	5.1	0.6	2.0
備中局	男	100.0	23.3	13.9	11.2	12.6	11.7	2.7	2.2	0.4	0.4	-	-	19.3	2.2
	女	100.0	0.6	2.2	5.8	17.0	26.2	16.2	11.7	6.1	3.3	2.2	3.3	1.7	3.6
美作局	男	100.0	18.2	20.8	13.9	13.0	10.4	5.2	1.3	-	-	0.4	-	14.3	2.6
	女	100.0	1.2	3.1	9.9	26.6	24.5	11.8	8.9	5.2	3.5	1.2	0.7	0.2	3.3
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	-	-	-	-
県計	男	100.0	22.3	16.9	11.1	12.0	10.0	3.9	2.1	0.4	0.1	0.1	-	18.6	2.2
	女	100.0	1.1	2.3	8.0	20.6	24.4	14.5	10.8	6.4	3.4	1.9	2.9	0.8	3.0

(3) 世帯の属性

表Ⅱ－６９ 子どもの有無

(実数)

(人)

区分		全体	子どもが いる	子どもは いない	不明
備前局	男	326	180	138	8
	女	506	326	175	5
備中局	男	352	206	138	8
	女	532	355	166	11
美作局	男	376	209	156	11
	女	560	401	149	10
不明	男	3	-	3	-
	女	9	4	4	1
県計	男	1,057	595	435	27
	女	1,607	1,086	494	27

(構成比)

(%)

区分		全体	子どもが いる	子どもは いない	不明
備前局	男	100.0	55.2	42.3	2.5
	女	100.0	64.4	34.6	1.0
備中局	男	100.0	58.5	39.2	2.3
	女	100.0	66.7	31.2	2.1
美作局	男	100.0	55.6	41.5	2.9
	女	100.0	71.6	26.6	1.8
不明	男	100.0	-	100.0	-
	女	100.0	44.4	44.4	11.1
県計	男	100.0	56.3	41.2	2.6
	女	100.0	67.6	30.7	1.7

表Ⅱ－７０ 子どもの人数(子どもがいると回答した人)

(実数)

(人)

区分		全体	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	不明
備前局	男	180	59	90	22	8	-	-	1
	女	326	92	155	67	5	2	1	4
備中局	男	206	59	97	44	5	1	-	-
	女	355	82	174	85	11	2	-	1
美作局	男	209	52	101	43	11	-	-	2
	女	401	117	173	95	12	3	-	1
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	-	-	4	-	-	-	-
県計	男	595	170	288	109	24	1	-	3
	女	1,086	291	502	251	28	7	1	6

(構成比)

(%)

区分		全体	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	不明
備前局	男	100.0	32.8	50.0	12.2	4.4	-	-	0.6
	女	100.0	28.2	47.5	20.6	1.5	0.6	0.3	1.2
備中局	男	100.0	28.6	47.1	21.4	2.4	0.5	-	-
	女	100.0	23.1	49.0	23.9	3.1	0.6	-	0.3
美作局	男	100.0	24.9	48.3	20.6	5.3	-	-	1.0
	女	100.0	29.2	43.1	23.7	3.0	0.7	-	0.2
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-
県計	男	100.0	28.6	48.4	18.3	4.0	0.2	-	0.5
	女	100.0	26.8	46.2	23.1	2.6	0.6	0.1	0.6

資料

表Ⅱ－７１ 最初の子どもを持ったときの自分の年齢（子どもがいると回答した人）
 (実数)

(人)

区分	全体	20歳未満	20～21歳未満	22～23歳未満	24～25歳未満	26～27歳未満	28～29歳未満	30～31歳未満	32～33歳未満	34～35歳未満	36～37歳未満	38～39歳未満	40～41歳未満	42～43歳未満	44～45歳未満	46～47歳未満	48～49歳未満	50歳以上	不明	
		備前局	男	180	1	3	7	17	27	29	28	16	16	8	5	3	5	-	-	-
	女	326	3	16	23	44	52	48	42	24	18	12	9	5	-	1	-	-	1	28
備中局	男	206	3	7	10	21	32	35	25	22	18	7	2	2	1	2	1	-	-	18
	女	355	8	29	27	47	59	62	40	19	19	11	4	-	-	-	-	-	-	30
美作局	男	209	1	7	7	17	23	32	31	27	9	18	6	2	1	3	3	-	1	21
	女	401	7	28	31	46	62	73	49	25	16	8	4	9	3	-	-	-	-	40
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
県計	男	595	5	17	24	55	82	96	84	65	43	33	13	7	7	5	4	-	2	53
	女	1,086	18	73	81	138	174	184	131	68	53	31	17	14	3	1	-	-	1	99

(構成比)

(%)

区分	全体	20歳未満	20～21歳未満	22～23歳未満	24～25歳未満	26～27歳未満	28～29歳未満	30～31歳未満	32～33歳未満	34～35歳未満	36～37歳未満	38～39歳未満	40～41歳未満	42～43歳未満	44～45歳未満	46～47歳未満	48～49歳未満	50歳以上	不明	
		備前局	男	100.0	0.6	1.7	3.9	9.4	15.0	16.1	15.6	8.9	8.9	4.4	2.8	1.7	2.8	-	-	-
	女	100.0	0.9	4.9	7.1	13.5	16.0	14.7	12.9	7.4	5.5	3.7	2.8	1.5	-	0.3	-	-	0.3	8.6
備中局	男	100.0	1.5	3.4	4.9	10.2	15.5	17.0	12.1	10.7	8.7	3.4	1.0	1.0	0.5	1.0	0.5	-	-	8.7
	女	100.0	2.3	8.2	7.6	13.2	16.6	17.5	11.3	5.4	5.4	3.1	1.1	-	-	-	-	-	-	8.5
美作局	男	100.0	0.5	3.3	3.3	8.1	11.0	15.3	14.8	12.9	4.3	8.6	2.9	1.0	0.5	1.4	1.4	-	0.5	10.0
	女	100.0	1.7	7.0	7.7	11.5	15.5	18.2	12.2	6.2	4.0	2.0	1.0	2.2	0.7	-	-	-	-	10.0
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	-	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0
県計	男	100.0	0.8	2.9	4.0	9.2	13.8	16.1	14.1	10.9	7.2	5.5	2.2	1.2	1.2	0.8	0.7	-	0.3	8.9
	女	100.0	1.7	6.7	7.5	12.7	16.0	16.9	12.1	6.3	4.9	2.9	1.6	1.3	0.3	0.1	-	-	0.1	9.1

表Ⅱ－72 世帯人数

(実数)

(人)

区分		全体	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人以上	不明
備前局	男	326	46	53	77	94	27	11	4	-	-	-	-	14
	女	506	49	71	110	161	65	17	9	1	1	1	-	21
備中局	男	352	39	32	80	107	47	14	11	4	-	-	-	18
	女	532	35	54	123	167	83	25	15	2	1	-	1	26
美作局	男	376	47	36	75	103	53	30	12	3	3	-	-	14
	女	560	37	66	119	167	89	38	19	7	1	2	-	15
不明	男	3	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	9	1	1	1	2	3	-	-	-	-	-	-	1
県計	男	1,057	132	121	234	305	127	55	27	7	3	-	-	46
	女	1,607	122	192	353	497	240	80	43	10	3	3	1	63

(構成比)

(%)

区分		全体	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人以上	不明
備前局	男	100.0	14.1	16.3	23.6	28.8	8.3	3.4	1.2	-	-	-	-	4.3
	女	100.0	9.7	14.0	21.7	31.8	12.8	3.4	1.8	0.2	0.2	0.2	-	4.2
備中局	男	100.0	11.1	9.1	22.7	30.4	13.4	4.0	3.1	1.1	-	-	-	5.1
	女	100.0	6.6	10.2	23.1	31.4	15.6	4.7	2.8	0.4	0.2	-	0.2	4.9
美作局	男	100.0	12.5	9.6	19.9	27.4	14.1	8.0	3.2	0.8	0.8	-	-	3.7
	女	100.0	6.6	11.8	21.3	29.8	15.9	6.8	3.4	1.3	0.2	0.4	-	2.7
不明	男	100.0	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	11.1	11.1	11.1	22.2	33.3	-	-	-	-	-	-	11.1
県計	男	100.0	12.5	11.4	22.1	28.9	12.0	5.2	2.6	0.7	0.3	-	-	4.4
	女	100.0	7.6	11.9	22.0	30.9	14.9	5.0	2.7	0.6	0.2	0.2	0.1	3.9

表Ⅱ－７３ 世帯構成

(実数)

(人)

区分		全体	配偶者	子ども	自分の 父親	自分の 母親	配偶者 の父親	配偶者 の母親	その他	不明
備前局	男	326	208	173	48	59	2	6	32	51
	女	506	343	312	64	81	25	34	61	54
備中局	男	352	223	190	93	106	3	7	49	44
	女	532	350	344	100	114	31	39	64	45
美作局	男	376	226	199	96	111	10	10	70	54
	女	560	414	379	67	85	52	66	64	40
不明	男	3	-	-	2	3	-	-	2	-
	女	9	3	3	4	4	-	-	2	1
県計	男	1,057	657	562	239	279	15	23	153	149
	女	1,607	1,110	1,038	235	284	108	139	191	140

(構成比)

(%)

区分		全体	配偶者	子ども	自分の 父親	自分の 母親	配偶者 の父親	配偶者 の母親	その他	不明
備前局	男	100.0	63.8	53.1	14.7	18.1	0.6	1.8	9.8	15.6
	女	100.0	67.8	61.7	12.6	16.0	4.9	6.7	12.1	10.7
備中局	男	100.0	63.4	54.0	26.4	30.1	0.9	2.0	13.9	12.5
	女	100.0	65.8	64.7	18.8	21.4	5.8	7.3	12.0	8.5
美作局	男	100.0	60.1	52.9	25.5	29.5	2.7	2.7	18.6	14.4
	女	100.0	73.9	67.7	12.0	15.2	9.3	11.8	11.4	7.1
不明	男	100.0	-	-	66.7	100.0	-	-	66.7	-
	女	100.0	33.3	33.3	44.4	44.4	-	-	22.2	11.1
県計	男	100.0	62.2	53.2	22.6	26.4	1.4	2.2	14.5	14.1
	女	100.0	69.1	64.6	14.6	17.7	6.7	8.6	11.9	8.7

表Ⅱ－74 同居している子ども数(子どもがいると回答した人)

(実数)

(人)

区分		全体	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	不明
備前局	男	180	-	57	83	20	7	-	1	12
	女	326	-	91	147	58	3	1	-	26
備中局	男	206	-	53	90	35	3	-	-	25
	女	355	-	91	164	72	6	1	-	21
美作局	男	209	1	55	90	38	9	-	-	16
	女	401	-	118	157	72	10	3	-	41
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	-	-	-	3	-	-	-	1
県計	男	595	1	165	263	93	19	-	1	53
	女	1,086	-	300	468	205	19	5	-	89

(構成比)

(%)

区分		全体	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	不明
備前局	男	100.0	-	31.7	46.1	11.1	3.9	-	0.6	6.7
	女	100.0	-	27.9	45.1	17.8	0.9	0.3	-	8.0
備中局	男	100.0	-	25.7	43.7	17.0	1.5	-	-	12.1
	女	100.0	-	25.6	46.2	20.3	1.7	0.3	-	5.9
美作局	男	100.0	0.5	26.3	43.1	18.2	4.3	-	-	7.7
	女	100.0	-	29.4	39.2	18.0	2.5	0.7	-	10.2
不明	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	100.0	-	-	-	75.0	-	-	-	25.0
県計	男	100.0	0.2	27.7	44.2	15.6	3.2	-	0.2	8.9
	女	100.0	-	27.6	43.1	18.9	1.7	0.5	-	8.2

2. 調査票

岡山県統計調査 登録第138号

⑧統計法に基づく統計調査

岡山県の取り組みに生かします。

結婚、出産、子育てに関する県民意識調査

【本調査について】

- 本調査は、岡山県内に在住する方を無作為に抽出し、ご協力をお願いしています。宛名の方がご回答ください。
- 本調査は、平成30年10月1日現在の状況をご回答ください。
- 本調査は、名前をご記入頂く必要はありません。本調査により個人を特定したり、個別の内容を公表することは決してありません。

【回答方法について】

- 本調査票に直接記入して頂く方法のほか、パソコン、スマホ、タブレット等を使ってウェブにより簡単に回答することもできます。
- ご回答は数字を記入したり、選択肢を選んで頂くようになっています。ご自身のことに最も近いと思われる選択肢の番号をご回答ください。

【返送・入力方法について】

- 本調査票にご記入頂いた場合は、お手数に存じますが、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。切手は不要です。
- ウェブで回答される場合は、下記のURLから回答ページにアクセスされるか、QRコードによりアクセスしてください。

URL <https://questant.jp/q/okayama-kodomomirai>

QRコード



- 平成30年11月7(水)までにご返送(ご回答)くださるようお願いいたします。調査票への記入か、ウェブでの入力か、どちらか一方によりご回答ください。

【岡山県から委託を受けた調査実施機関(アンケート調査の回答・返送に関するお問い合わせ)】

公益財団法人中国地域創造研究センター

〒730-0041 広島県広島市中区小町4番33号中電ビル3号館

TEL 082-245-7900 (代表) FAX 082-245-7629

担当：中島、柴田

【調査主体】

岡山県保健福祉部子ども未来課 TEL 086-226-7347 (直通) 担当：梶谷、東

1. あなたご自身について

問1 最初に、あなたご自身についてお聞かせください。(○印はそれぞれ1つずつ)

質問	選択肢	
(1)性別	1. 男	2. 女
(2)年齢	_____歳	
(3)お住まいの市町村	岡山県 _____ 市・町・村	そこでの居住年数 _____ 年
(4)最後に卒業した、または在学中の学校	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専	5. 大学 6. 大学院 7. その他()
(5)おつとめの状況 (主なものを1つ)	1. 正規の職員・従業員 2. 会社などの役員 3. パート・アルバイト 4. 派遣・嘱託・契約職員 5. 自営業主・家族従業者	6. 家庭での内職 7. 失業中 8. 家事・無職 9. 学生
(6)配偶者の状況	1. 未婚(結婚したことがない) 2. 配偶者あり(初婚)	3. 配偶者あり(再婚) 4. 配偶者なし(離別・死別)

問2 働いている方にお聞きします(問1の(5)で1番～6番に○印を付けられた方)。あなたのお仕事の内容や所得についてご回答ください。(○印はそれぞれ1つずつ)

質問	選択肢			
(1)おつとめの産業	1. 農林水産業 2. 鉱業 3. 建設業 4. 製造業 5. 電気・ガス・熱供給・水道 6. 情報通信業 7. 運輸業・郵便業 8. 卸売業・小売業 9. 金融業、保険業	10. 不動産業、物品賃貸業 11. 学術研究、専門・技術サービス業 研究機関、法律・会計・税務、デザイン、コンサル、広告、検査、写真、建物設計、獣医等	14. 教育、学習支援業 15. 医療、福祉 16. 協同組合 17. サービス業 廃棄物処理、自動車整備、機械修理、労働者派遣、建物サービス、警備、各種団体、宗教等	18. 公務 一般行政、消防、警察等 19. その他()
(2)お仕事の内容	1. 管理職 2. 専門職・技術職 3. 事務 4. 販売	5. サービス提供 6. 保安関係 7. 主に農林漁業従事 8. 生産工程	9. 輸送・機械運転 10. 建設・採掘 11. 運搬・清掃・包装 12. その他()	
(3)労働時間	1日の平均的な労働時間 _____ 時間			
(4)労働日数	1週当たりの平均的な日数 _____ 日			
(5)昨年の年収(税込)	1. 100万円未満 2. 100万円台 3. 200万円台	4. 300万円台 5. 400万円台 6. 500万円台	7. 600万円台 8. 700万円台 9. 800万円台	10. 900万円台 11. 1000万円以上 12. なし

資料

問3 現在、結婚されている方にお聞きします。あなたの配偶者についてご回答ください。(○印はそれぞれ1つずつ)

質問	選択肢
(1) 配偶者の年齢	_____歳
(2) 現在の結婚年数	_____年目
(3) 配偶者が最後に卒業した、または在学中の学校	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他()
(4) 配偶者のおつとめの状況	1. 正規の職員・従業員 2. 会社などの役員 3. パート・アルバイト 4. 派遣・嘱託・契約職員 5. 自営業主・家族従業者 6. 家庭での内職 7. 失業中 8. 家事・無職 9. 学生
(5) 配偶者の労働時間	1日の平均的な労働時間 _____時間 (働いていない場合は0とご記入ください)
(6) 配偶者の労働日数	1週当たりの平均的な日数 _____日 (働いていない場合は0とご記入ください)
(7) 配偶者の昨年の年収(税込)	1. 100万円未満 2. 100万円台 3. 200万円台 4. 300万円台 5. 400万円台 6. 500万円台 7. 600万円台 8. 700万円台 9. 800万円台 10. 900万円台 11. 1000万円以上 12. なし

問4 すべての方にお聞きします。子どもや世帯構成についてお聞かせください。

質問	選択肢
(1) 子どもの有無と人数 (○印は1つだけ)	1. 子どもがいる(配偶者の「連れ子」を含む) 子どもの人数 _____人 最初の子どもを持ったときの自分の年齢 _____歳 2. 子どもはいない
(2) 世帯人数	_____人(本人を含む世帯人数)
(3) 世帯構成(本人以外の同居者) (○印はいくつでも)	1. 配偶者 2. 子ども()人 3. 自分の父親 4. 自分の母親 5. 配偶者の父親 6. 配偶者の母親 7. その他()

2 結婚について

問8 まですべての方にお聞きします。

問5 あなたご自身の結婚についてどのように考えられますか。結婚されたことがある方は、未婚のときを思い出してご回答ください。(○印は1つだけ)

未婚の方	結婚されたことがある方
1. 1年以内に結婚したい	1. ある程度の年齢までに結婚するつもりだった
2. ある程度の年齢までに結婚したい	2. 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚するつもりだった
3. 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	3. 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはなかった
4. 相手が見つかって、当分、結婚するつもりはない	4. 一生、結婚するつもりはなかった
5. 一生、結婚するつもりはない	5. その他()
6. その他()	

問6 問5の理由として、結婚のメリットとデメリットをどのように考えられますか。(○印はそれぞれ2つまで)

(1)メリット	(2)デメリット
1. 経済的に余裕が持てる	1. 行動や生き方の自由が失われる
2. 社会的信用を得たり、周囲と対等になれる	2. 異性との交際の自由が失われる
3. 精神的な安らぎの場が得られる	3. 金銭的な裕福さが失われる
4. 愛情を感じている人と暮らせる	4. 住宅や環境の選択の幅が小さくなる
5. 自分の子どもや家族を持てる	5. 家族を支える責任が生じ、気楽さが失われる
6. 性的な充足が得られる	6. 友人などとの広い人間関係が保ちにくい
7. 生活上便利になる	7. 職業を持たず、社会とのつながりが保ちにくくなる
8. 親から独立できる	8. 現在の家族とのつながりが保ちにくくなる
9. 親を安心させたり、周囲の期待に応えられる	9. その他 ()
10. その他 ()	10. 特にデメリットはない
11. 特にメリットはない	

問7 ご自身の結婚について理想と思う年齢がありますか。理想と思う年齢を過ぎた方や結婚されたことがある方は、理想があったかどうかをお聞かせください。(○印は1つだけ)

1. おおよその理想がある(理想があった) 理想の年齢 _____歳	3. 結婚するつもりはない(結婚するつもりはなかった)
2. 特に理想はない(理想はなかった)	

問8 理想と比べると、実際の結婚年齢についてどのように考えられますか。(○印は1つだけ)

未婚の方	結婚されたことがある方
1. ほぼ、理想通りになりそう	1. ほぼ、理想通りであった
2. 理想よりも早くなりそう	2. もっと遅く結婚したかった
3. 理想よりも遅くなりそう	3. もっと早く結婚したかった
4. 結婚できそうにない	4. 結婚できそうにないと思っていた
5. 結婚するつもりはない	5. 結婚するつもりはなかった

問9 問8で3番もしくは4番に○印を付けられた方にお聞きします。結婚が「理想よりも遅くなりそう」「もっと早く結婚したかった」「結婚できそうにない(と思っていた)」という理由は、どのようなことでしょうか。(○印は3つまで)

1. 学業優先のため	4. 異性とうまく付き合えない	7. 非正規等による雇用の不安
2. 仕事優先のため	(付き合えなかった)ため	8. 出産・子育てへの不安
3. 適当な相手に出会わない	5. 結婚資金のため	9. 結婚相手の意向のため
(出会わなかった)ため	6. 結婚後の所得のため	10. その他 ()

3 子どもを持つことについて

問10 すべての方にお聞きします。子どもを持つなら何人が理想でしょうか。(○印は1つだけ)

1. 一人	3. 三人	5. 五人以上
2. 二人	4. 四人	6. 子どもはほしくない

問 1 1 問 1 0 で 1 番～ 5 番に○印を付けられた方にお聞きします。子どもがほしいと思われる理由はどのようなことでしょうか。(○印は3つまで)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 自然なことだから | 6. 将来、社会の支えになるから |
| 2. 子どもが好きだから | 7. 夫婦関係を安定させるから |
| 3. 周囲に認められるから | 8. 好きな人の子どもを持ちたいから |
| 4. 生活が楽しく心が豊かになるから | 9. 周囲が望むから |
| 5. 老後の支えになるから | 10. その他 () |

問 1 2 問 1 0 で 1 番もしくは 6 番に○印を付けられた方にお聞きします。子どもがほしくない、あるいはほしい子ども数が一人である理由はどのようなことでしょうか。(○印は3つまで)

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 行動や生き方の自由が失われるから | 6. 現在の家族とのつながりが保ちにくくなるから |
| 2. 金銭的な裕福さが失われるから | 7. 妊娠・出産に対して自信がないから |
| 3. 住宅や住環境の選択の幅が小さくなるから | 8. 子育てに自信がないから |
| 4. 子どもを養う責任が増え、気楽さが失われるから | 9. あまり子どもが好きではないから |
| 5. 職業を持てず、社会とのつながりが保ちにくくなるから | 10. 子どもを持つ積極的な意味が見出せないから |
| | 11. 結婚するつもりがないから |
| | 12. その他 () |

問 1 3 問 1 0 で 3 番～ 5 番に○印を付けられた方にお聞きします。三人以上の子どもがほしいと思われる理由はどのようなことでしょうか。(○印はいくつでも)

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 子どもが好きだから | 4. 自分の回りに三人以上子どもを持つ人がいるから |
| 2. 兄弟姉妹は多い方がよいから | 5. 男児と女児の両方がほしいから |
| 3. 自分が三人以上の兄弟姉妹であるから | 6. その他 () |

問 1 4 すべての方にお聞きします。理想とは別に、現実には何人まで子どもを持てると思われるか。(○印は1つだけ)

- | | |
|-------|----------------|
| 1. 一人 | 4. 四人 |
| 2. 二人 | 5. 五人以上 |
| 3. 三人 | 6. 子どもを持つ予定はない |

問 1 5 問 1 4 で回答された子ども数が理想の子ども数より少ない方にお聞きします。理想の子ども数より少ない理由はどのようなことでしょうか。(○印は3つまで)

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 仕事と子育ての両立が難しいから | 8. 自分や配偶者の雇用が不安定だから |
| 2. 妊娠・出産の肉体的・精神的な負担が大きいから | 9. 住宅事情が厳しいから |
| 3. 子育ての肉体的・精神的な負担が大きいから | 10. 家事や子育ての協力者がいないから |
| 4. 自分の健康上や身体的な理由から | 11. 希望する保育所に預けられそうにな |
| 5. 配偶者の健康上や身体的な理由から | いから |
| 6. 自分や配偶者の年齢が高いから | 12. 配偶者が望まないから |
| 7. 経済的負担が大きいから | 13. その他 () |

4. あなたのライフコース（一生の間にたどる道筋）について

問20まですべての方にお聞きします。

問16 あなたが希望するライフコースでは、どのようなことを重視されますか。他に比べて優先度が高いか低いかをご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢					
	優先度はとても高い	優先度は高い	どちらかと言えば優先度は高い	どちらかと言えば優先度は低い	優先度は低い	優先度はかなり低い
(1) 大学や大学院に進学し、高度な教育を受けること	1	2	3	4	5	6
(2) 専門的知識や高度な技能を生かせる仕事	1	2	3	4	5	6
(3) 経営者・起業家あるいは組織の中核での成功	1	2	3	4	5	6
(4) 仕事での新しい挑戦、先端分野での活躍	1	2	3	4	5	6
(5) 長く続けられる仕事を持つこと	1	2	3	4	5	6
(6) 経済的なゆとり	1	2	3	4	5	6
(7) 家族や子供を持つこと	1	2	3	4	5	6
(8) 親や知人のいる生まれ育った地域で過ごすこと	1	2	3	4	5	6
(9) 暮らしの穏やかさ、生活の落ち着き	1	2	3	4	5	6
(10) 暮らしの面白さ、まちなぎやかさ	1	2	3	4	5	6
(11) 他者に左右されない自由な生き方	1	2	3	4	5	6

問17 いま暮らしている地域では、あなたが希望するライフコースを実現できると考えられますか。(○印は1つだけ)

1. とてもそう思う	4. どちらかと言えばそう思わない
2. そう思う	5. そう思わない
3. どちらかと言えばそう思う	6. まったくそう思わない

問18 いま暮らしている地域で、これからも住み続けたいと思われますか。(○印は1つだけ)

1. 住み続けたい	4. どちらかと言えば移住したい
2. どちらかと言えば住み続けたい	5. 移住したい
3. いまは移住したいが、将来は戻ってきたい	

問19 女性の結婚、出産、仕事に関わるライフコースは、あなたからみると、どのようなタイプが理想と考えられますか。(○印は1つだけ)

1. 結婚せず、仕事を続ける	5. 結婚し、子どもを持ち、結婚や出産を機会に退職し、その後は仕事を持たない
2. 結婚するが子どもを持たず、仕事を続ける	6. その他 ()
3. 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける	
4. 結婚し、子どもを持つが、結婚や出産を機会にいったん退職し、その後再び仕事を持つ	

問20 結婚や妊娠・出産、子育ては、あなたが希望するライフコースにどのような影響を与える（与えた）と考えられますか。（○印はそれぞれ1つだけ）

項目	選択肢				
	プラスの影響を与える（与えた）	どちらかと言えばプラスの影響を与える（与えた）	どちらかと言えばマイナスの影響を与える（与えた）	マイナスの影響を与える（与えた）	影響はない（なかった）
(1)結婚	1	2	3	4	5
(2)妊娠・出産	1	2	3	4	5
(3)子育て	1	2	3	4	5

5. 男女の出会いについて

問21 **独身の方にお聞きします。**現在、交際している異性の方はいますか。（○印は1つだけ）

1. いる
2. 今はいない
3. これまでも出会いの機会がなかった

問22 **問21で1番に○印を付けられた独身の方と現在結婚されている方にお聞きします。**いま交際されている方とはどのように出会われましたか。結婚されている方は、現在の配偶者との出会いについてご回答ください。（○印は1つだけ）

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 学校で | 7. 見合いで（親戚や上役などの紹介を含む） |
| 2. 職場や仕事の関係で（アルバイトを含む） | 8. 民間の結婚相談所で |
| 3. 幼なじみ・隣人関係 | 9. 公的な出会いづくりの場で |
| 4. 学校以外のサークル活動、趣味や習い事で | 10. まちなかや旅先で |
| 5. 地域活動やコミュニティ活動で | 11. SNS等、インターネットを通じて |
| 6. 友人や兄弟姉妹を通じて | 12. その他（ ） |

問23 **問21で2番もしくは3番に○印を付けられた独身の方にお聞きします。**あなたの周囲では、交際や結婚につながるような異性との出会いはありますか。（○印は1つだけ）

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. あると思う | 3. どちらかと言えないと思う |
| 2. どちらかと言えばあると思う | 4. ないと思う |

問24 **問23で1番もしくは2番に○印を付けられた独身の方にお聞きします。**あるとすれば、どのような出会いでしょうか（○印は3つまで）

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 学校で | 7. 見合いで（親戚や上役などの紹介を含む） |
| 2. 職場や仕事の関係で（アルバイトを含む） | 8. 民間の結婚相談所で |
| 3. 幼なじみ・隣人関係 | 9. 公的な出会いづくりの場で |
| 4. 学校以外のサークル活動、趣味や習い事で | 10. まちなかや旅先で |
| 5. 地域活動やコミュニティ活動で | 11. SNS等、インターネットを通じて |
| 6. 友人や兄弟姉妹を通じて | 12. その他（ ） |

問25 **すべての方にお聞きします。**見合いや民間の結婚相談、公的な出会いづくりなど、他者から紹介された結婚についてどのように考えられますか。結婚されている方は結婚前を思い出してご回答ください。(○印は1つだけ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 自然な出会いの方がよい | 3. どちらでもかまわない |
| 2. 他者からの紹介の方がよい | |

問26 **すべての方にお聞きします。**見合い、民間の結婚相談、公的な出会いづくりといった機会を利用したいと思われますか。結婚されている方は結婚前を思い出してご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢			
	利用したい	機会があれば利用してもよい	利用したくない	関心がない
(1)見合い	1	2	3	4
(2)民間の結婚相談	1	2	3	4
(3)公的な出会いづくり	1	2	3	4

6. 結婚と所得について

問27 **独身の方にお聞きします。**結婚生活を送るためとしたら、現在のあなたの所得についてどのように考えられますか。(○印は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 十分である | 4. まったく不足している |
| 2. 不足しているかもしれないが支障はない | 5. 相手の所得しだいである |
| 3. やや不足している | 6. 今は働いていないが結婚したら働きたい |

問28 **問27で2番～4番に○印を付けられた独身の方にお聞きします。**年収で、あといくらあれば結婚生活に十分と考えられますか。(○印は1つだけ)

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 1. 50万円程度 | 5. 400万円程度 | 9. 800万円程度 |
| 2. 100万円程度 | 6. 500万円程度 | 10. 900万円程度 |
| 3. 200万円程度 | 7. 600万円程度 | 11. 1000万円以上程度 |
| 4. 300万円程度 | 8. 700万円程度 | |

問29 **すべての方にお聞きします。**結婚生活のための所得について、自分の役割をどのように考えられますか。独身の方は結婚した場合を想定してご回答ください。(○印は1つだけ)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 必要な所得の大半は自分が稼ぐ(結婚相手は働かなくてもよい) | 4. 所得の割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい |
| 2. 自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい | 5. 自分は働かない・働くことができない |
| 3. 夫婦で同じくらいの所得を得ることができたらいい | |

問30 **すべての方にお聞きします。**結婚生活を送る上で、自分や結婚相手の雇用の理想についてどのように考えられますか。独身の方は結婚した場合を想定してご回答ください。(○印は1つだけ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 両方とも正規雇用が望ましい | 3. 相手が正規雇用であればよい |
| 2. 自分が正規雇用であればよい | 4. 両方とも非正規雇用でよい |

7. 男女の役割分担やワーク・ライフ・バランスについて

問3 4 まですべての方にお聞きします。

問3 1 「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思われますか。(○印は1つだけ)

1. とてもそう思う	4. どちらかと言えばそう思わない
2. そう思う	5. そう思わない
3. どちらかと言えばそう思う	6. まったくそう思わない

問3 2 家事について自分の役割はどのようになっていますか。独身の方は結婚したときの予想をお聞かせください。(○印は1つだけ)

1. 家事はほとんど自分がやっている	3. 身の回りのことなど少しは自分でやっている
2. 半分程度は自分がやっている	4. 家事はほとんどやっていない

問3 3 家庭と仕事の優先度について理想と現実をどのようにお考えでしょうか。独身の方は、結婚したときの予想をご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

(1)理想	(2)現実 (独身の方は予想)
1. 仕事を優先したい	1. 仕事を優先している
2. 家庭生活を優先したい	2. 家庭生活を優先している
3. 仕事と家庭生活を両立したい	3. 仕事と家庭生活を両立している

問3 4 結婚や妊娠・出産(男性の方は配偶者の妊娠・出産)、子育てにより、あなたの仕事や働き方に変化はありましたか。独身の方や子どもをお持ちでない方はどのような変化がありそうか予想をお聞かせください。(○印はいくつでも)

項目	選択肢
(1)結婚	1. 仕事をやめた 2. 勤務地が変わった 3. 勤め先が変わった 4. 勤務時間が短くなった 5. 仕事の内容が変わった 6. 正規から非正規雇用になった 7. 給料が増えた 8. 給料が減った 9. その他() 10. 変化はない
(2)妊娠・ 出産	1. 仕事をやめた 2. 勤務地が変わった 3. 勤め先が変わった 4. 勤務時間が短くなった 5. 仕事の内容が変わった 6. 正規から非正規雇用になった 7. 給料が増えた 8. 給料が減った 9. その他() 10. 変化はない
(3)子育 て	1. 仕事をやめた 2. 勤務地が変わった 3. 勤め先が変わった 4. 勤務時間が短くなった 5. 仕事の内容が変わった 6. 正規から非正規雇用になった 7. 給料が増えた 8. 給料が減った 9. その他() 10. 変化はない

問35 会社・団体等で働かれている方にお聞きします。あなたが働いている職場では、結婚、出産、子育てと、仕事の両立に対して十分な配慮があると考えられますか。(○印はそれぞれ1つずつ)

項目	選択肢			
(1)結婚	1. 十分な配慮がある	2. どちらかと言えば配慮がある	3. どちらかと言えば配慮が不足している	4. まったく配慮がない
(2)出産	1. 十分な配慮がある	2. どちらかと言えば配慮がある	3. どちらかと言えば配慮が不足している	4. まったく配慮がない
(3)子育て	1. 十分な配慮がある	2. どちらかと言えば配慮がある	3. どちらかと言えば配慮が不足している	4. まったく配慮がない

8. 地域社会や身近な人のことについて

すべての方にお聞きします。

問36 あなたが暮らしている地域や、あなたと地域との関わりについて、どのように考えられますか。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢					
	とてもそう思う	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	まったくそう思わない
(1)近所には信頼して相談できる友人・知人がいる	1	2	3	4	5	6
(2)伝統行事や町内会活動などが活発である	1	2	3	4	5	6
(3)スポーツ活動や趣味の活動が活発である	1	2	3	4	5	6
(4)地域活動で同年代の人とふれ合う機会が多い	1	2	3	4	5	6
(5)自分は近所で挨拶や立ち話をよくする	1	2	3	4	5	6
(6)自分は地域活動への参加に積極的である	1	2	3	4	5	6
(7)自分は地域の課題に関心がある	1	2	3	4	5	6

問37 あなたの身近な人の結婚や子どものことについて、最も当てはまるものをご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢					
	とてもそう思う	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	まったくそう思わない
(1)両親や親戚に仲の良い夫婦がいた	1	2	3	4	5	6
(2)友人に仲の良い夫婦がいた	1	2	3	4	5	6
(3)小さい子どもとふれ合う機会がよくあった	1	2	3	4	5	6
(4)身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多かった	1	2	3	4	5	6
(5)仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う	1	2	3	4	5	6
(6)小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う	1	2	3	4	5	6

9. 結婚とお住まいについて

すべての方にお聞きします。

問38 ご自身の父親・母親との同居や近居の状況についてお聞かせください。結婚されている方は配偶者のご両親との同居や近居についてもご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

(1) 自分の父親・母親	(2) 配偶者の父親・母親 (結婚されている方)
1. 同居している	1. 同居している
2. 日常的に往来できるところに住んでいる	2. 日常的に往来できるところに住んでいる
3. 日常的に往来できるところに住んでいない	3. 日常的に往来できるところに住んでいない
4. 両親とも亡くなった	4. 両親とも亡くなった

問39 結婚時の新居をどのように決めましたか。結婚前に住んでいた市町村名と結婚後に新居の場所となった市町村名をご回答ください。(○印は1つだけ)

未婚の方は、結婚を想定した場合の新居の場所についてご希望をお聞かせください。

(1) 結婚前	(2) 結婚後
1. 岡山県 _____ 市・町・村	1. 岡山県 _____ 市・町・村
2. その他の都道府県、外国	2. その他の都道府県、外国

問40 問39のように決めた(希望される)のは、どのようなことを重視されたからでしょうか。(○印は3つまで)

1. 自分や配偶者の通勤利便性	7. 自然環境、静かさ等の生活環境面
2. 自分や配偶者の仕事の見つけやすさ	8. 住居の広さ
3. 親と同居・近居できること	9. 持ち家であること
4. 商業等の生活利便性	10. 結婚を機にいま暮らしている地域から移動できること
5. 出産や子育ての利便性・安心感	11. その他 ()
6. 防災、治安等の安全・安心面	

10. 妊娠・出産と健康について

問41 **すべての方にお聞きします。**妊娠・出産に関する次の医学的知見についてご存知ですか。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢			
	よく知っている	少し知っている	あまり知らない	知らない
(1) 女性の妊娠する力が年齢に伴い低下すること	1	2	3	4
(2) 男性の精子が、年齢に伴い減少し、老化すること	1	2	3	4
(3) 不妊の原因が男性にある場合もあること	1	2	3	4
(4) 妊娠・出産に伴い女性の健康に様々なリスクがあること	1	2	3	4

問4 2 **女性の方にお聞きします。**身体への影響や医学面で、妊娠・出産について不安に思うことはありますか。既に出産されている方は、妊娠・出産時のことを思い出してご回答ください。
(○印は1つだけ)

- | |
|---------------------------------|
| 1. とても不安に思うことがある (とても不安だった) |
| 2. やや不安に思うことがある (やや不安だった) |
| 3. あまり不安に思うことはない (あまり不安はなかった) |
| 4. まったく不安に思うことはない (まったく不安はなかった) |

問4 3 **問4 2で1番あるいは2番に○印を付けられた女性の方にお聞きします。**どのようなことが不安でしょうか。既に出産されている方は、妊娠・出産時のことを思い出してご回答ください。(○印は3つまで)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 妊娠中の体調不良 | 5. 出産後の精神の不安定 |
| 2. 出産のこわさ | 6. 漠然とした不安感 |
| 3. 流産への不安 | 7. 相談できる相手がいないこと |
| 4. 生まれてくる子どもの健康 | 8. その他 () |

問4 4 **すべての方にお聞きします。**あなた、もしくはあなたの配偶者が妊娠・出産するとしたら、あなたの周囲に相談や生活面で助けてくれる人はいますか。
既に出産された方、または配偶者が出産された方は、妊娠・出産時に助けてくれた人のことをご回答ください。(○印はいくつでも)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 親 |
| 2. 兄弟姉妹、親戚 |
| 3. 友人 |
| 4. 近所の知人 |
| 5. 公的な相談員、支援機関・支援組織 (市町村、保健師、愛育委員等) |
| 6. その他 () |
| 7. 助けてくれる人は思い当たらない |

問4 5 **すべての方にお聞きします。**最後に、結婚や子どもを持つことに関する次の意見について、どのように考えられるかご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢					
	とてもそう思う	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	まったくそう思わない
(1)結婚は、家族を持てるため重要である	1	2	3	4	5	6
(2)子どもがいたら生活が楽しく豊かになる	1	2	3	4	5	6

— ご協力、誠にありがとうございました —

資料